I CFをベースとした「介護福祉」の枠組みと教育内容

- • 自立をめざす介護とは •
- ・・国際的基準を目指した

「先進的な介護職業教育基準」作成のために・・

ICF ベースの介護福祉教育課程・・研究報告書

≪哈爾濱職業技術専門学院•委託研究≫

敬心学園

職業教育研究開発センター編・川廷 宗之監修

謝辞

この研究報告は、哈爾賓職業技術学院との提携に基づき共同で、介護福祉専門職養成に関する 「先進的な国際通用性のある新たなカリキュラム構築」としてスタートした。こういう機会がな ければ「国際的」なカリキュラムなどを考える機会はなかったであろう。その意味で、こういう 機会を与えて下さり、かつ支えてくださった、哈爾濱職業技術学院に、まず感謝を申し上げます。

また、この研究は、始めて見ると、日本の介護教育を少しい整理すればできるだろうという、 当初の想定通りには進まず、そう簡単にはまとまらなかった。特に最初の想定が甘かったため、 途中で試行錯誤を繰り返し、当初の予定を超えて足掛け4年間にわたる長期の研究になった。

その過程で、様々な試行的作業を繰り返して、修正をしながら一歩一歩前にご一緒に進んでくださった、共同研究メンバーの皆さんにも、心から謝意をお伝えしたい。

はじめに

この研究の本体である「介護専門職養成の国際通用性のあるカリキュラム作成」に関しては、 まだまだ道半ばであり、この報告書は中間報告にとどまる。しかし、哈爾濱職業技術学院との契 約の問題もあるので、一度ここで、これまでの研究経過と成果を纏めておく。

なお、研究過程で、ICF(国際生活機能分類)の重要性に改めて気が付いたり、EQFの枠組みから日本の教育の課題を見出すなど、副産物もたくさんあった。研究会を繰り返すごとに、新たな発見があり、大変楽しい研究会であった。

国際通用性の高いICFをベースとして、EQFをモデルとするカリキュラム作成という開発研究が多大な成果を生み出すであろうということは、此処までの研究で確認できた。問題は、それをどこまで深められ、かつ教育糧に組み込むかである。残された課題として、また新たな体制を考えつつ、研究を進めて行きたいと考える。

それを考えるべく、この報告を手にされた方は、是非ご意見やご提案をお送りいただければ幸いである。

介護の国際カリキュラム開発専門家研究会(ICF介護研究会)・・

共同研究者代表 川廷 宗之 (研究監修者) 敬心学園・職業教育研究開発センター・センター長

「介護の国際カリキュラム開発専門家研究会」・共同研究メンバー

メンバー一覧(お名前・肩書・) ・役割分担・・

氏名	所属先•役職名	担当
綾部 貴子	梅花女子大学 看護保健学部 口腔保健学科	3章, 7章
押江 善正	株式会社わかばケアセンタ-六町	8章
川井 太加子	桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科	5章
久保田 トミ子	広島国際大学 医療福祉学部 医療福祉学科	6章
小林 桂子	三幸福祉力レッジ	6章
近藤 卓	日本ウェルネススポーツ大学	3章, 7章
齋藤 美由紀	日本福祉教育専門学校	5章
清水 絵理	敬心学園 職業教育研修開発センター	6章
白井 孝子	学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校	5章
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部	8章
高橋 明美	文京学院大学人間学部人間福祉学科	1章, 2章
谷口 敏代	島根県立大学大学院看護各研究科	4章
永嶋 昌樹	日本社会事業大学	1章, 2章
長岡 紀澄	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター	4章
野田 由佳里	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科	6章
松永繁	新潟医療福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科	4章
松田朗	早稲田速記医療福祉専門学校	9章
吉澤・恵子	長野女子短期大学 生活福祉専攻	9章
吉田 志保	佐野日本大学短期大学	9章
渡邉 みどり	敬心学園 職業教育研修開発センター	1章, 2章
川廷宗之	敬心学園 職業教育研修開発センター	序論•他
崔 金花	敬心学園 職業教育研修開発センター	研究経過報告他

一 一 目 次 一 一

第 1 章。国際的基準を目指した先進的な介護福祉職業教育課程作成への着手・・・2	
1. 哈爾濱職業技術学院との共同研究 ・・研究の枠組み・・ ・・2	
(1)研究課題1.介護の枠組みをどう整理するか・・2	
(2)研究課題2. 利用者の立場に立った「介護」とは ・・3	
1)要介護者本人のニーズが尊重されにくい原因	
2)要介護者本人のニーズを尊重した介護を行うには	
(3)研究課題3.介護業務内容の「内容」をどう整理するか ・・5	
(4)研究課題4.介護業務内容の階層性をどう整理するか ・・6	
1)問題の所在	
2) EQF に学ぶ	
3)研究への取り組み経過	
2. 日本の介護福祉が抱える課題として ・・8	
(1)専門的介護を必要とする人々・・8	
1)深刻な人口減少・高齢化	
2) 介護保険利用者数の推移及び見通し	
3) 求められる介護福祉サービスの質の変化	
(2) 専門的な介護を提供する人々・・8	
1)介護スタッフの必要人数	
2) 介護の質をどう高めるか	
3)「富士山型」のスタッフ確保における教育上の課題	

・・介護業務の内容明確化(標準化)の必要性・・

- 5) 介護職員の養成
- 6) 外国人受け入れ
- (3)長期的に介護専門職に期待されること・・13

4) 職員間コミュニケーションを改善するために

- 1) 問題解決型専門職の重要性
- 2) 最新の技術活用、業務効率化・・福祉機器に任せられるものは任せて
- 3)専門分野に関する「研究」を・・・
- 4) 最先端の対人援助職として、「感情労働」のコントロール力も重要
- 3. 国際的な視点 · · 15
- (1) 日本の介護をどう国際化するか・・16
- (2)変化を迫られている日本の介護・・16
- (3)発展速度が速い国際社会・・17
- (4) 国際スタンダードとなるための条件・・17

1. I C F を基礎とした「介護」を考える ・・19			
(1)本人が望む「生活(活動と参加)」を支える介護 ・・19			
(2)自立した「生活(活動と参加)」とは何か・・20			
(3)「自立した生活」を支える「介護」の枠組み ・・21			
(4) 参考事例 ••22			
2. I C F の生活機能分類 ・・23			
(1) I C F の構造 ••23			
(2) I C F の分類コードの扱い方 ・・24			
(3)活動と参加・・第1レベル分類 ・・25			
(4)自立支援介護を展開するために・・26			
1) アセスメントと援助行動を行うための分類と分析			
2)「活動」と「参加」への援助の内容方法の多様性			
3.「自立した生活」への「困難」・・ICFにおける「評価」 ・・27			
4. ICFを活用した「自立した生活」への介護への「学習の展開」 ・・30			
(1)援助行動(介護)のコンピテンス、必要なナレッジ、スキル・・30			
(2) I C F をベースとした Q F の開発 ・・30			
5. 研究の方法 ・・30			
※(参考資料)ICFの主な定義など			
第3章。EQFに基づく検討経緯と課題 ・・34			
・・・(仮ESA). Q. F. (RQF) を目指して・・・			
1. 資格枠組み ・・34			
(1) EQFの枠組み • • 34			
(2)介護福祉士制度とEQF、および国際的動向について・・37			
2. (仮ESA). Q. F. (RQF) への試み ・・38			

第2章。本人が望む「生活」を支える「自立支援」介護・・19

1)研究メンバーの実務経験や専門分野が違う(個々の用語概念が違う) 2)日本の学習歴と EQF のレベルが対応できない

(1) 日本の介護職の職務体系上の問題点・・38

(2) 研究を進めて行くための課題 ・・40

- 3) 介護プロフェッショナル・キャリア段位制度との対応もできない
- 4) 配置するレベルを統一して考える
- (3) 研究を進めて行く方法 ・・42
- 1) コンピテンス階層化の基準
- 2) ICFをベースに考える教育課程
- 3) 段階的学習を想定した教育課程

• • 本論 1 • • • • ICF をベースとした介護枠組みの考察 · · · 47

第1章 学習と知識の応用 learning and applying knowledge ・・50

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 ・・50
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・51
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・53
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 • 53 • 関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動・・・54 目的を持った感覚的経験・・・54

基礎的学習 · • 63

知識の応用 ・・72

第2章 一般的な課題と要求 general tasks and demands ・・82

- 1. I C F の「活動と参加」における主要事項 ・ · 82
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・82
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・85
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 • 86 • 関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動・・89・・ブロック項目なし・・

第3章 コミュニケーション communication ・・107

- 1. I C F の「活動と参加」における主要事項 ・ 107
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・108
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・109
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 ・・110 ・・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ・・112 コミュニケーションの理解 ・・112

コミュニケーションの表出・・121

会話並びにコミュニケーション用具および技法の利用・・128

第4章 運動・移動 mobility ・・152

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 ・・152
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・153
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・155
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 ・・155
 - ・関連する技術と知識の特徴

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ・・155 姿勢の変換と保持 ・・155

物の運搬・移動・操作・・184

歩行と移動・・206

交通機関や手段を利用しての移動・・218

第5章 セルフケア self-care ・・228

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 ・・228
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・228
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・229
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴・・230
 - ・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動・・・230
 - ・・ブロック項目なし・・

第6章 家庭生活 domestic life • • 252

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 ••252
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・252
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・255
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴・・256
 - ・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ・・256 必需品の入手 ・・256

家事 • • 264

家庭用品の管理及び他者への援助・・280

第7章 対人関係 interpersonal interactions and relationships · • 299

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 ••299
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・299
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ・・301
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 ・・301
 - ・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動・・・302

一般的な対人関係・・302

特別な対人関係・・314

第8章 主要な生活領域 major life areas ・・332

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 • 332
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・332

- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・334
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 ・・334 ・・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ・・335 教育 ・・335

仕事と雇用 ・・345

経済生活 • • 357

第9章 コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life

• • 363

- 1. I C F の 「活動と参加」における主要事項 • 363
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察・・・363
- 3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察・・・365
- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 ・・365 ・・関連する技術と知識の特徴
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ・・366・・ブロック項目なし・・

第 10 章. 残された課題・・380

- 1. I C F の理解 ・・380
- 1 C F の構造と介護との関係
 • 380
- 3. 「活動・参加」の第1レベルの分類と、「介護」の関係 ・・381
- 4. 自立支援のための「行動分析」という課題・・381
- 5. 第2レベル、第3レベルを深める行動分析の課題 ・・381
- 6. 自立した人を前提とする行動分析と、介護専門職の行動や、関係する技術や知識との関係・・382
- 7. I C F の項目に不適切な内容 ・・382

・・本論2・・介護業務の難易度および教育課程・・385

第1章。ICFの内容分類を、EQFの段階で整理してみる試み・・・386

(例示) I C F 第 1 レベル I C F 第 2 レベル I C F 第 3 レベル

第2章、階層化した職務内容に対応した、段階別の教育内容の整理へ・・393

第3章。 I C F をベースに考える教育課程への内容の階層化 ・・394

(試案) 1、学習と知識の応用・・教育課程段階・・・394

- (試案) 2、一般的な課題と要求・・教育課程段階・・・395
- (試案) 3、コミュニケーション・・教育課程段階 ・・396
- (試案) 4、運動·移動··教育課程段階 ··397
- (試案) 5、セルフケア・・教育課程段階 ・・398
- (試案) 6、家庭生活··教育課程段階 ··399
- (試案) 7、対人関係··教育課程段階 ··401
- (試案) 8、主要な生活領域・・教育課程段階・・・402
- (試案) 9、コミュニティライフ・社会生活・市民生活・・教育課程段階・・403

第4章。授業科目ごとの学習計画・・404

- (試案) 1、学習と知識の応用・・学習計画表・・405
- (試案) 2、一般的な課題と要求・・学習計画表・・410
- (試案) 3、コミュニケーション・・学習計画表・・422
- (試案) 4、運動・移動・・学習計画表 ・・429
- (試案) 5、セルフケア・・学習計画表 ・・467
- (試案) 6、家庭生活··学習計画表 ··480
- (試案) 7、対人関係・・学習計画表 ・・492
- (試案) 8、主要な生活領域・・学習計画表・・497
- (試案) 9、コミュニティライフ・社会生活・市民生活・・学習計画表・・508

第5章. 残された課題 ・・515

資料編 ••516

研究経過・説明 ・・516

検討委員会委員・・521

参考文献・資料(総括的に使用した資料・等)・・523

I C F をベースとした 「介護福祉」の枠組みと 教育内容

• • 自立をめざす介護とは • •



第1章. 国際的基準を目指した

先進的な介護福祉職業教育課程作成への着手

1. 哈爾濱職業技術学院との共同研究 ・・研究の枠組み・・

敬心学園は、哈爾賓職業技術学院と 2019 年に交渉を開始し、2020 年 4 月に共同で先進的な国際通用性のある新たなカリキュラム構築を行うことについて協定を結んだ。

この協定の背景を、私たちは以下の様に理解した。

当時、中国には新たな様々な日本の介護企業が進出し「日式介護」と呼ばれる「初任者研修」レベルの「介護」システムや技術を持ち込んでいた。しかし、中国の関係者は、北欧やオーストラリアなど諸外国からも介護を学んでいるので、そのレベルの日式介護に必ずしも満足しているわけではなかった。2020年時点で、中国では、日本にあるような施設の設置基準や介護保険制度は存在せず、省や市などの行政区や介護事業者などが、それぞれに介護サービスの展開が進めていた。また、主な事業者は民間であるので、サービス対象は入居費用を払える中国内でも高い生活水準で暮らしている高額所得者を中心に想定されていた。そういうある種の競争状態を前提に、日本式の施設もあるが、北欧式の介護施設もある。また、当面は、中国の看護職養成課程の修了生を対象としたレベルの、中国の富裕層が納得しうる介護サービスの開発が中心的なテーマであった。それゆえ、哈爾賓職業技術学院は、単なる日式介護のレベルを超える先進的な国際通用性のある新たなカリキュラム構築を行うことを求めた。

日本の現行の「介護」システムや介護技術の将来の課題を検討していた、敬心学園職業教育研究開発センターも、この要望に対応することにした。

(1)研究課題1、介護の枠組みをどう整理するか

国際的な介護福祉研究と考える時、もっとも気になるのは、日本における介護の定義である。 この点に関し、この研究過程では、介護福祉の定義として、「介護(福祉)」とは、ICFの「活動と

問題 の 所在 経験則ベース の介護の定義 (枠組み) 日本国内バージョン



科学的合理的根拠を示せる介護の定義(枠組み) 国際バージョン

・・・見えてきた「枠組み」・・・

・・・・紆余曲折を経て・・・

「介護(福祉)」とは、

ICFの活動分類に示される項目を、本人の望む内容レベルでできる様に、

ICFの環境因子を操作することによって実現していく事。

参加」の活動の活動分類に示される人のである様に、ICFのする場合ででである。」第一次では、ICFのするででである。のででは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのは、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、ICFのには、IC

側からの定義ではなく、要介護者の行動特性を踏まえて、業務目的で定義をしている点である。

従って、介護者の行動内容に特定の枠をはめていないので、介護を行う人に専門的判断と行動を要求している点である。第2の特徴は、国際的に通用しうるように、ICF(国際生活機能分類)という国際標準を基礎として定義している点である。

これを基本として、様々な検討プロセスを経て、研究の最終段階では、定義を「介護(福祉)」とは、ICFの「活動と参加」の活動分類に示される構成要素の実行に伴う「困難」を、本人の望む内容とレベルで解決できる様に、ICFの環境因子の操作や、「心身機能・身体構造の知識」を用いて、実現していく事。」と改められていった。

この様な定義を、研究の最初に設定したのは、以下の理由による。

- ①「介護」あるいは「介護福祉」の定義はいくつかあるが、経験則中心で科学的合理的な論拠に 乏しく、これでは、生活や文化の違う外国などに「介護」を紹介するのに不都合が多い。(「日本 ではこうです。」としか言えない。また、経験則重視のため、個々人によって把握の仕方がずれて いるため、国際場面での「介護」の内容がバラバラに紹介されている。)
- ②国際的にみても、共通基盤となりえる科学的合理的な根拠をもった「介護福祉」の定義が必要である。
- ③「介護福祉」問題は、高齢者の問題として捉えられているが、実態は様々な「障害」への対応と考える様が分かりやすい。(すべての高齢者が要介護者になるわけではない。90歳以上でも要介護率は約68%。個々人の生活条件や要介護度別で考える必要。)(日本では、一部疾病が介護の枠で整理されている点も、「介護」を分かりにくくしている原因の一つである。)
- ④従前の「介護」の定義は、介護する側からの視点が強すぎて、介護される側、介護状態自体、から視点が極めて弱い。(だから制度や文化の違う国を対象とした国際性を持ちにくい。)

なお、研究経過では、介護に関して「活動と参加」の中で主に第4章(運動・移動)、第5章(セルフケア)、第6章(家庭生活)を中心に考える方が良いという意見があった。が、この点については第3章(コミュニケーション)や第7章(対人関係)の重要性を指摘する意見もあり、現実の生活上の「困難」は、その他の章の「困難」も多いとか、各章の個別の困難としての対応が必要というだけではなく、複合的な「困難」として捉えるべきという意見もあり、まとまっていない。

(2) 研究課題2. 利用者の立場に立った「介護」とは

この点を強調しなければならないのは、従来の介護研究を行う場合は、ほとんどの研究は、介護を行う側からの、介護する側の視点で行われており、利用者サイドの視点に立っていないという問題があるからである。言い換えれば、介護は、本人が実現したい生活を行うために援助してほしい点の援助で良いのであり、何を援助するかを介護する側が決めてしまう必要はない、ということである。つまり、「介護」の目標(「介護目標」)は、「(本人の意思を反映した)本人が選んだ内容(ICFの活動分類項目に該当する場合が殆ど)について、本人の望む内容とレベル」で実現できるように援助することである。

1) 要介護者本人のニーズが尊重されにくい原因

要介護者本人のニーズが尊重されにくい原因については、以下の点が考えられる。

第一は、「困難」の捉え方である。「介護」を考える場合、圧倒的多数のニーズは、「軽度な困難」や「中等度の困難」である。これに対し、介護する側の発想は「完全な困難」や「重度の困難」を想定しているため、「軽度な困難」や「中等度の困難」の場合でも、「完全な困難」としての介護を

行ってしまう場合が多い。こうなっている背景には、何らかの「困難」があった場合に、その「困難」の内容分析を行わない(行えない)からである。内容分析を行えないと「困難」の内容を、軽度、中等度、重度、完全な、に分類することができない。とすれば「完全な困難」と見做して介護するしかなくなる。≪「完全な困難」と見做してしまう理由は、介護教育課程の問題や、介護保険制度設計上の問題があるともいえるが、この点は、別な研究で扱うこととする。≫

第二は、少なくとも一般的な対人サービスにおいては、対人サービスを受ける側の利用者の視点(顧客満足)が一番基本になるはずなのに、それが介護研究の中では不十分に行われていない。 この点は、強者が弱者に対してサービスを行う構造になる、教育や福祉界共通の課題である。

〈医療界でも同様の問題があるが、インフォームドコンセント(「説明と同意」、本来は「情報提供と自己決定」)など、問題があること自体は認識されている。ただし、医療の基本は生物学的生命に維持が絶対的基本目標として共通に認識されているため、トリアージなどが課題となる場合もあり、インフォームドコンセントは、限定的な運用にとどまらざるを得ないという課題がある。>

2) 要介護者本人のニーズを尊重した介護を行うには

では、要介護者本人のニーズを尊重した、介護を展開するには、どうしたらよいのか。

ICF の「活動と参加」に示されているような「日常生活」を営む上で何らかの困難(できないこと)¹がある場合の対応として(専門的)「介護」を考えるならば、その「困難」に丸ごとぶつかるだけではなく、その「困難」のどの要素を解決すればできる様になるのかという分析が必要になる。その要素に焦点を絞っての「困難」の援助を行うことで効果的(効率的・専門的)介護となりえる。

とすれば、その利用者が望む解決したい「困難(本人の目標や内容が前提)」は、どういう要素 から成り立っているかという事を確認しなければならない。それを考えるために、その「困難」 を取り除く目標(内容やレベルを含む)として、「普通の人が普通の生活行動の中で行っている内容」を細かく具体的に確認する必要がある。つまり、その生活行動の内容の分析が必要になる。 その上で、その利用者が困難を抱えているのは、その生活行動のどの部分ができないのかを抽出し、その部分を援助するのが「介護」であると考えられる。

とすれば、あらかじめ、一定程度の「日常生活における人間の行動(活動と参加)」の整理を行っておく必要がある。日常生活の中での活動と参加について国際的共通理解を前提として表現しているのが、WHO(国際保健機関)が整理した I C F である。と考えれば、 I C F は、利用者が困難を抱えている行動分析を行う場合の科学的合理的根拠と見なしえる。

その上で、「活動と参加」の構成要素(分類)を見ると、第2レベルや第3レベルまでしか分類されておらず、「困難」のレベルの対応した専門的介護を行う場合の、具体的な日常生活行動を分析するには不十分である。従って、第3レベル以下の詳細かつ具体的な分析が必要になる。

いわば、具体的介護実践を行うための「第 4 レベル」の分類を開発することである。(I C F は、第 4 レベルの分類を想定している²が、「活動と参加」では、第 2、或いは第 3 レベルの分類にとどまっている。) このように、第 4 レベル(一部は第 3 レベル) までの分類項目を開発する

_

^{1 「}活動と参加」における「困難」については、「国際生活機能分類」中央法規 2002 年版(以下、「ICF 前掲書」と表示) pp.123-124 参照

² ICF 前掲書 pp.211-212 参照

ことで、その項目を使って、「困難」を明確にするためのアセスメントを行ったり、最小の(最適な)援助行動としての介護行動を行うことができる様になる。なお、アセスメントとしては、「生活行動上の困難」は、環境因子や心身機能・身体構造との相関で発生している場合もあるので、「活動と参加」の構成要素だけではなく、環境因子や機能・構造障害の双方からのアセスメントが必要になる場合もある。

(3)研究課題3.介護業務内容の「内容」をどう整理するか

私たちは、この研究の過程で、上記に基づく介護行動を展開するには「環境因子を操作する」ことで「困難」を除去する方法が見出せることに気がついた。従来は、困難の原因を、身体構造や心身機能と考えたため、身体構造や心身機能の補足や補充(代行)や回復などを介護の中心課題と考える傾向があったが、本人が望む「困難」を解決(補助・代行・除去・他)する介護を考える場合は、むしろ環境因子を操作する(困難の原因の要素の一部をなくする)ことによって解決することの方が、早道である場合も多いという事がわかってきた。

少し細かく言えば、以下のようになる。

困難な問題の原因として見えてきた「環境因子」は、それぞれが「促進因子」と「阻害因子」としての側面を持つ3ので、「阻害因子」となっている状態を「促進因子」状態に変えれば、問題解決の一端につながることになる。ただし、ICFでは、環境因子について、阻害因子としても促進因子としても作用しうると指摘するのみである。

従って、ここで「介護をする」ということを、援助を必要とする「困難」の内容に即して、「阻害因子」側面を「促進因子」側面に変える(操作する)というとらえ方をすると、分かりやすい。 つまり、個々の介護は、必要な「環境因子」について、それを「阻害因子」から「促進因子」に変化させるという方法で(促進因子を開発する)、援助を行うことである。そしてそれは、個別に難易度や、変え方が違うが、人為的に可能であると考えた。

この考え方で「介護」を考えるためには、前項で触れた「日常生活における人間の行動(活動と参加)」の個々の要素が、どういう環境因子に支えられているかを確認する必要がある。勿論「環境」であるから個別因子ではなく「環境」全体だという事もできるが、これでは、実際に応用できない。従って、個々の要素に直接対応する「環境因子」は何かを整理しておくことも必要である。

以上の様な検討から、私たちは、「介護(福祉)」とは、ICFの「活動と参加」の活動分類に示される構成要素の実行に伴う「困難」を、本人の望む内容とレベルで解決できる様に、ICFの環境因子の操作や、「心身機能・身体構造の知識」を用いて、実現していく事。」と定義し、生活文化の違いを超えて共通しうる「国際的な『介護福祉』の枠組み(定義と内容)」として、また、多職種連携の中でも合理的科学的な説明理由として成り立ちうる、その具体的実践についての考察を深めた。

.

³ ICF 前掲書 pp.170 参照

(4) 研究課題4. 介護業務内容の階層性をどう整理するか

この研究の最終的な課題は、介護の国際的に通用しうる教育カリキュラムの開発である。同時にそれは、さまざまな教育制度の中で、どのレベル(後期中等教育(高校レベル)、高等教育(大学中門学校、前期・後期)、専門的高等教育(大学院)の教育システムで、どう学ばせるかを考える必要がある。そのことは、介護という職務の難易度の整理が課題になってくるということでもある。

1) 問題の所在

従って、研究課題4では二つの論点があり、一つは介護という職務(内)でのレベルをどう整理するか、二つ目はその難易度に対応して、どのレベルの教育システムで、どういう学習を提供するかということである。

この二つの論点に触れる前に、触れておくべき課題がある。

それは、日本での介護の職務階層性の研究を行う場合によく使われている、特に富士山型とかいうことを考えたときに、普通一般的に考えられているのは、介護の職務管理の構造である。つまり、管理職としてどうマネジメントしていくかについての研究が行われていく傾向がある。

これは、「介護」の難易度(レベル)の研究開発とは違う。問題はマネジメントではなく、どういう「困難」に対して、どのレベルの専門的な(適切な)介護が行えるかどうか、である。

しかも、問題はさらに複雑になっていて、この「困難」の援助は、一般的に「軽度の困難」の方が、「完全な困難」より、介護が難しいということである。なぜならば、簡単そうに見える「軽度の困難」の方が多様性に富むため、適切な介護を行うためにはその多様性に対応するアセスメント能力や、そこから見いだされる「困難」の要素や因子に適切に対応することが求められるからでる。これに対し、「重度な困難」や「完全な困難」となるに従って、一定の類型に当てはまる状態になるため、行うべき介護も類型化されていくからである。解りやすく言い換えれば、つまり、直接手を出さない介護の方が、手を出す介護よりも難しいということである。例えば、非常にゆっくりでもとにかく歩ける人(軽度 or 中等度の困難)については、その人なりに歩いてもらうことを大事にし、すぐ車椅子に乗せてしまうという(重度 or 完全な困難への)「介護」をしないということである。この判断はアセスメント能力のレベルにかかってくる。そして、より専門的レベルの高いスタッフによる、低いレベルのスタッフへの助言指導(スーパーヴィジョン)が必要となっていく。

つまり、「介護」における職務階層に関しては、職務管理やマネジメントということだけではなく、職務内容上のレベルの高さが課題である。つまり、上位の職にあるものは職務内容上の技術、知識、能力において上位のものを持っていなければならない。もちろん、一定のマネジメント能力は必要になるが、基本は、専門的能力がなければ、適正な介護マネジメントはできない。

日本の介護は、この点で「完全な困難」を想定した介護システムとなっているため、スーパー バイザーは、医者や看護師となってしまう傾向がある。

この視点がいわゆる管理研究では抜けている傾向がある。単なる業務管理マネジメント技術で、 介護現場の管理運営ができるほど、ことは簡単ではない。

≪日本でも諸外国でも、一部、それでも管理が可能だと考えられているのは、そこで行われている介護の水準が低いレベルに留まっているからともいえるだろう。日本で Job 型の職務システムが中々普及していかない背景も含めて、これでは、今後の介護ニーズに対応が難しくなるであろうが、この点に関する研究は、別途、行うこととする。≫

2) EQF に学ぶ

この様な、職務階層と教育レベルを統合的に研究していく時に非常の参考になるのが、EQFの考え方である。EQFは、ボローニャ・プロセスのなかでのEC諸国の中での学校教育の水準をそろえ互換性を確保するという試みの延長線上で、職業教育や芸術教育の学校とも共通のレベル設定を行う過程で作られて行った、学位・資格の認定制度枠組みである。

EQF(The European Qualifications Framework)加盟国は、EQF の枠組み水準に合わせる形で、各国のNQF(National Qualification Framework)を作成することになっている。このNQF 作成の動きは、EQF 加盟国以外にも広がっており、世界142カ国で取り組まれている。インドやオーストラリアなどでもすでに作られており、ASEAN などの国際的地域組織でも研究課題となっている。4

この研究では、このような学位・資格制度を念頭に置きつつ、ICFの「活動と参加」研究から導き出された「介護」の内容を、EQF基準のレベル設定に合わせて、レベル設定を行った。同時に、ICF研究から得られた、分析内容を教育項目として整理した。

3)研究への取り組み経過

そこで、2020 年夏に研究を開始するにあたって(仮ESA)QF を展望して、日本の現状をQF として整理してみようという研究を開始した。これは、細かい内容を整理した表として纏めた(本論 1・本論 2・参照)が、研究者間の介護福祉認識の違い(使われている用語ーつ一つのイメージが違っている)なども大きく、一定の整理に到達してはいるが、直ぐに教育カリキュラムに転換して使えるというものとしての共通理解にはならなかった。

この改善をめざし、かつ国際バージョンとして通用することを目指し、言語概念のバラつきを避けたうえで、(仮ESA) QF≪とりあえず、RQFと略称≫に再度取り組もうと考え、以前からあった介護福祉の一つの考え方(国際バージョンを想定した)を踏まえ、細かく概念定義がなされているICFをベースに取り組むこととした。ICFは考える枠組みと同時に、人間の行動などに関する国際「分類」であり、細かい分類をすることで一つ一つの人間行動等の内容を具体的に整理している。従って、この分類を用いることによって、用語のイメージのバラつきを防ぎつつ、また、自立を目指す介護であるから、「人(要介護者を含む)の自立した行動を考えつつ、その自立した行動に困難が生じた場合の介護」内容を整理し、それを踏まえで(仮ESA)QFをまとめようと考えた。

この間、何度か、中国等の事情も踏まえるべく哈爾賓側と共同の討論を行う予定であったが、 コロナの影響による日中間の往来が難しくなり、哈爾賓職業技術学院とは十分な議論ができなかった。しかし、哈爾賓職業技術学院からの、とりあえず日本側の案を示してほしいという強い要望のため、断片的に伝わってくる中国の介護事情は考慮しつつも、日本の研究者が考える(仮ESA)QFを作成、そこから、先進的な国際通用性のある新たなカリキュラム構築を行うことになった。

以下は、その研究に関する経過及び、結果方向である。

⁴ 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会「新しい介護福祉士養成教育に関する調査研究報告書・・判断能力を高める主体的学びによる(仮称)管理介護福祉士の養成」(2017年3月) 141頁参照

2. 日本の介護福祉が抱える課題として

もとより、この研究は、単に哈爾賓職業技術学院向けの「先進的な国際通用性のある新たなカリキュラム構築」を目指すのみではなく、様々な課題を抱える日本の介護福祉教育の将来像に関する研究でもある。そこで、高齢社会先進国日本の介護ニーズが、量的・質的側面からどう変化していくのか、また、それへの対応をどう考えているのか、若干の考察を述べておこう。

(1)専門的介護を必要とする人々

1)深刻な人口減少・高齢化5

わが国の総人口は 2008 年の 1 億 2.808 万人がピークとなり、2011 年以降は 10 年連続で減少し、2020 年は 1 億 2.571 万人となった。生産年齢人口比率(15 歳~64 歳の割合)は 1992 年の 69.8%をピークに低下し続け、2020 年は 59.3%(前年比 0.2 ポイント減)と過去最低となった。一方、高齢化率(65 歳以上の割合)は一貫して上昇が続き、2020 年には 28.8% (同 0.4 ポイント増)と過去最高となった。

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 29 年推計)の出生中位・死亡中位推計によると、今後も人口減少、少子・高齢化が進行することが見込まれる。総人口は 2053年に1億人を割り、2065年には 8.808万人(2020年比 3.763万人減)になる見通しである。2065年の生産年齢人口比率は 51.4%(同 7.9ポイント減)に低下し、高齢化率は 38.4%(同 9.6ポイント増)まで上昇すると見込まれている。

2) 介護保険利用者数の推移及び見通し6

厚生労働省のデータによると、2000年4月より導入された介護保険制度の利用者数は2018年の502万人から増加し、2025年には606万人、2040年には746万人になると推移している。この推計値は、該当人口に介護保険の認定率などを掛けて、算出している。ただし、健康寿命が延びていることもあり、認定率は減少していく傾向がみられるので、減少要因はある。一方、年令別の平均余命は伸びる傾向にあるため、増加要因もある。従って、推計値としてはおおむね妥当な人数であろう。

3) 求められる介護福祉サービスの質の変化

高齢化に関する2025年問題(2025年以降の問題)は、団塊の世代が後期高齢者に加わる事を意味する。団塊の世代は、その前の戦前・戦中世代と異なって人権意識等が高い傾向があり、経験してきた生活水準も異なる。このことは単に量的問題のみならず、介護の質的内容に関しての要求水準が上がることを意味し、「介護の質」の問題にも、大きな影響が出ると予測されている。

(2) 専門的な介護を提供する人々

1)介護スタッフの必要人数

この様な要介護者の量的質的な変化に対応して、必要人数としての側面からは、「医療と介護」の記事⁷によれば、『厚労省は9日、2021 年度からの第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について公表した。2040年度には2019年度と比べて全国で69万人増のおよそ280万人の介護職員が必要になることが示された。(第8期介護保険事業計画・別紙1参照)』とされ、

⁵ 出所「2021 年版 日本の労働経済事情」一般社団法人日本経済団体連合会事務局 P2

⁶ 厚生労働省ホームページ「図表 1-9-6 介護保険利用者数の推移と見通し」

⁷ Web 医療と介護 (shaho.co.jp)

『市町村が第8期計画に盛り込んだサービス見込み量に基づき都道府県が推計した介護職員の必要数を集計した。』結果『2019 年度の全国の介護職員数は210万5877人おり、第8期計画の最終年の2023年度には22万2583人増の232万8460人が必要になる。2025年度には32万202人増の242万6079人が、2040年度には69万6701人増の280万2578人が必要になると見込まれる。

一方、近年の入職・離職の動向等を踏まえ、生産年齢人口等の人口動態を加味して推計した「現状推移シナリオ」による介護職員数をみると、2023 年度は 218 万 2387 人、2025 年度は 220 万 5248 人と増加するが、2040 年度には 215 万 3892 人と減少する見込みだ。2040 年度は、必要数と比べて 65 万人程度不足する。

なお、現状推移シナリオには、今年度以降に追加的に取り組む施策の効果は反映されていない。厚労省は、介護職員の処遇改善や他業種からの参入促進、外国スタッフの受け入れなど総合的な介護スタッフ確保対策に一層、取り組む方針だ。』となっている。

しかし、2040年に想定される介護職員の不足人数 65万人は、必要人数とされている 280万人の 23.2%(約1/4)に達する。しかも、2020年から 2040年にかけて、生産年齢人口が、7455万人から 5978万人に 1477万人(約20%)も減少する中で、介護職員の生産年齢人口比で 2020年の約 2.83%から、2040年に 4.68%に増加させることは社会システムとして可能なのであろうか。また、不足する 65万人を外国人で補うのは、出身国の高齢化が進む状況なども配慮すると、かなり困難と言わざるを得ない。しかも、この推計は、単なる人数でしかなく、質的側面は全く考慮されていない。従って、早急に新たな対策が必要になるであろう。

2) 介護の質をどう高めるか

この現象は、すでに顕在化しつつあり、一方では、すでに、多くの事業所や介護スタッフが、 人手不足からのサービスの質の低下や安全確保不足、労働環境の悪化などに悩まされている所で ある。此処に、さらに外国人職員も加わり、異年齢、異文化間のコミュニケーション不足や習慣 の違い、要介護者やその家族による外国人介護の拒否など、さまざまな課題の発生も予測され、 今後この『介護の質』の問題が大きな問題となって行くであろう。

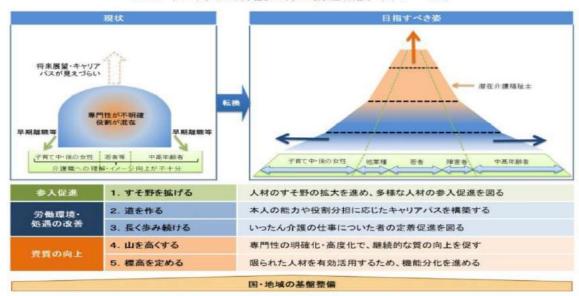
介護の「質」の向上も求められる中で、「介護」を安定した(誇りを持てる)専門的職業として 成立させ、質の高い介護サービスを安定的に提供していくためには、待遇面での向上のみならず、 「介護」の内実を、利用者のみならず介護職員も「生きがい」を持てる専門職業務として認められる質の高い介護サービスに転換していく必要がある。

3)「富士山型」のスタッフ確保における教育上の課題

この様に、急速な高齢化や国民の生活ニーズの多様化に伴い、介護専門職には対人ケアサービスの中核的役割が期待される一方で、現場のスタッフ不足は深刻化している。介護スタッフの裾野は中高年者、離職者、外国人といった多様な世代・立場の人々へと広がり、各自の入職背景や動機、資質が混在する中で、今後はサービス水準を一定に保つための教育(養成教育や現任者教育)のあり方が問われることになる。教育に期待されるのは、まずこうした多様な背景をもつ人びとが現場の即戦力となれるよう「一定水準の知識・技術を具体的に分類し階層化し、その過程で標準化された技術の何ができて何ができないかを明確にする」教育課程を構築し、教授すること、現場に定着してキャリアアップを図りながら実践の質を維持・向上させることのできる能力を醸成することである。そしてそのためには、彼らをエンパワーしつつ、幅広い知識・教養をも

って現場実践や協働のあり方を分析し、利用者本位のチーム・組織運営を主導できるスタッフを 育てることも不可欠であり、この2点が車の両輪にならなくてはならない。

政策としてのスタッフ確保の質の面では、介護職員の専門性や役割が不明確で混在していた従来の「まんじゅう型」から、専門性を明確化・高度化(階層化)して求められる質とキャリアパスを構造化した「富士山型」への転換が図られている8。



2025 年に向けた介護人材の構造転換 (イメージ)

※ 「介護人材の確保について」(第4回社会保障審議会福祉部会、福祉人材確保専門委員会、平成27年2月23日)より。

4) 職員間コミュニケーションを改善するために・・介護業務の内容明確化(標準化)の必要性・・

介護現場やスタッフの質の面について、介護労働安定センターの平成 30 年度調査によれば、介護の仕事を選んだ理由(複数回答)は「やりがいのある仕事だと思ったから」が 49.3%と最も高い⁹が、待遇や人手不足のほか、人間関係では「部下の指導が難しい」、「自分と合わない上司や同僚がいる」、「ケアの方法等について意見交換が不十分である」などの不満や悩みを抱えている人が多い¹⁰。スタッフの量や待遇面での改善は徐々に進んでいるが将来需要見込みの充足には不安があり、さらに経験年数や立場に関わらず、現場の質の問題に不満や悩みを抱える人が多いというのが現状であろう。

但し、49.3%の人が介護には「やりがいがある」と回答したように、いかに、介護の本質を多くの人に理解してもらい、介護の世界の「一人前」を目指す介護職員を増やすかが重要な課題になるだろう。介護の本来の目的は、利用者が幸せになることであり、サービスを提供することは、そのための手段の一つである。そのためには、介護内容に関する専門的な知識や技術を向上させるとともに、専門用語でのコミュニケーションができ、(経験主義的な自己流介護ではなく)標準

⁸ 厚生労働省介護スタッフ確保地域戦略会議(第3回)資料「介護スタッフ確保の総合的・計画的な推進~「まんじゅう型」から「富士山型」へ~」2015(平成27)年8月21日

⁹ 公益財団法人介護労働安定センター「平成 30 年度介護労働実態調査報告書」2019(令和元)年 8 月、p.41

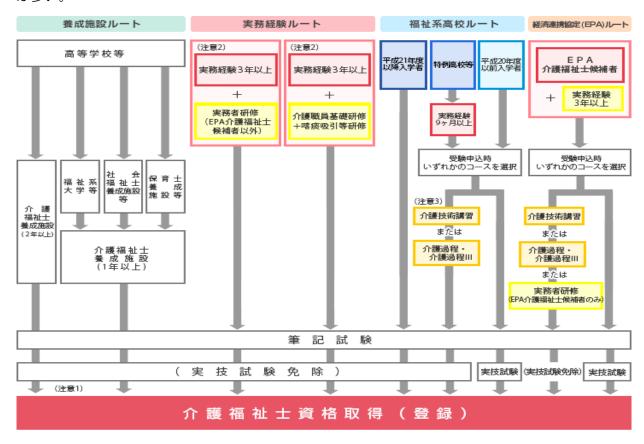
¹⁰ 同報告書 p.58

的な技術を修得した介護職員として活躍できることで、職場とし手の力量を高めることが必要である。

一方で、その人がいかに生きるか、生きる意欲をもってもらい、生活を豊かにできるか、「心の豊かさ」「幸せ」のような計量できない「主観」的なものを、いかに具体化・言語化し、介護の専門性を確立していくかが課題であろう。「形が見えるやりがいのある仕事」として、学問として、研究し続けていかなければならない。

5) 介護職員の養成

日本で、介護職員になって行くためのルートは、①介護福祉士を目指して介護福祉士養成校を卒業する、②介護福祉士の国家試験を目指して実務者研修を修了する、③初任者研修を受けてとりあえず実務につく などの方法がある。本来であれば、この①②③の職ごとに、職務内容や職務レベルに差があるのが当然であろう。しかし現実には、この内容やレベルの整理が行われておらず、どの研修等のレベルであっても、同じような仕事をすることになってしまっているため、介護業務の質の基準が、最も低い最低基準となってしまうため、仕事の質の低下を免れない場合が多い。



こうなっている理由は、介護業務の内容の分類や質のレベルに関する分類整理が適切になされていない(NQF=National Qualification Frameworkが創られていない) ためである。そのため、養成教育(研修)の内容や質も、明確に整理されていない。

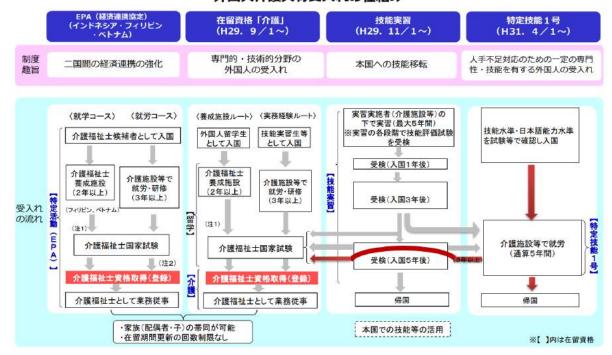
介護業務の内容やその難しさについては、さまざまな分類やレベルの違いがあるのだから、それに対応した職員が対応しなければ適切な介護ができない。この体系が示されていないため、ハイレベルの介護を要する業務に、未熟な職員を当てたりするため、介護事故が発生したりする。

現状では、多くの人は未経験(初任者研修修了)で介護現場に入り、3年以上の実務を経験し、介護福祉士受験資格取得を目的に実務者研修を受講する。これらの人の中には、職場の要請や援助など受動的動機や、資格取得によるよりよい待遇を求めて受講する人だけでなく、現場で理想と現実のギャップを感じている人、現場の諸問題を主体的に改善して長く働きたい、将来は現場だけでなく介護福祉業界全体の質を向上させたいと思う人、あるいは、より良いサービス提供を行うために自ら事業を起こしたいという意欲をもつ人も少なからずいる。

こうした人々に、介護業務の内容の分類や質のレベルに関する分類整理が適切になされた上での実務者研修の規定カリキュラムを提供し、更に学問的基盤・根拠で肉づけをして深化・拡張させた教育機会を提供することは、介護福祉士となる人々が現場・業界全体を牽引できるキーパーソンとして活躍する原動力になるはずである。

6) 外国人受け入れ

介護スタッフの不足が予想されている中、外国人職員の採用が進んでいる。外国人介護職員の 受入れについては、EPA(経済連携協定)、在留資格「介護」、技能実習、特定技能によるものが あり、それぞれの制度趣旨に沿った受入れを進めている。



外国人介護人材受入れの仕組み

(注1)平成29年度より、養成施設卒業者も国家試験合格が必要となった。ただし、令和8年度までの卒業者には卒業後5年間の経過措置が設けられている。
(注2)4年間にわたりEPA介護福祉士候補者として就労・研修に適切に従事したと認められる者については、「特定技能1号」への移行に当たり、技能試験及び日本語試験等を免除。

出所:厚生労働省「外国人介護スタッフ受け入れの仕組み

EPA(Economic Partnership Agreement)とは、特定の国同士での貿易や投資を促進するため、規制や関税の緩和・撤廃、環境整備などを実施する条約をさし、日本語では経済連携協定とも呼ばれている。介護領域においては、インドネシア・フィリピン・ベトナムの3カ国と、相手国のスタッフが日本の国家資格である「介護福祉士」の取得を目指すことを目的とした制度の導入でEPAを締結している。介護や看護について一定の知識を持ったスタッフが、日本語教育を受けたのちに技能研修として日本で就労するため、比較的に高い介護技能やコミュ

ニケーション能力を期待できる。但し、入国後 4 年目に介護福祉士の国家試験を受験する必要がある。

介護福祉士の資格取得を条件とする在留資格「介護」は、2017年9月に創設された制度である。在留資格「介護」で在留する外国人数は毎年増加し、2020年6月末現在、1,324人¹¹に達している。増加要因として、介護福祉士国家資格の取得を目指す外国人留学生に対する修学資金等の貸付け制度があると考えられる。日本に留学する外国人が介護福祉士養成施設で修学する際に必要となる費用等について貸付けを行い、介護福祉士の資格を取得後、日本国内で高度スタッフとして5年間、介護の仕事に継続して従事した者に対して借り受けた修学資金等の返済を全額免除するものである。

外国人技能実習制度は、2017年11月に介護分野が技能実習の対象に加わった。日本から諸外国への技能又は知識の移転、移転経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的に、外国人を日本の産業現場に受け入れてOJT (On the Job Training)を通じて技能や技術を学んでもらい、母国の経済発展に役立ててもらう制度である。しかし、外国人技能実習制度を巡っては一部で、受け入れ側の日本企業・組織自己都合を優先し、帰国後に役立つとは言い難い業務に従事させる例や、低廉な労働力とみなして劣悪な労働条件、例えば最低賃金以下の給与、パスポートの取り上げなど移動の自由を奪う措置、不健康な居住環境、長時間労働等を強いる例などがあり社会問題にもなっている。

特定技能 1 号は、2019 年 4 月に始まった新しい在留資格である。上記3ルートと違い、労働力不足解消を図るものであることを明示している。このため、5 年間で6万人という従来とはけた違いの外国人の就労を見込んでいる。就労する外国人は「相当程度の知識又は経験を必要とする技能が求められる」とされているが、労働力不足解消が主目的ですので、試験で一定の技能水準、日本語能力水準に達していると認められれば、来日して介護事業所で働くことができる。在留期間は通算 5 年で、3 年の実務を経験すれば国家試験が受験でき、介護福祉士の資格を得れば永続的な在留・勤務が可能である。

外国人介護スタッフの受入について、様々な政策を講じている中、外国人の介護力量が現場のニーズに追いつかないという声も多い。主な原因として日本語能力にあると考えられる。竹中(2010)¹²は、日本語能力は語彙力、日本文化の要素に分かれるとしている。受け入れ側も日本人とは異なる指導方法で指導する必要があるでしょう。受け入れ側の日本人と外国人の双方が共生の理念を理解し互いに努力する必要があると考える。

(3)長期的に介護専門職に期待されること

1) 問題解決型専門職の重要性

上記を踏まえ、介護スタッフ、とりわけ高度な専門性を備えた介護専門職に今後期待されるのは、個々人の「専門知識・技術の高度化」や「主体的な問題解決能力」はもとより、「既存の知識や技術を応用・拡張させチーム・組織や業界を牽引・改革できる力」や、そのために必要な「実践理論の構築と深化」など、介護職の普遍性を見出し、共通基盤を構築できる力だと言える。この

¹¹ 出典:出入国在留管理庁「令和2年6月末現在における在留外国人数について」公表資料

¹² 武中朋彦(2017)「外国人介護スタッフの受け入れについての課題と対策」——自法人での外国人介護スタッフの受け入れ対策のあり方—p95

様な問題解決を行っていくためには、介護に関する「技術」や「専門的な知識」を現状の教科書レベル(特定の問題を解決するのに必要な認知と実践的なスキル・レベル)で OK とするのではなく、実際の介護場面での応用的展開が可能になるような、「複雑で予測不能な問題の解決に必要なスキル・レベル」の専門的職務執行を可能にする技術や知識を修得すべく、専門的な進化と深化(深堀)が必要である。

また外国人介護スタッフが増加する現状を踏まえて、幅広い社会・文化的な知識・教養をもち、 多様な人々が力を発揮できる労働環境(物理的環境のみならず、組織風土等も含む)を整えるデザイン力も求められるだけでなく、独立型の小規模事業所への関心も高まる中、地域社会と連携 しながら経済効率も考慮して、持続可能な事業経営に必要な能力も求められる。

2) 最新の技術活用、業務効率化 ・・福祉機器に任せられるものは任せて

さらに、科学技術と対人ケアの融合も求められる。経済産業省では、介護需要の抑制、スタッフ供給の増加、労働生産性の向上を目的にロボット介護機器の開発¹³が推進され、ICT や AI などを活用したサービスの質向上や業務効率化への取り組みが加速している。また、米テスラ社は、人型ロボットを数年後に2万ドルで商品化を予定していると報じられている¹⁴。この場合の人型ロボットの性能がどの程度のものなのかにもよるが、少なくともコミュニケーション能力は、かなり高いと予測される。問題は動作能力であるが、現在の介護で行われているかなりの部分の代替は、それなりの付帯費用が掛かるとしても可能と予測される。2万ドルは約250万円から30万円程度とすれば、介護スタッフー人分の1年分の人件費よりも安い。こうなると、人間の介護スタッフは、機械工学、情報工学といった科学的知見、労働効率や経済効率といった経済学的な知見はもちろん、人と機械のより良い共生による利用者本位の介護を実現するための応用倫理など人文科学的な知見といった分野横断的な専門性も求められる。

3)専門分野に関する「研究」を・・・

専門性を高めていく手法として王道なのはやはり「研究」である。情報収集などを含む学習も研究の前提ではあるが、学習だけでは新たな創造を加える研究にはならない。研究によって知見を得ていくことで、自らの専門性が高まる。また、得られた知見を介護ビジネスに応用することも可能であろう。そのためにも、「学び続ける力」や「社会人基礎力」の様な内容の基礎力が求められる。

厚生労働省が公表した 2020 年度の「介護給付費等実態統計」によると、介護保険給付や自己 負担分を含めた介護費用は 10 兆 7,783 億円¹⁵で、過去最高となった。介護保険の内訳は、国と 自治体の税金が 50%、40 歳以上が支払っている保険料が 50%と単純な構成になっている。そ のため、介護費用が増加した際の対処法は大きく分けて、「財源を増やす」「給付を減らす」とい う2つになっており、国は「財源を増やす」ための介護保険料の引き上げ、「給付を減らす」ため の高所得高齢者の自己負担増などの対策法を講じてきている。

但し、「給付を減らす」ということは、結果的に介護の質を下げることにつながっていく。日本 の介護保険制度の良い所は基本的に誰でもが最低限の介護サービスを受けられるという事だ。 し

¹³ 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室「経済産業省におけるロボット介護機器に関する取組について」平成 29 年 10 月

^{14 2023} 年 02 月 14 日·日本経済新聞·朝刊·23 面

¹⁵ 厚生労働省「令和2年度介護給付費等実態統計の概況」

かし、この「最低限」の質が下がってくると、現在の介護制度が整っていない国の様に、(介護保険外の)市場の取引での質の高い介護サービスに利用者が動いていく可能性もある。(既に、そういう実験的実践が始まっている。)ある意味では、こういうサービスが、介護の質を上げるという面もあり、今後の介護研究の中では、いかに介護保険外のビジネスを生み出せるかがポイントになってくるとも言える。そのためにも、専門性を高める共に、革新的な介護ビジネスを生み出すための仮説と検証のくり返しができる、介護分野おける「研究」を極められる専門職が求められる。

4) 最先端の対人援助職として、「感情労働」のコントロール力も重要

「介護」業務は、その業務の性格上、身体的・精神的に不安定な利用者への対応を求められる 事が多い。また、その介護は、まだ機械化が進んでいないため、自らの身体機能を使っての介護 も大変多い。そのため、介護福祉士自身の「感情(情緒)」のコントロールは大切な課題となる。

「介護」という職業を知らない人はあまりいない。但し、その職業が現実にどのようなものなのかについてはほとんど正確には語られておらず、実際のところはあまり知られていないようである。困ったことに「介護」の業務についている本人も、自分がどういう存在であるのかをはっきりとはつかめていないことが多いように思う。

「介護」は、利用者の身の回りのお世話をすることで、その利用者の生活の質を決める、本来は大事な仕事である。但し、未だ「介護」は排泄介助や食事介助など、身体的介助をする職業としてのイメージが強い。それは、その身の回りのお世話を行う時、介助者は利用者にどんな働きかけをしているのか、利用者と介護士の間でどんな感情が生まれているのか分かりにくいということでもある。常に、利用者に関心を寄せ、気をつかい、コミュニケートすること、こころのつながりをもとうと努力する。まさに利用者のそばで、目に見えない何かを感じ取りながらケアをしている。もちろん、それはハラスメントとも言えそうな、嫌な気持ちにさせられる利用者に対しても、介護士は感じよく振る舞わなければならない。このようなマイナスの感情を含め、さまざまな感情を体験しているが、それを外にあらわすことは不適切とする感情規則があるため、強い感情がわくたびに、その感情をなんとか自分で管理しなければならない。まさに、感情労働が要求されているが、感情労働は従来の肉体労働と頭脳労働に比べ、他人に分かりにくく、評価しにくい職業のようである。但し、感情労働16には自己欺瞞やうつ、バーンアウト、アイデンティティの危機といった危険が隣り合わせであり、介護士自身も自分の心身の状態を意識し、「感情(情緒)」をコントロールすることが大きな課題であると共に、最先端の対人援助職として、感情労働をマネジメントすることが求められる。

3. 国際的な視点

この研究は、日中の共同研究であり、国際的な枠組みを創ることが目標となっている。介護研究における国際的視点を考えるという意味では、何をもって国際的視点と考えるかについてはさまざまな見解があり得る。大きな枠組みとしては介護保険制度という社会保障としての側面と、実際の介護給付としての介護サービスの内容という側面があるだろう。以下、さまざまな報道等をベースにして、日本と諸外国との比較の中で、国際的研究として考慮すべき点を上げてみる。

_

¹⁶ 武井麻子[2021]『感情と看護―人とのかかわりを職業とすることの意味』医学書院

(1)日本の介護をどう国際化するか

急速な高齢化が見込まれる諸外国では、日本の介護サービス体系やその実践・理論の蓄積に学び、自国の政策・サービス体系を構築する動きや、アジア諸国が連帯して介護技能の国際基準を構築する動きも高まっている。このことから、一部の日本の介護関係者は、例えば「日式介護」などとして、日本の介護サービスのシステムや技術等を輸出すると考える向きもある。

しかし、そのためには、先ずは日本の介護施設が生活保護上の(劣等処遇原則に基づいていた 当時の)救護施設から発展した老人ホームと、高齢者を中心とする病院との機能を併せ持つ、特 別養護老人ホームとしてスタートした歴史的経過を踏まえておく必要がある。また、日本の介護 福祉士制度や介護保険制度の発足時には、制度としてはドイツに、介護サービスの内容としては 北欧の国々に学んだ点も忘れてはならない。その意味で、日本の介護もまた諸外国から学んだ面 が大きかったのである。当時、ヨーロッパでは、既に施設収容型の福祉サービスから脱却しつつ あったが、この点は日本では収容施設型の老人ホームの延長線上での発展となった。従って、基 本的人権を当然の基本認識として運営される北欧型の介護の進め方などから見ても、日本の介護 の(一般的)介護の現状は、そのまま国際化できるような状況ではないともいえる。

また、特に東アジア諸国での介護サービスに関しては、まだ国家的(公的)基準がないため、 それぞれの関係者が創意工夫を凝らした(施設サービスを含む)介護サービスを展開しており、 最近の北欧の介護サービスから学んだりしているその内容は、日本の介護サービスの内容をはる かに凌いでいると考えられる事例も少なくない。介護機器の導入なども、それぞれ自由に進めて いるため日本にはない(発展した)機器も使われている。

その意味で言うまでもないことではあるが、介護の国際研究では、日本を中心に(上位において)考えるのではなく、公平に諸外国の介護の現状と比較検討し、それぞれの長所をといり入れていくような発展的開発的研究として進められる必要がある。

この様な意味で考えるならば、「介護福祉士」の様な資格制度に関しても、その前提となる介護サービスの内容を含めて、日本の現状のシステムを中心に考えるのではなく、世界標準として考え直していく必要がある。この観点からも、「日本で「介護福祉士」資格を取得し、母国にかえって生かして・・」と言う時、日本の資格が資格としてはその国では通用しない場合が殆どである点に留意しておく必要がある。これは、今後、介護現場に外国人が入ってくるとき、ある意味で、日式介護を当然のこととして、介護サービスに従事していただくという訳には行かなくなるという可能性を示している。国際的に考えるとき、このような平等対等な発想が、その意味で以下にして共通の土俵になるかという視点が重要であることを、指摘しておく。

(2)変化を迫られている日本の介護

日本の介護福祉士制度が創設されてから 30 余年を経て、また、介護保険制度が出来てから、20 余年を経て、介護保険制度の運用などの変化もあり「介護」の内容は、変化してきている。介護保険制度自体は国際的に見ても遜色がない制度であるとも言える。しかし、その保険制度下で提供される「介護の質」に関しては、問題点も少なくない。特に、制度維持の観点から進められている、介護「給付」の変化(縮小)は必ずしも利用者が求めるような『介護』内容の質的な向上に繋がってはいない。そのためもあり、介護の質的な変化を促すべく、また、職務としての合理性を追求すべく、介護職員の力量や配置に関して、新たなマネジメント・システムの検討が進んでいる。しかし、これに関しての実践や議論は必ずしも深まっていない。この背景にある問題の

一つは、日本の産業一般に問題となっている、「メンバーシップ型」から「ジョブ型」に、雇用や 職務管理の発想を転換していく必要があるということである。特に、ジョブ型の内部に、介護の 専門的能力のレベルに対応した(一定の管理能力も持つ)専門スタッフを育てられるかが課題と なっている。

この課題を解決していくには、長らくメンバーシップ型での運営をしてきている日本文化の中で、介護以外の比較的ジョブ型として整理されているはずの保健福祉や教育職においても、そのジョブの内容が、欧米でいうjobの内容のように具体的に(レベル別のスキルの内容などが)明確になっているわけではない。その理由の一端は、色々な問題解決に関して個人の努力による解決を求めがちな日本に対し、欧米では問題解決スキルやそのために必要なナレッジ(知識)を修得させることで個々人のコンピテンス(能力)を向上させることで解決を図ろうと考えるからである。問題を、解決が必要なコンピテンスとして整理され、必要なスキル(技術)やナレッジ(知識)として整理されれば、解決すべきポイントが明確になるので、解決方法の開発も容易になる。従って、全体の問題解決研究のスピードも速くなってくる。漠然とした問題に漠然と取り組んでも、客観化し分析的にとりくめないため、結局、ケースバイケースという主観的な対応になってしまうのは避けなければならない。その意味で、日本でも、介護のサービス業務内容の分析を通して、職務レベルの難易度などの整理を急ぐ必要がある。

(3) 発展速度が速い国際社会

日本では、介護におけるスタッフ確保や養成カリキュラムの再構築など、解決すべき課題も多い中、しがらみもなく新たに介護サービスを開拓しつつある、高齢化が進む国々としの中国やASEANなどの国際的な動きは大変スピードが速い。その中で、日本の民間企業等の一部による、彼我の文化的社会的背景を考慮しないでの国際進出は、介護職員養成などの「質」の問題もあり、日本の介護が国際的基準から無視されたり、遅れを取ってしまう可能性も出てきている。

例えば、2018 年末の時点で、中国の 65 歳以上の高齢者人口は日本の総人口を上回る 1.67 億人となっており、これは総人口の 11.9%の割合となっている。WHO(世界保健機構)と国連が定めた高齢化の定義によると、65 歳以上人口の割合が 7%超で「高齢化社会」となるので、すでに中国は「高齢化社会」へと突入している。しかも、この 1.67 億人の数%はいわゆる富裕層であると言われ、仮に 1%としても、1670 万人である。この方々を定員 100 人の富裕層向けの高齢者施設に収容するとすれば、16700 施設が必要になる。(これは、日本の特養(約8200)と老健施設数(約4300)の合計よりも多い)。

2020年の時点で「超高齢化社会」へと突入しているのは、日本・イタリア・ドイツの3国だが、65歳以上人口の割合はともかくとして、2050年には約5億人の国民が高齢者となる中国は、まさに「超高齢者大国」へとなることが予測されている。

(4) 国際スタンダードとなるための条件

EQF (The European Qualifications Framework) は、もともとヨーロッパにおけるアカデミック教育と職業教育の整理統合を目指した枠組みであるが、専門職のキャリアラダーを考えるうえでも示唆に富んでる。そのため、EQFは 2010 年にヨーロッパの共通基準として発効しているが、これに呼応する形で、世界 142 か国でNQFの整備が進められる予定である。なお、日本には開発の予定はない。(基準作りには数年が必要であろうから、既に日本はこの点に関

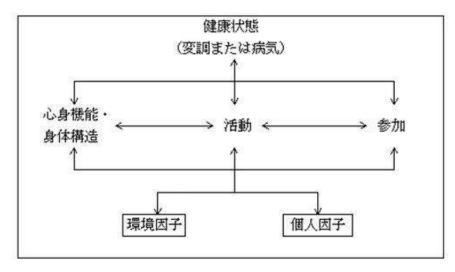
して、ヨーロッパに比べ 20 年以上遅れている計算になる。アメリカが、EQF に対応しようとしないのは(中等教育以下の教育内容や、福祉サービスが基本的に州単位で異なる)アメリカの事情であり、日本とは違う。(2014 年段階で)オーストラリアやインドは整備済みであり、このような国際的動向を考慮するならば、トレンドとしては、介護福祉専門職のグローバルスタンダードとしての国際版のQFの整備が進むのは間違いなく、その意味で、介護先進国であるはずの日本においても、この開発を急ぐ必要がある。そしてそれは、そこに組み込まれるコンピテンスやスキル、ナレッジの内容の具体化が進むことにより、介護実践の発展向上のみならず、介護福祉士(介護専門職)の養成教育のシステムの改善改革につながっていくことは言うまでもない。しかも、このコンピテンスなどに関しては、一定の国際基準として通用しうるものでなければならない。この点に関して、最も参考になるのは、ICFであろう。

ICFは、その名の通り、国際「生活」機能分類であり、「介護」が対象とする人間の生活行動の分類に関する国際的スタンダードとして整理されている。(その内容が十分であるかどうかは別として) とすれば、この分類の中で介護が中心的にターゲットと考える「(生活)活動」(や「参加」)に対応させて、介護能力や技術、知識の内容を、具体的に明示することは、国際的に共通のわかりやすい「介護」の内容整理となるであろう。しかも、これを難易度で整理し、一定のラダーとして整理しておくことは、今後の介護実践の発展の基礎として非常の重要な課題となる。

以上のことから、介護福祉サービスに関して国際ベースで当面求められるのは、ICFをベースとした QF の開発であろう。ICFの開発に関してはかなり綿密に国際間の協議が行われているので、その内容は基本的にどの国も当てはまるスタンダードを表現しているといえる。(従って、日本ベースでみれば物足りない点もあるし、過剰な点もある。)また、生活行動の評価スケールもそれなりに示されている。これらを踏まえて、内容の具体化を図れば、QFへの展開も可能と考えられる。また、ICFは「生活モデル」とされているので、「医学モデル」とどう違うのかも含めて、「介護」の内容を整理していくことも重要である。

第2章、本人が望む「生活」を支える「自立支援」介護

ICFと言うと以下の「ICFの構成要素間の相互作用」の図17が紹介され、この図の意味 するところについての解説が行われて、理解したつもりになってしまう人が多い。また、IC IDHから ICFへの変化を学んで「生活モデル」として理解しましたという場合も多い。し かし、この図に描かれているICFの構成要素や、相互作用は、私たちの生活改善にどう活用



されるのであろうか。 ICFは世界の科学的 遺産として、人間生活 の改善に役立てられる べき貴重な資料である。 単なる知的遺産ではな い。介護などの対人援 助を考える場合の重要 な参考資料であり、活 用していく素材でもあ る。ではどのように役

立てるのであろうか、その点について広い意味での対人援助をふまえた介護に引きつけて、以 下展開をしておこう。

1. ICFを基礎とした「介護」を考える

(1) 本人が望む「生活(活動と参加)」を支える介護18

介護の対象は言うまでもなく一人ひとりの生活者としての人間である。生物としての「人」(の み)を介護するのではない。とすれば、社会に参加する、生活者としての人間の介護という意味 では、(介護側の都合ではなく)個々の人間(要介護者)を中心にして総合的に考える必要がある。 人間中心の「介護」を考えるには、介護者本人の人間観や生活観をしっかり確立しておかないと、 生活者を介護するという本人中心の「介護」の目標がはっきりしなくなる。

この点については、介護をする立場側からの表現ではあるが、社会保障審議会福祉部会の報告 の中にも「求められる介護福祉士像19」として以下の11項目として表現されている。

- ①尊厳と自立を支えるケアを実践する
- ②専門職として自律的に介護過程の展開ができる
- ③身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
- ④介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視し た支援ができる
- ⑤QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取 りまで、対象者の状態の変化に対応できる

18「介護教育方法の理論と実践」の 10p

¹⁷ ICF 前掲書 p.17

^{&#}x27;8 社会保障審議会福祉部会「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」(平成 29 年 12 月 18 日)を参照

- ⑥ 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
- ⑦関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
- ⑧本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
- ⑨制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる。
- ⑩介護職の中で中核的な役割を担う
- ⑪高い倫理性の保持

この「介護福祉士像」が、目指しているように、長命な高齢者も一人の人間として「介護をされていても幸せな高齢期の生活を創造(想像)できる」ことが必要であり、介護福祉サービスはそういう人を生み出すことにつながらなければならない。そのためには、生活の一部において介護が必要になっても「自立」を目指す「幸せに生きようとする高齢者の意識」も大切である。この意識が、人間を要介護状態になりにくくするし、いわゆる介護予防にもなる。そういう「自立して」人生を生きようとする高齢者の幸せを支えることが、「介護」職の目的であり役割だという「明確な目的意識」も非常に重要である。

そういうことから、まず、生活者を理解するのに最も参考になるのは、ICFであろう。

(2) 自立した「生活(活動と参加)」とは何か

「自立した生活の支援」つまり「介護」を考えるとき、問題になるのは、その介護対象となる「自立した生活」とはどういうことかということである。 I C F は、生活を機能として捉え、四つの側面から生活機能を分類している。一つは、基礎となる身体構造であり、二番目に生活機能としての人間の心身機能であり、三番目に人間としての活動と参加という機能であり、四番目にそれらに多大な影響を与える環境因子である。このように分類整理をすることによって、「生活とは何か」について間接的に定義をしていると言ってよい。もちろん生活は多岐に渡るため、さまざまな側面からの分類整理が必要である。人間の自立した生活は、これらの全ての要素の掛け算として常に存在している。

その中で、自立した生活の基本は、自分の意思を反映する「活動と参加」という機能である。 ほかの3つの要素も、自立した生活に大きな影響を与えるが、内容を自らの意思で決めていく という領域での機能は、「活動と参加」の機能であり、他は、関連する条件ということになる。 その意味で、ICFは、人間の身体構造や心身機能から発想を展開する「医学モデル」とは異なって、「生活モデル」として捉えることができる。しかし、心身機能は活動の基盤的な側面で、 環境因子は活動や参加の条件を規定するという意味で、大きな影響を与えるので、人間の自立と 生活を考えるときに、この側面を無視することはできない。

なお、「生活」をどう把握するかについては、少し古いが 1992 年に経済企画庁が公表した「新国民生活指標の『8 つの活動領域』」も参考になる。その概要は、以下の通りである。

住 む:住居、住環境、近隣社会の治安等の状況

費やす:収入、支出、資産、消費生活等の状況(衣・食・等に日常生活支出を含む)

働 く:賃金、労働時間、就業機会、労働環境等の状況

育てる:(自分の子供のための)育児・教育支出、教育施設、進学率等の状況

癒 す:医療、保健、福祉サービス等の状況

遊ぶ:休暇、余暇施設、余暇支出等の状況

学 ぶ:(成人のための)大学、生涯学習施設、文化的施設、学習時間等の状況

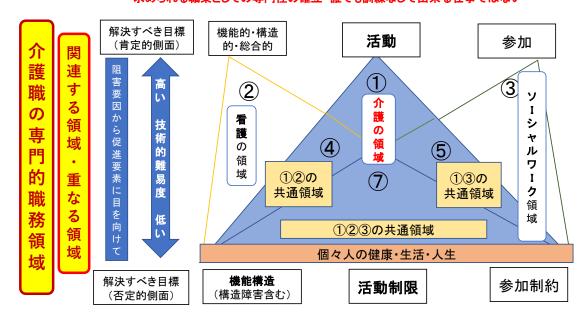
交わる:婚姻、地域交流、社会的活動等の状況

「自立した生活」という時、多くの一般的な人々はこのような枠踏みで考えているという点は、考慮しておく必要がある。

(3)「自立した生活」を支える「介護」の枠組み

この点を含めて、「介護」の機能を、ICFの生活機能分類に対応させて図解したのが下記の図「介護職の専門的職務領域」である。「自立した生活」の支援を行う「介護」の領域は、基本的に「活動」機能に対する領域である。しかし、「活動と参加」の要素分類では、活動と参加は部分的に重複するものとされている20が、「活動と参加」は9つの大きな分類で構成されてお

介護職の専門的職務領域~ 関連する領域・重なる領域



求められる職業としての専門性の確立 誰でも訓練なしで出来る仕事ではない

介護教育方法の理論と実践 図 川廷 宗之

り、その分類ごとに「活動」であるか「参加」であるかを明確に区別したり、重複として考えたりすることができる様になっている。その意味で、この図では、重複説をとりながらも、その比重によって、介護領域とソーシャルワーク領域の整理を行っている。また、同時に、心身機能・身体構造の領域と活動の領域に関しても強い関係がある。「活動」を行うには、「心身機能・身体構造」の状態に左右される。

言い換えれば、「活動」は多くの場合何らかの「参加」を目的として行われる。つまり、介護を行う場合、直接的な介護行動は、活動をターゲットして行われるが、その時に心身機能・身体構造の状態や、人間としての「自立した生活」の中心課題である「参加」について配慮が欠かせないのである。また、「介護」行動は、多職種連携の中で、内容によっては、「心身機能・身体

²⁰ ICF 前掲書 pp225-227

構造」や「参加」機能への直接的な働きかけを行う場合もあり得る。この点を、この「介護職の専門的職務領域」の図では、心身機能との関わりについては①②の共通領域として示され。参加の領域との共通領域については、①③の共通領域として示されている。

この研究では、研究過程で、介護の定義を『「介護(福祉)」とは、ICFの「活動と参加」の活動分類に示される構成要素の実行に伴う「困難」を、本人の望む内容とレベルで解決できる様に、ICFの環境因子の操作や、「心身機能・身体構造の知識」を用いて、実現していく事。』としているが、「介護職の専門的職務領域」の図をベースの考えるとすれば、「活動と参加」の部分は「活動(と参加)」の様な表現で、「活動」を強調して表現が望ましいかもしれない。

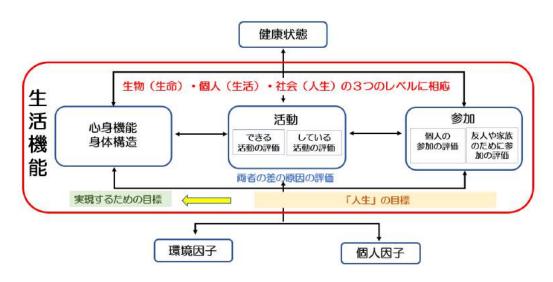
(4)参考事例

なお、ICFの構造を整理する一般的な解説の一つの例としては、以下の様な例もある。

図-2-2 に見る様に、生活機能とは、ICFの中心概念であり、人が「生きる」ことの3つのレ

ベル (階層) とも言われている。つまり、自立している人=この3つのレベルが自分出来ている人ということになる。

これは、生物(生命)・個人(生活)・社会(人生)の3つのレベルに相応するといわれ、生活機能と障害の構成要素には、「心身機能と身体構造」及び「活動」と「参加」がある。



ICF(国際生活機能分類) - 「生きることの全体像」についての「共通言語」から担当著者作成 図-2-2 生活機能から整理した ICF の構造図

ここで、取り上げる生活機能は、「活動」と「参加」になる。「参加とは、生活・人生場面への関わりのことを指し、これに対し、活動とは、課題や行為の個人による遂行のことを指す。しかし、個人が、友人や家族のために活動を行うのであれば、社会的役割となり「参加」に分類されることになる。

人が「生きる」ためには、できる・している活動の評価から、そうなっている両者の原因の評価が必要であり、環境因子の評価や個人因子の評価も視野にいれながら、それによって、「どのような個別・個性的な人生を創るか」という問題意識を持ち、社会的存在としての人間のあり方を考えなければ、自立した生活にはならない。

そのために、生きる目標の設定が必要になる。目標設定の順番としては、第1に、参加レベルの目標と生活像である活動レベルの"目標"を同時に決め、それを実現するために必要な心身機能・構造レベルの"目標"を決める必要があると考えられる。

上記のことから介護職は、利用者や家族に質問や観察をすることで、「なぜその活動をするようになったのか」という背景や思いを知ることができる、利用者が行う活動がどのような意味を持つかで、活動に分類するか、参加に分類するかが変わり、アプローチの仕方も異なってくる。まずは、各項目の評価を整理し、どのようにしたら、自立が可能になるのかを考え、自立に向けての目標の設定をアセスメントしていく技量が介護職の専門職として重要だと考えられる。

ICFに関し、自分なりにどう使っていくかを考えることは重要であり、そのために上記のような自分なりの概念枠組みを図解化しておくのは大切な試みである。

2. ICFの生活機能分類

言うまでもなく、I C F は「国際生活機能分類」である。従って、この資料が重要なのは、上記のような、大枠の解釈云々で理解しておけばよいというのではなく、この分類を如何に使いこなすかという事である。使いこなす過程で、そこでは、この分類では対応できていない内容も出てくるであろうし、2001年5月にWHOで合意され発表されたものであるから、内容は20世紀版で21世紀初頭を終わろうとしている現代とは合わない部分も出てくるであろう。これらの点を指摘し改善を求めていくのは、地球市民としての介護専門職の一つの役割であるともいえる。

ICFの分類を使いこなしていくためには、まず、ICFの構造や「分類の仕組み」がどうなっているのかを確認しておく必要がある。そこで以下、ICFの「付録」としての解説資料を手掛かりに、「ICFの構造(分類体系の概要)」と、「分類の仕組み(分類コードの扱い方)」を確認しつつ、私達の研究にどう繋げるかを整理しておく。

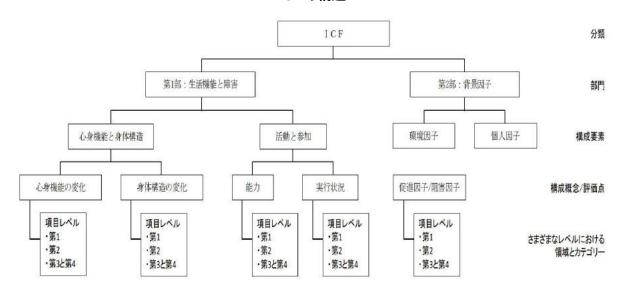
(1) I C F の構造

下記の「ICFの構造」の図として、付録の掲載されている図²¹である。この図に見るように、ICFの構造は、分類、部門、構成要素、構成概念/評価点、さまざまなレベルにおける領域とカテゴリー、の五つの層からなっている。一部、この図に表現されていない内容として、肯定的側面と否定的側面の整理がある。構成要素の「心身機能・身体構造」では、否定的側面は「機能障害(構造障害を含む)」であるが、肯定的側面は「機能的構造的統合性」となっている。同様に、「活動・参加」については、「活動制限、参加制約」と「活動参加」、「環境因子」については「阻害因子」と「促進因子」となっている。これらを踏まえて、図に示されているような分類体系となっている。この研究では主に「活動と参加」の部分を扱うが、「活動と参加」だけに着眼するのではなく、生活機能分類としての全体の体系の中での「活動と参加」を扱っているという注意深さを常に持っている必要がある。

=

²¹ ICF 前掲書 p.207

ICF の構造



ICFの分類は、1~5桁の数字で示されるが、同時に、その数字の頭にどの構成要素に関する 分類内容なのかを示すローマ字がついている、その記号は、以下のとおりである²²。

b:心身機能(bodyの略)

・ s :身体構造(structure の略)

d:活動と参加(domain の略)e:環境因子(environment の略)

なお、文字 d は「活動と参加」の構成要素に含まれる領域(domains)を表すのだが、この分 類の活用の仕方で、「活動のみ」または「参加のみ」を表すために、d の文字を a (活動 activities)、 または p (参加 participation) に置き換えて表現する場合がある。

(2) ICFの分類コードの扱い方

分類は、一番大きな分類が、第1レベルとして一桁の数字で表され、その中にそれを細かく分 類した項目が第2レベルの三桁の数字で表現されている。第2レベルの内容をさらに細かい分類 項目を設定する場合は、第3レベルとして四桁の数字で表現され、さらにその細かい内容は第4 レベルとして五桁の数字で表現されている。なお、第1レベルと第2レベルの間に利用者の便宜 を図るためにとして設定されている(分類)枠組として「ブロック」が設定されている場合があ る。また、分類項目は、第1レベルに対する第2レベルの分類項目はすべて設定されているが、 第2レベルに対する第3レベルの分類項目が設定されていない場合がある。さらに、第3レベル に対する第4レベルの設定は、「活動と参加」の構成要素の範囲内では設定されていない。これを 例示すると以下のようになる23。

b 2 感覚機能と痛み (第1レベルの項目) b 210 (第2レベルの項目) 視覚機能 b 2102 視覚の質 (第3レベルの項目) b 21022 コントラスト感覚 (第4レベルの項目)

また、この様な分類を整理した上で、分類に当てはまらない内容を整理する項目として「その 他特定の〇〇〇」という項目と、「詳細不明の〇〇〇〇」という項目が、第2レベル、第3レベ

²² ICF 前掲書 p.211-222

²³ ICF 前掲書 p.222

ルそれぞれにおいて設定されている。研究の結果、このカテゴリーにはまる内容が色々ありえる ことが解ってきた。

(3) 活動と参加・・第1レベル分類

では、ICFは「生活」を具体的にどう捉えているのであろうか。その内容については「活動と参加」の第1レベルの項目を見ることによってその枠組みを理解することができる。

「活動と参加」について、ICFは第1レベルの分類として以下の九項目を示している。

- 1 学習と知識の応用 learning and applying knowledge
- 2 一般的な課題と要求 general tasks and demands
- 3 コミュニケーション communication
- 4 運動・移動 mobility
- 5 セルフケア self-care
- 6 家庭生活 domestic life
- 7 対人関係 interpersonal interactions and relationships
- 8 主要な生活領域 major life areas
- 9 コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life

この9つの分類で「生活」に関する活動と参加のすべてをカバーしていると考えてよいであるう。この第1レベルに対応する第2レベル、第3レベルについては、本論のIに詳細を示しているので、それをご覧いただきたい。

≪「活動」「参加」の区別≫

実際の生活場面での「困難」の発生や、その困難への援助を考える時、その困難は「活動」としてとらえるか、「参加」としてとらえるかによって、援助の内容が異なってくる。従って、本来であれば、「活動」と「参加」は区別して整理をされるべきであるが、ICFはこの点について、付録 3²⁴の中で「活動と参加のリストは生活機能のあらゆる範囲を含み、それらは個人レベルと社会レベルの両方においてコード化されうる。」としている。その上で、「活動(コード(a))」と「参加(コード(p))」の関係について以下の4つのパターンを示している。

- ①活動の領域と参加の領域と明確に区別する場合(重複なし)
- ②活動の領域と参加の領域とか部分的に重複する場合
- ③活動では詳細なカテゴリーを示し、参加では大まかなカテゴリーを示し、それが重複する場合 と重複しない場合
- ④同じ領域を活動と参加の両方に用いる場合で、完全な重複を伴う

この研究では、介護の定義をする場合にこの点をどう考えるかに関しては、「活動と参加」の 重なりを整理するのは色々と意見が分かれるところであるので、一応④を前提として作業を進め た。今後重要性を増してくる在宅介護などでは、一つ一つの援助行動に「活動と参加」の目的を 考慮する必要があり、そのためには、少なくても、全ての章の内容を理解していることは、介護 専門職の要件であると考えるからである。

しかし、実際の援助行動までを考慮した場合は、介護の中心的な活動領域としては②または③ のカテゴリーとしての整理が必要となってくると考えられる。その前提としては、看護やソーシ

_

²⁴「国際生活機能分類」(中央法規版)pp.225-227 参照

ャルワーク、リハビリテーションなどの他領域の専門職との分担が想定されるからである。しかし分担するからと言っても、援助は一人の人への総合的なまとまりを持った援助が必要であり、それぞれの専門職がこの全体像を理解したし、初歩的レベルでの対応(援助行動)はできる必要がある。

(4) 自立支援介護を展開するために

自立支援介護を行うためには、自立をしている部分についての介護を行わないのは当然である。 その場合、どの部分が自立をしているのか、どの部分で自立できていないのかを細かく見極めていくことが非常に重要である。この細かく見極めていくときにICFの分類は「見落としなく全体像をつかむ」ための、いわば一種のチェックリストとして非常に大きな意義を持っている。

介護専門職は、介護として何を行ない、何を行わないかということについて、専門的な見地からの判断を求められる。その時の行動分析および判断基準は、このICFの分類を活用することによって行うことで、科学的な根拠を持った判断となることができる。

ICFの分類は「見落としなく全体像をつかむ」ためのいわば一種のチェックリストとして役立つ。また、この点を整理することによって、介護専門職独自の「介護基準」、介護の必要性に関する基準が作られていくことが可能になる。その意味で「科学的な介護」を行うために、ICFの「活動と参加」の分類項目を丁寧に学び直すことは、介護専門職として必須の課題となっている。

1) アセスメントと援助行動を行うための分類と分析

介護実践の中で、科学的合理的な援助を実際に行っていくとすれば、そのポイントは二つある。一つは援助を必要とする(求められている)「困難」に関して、アセスメントをきちんとできるかということである。二つ目は、そのアセスメントの結果、明確になった「困難」に対応した細かい援助行動ができるかということである。

このアセスメントを行うには、ICFの「活動と参加」の第1レベルで漠然と行うのではなく、第2レベルや第3レベルで細かく具体的に行われる必要がある。しかし、この第2レベル第3レベルで「困難」を把握したとしても、実際の援助はその「困難」がどういう要素で構成されているのか(原因は何か)を把握しなければならない。多くの場合、そこまで考えないで援助を行うため、過剰な援助を行ってしまったり、結果的に自立を損なったりする場合が多い。

従って、実際のアセスメントを行う場合は、活動や参加での第2レベルや第3レベルに分類されている項目の内容をさらに細かく具体的に掘り下げた行動分析を行っておく必要がある。その上で、その分析結果として得られた内容項目のどれが、該当する「困難」につながっているかを察知し、その点に焦点をあてて援助を行うことで、効果的(援助側から見れば効率的)な援助が可能になる。結果として、本人の自立を援助することにつながる。

しかし、このような専門的分析的なアセスメントと、援助につながる焦点を探しだすことは、 誰にでもできるわけではない。一定の訓練を経る必要がある。また、実際の援助行動場面で失敗 があってはならない。従って、ある程度の分析枠組みや分析方法に関して学習しておかなければ ならない。

その意味で、この研究においては、その学習のヒント、つまり、「活動や参加」の第2・第3 レベルの分類項目で「困難」がある場合、その困難がなぜ起きてきているのかに関する分析の内 容を例示として示すことが必要となる。 さらに、自立支援介護を考えるためには、人々が日常生活においてのどういう自立した行動を とっているかを知らなければならない。では、その「日常生活においてのどういう自立した行動」 とは、何か。この内容を知った上で、その中で「できない行動」(「困難」)についてのみ介護して 行くことで、自立を損なわない介護が可能となる。「できない行動」(「困難」)を拡大解釈して支 援をしてしまうと、却って自立を損ねることになる。

とすれば、介護専門職は、自立した人ができる行動に関し、それがどういう状態なのかについて、かなり詳細な理解が必要である。この行動分類を考える上で、ICFの「活動と参加」の分類は極めて有効である。ICFは"「人が生きることの全体像」についての「共通言語」"である。つまり、ある人(自分自身も含め)の全体像をとらえるために、またそれを他の人に正しく伝えるために使うのである。

≪そのために、この研究においては、第2レベルで示されてものについてはその下の第3レベル(相当)として、第3レベルで示されているものについては第4レベル(相当)として、さらなる分析基準となりうる行動の中身を、人間は一般的にどういう行動をしているかという分析をベースとして、整理するという作業を行った。その結果は、本論 [を参照。≫

2) 「活動」と「参加」への援助の内容方法の多様性

その上で、「困難」の解決に向けて、アセスメントの結果として得られた焦点を当てて援助する内容項目に対し、どのような援助を行うかが課題となる。直接的な(身体に触れて)介入を行う場合もあるだろうし、言語で介入していく場合、できない部分を代行する場合、他の専門職に応援を依頼する場合、その困難を発生させている環境を変化させる場合、など、色々な方法が想定される。特に、直接的な身体介護にとどまらないと考えられる今後の介護を考える時、どういう環境因子を介護に動員するからが大きな課題になるであろう。考慮されるべき環境因子としては、直接的な介入にしても周りの人の態度などの人間的条件(これも環境因子の一つ)も、福祉機器(補助具)の活用など物的条件も、コミュニティの状況などを含む居住条件も、社会制度的な環境も、色々とあり得る。専門職としての介護スタッフは、これらの中から適切な方法を選んで対応していくことが必要になるだろう。

さらに言えば、普通の人が「活動と参加」にあげられている活動を行う場合は、「活動と参加」であるから、何らかの形で環境因子との関係が必ず存在する。したがって、「活動と参加」の分類項目について、一つ一つ環境因子との関係を整理することで、何らかの活動と参加ができない(「困難」が発生している)場合(自立ができない場合)、補完(操作)しなければならない環境因子が特定されてくる。こういう観点から「活動と参加」の個別の分類項目に対し、関係(対応)する「環境因子」を(具体的に)上げてみることとした。

≪この点に関しても、この研究においては、第2・第3レベルで想定される行動分析に対応して、その行動と最も関係が深い環境因子を想定してみるという作業を行った。その結果は、本論 I を参照。≫

3. 「自立した生活」への「困難」 ・・ICFにおける「評価」

前節で取り上げた解決を求められている課題に関しては、ICFの(構成要素)「活動と参加」では、その構成概念として「能力・標準的環境における課題の遂行。実行状況・現在の環境における課題の遂行。」としているため、それが一般的に進まない状況を「困難」と表現してい

る。さらに、ICFの資料では「困難」を、「困難なし」「軽度の困難」「中等度の困難」、「重度の困難」、「完全な困難」として五段階に分けている²⁵。それぞれ困難の内容についてはパーセント表示となっており、具体的な内容について整理がされているわけではない。しかし、前節の様な詳細な分析を行って項目化することである程度のパーセントを引き出すことができる。個々のケースにもよるが、困難の分析的な中身について整理をすることによって、パーセント表示をはじめ、この「困難」をどう捉えるかについて、きちんと整理をして行くことが必要になる。

ICFの資料では、この「困難」等について、「評価点²⁶」という形でコード化する方法が示されている。以下、引用する。

ICFの各コードは、1ないし2以上の評価点を用いる。それは例えば健康水準の程度や現在 問題となっていることの重症度などを示す。評価点は小数点以下 1, 2, または 3 以上の数字

 x x x x . 0 問題なし(なし、存在しない、無視できる・・・)
 0-4%

 x x x x . 1 軽度の問題(わずかな、低い・・・)
 5-24%

 x x x x . 2 中等度の問題(中程度の、かなりの・・・)
 25-49%

 x x x x . 3 重度の問題(高度の、極度の・・・)
 50-95%

x x x . 4 完全な問題 (全くの・・・)

95-100%

x x x . 8 詳細不明 x x x . 9 非該当 で示される。どのようなコードを用いても少なくとも 1 つの評価点は伴うべきである。評価点がなければコード自体には意味はない(約束事としてWHOでは評価点がないコードを問題なし(xxx.OO)として解釈することにしている)。

心身機能と身体構造の第一評価点,活動と参加についての実行状況と能力の2つの評価点, そして環境因子の第一評価点は,それぞれの構成要素における問題の程度を表す。

全ての構成要素は同じ共通スケールで数量的に示される。問題があるということは、その構成概念に応じて、機能障害(構造障害を含む)かもしれないし、活動制限、参加制約、あるいは阻害因子かもしれない。該当する分類領域によって、下記の括弧内に示した適切な評価用語を選ぶ必要がある。(xxx は第2 レベル領域の数字を表す)。

(以下、略)

ICFの資料では、さらに「活動と参加」のコード化²⁷について以下のように(かなり詳細に)説明している。以下、その冒頭の部分を引用する。

定義

活動とは、課題や行為の個人による遂行のことである。参加とは、生活・人生場面への関わりのことである。活動制限とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。参加制約とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。活動と参加の分類は、多くの領域(domains)からなる単一のリストである。

²⁵ ICF 前掲書 pp123-124.

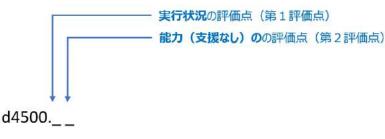
²⁶ ICF 前掲書 P214

²⁷ ICF 前掲書 P220-223

能力と実行状況の評価点の使い方

活動と参加は2つの評価点でコード化される。すなわち実行状況の評価点(小数点以下の1桁

目の部分を占める)と、能力の評価点(小数点以下2桁目)である。活動と参加のリストのカテゴリーを同定するコードは、2つの評価点が付くことによって初期設定状態の一括表を形成す d4500.__



一括表(初期設定状態)

実行状況の評価点とは、個人が現在の環境のもとで行っている活動や参加の状況を示すものである。現在の環境は社会的状況を含むため、この評価点で示される実行状況は、人々の実際、生活の背景における「生活・人生場面への関わり」あるいは「生活経験」としても理解することができる。この背景には環境因子、すなわち物的側面、社会的側面、人々の社会的な態度の側面などの全ての側面が含まれている。現在の環境の特徴は、環境因子の分類を用いることでコード化することができる。

能力の評価点とは、ある課題や行為を遂行する個人の能力を表すものである。この構成概念は、 ある領域についてある時点で達成することができる最高の生活機能レベルを示すことを目的とし ている。

--以下略一

上田敏²⁸は「活動」を「している活動」(「実行状況」)と「できる活動」(「能力」)に分けて、両方を重視すべきであるとしている。「している活動」(「実行状況」)とは現在の生活で実際に行っている「活動」(生活行為)で、これをとらえることは難しくなく、実際の生活を細かく観察することで把握できるとしている。その一方、「できる活動」(「能力」)には2種類あるとし、1つは、現在(たとえば過去1年)は機会がなく、していないが、機会さえあれば「できる」(能力のある)「活動」で、水泳や自転車乗り、特殊な技能(機会の操作など)、などである。よく話を聞きさえすればとらえることはそう難しくない。より重要で、正しく把握するのが難しいのは、もう1つの「できる活動」であるとし、これはリハビリテーションや特別支援教育などの場で、専門家が技術・経験・知識を駆使し、補助具なども用いて働きかけてはじめて、訓練や評価(テスト)の時に「できる」ことを確認することができるもので、本人さえ気づいていなかったような潜在的な「能力」である。

ICFの資料では、この「能力の評価点」の後、「任意評価点」「付加的評価点」「どんな時に実行状況あるいは能力の評価点を用いるか」「2つの評価点を用いる場合の事例集」などについて、細かく解説をしている。重要な内容なのでぜひ、直接資料を参照していただきたい。

²⁸ 上田敏著「ICF の理解と活用」P27

4. ICFを活用した「自立した生活」への介護への「学習の展開」

(1)援助行動(介護)のコンピテンス、必要なナレッジ、スキル

以上のような経過を踏まえて、生活上の困難(介護しなければならないこと)やその「困難」 を構成する項目(分析結果)、さらに、それに関連する環境因子を明らかにしてきた。

次の問題は、当然のことながらこの「困難」に対してどういう援助行動としての「介護」を行うのかという事である。この「介護行動」は、介護スタッフはそれをできる能力が必要という意味で「コンピテンス」とも言える。さらに当然、この行動(コンピテンス)を行うためにはそれに必要な技術(スキル)や知識(ナレッジ)が必要である。

言い換えれば、日常生活を営む上で何らかの困難(できないこと)がある場合の対応として「介護福祉」を考えるならば、論点は、「何ができないのか」である。ICFは、その名の通り、国際「生活」機能分類であり、「介護」が対象とする人間の生活行動の分類に関する国際的スタンダードとして整理されている。(その内容が十分であるかどうかは別として)とすれば、この分類の中で介護が中心的にターゲットと考える「生活行動」に対応させて、介護能力や技術、知識の内容を、具体的に明示することは、国際的に共通のわかりやすい「介護」の内容整理となるであるう。

(2) ICFをベースとしたQFの開発

しかし、この様に考えるならば、上記にあげたICFの「活動と参加」の困難に対応する介護のコンピテンスは、難易度にかなり多様性があり、介護スタッフはそのすべてができると考えるのは、かなり困難である。従って、このコンピテンスを難易度で整理し、一定のラダーとして整理しておくことは、今後の介護実践の発展の基礎として非常の重要な課題となる。

以上のことから、国際ベースで当面求められるのは、ICFをベースとしたQF(qualification Framework ・質的枠組み)の開発であろう。ICFの開発に関してはかなり綿密に国際間の協議が行われているので、その内容は基本的にどの国も当てはまるスタンダードを表現しているといえる。(従って、日本ベースでみれば物足りない点もある。)また、生活行動の評価スケールも数量レベルにとどまるが示されている。これらを踏まえて、内容の具体化を図れば、QFへの展開も可能と考えられる。

5. 研究の方法

これらの整理を行うために、この研究では以下のような、ICFの「活動と参加」の、第2・第3レベルごとの、行動分類(「困難」をい予測するための枠組み)や、それに対応する環境因子の組みあわせの整理を試みた。

また、自立した行動分類と環境因子の組み合わせを踏まえて、その行動で自立できない場合の 介護行動(コンピテンスとしても考えられる)を上げて、その介護行動に関する技術(スキル) と知識(ナレッジ)とを整理した。この技術と(ある意味で技術の根拠となる)知識は、介護行動 の内容とともに、介護スタッフの学習課題となる。さらに、その介護行動と必要な技術と知識に 関しては、その難易度に対応するレベル分けを試みた。 以上の様なまとめを行うために、以下の様な表を用いて、内容整理を試みた。その結果が、本 論第1編である。

第〇章 OOOOO (ICFの第1レベル名称)

dOOOO (ICF第2·第3レベルの名称)

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	共通評 価点	②必要な具体的条件・・・環境(要素・因子)等	③先の支援を行うための 具体的介護行動(介護能力)	④支援(介護)行動に 必要な技術・知識	備考
(「問題なし」の場合に	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
行う行動の要素)	し				
	0-4%				
1	軽度の				
	困難	1	1	1	
2·····	5-				
	24%	2	2	2	
3	中等度				
		3	3	3	
4	25-				
	49%	4	4	4	
5	重度の				
		5	5	5	
6	50-				
	95%	6	6	6	
	完全な				
	困難				
	96-				
	100%				

<記入上の留意事項>記入は全部、個条書きに成ることを想定しています。4 つの欄の記入内容は番号で対応させてください。

①行動分析(行動の要素・因子)

- *O.普通の人が、dOOO(O)の行動を行う場合、その行動の要素をさらに分析すると、どういう言う因子(要素)に分けられるか、具体的に記述する。
- *1.ほかのdOOOなど(「活動と参加」の第2・第3レベル項目)で、出てくる「行動」は、因子としては上げない。(多分、行動プロセスの分析と、内容(種類)の分析になるだろう。)
- *2.問題の発生レベルは、「問題なし」で上げた要素(因子)の〇〇%で判断するので、どの行動が軽度・中等度・重度とは指定しない。(当事者によって異なる)
- *3.具体的行動は「・・・・ができる」と表現される。
- *4.①の分析としては「環境因子 e」は扱わない。②で扱う。

②必要な具体的条件・環境(要素・因子)

- * O.普通の人が、「①人として具体的行動」を行うために必要な環境条件は何か、その具体的行動に限定して、上げる。環境因子 e の項目が対応して出てくるが、具体例を添付しておく。
- *1.この要素を考える場合、どの「環境因子 e」を活用するか考えると解り易いが、「環境因子」そのものにはならない点も注意。(環境因子は因子として整理されているが、其の因子それぞれが、どういう状態や行動につながるかは書かれていない。)
- *2.特定の活動と参加の分類では、「心身機能b」「身体構造」の項目を含む場合があり得る。

③具体的介護行動(介護能力)

- * O.「必要な具体的支援内容」では、軽度・中等度・重度・別にどういう環境整備が必要かなどは、「完全な問題」として想定した内容に対する〇〇%で判断するので特に指定しない。
- *1.支援内容は、行動や状態の内容として表現される。

- *2.「②必要な具体的条件」(環境因子等)を活用していく『介護行動(能力)』などを、出来るだけ 具体的行動として記入する。(対応行動が複数の行動になる場合も、その逆もあり得る。)
- *3.いうまでもなく、この部分をどこまで具体的に(細かく)整理できるかが、この研究の基礎作業の中心課題である。
- *4.「軽度・中等度・重度・別」は、利用者の状態の分類であり、『介護行動』の難易度ではない。従って、この表の項目を次項の「必要な技術や知識」として整理したのち、(介護行動としての)難易度を別に設定する必要がある。
- *5.介護行動は「・・・・ができる」と表現される。

④必要な技術・知識

- *O.「③介護行動(能力)」を行うために必要な技術(行動)や知識(配慮すべき事項を含む)を上げる。
- *1.ここで整理された内容が、教育課程に反映していく事に成る。
- *2.必要な技術・知識・項目は、体言止めで表現される。
- ⑤「備考」は、関連するd〇〇〇を記入した方が解り易い場合や、保留事項や、補足説明事項があれば ご記入下さい。

※(参考資料) I C F の主な定義など

ICFの資料を活用するためには、資料に書かれている定義等を確認しながら、活用していく必要がある。その意味で、必須となる定義などを参考として、上げておく。

定義

健康との関連において

心身機能(body functions)とは、身体系の生理的機能(心理的機能を含む)である。

身体構造(body structures)とは、器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。機能障害(構造障害を含む)(impairments)とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

活動(activity)とは、課題や行為の個人による遂行のことである。

参加(participation)とは,生活・人生場面(life situation)への関わりのことである。

活動制限(activity limitations)とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。

参加制約(participation restrictions)とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに 経験する難しさのことである。

環境因子(environmental factors)とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

ICF分類の全体を理解するためには、その構造を理解することが重要である。その構造は以下の用語の定義に示されている。(2.ICFの生活機能分類(1)ICFの構造 参照)

分類とは、ICFの全体の構造と範囲である。これは階層においては最上位の用語である。

分類の部門とは、分類の2つの主要な区分けをいう。第1部は生活機能と障害を扱う。第2部は 背景因子を扱う。 構成要素とは、各部門の2つの主要な区分けをいう。第1部の構成要素は「心身機能と身体構造」と「活動と参加」、第2部の構成要素は「環境因子」と「個人因子(ICFでは現在分類はない)」で構成されている。

構成概念は、コードとそれに関連する評価点との併用によって定義される。第 1 部には「心身機能の変化」「身体構造の変化」「能力」「実行状況」の4つの構成概念があり、第 2 部には環境因子における「促進因子や阻害因子」の 1 つの構成概念がある。

領域とは、関連した生理機能、解剖学的構造、行為、課題、および生活・人生分野についての実際 的で有意義な組み合わせである。領域は各構成要素の中でさまざまな章、ブロック、カテゴリー を形成している。

カテゴリーとは、構成要素の領域内の組分けと小組分けである。すなわち、分類の単位である。 レベルとは、階層的な順位を作るものであり、カテゴリーの詳細さ(すなわち、領域やカテゴリーの細かさ)を示すものである。第1レベルはすべての第2レベルの項目からなるということなどである。

第3章、EQFに基づく検討経緯と課題

・・・(仮ESA). Q. F. (RQF) を目指して・・・

研究の第2ステップは、ICFをベースとしたQFの開発である。私たちの研究では、検討の結果、EQFの枠組みを活用することとした。その理由は、

- ①この研究が、最終的には、国際的な、短大・大学レベルでの介護スタッフ養成課程を作成することを目指している。
- ②EQFは、職務内容のレベルと、学習機関のレベルを対応させているので、教育課程の編成がかりやすい。
- ③EQFの考え方は、国際的には相当普及しているため、国際的研究としての枠組みを無視できない。

などの理由による。

以下、これを踏まえて、介護行動のレベル整理を目指した考察のまとめである。この考察に基づく教育課程の試案が、本論2としてまとめられた。

1. 資格枠組み

"qualification"(資格)は、OECD(2007)によると、「評価・認定プロセスの公式結果(認定証・修了証書・称号)であり、ある個人が所定の基準に沿った学習成果を達成、及び/又は特定の業務分野において働くために必要なコンピテンスを持ち、適格性のある機関が判断した場合に得られるもの。労働市場や、教育・訓練における学習成果の価値についても公式の承認を与えるものであり、ある業務を行う上での法的な資格となる場合もある。」と定義されている。

すなわち、諸外国の"qualification"(資格)は日本の「資格」よりは幅広い概念であり、日本における、法令等に基づく国家資格(技能検定を含む)はもとより、国等が認定した審査基準を基に民間団体や公益法人が実施する公的資格、職業能力評価基準、ジョブカード、その他学士・修士・博士号まで含まれる、広範な「能力評価制度」と考えていいだろう。

他方、"Qualifications framework" (資格枠組み)は、職業能力開発総合大学校(2011)では、「一群の基準(たとえば資格レベル説明指標を使うなど)に沿って、特定のレベルの学習成果に適用される各国・部門レベルなどの資格を分類・開発するための仕組み」と定義されている。すなわち、「資格のものさし」である。²⁹

(1) EQFの枠組み

欧州における資格枠組みプロセスを「欧州資格枠組み(EQF: European Qualifications Framework)」と呼ぶ。これは、いわゆる学校教育系統のレベルと、職業教育(訓練)系統のレベルの基準を統合する試みの中から生まれてきている。従って、職業に関してはそのレベルにおける職業上のディプロマ(ここでは職業教育学校の卒業基準も意味する)に相当すると考えられている。

^{29「}JILPT 資料シリーズ No.102 諸外国における能力評価制度—英・仏・独・米・中・韓・EU に関する調査—」(2012.3、独立行政法人 労働政策研究・研修機構)の163p

従って、基準設定の基本が、学校教育の系統に准じており、初等教育・中等教育(前期・後期) (日本の中学、高校に対応)・高等教育(短期・一期(4年相当)・二期(6年相当)・三期(8年 相当以上)(日本の短期大学・4年制大学・修士課程・博士課程・に対応。ただし、欧米の中等教 育・高等教育はなかなり実力次第(飛び級や、留年あり)なので、修学年限などは目安である。) の8つの資格参照レベルを設定し、(EC加盟)各国の全てのレベル、職種の教育・訓練に関する 資格につき、その資格保有者がどのようなレベルの知識、スキル、能力(コンピテンス)を持つ か、欧州全域で比較可能にし、資格の相互交流、活用を可能にするものである。(基準力量の相互 保証制度と言ってよい。)

この、EQF(European Qualifications Framework) は、「知識 (knowledge)」、「技術 (ス キル・skill)」、「能力(コンピテンス ・competence)」の3要素で構成されている能力分類方法 である。この3つの内容は、表2-1に見る通りである。特に、「能力」 コンピテンスは、実際の 職場において、職務上の「責任」に対して、与えられた権限を行使して、「自律性」を発揮して職 務を遂行する「能力」のことである。コンピテンスの修得には、知識と技術の両方の修得が必要 であり、これらの力を活かす個人的・社会的・方法論的な能力があってはじめてコンピテンスの 修得が図られる。この点は、特に日本ではかなり曖昧になっていることが多い職務のレベル別の 「責任」と「自律性」を整理している点に注目しておく必要がある。

表2-1 知識・技術・コンピテンスの整理

(1) 知識 (knowledge)

「知識は、学習を通じ吸収された情報の所産(outcome)を意味する。知識は、仕事や学習 分野に関連する、事実、原理、理論、実践の集まりである。EQF の文脈では、知識は、理 論ないし事実に結び付けて表現される。」

(2)スキル(skill)

> 「知識を適用しノウハウを使用して仕事を完成し問題を解決する能力(ability)を意味する。 EQF の文脈では、スキルは、認知的なもの(論理的、直観的ないし創造的思考の使用を伴 う)ないし実践的なもの(手の器用さと手法、用具、道具、装置の使用を伴う)として表現 される。」

コンピテンス (competence) (3)

> 「仕事や学習状況、専門的ないし個人的な発展・成長において、知識、スキル、個人的・ 社 会的・方法論的な能力を使いこなす能力を意味し、EQF の文脈においては、責任と自律の 観点から表現される。」

これを踏まえての、EQFの全体が、以下の表 2-2 である。

表2-2 EQF における知識・スキル・コンピテンスのレベル

	高等教育	ナレッジ(知識)	スキル(技術)	コンピテンス(能力)
		理論ないし事実に結び	認知的なもの(論理的、直	責任と自律の観点から表
	ッパ高	付けて表現される。	観的、創造的な思考の使用	現される。
	等教育		を伴う)ないし実践的なも	
	領域の		の(手先の器用さと手法、	
	資格枠		材料・道具・装置の使い方	
	組みと		を伴う)として表現され	
			る 。	

			Γ	
	の 互 性			
ロベニの	博べ等第3割りの高音を	仕事または学習の分野 における最も高度な最 先端の、かつ分野間の境 界についての知識	最先端の専門的スキルと 技術研究やイノベーションにおける重大な問題を 解決し、既存の知識や専門的実践を拡張し 再定義するのに必要な分析と評価を含む	十分な権威、イノベーション、自律性、学究的・専門的完全性、研究を含む仕事または学習の最前線における新しいアイデアやプロセスの開発への持続的な貢献を示すことができる
レベルフ	修 べ 等 第 名 期	ある分野の仕事または 学習の最前線の知識を 含む独創的な思考や研 究の基礎としての高度 な専門知識	新しい知識と手順を開発するためと、異分野からの知識を統合するための研究やイノベーションに必要な専門的な問題を解決するスキル	複雑で予測不能な、新しい 戦略的アプローチを必要 とする仕事または学術の 情況の管理・改革、専門的 知識や実践への貢献およ びチームの戦略的な達成 度の検証に対する責任
レベル6	学 が 等 第 1 期)	ある分野の仕事または 学習の高度な知識理論 と原理の批判的理解を含む	仕事または学習の専門分野における複雑で予測不能な問題の解決に必要な、 熟達とイノベーションを示す、高度なスキル	予測不能な仕事または学習の情況における意思決定に対する責任を伴う複雑な技術的・専門的活動またはプロジェクトの管理個人および集団の専門的能力の開発管理に対する責任
レベル5	準 学 士 レベ ル (短期高 等教育)	ある分野の仕事または 学習の包括的・専門的な 事実的・理論的知識およ びその限界の認識	抽象的な問題の創造的な解決策を開発するのに必要な総合的な認知と実践 のなスキル	予測不能な変更がある仕事または学習状況での管理監督、自己と他者の達成状況の検証と発展
レベル4		仕事または学習のある 分野内の幅広い文脈に おける事実的・理論的知 識	仕事または学習のある分野における特定の問題を解決するのに必要な認知 と実践的なスキル	通常予測できるが、変更されることのある仕事または学習のガイドラインに沿った自己管理、仕事または学習活動の評価と改善に対する多少の責任を伴う他者の定型的任務の監督
レベル3		ある分野の仕事または 学習についての事実、原 理、プロセスおよび一般 的概念の知識	基本的な方法、道具、材料 及び情報を選択し、適用す ることによって、任務を達 成し問題を解決するのに 必要な認知と実践的なス キル	仕事または学習における 任務の完遂に対する責任 問題解決のために自己の 行動を状況に適応させる ことができる
レベル2		ある分野の仕事または 学習についての基本的 事実の知識	任務を遂行するための関連情報を利用でき、単純な規則と 道具を用いて日常的な問題を解決できる、基	多少の自律性を伴う監督 下での仕事または学習

		本的な認知と実践的なスキル	
レベル1	基本的な一般知識	単純な任務の遂行に必要 な基本的スキル	体系化された状況における直接監督下の仕事また は学習

資料:「JILPT 資料シリーズ No.102 諸外国における能力評価制度一英・仏・独・米・中・韓・EU に関する調査 一」(2012.3、独立行政法人 労働政策研究・研修機構)の170p 図表7-3 を転載

(2)介護福祉士制度とEQF、および国際的動向について

日本の介護福祉士資格の高度化による社会的評価を高めるためには、(4)研究課題 介護業務内容の階層性をどう整理するかの 2) EQF に学ぶ で触れたように国際的動向を踏まえ、EQFの基準を用いて構築する方向性が必要である。現行日本の介護福祉士に EQF レベルを適用すれば、レベル5 (Diploma) (短期高等教育)の範疇になる。それは、養成施設卒の介護福祉士は準学士の(短期)高等教育を受けているからである。しかし、このレベル 5 に相当する職業能力 (Competence)が、「予測不能な変更がある仕事または学習状況での管理監督、自己と他者の達成状況の検証と発展」であり、日本で求められている(実現している)水準とは、合わないのではなかろうか。また、その能力を評価する仕組みとしての国家試験も、このレベルの問題とはなっておらず、「通常予測できるが、変更されることのある仕事または学習のガイドラインに沿った自己管理、仕事または学習活動の評価と改善に対する多少の責任を伴う他者の定型的任務の監督」 (レベル4・後期中等教育卒業レベル) に留まっていると言えるだろう。

その意味で、日本の介護福祉士の業務遂行能力をどのレベルだと考えるかは、想定レベルとしてレベル5を考えるのであれば、それが実質的に実証できる評価方法(国家試験の内容・方法などを含め)等を整備していく必要がある。

EQFは2010年にヨーロッパの共通基準として発効しているが、これに呼応する形で、世界142か国でNQFの整備が進められている。このような動向を考慮するならば、トレンドとしては、専門職のグローバルスタンダードとしての国際版のQFの整備が進むのは間違いなく、その意味で、日本においても、この開発を急ぐ必要がある。そしてそれは、介護実践の発展向上のみならず、介護福祉士(介護専門職)の養成教育のシステムの改善改革につながっていくことは言うまでもない。

EQF(The European Qualifications Framework)は、もともとヨーロッパにおけるアカデミック教育と職業教育の整理統合を目指した枠組みであるが、専門職のキャリアラダーを考えるうえでも示唆に富んでる。したがって、国際化を目指す介護研究では、このキャリアラダーの研究は大きな課題である。とすれば、大きな課題は、そこに組み込まれるコンピテンスやスキル、ナレッジの内容の具体化が課題となる。しかも、このコンピテンスなどの関しては、一定の国際基準として通用しうるものでなければならない。

2. (仮ESA). Q. F. (RQF) への試み

そこで、この「介護の国際カリキュラム開発専門家研究会」(学校法人敬心学園職業教育研究開発センターが呼び掛けた)では、EQFのフレームワークとの対比などを含め国際的通用性も考慮した介護福祉専門職の職務体系の構築を目指し、検討を開始した。

(1) 日本の介護職の職務体系上の問題点

日本の介護職の職務体系を考える時に考えなければならない問題はいくつかある。

第1の問題点は、「介護」という専門的援助についての最低基準をどう考えるかという事である。この点については「介護福祉士」という資格制度を作ったということで、この介護福祉士という資格が介護の対人援助の最低基準ということであったと考えてよいだろう。しかし、この場合の最低基準は国家試験の合格という基準で、主に知識を問う試験であり、コンピテンスにつながる実技試験の比重は大変少なかったし、その合否基準もあいまいな点が多かった。また、後にこの実技試験を受けなくても良い制度になったため、介護福祉士は事実上そのコンピテンスを証明する資格制度ではなくなってしまった。

しかし、現実にはそのレベルの介護福祉士基準も守れず、移行措置であったはずの、初任者研修(旧ホームヘルパー2 級)の研修終了をもって、実務に就くという人が増えている。また、介護福祉士の国家試験の実技試験に代わる形で、実務者研修制度もできている。

第2の問題点は、この初任者研修、実務者研修、介護福祉士国家資格というのが事実上の階層性を構成しているにもかかわらず、それぞれの階層における職務内容上のコンピテンス(能力=技術+知識)の内容が明確ではないという点である。そもそも、これらの研修はその発足の仕方に色々な経過があるとしても、研修終了が事実上、職務上のライセンスになっている以上は、その研修で達成されるべきコンピテンスは明確になっていなければならないはずである。

第三の問題点は、この達成すべきコンピテンスが明確になっていないため、それぞれの研修や 介護福祉士養成課程の教育内容がきちんと区分されていないという点である。具体的には、どの 研修も、介護福祉士養成課程での学習と同じ科目になっていて、時間数が少ないだけという構成 になっている。同じ科目であっても、その学びの内容がその段階に応じて明確に整理されていれ ばそれも意味のないことではないが、現段階では、項目やキーワードで見る限り、ほとんど差は ない。

この点は、現場での職務実践上は、事実上、初任者研修のレベルで職務執行が可能であることを意味するし、実際そうなっている。という事は、介護福祉士でなくてもすべての介護業務は行えるという、国家資格制度による「介護の質」の最低基準が崩れてしまっているということを意味する。これでは、EQFに対応する NQFにはならないし、まして国際標準の件と材料にはならない。

この研究では、この点を踏まえて、これらの問題とは切り離して、介護専門職の職務内容(コンピテンス)や、教育課程を検討していくこととする。

≪日本の介護実践を前提に、とりあえずの枠組みを創ってみた≫

この様な問題点はあったが、とりあえず、メンバー全員で、日本の介護福祉士養成課程で扱っている専門科目の「介護の基本・生活支援技術・介護過程・発達と老化の理解・認知症ケア・からだとこころのしくみ・レクリエーション」など介護に必要な能力の内容(コンペテンシー)を個

別項目で上げてみて、日本の介護福祉士有資格者や、学校卒で国家試験を受けない組み、実務者研修、初任者研修、生活援助従事者研修、などの修了レベルなども想定して、これらを8段階のレベルに当てはめて(レベル3と4を2段階に分割したので10段階)に整理してみた(この段階では、ICFの生活機能分類を意識しなかった。)研究メンバーから集められた膨大な項目内容をとにかく要約してみようと、事務局でまとめたが、そのままではA3用紙に数枚に渡る資料は出来た。しかし、

- 〇同じ項目でも、専門家によって配置するレベルが異なっている。
- 〇同じ表現でも協議していくと専門家同士で解釈が異なっている。
- 〇日本の学校教育などをイメージすると EQF などのレベル設定と噛み合わない。
- 〇介護関連の研修などのレベルを意識すると、EQF などのレベル設定と噛み合わない。
- 〇内容(表現)が大雑把すぎて、分けてみても意味がない様な項目がある。

等の理由で、明確な整理をしきれなかった。日本の介護のコンピテンスの階層性や、教育上の役割分担の混乱がそのまま現れた結果となった。結局、この表では資料が創れないという結論になった。しかし、具体的介護内容とそれを表現する言葉の共通理解を深めるために、これを知識や技術項目で整理してみたら何とか見えるかもしれないと、作業に取り掛かろうとした。

その検討過程で、EQFの階層別のコンピテンスも参考にしつつ、研究メンバーがコンピテンス項目として挙げた内容をとりあえず要約したものが、下記の「表2-3日本の介護福祉士養成課程におけるコンピテンスのレベル」の右側の部分である。

表2-3 日本の介護福祉士養成課程におけるコンピテンスのレベル

	高等教育	EQF における能力(コンピテン	介護におけるコンピテンスのレベル・・要約
		ス) のレベル	
レベル8	博士レベ	価値ある権威、革新、自律性、学究	介護に関する様々な側面に関し、中長期的か
	ル相当	的・専門的品格や研究を含む仕事	つ原理的かつ総合的な研究開発を行い、その
		または学術の最前線における新し	成果を社会実装に結び付けるべく、国際的な
		いアイデアやプロセスの開発への	活動を含め、中長期的政策提言等を行うこと
		持続的な貢献を示すことができる	ができる。
レベルフ	修士レベ	複雑で予測不能な、新しい戦略的	日常的な様々の介護問題に関し研究開発を
	ル相当	アプローチを必要とする仕事また	行い、日々の実践に活かしうる様に、当面の
		は学術の状況の管理・改革、専門的	政策課題としても、提言することができる。
		知識や実践への貢献およびチーム	様々な障害や疾病を抱える要介護者の介護
		の戦略的な達成度の検証に対する	を含む困難事例に関し、適切な介護が行え
		責任	る。又、その指導を行うことができる。
			様々な機能を持つような大規模施設等の経
			営管理ができる。
レベル 6	学士レベ	予測不能な仕事または学習の状況	様々な困難があることを、根拠を示して判断
	ル相当	における意思決定に対する責任を	できる要介護状態への対応ができる。
		伴う複雑な技術的・専門的活動ま	介護現場の様々な問題に関する改善を含む
		たはプロジェクトの管理、個人お	研究開発を行うことができる。
		よび集団の専門的開発の管理に対	少数のサービス機能に限定した介護施設や
		する責任	機関の管理運営を行うことができる。
レベル5	準学士レ	予測不能な変更がある仕事または	日常的標準的な介護業務を、責任をもって行
	ベル相当	学習活動の状況下の管理監督、自	うことができる。(困難ケースへの対応に関
		己と他者の達成状況の検証と発展	

		国試合格		してけ みていきドニャ/のぐなど いっちん
		の介護福		しては、然るべき指示を仰ぐなど、助言を得る方法を知っている。)
				0,0,2,0,11 1, 00,
		祉士		少人数のチームリーダーとして、日常的業務
				に関し連絡調整を行うことができる。また、
				上司を補佐しつつ、後進スタッフの OJT を
				行うことができる。
				様々な状況に関し、適切な報告を記述できる
				とともに、事例研究等で根拠を踏まえた意見
				を出すことができる。
レベ	レ	準学士レ	通常予測できるが、変更されるこ	単独で、直接利用者に触れる日常的標準的な
ル4	ベ	ベル相当	とのある仕事または学習のガイド	基礎的な(定型的な)介護(介助)を行う事
	ル		ラインに沿った自己管理、仕事ま	ができる。
	4	介護福祉	たは学習活動の評価と改善に対す	上司の指示を踏まえて、レベル1or2の業務
	_	士養成校	る多少の責任を伴う他者の定型的	内容に関し、指示ができる。
	2	卒業	任務の監督	基礎的な記録業務(チェックシートベース+
				 記述)に対応でき、かつ資料を分析的の読み
				 取ることができる。
	レ	実務者研		単独で、直接利用者に触れる基礎的な(定型
	ベ	修修了レ		的な)介護(介助)を行う事ができる。
	ル	ベル		基礎的な記録業務(チェックシートベース+
	4	,,,		記述)に対応できる。
	_			上司の指示事項を適切に実行できる。
	1			
レベ	レ	介護職員		レベル5(有資格者)以上の指示に基づき、
ル3	べ	初任者研	遂に対する責任問題解決のために	直接利用者に触れる基礎的な(定型的な)介
"	ル	修修了し	自己の行動を状況に適応させるこ	護(介助)の補佐を行う事ができる
	3	ベル	とができる	基礎的な記録業務(チェックシートベース)
	_	,,,		に適切に対応できる。
	2			10.2 37 10.7 17b. 10 0 0
	レ	生活援助		
	べ	土石饭助 従事者研		務(準備・補助・後始末・等)を行う事がで
	ル	修修了し		か (辛畑・州助・阪加木・寺) を订 フ事が (きる。
	3	『『」し ベル		さる。 基礎的な記録業務(チェックシートベース)
	_	, 170		基礎的な記録表務(デェックシードベース) に対応できる。
	_			にxyym Ceる。
1 . ^* 11	1		タルの白浄州な似るむ叔て不のは	
レベル	′		多少の自律性を伴う監督下での仕事または党羽	介護に関する利用者との基礎的コミュニケ
			事または学習 	ーション(観察を含む)ができる。基本的な
1 -20				生活環境整備をできる。
レベル	<i>'</i> 1		体系化された情況における直接、	日常生活に必要な整理整頓、清潔、等の必要
			監督下の仕事または学習	性を理解し、対応行動ができる。職員との職
				務に関するコミュニケーションができる。職
				業としての基本的ルールを守れる。

(2) 研究を進めて行くための課題

最終的には、このレベル設定を行って、段階別の教育カリキュラムを創ること、(できれば対応 した教育マニュアル(授業設計や授業案)の作成や、関連する教材を開発すること)が、本研究 に課せられた課題である。そこで、とりあえず、まずは、このレベル設定を行うべく、以下のような整理を行ってみた。

1) 研究メンバーの実務経験や専門分野が違う (個々の用語概念が違う)

本研究では、介護福祉教育関連の知見・経験を有する学識経験者と各種検討を行った。数々の検討において、研究メンバーの介護に対する理解や定義が異なっていることが課題となっていた。要するに、介護福祉に基盤を置く教員か、医療・看護に基盤を置く教員かによっても、また、在宅での自立を目指すことを基本とするか、施設における介護を基本とするかによっても、介護福祉教育における考え方や捉え方が異なっていた。よって、議論をするための前提条件が必要になっていた。

このため、「『生活(活動)』における自立を支援する」ことが、最も要領よく整理されている資料としてICFの「活動と参加」の機能分類をベースに、自立している人の行動分類を踏まえ、その行動の一部ができない場合の介護行動の整理を行い、それを段階別に分類する方法を考えた。この枠組みを考えた後で、介護行動の前に、介護を行うツールとして、ICFで整理されている環境因子(介護福祉士も一つの因子だが)をどう活用するかで、介護行動の分析がやりやすくなる(客観的基準が明確になる)ことが討議の中で明らかになった。そのため、(生活)活動(と参加)の分類分析から、直接介護行動を考えるのではなく、環境因子を挟んで、介護行動の具体化を図る方法をとった。

2)日本の学習歴とEQFのレベルが対応できない

介護福祉士制度創設時には、国は、介護専門職を養成施設で教育を受けることが基本の専門職という位置づけにし、高等教育を受けて国家試験に受かった人を専門職とし、その他の色々な研修等の修了者を、補助職となる制度設計を考えていたものと思われる。しかし、現実には法制定段階から、人数の必要性が強く要請され、また、当時の高校の家政科や看護科などからの移行等も考慮し、養成校出身者は国家試験を外し、高校での養成課程出身者と、現場経験を踏まえた人の国家試験という方法も取られた。これらは本来、経過措置であったはずであるが、スタッフ不足のため現在にまで至っている。30 従って、介護福祉士資格の養成課程が、高校だったり、専門学校(短大)であったり、この後(当初、想定外であった)四年制大学も参入したため、介護福祉士資格のレベル設定は、はなはだ曖昧になり、そのため、日本の学習歴とEQFのレベルが対応できなくなってしまっている。

このため、日本の介護福祉士制度をベースに考えると、国際的 QF に対応できない。

3) 介護プロフェッショナル・キャリア段位制度との対応もできない

介護スタッフの確保が喫緊の課題となっている状況を背景に、介護プロフェッショナルキャリア段位制度(以下、介護キャリア段位制度)は、介護分野のスタッフ育成・定着を図ることを目的に、制度化された(平成 24 年度)。この仕組みは、これまで事業所や施設ごとに独自に行われてきた職業能力評価に際して、介護技術を基礎とした「共通のものさし」を導入することで、介護分野のスタッフ育成・定着をはかることを目指したものである。介護キャリア段位制度は、職種共通の7レベルが設定されている。エントリーレベルから、トップ・プロレベルまで、キャリ

³⁰ 第2回社会保障審議会福祉部会福祉スタッフ確保専門委員会における小林光俊提出資料 平成26年11月18日

ア・パスとなるようにつくられている。このうち、介護分野のキャリア段位制度では、レベル1からレベル4の基準をつくり、レベル設定を行っている。31

介護キャリア段位制度では、介護職員に求められる職業能力として、専門知識と現場での実践力の両方が重要であることから、「わかる(知識)」と「できる(実践的スキル)」の両面から評価している。但し、EQFのレベルと違う点、知識とスキルのみが評価対象となっている点から、本研究が想定しているQFには対応できない。

また、初任者研修とか、実務者研修とか、様々な研修制度も色々な経過の中で生まれている。が、それらの研修では、達成課題が具体的に明確ではなく、研修終了時の達成度評価に関しても明確な基準が公表されていない。(基準そのものが創られていない?) そのため、どの研修の修了者が、どのくらいの介護の力量を持つのかわからないので、これも、QFの検討からは外さざるを得ない。

4) 配置するレベルを統一して考える

以上の様な課題を踏まえて、この研究では、ICFの「活動と参加」の各分類項目での自立した行動が(部分的に)できない場合に、実際に行われている介護行動を想定し、その行動が、EQFのどのレベルに該当するかを整理することとした。

この様に整理することによって、介護職員の職務能力のレベル設定を明確にするとともに、その養成における各レベルの達成課題を明確にできると考えたからである。

国際的には、EQFが国境を超えた基準となっている様に、様々な資格制度も、徐々に国境を越えた資格制度になりつつある。その意味では、高齢(の障がい者が多い)社会が世界的課題になることが見えているのだから、介護もいずれ国際化せざるを得ないであろう。また、その段階では、介護専門職も国際的な流動性への対応を求められるであろう。その意味で、介護に関する国際的スタンダードを目指す、QFの設定は、大きな意味を持つ。

日本の現実は、とにかく人手不足という名のもとに、原理原則を顧みることなく、様々な制度が乱立している傾向がある。その結果、様々な介護事故も発生し、はなはだしくは、介護職員による利用者の殺害事件まで起きている。こういう状態から早く脱出するために、何らかの基準が必要であり、その意味で、このQFは一つの提案として意味があるであろう。

(3) 研究を進めて行く方法

EQF ベースの、職務内容の階層化と、それに基づく教育課程を作成するために、まず、第2章で作成した、ICFの「活動と参加」の内容分析から導き出された、介護のコンピテンスの階層化から始めることとした。コンピテンスの階層化ができれば、技術と知識の階層化(教育課程の階層化につながる。)は自ずからできると考えたからである。

1) コンピテンス階層化の基準

階層化試案を作成するにあたり、この階層化をどう試みるかで意見が分かれた。そこで示された階層化基準案は以下のとおりである。

A案・・d の項目単位で分ける。

B案・・同一の援助行動に関しても、「困難」(xxx.1~xxx.4)(123-124 頁参照)のレベルで、 各段階の内容を整理する。(考え方として、第3段階=xxx.1 軽度の困難)

³¹ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度 評価者「アセッサー」講習テキスト 平成 27 年度版

第4段階=xxx.2中等度の困難 第5段階=xxx.3重度の困難 第6段階=xxx.4完全な困難

- ○案①・・章ごと(d の第1レベル)の個別基準 ○第3段階=とりあえず、必要な支援ができる。 ○第4段階=アセスメントが適切にできる(対象者の意向を確認できる) ○第5段階=アセスメントに対応して、援助行動の理由を説明できる。援助計画を創れる。など)
- C案②・・章ごと(dの第1レベル)の個別基準 ○第3-4段階=基礎的知識と技術 ○第4-5 段階=根拠を持って対応できる ○第5-6段階=色々な状況に対応できる。
- D案・・段階設定は、職務内容の難易度ではなく、職務(組織)管理能力で考える。

F案••

結果的に、(この研究は、章ごとに班に分かれて研究を行っていたため)章ごとにどの案によるかを決めて内容整理を行った。結果的に、A案を採用し、それにC案を加味する形になった。

そうなった理由は、A 案については、I C F の各分類項目に対応しているため、この資料を活用しようとする多くの人にとって、わかりやすく整理できるということで、結果的に大多数の章がこの基準を採用した。B 案については、そもそも「完全な困難」への対応が第六段階に来るというよりも、むしろ、「軽度の困難」や「中等度の困難」の方が介護が難しい、ということがあるため、この案を採用したところはなかった。また、D 案についても、そもそも介護の職務内容の専門的能力レベルを設定するのであって、管理という能力を問うわけではないので、これを採用する章はなかった。

この結果、章ごとに以下の様な表に、段階の設定が行われた。

(試案) 第○章、○●●○

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護行	④教育内容	④教育内容	5教育方法上
加の第 1 段階		動(コンピテンス)	(技術)	(知識)	の留意事項
対人関係	第8段階				
	第7段階				
	第6段階				
	第5段階				
	第4段階				
	第3段階				
	第2段階				
	第1段階				

※この表は、本論1で作成した表から転記をすることで、内容整理のたたき台が完成するのだが、実際には、検討整理の時間が足りなくなったため、コンピテンスの項目整理までで研究を終えた。教育内容での重なりの調整などは今後の課題となっている。

2) I C F をベースに考える教育課程

ICFベースの教育課程を作成するために、その学習内容を修得するためにどの程度の学習時間が必要なのかを想定する必要がある。特に、職務遂行上のコンピテンス(能力)が身に着くという達成課題が明確であるので、それに対する時間設定は学習する学生の力量にも関わるので、一概に設定するとは難しい。しかし、研究を進めていくためには一つの標準として、以下の様な時間(コマ)配分の表を作成した。

科目名	第1	ブロッ	第2	第3なし	第3	授業回
	レベル	ク	レベル	の第2	レベル	数計
学習と知識	2	3	21	19	6	51
一般的な課題と要求	2	0	6	2	18	28
コミュニケーション	2	3	16	11	21	53
運動・移動	2	4	20	8	62	96
セルフケア	2	0	9	4	24	39
家庭生活	2	3	11	5	32	53
対人関係	2	2	11	4	32	51
主要な生活領域	2	3	17	14	11	47
コミュニティライフ・社会生活・市民生活	2	0	7	4	14	27
	18	18	118	71	220	445

(表作成注)①各章(第1レベル)の入門学習各2回 ②章の中のブロックがある場合は、当該ブロックの学習に各1回 ③第2レベル(3桁の表題)の学習に各1回 ④第2レベルに第3レベル(4桁の表題)が設定されていない場合は、追加各1回 ⑤第3レベルの学習に各1回(特定の・詳細不明の・は両方で1回)

この表の設定は、教育課程の大枠としての授業回数(コマ数)を設定しているので、1回は2時間(学校によって90~120分で実施)の時間設定となっている。従って、このままいけば、445コマで、890時間の授業時間を想定していることになる。

この時間数は、日本の現行の介護福祉士養成課程に比べてみると、介護の基本 180 時間、コミュニケーション 60 時間、生活支援技術 300 時間、介護過程 150 時間、介護総合演習 120 時間、などで小計810時間なので、この他の人間と社会 240 時間、心と体のしくみ 300 時間、介護実習 450 時間、などとの重なりを想定すると、まあ、標準的な時間数であるといえる。

しかし、基本は、時間数が問題なのではなく、職業教育として考える場合、どのレベルで、どういう内容であれば、その職務内容を実行できるということが問題である。つまり、学習時間も問題だが、その中で、目標を達成できているかが問題である。従って、それぞれの授業における習得すべきコンピテンスの内容がきちんと整理されていなければならない。

3) 段階的学習を想定した教育課程

また、先に触れたように、現行の日本の介護職員養成教育課程の問題点のひとつは、研修レベルごとに目標とする達成課題が整理されておらず、そのため、職務レベル別の教育課程がきちんと整理されていないことである。

EQFに対応するNQFの教育課程として考えるならば、当然、下の段階での学習した内容については修得されているわけであるので、より上位の課程での学びでは既に修得済みの内容に触れる必要はない。従って、この教育課程試案の作成では、一応、第5段階(短大・専門学校レベル)を想定している(EQFとの比較では、実際問題として、第4段階レベルではないかという意見が多かった。)が、第4段階以下のコンピテンスとして想定される職務内容と、それに対応する教育課程であれば、第5段階での学習内容からは外れるという構成になっている。(第4段階以下の学習をしていなくて、最初から第5段かで学ぶという場合は、全部の課程を学ぶ必要がある。)また、第6段階以上のレベルのコンピテンスとして想定される職務内容と、それに対応する

教育課程も、表中に含まれてくるが、この部分は、第5段階では学ばないが、体系としてのまと まりもあるので、一つの表にまとめてある。

この様な前提のもとに、「活動と参加」の章ごとの教育課程は、以下の様な表にまとめた。この内容は本論2にまとめられている。(研究の時間が限られていたため、試案にとどまる内容の場合もあるが、今後の研究素材として、また、実際の教育実践の改善材料として、大きな意味を持つ内容となっている。

(試案)第○章、○●●○

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上	備考
		コンピテンス	ナレッジ	スキル	の留意点	段階
		(学習目標)	(知識)	(技術)		
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

45 / 523

I C F をベースとした 「介護福祉」の枠組みと 教育内容

・・自立をめざす介護とは・・

本論 1

ICFをベースとした介護枠組みの考察

- 1 学習と知識の応用 learning and applying knowledge
- 2 一般的な課題と要求 general tasks and demands
- 3 コミュニケーション communication
- 4 運動・移動 mobility
- 5 セルフケア self-care
- 6 家庭生活 domestic life
- 7 対人関係 interpersonal interactions and relationships
- 8 主要な生活領域 major life areas
- 9 コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life

≪ I CF をベースに、介護(対人援助)行動の内容と、

その行動を支える教育内容を考える。≫

この研究は最初、介護の教育課程を国際的に通用させるために、国際的な基準と見なせるEQFの枠組みに、介護業務内容と、教えるべき内容を整理するというところから始まった。しかし、介護の業務内容と教えるべき内容について、具体的な内容になると、さまざまなイメージや見解が多数ありまとまらないため、もう一つ国際的に通用しうるICF「国際生活機機能分類」の「活動と参加」の部分を、介護(結果的には介護を中心にしつつも対人援助を含む)行動、業務内容整理の基準として採用して研究を進めることした。

以下、本論1は、ICFの「活動と参加」の部分の分類項目を基準として、仕事の内容の分析を行ない、さらにその分析に基づいて教育内容を整理するという方法をとった。なお、ICFの「活動と参加」の各章の分類を具体的な介護行動に展開する場合の内容分析の指標として整理する時に、「自立支援」を基本として考えるため、先ずは、「自立した人」は当該の行動でどういう内容や手順で行動するのかを分析するという方法をとった。介護者は、自立支援を目指す介護を行う場合は、介護対象となる課題をできるだけ絞り込んで、限定された介護を行う必要があると考えたからである。さらに言えば、この点で、現行の日本の介護は、要支援段階の介護ニーズに対し、要介護5を基準に考えた対応が行われてしまうため、自立が却って損なわれるケースも少なくないと考えるからである。しかし、こうなってしまっているのは、自立した状態で何ができているのかを意識できていないからだとすれば、先ずは、何がどうできているのかを整理することから始めようということである。

この本編第一は、このICFの「活動と参加」の各章の行動分類に対する、理解の仕方や、その分類内容分類の基づいて考えた介護の内容分析結果や、その介護行動を行うために必要な教育内容に関して整理したものである。

なお、研究方法として、数人ずつで各章を分担しておこなったため、極力、調整はおこなったが、行動分析に視点や、介護(対人援助)行動の考え方や内容などに関して、細かな違いを統一するのは極めて難しかった。そこで、最終的な整理に関して一定の枠付けはおこないつつ、細かな内容に関しては、無理して統一を図らなかった。理由は、ICFの「活動と参加」の各章の内容は、生活分析であるからかなり幅広く、それぞれの特徴を踏まえる必要があるのと、(まだ研究の初期段階なので)分析整理の方法に色々あり得るという点を生かしたかったからである。

以上の研究の視点に関しては、序論、第2章を参照いただきたい。

なお、以下、「活動と参加」の各章の分析整理は、以下のような手順で行われた。

- 1. | CFの「活動と参加」における主要事項「○○○・・各章の内容・・」
- 2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 《○○○··各章の内容··》 (含む)※

「〇〇〇・・各章の内容・・」に関する

≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪○○○・・各章の内容・・≫

- 4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴
 - ・・関連する技術と知識の特徴 ≪○○○・・各章の内容・・≫
- 5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動

≪○○○・・各章の内容・・≫

なお、この5の部分の資料作成は、以下の表への記入をすることで行った。(表頭の表示が、

第〇章 OOOOO (ICFの第1レベル名称)

dOOOO (ICF第2·第3レベルの名称)

------ ICF資料の解説文の転記

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	共通評 価点	②必要な具体的条件・・・環境(要素・因子)等	③先の支援を行うための 具体的介護行動(介護能力)	④支援(介護)行動に 必要な技術・知識	備考	
(「問題なし」の場合に	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない		
行う行動の要素)	し					
	0-4%					
1	軽度の					
	困難	1	1	1		
2	5-					
	24%	2	2	2		
3	中等度					
	の困難	3	3	3		
4	25-					
	49%	4	4	4		
5	重度の					
	困難	5	5	5		
6	50-					
	95%	6	6	6		
	完全な					
	困難					
	96-					
	100%					

異なっている場合もあるが、原則はこの表による。また、③の部分については、章によっては 単に「介護」とばかりは言えないのではないかという意見もあって、(対人援助)という表記が加 えられている場合もある。)

※. I C F の分類を丁寧に見ていくと、普遍的な行動と思われる内容でも分類項目に入っていない場合があり(例えば、「寝ころぶ」など)、この点に関しては、《その他特定の、および詳細不明の、・・・》への記載となると考えられるが、この点に関し、章ごとにまとめている。(逆に、普遍的とは言い難い行動が分類項目に入っている場合もある。(例えば、「動物による移動」など)また、I C F は 1990年代末の社会で検討されていたため、現代と合わない点もある。これらに関しては、今後の改定に向けて準備されるべきであろう。

第1章 学習と知識の応用

learning and applying knowledge

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 学習と知識の応用

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、学習、学習した知識の応用、思考、問題解決、意思決定を扱う。

目的をもった感覚的経験 purposeful sensory experiences (d110-d129)

- d110 注意して視ること watching
- d115 注意して聞くこと listening
- d 120 その他の目的のある感覚 other purposeful sensing
- d 129 その他の特定の、および詳細不明の、目的をもった感覚経験 purposeful sensory experiences, other specified and unspecified

基礎的学習 basic learning (d130-d159)

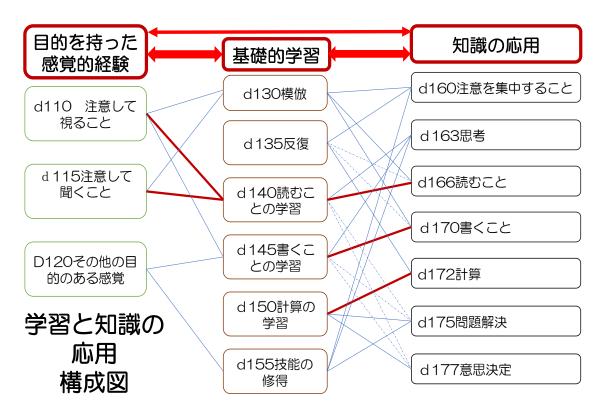
- d130 模倣 copying
- d135 反復 rehearsing
- d 140 読むことの学習 learning to read
- d 145 書くことの学習 learning to write
- d 150 計算の学習 learning to calculate
- d 155 技能の習得 acquiring skills
- d 159 その他特定の、および詳細不明の、基礎的学習 basic learning, other specified and unspecified

知識の応用 applying knowledge (d160-d179)

- d 160 注意を集中すること focusing attention
- d 163 思考 thinking
- d166 読むこと reading
- d170 書くこと writing
- d 172 計算 calculating
- d 175 問題解決 solving problems
- d 177 意思決定 making decisions
- d 179 その他の特定の、および詳細不明の、知識の応用 applying knowledge, other specified and unspecified
- d 198 その他の特定の、学習と知識の応用 learning and applying knowledge, other specified
- d 199 詳細不明の、学習と知識の応用 learning and applying knowledge, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察≪学習と知識の応用≫

ICFの活動と参加の第1章「学習と知識の応用」の内容は、「目的を持った感覚的体験」を踏まえて、「基礎的学習」を行い、その学習を前提に知識の応用を展開するという、以下の図のような構成になっている。



つまり、まずは(乳幼児期的な素朴な)感覚的な体験(まず、気付くこと)を踏まえて、それを言語化していく過程で読み書きなどを学び(その気づきに対して、模倣や反復など、学習をする)、さらに計算や基礎的な技能の学習も踏まえて、言語など学んだ内容を構造化して、日常生活を組み立てられるという(技能を含む)「知識の応用」を想定していると、構造化してとらえてよいであろう。(第2レベルで表示)

従って、個々の分類の詳細内容(第4レベル)を想定していく時に、この構造を踏まえて、素朴に見聞する所から、問題解決や意思決定に至る構造として考えつつ、その場合の詳細分類を想定していくことが必要である。さらに、その分類項目に関し、「軽度の困難」から「完全な困難」の内容³²を想定し、その「困難」の解決に必要な支援(介護)を想定することで、支援(介護)で何をするべきかが見えてくる。当然その場合に必要な特定(特別)な知識や技術が必要になるので、それを整理することで、この「学習と知識の応用」にかかわる支援(介護)を行うスタッフの求められる力量や、学ぶべき知識や技術が明確になる。

また、「活動と参加」の中でも、この第 1 章は、「生活(行動・活動)」を考える上での、特に基本的な「活動」部分を整理している³³点にも留意が必要である。つまり、この章の内容を踏まえないと、第 2 章以降の活動や参加が成り立たないのである。

³² テキスト、222 頁参照

³³ テキスト、225~226 頁参照

学習と知識の応用に関する≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

d129 では、「目的を持った感覚的経験」で扱ういわゆる五感以外の、いわゆる第六感と言われる、五感を伴わない、何となく感じる快感とか恐怖感とかを、どう考えるかが、課題になるであろう。かなり個人差が大きいが、無視できない内容なのではないか。

たとえば、d110 は「注意して聞く」であるが、楽器の音を注意して聞く、意図的に好きな音楽を聞くとき、絶対音感のある人は単に聴覚で音を聞いているのかという問題である。聴覚を失いながらもいくつもの名曲を世に送り出した音楽家の例など、このような感覚を分類することはできていない。また、「注意して聞く」のはおそらくは聴覚のみの作用ではなく、空気の振動が皮膚・肌をはじめとして全身に伝わることによって実現しているとも考えられる。バスパートの重低音であるとか、太鼓や大砲の振動等はその顕著な例である。つまり、これらは聴覚を使うばかりではなく d120「その他の目的のある感覚」としての触覚にも関わるのであり、それ以外にもd129 として分類せざるを得ない感覚経験をも含めて、「注意して聞く」という行動に統合されているといえる。

これについては d110「注意して視る」でも同様である。たとえば、書かれた文字や絵画を視るような場合、文字の筆圧から勢いや気迫を感じ取ったり、明るい・暗いという絵柄の雰囲気を感じ取ったりするというような感覚を持つことがある。これらは単に視覚という感覚のみではなく、それに連動あるいはそれを補助し、統合するような感覚的経験によるのではあるまいか。二次元(平面)の絵を見て三次元(立体)を感じる感覚、錯視を用いた図形を見たときの錯覚等、目的を持って視ることを誤認させる要因を修正し、それが平面であり、あるいは錯視であると認識し、本来の状態を把握する感覚的経験は、視覚と連動する五感以外のものであるとも考えられる。

また、ある種の疾患(たとえばレビー小体型認知症)では、しばしば幻視の症状が報告されるが、目の前に存在している事象を視るという意味においては、そのような場合もそれを特定しようとして意図的に視ることには違いない。聴覚においても周波数の高い音(いわゆるモスキート音)は、年齢が高くなるほど知覚できないことが知られているように、知覚・認識できないからといって存在しないわけではない。反対に、存在していても知覚・認識できないものもあることを考えると、第六感といわれる五感以外の、あるいは五感によらない感覚を除外することは適切ではないだろう。

さらに、d210「その他の目的のある感覚」としては、「質感を触って感じる」こと以外にも、触れずに感じる触覚もある。たとえば、温度、温感、冷感、風圧、風を感じる、熱を感じる、湿度、触らないがジリジリとした日差しを感じる、モワッとした空気、焚き火にあたって暖かい、等の皮膚で感じる感覚や、皮膚ではなく嗅覚でもない、鼻腔粘膜で感じる吸った空気が暑い感覚、劇物による刺激等の感覚、聴覚ではないが鼓膜で感じる空気圧、気圧等、「見る」ことそのものではないが視覚として感じる明るさ、明度、(人の) 圧力等がある。また、風の流れや風の速さは、聴覚・触覚・視覚のどれかではなく、それらから得た複合的な情報によって感じ取るものである。これらは必ずしも意図的に用いる感覚とはいえないが、意図的に用いることができないわけではない。感覚を総動員して何かを探ろうとするならば、その対象に応じてこれらの感覚を意図して使うことはあり得る。電気治療に使用される低周波パルスや、ビリビリとした電流等は、皮膚・肌というよりも筋肉や全身で感じている。これらは何かを探るという意図があって能動的に用いるわけではないが、健康を増進するという目的のために意図的に経験される感覚である。

d 159 では、「基礎的学習」で扱っている内容では、絵や図を「描く」(色彩や陰影を学ぶ)という点が抜けている。

d179 では、「知識の応用」で扱っている内容では経験知の部分が触れられていないことがあげられる。知識には書物や読み書きから得られるものだけではなく、自身の過去の経験から学ぶものもあり、日々の生活ではそれらを活かして問題解決にあたることも少なくない。過去の経験を内省・言語化し、知識として活用する作業を加える必要もあるのではないだろうか。さらに、この経験がd129の項で指摘した「第六感的な感覚」と結びついていく可能性もある。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察≪学習と知識の応用≫

環境因子は、因子として分類整理されてはいるが、この第 1 章で取りあげている基礎的とも言える活動に関しては、現実にはその因子が単で存在するわけではなく、複雑の絡み合った全体として存在する。従ってこの章での活動に関しては、多くの因子が関係しているが、この資料作成では、その活動に不可欠につながりうる環境因子のみを上げている。

つまり、環境因子についても特定の環境因子がそれのみで影響しているとは限らず、たとえば「生産品と用具」は、使用される環境あるいは関係性において、環境因子の一つである「生産品と用具」がもたらす影響や関係性も変化しうると考えられる。すなわち、ある環境因子が他の環境因子とも相互に関係し、それらの複合的な総体として「活動と参加」に影響を与えている可能性があるという前提で、細分化された行動の要素・因子を捉える必要がある。

環境因子には、促進因子と阻害因子があり、「活動と参加」が困難な場合は、何らかの因子が阻害因子となっていると考えられる。その阻害因子を支援(介護)によって(補うことによって)取り除けば、困難はなくなるので、介護等による特段の支援を要しない人と同じように活動と参加が実現できる(自立できる)(Well Being³⁴に到達できる)と考えてよいだろう。

目的をもった感覚的経験では、具体的な事象としてあらわれる環境因子が大きく関連している。 基礎的学習では、それらの刺激を「どう活用するか」という点が重要となり、「支援者や関係者」 という環境因子が「生産品と用具」という環境因子を対象者の能力に応じて選択して、提供し、 支援をしていくかというところに主眼が移る。

知識の活用では、さらに進んで、問題解決を行うための手段としての環境因子「サービス・制度・政策」が大きな比重を占めることとなり、対象者および支援者にはその活用が求められている。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴

• • 関連する技術と知識の特徴 《学習と知識の応用》

このように考えると、環境因子を使って状況を分析すれば、「学習や知識の応用」という本項目の「困難」を解決するための支援(介護)行動はかなりはっきりし、さらに段階的に組み立てることができる。

しかし、いうまでもなく、自立を目指す(Well Being を目指す)支援(介護)活動という観点からも、支援(介護)の合理性を考える上でも、必要最小限の支援(介護)にとどめるべきである。この観点からは、まず対象者の持っている力を正確にアセスメントすることが必要となる。

-

³⁴ テキスト 204 頁参照

したがって、心身機能(1 精神機能 b 110-b 199、2 感覚機能 b 210-270)、身体構造(7 運動に関連した構造 s 710-799)のアセスメントから対象者の特性を理解することが、本項目の前提となっている。

本項目では、この前提に立ち、困難の解決の直接対応する支援(介護)活動のみを上げている。しかし、いうまでもなく、一つ一つの「困難」を解決する支援(介護)は、「軽度の困難」から「完全な困難」まで、多様な内容と量があり得る。が、ここでも、それぞれの行動に直接対応する支援(介護)活動しか挙げていない。特に「完全な困難」に近づくにつれ、直接の対応ではない間接的は支援(介護)行動も関連してくる。しかし、現実のそれぞれの「困難」は「、軽度の困難」が最も多いわけだし、自立を目指す(Well Being を目指す)支援(介護)活動という観点からも、支援(介護)の合理性を考える上でも、必要最小限の支援(介護)にとどめるべきである。その意味でも、ここでは、困難の解決の直接対応する支援(介護)活動にみを上げている。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 < 学習と知識の応用≫

目的をもった感覚的経験 purposeful sensory experiences (d110-d129)

d110 注意して視ること watching

視覚刺激を経験するために、意図的に視覚を用いること。例えば、スポーツ行事や子どもが遊 んでいるのを注視すること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関 係する環境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動(介護能力)	④支援行動に 必要な技術・知 識	備考
XX E37	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 日常で起きる出来事や他者に興味を持つことができる	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難	1.1~13.1 ①生産品と用 具・・生産された すべての物質・・ e110~e160 (ただし、e165	1.1.1 日常で起きている出来事や他者に興味を持っているのかを把握することができる 1.1.2 日常で起きている出来事や他者に興味を持つよ	1.1.1.1 ~ 13.1.2.1 物事を注意し て視るという 行為に関する 知識と技術	
2. 興味関心の ある出来事や他 者を注意して視 ることができる	25- 49% 重度の 困難 50-	は含まない)なお、9.1については見るための補助具(眼鏡、顕微 3.2 ままります。	うに支援することができる 2.1.1 本人が注視している 出来事や他者を把握することができる	視覚刺激に関する知識と技術	
9CCN, (G9	95% 完全な 困難 96- 100%	ラグラス、虫メ ガネ etc.) 10.1 について は見るための補 助具(見るため に体勢を整え、 保持するための	2.1.2 本人が興味関心を持っている領域の情報を提供することができる 2.1.3 興味関心のある出来事や他者に注意を向けるよう促すことができる	注意していることでは、 とこのでは、 できるのでは、 できないでは、 できないでは、 できないではないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは、 できないでは	

3. 注意して視るという行為を継続して行うことができる	いす、手すり、踏 み台・足台・ステ ップ等) ②自然環境・・自 然に存在するす	3.1.1 本人が注意して見ている事物を、共に注意して見ることができる3.1.2 見続けるように促すことができる	して視ることができる知識とにする知識と技術(何らかの理由・状況により本来注意し
4. 注意して視る対象を予め想定することができる	べての物資や現象、およびそれを視る事ができる条件 e210~e245。 なお、10.1 については、注意し	4.1.1 本人が興味関心を持っている領域の情報を収集することができる 4.1.2 本人が興味関心を持っている領域の情報を提供することができる	ててこかの現まででは、これでは、これででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、
5. 見ようという意思と目的を持って、意図とができる	で、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	5.1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.	が 注た鏡遠オ虫を知 注対知ば自事が 意め、鏡ペメ使識 意象識、然物で道鏡、ラガうと しに(ス界、石具)鏡眼ラ etめが 視すと一現物リスクネた技 て関たポの人 1 3.13.13.15.15.25.35.4
6. 注意して視る対象を特定することができる		6.1.1 特定しようとする対象が何であるのかを把握することができる6.1.2 特定しようとする対象をそれ以外の事物の中から探し出し、本人に伝達・情報提供することができる	技術
7. 興味・関心の ある対象に視線 を移すことがで きる(目を背け ないことができ る)		7.1.1 視線を移すことのできない要因(恐怖心・嫌悪感等の心理的要因、光源の眩しさ等の環境的要因、眼精疲労等の身体的要因)を把握することができる	

8. 興味・関心の ある対象を見る ために心の準備	7.1.2 視線を移すことのできない要因(恐怖心・嫌悪感等の心理的要因、光源の眩しさ等の環境的要因、 脱精疲労等の身体的要因)を取り除くための支援をすることができる 8.1.1 本人の心の状態(平静さ) や精神的な動揺の有無等を把握することができる	
(心構え)がで きる 9. 興味・関心の ある対象を見る ために必要な用 具を選択するこ	る 9.1.1 対象を見るために必 要な用具について助言する ことができる	
とができる 10. 見るため の体勢を整え、保持することができる 11. 興味・関心 のあることができる	10.1.1 見るための体勢を整え、保持するための道具や環境について助言をすることができる11.1.1 集中して見ることを妨げる(気が散る)要因を把握することができる11.1.2 集中して見ることを妨げる(気が散る)要因を取り除くための支援をすることができる11.1.3 集中して見ることを促すことができる	
12. 感覚(視では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	12.1.1 本人が興味・関心のある対象に気づくことができるように、感覚(視覚を含むすべての感覚、あるいは視覚以外のすべての感覚)を妨げる要因を取り除くための支援をすることができる	
13. 意思と目的を持って、意図的に見ないようにすることができる	13.1.1 本人が見たくない 事物を把握することができる 13.1.2 注意して視ない手段・方法を提示し、助言することができる 上記すべての「把握することができる」という表現は、	

介護福祉専門職等が利用者	
支援として行う「アセスメ	
ント」を意味しています。	

参考資料

動詞「みる」の多義性とコロケーション 小野正樹 (筑波大学 人文社会系)

http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/2013/ono.pdf

空間的注意によって生じる 主観的な視知覚の変化 杉本 史惠・片山 順一

file:///C:/Users/81906/Downloads/60-4-2.PDF

この現象と、これまで報告されてきた視覚パフォーマンスにおける注意の効果とを共に考えると、 我々の視覚的注意機能は外界の物理的な情報をあるがまま正確に抽出するのではなく、あえて増 強することによってより適切なパフォーマンスを行うことを可能にしていると考えられる。

d115 注意して聞くこと listening

聴覚刺激を経験するために、意図的に聴覚を用いること。例えば、ラジオ、音楽、講義を注意 して聞くこと。

して国くここ。					
①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素・因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 日常で起き	軽度の	1.1~13.1	1.1.1 日常で起きている	1.1.1.1	
る出来事や他者	困難	①生産品と用	出来事や他者に興味を持	13.1.2.1	
に興味を持つこ	5-	具・・生産された	っているのかを把握する	物事を注意して	
とができる	24%	すべての物質・・	ことができる	聞くという行為	
	中等度	e110 ~ e160	1.1.2 日常で起きている	に関する知識と	
	の困難	(ただし、e165	出来事や他者に興味を持	技術	
	25-	は含まない)	つように支援することが		
	49%	なお、9.1 につい	できる	聴覚刺激に関す	
	重度の	ては聞くための		る知識と技術	
2. 興味関心の	困難	補助具(イヤホ	2.1.1 本人が注意して聞		
ある出来事や他	50-	ン、ヘッドホン、	いている音を把握するこ	注意して聞こう	
者から発せられ	95%	スピーカー、集	とができる。	としたが聞くこ	
る音を注意して		音器 etc.)	2.1.2 本人が興味関心を	とができなかっ	
聞くことができ	完全な	10.1 について	持っている領域の情報を	た内容を録音等	
る	困難	は聞くための補	提供することができる	により記録し、	
	96-	助具(聞くため	2.1.3 興味関心のある出	後からそれを注	
	100%	に体勢を整え、	来事や他者に注意を向け	意して聞くこと	
		保持するための	るよう促すことができる	ができるように	
		いす、手すり、踏		する知識と技術	
3. 注意して聞		み台・足台・ステ	3.1.1 本人が注意して聞	(何らかの理	
くという行為を		ップ等)	いている音を、共に注意し	由・状況により	
継続して行うこ			て聞くことができる	本来注意して聞	
とができる		②自然環境••自	3.1.2 聞き続けるように	こうとしていた	
		然に存在するす	促すことができる	が聞くことので	

4. 注意して聞 く対象の音を予 め想定すること ができる	べての物資や現象、およびそれを聞く事ができる条件 e210~e245 なお、10.1 については、注意の物	4.1.1 本人が興味関心を持っている領域の情報を収集することができる4.1.2 本人が興味関心を持っている領域の情報を提供することができる	きなかった状況 を再現するため の録音および録 音機器に関する 知識や技術) 注意して聞くた めの道具(イヤ	
5. 聞こうとい う意思と目的を 持って、意図的 に聞くことがで きる	理的環境(と、でないな場所を)はいる。 という ではいる はいい はい	5.1.1 聞こうという意思 や、その目的を確認・把握 することができる 5.1.2 聞こうという意思 を妨げる心理的要因 (不安・ネガティヴな感情)を 把握することができる	かり カン、ヘッドホ ン、スピーカー、 集音器 etc.)を 使うための知識 と技術 注意して聞く対	
	こと等) 11.1 について は、注意して聞 くための周囲の 状況(騒音がな いこと、耳鳴り	5.1.3 聞こうという意思を妨げる心理的要因(不安・ネガティヴな感情)を取り除くための支援をすることができる5.1.4 聞こうという意思	ない 象に関する知識 (たとえば、スポーツ、自然界 の現象・事物、人物等)	
	のするような場 所(トンネル内、 高度を飛行中の 航空機内、高度 の高い場所、水 中など)でない こと)	を妨げる環境的要因(雑多な聴覚的情報・直接的に聴覚刺激を妨げる設備や物)を把握することができる5.1.5 聞こうという意思を妨げる環境的要因(雑多な聴覚的情報・直接的に聴覚刺激を妨げる設備や物)		
6. 注意して聞	5.1、7.1、8.1 ④態度••e410 ~e465	を取り除くための支援を することができる 6.1.1 特定しようとする 対象が何であるのかを把	5.1.3.1 リフ	
く対象を特定することができる		握することができる 6.1.2 特定しようとする 対象をそれ以外の事物の 中から探し出し、本人に伝 達・情報提供することがで きる	が	
7. 興味・関心の ある対象に耳を 傾けて聞くこと ができる		7.1.1 耳を傾けることができない要因(恐怖心・嫌悪感等の心理的要因、耳障りな異音、大音量等の環境的要因、耳鳴り・耳閉感等の身体的要因)を把握することができる7.1.2 耳を傾けることが		
		できない要因(恐怖心・嫌悪感等の心理的要因、耳障		

		りな異音、大音量等の環境 的要因、耳鳴り・耳閉感等 の身体的要因)を取り除く ための支援をすることが できる	
8. 興味・関心の ある音を聞くた めの心の準備 (心構え)がで		8.1.1 本人の心の状態(平静さ) や精神的な動揺の有無等を把握することができる	
きる 9. 興味・関心の ある対象の音を 聞くために必要		9.1.1 対象を聞くために必要な用具について助言することができる	
な用具を選択することができる 10. 聞くための体勢を整え、		10.1.1 聞くための体勢を整え、保持するための道具や環境について助言をすることができる	
保持することが できる 11. 興味・関心 のある対象に集 中することがで きる		11.1.1 集中して聞くことを妨げる(気が散る)要因を把握することができる 11.1.2 集中して聞くことを妨げる(気が散る)要	
20		因を取り除くための支援 をすることができる 11.1.3 集中して聞くこ とを促すことができる	
12. 感覚(聴覚を含むすべいはできないないはでのではないないないないないないないででであるができる。 から		12.1.1 本人が興味・関心のある対象に気づくことができるように、感覚(聴覚を含むすべての感覚、あるいは聴覚以外のすべての感覚)を妨げる要因を取り除くための支援をすることができる	
関心のある対象 の音)に気づく ことができる		13.1.1 本人が見たくな い事物を把握することが	
13. 息忠と自的を持って、意図的に聞かないようにすることができる		い事物を把握することができる 13.1.2 注意して 視ない手段・方法を提示 し、助言することができる	

※上記すべての「把握する	
ことができる」という表現	
は、介護福祉専門職等が利	
用者支援として行う「アセ	
スメント」を意味していま	
す。	

d 120 その他の目的のある感覚 other purposeful sensing

刺激を経験するために、意図的に身体のその他の(視る、聞く以外の)基本的な感覚を用いること。例えば、質感を触って感じること、甘みを味わうこと、花のにおいを嗅ぐこと。

こと。例えば、負恩を贈って恩しること、日みを味わつこと、化のにおいを嗅ぐこと。					
①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素・因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 感覚を用い	軽度の	1.1~13.1	1.1.1 興味・関心を持って	1.1.1.1	
る(触れる・味	困難	①生産品と用	いる物・出来事等を把握す	13.1.2.1	
わう・においを	5-	具・・生産された	ることができる	意図的に感覚	
嗅ぐ) ことがで	24%	すべての物質・・	1.1.2 さまざまな物・出来	(触覚・味覚・嗅	
きるさまざまな	中等度	e110 ~ e160	事・人等に興味を持つよう	覚)を用いると	
事物に興味を持	の困難	(ただし、e165	に支援することができる	いう行為に関す	
つことができる	25-	は含まない)		る知識と技術	
	49%	なお、9.1 につい			
2. 興味関心の	重度の	ては触って感じ	2.1.1 本人が意図的に感	感覚(触覚・味	
ある事物に対し	困難	るための補助具	覚(触れる・味わう・にお	覚・嗅覚)刺激に	
て意図的に感覚	50-	(ゴム手袋・指	いを嗅ぐ)を用いている事	関する知識と技	
(触れる・味わ	95%	サック等の手指	物を把握することができ	術	
う・においを嗅	完全な	の補語具等.)。	る		
ぐ)を用いるこ	困難	10.1 について	2.1.2 本人が興味関心を	意図的に感覚	
とができる	96-	は聞くための補	持っている領域の情報を	(触覚•味覚•嗅	
	100%	助具(聞くため	提供することができる	覚)を用いるた	
		に体勢を整え、	2.1.3 興味関心のある物・	めに必要な道具	
		保持するための	出来事・人等に注意を向け	(ゴム手袋・指	
		いす、手すり、踏	るよう促すことができる	サック等の手指	
		み台・足台・ステ		の補語具等)を	
3. 意図的に感		ップ等)	3.1.1 本人が意図的に感	使うための知識	
覚(触れる・味			覚(触れる・味わう・にお	と技術	
わう・においを		②自然環境••自	いを嗅ぐ)を用いている事		
嗅ぐ)を用いる		然に存在するす	物に対し、共に同じ感覚	意図的に感覚	
行為を継続して		べての物資や現	(触れる・味わう・におい	(触れる・味わ	
行うことができ		象、およびそれ		う・においを嗅	
る		を聞く事ができ	きる	ぐ)を用いる対	
		る条件 e210~	3.1.2 感覚(触れる・味わ	象に関する知識	
		e245	う・においを嗅ぐ) を用い	(たとえば、動	
		なお、10.1 につ	るように促すことができ	物・食べ物・香水	
		いては、注意し	る	等)	
		て聞くための物			
L	1	3. 5 1. 5 22 22 170	1		

4.1.1 本人が興味関心を 4. 注意して感 理的環境(足場 覚(触れる・味 がよいこと、不 持っている領域の情報を わう・においを 安定な場所でな 収集することができる 嗅ぐ)を用いる いこと、身体に 4.1.2 本人が興味関心を 対象を予め想定 負担の掛からな 持っている領域の情報を することができ い体勢を維持で 提供することができる きる場所である こと等) 11.1 について 5.意思と目的を は、集中して触 持って、意図的 れることができ 5.1.1 意図的に感覚(触れ に感覚(触れる・ る周囲の状況 る・味わう・においを嗅ぐ) 味わう・におい (極端な過密状 を用いようとする意思や、 を嗅ぐ)を用い 態でないこと、 その目的を確認・把握する ることができる 触れることがで ことができる 5.1.2 意図的に感覚(触れ きないほどの激 烈な高温あるい る・味わう・においを嗅ぐ) は低温でないこ を用いようとする意思を と等)、集中して 妨げる心理的要因(不安・ 味わうことので ネガティヴな感情)を把握 きる周囲の状況 することができる 5.1.3 意図的に感覚(触れ (、集中してに おいを嗅ぐこと る・味わう・においを嗅ぐ) ができる周囲の を用いようとする意思を 状況(さまざま 妨げる心理的要因(不安・ な強烈なにおい ネガティヴな感情)を取り が入り混じって 除くための支援をするこ いないこと、強 とができる 風下でないこ 5.1.4 意図的に感覚(触れ と、激しい降雨 る・味わう・においを嗅ぐ) 中でないこと、 を用いようとする意思を 水中でないこ 妨げる環境的要因(触れる と、極端な寒冷 ことが困難となるような 暑熱状態でない 身動きの取れない空間、激 こと、吸気でき 烈かつさまざまな嗅覚的 ないような空間 情報・直接的に嗅覚刺激を でないこと等) 妨げる設備や物)を把握す ることができる 5.1.5 意図的に感覚(触 5.1、7.1、8.1 れる・味わう・においを嗅 ④態度··e410 ぐ)を用いようとする意思 ~e465 を妨げる環境的要因(触れ ることが困難となるよう な身動きの取れない空間、 激烈かつさまざまな嗅覚 的情報・直接的に嗅覚刺激 を妨げる設備や物)を取り 除くための支援をするこ とができる

6. 意図的に感	6.1.1 特定しようとする
覚(触れる・味	対象が何であるのかを把
わう・においを	握することができる
嗅ぐ)を用いる	6.1.2 特定しようとする
対象を特定する	対象をそれ以外の事物の
ことができる	中から探し出し、本人に伝
	達・情報提供することがで
	きる
	7.1.1 意図的に感覚(触れ
7. 興味・関心の	る・味わう・においを嗅ぐ)
ある対象に感覚	を用いることができない
(触れる・味わ	要因(恐怖心・嫌悪感等の
う・においを嗅	心理的要因、触れることが
ぐ) を向けるこ	できないほどの高温ある
とができる	いは低温、においを嗅ぐこ
	とができないような強風・
	豪雨等の環境的要因)を把
	握することができる
	7.1.2 意図的に感覚(触
	れる・味わう・においを嗅
	(ぐ)を用いることができな
	い要因(恐怖心・嫌悪感等
	の心理的要因、触れること
	ができないほどの高温あ
	るいは低温、においを嗅ぐ
	ことができないような強
	風・豪雨等の環境的要因)
	を除去または軽減させる
	ための支援をすることが
	てきる
	(68)
0 旁网的厂献	8.1.1 本人の心の状態(平
8. 意図的に感	6.1.1 本人の心の状態(平
見の思いる・味	
	無等を把握することがでします。
嗅ぐ)を用いる	きる
ために心の準備	9.1.1 対象に感覚(触れ)
(心構え)がで	る・味わう・においを嗅ぐ)
きる	を用いるために必要な用
9. 意図的に感	具について助言すること
覚(触れる・味	ができる
わう・においを	
嗅ぐ)を用いる	
ために必要な用し	
具を選択するこ	
とができる	
10. 意図的に	10.1.1 感覚 (触れる・味)
感覚 (触れる •	わう・においを嗅ぐ) を用
味わう・におい	いるための体勢やその体
を嗅ぐ)を用い	勢を保持するための道具
るための体勢を	

整え、保持する	や環境について助言をす
ことができる	ることができる
11. 意図的に	11.1.1 集中して感覚(触
感覚(触れる・	れる・味わう・においを嗅
味わう・におい	ぐ)を用いることを妨げる
を嗅ぐ)を用い	(気が散る)要因を把握す
る対象に集中す	ることができる
ることができる	11.1.2 集中して感覚(触
12.すべての感	れる・味わう・においを嗅
覚(触れる・味	ぐ)を用いることを妨げる
わう・においを	(気が散る)要因を除去ま
嗅ぐ)を総動員	たは軽減させるための支
して、興味・関	援をすることができる
心のある対象に	11.1.3 集中して感覚(触
気づくことがで	れる・味わう・においを嗅
きる	ぐ)を用いることを促すこ
	とができる
	12.1.1 本人が興味・関心
	のある対象に気づくこと
	ができるように、感覚(触
	れる・味わう・においを嗅
	ぐ)を妨げる要因を取り除
	くための支援をすること
	ができる
13. 意思と目	13.1.1 本人が感覚 (触れ
的を持って、意	る・味わう・においを嗅ぐ)
図的に感覚(触	を用いたくない(触れたく
れる・味わう・	ない・味わいたくない・に
においを嗅ぐ)	おいをかぎたくない)事物
を用いないよう	を把握することができる
にすることがで	13.1.2 感覚 (触れる・味
きる	わう・においを嗅ぐ) を用
	いない手段・方法を提示
	し、助言することができる
	0,200,000

基礎的学習 basic learning (d130-d159)

d130 模倣 copying

学習の基礎的な構成要素としての真似や物まね。例えば、ジェスチャー、音、アルファベットの文字の模倣。

①人として具	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
体的行動(行動	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1.1 真似たい	軽度の	1.1~6.1	1.1.1 ~2.1.1	1.1.1.1~
ものがあり、真	困難	模倣を修得する	真似ることの意思を確認	5.1.1.1
似たいと思う	5-	ために用いる用	し、真似る内容について具	b210
意思がある	24%	具や家具。(テレ	体的に習得する手順につ	視覚機能の知識
	中等度	ビ・ビデオ・書物	いて考えることができる	b230
2.1 真似たいも	の困難	/インターネッ	よう、助言そのために必要	聴覚機能の知識
のについての、	25-	ト・机・椅子・鏡	な環境を整えることがで	b310
活用目的や活	49%	など)	きる	代替え性音声機
用方法が理解	重度の	(e1250)		能の知識
できる	困難 50-	(e1300)		b330
(6.9)	95%	(e560)		音声言語と流用
3.1 真似るもの	完全な	(e1150)	3.1.1	性とリズム機能
	困難	模倣するための		の知識
正確な音・動き	96-		真似る音・動きや文字の意味、知察する悪ちな理解し	*
や文字などの	100%	適度な照明。	味、観察する要点を理解しているかかます。理解で	S730
意味を考えな		(e240)	ているか把握をし、理解で	上肢の構造の知
がら、観察し真		音を聞き取るた	きていないところについ	識
似の要点を理		めの音響や音	て、理解できるよう具体的	S750
解することが		質•用具	な要点について助言する	下肢の構造の知
できる		(e2500) (e250	ことができる	識
		1) (e1250)		
4.1 真似る要点		家族(e310)	4.1.1	1.1.1.2 ~
を踏まえ、真似		親族(e315)	真似る要点を理解して、再	5.1.1.2
を繰り返し再		権限をもつ立場	現ができているかを把握	OODAループの
現できる		にある人々	し、改善すべき点につい	展開に関する知
		(e330) 教師	て、改善策を考えられるよ	識
		その他の専門職	う助言することができる	1.1.1.3 ~
		(e360) 教員な		5.1.1.3
		تا ا		観察力に関する
			5.1.1	知識
5.1 正確に真似			正確に自己評価が行えて	
が再現出来た			いるか把握をし、人前で活	1.1.1.4 ~
か自己点検を			用できるか自己判断がで	5.1.1.4
し、人前で活用			きるよう助言やモチベー	コーチングカに
することが出			ションを高める支援がで	関する知識
来る			きる	1,23 3,133,4
				1.1.1.5 ~
				5.1.1.5
				人間行動に関す
				る知識
			 (注解)	→ \\1009\
			《 「OODA ループ」とは、	1.1.1.6 ~
			PDCA などと同じよう	5.1.1.6
			に、業務執行システム(考	3.1.1.8 観察技術
			に、乗務料行システム(号 え方)の一つの方法	E式宗1X1川
			スカナの一つの方法 (詳細は関連資料参照)	1.1.1.7 ~
			八矸神は関理貝科参照/	
				5.1.1.7 モチベ
				ーションを上げ
				るための技法
				1.1.1.8 ~
				5.1.1.8

	模倣の手順通り	
	に実行する技術	

d135 反復 rehearsing

学習の基礎的な構成要素として、一連の出来事やシンボルを繰り返すこと。例えば、10 まで数えること、詩の朗読をすること。

えること、計の以	ב פ היותום)CC ₀		T	
①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.反復したいと	軽度の	1.1~6.1	1.1.1~2.1.1	1.1.1.1 ~	
いう意思がある	困難	反復を修得する	反復したいという意思の ************************************	6.1.1.1	
0.70000	5-	ために用いる用	確認をし、行う内容が区別	~b210	
2.その内容が、	24% 中等度	具や家具	できているか把握をし、区	視覚機能の知識	
豊語法=同じ言	の困難	(テレビ・ビデ	別ができるよう助言やそのために必要を環境を整	b230	
葉を繰り返すことなのか、畳句	25-	オ・書物/インタ	のために必要な環境を整	聴覚機能の知識	
法=同じフレー	49%	ーネット・机・椅 子 ・ 鏡 な ど)	えることができる	b310 代替え性音声機	
ズを繰り返すこ	重度の	「e1250) (e13		化管え任日戸機 能の知識	
となのか区別で	困難 50-	00) (e560) (e1		b330	
きる。	95%	150)		音声言語と流用	
C & 0	完全な	反復練習するた		性とリズム機能	
	困難	めの適度な照明	3.1.1	の知識	
3.行う内容の言	96-	(e240)	行う内容の言葉やフレー	S730	
葉やフレーズの	100 %	音を聞き取るた	ズの意味、順番などが理解	上肢の構造の知	
意味、順番など	/0	めの音響や音	できているか把握をし、理	識	
が理解できる。		質•用具	解できていないところに	S750	
		(e2500) (e25	ついて、理解できるよう助	下肢の構造の知	
		O1) (e1250)	言することができる	識	
		家族(e310)			
4.行う内容につ		親族(e315)	4.1.1	1.1.1.2 ~	
いてどのような		権限をもつ立場	行う内容についてどのよ	6.1.1.2	
場面(目的)で活		にある人々	うな活用する場面が理解	OODAループの	
用するのか理解		(e330) 教師	できているか把握をし、理	展開に関する知	
できる。		その他の専門職	解できていないところに	識	
		(e360)教員な	ついて、理解できるよう助		
		تع ا	言することができる	1.1.1.3 ~	
に活用する西上			E 4 4	6.1.1.3	
5.活用する要点を理解し、何度			5.1.1 活用する要点を理解して	観察力に関する 知識	
を理解し、何度 も繰り返すこと			15円9	大山市以	
ができる			いるが把握をし、理解できていないところについて、	1.1.1.4 ~	
77 (6.9)			理解できるよう具体的な	6.1.1.4	
			要点について助言し、繰り	0.1.1.4 コーチングカに	
			返し行うことができるよ	コーテンクのに 関する知識	
			う励ましができる	NO 10 00 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	
	l .		7 13/13 C C C C C C	l	<u> </u>

6. 適切に行え	6.1.1	1.1.1.5 ~
たか自己点検が	適切に自己点検が行えて	6.1.1.5
でき人前で活用	いるか把握をし、人前で活	人間行動に関す
することが出来	用できるか自己判断がで	る知識
る。	きるよう助言やモチベー	
	ションを高める支援がで	1.1.1.6 ~
	きる	6.1.1.6 観察技
		術
		1.1.1.7 ~
		6.1.1.7
		モチベーション
		を上げるための
		技法
		1.1.1.8 ~
		6.1.1.8
		反復を手順通り
		に実行する技術

d 140 読むことの学習 learning to read

書かれたもの(点字を含む)を流暢で正確に読む能力を発達させること。例えば、文字やアルファベットを認識すること。単語を正しい発音で発語すること。単語や句を理解すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.書かれたもの	軽度の	1.1~4.1	1.1.1	1.1.1.1~	
(点字を含む)	困難	読むために用い	書かれたもの形を文字と	5.1.1.1	
を文字やアルフ	5-	る用具や家具。	して認識できるよう助言	b210	
ァベットの形と	24%	(書物・辞書・	をし、そのために必要な環	視覚機能の知識	
して認識できる	中等度	机・椅子・鏡な	境を整えることができる。	b230	
	の困難	ど)	支援ができる	聴覚機能の知識	
	25-	(e1250) (e13		b330	
2.書かれてい	49%	00) (e1150)	2.1.1	音声言語と流用	
る文字が何を表	重度の	読むための適度	書かれている文字が何を	性とリズム機能	
現しているかを	困難	な照明。(e240)	表現しているかを気が付	の知識	
気が付くことが	50-	家族(e310)	くことができるように支		
できる。(物には		親族(e315)	援ができる	1.1.1.2 ~	
名前がある)	95%	権限をもつ立場		5.1.1.2	
	完全な	にある人々		OODAループの	
3.文字や単語や	困難	(e330) 教師	3.1.1	展開に関する知	
句の意味を理解	96-	その他の専門職	文字や単語や句の意味を	識	
することができ	100	(e360)教員な	理解することができるよ		
る。	%	تا	う教具を用いて支援がで	1.1.1.3 ~	
			きる	5.1.1.3	

	T	1
		観察力に関する
	4.1.1	知識
4.認識した単語	認識した文字や単語や句	
や句を正しい発	を正しい発音や発語で正	1.1.1.4 ~
音や発語で正確	確に読むことができるよ	5.1.1.4
に読むことがで	う支援ができる。	コーチングカに
きる。		関する知識
G 20°	E 4 4	対する対象
	5.1.1	
	継続して読むことの学習	1.1.1.5 ~
5.継続して読	が行えるようモチベーシ	5.1.1.5
むことの学習を	ョンを高める支援ができ	読解力関する知
繰り返し行うこ	る。	識
とができる。		
		1.1.1.6 ~
		5.1.1.6
		観察技術
		2003 (3×15)
		1.1.1.7 ~
		5.1.1.7
		3.1.1.7 モチベーション
		を上げるための
		技法
		1.1.1.8~
		5.1.1.8
		書かれたものを
		流暢で正確に読
		む技術
		C 377 [ris

d145 書くことの学習 learning to write

意味を伝えるために、音、単語、句を表す記号(点字を含む「シンボル」)を作る能力を発達させること。例えば、効果的に綴ること、正しい文法を用いること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うための 具体的介護行動(介護能力)	④支援行動に必 要な技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.書かれたもの(点字を含む)を文字やアルファムして認できる	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難	1.1~4.1 読むために用いる 用具や家具(書物・ 辞書・机・椅子・鏡 など) (e1250)(e1300) (e1150) 読むための適度な 照明(e240) 家族(e310)	1.1.1 書かれたもの形を文字と して認識できるよう助言 をし、そのために必要な 環境を整えることができ る 2.1.1 書かれている文字が何を 表現しているかを気が付	1.1.1.1 ~ 5.1.1.1 b210 視覚機能の知識 b230 聴覚機能の知識 b330 音声言語と流用 性とリズム機能 の知識	

d 150 計算の学習 learning to calculate

数を活用したり、単純もしくは複雑な数学的演算を行う能力を発達させること。例えば、加法や減法の数学的記号を用いること、問題に対し正しい数学的演算を適用すること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③ 先の支援を行うための	④支援行動に必	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		カ)		
1.何を計算す	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
るか理解でき	し				
る	0-4%				
	軽度の	1.1~4.1	1.1.1	1.1.1.1~	
	困難			4.1.1.1	

		1	
5-	計算に用いる用具	計算する内容を理解でき	b210
24%	や家具。(紙・鉛筆・	るよう助言し、そのため	視覚機能の知識
中等	▼ 書・机・椅子)	に必要な環境を整えるこ	b230
の困		とができる	聴覚機能の知識
25-	(e560) (e1150)		b172
0 *h *h +h = 1 = 1 49%		0.4.4	
2.数学的記号 重度	適度な照明。	2.1.1	計算機能の知識
を埋解し、それ _{困難}	(e240)	数学的記号を理解できて	S730
を使っく適切 50-	家族(e310)	いるか把握をし、適切に	上肢の構造の知
に演算ができ 95%	親族(e315)	演算ができるよう教具を	識
	──	用いながら助言ができる	1.1.1.2 ~
完全	な ある人々 (e330)		5.1.1.2
3.問題に対し 困難	教師	3.1.1	OODA ループ
正しい数学的 96-	その他の専門職	問題に対し正しい数学的	の展開に関する
演算を適用で 100	% (e360)教員など	演算を適用し計算ができ	知識
	(もこしし)教見なし		\ \Uā\$K
きる		ているか把握をし、適切	
		に計算が行えるよう教具	1.1.1.3 ~
		を用いて助言ができる	5.1.1.3
			観察力に関する
4.計算があっ		4.1.1	知識
ているか確認		計算があっているか確認	
する方法が理		する方法が理解で来てい	1.1.1.4 ~
解でき、間違っ		るか把握をし、間違った	5.1.1.4
た計算につい		計算についての正しい計	コーチングカに コーチングカに
ての正しい計		算方法が理解できるよう	関する知識
算方法が理解		教具を用いながら助言で	
できる		きる	1.1.1.5 ~
			5.1.1.5
		5.1.1	計算力関する知
		継続して計算の学習が行	識
		えるようモチベーション	
5.継続して計		を高める支援ができる	1.1.1.6 ~
算の学習を繰		と同のの文派ができる	5.1.1.6
り返し行うこ			観察技術
とができる			
			1.1.1.7 ~
			5.1.1.7
			モチベーション
			を上げるための
			技法
			1.1.1.8 ~
			5.1.1.8
			数字的記号を理り
			解し演算ができ
			る技術

d 155 技能の習得 acquiring skills

技能の習得を開始し、遂行するために、統合された一連の行為や課題について、基本的あるいは複雑な能力を発達させること。例えば、道具を扱うこと、チェスなどのゲームで遊ぶこと。

含まれるもの:基本的および複雑な技能の習得。

d 1550 基本的な技能の習得 acquiring basic skills

基本的で目的のある行為の学習。例えば、食事に用いる箸やナイフ・フォー ク、鉛筆、または簡単な道具の操作を学習すること。

体的行動(行動の要素・因子) 可要素・因子) する環境因子 具体的介護行動(介護能力) 要な技術・知識力) 困難なしの-4% 記入しない 記入しない 1.これから行を軽度のう行為についる方為についる方為についるであるとのできるとのできるとのできるとのできるとのできるとのできるとのできるとのでき	考
困難なしの-4%支援を要しないしの-4%記入しない1.これから行 軽度の う行為につい 困難1.1~4.1	
しの-4% 1.これから行 軽度の 1.1~4.1 1.1.1 これから行う行為 1.1.1.1 ~ う行為につい 困難 行為必要をするた について理解できている 5.1.1.1	
O-4%O-4%1.これから行軽度の 1.1~4.11.1.1 これから行う行為 1.1.1.1~う行為につい 困難行為必要をするたについて理解できている 5.1.1.1	
1.これから行 軽度の 1.1~4.1 1.1.1 これから行う行為 1.1.1.1 ~ う行為につい 困難 行為必要をするた について理解できている 5.1.1.1	
う行為につい 困難 行為必要をするた について理解できている 5.1.1.1	
て理解できる 5- めに必要な用具 か把握をし、行為につい b210	
24% (e1150)(e1300) ての説明や助言ができ 視覚機能の知識 中等度 行為に必要な適度 る。 b230	1
中等度 行為に必要な適度 る。 b230 2.その行為の の困難 な照明。 聴覚機能の知識	
2. CON 1	
連の動作につ 49% 家族 (2210) 211 その行為の日的や F時の構造の知	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
る	
95% ある人々(e330) し、理解できるように説 下肢の構造の知	
完全な 教師 明や助言ができる。 識	
困難 その他の専門職 14440	
3.そのために _{100%} (e360)教員なと 1.1.1.2 ~ ~	
必要な迫具な 3.1.1 そのために必要な 5.1.1.2	
道具などが理解し準備で OODA ループ	
る	
要なものについてもうー 知識	
度確認することができる 4.正しく道具 ように助言ができる 1.1.1.3 ~	
4.11 0 く 道	
連の行為を適 4.1.1 道具を活用して、 観察力に関する	
切に行うこと	
ができる とができているか把握を	
し、もう一度道具の活用 1.1.1.4 ~	
や一連の行為について確 5.1.1.4	
認することができるよう コーチングカに	
に助言ができる関する知識	
5.正しく行為	
が行えていた 5.1.1 振り返りができて 1.1.1.5 ~	
か振り返るこ	
とができる。	
さるように助言ができる 習得に関する知 :::::::::::::::::::::::::::::::::::	
1部 6.継続して行 10 10 10 10 10 10 10 1	
0.1.1	
行うことがで ようモチベーションを高 5.1.1.6	
さる。	

	1.1.1.7 ~ 5.1.1.7 モチベーション を上げるための 技法
	1.1.1.8 ~ 4.1.1.8 基本的な技能の 一連の習得技術

d 1551 複雑な技能の習得 acquiring complex skills

統合された一連の行為を学習することで、規則に従い、自分の動きを順序だてて協調させることができるようになること。例えば、フットボールなどの試合をすることや、建築用の道具を使うことを学習すること。

①人として具体的行動(行動の共通の要素・因子)口の一4%②生産を要しない②先の支援を行うための具体的介護行動(介護能要な技術・知識を力)会議を要しない記入しない1.行為について複数工程があることが理があることが理をある。1.1~1.5 行為必要をするためのと変を用具のは150(e1300) 中等度のを140(e125) の困難の適度な照明。1.1.1 (会150)(e1300) (会140)(e125) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1300) (会1
の要素・因子)評価点力)困難なしての-4%記入しない記入しない1.行為につい 軽度の 不複数工程があることが理解できる。1.1~1.51.1.11.1.1.1~がに必要な用具 をおることが理解できているのできる。5-かに必要な用具 をおことが理解できているか把握をし、行為について複数工程があることが理解できているか把握をし、行為につり、視覚機能の知識を対して必要な情報提供を助ける。
困難な 支援を要しない 記入しない 記入しない 記入しない 1.行為につい 軽度の 1.1~1.5 行為必要をするた 行為について複数工程が 6.1.1.1 6.1.1.1 かに必要な用具 あることが理解できてい b210 おのに必要な用具 なのに 24% (e1150)(e1300) るか把握をし、行為につ 視覚機能の知識 中等度 (e140)(e125) いて必要な情報提供を助 b230
しの-4%しの-4%1.1行為につい軽度の 行為について複数工程が あることが理 解できる。1.1~1.5 行為必要をするた めに必要な用具 (e1150)(e1300)1.1.1 行為について複数工程が あることが理解できてい るか把握をし、行為につ いて必要な情報提供を助 りと30
1.行為につい て複数工程が あることが理 解できる。軽度の 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 日期 <br< td=""></br<>
1.行為につい て複数工程が あることが理 解できる。軽度の 大為必要をするた りに必要な用具 (e140)(e125)1.1.1 行為について複数工程が あることが理解できてい るか把握をし、行為につ いて必要な情報提供を助1.1.1 6.1.1.1 b210 視覚機能の知識 りて必要な情報提供を助 り230
て複数工程が あることが理 解できる。困難 5- 24%行為必要をするた めに必要な用具 (e1150)(e1300)行為について複数工程が あることが理解できてい るか把握をし、行為につ いて必要な情報提供を助 りと306.1.1.1 b210 視覚機能の知識 りて必要な情報提供を助 りと30
あることが理 所できる。5- めに必要な用具 (e1150)(e1300)あることが理解できてい るか把握をし、行為につ 視覚機能の知識 (e140)(e125)b210 視覚機能の知識 b230
解できる。24%(e1150)(e1300)るか把握をし、行為につ いて必要な情報提供を助視覚機能の知識 b230
中等度 (e140)(e125) いて必要な情報提供を助 b230
┃ ┃の困難 ┃適度な照明。 ┃言することができる ┃聴覚機能の知識 ┃
25- (e240) S730
49% 天候 上肢の構造の知
重度の (e225) 識
2.行為の目的 困難 家族 (e310) 2.1.1 S750 50- 開放 (e315) 行為の日的が規則 の問 下時の様法の知
で税別、空間、 05% 税肤(6313) 11点の目的で規則、空間、 下放の構造の知
一連の動作に「完全な」権限をもり立場に 一連の動作にしいて理解 誠
ついて理解で 困難 ある人々 (e330) できているか把握をし、
きる。 96- 教師 それらについて必要な情 1.1.1.2 ~
100% その他の専門職 報提供を助言することが 6.1.1.2
(e360) 教員など できる OODA ループ
の展開に関する
知識
3.行為の優先 3.1.1 (元本の原生順位を決め、1.1.1.2)
順位を決めそ
のために必要 必要な道具が準備できて 6.1.1.3 な道具などが いるか把握をし、効率的 観察力に関する
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
準備できる。 に行えるよう助言ができ 知識 る。
1.1.1.4 ~
4.1.1 6.1.1.4

4. 行為に関す	行為に関する規則を理解 コーチングカに
る規則を理解	し、一連の行為を適切に 関する知識
して、一連の行	行うことができているか
為を適切に行	把握をし、もう一度道具 1.1.1.5 ~
うことができ	の活用や一連の行為につ 6.1.1.5
る	いて確認することができし複雑な技能の習し
	るように助言ができる 得に関する知識
	5.1.1 振り返りができて 1.1.1.6 ~
5. 正しく行為	いるか把握をし、改善す 6.1.1.6
が行えていた	べきことがあるか確認で 観察技術
か振り返るこ	きるように助言ができる
とができる	1.1.1.7 ~
	6.1.1 継続して行為を繰 6.1.1.7
	り返し行えるよう行える。モチベーション
	ようモチベーションを高しを上げるための
6. 継続して行	める支援ができる
為を繰り返し	3/1/2/
行うことがで	1.1.1.8 ~
きる	6.1.1.8
	連の習得技術
	(年の自分が)

<u>知識の応用 applying knowledge</u> (d160-d179)

d160 注意を集中すること focusing attention

特定の刺激に意図的に集中すること。例えば、気を散らすような音に気を向けないこと。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.自分が今、何	軽度の	1.1 2.1 刺激	1.1.1	1.1.1.1	
をしたいか理解	困難	音、光、匂い、書	2.1.1 本人が気づきやす	2.1.1.1	
できる	5-	物、映像、物	い刺激を準備することが	刺激を発した	
	24%	e240,e250,	できる	り、伝えるため	
2.特定の刺激に	中等度	e1100,e1250	3.1.1,4.1.1	の福祉用具や教	
気づくことがで	の困難	,	刺激に集中しやすい環境	育用具に関する	
きる	25-	e1300	を準備することができる	知識	
	49%			1.1.1.2	
3.特定の刺激に	重度の		①疾病・障害に対する知識	2.1.1.2	
注意を集中する	困難		②障害・疾病に応じたコミ	刺激を発した	
ことができる	50-		ュニケーションに関する	り、伝えるため	
	95%		知識	の福祉用具や教	

4. 集中が途切	完全な	3.1 4.1 刺激	③対象者の状況と意思を	育用具を活用す
れた際に、再度	困難	に集中しやすい	観察し、把握できる技術	る技術
注意を戻すこと	96-	環境	④刺激を発したり、伝える	3.1.1.1
ができる	100	e240,e250,e1	ための福祉用具や教育用	4.1.1.1
	%	250,e1251,e	具に関する知識	心理的安定をも
		1300,e1301	⑤刺激を発したり、伝える	たらす環境に関
			ための福祉用具や教育用	する知識
			具を活用する技術	
			⑥心理的安定をもたらす	3.1.1.2
			物理的環境に関する知識	4.1.1.2
			⑦心理的安定をもたらす	心理的安定をも
			物理的環境を調整する技	たらす環境を調
			術	整する技術

d163 思考 thinking

目標に向けた,あるいは目標をもたない概念や観念,イメージを,一人であるいは他人と一緒に形成し操作すること。例えば,小説の創作,定理の証明,思い巡らすこと,ブレインストーミング,沈思,熟考,思索,反省。

除かれるもの:問題解決(d175), 意思決定(d177)。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.他者や事象に	軽度の	1.1、2.1 情報を	1.1.1、2.1.1 本人が考え	1.1.1.1	
関心を持つこと	困難	得るためのテレ	る機会を作ることができ	2.1.1.1 情報収	
ができる	5-	ビ、ビデオ、ラジ	る	集に関する知識	
	24%	オ/インターネ		1.1.1.2	
	中等度	ット		2.1.1.2	
2.他者や事象に	の困難	e125 ⊐ミュニ		情報を収集し、	
対し、自分との	25-	ケーション用の	3.1.1、4.1.1	提供する技術	
違いや疑問を持	49%	生産品と用具	5.1.1、6.1.1 対象者に対	3.1.1.1	
つことができる	重度の	/e5350 ⊐ミュ	し、考えを促進する働きか	4.1.1.1	
	困難	ニケーションサ	けをすることができる	5.1.1.1	
3.事象などを細	50-	ービス		思考段階と思考	
分化して捉える	95%	知識を深めるた		方法に関する知	
ことができる	完全な	めの書物、コン		鶕	
	困難	ピュータ/イン		3.1.1.2	
4.事象など身近	96-	ターネット	7.1.1 対象者にあった方	4.1.1.2	
なものに置き換	100%	e130 教育用の	法で、言語化の準備をする	5.1.1.2	
えることができ		生産品と用具	ことができる	対象者の状況に	
る		/e5350 ⊐ミュ		応じ、同意や疑	
		ニケーションサ		問などを提示	
		ービス		し、思考を促進	

5. 事象などを	3.1、4.1	①本人が考える機会を作	する働きかけを	
過去の経験から	5.1、6.1	ることができる	する技術	
捉えなおすこと	考えをまとめる		7.1.1.1	
ができる	ためのするため	②集中して考える物理的	筆記用具や表現	
	の筆記用具やコ	環境を整えることができ	機器に関する知	
6.事象などを多	ンピュータ	る	識	
様な視点からと	e130 教育用の		7.1.1.2	
らえることがで	生産品と用具	③集中して考える心理的	筆記用具や表現	
きる	e135 仕事用の	環境を整えることができ	機器を選択し、	
	生産品と用具	る	提供する技術	
7.考えを言語化	7.1			
することができ	考えを言語化す		①疾病・障害に	
る	るための筆記用		対する知識。	
	具やコンピュー		②障害・疾病に	
	タ		応じたコミュニ	
	e130 教育用		ケーションに関	
①考える機会を	の生産品と用具		する知識。	
持つことができ	e135 仕事用の		③生育歴やスト	
る	生産品と用具		レングスを把握	
			する知識	
②集中して考え			④対象者の行動	
ることができる			や思考に関する	
			知識	
			⑤対象者の思考	
			機会を創出する	
			技術	
			⑥物理的環境に	
			関する知識。	
			⑦物理的環境を	
			調整する技術	
			⑧心理的安定に	
			関する知識	
			⑨心理的安定を	
			もたらす技術	

d166 読むこと reading

一般的な知識あるいは特定の情報を得る目的で、書かれた言語(例:文字や点字で表記された本、使用説明書、新聞)の理解や解釈といった活動を遂行すること。 除かれるもの:読むことの学習(d140)。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1.目的の書物等	軽度の	1.1 対象者の目	1.1.1 対象者の目的に沿	1.1.1.1
を探すことがで	困難	的にそった書物	った書物を対象者と探す	情報検索に関す
きる	5-	など(新聞・テレ	ことができる	る知識
	24%	ビ・ビデオ・書		1.1.1.2
	中等度	物・辞書/インタ		1.1.1.2 対象者の目的や
	の困難	ーネット)		興味関心にそっ
	25-		1.1.2 対象者の特性に応	た書物を探す技
	49%	ニケーション用		術
	重度の	の生産品と用具	とができる	
	困難	e130 教育用の		
	50-	生産品と用具		
2.書物等を読む	95%	e5350 ⊐ ≷	3.1.1 対象者の理解を促	3.1.1.1
ことができる	完全な	ュニケーション	進するための働きかけが	語彙、文法、文章
	困難	サービス	できる	読解に関する知
	96-	, C, .		談
		 2.1 書物を読む		194V
 3.文法、語彙、比	100%	Z. 音初を訳り 環境		3.1.1.2
喩や暗喩、章等 の####################################		e125 ⊐ミュニ		対象者の状況に
の構成を理解		ケーション用の		応じて、助言や
し、書物等の意		生産品と用具		補足、情報確認
味を理解するこ		e240 光		などの働きかけ
とができる		e250 音		ができる技術
		3.1 書物を理解		
		するための資料		4.1.1 論理的思
		辞書、他の書物		考、批判的思考
		等/インターネ		についての知識
		w h		
4.書物等に対		e125 ⊐ミュニ		4.1.1.2 論理的
し、自分なりの		ケーション用の		思考や批判的思
解釈や考えを持				
		生産品と用具		考を基に、対象
つことができる		e130 教育用の		者に働きかける
		生産品と用具		技術
		e5350 ⊐ミュ		
		ニケーションサ		
		ービス		
		4.1 考えをまと		
		めるための筆記		
		用具やコンピュ		
		ータ		
		e125 ⊐ミュニ		
		ケーション用の		
		生産品と用具		
		130 教育用		
		の生産品と用具		
		e135 仕事用の		
		生産品と用具		

参考資料

国語科における「思考・判断・表現」の評価のあり方 山内裕介

http://www.jfecr.or.jp/cms/zaidan/publication/pub-data/kiyou/h24_41/1-03.pdf

「国語科『読むこと』の指導事項」と「14の思考スキル」の関連イメージ

大分県教育センター 教科研修部

https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2052503.pdf

小学校における「読むこと」指導の系統性を意識した授業研究 —「思考力の育成」をねらいとした指導を通して— 宮崎大学教職大学院・院生 比江嶋 哲

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jtsjs/139/0/139_287/_pdf/-char/ja

高等学校国語科「読むこと」において思考を深める指導に関する研究 ーリテラチャー・サークルの手法を取り 入れた学習活動を通して一 山口県立高森高等学校 教諭 國居 朋子

https://www.ysn21.jp/wp/wp-content/uploads/2019/02/201803kunisue_houkoku.pdf

文部科学省 学習指導要領「生きる力」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300857.htm

d170 書くこと writing

情報を伝えるために記号や言語を用いたり、新たに生み出すこと。例えば、出来事や概念の記録を書くこと、手紙の下書きをすること。 除かれるもの:書くことの学習(d145)。

		369 OCC. M/	141000・音くここの子百	(4170%	
①人として具体	ICF	② ①に直接関	③ 先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.具体的な事象	軽度の	1.1、2.1	1.1.1 具体的事象を明確	1.1.1.1	
や考えを、対象	困難	書くために用い	に伝えるための働きかけ	2.1.1.1	
者なりの方法	5-	る用具(書物・筆	を行うことができる	文章表現に関す	
で、書くことが	24%	記用具・紙・辞		る知識	
できる	中等度	書・コンピュー		記号や絵などを	
	の困難	タ)		用いた表現方法	
	25-	e125 ⊐ミュニ		に関する知識	
	49%	ケーション用の			
2.抽象的な事象	重度の	生産品と用具	2.1.1 抽象的事象と明確	1.1.1.2	
や考えを、対象	困難	e130 教育用の	に伝えるための働きかけ	2.1.1.2	
者なりの方法	50-	生産品と用具	を行うことができる	文章表現や他の	
で、書くことが	95%	e135 仕事用の		表現方法に関す	
できる	完全な	生産品と用具		る知識を基に、	
	困難	e13 教育的用具		対象者に働きか	
	96-	書くための適度		ける技術	
	100%	な照明 e240			
	. 2070				
L	1	L.		l .	

d172 計算 calculating

言葉で示された問題を解くために数学的原理を応用して計算を遂行したり、その結果を出したり示したりすること。例えば、3つの数の加算をすること、ある数を他の数で割った結果を出すこと。 除かれるもの:計算の学習(d150)。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関 係する環境因子	③先の支援を行うための 具体的介護行動(介護能力)	④支援行動に必要な技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.計算が必要な 場面を理解する ことができる 2.場面に則した 計算式を作ることができる 3.対象者なりの 方法できる ことができる	Example 1Example 2Example 2 <td>1.1 計算に用いる用具(・筆記用具・紙・計算機) e125 コミュニケーション用 生産品と用育用の生産品と用育用の生産品と用事用の生産品と 教育的用 生産品 教育的用具</td> <td>1.1.1、2.1.1 日常生活において、計算が 必要な場面を想定し、訓練 ができる 3.1 対象者に応じた方法 で、物品などを用意するこ とができる</td> <td>1.1.1.1 2.1.1.1 社会生活技能訓練(SST)に関する知識 1.1.1.2 2.1.1.2 社会生活技能訓練(SST)を展開できる技術</td> <td></td>	1.1 計算に用いる用具(・筆記用具・紙・計算機) e125 コミュニケーション用 生産品と用育用の生産品と用育用の生産品と用事用の生産品と 教育的用 生産品 教育的用具	1.1.1、2.1.1 日常生活において、計算が 必要な場面を想定し、訓練 ができる 3.1 対象者に応じた方法 で、物品などを用意するこ とができる	1.1.1.1 2.1.1.1 社会生活技能訓練(SST)に関する知識 1.1.1.2 2.1.1.2 社会生活技能訓練(SST)を展開できる技術	

d175 問題解決 solving problems

問題や状況の解決法を見出すことであり、問題の同定や分析、選択肢や解決法の展開、解決法から予期される効果の評価、選択した解決法の遂行によってなされる。例えば、2者間の論争を解決すること。 含まれるもの:単純もしくは複雑な問題の解決。 除かれるもの:思考(d 163)、意思決定(d 177)。

d 1750 単純な問題の解決 solving simple problems

単一の問題や疑問を含む単純な問題の解決法を見出すこと。問題の同定や分析,解決法の展開,解決法から予期される効果の評価,選択した解決法の遂行によってなされる。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

利助の					
とかできる	1.問題があるこ	軽度の	問題解決に直接	1.1.1 対象者を観察し、問	1.1.1.1 ニーズ
24%	とを自覚するこ	困難	関係する環境因	題状況を把握できる	とその類型に関
中等度 の困難 25- 49%	とができる	5-	子としては、以	1.1.2 対象者の能力に応	する知識
2.1回が問題かを 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 4		24%	下の項目がある	じた方法で、本人が問題の	1.1.2.1 ニーズ
2.1回が問題かを 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 456 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 455- 4		中等度	3. 支援と関係	 存在を理解できるように	が自覚できるよ
2.1.1.1 アセス 2.5 4.8 4.8 4.1 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5					
特定することができる 49% 重度の 国題 10% 2.1.12 ファレス・制度・政策 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10% 10%	2 何が問題かを			'	
重度の 困難 度・政策 5.サービス・制度・政策 5.1-12 アセスメントを 実施できる技術 2.1.1.2 アセスメントを 実施できる技術 2.1.1.2 エコマップなどマッピング 技法を整理 する知識 2.1.1.3 エコマップなどマッピング 技法を登理 する対 2.1.1.3 エコマップなどマッピング 技法を登理 する技術 2.1.1.5 面談を すすめるための 面接知順 2.1.1.5 面談を すすめるための 面接知順 2.1.1.5 面談を すずめるための 面接知順 2.1.1.5 面談を すずめるための 面接知順 2.1.1.5 面談を すずめるための 面接知順 2.1.1.5 面談を					
困難 50-95% 完全な 日前			1	REVOTURED CC &	
50- 95% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 10	(00				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
95% 完全な 日報 96-					
完全な 困難 96- 100% 2.1.1.3 エコマップなどマッピ ング技法を整理 する知識 2.1.1.3 エコマップなど法を と もに情報を整理 する技術 2.1.1.4 面談を すすめるための 面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接知識 2.1.1.1 面談を すすめるための面接知識 2.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け 1 理論を使える 技術 4.1.1 間題解決にむけた 情報が提供できる (同时、情報収集をすることができる) 4.1.1 型表に関する知識 4.1.1 社会資源 に関する知識 4.1.1 社会資源 2.1.1 選択肢のメリット デメリットを脱明できる 表技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを脱明できる 3 源に関する知識 5.1.1.1 社会資源 2.1.1 社会资源 2.1.1 社会资产品 2.1.1 社会资产品 2.1.1 社会 2.1.1 社会资源 2.1.1 社会资产品 2.1.1 社会观 2.1.1 社会			L310-399		
国難 96- 100% 100% 2.1.1.3 エコマップなどを使い、情報を整理 する知識 2.1.1.3 エコマップなどとをしい、対象者とともに情報を整理 する技術 2.1.1.4 面談を すすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接知識 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け (同け、情報収集をすることができる					
96- 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100%					
100% する知識 2.1.1.3 エコマップなどマッピ ング技法を使い、対象者とともに情報を整理 する技術 2.1.1.4 面談をすすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接知識 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1.1 社会資源を理解し、できることができる 4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1.2 社会資源を理解し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる 5.1.1.2 社会資源を理解し、それぞれの効果を予想できる 6.1.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
2.1.1.3 エコマップなどマッピング技法を使い、対象者とともに情報を整理する技術 2.1.1.4 面談をすすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接知識 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 4.1.1.1 社会資源を理解し、大部・大学メリットを説明できる。 5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる 5.1.1.1 社会資源を理解し、それぞれの効果を予想できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
ップなどマッピ ング技法を使い、対象者とともに情報を整理 する技術 2.1.1.4 面談を すすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接技術 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える 技術 4.1.1 問題解決にむけた 向け、情報収集 をすることができる 4.1.1 問題解決にむけた 情報が提供できる (に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる 表技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる。源に関する知識 5.1.1.1 社会資源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ		100%			
フグ技法を使い、対象者とともに情報を整理する技術 2.1.1.4 面談をすすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接対が 3.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1.1 社会資源に関することができる 4.1.1 問題解決にむけた情報収集をすることができる 信報が提供できる [情報が提供できる] [に関する知識 4.1.1.2 社会資源 に関する知識 4.1.1.2 社会資源 に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源に関する知識 5.1.1.2 社会資源に関する知識 6.1.1.1 工ンパ 象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
い、対象者とともに情報を整理する技術 2.1.1.4 面談をすすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接対域 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる も					
もに情報を整理する技術 2.1.1.4 面談をすすめるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接知識 2.1.1.5 面談を進めるための面接技術 3.1.1 問題解決への動機 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1 問題解決にむけた 情報が提供できる 技術 4.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる表技術 5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1 選択肢のメリット 5.1.1 対会資源に関する知識 5.1.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
する技術 2.1.1.4 面談を すすめるための 面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接技術 3.1.1 問題解決への動機 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える 技術 4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる 4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる 表技術 5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1 工ンパ					
2.1.1.4 面談を すすめるための 面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面接技術 3.1.1 問題解決への動機 が続くよう支援できる けいに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える 技術 4.1.1 問題解決にむけた 情報が提供できる 「に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 表技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる ぶに関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					もに情報を整理
すずめるための面接知識					する技術
 面接知識 2.1.1.5 面談を 進めるための面 接技術 3.1.1.1 動機付 けに関する知識 3.1.1.2 動機付 けに関する知識 3.1.1.2 動機付け け理論を使える 技術 4.1.1 問題解決にむけた 情報が提供できる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 万元・プライン 原に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、それぞれの効果を予想できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1 エンパ 6.1.1 に対してきる技術 6.1.1 に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1 エンパ 					2.1.1.4 面談を
2.1.1.5 面談を 進めるための面 接技術 3.1.1 問題解決への動機 が続くよう支援できる 3.1.1.1 動機付 けに関する知識 3.1.1.2 動機付 け理論を使える 技術 4.1.1 問題解決にむけた 向け、情報収集 をすることができる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 5.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる を予想できる 5.1.1 関節の性質と対象 5.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					すすめるための
(注めるための面接技術) (3.1.1 問題解決への動機) (3.1.1 動機付けに関する知識) (3.1.1.2 動機付けに関する知識) (3.1.1.2 動機付け理論を使える技術) (4.1.1.1 社会資源に関する知識) (4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術) (5.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる技術) (5.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる大統) (5.1.1 選択肢のメリット表説明できる大統) (5.1.1 選択し、対象者に説明できる技術) (6.1.1 問題の性質と対象) (6.1.1 エンパ					面接知識
接技術 3.1.1 問題解決への動機 接技術 3.1.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1.1 社会資源 に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット 5.1.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット 5.1.1.1 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1.2 社会資源を理解し、それぞれの効果を予想できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					2.1.1.5 面談を
3.1.1 問題解決への動機 が続くよう支援できる 3.1.1 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1 問題解決にむけた 4.1.1 社会資源 に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					進めるための面
双り組みはじめることができる けに関する知識 3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1 問題解決にむけた 信報が提供できる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					接技術
3.1.1.2 動機付け理論を使える技術 4.1.1 問題解決にむけた 情報収集をすることができる	3.問題の解決に			3.1.1 問題解決への動機	3.1.1.1 動機付
4.1.1 問題解決にむけた 付理論を使える 技術 4.1.1 社会資	取り組みはじめ			が続くよう支援できる	けに関する知識
4.問題の解決に向け、情報収集をすることができる4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる技術 4.1.1.1 社会資源 (に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる (原と関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる (原と理解し、対象者に説明できるができる)5.かくつかの選択を準備し、それぞれの効果を予想できる5.1.1 選択肢のメリット (原に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 (6.1.1.1 エンパ)	ることができる				3.1.1.2 動機付
4.問題の解決に向け、情報収集をすることができる4.1.1 問題解決にむけた情報が提供できる技術 4.1.1.1 社会資源 (に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる (原と関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる (原と理解し、対象者に説明できるができる)5.かくつかの選択を準備し、それぞれの効果を予想できる5.1.1 選択肢のメリット (原に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 (6.1.1.1 エンパ)					け理論を使える
4.1.1 問題解決にむけた 情報収集 をすることができる					
向け、情報収集 信報が提供できる 源 をすることができる は、対象者に説明できる技術 5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1 選択肢のメリットデメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ	4 問題の解決に			 411 問題解決におけた	
をすることができる に関する知識 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
5.0 4.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 5.1.1 選択肢のメリット 5.1.1.1 社会資 源に関する知識 5.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる 源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ				INTERIOR DE INCECCIO	
源を理解し、対象者に説明できる技術 5.いくつかの選択肢を準備し、デメリットを説明できる。 源に関する知識 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
また					
5.いくつかの選					
5.いくつかの選択肢を準備し、それぞれの効果を予想できる 5.1.1 選択肢のメリット デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
択肢を準備し、 デメリットを説明できる 源に関する知識 5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ	511/つかの湿				
それぞれの効果 を予想できる5.1.1.2 社会資源を理解し、対象者に説明できる技術 6.1.1 問題の性質と対象					
を予想できる源を理解し、対象者に説明できる技術6.1.1 問題の性質と対象6.1.1.1 エンパ				アメリットを説明でさる 	
象者に説明できる技術6.1.1 問題の性質と対象6.1.1.1 エンパ					
る技術 6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ	を予想できる				
6.1.1 問題の性質と対象 6.1.1.1 エンパ					
				者の能力に応じた方法で	ワメントアプロ

6.目標と計画を	解決できるよう、目標策定	ーチ、問題解決
策定することが	を支援できる	アプローチ、課
できる。		題解決アプロー
		チ、行動変容ア
		プローチなどの
		介入理論に関す
		る知識
		6.1.1.2 上記理
		論を展開する技
		術
		6.1.1.3
		PDCA サイクル
		に関する知識
		6.1.1.4 計画策
		定できる技術
		7.1.1.1 モニタ
	7.1.1 選択した行動が効	リングに関する
	果をあげているか確認で	知識
7.計画に従って	きる	7.1.1.2 モニタ
実行することが		リングできる技
できる		術
		8.1.1.1 エバリ
	8.1.1 問題が解決したこ	エーションに関
	とを対象者と確認できる	する知識
8.問題の解決を		8.1.1.2 エバリ
理解する		エーションを展
		開できる技術

d 1751 複雑な問題の解決 solving complex problems

複合的および相互に関係する問題,いくつかの関連した問題を含む、複雑な問題の解決法を見出すこと。問題の同定や分析、解決法の展開、解決法から予期される効果の評価、選択した解決法の遂行によってなされる。

①人として具体	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うための	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	係する環境因子	具体的介護行動(介護能	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		カ)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.問題があるこ	軽度の	問題解決に直接	1.1.1 対象者を観察し、問	1.1.1 対象者を	
とを自覚するこ	困難	関係する重要な	題状況を把握できる	観察し、問題状	
とができる	5-	環境因子として	1.1.2 対象者の能力に応	況を把握できる	
	24%	は、以下の項目	じた方法で、本人が問題の	技術	
	中等度	がある	存在を理解できるように	1.1.2 対象者の	
	の困難	3. 支援と関係	働きかける	能力に応じた方	
	25-	e310-399	2.1.1 対象者とともに問	法で、本人が問	
	49%	4.態度	題の特定ができる	題の存在を理解	

2.何が問題かを 重度	e410-499		できるように働
特定することが 困難	5.サービス・制	3.1.1 問題を相互作用の	きかける技術
できる 50-	度•政策	観点から捉え、相互関係を	2.1.1 対象者
3.問題を構造的 95%	6 e 510-599	対象者が理解できるよう	とともに問題の
に分析すること 完全	な	に説明できる	特定ができる技
ができる 困難			術
96-			3.1.1.1 システ
4.問題に優先順 100	0%	4.1.1 構造的分析、相互作	ム理論に関する
位をつけること		用を踏まえ、対象者と選択	基礎的な知識
ができる		できる	3.1.1.2 エコ
			マップやソシオ
5.問題の解決に		5.1.1 問題解決への動機	グラムなど相関
取り組みはじめ		が続くよう支援できる	関係を作成でき
ることができる		6.1.1 問題解決にむけた	る技術
6.問題の解決に		情報が提供できる	4.1.1.1 重要性
向け、情報収集		7.1.1 選択肢のメリット	を判断できる知
をすることがで		デメリットを説明できる	識
きる			
7.いくつかの選		8.1.1 問題の性質と対象	
択肢を準備し、		者の能力に応じた方法で	
それぞれの効果		解決できるよう、目標策定	
を予想できる		を支援できる	
8.目標と計画を			
策定することが		9.1.1 選択した行動が効	
できる。		果をあげているか確認で	
		きる	
9.計画に従って		10.1.1 問題が解決したこ	
実行することが		とを対象者と確認できる	
できる			
10.問題の解決			
を理解する①何			
が問題かを理解			
することができ			
る			

d 177 意思決定 making decisions

選択肢の中からの選択,選択の実行,選択の効果の評価を行うこと。例えば、特定の品目を選んで、購入すること。なすべきいくつかの課題の中から1つの課題の遂行を決定したり、遂行すること。

除かれるもの: 思考 (d163), 問題解決 (d175)。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	要な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				

	0.49/				
	0-4%				
1.示された選択	軽度の	1.1.•2.1.•3.1.•	1.1.1 対象者の状況に応	1.1.1.1 意思決	
肢の中から選択	困難	4.1.	じた選択肢を提示する	定に関する知識	
できる	5-	e 125 그ミュニ	ことができる	1.1.1.2 意思決	
	24%	ケーション用の生		定を支援する技	
2.自ら情報を収	中等度	産品と用具	2.1.1 情報収集を支援す	術	
集し、選択でき	の困難	e 130 教育用の	ることができる	2.1.1 情報収集	
る	25-	生産品と用具		を支援すること	
	49%		3.1.1 本人の選択を支持	ができる技術	
3.選択した行動	重度の	※。情報の内容は	し、実行を支援できる	3.1.1 本人の選	
を実行できる	困難	国際生活機能分類		択を支持し、実	
	50-	のすべての内容が	4.1.1 対象者の能力に応	行を支援できる	
	95%	該当する。	じた方法で選択の効果	技術	
4.選択の効果を	完全な 困難		を示すことができる		
評価することが	96-			4.1.1 対象者の	
できる	100%			能力に応じた方	
	10070			法で選択の効果	
				を示すことがで	
				きる技術	

第2章 一般的な課題と要求 general tasks and demands

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 一般的な課題と要求

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、単一のあるいは多数の課題の遂行、日課の調整、ストレスへの対処についての一般的な側面を扱う。これらの項目は、さまざまな環境下で課題を遂行することの基礎にある特徴を明らかにするために、より特化した課題や行為と結びつけて用いることができる。

- d210 単一課題の遂行 undertaking a single task
- d 220 複数課題の遂行 undertaking multiple tasks
- d 230 日課の遂行 carrying out daily routine
- d 240 ストレスとその他の心理的要求への対処 handling stress and other psychological demands
- d 298 その他の特定の, 一般的な課題と要求 general tasks and demands, other specified d 299 詳細不明の, 一般的な課題と要求 general tasks and demands, unspecified

2. 「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察

≪一般的な課題と要求≫

ICFの活動と参加の第2章「一般的な課題と要求」の内容を第 2 レベルで整理してみると、以下のような構造を持っている事が読み取れる。この図は、無理やり 2 次元で表現しているが、基本は、①課題の内容の種類、②課題の内容の質(複雑さ)、③グループで取り扱うか個人で扱うか、という 3 つの次元で活動内容の分類がなされている。また、表題には出ていないが、課題と要求は「遂行される」ことが前提である。とすれば、遂行されるプロセスとして、課題の発見、

d2「一般的な課題と要求」の構造整理イメージ

CO EX			A STATE OF THE TAX TO A	167
課題内容	d210単一課 題の遂行	d220複数課 題の遂行	d230日課の 遂行	d240ストレス とその他の心理 的欲求への
単純な課題		遂行	管理	責任への対処
複雑な課題		達成	達成	ストレス への対処
グループ (他 者・集団) での 遂行				危機への
単独(個人)で の遂行	0		自分の活動レベ ルの管理	対処

明確化、などのアセスメント段階から遂行の目標設定、遂行内容、遂行結果評価などの活動項目があり得るはずである。(ただし、「(単一・複数・課題の遂行」では、技能の習得(d155)、

問題解決(d175)、意思決定(d177)を除くので、この項での活動の分類は、直接の分析内容にとどめる。)。たとえば、単純な単一課題の遂行(d1100)の例である「手紙を書くこと」では、万年筆にインクを補充するというような用具の準備とその手順やペンの正しい持ち方等の技能の習得が必要と考えられるが、それについて含むものではない。

なお、特に①に関しては、生活場面での「活動と参加」の内容を、日課の遂行、単一課題の遂行、複数課題の遂行、ストレスとその他の心理的欲求への対処の4領域に整理しているのは、私たち自身の生活分析でも、支援(介護)活動の視点整理でも大変参考になる。

さらに、この「一般的な課題と要求」の内容分析を行う時、日本の資料ではあるが、経済産業省が発表している「人生 100 年時代の社会人基礎力について³⁵」の内容は、①考え抜くカ ②前に踏み出す力 ③チームで働く力 の3つの柱となっており、参考になるであろう。

「活動と参加」の中では、活動を中心に考える分類項目・・。(テキスト 225~227)・・・

一般的な課題と要求に関する≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

一般的な課題と要求について、d2108「その他の特定の、単一課題の遂行」では、単一であってもその遂行の機会が少なく、あるいは限られた状況のもとに行われる課題が挙げられる。たとえば、大勢の人の前でスピーチをする、乳児をあやす等の課題である。前者はそのような機会があること、後者は自分の子が乳児期であったり、身近に乳児を育てている者がいたりすること等、機会や状況においてはじめて課題の遂行が可能となる。これはスピーチの技術や乳児をあやすスキルを習得しているかどうかの問題ではない。スピーチをすることやあやすことそのものは単一課題である。課題の遂行に影響を与える環境にかかわらず、単に機会と状況により限定される課題であるといえる。

また、単一課題であっても高度な課題は、単なる「単純な単一課題」でも「複雑な単一課題」でもない。たとえば、10kmの長距離を走る、4桁の掛け算を暗算する等の課題である。これらは一見、走ったり暗算をしたりするだけの単純課題だと捉えられがちであるが、条件によっては非常に高度な課題であるといえる。これは先に述べた機会や状況の問題ではないし、陸上競技やそろばんの技能の有無にもかかわらない。

さらに、d2108 として、不特定多数の人やグループにはなっていない人たちと共同で取り組む課題の遂行が考えられる。たとえば、不特定多数の人から署名を集める、環境保全のためにごみを持ち帰る等の行為である。前者は他者がいるからこそ成立し、後者は自分一人の行動だけでは目的を達成するためにあまり意味を持たず、効果が見込めない課題である。

次にd2208「その他特定の、複数課題の遂行」であるが、これには、グループでない人たちと多人数で協力・連携しないと成し得ないような複雑な課題の遂行が考えられる。たとえば、災害時における救助活動等である。素早く状況を把握し直接的に人工呼吸をしたり、火を消したりする活動をするためには、消防署や救急隊に通報したり、周囲の野次馬を整理したりする、偶然にその場に居合わせた人たちの協力が欠かせない。これらは瞬時にさまざまな状況判断をしなければならない複雑な課題であり、かつ他者との連携によって遂行が可能となる課題である。この

³⁵ 注1 社会人基礎力 ◇考え抜く力(・課題発見力・計画力・創造力) ◇前に踏み出す力(・主体性・働きかけ力・ 実行力) ◇チームで働く力(・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロールカ)

ような課題は偶発的に発生することから、時間や空間を計画的に準備することが難しく、野次馬を整理していた人が即座に避難誘導を行ったり、直接的な救助に転じたりすることもままある。 したがって、d210の「単一課題の遂行」や d230 の「日課の遂行」には該当しない。

d2308「その他特定の、日課の遂行」であるが、これには他者の日課を自分の日課として遂行すること等が考えられる。たとえば、本来は他者が行うべき日課の遂行を、何らかの理由で手伝うことが自分の日課となっており、それを遂行しなければならないような状況にある場合である。具体的には、家族の一時的な病気やケガによって、その家族の日課の遂行の代行や支援を行うこと、他の家族成員と役割を分担してそれを行うこと等である。あるいは、自分が病気やケガ等の状況に陥った際に家族の協力を得ること、家族による管理の下に自らの日課を遂行すること等も含まれるであろう。

d2309 では、その他の特定の日課の遂行については、日々の手続きや義務に必要なこととあるが、日課はどんどん新しいも増えてくるのではないだろうか、だとすれば「新規の日課への管理」を追加してもいいのではない内容かと考えられる。

d2408「その他特定の、ストレスとその他の心理的欲求への対処」であるが、ここでは集団的責任における個人の対処、ストレスフルな集団における個人の対処、集団的危機における個人の対処を考えておく必要がある。なぜなら、個人の心理的要求はその個人が所属している集団の影響を受けており、反対に、集団の現状はその成員である個人の状態によって変化し得るからである。つまり、個人が何らかの事故を起こした場合、それは単に個人の責任で済むことではなく、その個人を内包する集団もある程度の責任を問われることが少なくない。また、そのようにして責任を問われている集団に属している者は、たとえその事故を起こした本人でなくとも、集団の構成員として社会的な責任を問われることがある。そうすると、構成員である個人もその社会的責任に応じた対処をする必要が生じてくる。責任への対処に限らず、ストレスや危機についても同様の考え方ができる。d240「ストレスとその他の心理的要求への対処」は、個人の行動・行為の対処を分類する項目であるが、このように考えると、集団に起因する個人としての行動・行為についての検討も必要である。

最後に、d298「その他特定の、一般的課題と要求」である。d210、d220、d230、d240 は、主としてミクロからメゾレベルの生活課題への対処が中心であるといえる。マクロレベルの事象に対応していないわけではないが、これらには社会の制度・システム、法律等に能動的に働きかける行為が想定されているようには思えない。しかしながら、社会を構成してその全体を支えていくことは、市民としての活動と参加に他ならない。これが特別な課題であろうはずはなく、十分に「一般的な課題と要求」に含まれるはずである。ただし、社会の制度・システム・法律等に能動的に働きかける行為が、d230のよう「日課の遂行」として考えられるかというと、それについては検討の余地がある。日課という場合、通常は日常的に行われる行為・行動を指していると考えられるからである。反対に、一年から数年単位で計画される課題や、計画して行われるが不定期で断続的な課題は日常的に遂行されるわけではないから、d298に分類されると考えることができよう。

d240 では、責任、ストレスへの対処、危機への対処「ストレスの自己管理」やストレスの対処方があるのであれば、リスクマネジメントのように「ストレスへの予防」が追加してもいい内容であると考えられる。

d298 では、基礎的にある特徴を明らかにするために、より特化した課題や行為を結びつけるとあるため、その他の特定の基礎的な一般的課題は該当するものがない内容かと考えられる。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察≪一般的な課題と要求≫

第2章の「一般的な課題と要求」は、その標題が示すとおり一般的な課題を対象としている。 すなわち、これには人の「活動と参加」にかかわるあらゆる事象が包含されていると考えること ができる。第1章「学習と知識の応用」の次の章としてこの「一般的な課題と要求」があるのは、 もちろん「学習と知識の応用」を踏まえて、すべての活動と参加の全体に共通する事項として分 類されるからに他ならない。

したがって、「一般的な課題と要求」には、ほぼすべての環境因子が直接的に対応していると考えることができる。ただし、「一般的な課題と要求」の内容に対応する「環境因子」は、その「課題」や「要求」の内容が何かで異なってくるともいえる。生活の様々な側面での「課題」と「要求」は、「活動と参加」第4章以降に細かく触れられているので、この章では、タスクや他から要求への対処としての共通する事項として整理をしておく。

たとえば、d2100「単純な単一課題の遂行」の一例として「手紙を書く」という行為を考えると、e1150「日常生活における個人用の一般的な生産品と用具」であるペン・便箋・机等が、「生産品と用具」として必要となる。また、「自然環境と人間がもたらした環境変化」の e2400「光の強度」や、気持ちは手紙で伝えるほうが強く伝わるというような、差し出す相手の意見 (e420「友人の態度」)等も、直接的に対応する環境因子として挙げることができる。d220「複数課題の遂行」は、d210 がさらに複数化・複合化していると考えることができるため、これに直接的にかかわる環境因子もd210を踏まえるに留まらず、より多岐に渡ることは容易に想像できよう。d230「日課の遂行」についても同様である。

ただし、d240「ストレスとその他の心理的要求への対処」については、d210~d230とは少し異なる部分がある。特に d2401「ストレスへの対処」では、「生産品と用具」としてのe1100「食品」やe1101「薬品」は、即物的に直接に対応するという側面を持ちながらも、心理面に及ぼす影響も少なくないと考えられる。むしろ、心理面に直接的に働きかけているということができるかも知れない。たとえば、常備薬を肌身離さず持っていることで安心し、それによってストレスを緩和できるとするならば、それはストレスを低減させる効果がある「現実的な物」としての薬というよりも、個人の心理に直接に影響を与える環境因子であるといえる。このように d240においては、「生産品と用具」が非即物的に対応する場合もあることに留意されたい。

なお、この点は、すべての部分に関しても言える事であるが、環境因子には、促進因子と阻害因子があり、「活動と参加」が困難な場合は、何らかの因子が阻害因子となっていると考えられる。その阻害因子を支援(介護)によって(補うことによって)取り除けば、困難はなくなるので、普通の人と同じように活動と参加が実現できる(自立できる)(Well Being³⁶に到達できる)と考えてよいだろう。また、環境因子は、因子として分類整理されてはいるが、この第 1 章で取りあげている基礎的とも言える活動に関しては、現実にはその因子が単で存在するわけではなく、複雑の絡み合った全体として存在する。従ってこの章での活動に関しては、多くの因子が関係しているが、この資料作成では、その活動に不可欠につながりうる環境因子のみを上げている。

-

³⁶ テキスト 204 頁参照

特に、促進因子と阻害因子の側面から、一般的な課題と要求の行為や行動を整理して見ると、下記の図のように、一般的な課題(b2100~2303)と心理的欲求(d2400~2402)に分けられ、一般的課題を遂行することで心理的欲求が生じると考えられる。ここでの行為や行動に不可欠な環境因子には、生活品と用具、自然環境の変化、支援と関係、態度などが共通しており、「活動と参加」が困難な場合は、この共通な環境因子が【阻害因子=できない】となっていると考えられる。

しかし、環境を整えても、活動や参加ができるわけではなく、介護の専門職として自立できる 支援を考えるとすれば、心身機能も同時に見ていく必要があると考えられる。

それにより、何を支援する必要があるのかが明確となり、根拠に基づく支援を行うことができるからである。一般的な課題は、人が生きていくうえでの必ず行うルーティンであり、人によって全く異なることであるからこそ、環境因子、心身機能の情報を整理し問題解決の工程をしっかり踏んでいく必要があると考えられる。

【一般的な課題】 【心理的要求】 単独で遂行 複数で遂行 d2400責任への対処 d2100 単純な単一課題の遂行 d 2203 グループでの複数課題の遂行 d2402ストレスへの対処 d2101 複雑な単一課題の遂行 d 2103 グループでの単一課題の遂行 d2402危機への対処 d2102 単独での単一課題の遂行 d2202 単独での複数課題の遂行 d 2301 日課の管理 d 2302 日課の達成 d2303自分の活動レベルの管理 心身機能 環境因子 障害がない 障害がある 促進因子=できる | 阻害因子=できない 視覚・聴覚の機能/上下肢の機能/音声言語 生産品と用具/自然環境と人間がもたらした 環境変化/支援と関係/態度 /活力と欲動の機能

一般的な課題と要求の活動に不可欠環境因子「環境因子と心身機能」

≪一般的な課題と要求≫担当著者が作成

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴

• • 関連する技術と知識の特徴 ≪一般的な課題と要求≫

このように考えると、環境因子を使って状況を分析すれば、「困難」を解決するための支援(介護)行動はかなりはっきりしてくる。しかし、いうまでもなく、一つ一つの「困難」を解決する支援(介護)は、「軽度の困難」から「完全な困難」まで、多様な内容と量があり得る。が、ここでも、それぞれの行動に直接対応する支援(介護)活動しか挙げていない。特に「完全な困難」に近づくにつれ、直接の対応ではない間接的は支援(介護)行動も関連してくる。しかし、現実のそれぞれの「困難」は「軽度の困難」が最も多いわけだし、自立を目指す(Well Being を目指す)支援(介護)活動という観点からも、支援(介護)の合理性を考える上でも、必要最小限の支援

(介護)にとどめるべきである。その意味でも、ここでは、困難の解決の直接対応する支援(介護)活動にみを上げている。この点に関しても、全部の章に共通すると言える。

なお、「一般的な課題と要求」について必要な支援(介護)とは、大雑把にいうならば日常において一般的に行われている行動・行為に対する支援である。「一般的」という概念は実は広すぎるために却ってそれを定義することが難しい。そのため、通常において一般的であると思われている、あるいは一般的であるとされている行動・行為、また、諸々の課題に通底するような全般的・全面的な共通事項を指すのであって、何かに専門分化した特別な課題は含まないこととする。

すでに2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察で述べたとおり、第2章の「一般的な課題と要求」は、①課題の内容の種類、②課題の内容の質(複雑さ)、③グループで取り扱うか個人で扱うか、という3つの次元から考えることができる。これに敢えて付け足すとするならば、④課題の量、⑤課題の難易度、である。つまり、支援・介護行動としてはこれらの視点からアプローチすることになる。①については課題の内容そのものによるため、ここでは触れないこととする。

②課題の内容の質(複雑さ)は、その課題が単純であるか、それとも複雑であるのかという切 り口である。この場合の複雑とは、「順次にあるいは同時に行われる2つ以上の構成要素からなる 複雑な単一の課題の遂行」を意味する。この部分は、構成要素が複数になるという複雑さを問う ているのであり、課題そのもの量的な問題ではない。一つの課題であっても複数の構成要素から 成り立っているため、それぞれの構成要素に対する支援が必要となる。たとえば、本の感想文を 書くという宿題をこなすためには、まず本を読み、次に感想文を書くという順序のある2つの課 題を遂行することになる。宿題のすべてを支援するのであれば、少なくともその2つの要素につ いての支援が必要である。ただし、実際には本を読むのは好きで得意だから特に支援は要らない が、感想文を書くことが苦手だという場合が往々にしてある。そのような場合は、支援が必要な ことのみを支援すればよい。つまり、課題の内容が複雑であるからといって、それをすべて支援 する必要はないといえる。ただし、気をつけないといけないのは、単純に要素を支援すればそれ でよいとはいえないことである。本を読む、文章を書くという2つの事柄が別々に存在する場合 は単にそれらをそれぞれ支援すればよいのだが、複雑な単一課題はその要素の順序が決まってい る、あるいは一つの要素が他の要素の条件となっている。そのような要素の関係性に起因する困 難性が生じている場合には、その困難を解消するための支援が必要である。複雑であるというこ とは、④のように単にその数量によるわけではないことに留意する必要がある。

また、③グループで取り扱うか個人で扱うかは、個人がグループの一員として行う課題の遂行を支援することは、個人の課題遂行を支援することより難しい。それは、支援する側はその個人とプループとの関係性やグループ内での役割を理解して支援しなければならないからである。さらに、グループの一員として役割を担っている活動を支援するにしても、それをすべて支援するのか、どの部分を支援するのかを考えるとともに、その支援がグループとしての課題遂行に及ぼす影響を考えねばならない。

④として、課題の量を挙げた。課題の内容が単純であってもその量が多い場合は、量が少ない 場合よりも支援の必要性は高いと考えられる。課題の内容が複雑であればなおさらであろう。

そして、⑤課題の難易度であるが、これについては単純な課題であるから難易度が低く、複雑な課題であるから難易度が高いとは限らない。たとえば、毎日 1000 歩以上は歩くという課題は、複雑であるとはいえないが、人によっては難易度が高いといえるのではないだろうか。

最後に、d240「ストレスとその他の心理的欲求への対処」であるが、これに含まれる d2400、d2401 等の下部構造の項目は、具体的な行動としての課題に加えて心理的課題に対するアプローチが多くなることが特徴であるといえる。ただし、身体的な負荷が心理面に影響するのと同時に、精神心理的な重圧が身体・生理面の変調の原因となる等、これらは相互に関連していることを十分に考慮して支援を行う必要がある。反対に、一見したところ身体的・動作的な課題の遂行も、当然のことながら心理的な側面への効果を含めて検討されるものであるといえる。

この点に関しては、一部自立のできない人の特徴について、マズローの欲求を基に考えてみると、一般的な課題は、【手紙を書きたい・料理をしたい】など生理的欲求に位置付けられる。生理的欲求とはつまり ADL の行為のことであり、ここが整っていないと自己実現はできない。介護の専門職としてまず、この生理的欲求を整えるために、ADL の何が困難なのかそのための阻害因

【心理的要求】 d2400責任への対処 d2402ストレスへの対処 【課題と要求の達成】 d2402危機への対処 成 長 袖 阻害となる環境因子 欲 的 自己実現の欲求 求 【一般的な課題】 支援と関係/態度 欲 求 d2100 単純な単一課題の遂行 承認欲求 生産品と用具 d2101 複雑な単一課題の遂行 自然環境と人間が 社会的欲求 d2102 単独での単一課題の遂行 もたらした環境変化 物 安全欲求 乏 d2202 単独での複数課題の遂行 視覚・視覚機能の障害 欲 質 求 的 欲 d 2301日課の管理 上下肢の構造の障害 生理的欲求 求 d2302日課の達成 d2303自分の活動レベルの管理 サイト看護roohttps://www.kangoroo.com/の図を引用し担当著者が作成

一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助) 「介護行動」の特徴

子は何かを抽出し、そのための支援を考える必要があると考えられる。

また、心理的欲求に関しては、【安全なのか・失敗しないのか】など安全の欲求に位置付けられる。生理的欲求が整うことにより生まれてくる次の欲求である。この欲求を満たすためには、起きうるリスクはなにか?安心できる対処は何かを抽出することが必要である。ここが整うと精神的欲求の向上が期待される。

そして、一段ずつ困難な課題を支援することでもう一段階上の【愛されたい】社会的欲求となり、さらに【人に認められたい】承認欲求へと成長していき、最終的に自己実現=Well Being³⁷に到達できる。つまり、介護の専門職として、この Well Being にどれだけ近づけるよう支援をするためには、まずは下の欲求の阻害因子を整える支援をしていく事が必要ではないだろうか。

-

³⁷ テキスト 204 頁参照

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪一般的な課題と要求≫

d210 単一課題の遂行 undertaking a single task

単一の課題を構成しているさまざまな精神的および身体的な要素に関連した、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、1つの課題への着手や、1つの課題のために必要な時間、空間、材料の調整。課題遂行のペースの決定。1つの課題の遂行、完成、維持。含まれるもの:1つの単純もしくは複雑な課題の遂行。単一の課題を単独に、もしくはグループで遂行すること。

除かれるもの: 技能の習得 (d155), 問題解決 (d175), 意思決定 (d177), 複数課題の遂行 (d220)

d2100 単純な単一課題の遂行 undertaking a simple task

単純な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。一つの主要な構成要素からなる単純な単一課題を遂行すること。例えば、本を読むこと、手紙を書くこと、ベッドを整えること。

				T	
①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.課題(生活の	軽度の	①の1~5まで共	1.課題を発見できてい	0. (全体に)	
中の活動と参加	困難	通の社会資源(第2	るか状況を確認し判断	0.1.複数の問題解決	
に関する)を発	5-	レベル項目は、①の	できる	技法に関する知識と	
見できる	24%	内容によって異な	1.1.発見した事を称賛	技術	
	中等度	る場合がある)	できる	0.2問題解決を楽し	
2.その課題に関	の困難	1.当該の課題や要		んでいけるブレない	
する情報を集め	25-	求に関する生産品	2.その課題に関する情	知識	
ることできる	49%	と用具や、自然環境、	報の集め方に関しての	0.3.様々な取りくみ	
	重度の	制度政策など(e1.	ノウハウを提供できる	に共感を示していく	
3.その課題に関	困難	e2 および e5.)	3.適切な共同関係を成	技術	
し必要に応じ	50-		立させていくことがで	O.4.適切なタイミン	
て、共感してい	95%	2.当該の課題や要	きる	グで助言していく技	
る人と、チーム	完全な	求に関する支援の	4.課題の解決目標の設	術	
が組める	困難	関係 (e3・特に	定に適切な共感や助言	1.2.対象となってい	
	96-	e310	ができる	る課題に関し、情報を	
4.その課題の解	100%	,e340,e360 など)	5. 解決目標に向けて	集める知識、技術	
決目標を定める		及び関係者の態度	の時間的空間的な解決	3.仲間と共に共感し	
ことができる		(e4・特に e410	計画を作成に関し、適	ていく方法に関する	
		,e440,e460 など)	切な共感や助言ができ	知識と技術	
5.解決目標に向			る。用品の調達などの	4.複数の目標設定を	
けて時間的な配			準備を支援できる	提示できる知識と技	
慮や空間的な配			6. 計画を実践かつ同	術。選択の仕方に関す	
慮を含め、解決			の支援ができる	る知識と技術	

			1	
計画を作成し、			5.実践可能な計画立	
材料の調達など		7. 解決計画を実践し	案の知識や技術	
の準備すること		た効果検証を共同で行	6.課題遂行上、留意す	
ができる		うなど、共感を示し適	べきポイントに関す	
		切な支援ができる	る知識と、それを適切	
6. 問題解決の			な状況で提供する技	
着手し、計画の		8.実践結果の維持に関	術	
執行ができる。		して支援できる	7.効果検証に関する	
(細かな変更を			知識と技術	
含めて)			 8.実践結果の維持方	
			法などの関する知識	
7. 解決計画を			と技術	
実践した効果を				
確認することが				
できる				
8. 実践して得				
た成果を維持で				
きる				

参考文献

高田貴久・岩澤智之著「問題解決『あらゆる課題を突破するビジネスパーソン必須の仕事術』」英治 出版 2014 年

C. M. ライゲルース、B. J. ビーティ、R. D. マイヤーズ編「インストラクショナル・デザイン論とモデル」北大路書房 2020 年

d2101 複雑な単一課題の遂行 undertaking a complex task

複雑な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。順次にあるいは同時に行われる2つ以上の構成要素からなる複雑な単一の課題を遂行すること。例えば、自宅の家具を配置すること、学校の宿題をすること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.行うべき課題 が 理解できている	軽度の 困難 5- 24%	1.1~5.1 課題を達成するために必要な用具。 (時計・日常生活用	1.1.1 行うべき課題が 理解できているかを把 握し、理解できるよう に情報の提供や助言が	1.1.1.1~5.1.1.1 b210 視覚機能の知識 b210	
2.その課題につ いての情報収集 ができる	中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難	具・学習用具・机・ 椅子 e1150、 e1300 適度な照明 e240 室内の室温 e2251 家族 e310	できる 2.1.1 情報収集ができるように、情報の提供や助言ができる	聴覚機能の知識 S730 上肢の構造の知識 S750 下肢の構造の知識	

3.課題を遂行す	50-	親族 e315	3.1.1 空間や時間配分	1.1.1.2~5.1.1.2	
る空間や時間配	95%	権限をもつ立場に	の設定ができ、遂行す	該当する課題を	
分の設定がで	完全な	ある人々e330	る手順を整理すること	遂行できる技術	
き、遂行する課	困難	教師その他の専門	ができるよう情報提供		
題の手順を整理	96-	職	や助言ができる		
することができ	100%	e360 教員など			
る					
			4.1.1 何が必要か、手		
4.課題に必要な			順を確認しながら着手		
物品を準備し.同			することができるよう		
時にまたは順次			に支援ができる		
に2つ以上の課					
題に着手するこ					
とができる					
			5.1.1 継続して課題を		
5.継続して課題			遂行していくことがで		
を遂行していく			きるよう支援ができる		
ことができる					

d2102 単独での単一課題の遂行 undertaking a single task independently

独力で他者の援助なしに、単純もしくは複雑な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	4)支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
		9 分塚児四丁			5
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.他社の援助な	軽度の	1.1~5.1	1.1.1 行うべき課題が	1.1.1.1~5.1.1.1	
しに独力で行う	困難	課題を達成するた	理解できているかを把	b210	
べき課題が理解	5-	めに必要な用具。	握し、理解できるよう	視覚機能の知識	
できている	24%	(時計・日常生活用	に情報の提供や助言が	b210	
	中等度	具・学習用具・机・	できる	聴覚機能の知識	
2.その課題につ	の困難	椅子 e1150、		S730	
いての情報収集	25-	e1300	2.1.1 情報収集ができ	上肢の構造の知識	
ができる	49%	適度な照明 e240	るように、情報の提供	S750	
	重度の	室内の室温 e2251	や助言ができる	下肢の構造の知識	
3. 課題を遂行す	困難	家族 e310			
る空間や時間配	50-	 親族 e315	3.1.1 空間や時間配分	1.1.1.2~5.1.1.2	
分の設定がで	95%	権限をもつ立場に	の設定ができ、遂行す	該当する課題を	
き、遂行する課	完全な	ある人々e330	る手順を整理すること	遂行できる技術	
題の手順を整理	困難	教師その他の専門	ができるよう情報提供		
することができ			や助言ができる		
3	96-		N的目N. (CQ		
S	100%	e360 教員など			

4.課題に必要な	4.1.1 何が必要か、手
物品を準備し、	順を確認しながら着手
着手することが	することができるよう
できる	に支援ができる
	5.1.1 継続して独力で
5.継続して独力	課題を遂行していくこ
で課題を遂行し	とができるよう支援が
ていくことがで	できる
きる	

d2103 グループでの単一課題の遂行 undertaking a single task in a group

単純もしくは複雑な単一の課題を、その一部または全段階を他者と協力しながら行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。

①人として具体的行動(行動の	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
要素•因子)	評画点 困難な し 0-4%	支援を要しない	護能力)記入しない	記入しない	
1.グループで行 う課題というこ とを理解できて いる	軽度の 困難 5- 24% 中等度	1.1~5.1 課題を達成するために必要な用具 (時計・日常生活 用具・学習用具・	1.1.1 行うべき課題が 理解できているかを把 握し、理解できるよう に情報の提供や助言が できる	1.1.1.1~5.1.1.1 b210 視覚機能の知識 b210 聴覚機能の知識	
2.その課題につ いての情報収集 ができる	の困難 25- 49% 重度の 困難	机・椅子 e1150、 e1300 適度な照明 e240 室内の室温 e2251 家族 e310	2.1.1 情報収集ができるように、情報の提供や助言ができる	S730 上肢の構造の知識 S750 下肢の構造の知識	
3.課題を遂行する空間や時間配分、手順が理解できる	50- 95% 完全な 困難 96-	親族 e315 権限をもつ立場に ある人々e330 教師その他の専門 職 e360 教員など	3.1.1 課題を遂行する 空間や時間配分、手順 を理解できるよう情報 提供や助言ができる	1.1.1.2~5.1.1.2 該当する課題を 遂行できる技術	
4.課題に必要な物品を準備し、グループ内で決められた自分の役割について理解し着手することができる	100%	494 0000 1754 C	4.1.1 課題に必要な物品を準備し、グループ内で決められた自分の役割について理解し着手できるよう支援ができる		
5.継続してグル ープの一員とし			5.1.1 継続しグループ の一員として課題が遂		

て課題を遂行し		行できるよう支援がで	
ていくことがで		きる	
きる			

d220 複数課題の遂行 undertaking multiple tasks

順次あるいは同時に行うべき、多数の統合され複雑な課題があり、それを構成するさまざまな要素としての、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。

含まれるもの:複数課題の遂行,複数課題の達成,複数課題を単独に,もしくはグループで遂行すること。

除かれるもの: 技能の習得 (d155), 問題解決 (d175), 意思決定 (d177), 単一課題の遂行 (d210)。

d2200 複数課題の遂行 carrying out multiple tasks

いくつかの課題を同時あるいは順次に行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整し、またそれらの課題を管理し、遂行すること。

100macety, Eligoce.								
①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備			
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考			
要素•因子)	評価点		(介護能力)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない				
	し							
	0-4%							
1.行うべき課題	軽度の	1.1~5.1	1.1.1 行うべき課題	1.1.1.1~5.1.1.1				
が複数であるこ	困難	課題を達成するため	が複数であることが	b210				
とが理解できる	5-	に必要な用具(時	理解できているかを	視覚機能の知識				
	24%	計·日常生活用具·	把握し、理解できるよ	b210				
	中等度	学習用具・机・椅	うに情報の提供や助	聴覚機能の知識				
	の困難	e1150, e1300	言ができる	S730				
2.その課題につ	25-	適度な照明 e240		上肢の構造の知識				
いての情報収集	49%	室内の温度 e2251	2.1.1 情報収集がで	S750				
ができる	重度の	家族 e310	きるように、情報の提	下肢の構造の知識				
	困難	親族 e315	供や助言ができる					
3. 課題を遂行す	50-	権限をもつ立場にあ		1.1.1.2~5.1.1.2				
る空間や時間配	95%	る人々e330	3.1.1 課題を遂行す	該当する課題を				
分、課題の優先	完全な	教師その他の専門職	る空間や時間配分、課	遂行できる技術				
順位について整	困難	e360 教員など	題の優先順位を手順					
理し手順を決め	96-		決めることができる					
ることができる	100%		よう情報提供や助言					
			ができる					
4.課題に必要な			4.1.1 課題に必要な					
物品を準備し.課			物品を準備し、課題を					
題を順次または			順次または同時に着					
同時に着手する			手できるよう支援が					
ことができる			できる					

5. 継続して課		5.1.1 継続して課題	
題を遂行してい		が遂行できるよう支	
くことができる		援ができる	

d2201 複数課題の達成 completing multiple tasks

いくつかの課題を同時または順次に達成すること。

くつかの課題を同時または順次に達成すること。							
①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備		
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考		
要素•因子)	評価点		(介護能力)				
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない			
	U						
	0-4%						
1.行うべき課題	軽度の	1.1~6.1	1.1.1 行うべき課題	1.1.1.1~6.1.1.1			
が複数であるこ	困難	課題を達成するため	が複数であることが	b210			
とが理解できる	5-	に必要な用具。(時	理解できているかを	視覚機能の知識			
	24%	計・日常生活用具・	把握し、理解できるよ	b210			
	中等度	学習用具・机・椅子	うに情報の提供や助	聴覚機能の知識			
	の困難	e1150, e1300	言ができる	S730			
2.その課題につ	25-	適度な照明 e240		上肢の構造の知識			
いての情報収集	49%	室内の温度 e2251	2.1.1 情報収集がで	S750			
ができる	重度の	家族 e310	きるように、情報の提	下肢の構造の知識			
	困難	親族 e315	供や助言ができる				
3.その課題につ	50-	権限をもつ立場にあ		1.1.1.2~6.1.1.2			
いて達成できる	95%	る人 e330	3.1.1 その課題につ	該当する課題を			
目標を立てるこ	完全な	教員その他の専門職	いて達成できる目標	遂行できる技術			
とができる	困難	e360 教員など	を立てることができ				
	96-		るよう助言ができる				
4.課題を遂行す	100%						
る空間や時間配			4.1.1 課題を遂行す				
分、課題の優先			る空間や時間配分、課				
順位について整			題の優先順位を手順				
理し手順を決め			決めることができる				
ることができる			よう情報提供や助言				
			ができる				
5.課題に必要な							
物品を準備し.課							
題を順次または			5.1.1 課題に必要な				
同時に着手する			物品を準備し、課題を				
ことができる			順次または同時に着				
			手できるよう支援が				
6.着手した課題			できる				
について、目標							
が達成できたか			6.1.1 着手した課題				
振り返ることが			について、目標が達成				
できる			できたか振り返るこ				

	とができるよう支援	
	ができる	

d2202 単独での複数課題の遂行 undertaking multiple tasks independently

いくつかの課題を同時または順次に,独力で他者の援助なしに行うのに必要な時間や空間を準備, 着手,調整し,また複数の課題を管理し,遂行すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	4 支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.行うべき課題	軽度の	1.1~5.1	1.1.1 行うべき課題	1.1.1.1~5.1.1.1	
が独力で行うこ	困難	課題を達成するため	が単独であることが	b210	
とが理解できる	5-	に必要な用具。(時	理解できているかを	視覚機能の知識	
	24%	計・日常生活用具・	把握し、理解できるよ	b210	
	中等度	学習用具・机・椅子	うに情報の提供や助	聴覚機能の知識	
	の困難	e1150, e1300	言ができる	S730	
2.その課題につ	25-	適度な照明 e240		上肢の構造の知識	
いての情報収集	49%	室内の温度 e2251	2.1.1 情報収集がで	S750	
ができる	重度の	家族 e310	きるように、情報の提	下肢の構造の知識	
3.課題を遂行す	困難	親族 e315	供や助言ができる		
る空間や時間配	50-	権限をもつ立場にあ	3.1.1 課題を遂行す		
分、課題の優先	95%	る人 e330	る空間や時間配分、課	該当する課題を	
順位について整	完全な	教師その他の専門職	題の優先順位を手順	遂行できる技術	
理し手順を決め	困難	e360 教員など	決めることができる		
ることができ	96-		よう情報提供や助言		
る。	100%		ができる		
4 = 9 = 10 = 1/2 = 1					
4.課題に必要な					
物品を準備し、課			4.1.1 課題に必要な		
題を順次または			物品を準備し、課題を		
同時に着手する			順次または同時に着		
ことができる			手できるよう支援が		
			できる		
5. 継続して課					
題を独力で遂行			5.1.1 継続して課題		
していくことが			が独力で遂行できる		
できる			よう支援ができる		

d2203 グループでの複数課題の遂行 undertaking multiple tasks in a group

いくつかの課題を同時または順次に、その一部または全段階を他者と協力しながら行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整し、また複数の課題を管理し、遂行すること。

	ı	Т	T -	T .	
①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.行うべき課題	軽度の	1.1~5.1	1.1.1 行うべき課題	1.1.1.1~5.1.1.1	
が複数でありグ	困難	課題を達成するため	 がグループで行うこ	b210	
ループで行うこ	5-	に必要な用具(時	とであると理解でき	 視覚機能の知識	
とだと理解でき	24%	計・日常生活用具・	ているかを把握し、理	b210	
る	中等度	学習用具・机・椅子	解できるように情報	聴覚機能の知識	
	の困難	e1150, e1300	の提供や助言ができ	S730	
	25-	適度な照明	る る	上肢の構造の知識	
	49%	(e240)	•	S750	
2.その課題につ	<u>年976</u> 重度の	CC2+0/ 室内の温	 2.1.1 情報収集がで	下肢の構造の知識	
いての情報収集	国難	(e2251)	さるように、情報の提		
ができる	50-	家族 (e310)	供や助言ができる	1.1.1.2~5.1.1.2	
72 (6.9)		教族 (e315)	一 年 6 的目が、6 日 の		
 3. 課題を遂行す	95%	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	つれる 無限を送行す	該当する課題を	
	完全な	権限をもつ立場にあ	3.1.1 課題を遂行す	遂行できる技術	
る空間や時間配	困難	る人(e330)教師そ	る空間や時間配分、課		
分、課題の優先	96-	の他の専門職	題の優先順位を手順		
順位について整	100%	(e360) 教員など	決めることができる		
理し手順を決め			よう情報提供や助言		
ることができる			ができる		
4.課題に必要な					
物品を準備し.課			4.1.1 課題に必要な		
題を順次または			物品を準備し、課題を		
同時にグループ			順次または同時にグ		
内で協力して着			ループ内で協力して		
手することがで			着手できるよう支援		
きる			ができる		
5.継続して課題			5.1.1 グループのー		
をグループの一			員として課題を継続		
員として遂行し			して遂行できるよう		
ていくことがで			支援ができる		
きる			-		
	l .	l	l	I .	

d230 日課の遂行 carrying out daily routine

日々の手続きや義務に必要なことを、計画、管理、達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、1日を通してのさまざまな活動の時間を配分し、計画を立てること。

含まれるもの:日課の管理,達成,自分の活動レベルの管理。

除かれるもの:複数課題の遂行(d220)。

d2301 日課の管理 managing daily routine

日々の手続きや義務に必要なことを計画し、管理するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.自分が遂行する る日課が何かを決めることができる 2.遂行する日課	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25-	1.1~5.1 日課を遂行するため に必要な用具(時計・ 日常生活用具・学習用 具・机・椅子・インタ ーネット・眼鏡・ルー ペ) e1150、e1250	1.1.1 自分が行うべき 日課を整理することができるよう、情報提供や助言ができる 2.1.1 遂行する日課	1.1.1.1~5.1.1.1 b210 視覚機能の知識 b210 聴覚機能の知識 S730 上肢の構造の知識	
について優先順 位を決めること ができる	25- 49% 重度の 困難 50-	e1300、e1230 e1300、e5350 適度な照明 e240 室内の温度 e2251 時間的な変化	について優先順位を 決めることができる よう情報提供や助言 ができる	S750 下肢の構造の知識 1.1.1.2~5.1.1.2	
3.空間や時間の 配分ついて整理 し、日課の計画 を決めることが できる	95% 完全な 困難 96- 100%	e2450	3.1.1 空間や時間の配分ついて整理し、日課の計画を決めることができるよう情報提供や助言ができる	該当する日課を遂行し管理できる技術	
4.その行為に必要な物品が準備でき日課に着手できる			4.1.1 その行為に必要な物品が準備でき日課に着手できるよう支援ができる		
5.日課が遂行で きたか確認する ことができる			5.1.1 日課が遂行できたか確認することができるよう支援ができる		

d2302 日課の達成 completing the daily routine

日々の手続きや義務に必要なことを達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為を 遂行すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		

	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	世無る	文版で女 ひない			
	0-4%				
1.自分が遂行す	軽度の	1.1~6.1	1.1.1 自分で遂行す	1.1.1.1~6.1.1.1	
る日課が理解で	困難	日課を遂行するため	る日課が理解できる	b210	
きる	5-	に必要な用具。(時	よう情報提供や助言	視覚機能の知識	
	24%	計・日常生活用具・	ができる	b210	
	中等度	学習用具・机・椅		聴覚機能の知識	
2.遂行する日課	の困難	子・インターネッ	2.1.1 遂行する日課	S730	
について優先順	25-	ト・眼鏡・ルーペ)	について優先順位が	上肢の構造の知識	
位が理解できる	49%	e1150, e1250	理解できるよう情報	S750	
	重度の	e1300、e5350	提供や助言ができる	下肢の構造の知識	
	困難	適度な証明(240			
3.日課を達成す	50-	室内の温度 e2251	3.1.1 日課を達成す		
るための目標を	95%	時間的な変化	るための目標を立て		
立てることがで	完全な	e2450	ることができるよう	遂行し達成できる技	
きる	困難		情報提供や助言がで	術	
4 = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	96-		きる		
4.空間や時間の	100%				
配分ついて整理			4.1.1 空間や時間の		
し、日課の計画			配分ついて整理し、日		
を決めることが			課の計画を決めることができるよう情報		
できる			とができるよう情報		
 5.その行為に必			提供や助言ができる 		
要な物品が準備			 5.1.1 その行為に必		
でき遂行するこ			S.1.1		
とができる			遂行することができ		
2.3 (3.0			るよう支援ができる		
6.遂行した日課					
について、目標			 6.1.1 遂行した日課		
が達成できたか			について、目標が達成		
振り返ることが			できたか振り返るこ		
できる			とができるよう支援		
			ができる		_

d2303 自分の活動レベルの管理 managing one's own activity level

日々の手続きや義務に必要なエネルギーや時間を調整するための、行為や行動を遂行すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	3先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の	1.1~5.1	1.1.1 自分が遂行す	1.1.1.1~5.1.1.1	
	困難		る行為や行動が理解	b210	

					\neg
1.自分が遂行す	5-	行為や行動を遂行す	できるよう情報提供	視覚機能の知識	
る行為や行動が	24%	るために必要な用具。	や助言ができる	b210	
理解できる	中等度	(時計・日常生活用		聴覚機能の知識	
	の困難	具・学習用具・机・椅	2.1.1 その行為や行	S730	
	25-	子・インターネット・	動について空間や時	上肢の構造の知識	
2.その行為や行	49%	眼鏡・ルーペ)	間の配分を理解でき	S750	
動について空間	重度の	e1150, e1250	るよう情報提供や助	下肢の構造の知識	
や時間の配分を	困難	e1300, e5350	言ができる		
理解している	50-	適度な証明 e240		1.1.1.2~5.1.1.2	
	95%	室内の温度 e2251	3.1.1 遂行する、日々	該当する行為や行動	
3.遂行する、	完全な	時 間 的 な 変 化	の手続きや義務の優	を遂行し達成できる	
日々の手続きや	困難	e2450	先順位が計画できる	技術	
義務の優先順位	96-		よう情報提供や助言		
が計画できる	100%		ができる		
4.その行為や行			4.1.1 その行為や行		
動に必要な物品			動に必要な物品が準		
が準備でき遂行			備でき遂行できるよ		
できる			う支援ができる		
5.計画通りに			5.1.1 計画通りに		
日々の手続きや			日々の手続きや義務		
義務が遂行でき			が遂行できたか振り		
たか振り返るこ			返ることができるよ		
とができる			う支援ができる		

参考文献

- 1. 創造的な問題解決・課題達成のための一般的な方法論を確立しよう For Establishing General Methodology of Creative Problem Solving & Task Achieving 中川 徹 NAKAGAWA Toru 大阪学院大学 名 誉教授 Osaka Gakuin University, Professor Emeritu
- 2. 中川 徹 (2012)「創造的な問題解決・課題達成の方法の体系を確立し、普及させる-複数モデル構 築法が導いた新しい目標の認識 」、『 TRIZ ホームページ』(http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2012Papers/Naka-GeneralPSMethod/Naka-GeneralP SMethod-121130.htm)[2013, Feb. 15

d 240 ストレスとその他の心理的要求への対処 handling stress and other psychological demands

責任重大で、ストレス、動揺、危機を伴うような課題の遂行に際して、心理的要求をうまく管理 し、統制するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例え ば、交通渋滞の中で乗り物を運転すること。多数の子どもの 世話をすること。

含まれるもの:責任への対処、ストレスや危機の対処。

d2400 責任への対処 handling responsibilities

課題遂行の責任を管理し、これらの責任が要求するものを査定するための、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。

Q 1 1 1 7 B 4			@# o + ## + / = + +	Q+55/53/53/54	1++
①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 自分の責任	軽度の	1.1~12.1	1.1.1 行動には責任	1.1.1.1	
の範囲について	困難	①生産品と用具・・あ	が伴うことを伝える	12.1.1.2	
知ることができ	5-	らゆる生産品と用具	ことができる	権利と義務について	
る	24%	について、それらを使	1.1.2 責任が範囲を	規定されている法律	
	中等度	用することの責任が	知るために支援する	の知識	
	の困難	すると考えられる・・	ことができる		
	25-	e110~e198 (たと		契約に関する知識と	
	49%	えば、e1501「公共	2.1.1 責任の範囲に	技術	
2. 自分の責任	重度の	のトイレの手洗い設	ついて考えるための		
の範囲を明確に	困難	備、公衆電話等」、	教示を与える等の支	自分自身の言動を管	
示すことができ	50-	e1650「金銭」等)	援をすることができ	理・統制するための知	
る	95%		る	識と技術	
	完全な	②自然環境・・自分の	2.1.2 責任の範囲を		
	困難	行動が自然環境を変	明確にするために助		
	96-	えたり、自然環境に影	言することができる	5.1.1.1 コミュニケ	
	100%	響を受けたりすると、	2.1.3 責任の配意に	ーションに関する知	
		それには責任が伴っ	ついて一緒に考える	識と技術	
		たり、新たな責任が生	ことができる		
		じたりすることが考		12.1.1.1、12.1.1.2	
3. 自分の責任		えられる・・e210~	3.1.1 責任の根拠に	アサーショントレー	
であることの根		e298(e2100「地形	ついて助言すること	ニング(自己主張訓	
拠を示すことが		の改変」、e230「大地	ができる	練)、アサーティブな	
できる		震」、e235「大気汚		態度、アサーション権	
		染」等)		に関する知識と技術	
4. 自分の責任			4.1.1 責任の所在に		
である事柄につ		③支援と関係・・さま	気づくために支援す	ネゴシエーションに	
いて、その責任		ざまな人との関係に	ることができる	関する知識と技術	
を自覚すること		おいて、相互に責任が	4.1.2 責任を自覚す		
ができる		生じる・・e310~	るための示唆を与え		
		e398	ることができる		
			4.1.3 本人が責任を		
		④態度・・さまざまな	自覚している度合い		
		人の態度によって、責	を把握することがで		
		任への対処の仕方が	きる		
		変化し得る・・e410			
5. 自分の言動		~e498	5.1.1 本人の言動が		
が社会や他者に			社会や他者に及ぼす		
及ぼす影響を考		⑤サービス・制度・政	影響をともに考える		
えることができ		策・・責任への対処に	ことができる		
る		関するサービス・制	5.1.2 本人の言動が		
			社会や他者に及ぼす		
		I		I	l

		I	
	度•政策等••e510	影響について客観的	
	~e598	な意見を述べること	
		ができる	l
		72 (6.9)	
6. 責任を果た		6.1.1 責任を果たす	l
すための具体的		ための具体的な方法・	l
な方法・手段・行		手段・行動をともに考	l
		- ,,, , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
動を考えること		えることができる	
ができる		6.1.2 責任を果たす	l
		ための具体的な方法・	
		手段・行動を考えるた	
			l
		めに支援することが	l
		できる	l
7. 責任を果た			l
		フィィ 中吸に伝動で	l
すために実際に		7.1.1 実際に行動で	
行動することが		きるように支援する	
できる		ことができる	
8. 自分の責任		8.1.1 責任の所在に	l
			l
であると認める		ついて助言すること	l
ことができる		ができる	l
9. 自分の責任		9.1.1 責任の軽重に	l
の軽重を客観的		ついて助言すること	l
			l
に評価・判断す		ができる	
ることができる			l
10. 自分の責任		10.1.1 本人が責任を	l
を果たすための		果たすために障害と	l
			l
妨げとなる事柄		なっている事柄を把	l
について認識す		握することができる	l
ることができる		10.1.2本人が責任を	
		果たすために障害と	l
		なっている事柄に気	l
			l
		づくように支援する	l
		ことができる	
11. 自分の責任			
を果たすための		 11.1.1 本人が責任を	
妨げとなる事柄		果たすための障害と	
を排除、または		なっている事柄を、取	
緩和するための		り除くための行動を	
行動をとること		支援することができ	
ができる		る	
12. 自分の責任		12.1.1 本人の責任で	
ではないことに		ない事柄に対する本	
ついて、責任外		人の主張を支持する	
であることを主		ことができる。	
張することがで		12.1.2 責任の所在	
きる		を客観的に判断して	
C Ø	1	一心合既己に世団して	

	支援することができ	
	る	

d2401 ストレスへの対処 handling stress

課題遂行に関連したプレッシャー,非常事態,ストレスにうまく対処するために求められる,単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.ストレスがあ ることに気づく ことができる	軽度の 5- 24% 中原困 25- 49% 重難 50-	1.1~10.1 ①生産品と用具・・あらゆる生産品と用具について、それらの使用によるストレスの発生・増大と低減・緩和が考えられる・e110~e198(e110「ストレスを和らげる効果のある薬・サプリメント	1.1.1 本人のストレス状態 (ストレス反応)を把握することができる (行動の観察、ストレスチェックの結果、ストレスホルコイド)の血液検査の結果 等により) 1.1.2 本人のストレス状態を当事者本人	1.1.1.1 10.1.3.1 ストレスの機序と生理作用に関する知識 ストレス対策とメンタルヘルスに関する 知識と技術 スーパービジョンの知識と技術	
2.自分のストレ スの原因につい て考えることが できる	95% 完全な 困難 96- 100%	e1100, e1101」、 e155「ストレッサーで 155「ストレッサーで 255「ストレッサーで 355「ストレッサーで 255」 255 できる場所・空間 (第55 を発散できる場所・第55 を発動できる場所・第55 を発動できる場所・できる場所・できる場所・できる場所・ファットを選びませる自然環境とでは 255 を見います。 255 を	に説明する 2.1.1 本人のストレッション 2.1.1 本人のストレス要因で ストレス 2.1.2 ステレス 2.1.2 ステレス 2.1.2 ステレス 2.1.3 ステレス 2.1.3 スター 2.1.3	「フラストレーショ ントレランス(欲求不 満耐性)」「レジリエン	
3.ストレスを緩 和する意欲と意 思があり、その ために何らかの 行動を起こすこ とができる		の状態・・e210~ e298 (e215人口・ 住民→「生活空間の人 口密度と地域の人的 集団」という意味で、 また、e245時間的変 化→「自分が自由に使	3.1.1 ストレス緩和のための行動を支持し、支援することができる	方法に関する知識と 技術 1.1.2.1 血液検査に よるストレスホルモ ン (糖質コルチコイ ド)の測定と結果に関 する知識	

	1	1	,
	うことのできる時間」		
4.ストレッサー	という意味で、これら	4.1.1 本人の行動を	4.1.1.1、
となる他者に対	を含む)	支持し、寄り添い、励	4.1.2.1、
して、自分の意		ますことができる	8.1,2.1 アサーショ
	○士博と関係・・フト	4.1.2 本人が自己主	ひトレーニング(自己
見を主張した	③支援と関係・・スト	*	·
り、反論するこ	レスの要因となる支	張することを支援す	主張訓練)、アサーテ
とができる	援と関係・・e310~	ることができる	ィブな態度、アサーシ
	e398(「心身の変化	4.1.3 本人に付き添	ョン権に関する知識
	を指摘してくれたり、	うことができる	と技術
	気づいてくれたりす		
5.ストレスやプ	る家族・友人との関	5.1.1 ストレスやプ	5.1.1.1
レッシャーとな	係」、「相談にのってく	レッシャーとなる事	5.1.2.1
るような事象	れる、または相談でき	象についての多角的・	8.1.2.1 リフレーミ
を、多角的・多面	る家族・友人・専門	多面的な見方につい	ングの知識と技術
的に捉えること	職」、	て助言することがで	
ができる		きる	
	④態度・・ストレスの	5.1.2 ストレスやプ	8.1.2.1 漸進的弛緩
	要因となる人や社会	レッシャーとなる事	法に関する知識と技
	の態度・・e410~	象の見方を変えるた	術
	e498	めの具体的な方法を	 8.1.2.2 ストレスを
	04 90		
		教示することができ	軽減させる食品や薬
	⑤サービス・制度・政	る	物に関する知識
6.突発的な出来	策・・ストレスへの対		
事に対しても、	処に関するサービス・	6.1.1 本人の状態	9.1.1.1、9.1.2.1、
冷静に考え、対	制度•政策等••e510	(平静さ、動揺等)を	10.1.2.1、10.1.3.1
処することがで	~e598	把握することができ	社会資源とソーシャ
きる		る	ルサポートネットワ
		6.1.2 本人の現在の	ークに関する知識と
		状態を、当事者本人に	技術
		正しく伝えることが	
7.他者の言動に		できる	労働安全衛生法及び
対して、柔軟に			関連法規に関する知
対応することが		7.1.1 他者の言動に	識
できる		よる本人の心情を察	
		して、適切に助言する	
0フトレフを低			
8.ストレスを低		ことができる	
減するために自			
分に適した対処		81.1 本人のストレ	
方法をとること		スコーピング(ストレ	
ができる		ス対処能力、コーピン	
		グスキル)を把握する	
		ことができる	
		8.1.2 ストレスを低	
		ii ii ii ii ii ii ii i	
		方法を、状況に応じて	
		提示することができ	
		る	

9.自分で解決で	9.1.1 専門機関等に
きない時には、	関する情報を提供す
専門機関等の社	ることができる
会資源を自ら利	9.1.2 専門機関等の
用することがで	利用するための支援
きる	を行うことができる
	10.1.1 本人からの
10.自分で解決	相談を受け止め、支持
できない時に	的に関わることがで
は、他者を頼る	きる
ことができる	10.1.2 解決方法を
	ー緒に考え、最善の方
	法を提案することが
	できる
	10.1.3 解決に向け
	ての本人の意思を確
	認し、意向を踏まえた
	支援を行うことがで
	きる

d2402 危機への対処 handling crisis

急激に起こった危険や困難にさらされた状況や時間において、決定的な転機にうまく対処するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術•知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 危機に気づ	軽度の	1.1~11.1	1.1.1 当事者本人が	1.1.1.1~	
き、危機である	困難	①生産品と用具・・	何らかの危機的な状	11.1.1.1	
ことを認識する	5-	e110~e198	況に陥っていること	自分の心身や周囲へ	
ことができる	24%		を把握することがで	の危機に関する理論	
		②自然環境・・危機の	きる	の知識と、危機への対	
		原因となったり危機	1.1.2 危機的な状況	応を支援する技術	
		の度合いを増大・緩和	に陥っていることを		
		させる自然環境とそ	説明し、そのような状	カウンセリングの方	
		の状態・・e210~	況にあるということ	法に関する知識と技	
		e298	を伝えることができ	術	
			る		
		③支援と関係・・危機		7.1.1.1 グリーフケ	
2.危機の状況・		の要因となる支援や	2.1.1 当事者の危機	アに関する知識と技	
程度を判断する		関係・・e310~	的な状況を客観的に	術	
ことができる		e398	判断・評価することが		
			できる	7.1.1.1、	

	④態度・・危機に影響	2.1.2 危機的な状況	8.1.1.1、
	を及ぼすところの人	の程度を客観的に判	9.1.1.1 相談機関に
	や社会の態度・・	断できるような情報	関する知識
	e410~e498	を提供することがで	
		きる	11.1.1.1 リフレー
	⑤サービス・制度・政		ミングの知識と技術
3.危機に陥るこ	策・・危機に際して利	3.1.1 現在の状況を	
とを事前に推測	用するサービス・制	踏まえ、危機に陥る要	
することができ	度•政策等••e510		
3	~e598	することができる	
	0000	3.1.2 現在の状況を	
		本人とともに考える	
		ことができる	
		CCN, (90	
4		 4.1.1 危機を防ぐた	
4.危機を防ぐた			
めの方法を考え		めの方法について示	
ることができる		唆を与えることがで	
		きる	
		4.1.2 危機を防ぐた	
		めの方法を本人と一	
		緒に考えることがで	
		きる	
5.危機に瀕した		5.1.1 起こり得る危	
場合を想定し、		機を想定することが	
予め備えること		できる	
ができる		5.1.2 起こり得る危	
		機とそのための備え	
		について示唆を与え	
		ることができる	
 6.危機を回避す		 6.1.1 危機を回避す	
0.厄機を回避9		O.1.1 危機を凹避り る行動を支援するこ	
とができる		る行動を又抜りることができる	
CN. (GØ		CN. (GØ	
 7.危機を乗り越		 7.1.1 危機を乗り越	
えるための適切		えるための方法を一	
な方法を選択し		緒に考えることがで	
し、対処するこ		さる	
とができる		00 7.1.2 危機を乗り越	
C11 (C13)		7.1.2 心機を乗り越 えるための方法を提	
		えるにめの万法を提	
		」 かし、助言することが 「できる	
8. 危機に際し		(C.0)	
て、他者に助け		 8.1.1 他者に助けを	
を求めることが		水めることができる	
できる		ことを伝えることが	
		できる	

9.危機を乗り越		9.1.1 危機を乗り越	
えるために社会		えるための社会資源	
資源を利用する		について説明するこ	
ことができる		とができる	
		9.1.2 社会資源を活	
		用できるよう支援す	
		ることができる	
10.危機に直面			
した経験を生か		10.1.1 危機に直面	
し、今後のため		した経験を活かす方	
に活用すること		法を一緒に考えるこ	
ができる		とができる	
11.危機である		11.1.1 考え方を転	
という考えを、		換させるための支援	
転換することが		をすることができる	
できる			

第3章 コミュニケーション communication

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 コミュニケーション

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、メッセージを受け取ることや生み出すこと、会話の遂行、コミュニケーション器具や 技術の使用を含む、言語、記号、シンボルによるコミュニケーションの一般的および特定の特徴 を扱う。

コミュニケーションの理解 communicating-receiving (d310-d329)

- d310 話し言葉の理解 communicating with-receiving-spoken messages
- d315 非言語的メッセージの理解 communicating with-receiving-nonverbal messages
- d320 公式手話によるメッセージの理解 communicating with-receiving-formal sign language messages
- d325 書き言葉によるメッセージの理解 communicating with-receiving-written messages
- d329 その他の特定の、および詳細不明の、コミュニケーションの理解 communicating-receiving, other specified and unspecified

コミュニケーションの表出 communicating-producing (d330-d349)

- d330 話すこと speaking
- d335 非言語的メッセージの表出 producing nonverbal messages
- d340 公式手話によるメッセージの表出 producing messages in formal sign language
- d345 書き言葉によるメッセージの表出 writing messages
- d349 その他の特定の、および詳細不明の、コミュニケーションの表出

communication-producing, other specified and unspecified

会話並びにコミュニケーション用具および技法の利用 conversation and use of communication devices and techniques (d350-d369)

- d350 会話 conversation
- d355 ディスカッション discussion
- d360 コミュニケーション用具および技法の利用 using communication devices and techniques
- d369 その他の特定の、および詳細不明の、会話とコミュニケーション用具および 技法の利用 conversation and use of communication devices and techniques, other specified and unspecified
- d398 その他の特定のコミュニケーション communication, other specified
- d399 詳細不明のコミュニケーション communication, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察

≪コミュニケーション≫

ICFの活動と参加の第3章「コミュニケーション」をブロックと内容から、第2レベルを整理してみると、下図「d3『コミュニケーション』の構造整理のイメージ」のような構造になる。特徴的なのは、「各内容の話し言葉、非言語的メッセージ、公式手話、書き言葉が各第一のブロック「コミュニケーションの理解」(以下、「理解」)と、第二のブロック「コミュニケーションの表

d 3「コミュニケーション」の構造整理イメージ

課題	コミュニケー ションの理解	コミュニケー ションの表出	会話並びにコミュニケー ション用具及び技法の利用
話し言葉による メッセージ	d310	d330	ディス
非言語的メッセージ	d315	d335	会
公式手話による メッセージ	d320	d340	コミュニケー
書き言葉によるメッセージ	d325	d345	ション用具及 び技法の利用

出」(以下「表出」) に対応していることである。」

ロック「コミュニケーションの理解」でも第二ブロック「コミュニケーションの表出」においても、そこでの「非言語的メッセージ」の意味するところは、おもに意図して表出し理解するメッセージを想定している点に注目する必要がある。一般的なコミュニケーションにおいて重要だと考えられる、送り手が意図せずに(無意識のうちに)おこなっている非言語表現の表出とその理解については、ここではあまり重点をおいていない。すなわち、「子どもが目をこするのを疲れているのだと理解する」ことや、「賛成でないことを示すために頭を横に振る」という表出など、言語表現に伴わない独立した非言語表現については触れられている。

これら第1ブロック「理解」と第二ブロック「表出」の内容を踏まえて、第三のブロック(d350-d3690)は「会話並びにコミュニケーション用具及び技法の利用」となっている。つまり、双方

	D350の構造				
	一対一での会話	多人数でのの会話			
会話の開始	ー対ーでの 挨拶・紹介・など	多人数での 挨拶・紹介・など			
会話の持続	ー対一での 持続・展開・など	多人数での 持続・展開・など			
会話の終結	一対一での終結の表現・など	多人数での 終結の表現・など			

(注) ここでは「考えや、アイディアなどの」「意見交換」までのコミュニケーションであり、その賛否を議論するのは、d355(ディスカッション)として区別されている。

が発信者と受信者の役割を相互に交代しつつ、時系列的に連なる「理解」と「表出」の繰り返しが、すなわち会話でありディスカッションなのである。それらは、「一人対一人、または多人数での会話」として整理され、会話の開始から終了までの一般的な意思疎通及び、一人対一人と、多人数での会話に関して分類している。

さらに「会話」と「ディスカッション」をその目的の違いで区別し、ここでも「一人対一人」と「多人数」を分けている。

なお、「会話」と「ディスカッション」に関しては、会話や文字情報の交換は、基本的に全部「言語」経由になっている点に留意しておく必要がある。その意味では、d315 やd335 の「非言語的メッセージ」に関しては、「意味を理解する、伝える」となっており、これも言語化が前提になっている。言語化しにくい(できない)情緒や感情や感覚の伝承に関しては、触れられていない点にも留意が必要である。なお、以上の内容の詳細な違いについては、次節の各論以下で整理する。

さらに「コミュニケーション用具および方法の利用」については、「用具」として、遠隔通信用 具の利用、「技法」は、何らかのコミュニケーション障害をカバーする技術についてそれぞれ触れ ている(と理解される)。なおこれらの「用具」は、物理的な意味で遠隔地とのやりとりに利用さ れるだけでなく、物理的には直接対話可能な対面状況においても、さまざまな障害によってコミュニケーションが困難な場合にも、有効に活用される可能性がある。

《コミュニケーションに関する《その他特定の、および詳細不明の、・・・》に関する考察

d3「コミュニケーション」では、「理解」や「表現」で、近年急速に発展してきている SNS によるメッセージの受信・発信の項目がない。また、「d360 コミュニケーション用具および技法」 I C F 機器に触れておらず、「その他特定の・・」の枠で取り上げられるべき内容であろう。また、この項では、専らパーソナル・コミュニケーションにしか触れておらず、コミュンケーションのもう一つの重要な柱である、マス・コミュニケーションに触れていないため、ツイッターや、Face Book などの、パーソナルがマスに直結しているような内容に関しても触れられていない。「活動と参加」を考える場合、この点は極めて重要な問題であるので、補足しておく必要がある。

なお、「非言語的メッセージ」に関連しては、言語化がむずかしい伝承(第六感)に関しても、 触れておく必要があるだろう。

≪「活動」と「参加」に関する位置づけ≫

d3「コミュニケーション」の詳細な行動分類を考える上では、「活動」と「参加」に関連してどういう位置づけと考えるかによっても、影響がある。これに関しては、さまざまな考え方があり得るが(テキスト pp.225-226 など)、「参加」としての行動分類として考える場合は、d7「対人関係」などとの重複が出やすく、この整理がわかりにくいので、ここでは基本的な「活動」事項として扱っておく。なお、逆に言えば、コミュニケーションは原則的に「参加」のほとんどの分類とクロス(関係がある・当該分類行為を行う場合の基本的ツールとして)する項目ということになる。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪コミュニケーション≫

d3「コミュニケーション」に関連する「環境因子」は、コミュニケーションの相手として e3 「支援と関係」および e4「態度」が関係してくる。とりわけ「e300:支援と関係」では、身近な「e310:家族」「e315:親族」「e320:友人」そして「e325:知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員」などの存在がコミュニケーションの実相において、極めて重要な存在となることは論

を待たない。もちろん、そうした「e300:支援と関係」が存在するだけではなく、それらの人々の「態度」(「e410:家族の態度」「e415:親族の態度」「e420:友人の態度」「e425: 知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度」)が大きな意味を持つことは当然であると考えられる。

これらの「環境因子」は、上述したような「コミュニケーション」を促進するために機能する側面だけでなく、むしろ「コミュニケーション」を阻害する働きをする可能性もあることに注意する必要がある。意図的に阻害するような働きかけをすることは論外であるが、ここで注意するべきは促進する意図を持って働きかけをしていながら、それが逆に「コミュニケーション」を阻害するという皮肉な働きをしてしまうことがあることについてである。いわば、「良かれと思ってやったこと」が、実は相手にはそのように伝わらず、「余計なお世話」になってしまうようなことがある。親切心で発した一言が、相手によっては「一言多い」と取られる可能性など、相手と状況を理解した適切な働きかけが重要である。

また、「コミュニケーション」用具としては、e1「生産品と用具」の一部(e125 など)が関係してくる。e2「自然環境・・・」やe5「サービス・制度・政策」は、会話やディスカッションの内容としては関連するが、このd3の分類では、「行為」のみの分類であるので、表現の内容に直接関わるごく一部を除き、関連する環境因子としては、考慮しない。(自立した行動への援助を行う場合の直接的な因子としては、考慮する必要がない。)

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 • • 関連する技術と知識の特徴 ≪コミュニケーション≫

d3「コミュニケーション」に関して、「軽度」「中等度」「重度」「完全」な問題を持つ人に対する支援行動については、「理解」の支援、「表出」の支援、「会話やディスカッション」の支援、「コミュニケーション用具」の支援等が必要である。(この d3 では、意思相通の方法の支援のみが課題。内容の理解は伴わない。)

その場合、何が「コミュニケーション」を妨げているのかを、「活動と参加」に関するほかの分類項目(例えば、d1「学習と知識の応用」などd関連項目に関する無知や理解不足)との関係なのか、それとも、心身機能や身体構造の問題なのかを、見極めなければならない。その上で、d1~d9の内容に関しては、一般的レベルでの補足を行ったり、各分野の専門家(心身機能や身体構造がかかわっている場合は特に)につないだりする支援が重要になる。

詳細に検討すると、介護行動には、まず初めに、本人の理解(または、表出)の有無や理解力(または、表出力)、なぜそのように理解(または、表出)したのかといった把握が土台にある。次に、本人の状態に応じた権利擁護機能の実行(本人へ理解を促すための再度の説明や代筆、本人に代わって介護職員が相手に伝える代弁など)である。さらに、今後、本人が相手の発信したことを理解できるように、介護職員が解説を加えて伝えていく(一種の翻訳・通訳)ための、介護職員の教育や訓練が必要である。その際に大切なことは、介護職員が利用者を指導し教えるのではなく、適切な助言や補助的な行動によって、利用者が自ら気付くことを促すという関わり方である。すなわち、利用者を独立した個人として尊重しつつ、機能的に不足している部分を介護者が補助するという、基本的な姿勢がここにおいても忘れられてはならない。

関連する技術や知識としては、以下のような特徴がみられた。以下の特徴は、介護職員が介護行動を展開する際に本人に必要なコミュニケーションの基本的な知識や技術に関する内容が多く含

まれていることがうかがえる。同時に、ハイレベルの介護などの場合は、本人にそれらを習得してもらうための教育や訓練の機会が提供できる介護行動の力量が求められると考える。

- ・日本語で生活を送るために必要な日常会話の知識
- •日本語で事実を把握し、その内容を書く(明確に文章を表現する、フォーマル(公式文書)とインフォーマル(非公式な日常使用)な文章表現)技術
- ・リピート(繰り返し)の知識と技術
- リード (閉ざされた質問や開かれた質問) の知識と技術
- ・確認の知識と技術
- ・代筆や代弁の知識と技術
- ・非言語メッセージである準言語(言語発声の高さ、大きさ、速さ、間、アクセントなど)、表情、仕草、ジェスチャー姿勢、服装、公共の記号やシンボル、公式手話、絵や写真、グラフ、表、点字などの意味を理解するための知識と活用する技術(
- ・コミュニケーションボードを適宜状況に応じて使用するための技術と知識
- 書き言葉によるメッセージの行間を読み取る技術
- ・上記の知識や技術についてできない部分を補うための教育と訓練を実施する技術

次に、会話(d350・d355)並びにコミュニケーション用具および技法(d360)に関して、会話(d350)では、本人と相手との相互作用が伴うため、本人は相手(1対1(d3503)だけでなく集団(d3504)も含む)への理解力と表出力がほぼ同時に必要となる。介護行動の特徴としては、本人が会話の開始(d3500)ができる状態や状況にあるのか把握することが土台にある。そして、会話が始まるきっかけづくりや声かけをする。その上で、介護職員は、本人と相手の状態や状況を把握し、双方の会話が持続(d3501)できるように、話題内容の確認や内容をふくらませる質問をしていく。双方の状況をみながら、会話終了(d3502)の声かけをする。

さらに、ディスカッション(d355)の場面では、上記の介護行動に加え、開始時にはディスカッションの目的の確認、ディスカッション中は双方の内容のフィードバック、ディスカションの目的がずれないよう流れの確認、終了前の声かけ、終了時の確認(終了の挨拶や今回のディスカッション目的と成果の確認)をすることが求められる。よって、ディスカッション場面において、介護行動にはより高度な特徴が含まれていると考える。

現在のコミュニケーション場面では、人と人が直接会う対面の方法だけでなく、さまざまなコミュニケーション用具(遠隔通信用具・書字用具・読唇術 d360)を主として使いながらの場面も多くある。その際の介護行動の特徴としては、介護職員には、さまざまな遠隔通信用具の情報や知識があり、それを活用して実践できる(使いこなせる)ことが前提となる。それを前提とし、上記で述べた介護行動(本人の理解および活用できる状況、できない場合の代弁や代筆等の権利擁護機能、教育や訓練)を展開する特徴がみられると考える。

関連する技術や知識としては、上記のコミュニケーションの理解(d310~d325)および表出 (d330~d349)の技術や知識に加え、以下のような、会話(d350・d355)並びにコミュニケーション用具および技法(d360)について、介護職員にはより高度な内容が求められると考える。

- ・明確なテーマを持った会話を始める技術(問題提起の行い方や関連する知識)
- ・会話の展開をテーマに合わせて収斂していく技術、
- ・テーマから外れる発言を次なる課題として整理していく技術、

- ・本人と相手(1対1または、1対多人数)との両者の関係性やふるまい、相互の状況、時間の経過を見ながら会話を進め、かつ終了する技術
- ・会話の終了について明確な方法で参会者に示す技術 (次の展開を確認する技術)
- ・コミュニケーションにおける互いの椅子やテーブルの位置が持つ意味についての知識
- 遠隔通信用具、書字用具、読唇術に関する知識と技術
- 上記の知識や技術についてできない部分を補うための教育と訓練を実施する技術

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪コミュニケーション≫

ICFにおいては、「環境因子」として「e100:生産品と用具」「e200:自然環境と人間がもたらした環境変化」「e300:支援と関係」「e400:態度」および「e500:サービス・制度・政策」が提示されている。

「d300:コミュニケーション」および「d700:対人関係」における「環境因子」として、直接的に身体的あるいは精神的に最も強い影響を及ぼすものが「e100:生産品と用具」であり、順に「e200:自然環境と人間がもたらした環境変化」「e300:支援と関係」「e400:態度」そして「e500:サービス・制度・政策」へと影響が弱まる、あるいは影響が間接的になっていくと考えられる。

もちろん、「e100:生産品と用具」が独立して機能するわけではなく、「e300:支援と関係」の中で活用されていくのは当然のことであるし、「e400:態度」の影響も排除することはできない。それらの機能全体を支える「e500:サービス・制度・政策」が、コミュニケーションの質と量を決定していく点も見逃すことはできない。

とりわけ「e300:支援と関係」では、身近な「e310:家族」「e315:親族」「e320:友人」そして「e325:知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員」などの存在がコミュニケーションの実相において、極めて重要な存在となることは論を待たない。もちろん、そうした「e300:支援と関係」が存在するだけではなく、それらの人々の「態度」(「e410:家族の態度」「e415:親族の態度」「e420:友人の態度」「e425: 知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度」)が大きな意味を持つことは当然であると考えられる。

このようにコミュニケーションにとっては、人的な環境だけでなく物的・制度的な環境が相互に関連しながら支える、統合的・有機的なシステムが必要不可欠だと考えられる。

コミュニケーションの理解 communicating-receiving (d310-d329)

d310 話し言葉の理解 communicating with-receiving-spoken messages

話し言葉(音声言語)のメッセージに関して、字句通りの意味や言外の意味を理解すること。 例えば、言明が事実を述べるものか、慣用表現かを理解すること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術•知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		

	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.相手の話し言	軽度の	1.1,2.1 知ってい	1.1.1 知っている相手	1.1.1.1 日本語で生	
葉(音声言語)の	困難	る人(家族・親族・友	の話し言葉(音声言語)	活を送るために必要	
メッセージにお	5-	人・知人・仲間・同	のメッセージにおけ	な文法を含む日常会	
ける語句の意味	24%	僚・隣人・コミュニ	る語句の意味をどの	話の知識	
を理解できる	中等度	1	程度理解しているの	1.1.1.2 語られた内	
(以下を含む)	の困難	や態度 e310・	か把握できる	容に含まれる事実に	
	25-	e315 • e320 •	1. 単語の理解を補足	ついて、リピート(繰り	
ける単語の意味	49%	e325	できる。	り返し) やリード (質	
を理解できる。		1		り返り/ (6) 「「(c) 問)などの技法を用い	
	重度の	e345 • e410 •	2. 文意の理解を補足		
②話し言葉にお	困難	e415	できる。	て確認するための技	
ける文意を理解	50-	• e420 • e425	3. 時制や動態の理解	術	
できる。	95%	_	を補足できる。	1.1.2.1,1.1.3.1 日	
③話し言葉にお	完全な			本語で記録を書くこ	
ける時制や動態	困難			とと表現するための	
(受・能)が理解	96-			技術	
できる。	100%				
		1.2 メモ用紙とペ	1.2.1 理解の程度	1.2.1.1 日本語で生	
		ン(鉛筆)e1251	に応じてメモ用紙と	活を送るために必要	
			鉛筆(またはペン)を	な日常会話の知識	
			使い代筆できる		
			1.2.2 代筆した内容	1.2.2.1 理解の程度	
			の文字の意味を理解	を確認するための、コ	
			できるように伝える	ミュニケーション(質	
			ことができる	問や確認)の技術	
		 1.3教育と訓練の	1.3.1 理解の程度に応	1-5 (328.6.) 333,713	
		サービス	じて教育や訓練内容		
		e5850	を考え、提供し、文字		
		60000	通りの意味の理解を		
			促すことができる		
りわずのぎょき		0.4 50 7117		0444 5457"	
2.相手の話し言		2.1 知っている人	2.1.1 知っている相手		
葉(音声言語)の		(家族・親族・友人・	が伝えた言外の意味		
メッセージにお		知人•仲間•同僚•	をどの程度理解して		
ける言外の意味		隣人・コミュニティ	いるのか把握できる	2.1.2.1,2.1.3.1 日	
を理解できる		成員)との関係や態		本語で記録を書くこ	
		度 e310 • e315 •	2.2.1 理解の程度に応	とと表現するための	
		e320 • e325	じてメモ用紙と鉛筆	技術	
		e345 • e410 •	(またはペン)を使って		
		e415	代筆できる	2.2.1.1 日本語で生	
		•e420 •e425	2.2.2 代筆した内容	活を送るために必要	
			で言外の意味を理解		
		2.2 メモ用紙とペ	できるように伝える	2.2.2.1 コミュニケ	
		ン(鉛筆)e1251	ことができる	ーションに関する教	
		- \pu /\cup 1 \alpha \cup 1		7 1 7 C N 9 O W	
		1	l		

2.3教育と訓練の	2.3.1 理解の程度に	育・訓練についての	
サービス	応じて教育や訓練内	技術と知識	
e5850	容を考え、提供し、字		
	句通りの意味の理解		
	を促すことができる		

d315 非言語的メッセージの理解 communicating with-receiving-nonverbal messages

ジェスチャー,シンボル,絵によって伝えられるメッセージに関して、字句通りの意味や言外の意味を理解すること。例えば、子どもが目をこするのを疲れているのだと理解したり、非常ベルが火事を意味していると理解すること。含まれるもの:ジェスチャー、一般的な記号とシンボル、または絵と写真の理解。

d3150 ジェスチャーの理解 communicating with-receiving-body gestures

顔の表情、手の動きやサイン、姿勢、その他のボディランゲージによって伝えられる意味を理解すること。

	1			I	1
①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.相手のジェス	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 観察を通して	1.1.1.1 非言語メッ	
チャーについて	困難	(家族・親族・友人・	知っている相手のジ	セージである準言語	
理解できる	5-	知人・仲間・同僚・	ェスチャーをどの程	(言語発声の高さ、大	
(以下を含む)	24%	隣人・コミュニティ	度理解しているのか	きさ、速さ、間、アク	
①相手の表情か		成員)との関係や態	を把握できる	セントなど)、表情、	
らのメッセージ	中等度	度 e310 • e315 •		仕草、姿勢、服装、装	
を理解できる。	の困難	e320 • e325 •		身具などの役割と意	
②相手の手(指)	25-	e345 • e410 •		義を理解するための	
の動きやサイン	49%	e415 • e420 •		知識	
からのメッセー	重度の	e425		1.1.2.1 日本語で記	
ジを理解でき	困難			録を書くことと表現	
る。	50-	1.2メモ用紙とペン		するための技術	
③相手の姿勢や	95%	(鉛筆)e1251		1.1.3.1 日本語で事	
仕草からのメッ	完全な			実を把握し、その内容	
セージを理解で	困難			を書くことと表現す	
きる。	96-			るための技術	
④相手の服装、	100%				
装身具などから			1.2.1 理解の程度に	1.2.1.1 コミュニケ	
のメッセージを			応じて代筆でジェス	ーションに関する教	
理解できる。			チャーの内容を記録	育・訓練についての技	
⑤相手の足の動			することができる	術と知識	
きからのメッセ			1.2.2 代筆した内容		
ージを理解でき			でジェスチャーの意		
る。			味を理解できるよう		

	に伝えることができ る	
1.3教育と訓練の サービス e5850	1.3.1 ジェスチャー への理解の程度にスチャー の理解の理解を促動を表している。 できる できる 1.3.2 相手に ジェス いて、 できる かった できる ができる なができる ことができる ことができる ことができる ことができる かった はんしん ことができる かった かった はんしん きんしん きんしん きんしん きんしん きんしん きんしん きんしん	

d3151 一般的な記号とシンボルの理解 communicating with-receiving-general signs and symbols

公共の記号やシンボルによって表される意味を理解すること。例えば,交通標識,警告表示, 楽譜,科学的記号,図像(アイコン)などの理解。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術•知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 公共の記号	軽度の	1.1 メモ用紙とペン	1.1.1 観察や質問を	1.1.1.1 理解の程度	
やシンボル(例え	困難	(鉛筆)e1251	通して公共の記号や	を確認するための、コ	
ば交通標識、警	5-		シンボルの意味をど	ミュニケーション(質	
告表示、図等)の	24%		の程度理解している	問や確認)の技術	
意味を理解でき			のか把握ができる	1.1.2.1 日本語で事	
る	中等度		1.1.2 理解の程度	実を把握し、その内	
(以下を含む)	の困難		に応じて代筆で公共	容を書くことと表現	
①個々の交通標	25-		の記号やシンボルの	するための	
識の意味を理解	49%		内容を伝えることが	技術	
できる。	重度の		できる	1.1.3.1 日本語で生	
②地図などの記	困難			活を送るために必要	
号の意味を理解	50-			な日常会話の知識	
できる。	95%				
③道路、駅、公	完全な	1.2サービス・制度・		1.2.1.1 コミュニケ	
園、広場,公共の	困難	政策・教育と訓練の		ーションに関する教	
建物、などにお	96-	サービス		育・訓練についての技	
けるシンボルや	100%	e515 • e540 •		術と知識	
サイン表示の意		e5850			

味を理解できる。		1.2.1 公共の記号や シンボルへの理解の 程度に応じて、サービスや制度の紹介等そ の意味の理解を促す。 また、教育や訓練内容 を考え、提供すること ができる 1.2.2 公共の記号や シンボルへの理解よいで に理解したのか把握 し、適切な意味を伝えることができる	やシンボルの意味を
2. 楽譜が読め て、内容を理解 できる。	2.1 メモ用紙とペン(鉛筆)e1251		
3. 科学的記号が読めて、内容を理解できる。	3.1 メモ用紙とペン(鉛筆)e1251 3.2 サービス・制度・政策・教育と訓練のサービスe515・e540・e5850	ことができる 3.2.1 科学的記号の 理解の程度に応じて、 サービスや制度の紹	
		介等その意味の理解を促す。また、教育や訓練内容を考え、提供することができる3.2.2 公共の記号やシンボルへの理解について、なぜそのように理解したのか把握し、適切な意味を伝えることができる	

1 572 (5 1-	4 4 4	4 4 4 60 50 4 55 50 4	
4. 図像(アイコ	4.1 メモ用紙とペ	4.1.1 観察や質問を	
ン) が読めて、内	ン(鉛筆)e1251	通して図像が読めて	
容を理解でき		内容をどの程度理解	
る。		しているのか把握が	
		できる	
		4.1.2 理解の程度に	
		応じて代筆で図像の	
		内容を伝えることが	
		できる	
	4.2 サービス・制	4.2.1 図像の理解の	
	度・政策・教育と訓	程度に応じて、サービ	
	練のサービス	スや制度の紹介等そ	
	e515 • e540 •	の意味の理解を促す。	
	e5850	また、教育や訓練内容	
		を考え、提供すること	
		ができる	
		4.2.2 図像への理解	
		について、なぜそのよ	
		うに理解したのか把	
		握し、適切な意味を伝	
		えることができる	
		んのこころ	

d3152 絵と写真の理解 communicating with-receiving-drawings and photographs 絵(例えば、線画、グラフィックデザイン、絵画、三次元表示)、グラフ、表、写真によって表される意味を理解すること。例えば、身長表の上向き線は子どもの成長を表すことを理解すること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 絵や写真、グ	軽度の	1.1 メモ用紙とペン	1.1.1 観察や質問を	1.1.1.1 理解の程度	
ラフ、表の意味	困難	(鉛筆)e1251	通して絵や写真、グラ	を確認するための、コ	
を理解できる	5-		フ、表の意味をどの程	ミュニケーション(質	
(以下を含む)	24%		度理解しているのか	問や確認)の技術	
①絵や彫刻(三			把握できる	(以下に関する知識	
次元表示)など	中等度			を含む)	
を鑑賞しなんら	の困難	1.2 教育と訓練の	1.2.1 絵や写真、グラ	①絵や彫刻(三次元表	
かのメッセージ	25-	サービス・教育用の	フ、表の理解の程度に	示) に関する知識(常	
を感じとること	49%	一般的な生産品と	応じてその意味の理	識レベル)	
ができる。	重度の	用具・文化的・レク	解を補足し、また、教		
	困難	リエーション・スポ	育や訓練内容を考え、		

②グラフによっ て表される内容 メッセージの意 味を理解でき る。 50- 95% ーツ用の生産品と 用具・文化・レクリ 元全な 別用の支援的な生 の。 提供することができ る 知識 (義務教育レベル) の意味を 理解できる。 ②グラフの読み方の 知識 (義務教育レベル) の意味を 自りなんらかの ②グラフの読み方の 知識 (義務教育レベル) の意味を 自りなんらかの (表務教育レベル) 自り 自り 自りなんらかの ②表の読み方の知識 (表務教育レベル) 自り 自りなんらかの 容を書くことと表現
大ッセージの意味を理解できる。 (元を理解できる。 (元を理解できる。) (元を理解できる。 (元を担解できる。) (元を担解してものの) (元を知るとの) (元を知るとの) (元を記を知るとの) (元を記を知るとの
味を理解できる。困難 96- 度品と用具(福祉用 3表によって表 される内容メッセージの意味を理解できる。ツ用の支援的な生 度品と用具(福祉用 4条) (義務教育レベル) ・ e5850・e1300・ e1400・e1401③表の読み方の知識 (義務教育レベル) ・ 電話を開する知識(常 3表の読み方の知識 (第 2条) (表別教育レベル) ・ e1400・e1401中国できる。 ・ 4年の内 2条1.1.2.1 日本語で事実を把握し、その内
る。96-産品と用具(福祉用 具)(義務教育レベル) ④写に関する知識(常 される内容メッセージの意味を 理解できる。 ④写真などを鑑(義務教育レベル) ④写に関する知識(常 識レベル)1.1.2.1 日本語で事実を把握し、その内
③表によって表 される内容メッセージの意味を理解できる。 ④写真などを鑑100% e5850・e1300・ e1400・e1401④写に関する知識(常識レベル) 識レベル)1.1.2.1 日本語で事実を把握し、その内
される内容メッセージの意味を理解できる。 ④写真などを鑑e5850・e1300・e1401識レベル)1.1.2.1 日本語で事実を把握し、その内
セージの意味を 理解できる。 ④写真などを鑑e1400・e14011.1.2.1 日本語で事 実を把握し、その内
理解できる。 1.1.2.1 日本語で事 ④写真などを鑑 実を把握し、その内
④写真などを鑑 実を把握し、その内
賞しなんらかの 容を書くことと表現
メッセージを感しましている。
じとることがで 1.1.3.1 日本語で生
きる。 活を送るために必要
な日常会話の知識
1.2.1.1 コミュニケ
ーションに関する教
育・訓練についての技
術と知識
1.3.1.1 日本語で事
実を把握し、その内容
を書くことと表現す
るための技術

d320 公式手話によるメッセージの理解 communicating with-receiving-formal sign language messages

字句通りの意味や言外の意味をもつ公式手話のメッセージを受け取り、理解すること。

	ı	T			
①人として具体	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の要	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術•知識	考
素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.公式手話によ	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 公式手話を理	1.1.1.1 公式手話に	
るメッセージの	困難	(家族・親族・友人・	解できる	ついての技術と知識	
言葉や言外の意	5-	知人・仲間・同僚・	1.1.2 観察や質問を	1.1.2.1 理解の程度	
味を理解できる	24%	隣人・コミュニティ	通し知っている相手	を確認するための、	
		成員)との関係や態	の公式手話による言	コミュニケーション	
	中等度	度e310 • e315 •	葉の言外の意味をど	(質問や確認)の技	
	の困難	e320 • e325	の程度理解している	術	
	25-	e345 • e410 •	のか把握できる		
	49%	e415 • e420 •			
	重度の	e425			
	困難				

1.2 メモ用紙とペン(鉛筆)e1251 1.2.1 理解の程度に応じて代筆で、公式 手話によるメッセージの言葉や言外の意味を伝えることができる 1.2.2 代筆した意味が理解できているかどうか確認できる 1.3.1.1 コミュニケーションボードを使用するための技術と知識 1.3.1.1 コミュニケーションボードを使用するための技術と知識 1.3.2.1 コミュニケーションボードを使用するための技術と知識 1.3.2.1 コミュニケーションボードを表表、提供できる 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで 1.4.3 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで 1.4.5 コミュニケーションボードを活用してきる 1.4.5 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.5 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.5 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.5 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.5 コミュニケーションボードを活用してきる 1.4.5 コミュニケーションボードを使用するに対している 1.4.5 コミュニケーションボードを使用するに対している 1.4.5 コミュートを使用するに対している 1.4.5 コミュニケーションボードを使用する 1.4.5 コミュニケーションボードを使用する 1.4.5 コミュートを使用する 1.4.5 コミュートを使用する 1.4.5 コミュートを使用する 1.4.5 コミュニケーションボードを使用する 1.4.5 コミュニケーションボードを使用する 1.4.5 コミュニケーションボードを使用する 1.4.5 コミュートを使用する 1.4.5 コミュートを使用する		40 VIIII	101 四級の印度に	1011 1777	
完全な 困難 96- 100% 手話によるメッセーシの言葉や言外の意味を伝えることができる きる 1.2.2 代筆した意味が理解できているかどうか確認できる 1.3.1.1 コミュニケーションボードを使用するための技術と知識 1.3.1.1 コミュニケーションボードを使用するための技術と知識 1.3.2.1 コミュニケーションボードと公式手話についての技術と知識 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで					
図数 96-		」ン(鉛筆)e1251			
Real Real Real Real Real Real Real Real	完全な		手話によるメッセー	ついての技術と知識	
1.3 教育と訓練のサービス e5850	困難		ジの言葉や言外の意		
1.22 代筆した意味が理解できているかどうか確認できる 1.3 教育と訓練のサービス e5850 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるを考え、提供できる 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで	96-		味を伝えることがで		
が理解できているか どうか確認できる 1.3 教育と訓練の サービス e5850 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できる 1.4 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで	100%		きる		
1.3教育と訓練のサービス e5850 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できる を考え、提供できる を考え、提供できる 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで			1.2.2 代筆した意味		
1.3教育と訓練の サービス e5850 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるがでも1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで			が理解できているか		
### 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるションボードを活用できる1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで			どうか確認できる		
### 1.3.1 公式手話による言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるションボードを活用できる1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用できる1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで		1.3教育と訓練の		1.3.1.1 コミュニケ	
e5850 る言葉や言外のメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるを考え、提供できるを考え、提供できるを考え、提供できるできる。			 1.3.1 公式手話によ		
セージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供できるがと知識 1.4コミュニケーションボードを考え、提供できるができる。 1.4.1 コミュニケーションボードを活用できる。 1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで					
度に応じてその意味 の理解を補足し、また、教育や訓練内容 を考え、提供できる ボと知識 (本と知識) を考え、提供できる (本と知識) 1.3.2.1 コミュニケーションボードを活用できる (1.4.2 コミュニケーションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで (1.3.2.1 コミュニケーションボードを活用してきる (1.4.2 コミュニケーションボードを活用してながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで					
の理解を補足し、また、教育や訓練内容				=,.	
た、教育や訓練内容 1.4コミュニケー ションボード e1251 1.4.1 コミュニケー ションボードを活用 できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで					
1.4コミュニケー ションボード e1251 1.4.1 コミュニケー ションボードを活用 できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで					
ションボード e1251 1.4.1 コミュニケー ションボードを活用できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用ししながら公式手話によるメッセージの理解を促すことがで		1 1 7 5 7 - 17 -			
e1251 1.4.1 コミュニケー ションボードを活用 できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで			25人、従供しる		
ションボードを活用 できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで			 4 4 4 5 5 = 5 5		
できる 1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで		e1251			
1.4.2 コミュニケー ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで					
ションボードを活用 ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで					
ししながら公式手話 によるメッセージの 理解を促すことがで					
によるメッセージの理解を促すことがで					
理解を促すことがで			ししながら公式手話		
			によるメッセージの		
			理解を促すことがで		
			きる		

d 325 書き言葉によるメッセージの理解 communicating with-receiving-written messages communicating-receiving, other specified and unspecified

書き言葉(点字を含む)によって伝えられるメッセージに関して、字句通りの意味や言外の意味を理解すること。例えば、日刊新聞で政治的な出来事を理解したり、宗教の経典の内容を理解すること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 書き言葉(メ	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知っている相	1.1.1.1 日本語によ	
ールや書類、メ	困難	(家族・親族・友人・	手による書き言葉の	る、フォーマル(公式	
モ内容、記事、	5-	知人・仲間・同僚・	メッセージ文字の意	文書)とインフォー	
本、点字)による	24%	隣人・コミュニティ	味をどの程度理解し	マル(非公式な日常	
メッセージの文	中等度	成員)との関係や態	ているのかを把握で	使用)な文章表現の	
字の意味を理解	の困難		きる		

できる (以下を含む)
□個人から送ら
ATC 本のでは、
メール、メモなとの意味を理解することができる。 50-95% ための代読ができる。 1.1.4 1.1.3 について理解できているかどうか確認できる。 を確認するための、コミュニケーション(質問や確認)の技術の技術をそれぞれの内容(政治、経済、社会現象、文化、宗教、など)に即して理解できる。③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 1.2 教育と訓練のサービスを5850 1.2.1 相手の書き言葉によるメッセージへの理解の程度に応じてその意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供することができる。 1.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよる、教授性することができる。 2.1.1 日本語で事業を把握し、その内容を書くことと表現するための技術を表え、とは、対策によるメッセージにおける言外の意味を到及りとの関係や態度を310・6315・63年のかか形握できる。 2.1.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味を20・6325。345・6410・6425 2.1.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味を20・6325。345・6410・6425 2.1.1 相手の書き言葉によるメッセージにおのか把握できる。 2.1.2.1.2.1.3.1 日本語で記録を書くことと表現するためのが把握できる。 (以下を含む) ①個人から送ら 6420・6420・6425 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味を20・6325。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるよろの意味を2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるまるにとき表現するためのをまたとと表現するためのが把握できる。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるごのかに表現するためのが把握できる。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるごのかに表現するためのが把握できる。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるごのかに表現するためのが把握できる。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるごのかに表現することができる。 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおよるごのかに表現することができる。 2.1.1.1 日本語で記録を書くことと表現するためのが把握できる。 2.2.1.1 コミュニケージによることができる。 2.2.1.1 コミュニケージによることができる。 2.2.1.1 コミュニケージによることができる。 2.2.1.1 コミュニケージによることができる。 2.2.1.1 コミュニケージによることができる。 2.2.1.1 日本語で記録を書くことと表現することがまる。 2.1.2.1.2.1.2.1.3.1 日本語で記録を書くことと表現する。 2.1.2.1.1 コニケージによることができる。 2.2.1.1 相手の書き言葉を記述を書きる。 2.2.1.1 相手の書き言葉を把握しているのがはまたがよる。 2.1.2.1.2.1.2.1.3.1 日本語で記述を書きる。 2.2.2.1 相手の書き言葉を記述を書きる。 2.2.1 相手の書き言葉を記述を書きる。 2.2.1.1
との意味を理解
できているかとうか確認できる では では では では では では では で
函数 96-
②新聞などでの 報道記事の内容 をそれぞれの内容(政治、経済、 社会現象、文化、 宗教、など)に即して理解できる ③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を 理解することができる(芸術性を除く) 2. 相手の書き言葉(メールや書類、メモ内容、記事、メモ内容、記事、本、点字によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。(以下を含む) ①は下を含む)(以下を含む) ①は入から送ら
報道記事の内容 をそれぞれの内容 (政治、経済、社会現象、文化、宗教、など)に即して理解できる ③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる (芸術性を除く) 2. 相手の書き言類、メモ内容、記事、本、点字によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。シにおける言外の意味を理解できる。(以下を含む) ①個人から送ら でも25。 と425 における言外の意味 を420。 自体を420。 自体を4200。 自体を4200。 自体を4200。 自体を4200。 自体を4200。 自体を4200。 自
をそれぞれの内容(政治、経済、社会現象、文化、宗教、など)に即して理解できる③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 2. 相手の書き言類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。(以下を含む)①個人から送ら e5850 e5850 e5850 e1.2.1 相手の書き言葉によるメッセージがあと知識 1.2.1 相手の書き言葉によるメッセージがあと知識 でできるの意味の理解を補足し、また、教育や訓練内容を考え、提供することができる 2.1.1.1 日本語で事実を把握し、その内容を書くことと表現するための技術 をどの程度理解しているのが把握できる。 を2.1.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味を理解しているのが把握できる。 を20・e325 e345・e410・e425 e425 における言外の意味 2.1.1 コミュニケーションに関する教育・訓練についての技術を知識を知識を表す。 でできる(芸術性を除く) 2.1.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味をとの程度理解しているのが把握できる。 などの程度理解しているのが把握できる。 などの程度理解しているのが把握できる。 などの程度理解しているのが把握できる。 などの程度理解しているのが把握できる。 は、できると表現するための技術 をといると表現するための技術 などによるメッセージにおける言外の意味 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージにおける言外の意味 2.2.1 コミュニケーションに関する教育・訓練についての技術にと知識を知識を表現を表現を表現を表現を表現を表現するための表現を表現するための表現を表現することを表現するための表現を表現することを表現するための表現を表現することを表現するための表現を表現することを表現するための表現を表現することができる。 における言外の意味 2.2.1 コミュニケーションに関する教育・訓練についての意味を知識を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を
容(政治、経済、 社会現象、文化、 宗教、など)に即して理解できる ③文字で表現されている書類、 書籍、なとに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 2. 相手の書き言類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できるメッセージにおける言外の意味を理解できる(以下を含む) ①個人から送ら
社会現象、文化、
宗教、など) に即して理解できる (③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる (芸術性を除く)
1.2.1 相手の書き言
③文字で表現されている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 葉(以上の書き言葉(大上の名) (大田野の書き言葉(大田野) (大田野) (大田) (大田)
れている書類、書籍、などに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 2. 相手の書き言葉(メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。320・e325 e345・e410・e415・e420・信がとの意味を理解できる(以下を含む) ①個人から送ら
書籍、などに係れている内容を理解することができる(芸術性を除く) 2. 相手の書き言葉(メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。 は、 は、 は、 また、 をとの程度理解しては、 また。 ないを書きます。 は、 また。 をといてきる。 は、 また。 は、 また。 をといてきる。 は、 また。 なができる。 は、 また。 なができる。 は、 また。 なができる。 は、 また。 などの表現を書くことと表現するための意味を理解できる。 は、 また。 は、 また。 などの程度理解しては、 また。 などの程度理解しては、 また。 などの程度理解しては、 また。 などの程度理解しては、 また。 などの程度理解しては、 また。 などの程度理解しては、 などの表現するための意味を出ているのが、 とと表現するための意味を出ているのが、 また。 は、
れている内容を 理解することが できる (芸術性 を除く) 2.1 知っている人 (家族・親族・友人・ 類、メモ内容、記事、本、点字)に よるメッセージ における言外の意味 をどの程度理解して における言外の意味 をどの程度理解して の内できる。 (以下を含む) (別下を含む) (1個人から送ら) を補足し、また、教育 や訓練内容を考え、提供することができる。 2.1.1.1 日本語で事実を把握し、その内容を書くことと表現するための技術を設定している人 (家族・親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 葉によるメッセージにおける言外の意味をどの程度理解しているのか把握できるとと表現するためのを315・ と320・e325を345・e410・ e415・e420・ e425 における言外の意味を2.2.1 相手の書き言は 定はよるメッセージにおける言外の意味を2.2.1 相手の書き言は における言外の意味を2.2.1 相手の書き言は における言外の意味を2.2.1 相手の書き言は をとの程度理解しているのか把握できるとと表現するためのまました。 とと表現するための技術を2.2.1 相手の書き言は における言外の意味を2.2.1 相手の書き言は では、2.2.1 相手の書き言は における言外の意味を2.2.1 コミュニケ
理解することができる (芸術性を除く) 2. 相手の書き言葉 (メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。 は、以下を含む) (以下を含む) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1
できる (芸術性を除く) 2. 相手の書き言葉 (メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を理解できる。 (以下を含む) (以下を含む) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1
を除く) 2. 相手の書き言葉(メールや書葉(メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味が良力・の意味がある。 は、
2. 相手の書き言 葉 (メールや書 葉 (メールや書 類、メモ内容、記 事、本、点字)に よるメッセージ における言外の 意味 を理解でき る (以下を含む) ①個人から送ら (以下を含む) ①個人から送ら (家族・親族・友人・ 2.1.1 相手の書き言 葉によるメッセージ における言外の意味 をどの程度理解して いるのか把握できる とと表現するための 技術 をどの程度理解して いるのか把握できる とと表現するための 技術 (以下を含む) では、 1 日本語で記録を書くこ とと表現するための は では、 2.2.1 相手の書き言 は (以下を含む) でおける言外の意味 2.2.1.1 コミュニケ
2. 相手の書き言葉 (メールや書類、メモ内容、記事、本、点字)に よるメッセージ (成員) との関係や態度 をどの程度理解して における言外の意味を理解できる (以下を含む) (以下を含む) (以下を含む) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1
葉(メールや書 類、メモ内容、記 事、本、点字)に よるメッセージ における言外の 意味を理解でき る (以下を含む) ①個人から送ら(家族・親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 類人・コミュニティ 成員)との関係や態 をどの程度理解して いるのか把握できる 自320・e325 e410・ e425するための技術 まによるメッセージ における言外の意味 をとの程度理解して いるのか把握できる とと表現するための 技術文 (以下を含む) ①個人から送ら(家族・親族・友人・ 知人・中間・同僚・ などの程度理解して いるのか把握できる とと表現するための 技術次 2.1.2.1,2.1,3.1 とと表現するための まによるメッセージ における言外の意味ではいる 2.2.1.1 における言外の意味ではいる 2.2.1.1 とここ1.1
類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージ よるメッセージ における言外の 意味を理解できる (以下を含む)知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ 成員)との関係や態をどの程度理解しているのか把握できる ・8320・e325 ・9345・e410・ ・9415・e420・ ・9425葉によるメッセージ 、ためのが把握できる ・2.2.1 相手の書き言 ・第によるメッセージ における言外の意味2.1.2.1,2.1.3.1 日本語で記録を書くことと表現するための 技術 2.2.1.1 コミュニケ
事、本、点字)に 隣人・コミュニティ 成員)との関係や態 をどの程度理解して 皮 e310・e315・ e320・e325 e345・e410・ e415・e420・ e425 における言外の意味 をどの程度理解して いるのか把握できる 本語で記録を書くことと表現するための 技術
よるメッセージ における言外の 意味を理解できる成員)との関係や態 度 e310・e315・ e320・e325 e345・e410・ e415・e420・ e425をどの程度理解して いるのか把握できる とと表現するための 技術2.1.2.1,2.1.3.1 日 本語で記録を書くこ とと表現するための 技術(以下を含む) ①個人から送ら(以下を含む) e425における言外の意味2.2.1.1 コミュニケ
における言外の 意味を理解できる る (以下を含む) ①個人から送ら度 e310・e315・ e320・e325 e345・e410・ e415・e420・ c425いるのか把握できる とと表現するための 葉によるメッセージ における言外の意味本語で記録を書くこ とと表現するための 技術
意味を理解できる e320・e325 とと表現するための 技術 る(以下を含む) e415・e420・ 定おける言外の意味 における言外の意味 2.2.1.1 コミュニケ
るe345 • e410 •2.2.1 相手の書き言 技術(以下を含む)e415 • e420 •葉によるメッセージ①個人から送らe425における言外の意味2.2.1.1 コミュニケ
(以下を含む) e415 • e420 • 葉によるメッセージ ①個人から送ら e425 における言外の意味 2.2.1.1 コミュニケ
①個人から送ら e425 における言外の意味 2.2.1.1 コミュニケ
107/77/M
れてくる手紙、 の理解を補足し、ま ーションに関する教
メール、メモな 2.2教育と訓練の た、程度に応じて教育 育・訓練についての技
どの言外の意味 サービス や訓練内容を考え、提 術と知識
を理解すること e5850 供できる
ができる
②新聞などでの
報道記事になら
ない現象を考慮
することができ
る。関連記事な
どを比較して読
み取ることがで
きる
③文字で表現さ
れている書類、

書籍、などの目			
的や活用の内容			
や方法を理解で			
きる(芸術性を			
除く)			

<u>コミュニケーションの表出 communicating-producing</u> (d330-d349)

d330 話すこと speaking

字句通りの意味や言外の意味をもつ、話し言葉(音声言語)によるメッセージとして、語、句、または文章を生み出すこと。例えば、話し言葉として事実を表現したり、物語を話すこと。

①人として具体		②①に直接関係す	③先の支援を行うた		備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 相手の話し言	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知っている相	1.1.1.1 リピート(繰	
葉(音声言語)の	困難	(家族・親族・友人・	手の話し言葉(音声言	り返し)の技法につ	
メッセージにお	5-	知人•仲間•同僚•	語)のメッセージにお	いての技術と知識。	
ける語句の意味	24%	隣人・コミュニティ	ける語句の意味をど		
を表出できる	中等度	成員)との関係や態	の程度表出している		
(以下を含む)	の困難	度e310·e315·	のか把握できる		
①. 話し言葉に	25-	e320 • e325	1.単語の表出を補足		
おける単語の意	49%	e345 • e410 •	できる		
味を表出でき	重度の	e415 • e420 •	2,文意の表出を補足		
る。	困難	e425	できる		
②. 話し言葉に	50-		3. 時制や動態の表出		
おける文意を表	95%		を補足できる		
出できる。	完全な	1.2メモ用紙とペン		1.2.1.1 語句の活用	
③. 話し言葉に	困難	(鉛筆)e1251	1.2.1 表出解の程度	方法に関する教育の	
おける時制や動	96-		に応じてメモ用紙と	技術	
態(受・能)が表	100%		鉛筆(またはペン)を		
出できる。			使い代筆できる		
			1.2.2 代筆した内容		
			の文字の意味を表出		
			できるように伝える		
			ことができる		
		1.3教育と訓練の		1.3.1.1 コミュニケ	
		サービス	1.3.1 表出の程度に		
		e5850	応じて教育や訓練内	用する技術	
			容を考え、提供し、文		
			字通りの意味の表出		
		2.1 知っている人	を促すことができる		
		(家族・親族・友人・			

T	1		
人•仲間•同僚•	2.1.1 知っている相		
人・コミュニティ	手が伝えた言外の意		
員)との関係や態	味をどの程度表出し		
e310 • e315 •	ているのか把握でき		
320 • e325	る		
345 • e410 •			
115 • e420 •	2.2.1 表出の程度に		
125	応じてメモ用紙と鉛		
	筆(またはペン)を使		
.2 メモ用紙とペ	って代筆できる		
(鉛筆)e1251			
	2.2.2 代筆した内容		
.3教育と訓練の	で言外の意味を表出		
ービス	できるように伝える		
5850	ことができる		
	2.3.1 理解の程度に		
	応じて教育や訓練内		
	容を考え、提供し、字		
	句通りの意味の表出		
	を促すことができる		
3 3 1 1	人・コミュニティ 員)との関係や態 e310・e315・ 20・e325 45・e410・ 15・e420・ 25 2 メモ用紙とペ 鉛筆)e1251 3教育と訓練の ービス	人・コミュニティ 員)との関係や態 e310・e315・ 20・e325 45・e410・ 15・e420・ 25 2 メモ用紙とペ 3教育と訓練のービス 850手が伝えた言外の意味を表出しているのか把握できる 2.2.1 表出の程度に応じてメモ用紙と鉛筆(またはペン)を使って代筆できる 2.2.2 代筆した内容で言外の意味を表出できるように伝えることができる 2.3.1 理解の程度に応じて教育や訓練内容を考え、提供し、字句通りの意味の表出	人・コミュニティ 員)との関係や態 e310・e315・ 20・e325 45・e410・ 15・e420・ 2.2.1 表出の程度に 応じてメモ用紙と鉛 筆(またはペン)を使 って代筆できる る 2 メモ用紙とペ 鉛筆)e1251 3教育と訓練の ービス 850 2.2.2 代筆した内容 で言外の意味を表出 できるように伝える ことができる 2.3.1 理解の程度に 応じて教育や訓練内 容を考え、提供し、字 句通りの意味の表出

d335 非言語的メッセージの表出 producing nonverbal messages

メッセージを伝えるために、ジェスチャー、シンボル、絵を用いること。例えば、賛成でないことを示すために頭を横に振ること。事実や複雑な概念を伝えるために絵や図を描くこと。 含まれるもの:ジェスチャー、記号とシンボル、絵と写真による表出。

d3350 ジェスチャーによる表出 producing body language

顔のジェスチャー(例えば、笑顔、しかめ面、困り顔)、腕と手の動きと姿勢 (例えば、愛情を示すための抱擁) などの身体の動きによって意味を伝えること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.相手のジェス	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 観察を通して知	1.1.1.1&1.1.2.1 非	
チャーについて	困難	(家族・親族・友人・	っている相手のジェス	言語メッセージであ	
表出できる	5-	知人・仲間・同僚・	チャーをどの程度表出	る準言語(言語発声	
(以下を含む)	24%	隣人・コミュニテ	しているのかを把握で	の高さ、大きさ、速	
①相手の表情か	中等度	ィ成員)との関係や	きる	さ、間、アクセントな	
らのメッセージ	の困難	態 度 e310 ·		ど)、表情、仕草、姿	
を理解できる。	25-	e315 • e320 •		勢、服装、装身具など	
	49%	e325		の役割と意義を理解	

	1			T	
②相手の手(指)	重度の	e345 • e410 •		し、それらを読み取	
の動きやサイン	困難	e415 • e420 •		り解釈すること及び	
からのメッセー	50-	e425		非言語メッセージを	
ジを理解でき	95%			活用する技術と知識	
る。	完全な				
③相手の姿勢や	困難	1.2 メモ用紙とペ	1.2.1 表出の程度に応	1.2.1.1 コミュニケ	
仕草からのメッ	96-	ン(鉛筆)e1251	じて代筆でジェスチャ	ーションボードとジ	
セージを理解で	100%		ーの内容を記録するこ	ェスチャーを結び付	
きる。			とができる	けた知識	
④相手の服装、			1.2.2 代筆した内容で		
装身具などから			ジェスチャーの意味を		
のメッセージを			表出できるように伝え		
理解できる。			ることができる		
⑤相手の足の動					
きからのメッセ		1.3教育と訓練の	1.3.1ジェスチャー	1.3.1.1 ジェスチャ	
ージを理解でき		サービス	への表出の程度に応じ	ーの表出力に応じた	
る		e5850	てジェスチャーの意味	教育や訓練内容に関	
			の表出を促すような教	する知識	
			育や訓練内容を考え、		
			提供することができる		
			1.3.2 相手にジェス		
			チャーへの表出につい		
			て、なぜそのように表		
			出したのか把握し、適		
			切な意味を伝えること		
			ができる		
				•	

d3351 記号とシンボルによる表出 producing signs and symbols

記号,シンボル(例えば、図像(アイコン),ブリスシンボル,科学記号),象徴的な記号表記法を用いて意味を伝えること。例えば、メロディを伝えるために楽譜を用いること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 公共の記	軽度の	1.1 メモ用紙とペン	1.1.1 観察や質問を通	1.1.1.1 記号やシン	
号やシンボル	困難	(鉛筆)e1251	して公共の記号やシン	ボルの表出の意味に	
(例えば交通標	5-		ボルの意味をどの程度	ついての知識	
識、警告表示、	24%		表出しているのか把握		
図等)を表出す	中等度		ができる		
ることができ	の困難				
る	25-		1.1.2 表出の程度に応	1.1.2.1 表出する記	
	49%		じて代筆で公共の記号	号やシンボルを理解	

				,
(以下を含	重度の		やシンボルの内容を伝	し、その意味を説明す
む)	困難		えることができる	るために必要な技術
①個々の交通	50-			と知識
標識の意味を	95%	1.2 サービス・制度・	1.2.1 公共の記号やシ	
表出できる。	完全な	政策・教育と訓練の	ンボルへの表出の程度	1.2.1.1 コミュニケ
②地図などの	困難	サービス	に応じて、サービスや	ーションボードを活
記号の意味を	96-	e515 • e540 •	制度の紹介等その意味	用する技術
表出できる。	100%	e5850	の表出を促す。また、教	
③道路、駅、公			育や訓練内容を考え、	
園、広場,公共			提供することができる	
の建物、など				1.3.1.1 記号やシン
におけるシン			1.2.2 公共の記号やシ	ボルの表出力に応じ
ボルやサイン			ンボルの表出につい	た教育や訓練内容に
表示の意味を			て、なぜそのように表	関する技術と知識
表出できる			出したのか把握し、適	
			切な意味を伝えること	
			ができる	
2. 楽譜が読		2.1 メモ用紙とペ	2.1.1 観察や質問を通	
めて、内容を		ン(鉛筆)e1251	して楽譜が読めて内容	
表出できる。			をどの程度表出してい	
			るのか把握ができる	
			2.1.2 表出の程度に	
			応じて代筆で楽譜の内	
			容を伝えることができ	
			る	
513771-5				
3. 科学的記		3.1 メモ用紙とペ		
号が読めて、		ン(鉛筆)e1251	して科学的記号が読め	
内容を表出で			て内容をどの程度表出	
きる。			しているのか把握がで	
			きる	
			3.1.2 表出の程度に	
			応じて代筆で科学的記	
			号の内容を伝えること	
			ができる	
		3.2 サービス・制	 3.2.1 科学的記号の表	
		3.2 リーロス・刷 度・政策・教育と訓	3.2.1 科学的記号の表 出の程度に応じて、サ	
		浸・ 以	古の程度に心して、リートにスや制度の紹介等	
		e515 • e540 •	その意味の表出を促	
		e5850	す。また、教育や訓練内容を考え、提供するこ	
			容を考え、提供することができる。	
			とができる	
			3.2.2 公共の記号やシ	
			ンボルの表出につい	
			て、なぜそのように表	
			出したのか把握し、適	

4. 図像(アイ コン) が読め て、内容を表 出できる。	4.1 メモ用紙とペン(鉛筆)e1251	切な意味を伝えることができる 4.1.1 観察や質問を通して図像が読めて内容をどの程度表出しているのか把握ができる	
		4.1.2 表出の程度に 応じて代筆で図像の内 容を伝えることができ る	
	度・政策・教育と訓 練のサービス	4.2.1 図像の表出の程度に応じて、サービスや制度の紹介等その意味の表出を促す。また、教育や訓練内容を考え、提供することができる4.2.2 図像への表出について、なぜそのように表出したのか把握	
		し、適切な意味を伝え ることができる	

d3352 絵と写真による表出 producing drawings and photographs

描画,絵画,スケッチ,作図,図解,写真によって意味を伝えること。例えば,ある場所への方向を 教えるために地図を描くこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 絵や写真、	軽度の	1.1 メモ用紙とペン	1.1.1 観察や質問を通	1.1.1.1 絵や写真、	
グラフ、表の意	困難	(鉛筆)e1251	して絵や写真、グラフ、	グラフ、表などの意	
味を表出でき	5-		表の意味をどの程度表	味を理解するための	
る	24%		出しているのか把握で	知識	
(以下を含む)	中等度		きる	1.1.2.1 絵や写真、	
①絵や彫刻(三	の困難			グラフ、表などを理	
次元表示) など	25-			解し、その内容を相	
を鑑賞しなん	49%			手に伝える技術	
らかのメッセ	重度の				
ージを表出す	困難				

ることができ	50-	1.2 教育と訓練の	1.2.1 絵や写真、グラ	1.2.1.1 コミュニケ	
る	95%	サービス・教育用の	フ、表の表出の程度に	ーションボードを活	
②グラフによ	完全な	一般的な生産品と	応じてその意味の表出	用する技術	
って表される	困難	用具	を補足し、また、教育や	1.3.1.1 絵や写真、	
内容メッセー	96-	e5850 • e1300	訓練内容を考え、提供	グラフ、表などの表	
ジの意味を表	100		することができる	出力に応じた教育や	
出できる	%			訓練を行う技術と知	
③表によって				戠	
表される内容					
メッセージの					
意味を表出で					
きる。					
④写真などを					
鑑賞しなんら					
かのメッセー					
ジを表出する					
ことができる					

d340 公式手話によるメッセージの表出 producing messages in formal sign language

公式手話によって、字句通りの意味や言外の意味を伝えること。

①人として具 体的行動(行動	ICF の共通	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.公式手話に	軽度の	1.1 メモ用紙と鉛筆	1.1.1 公式手話を実践	1.1.1.1 公式手話に	
よるメッセー	困難	(または、ペ	できる	ついての技術と知識	
ジの言葉や言	5-	ン)e1251	1.1.2 観察や質問を通	1.1.2.1 公式手話に	
外の意味を表	24%		し公式手話をどの程度	よる表現の程度を観	
出できる	中等度		表出しているのか把握	察や質問で把握する	
	の困難		することができる	技術	
	25-		1.1.3 表出できていな	1.1.3.1 公式手話に	
	49%		い内容について代筆を	よる表現の程度を観	
	重度の		通してメッセージを代	察や質問で把握し代	
	困難		弁ができる	筆で確認する技術	
	50-				
	95%	1.2 教育と訓練の	1.2.1 公式手話の実践	1.2.1.1 公式手話の	
	完全な	サービス・教育用の	力に応じて実践できて	実践力に応じて教育	
	困難	一般的な生産品と	いない内容を補う教育	や訓練を行う技術と	
	96-	用具	や訓練内容を考えるこ	知識	
	100	e5850 • e1300	とができる		
	%				
		1.3 コミュニケー	1.3.1 コミュニケーシ	1.3.1.1 公式手話に	
		ションボード	ョンボードの活用を通	よる表現の不足部分	
		e1251	して公式手話をできな	を補うためにコミュ	

い部分を補うこと	がで ニケーションボード
きる	を活用する技術

d345 書き言葉によるメッセージの表出 writing messages

書き言葉を通して伝えられるメッセージの、字句通りの意味や言外の意味を生み出すこと。例 えば、友人に手紙を書くこと。

えば、及人にす	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 書き言葉	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知っている相手	1.1.1.1 日本語によ	
(メールや書	困難	(家族・親族・友人・	による書き言葉のメッ	る、フォーマル(公式	
類、メモ内容、	5-	知人・仲間・同僚・	セージ文字の意味をど	文書)とインフォー	
記事、本、点字)	24%	隣人・コミュニティ	の程度表出しているの	マルな(非公式文書)	
によるメッセ	中等度	成員)との関係や態	かを把握できる	文章表現の作法につ	
ージの文字の	の困難	度e310·e315·		いての技術と知識	
意味を表出で	25-	e320 • e325			
きる	49%	e345 • e410 •	1.1.2 点字ができる	1.1.2.1 日本語によ	
(以下を含む)	重度の	e415 • e420 •	1.1.3 表出の程度に応	る文章表現の作法に	
①個人から送	困難	e425	じて、メッセージをわ	ついての技術と知識	
られてくる手	50-		かりやすく伝えるため	1.2.1.1 書き言葉に	
紙、メール、メ	95%		の代読ができる	よるメッセージがで	
モなどの意味	完全な			きない部分を補う教	
を表出理する	困難		1.1.4 1.1.3 について	育や訓練の技術と知	
ことができる。	96-		表出できているかどう	識	
②新聞などで	100%		か確認できる		
の報道記事の				2.1.1.1 書き言葉に	
内容をそれぞ		1.2教育と訓練の	1.2.1 相手の書き言葉	よるメッセージの行	
れの内容(政		サービス	によるメッセージへの	間を読み取る技術	
治、経済、社会		e5850	表出の程度に応じてそ		
現象、文化、宗			の意味の表出を補足		
教、など)に即			し、また、教育や訓練内		
して表出でき			容を考え、提供するこ		
る。			とができる		
③文字で表現					
されている書		2.1 知っている人	2.1.1 相手の書き言葉		
類、書籍、など		(家族・親族・友人・	によるメッセージにお	2.1.2.1 メッセージ	
に係れている		知人・仲間・同僚・	ける言外の意味をどの	に含まれる言外(行	
内容を表出す		隣人・コミュニティ	程度表出しているのか	間)の意味内容を代筆	
ることができ		成員)との関係や態	把握できる	する技術	
る(芸術性を除		度 e310 • e315 •			
<)		e320 • e325			
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

2. 相手の書き e345 ・ e410 ・ e415 ・ e420 ・ e425 e345 ・ e420 ・ e345
書類、メモ内容、記事、本、点字)によるメッセージにおける言外の意味を表出できる(以下を含む)①個人から送られてくる手紙、メール、メモなどの言外の意味を表出 2.2教育と訓練の 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージがでける言外の意味の表出を補足し、また、程度に応じて教育や訓練内容を考え、提供できる 2.2.1 相手の書き言葉によるメッセージがではる言外の意味の表出を補う教育や訓練についての技術と知識
容、記事、本、 点字)によるメ ッセージにお ける言外の意 味を表出でき る (以下を含む) ①個人から送 られてくる手 紙、メール、メ モなどの言外 の意味を表出
点字)によるメッセージにおける言外の意味を表出できる (以下を含む) ①個人から送られてくる手紙、メール、メモなどの言外の意味を表出
ッセージにおける言外の意味の意味の意味の意味の表出できるサービス e5850によるメッセージにおける言外の意味の表出を補足し、また、程度に応じて教育や訓練内容を考え、提供できるよるメッセージができない部分を補う教育や訓練についての技術と知識(以下を含む) ①個人から送られてくる手紙、メール、メモなどの言外の意味を表出なるメッセージができない部分を補う教育や訓練についての技術と知識
ける言外の意味を表出できる にある には できる になる には できる には
味を表出できる を補足し、また、程度に 応じて教育や訓練内容 技術と知識 (以下を含む) ①個人から送られてくる手紙、メール、メモなどの言外の意味を表出
る (以下を含む) (①個人から送 られてくる手 紙、メール、メ モなどの言外 の意味を表出
(以下を含む) ①個人から送られてくる手紙、メール、メモなどの言外の意味を表出
①個人から送 られてくる手 紙、メール、メ モなどの言外 の意味を表出
られてくる手 紙、メール、メ モなどの言外 の意味を表出
紙、メール、メ モなどの言外 の意味を表出
モなどの言外 の意味を表出
の意味を表出
オスニとがで
් විති
②新聞などで
の報道記事に
ならない現象
を考慮するこ
とができる。関
連記事などを
比較して読み _
取ることがで
きる
③文字で表現
されている書
類、書籍、など
の目的や活用
の内容や方法
を表出できる。
(芸術性を除し、これに対しては、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では
<)

会話並びにコミュニケーション用具および技法の利用 conversation and use of communication devices and techniques (d350-d369)

d350 会話 conversation

話し言葉(音声言語),書き言葉,記号,その他の方法の言語を用いて行われる,考えやアイデアの交換を開始し、持続し、終結すること。公的場面や日常生活の場面で、知り合いまたはよく知らない人と、1人または複数の人とで行われる。含まれるもの:会話の開始、持続、終結。一対一または多人数での会話。

d3500 会話の開始 starting a conversation

対話や意見交換を開始すること。例えば、自己紹介、慣習的な挨拶、話題の導入、質問すること。

<u>_</u>		Т			
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 相手に合わ	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知っている相	1.1.1.1 日本語で生活	
せた挨拶がで	困難	(家族や親族・友人・	手と挨拶を本人がど	を送るために必要な日	
きる。	5-	知人・サークルや学	の程度実践している	常会話の技術	
	24%	習会、ボランティア	のかを把握できる		
	中等度	等の仲間・仕事の同	1.1.2 挨拶が円滑に	1.1.2.1 語られた内容	
	の困難	僚・隣人・町会等コ	開始できるよう本人	に含まれる事実につい	
	25-	ミュニティの成員)	と知っている相手と	て、リピート(繰り返	
	49%	との挨拶ができる	の関係性を考慮し開	し) やリード (質問) な	
	重度の	関係や態度 e320・	始のきっかけをつく	どの技法を用いて確認	
	困難	e325 • e310 •	る	するための技術	
	50-	e315 • e410 •			
	95%	e415 • e420 •			
	完全な	e425			
	困難				
	96-	1.2よく知らない人		1.2.1.1.1 語られた内	
	100%	(会ったことや話し		容に含まれる事実につ	
		たことのない人等)	がどの程度実践して	いて、リピート(繰り返	
		との挨拶ができる	いるのかを把握でき	し) やリード (質問) な	
		関係や態度 e345・	る	どの技法を用いて確認	
		e445	1.2.2 挨拶が円滑に	するための技術と知識	
			開始できるよう本人		
			とよく知らない相手		
			との関係性を考慮し		
			開始のきっかけをつ		
			くる		
0 *** ** * * * * * * * * * * * * * * *		0.4 55	0 4 4 5		
2.必要に応じ		2.1 知っている人			
た自己紹介が		(家族や親族・友人・			
できる。(自分		知人・サークルや学			
を解ってもら		習会、ボランティア			
うためのメッ		等の仲間・仕事の同	かを把握できる		
セージを発信		僚・隣人・町会等コ	2.1.2 必要に応じた		
できる)		ミュニティの成員)	自己紹介が円滑に開		
		に必要に応じた自	始できるよう本人と		
		己紹介ができる関	知っている相手との		
		係や態度 e320・	関係性を考慮しきっ		
		e325 • e310 •	かけをつくる		
		e315 • e410 •			

	e415 • e420 • e425		
	2.2よく知らない人 (会ったことや話したことのない人等) に必要に応じた自己紹介ができる関係 e345・e445		
3.その場に応じた話題を選んで話すことができる。	3.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・サークルや学 習会、ボランティア 等の仲間・仕事の同僚・隣人・町会等員) にその場に応じた話題を選んでも すことができる (を320・ e325・e310・ e315・e410・ e415・e420・ e425	手へその場に応じた 話題を選んで話すことがどの程度実践しているのかを把握できる 3.1.2 その場に応じすことが円滑に開始できるよが円滑に開始できるよう本人と知られる相手との関係	
	3.2 知らない人(会ったことや話したことのない人等) にその場に応じた話題んで話すことができる関係e345・e445	へその場に応じた話 題を選んで話すこと	
4. 相手に何ら かの質問(例え ば、相手を理解	4.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・サークルや学		

するための)が	習会、ボランティア	どの程度実践してい	
できる。	等の仲間・仕事の同	るのかを把握できる	
	僚・隣人・町会等コ		
	ミュニティの成員)	4.1.2 何らかの質問	
	に何らかの質問が	を円滑に開始できる	
	できる関係や態度	よう本人と知ってい	
	e320 • e325 •	る相手との関係性を	
	e310 • e315 •	考慮しきっかけをつ	
	e410 • e415 •	くる	
	e420 • e425		
	4.2 よく知らない	4.2.1 よく知らない	
	人(会ったことや話	相手へ何らかの質問	
	したことのない人	をどの程度実践して	
	等)に何らかの質問	いるのかを把握でき	
	ができる関係	る	
	e345 • e445	4.2.2 何らかの質問	
		を円滑に開始できる	
		よう本人と知らない	
		相手との関係性を考	
		慮しきっかけをつく	
		息してラがけるラく	
		Ø	

d3501 会話の持続 sustaining a conversation

対話や意見交換を持続し、形成すること。アイデアを加えたり、新たな話題を導入したり、既に 言及された話題に戻ったり、交互に話したり身振りしたりすることによる。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 相手の話の	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知っている相	1.1.1.1 語られた内容	
内容に賛否を	困難	(家族や親族・友人・	手の話の内容に賛否	に含まれる事実につい	
言うことがで	5-	知人•仲間• 同僚•	を言うことができる	て、リピート(繰り返	
きる	24%	隣人・コミュニティ	のかを把握できる	し) やリード (質問) な	
	中等度	の成員)の話の内容	1.1.2 賛否を相手に	どの技法を用いて確認	
	の困難	に賛否をいうこと	伝えることができる	するための技術と知識	
	25-	ができる関係や態	よう本人と知ってい		
	49%	度 e320 • e325 •	る相手との関係性を	1.1.2.1 語られた内容	
	重度の	e310 • e315 •	考慮し、声かけて促す	に含まれる事実につい	
	困難	e410 • e415 •	1.1.1 よく知らない	て、リピート(繰り返	
	50-	e420 • e425	相手の話の内容に賛	し)やリード(開かれた	
	95%		否を言うことができ	質問)などの技法を用	
	完全な		るのかを把握できる	いて確認するための技	
	困難		1.1.2 賛否を相手に	術と知識	
			伝えることができる		

		T	T	1	
	96-	1.2よく知らない人 の話の内容に賛否 をいうことができ る関係 e345・ e445	1.1.2 知っている相	に含まれる事実について、リピート(繰り返し)やリード(開かれた質問)などの技法を用いて確認するための技術と知識1.2.2.1 語られた内容	
2. 相槌(言語・動作)を打つことができる		(家族や親族・友人・	2.1.1 よく知らない 相手との会話に相槌をすることができる のかを把握できる 2.1.2 賛否をよくのは おいまれ とのは がいらない 相槌が でいる 本人と知らない 相ばい 大との関係性を考慮し、声かけて促す		
3. 相手の話の内容に感想や意見を言う事ができる。		3.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 瞬人・コミュニティ の成員)の話のの意見を こことができる25・ e310・e315・ e410・e415・ e420・e425 3.2 知らない人の 意見を言うというない 意見を言うという。 できる関係 e345・ e445	手との話の内容に感 想や意見をかを記しいできるのかを把握できるのかを把握できるのかを把握できるのかを把握できるのかを把握をしたの関係性をもまられる相手になるはいで促すの内容にはいるによりでにないのではあるによりではない。ことの意見を言うない。		

		3.2.2 知っている相 手との関係性を考慮 し、相手に感想や意見 を伝えられるよう声 かけで促す	
4. 相手の話の 内容に新たな 情報などを付 け加えること ができる。	4.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)の話の内容 に新たな情報など を付け加えること ができる関係 e320・e325・ e310・e315・ e410・e415・ e420・e425	な情報等つけ加えることができるのかを把握できる4.1.2 知らない相手との関係性を考慮し、新たな情報等つけ加えることができるか声かけで促す	
	4.2 知らない人の 話の内容に新たな 情報などを付け加 えることができる 関係 e345・e445	情報等つけ加えるこ とができるのかを把 握できる	
5. 新たな話題に転換することができる。(会話転換時の例・そういえば・それもあけれど・聞いて聞い	5.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・ 同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)の話の内容 に新たな話題に転 換することができ る 関係 e320・ e325・ e310・ e315・ e410・	手との会話で新たな 話題に転換できるの かを把握できる 5.1.2 知っている相 手との関係性を考慮	
7)	e415・e420・ e425 5.2知らない人の話 の内容に新たな話 題に転換すること ができる関係 e345・e445	5.2.1 よく知らない 相手との会話で新た な話題に転換できる のかを把握できる 5.2.2 よく知らない 相手との関係性を考 慮し、会話で新たな話 題に転換があれば声 かけで促す	

d3502 会話の終結 ending a conversation

対話や意見交換を終わらせること。慣習的な終結の辞や表現や, 討議中の話題を終結することによる。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.その意見交	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知り合いの相	1.1.1.1 会話の終了に	
換を続けられ	困難	(家族や親族・友人・		ついて明確な方法で参	
る時間を意識	5-	知人・仲間・同僚・		会者に示す技術	
できる。	24%	隣人・コミュニティ			
	中等度	の成員)と意見交換	る	1.2.1.1 会話の終了に	
	の困難	を続けられる時間		ついて明確な方法で参	
	25-	を意識できる関係・	1.1.2 意見交換が続	会者に示す技術	
	49%	本人への態度・時間			
	重度の	的変化 e320 ·	するよう声かけて促		
	困難	e325 • e310 •	ਰ		
	50-	e315 • e410 • e415 • e420 •			
	95%	e415 • e420 •			
	完全な 困難	6420 6240			
	96-	1.2よく知らない人			
	100%	と意見交換を続け			
	10070	られる時間を意識			
		できる関係・本人へ			
		の態度・時間的変化			
		e345 • e445 •			
		e245			
			2.1.1 よく知らない		
2. 意見交換の		2.1 知っている人	相手との意見交換が		
目的を達成で		(家族や親族・友人・	続けられる時間を意		
きたかどうか、		知人・仲間・同僚・	識しているのか把握		
判断できる。		隣人・コミュニティ			
		の成員)との意見交			
		換の目的の達成度			
		を判断できる関係・	するよう声かけて促		
		本人への態度・時間	す 044 55000000000000000000000000000000000		
		的変化 e320 •	2.1.1 知り合いの相		
		e325 • e310 •	手との意見交換で目		
		e315 • e410 • e415 • e420 •	的が達成できたのか 把握する		
		e415 • e420 • e425			
		6420 - 6240	2.1.2 息兄父換(日 的が達成できたのか		
				L	

3.意見交換などの次の展開を想定できる。	2.2 よく知らない 人との意見をを 日的の達成係・ 日的の達成係・ 日的のきる関係・ で態度・ 中の態度・ 日本の態度・ 日本の態度・ 日本の 日本の 1.1 に 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の	ふに 2.1 目的 からに 2.2.1 目的 からな く意成る 見でらる く意成る見でらる く意成る見でらる り交定 対見で 交きれ り交定る見をかけて でのよ いでき 換ででいる 1.1.1 意を関連でいる 3.1.2 関 でのよう かってき しゅう かってき しゅう かっていてき かけている かっと	
4. 意見交換の の で り で り る。 き る。	3.2 よく知らない 3.2 よく見見を 5.2 のののというでは 5.2 のののというでは 5.3 には 5.4 には 5.4 には 5.5 には 5.5 には 5.6 には 5	3.2.1 と限別である。 3.2.2 展別である。 3.2.2 展別では、意味を関連を関連を対して、 4.1 に感じて、 2、世界に、 4.1 に感じて、 4.1 に感じて、 4.1 に感じて、 4.1 に感じて、 4.1 に感じて、 4.1 に感じて、 4.2 では、 4.2 には、 4.2 には、 4.2 には、 4.2 には、 4.2 には、 4.3 は、 4.2 には、 4.3 は、 4.4 は	

	4.2 知らない人と の意見交換の内容 に関して感謝やお 礼を言うことがで きる関係・本人への 態度・時間的変化 e345・e445・	か把握する 4.2.2 意見交換への 感謝やお礼をよく知 らない相手に伝えら れるよう声かけで促	
5. 終結とお別 れの挨拶がで きる。(次の展 開に触れての)	(家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)の会話の終 結とお別れの挨拶 ができる関係・本人 への態度・時間的変 化 e320・e325・ e310・e315・ e410・e415・ e420・e425・ e245	5.1.2 話の終了前の 連絡や終了時に挨拶、 次の展開を知り合い 相手と確認できるように声かけをする 5.2.1 終了時刻について、意識しているのかどうか把握する 5.2.2 話の終了前の	
	れの挨拶ができる 関係・本人への態 度・時間的変化 e345・e445・ e245	次の展開をよく知ら	

d3503 一対一での会話 conversing with one person

1人の人と、対話や意見交換を開始し、持続し、形成し、終結すること。例えば、友人と天気について話すこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.一対一で会	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知り合いの相	1.1.1.1 本人と知り合	
話の一連の流	困難	(家族や親族・友人・	手と1対1で会話の	いの両者の関係性やふ	
れ(d.3520・開	5-	知人・仲間・同僚・	ー連の流れが展開で	るまい、相互の状況、時	
	24%	隣人・コミュニティ	きるように、両者の関	間の経過を見ながら会	

始・持続・終了) 展開ができる	中等度 の困 25- 49% 重度 取 50- 95% 京 乗	の成員)と一対一で 会話の一連の流れ ができる の関係・本人への態 度・時間的変化 e320・e325・ e310・e315・ e410・e415・ e420・e425・ e245	係性やふるまい、相互 の状況、時間の経過を みながら、質問や内容 のフィードバック、次 の関連の話題提供を 行う、会話の終了前の 連絡や終了時に挨拶 を行うことができる	話を進め、かつ終了する技術
	96-100%	1.2 よく知らない 人と一対一で会話 の一連の流れがで きる関係・本人への 態度・時間的変化 e345・e445・ e245	1.2.1 知り合いではない各メンバーが 1 対 1 で会話の一連の流れが展開できるとできるといい。 はいいい から、時間の経過をのの関連の話題提供を行う、会話の終了時に挨拶を行うことができる	1.2.1.1 本人と知り合いでない両者の関係性やふるまい、相互の状況、時間の経過を見ながら会話を進め、かつ終了する技術
2.1 付きをできる。 2.1 をできる。 2.2 できる。 2.3 できる。 2.3 できる。 2.3 できる。 3.3 できる。 4.3 できる。 5.4 できる。 6.4 できる。 7.5 できる		2.1 知の (家 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2.1.1 手望しき 2.1.2 がでいる かかいるかから 1.1 相を譲して 2.1.2 がでいる 知ういるよ 知ういるよ 知ういるよ 知ががでいる 知ういるよ 知ががったる 知ががったる 知ががったる 知ががったる 知ががったる りががったる かがったいる はうか はうか はうか	

		+ 寸====================================	
		を意識してみるよう	
		に声かけする	
3.相手が望ん	3.1 知っている人	3.1.1 知り合いの相	
でいる内容に	(家族や親族・友人・	手が望んでいる内容	
配慮したり対	知人・仲間・同僚・	に配慮をしているの	
応したりでき	隣人・コミュニティ	か把握できる	
る	の成員)が望んでい	73 10112 00 0	
	る内容に配慮や対	3.1.2 知り合いの相	
	応ができる関係・時	手が望んでいる内容	
	間的変化 e320 ·	に配慮できるよう声	
	e325 • e310 •	をかけ、促す	
	e315 • e410 •	ZODO NES	
	e415 • e420 •	3.2.1 知り合いでは	
	e425 • e245	ない相手が望んでい	
		る内容に配慮をして	
	3.2 よく知らない	いるのか把握できる	
	人が望んでいる内		
	容に配慮や対応が	3.2.2 知り合いでは	
		ない相手が望んでい	
	の態度・時間的変化		
	e345 • e445 •	よう声をかけ、促す 	
	e245		

d3504 多人数での会話 conversing with many people

2人以上の人と、対話あるいは意見交換を開始し、持続し、形成、終結すること。例えば、グループでの意見交換を開始し、参加すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
OXX EI)	困難な し 0-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 多人数で会話の一連の流れ(d.3520 開始・d.3521 持続・d.3522 終了)が展開できる	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困類 25- 49% 重度の 困難 50- 95%	1.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)と多人数で 会話の一連の流れ が展開できる関係・ 本人への態度・時間 的変化 e320・ e325・e310・ e315・e410・	1.1.1 本人が多人数の知り合いと会話の一連の流れが展開できるように、両者の関係性やふるまい、相互の状況、時間の経過をみながら、ドバック、次の関連の話題提供を行う、会話の終了前の連絡や	1.1.1.1 本人と知り合いの多人数との関係性やふるまい、相互の状況、時間の経過を見ながら会話を進め、かつ終了する技術	

	1	T		<u></u>
	完全な 困難 96-	e415 • e420 • e425 • e245	終了時に挨拶を行う ことができる	
	100%	1.2知らない人と多 人数で会話の一連 の流れが展開でき る関係・本人への態 度・時間的変化 e345・e445・ e245	1.2.1 本人が多人名別の知道の流れが多人ではいれが多人ではいれが多人ではいいではいいでは、一次の一手の関係をはいいのでは、一連のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一連の話のは、一点には、一点には、一点には、一点には、一点には、一点には、一点には、一点に	1.2.1.1 本人と知り合いでない多人数との関係性やふるまい、相互の状況、時間の経過を見ながら会話を進め、かつ終了する技術
2.その集団がる理由はいい。 (地縁・性値の) を担ける (地縁・性を) を担ける (地縁・性を) を対して (はずれ) をがれ) を対して (はずれ) を対して (はずれ) をがれ) をがれる (はずれ) をがれる		2.1 知っている人・ (家族・伊間・一二ま一根への の成る関係・中間・二ま一根への の成る関係・中間・10 を本の 態度・自320・自325・自410・自415・自420・自420・自425・自245・自245・自245・自245・自245・自245・自245	2.1.1 どのような理由で集まっているの集団なの集団なの集団なの本人に確認をすい知るをするのは、お上でのようなでは、お上でのようなでは、お上でのようなでは、はでは、はでは、はでは、はでは、はでは、はでは、はでは、はでは、はでは、	
3.その集団ができている理由(2)を踏まえて話題を提供できる		3.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)に対して2 を踏まえて話題を 提供できる関係・本 人への態度・時間的 変化 e320・e325・ e310 ・e315 ・ e410 ・e415・	3.1.1 知り合いの集団において話題を提供できるのか把握できる3.1.2 知り合いの集団内で話題の提供できるように声かけする 3.2.1 知り合いのいない集団において話	

	e420 • e425 •	題を提供できるのか	
	e245	担握できる	
	6240		
	3つ 知らたい人に	3.2.2 知り合いのい	
		ない集団内で話題の	
		提供できるように声	
	る関係・本人への態		
	度 • 時間的変化	71790	
	e345 · e445 ·		
	e245		
	6240		
4. その集団に	4 1 知っている人	4.1.1 知り合いの集	
参加している		団内の参加者名や役	
人の呼び名を	知人・仲間・同僚・		
知っている(集	隣人・コミュニティ		
団内の役割や		4.1.2 知り合いの集	
立場を理解し		団内の参加者全員で	
ている。)	び名を知っている		
	関係・本人への態		
	度•時間的変化		
	e320 • e325 •		
	e310 • e315 •		
	e410 • e415 •	4.2.1 知り合いでは	
	e420 • e425 •	ない集団内において	
	e245	参加者名や役割等理	
		解しているのか把握	
	4.2 知らない人の	できる	
	集団に参加してい	4.2.2 知り合いでは	
	る人の呼び名を知		
		全員で名前や役割を	
	への態度・時間的変	皆で確認をしあう	
	化 e345 · e445 ·		
	e245		

d355 ディスカッション discussion

事柄の吟味を、賛成あるいは反対の議論や討論によって開始し、持続し、終結すること。話し言葉(音声言語)、書き言葉、記号、その他の形式の言葉を用いて、公的な 場面や日常生活の場面で、知り合いまたはよく知らない人と、1人または複数の人とで行われる。

含まれるもの:一対一, または多人数でのディスカッション。

d3550 一対一でのディスカッション discussion with one person

1人の人と,議論や討論を開始し,持続し,形成し,終結すること。

	ı	T			1
①人として具	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うた	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	横・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.議論や討論	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知り合いの相手	1.1.1.1 日本語で生	
のテーマ(内	困難	(家族や親族・友人・	 との1対1の議論や討	活を送るために必要	
容)を理解して	5-	知人・仲間・同僚・	論のテーマを理解して	な日常会話の技術と	
いる。	24%	隣人・コミュニティ	いるのかを把握できる	知識	
	中等度	の成員)との関係・	1.1.2 本人や知り合	1.1.2.1 語られた内	
	の困難	本人への態度・時間	いのメンバーと一緒	容に含まれる事実に	
	25-	的変化 e320 •	にテーマを再確認す	ついて、リピート(繰	
	49%	e325 • e310 •		り返し) やリード (開	
		e315 • e410 •	.0	かれた質問)の技法を	
	重度の	e415 • e420 •			
	困難			用いて確認するため	
	50-	e425 • e245		の技術と知識	
	95%	 4 0 E / 畑こおい		1011 話じわた中	
	完全な	1.2よく知らない	1.2.1 知り合いでは	1.2.1.1 語られた内	
	困難	人との関係・本人へ	ない相手との1対1の	容に含まれる事実に	
	96-	の態度・時間的変化	議論や討論のテーマを	ついて、コミュニケー	
	100%	e345 • e445	理解しているのかを把	ションボードを活用	
		• e245	握できる	してリピート(繰り返	
				し)やリード(開かれ	
				た質問)の技法を用い	
				て確認するための技	
				術	
				1.3.1.1 本人と知り	
		2.1 知っている人	2.1.1 本人や知り合	合いの両者の関係性	
2.そのテーマ		(家族や親族・友人・	いの相手のメンバー	やふるまい、相互の状	
(内容)につい		知人・仲間・同僚・	とのテーマについて	況、時間の経過を見な	
て、自分の意見		隣人・コミュニティ	どのような意見があ	がら会話を進め、かつ	
をまとめるこ		の成員)との関係・	るのかを再確認する	終了する技術	
とができる。		本人への態度・時間		1.4.1.1 本人と知り合	
		的変化 e320 ·	2.2.1 本人や知り合	いでない両者の関係	
		e325 • e310 •	いではない相手のメ	性やふるまい、相互の	
		e315 • e410 •	ンバーとのテーマに	状況、時間の経過を見	
		e415 • e420 •	ついての意見がある	ながら会話を進め、か	
		e425 • e245	のかを再確認する	つ終了する技術	
			-	-	
		2.2よく知らない	2.3.1 テーマに対す		
		人との関係・本人へ	る意見の集約を記録す		
		の態度・時間的変化	る		
		e345 • e445			
		• e245	2.4.1 2.1.1 \$\psi 2.2.1		
			の状況に応じて、コミ		
			コニケーションボード		
	<u>I</u>	l	ユーノーノコンハート		

	2.3 メモ用紙と鉛 筆(または、ペン)e1251 2.4コミュニケーションボード e1251	を活用し、情報収集を 促すことができる	
3.自分の意見をまとめるために、必要な情報収集を行うことができる。	(家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)との関係・ 本人への態度・時間 的変化 e320・	3.2.1 知り合いでは ないメンバーとのディスカッションのた めの自分の意見をま	
4.自己の意見	3.4コミュニケー	とめる上でどの程度 情報収集をしている のか把握・確認する 3.3.1 意見を収集した 内容を記録・代筆する 3.4.1 3.2.1 や 3.2.2 の状況に応じて、コミ ュニケーションボー ドを活用し、情報収集 を促すことができる	
4.自己の息見 としてまとめ た内容を、相手 に解りやすく 表現できる。	4.1 知っている人 (家族や親族・友人・ 知人・仲間・同僚・ 隣人・コミュニティ の成員)との関係・ 本人への態度・時間 的変化 e320・ e325・e310・ e315・e410・ e415・e420・ e425・e245	4.1.1 本人が自身の意見内容を、知り合いの相手のメンバーにわかりやすく表現できるのか把握する 4.1.2 本人の意見内容を、知り合いの相手にわかりやすい表現で代筆等を行いまとめる支援をする	
	4.2 よく知らない 人との関係・本人へ の態度・時間的変化 e345・e445 ・e245	4.2.1 本人が自身の意 見内容を、知り合いで はない相手のメンバ ーにわかりやすく表	

T	1		1
		現できるのか把握す	
	4.3メモ用紙と鉛	る	
	筆(または、ペ		
	ン)e1251	4.3.1 本人の意見内容	
	4.4コミュニケー	を、知り合いではない	
	ションボード	相手にわかりやすい	
	e1251	表現で代筆等を行い	
		まとめる支援をする	
		4.4.1 4.2.1 \$\psi\$ 4.2.2	
		の状況に応じて、コミ	
		ュニケーションボー	
		ドを活用し、情報収集	
		を促すことができる	
		を作る ここり てらめ	
5.同様にして	5.1 知っている人	5.1.1 知り合いの相手	
表明される相	(家族や親族・友人・	のメンバーの意見を	
手の意見を理	知人・仲間・同僚・	理解できるのか把握	
解できる。(相	隣人・コミュニティ	する	
		90	
手の意見の理	の成員)との関係・		
由や根拠も含	本人への態度・時間	5.1.2 知り合いの相手	
めて)	的変化 e320 •	のメンバーの意見内	
	e325 • e310 •	容を一緒に確認する	
	e315 • e410 •		
	e415 • e420 •	5.2.1 知り合いでは	
	e425 • e245	ない相手のメンバー	
		の意見を理解できる	
	5.2よく知らない	のか把握する	
	人との関係・本人へ	5.2.2 知り合いでは	
	の態度・時間的変化	ない相手のメンバー	
	e345 • e445	の意見内容を一緒に	
	• e245	確認する	
	32.0		
		5.4.1 相手の意見内	
		容を、知り合いではな	
		い相手にわかりやす	
		い表現で代筆等を行	
		いまとめる支援をす	
		る	
		5.5.1 5.2.1 \$ 5.2.2	
		の状況に応じて、コミ	
		ュニケーションボー	
		ドを活用し、情報収集	
		を促すことができる	
6.相手の意見			
の適切(根拠		6.1.1 知り合いの相手	
のある) なコ		のメンバーに適切な	
メントを述べ			
スノトと連ハ		コメントを述べるこ	

フーレができ	トがオキスのか押担	\Box
ることができ	とができるのか把握	
ි රිං	する	
	6.1.2 知り合いの相手	
	のメンバーへの適切	
	なコメント内容を一	
	緒に確認する	
	6.2.1 知り合いでは	
	ない相手のメンバー	
	に適切なコメントを	
	述べることができる	
	のか把握する	
	6.2.2 知り合いでは	
	ない相手のメンバー	
	への適切なコメント	
	内容を一緒に確認す	
	3 2 16 2 2 3	
	6.3.1 相手のメンバ	
	0.3.1 指字のスクバ	
	ト内容代筆で記録す	
	3	
	6.4.1 6.2.1 \$\psi 6.2.2	
	の状況に応じて、コミ	
	ュニケーションボー	
	ドを活用し、適切なコ	
	メント内容を促すこ	
	とができる	

d3551 多人数でのディスカッション discussion with many people

2人以上の人と、議論や討論を開始し、持続し、形成し、終結すること。

①人として具 体的行動(行動	ICF の共通	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 参加者個々	軽度の	1.1 知っている人	1.1.1 知り合いの参	1.1.1.1 日本語で生活	
の意見の違い	困難	(家族や親族・友人・	加者個々のメンバー	を送るために必要な日	
を理解する事	5-	知人・仲間・同僚・	の意見を本人がどの	常会話の技術と知識	
ができる。	24%	隣人・コミュニティ	程度理解しているの		
		の成員)との関係・	かを把握できる	1.1.2.1 語られた内容	
	中等度	本人への態度・時間		に含まれる事実につい	
	の困難	的変化 e320 ·	1.1.2 知り合いの参	て、リピート(繰り返	
	25-	e325 • e310 •	加者個々の意見の違	し) やリード (質問) な	
	49%	e315 • e410 •			

		T		
	重度の	e415 • e420 •	いを本人と一緒に確	どの技法を用いて確認
	困難	e425 • e245	認する	するための技術と知識
	50-			
	95%	1.2よく知らない人	1.2.1 知り合いでは	1,2,1,1 コミュニケー
	完全な	との関係・本人への	ない参加者個々のメ	ションボードを適宜状
	困難	態度・時間的変化	ンバーの意見を本人	況に応じて使用するた
	96-	e345 • e445	がどの程度理解して	めの技術と知識
	100%	• e245	いるのかを把握でき	
			る	1.3.1.1 コミュニケー
		1.3メモ用紙と鉛		ションにおける互いの
		筆(または、ペ	1.2.2 知り合いでは	 椅子やテーブルの位置
		ン)e1251	ない参加者個々の意	が持つ意味についての
		7/01201	見の違いを本人と一	知識
		4 4 3 5 - 5		
		1.4コミュニケー	緒に確認する	
		ションボード		1.4.1.1 本人と知り合
		e1251	1.3.1 1.1.2 や 1.	いの多人数との関係性
			2.2 の内容を整理す	やふるまい、相互の状
		1.5日常生活にお	るために代筆や代弁	況、時間の経過を見な
		ける個人用の一般	できる	がら会話を進め、かつ
		的な生産品と用具		終了する技術
			11111111111	
		e1150	1.4.1 1.1.1 \$\psi 1.1.	
			2 の状況に応じて、	
			コミュニケーション	
			ボードを活用し、デ	1.5.1.1 本人と知り合
			ィスカッションを促	いでない多人数との関
		2.1 知っている人	すことができる	係性やふるまい、相互
		(家族や親族・友人・		
2.同意見、もし		知人・仲間・同僚・	ルを用意し、本人が	
くは考えの近		隣人・コミュニティ	意見を出しやすい座	かつ終了する技術
い人とチーム		の成員)との関係・	る位置を考えること	
を創ることが		本人への態度・時間	ができる	
できる		的変化 e320 ·		
		e325 • e310 •	2.1.1 知り合いであ	
		e315 • e410 •	る参加者個々のメン	
		e415 •	バーで同意見または	
		e420 • e425 • e2	考えの近い人との関	
		1.20 0.20 02	係がどの程度あるの	
			かを把握できる	
			2.1.2 知り合いで	
			ある参加者個々のメ	
		2.2よく知らない人	ンバーで同意見また	
			は考えの近い人とチ	
			ームとしての築きあ	
			げることができるよ	
			う声かけ等促す	
			2.2.1 知り合いでは	
i		Ì	ない参加者個々のメ	i l

ンバーの意見を本人 がどの程度理解して いるのかを把握でき	
いるのかを把握でき	
3	
2.3コミュニケー	
ションボード 2.2.2 知り合いでは	
e1251 ない参加者個々の意	
見の違いを本人と一	
2.3.1 2.1.1, 2.1.2,	
2.4日常生活にお 2.2.1、2.2、2の状	
ける個人用の一般 況に応じて、コミュ	
的な生産品と用具 二ケーションボード	
e1150 を活用し、ディスカ	
3.チーム内で ッションを促すこと	
役割分担がでした。かできる	
き、それに対応 3.1 知っている人	
した活動、発言 (家族や親族・友人・ 2.4.1 椅子やテーブ)	
ができる。 知人・仲間・同僚・ ルを用意し、本人が	
隣人・コミュニティ 他の参加者と同意見	
の成員)との関係・ を出しやすい座る位	
本人への態度・時間 置を考えることがで	
的 変 化 e320 ・ きる	
e325 • e310 •	
e315 · e410 · 3.1.1 知り合いであ	
e415 · e420 · る参加者個々のメン	
e425・e245 バーとの役割分担や	
活動、発言がどの程	
度できるのか把握で	
3.2よく知らない人 きる	
との関係・本人への	
この関係・本人への	
e345 · e445 · る参加者個々のメン	
e245	
や活動、発言ができ	
るように声かけを行	
j j	
3.2.1 知り合いでは	
3.3メモ用紙と鉛 ない参加者個々のメ	
筆(または、ペンバーとの役割分担	
ン)e1251	
程度できるのか把握	
できる	
3.2.2 知り合いでは	
3.4コミュニケーシ ない参加者個々のメ	
ョンボード ンバー間での役割分	1

	担や活動、発言がで きるように声かけを 行う	
3.5日常生活におけ る個人用の一般的 な生産品と用具 e1150	を整理するために代	
	3.4.1 3.1.1 や 3.1.2、 3.2.1、3.2.2 の状況 に応じて、コミュニ ケーションボードを 活用し、デションを 促すことができる	
	3.5.1 椅子やテーブ ルを用意し、本人が 他の参加者と役割分 担や活動、発言しや すいように座る位置 を考えることができ る	

d360 コミュニケーション用具および技法の利用 using communication devices and techniques

コミュニケーションのために、器具や技法、その他の手段を用いること。例えば、電話で友人と話すこと。

含まれるもの: 遠隔通信用具の利用, 書字用具の利用, コミュニケーション技法の利用。

d3600 遠隔通信用具の利用 using telecommunication devices

コミュニケーションの手段として、電話やその他の用具を用いること。例えば、ファックスやテレックスを使用すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.遠隔通信用	軽度の		1.1.1 遠隔通信用具を	1.1.1.1 遠隔通信用具	
具としての電	困難		使用できる	についての技術と知識	

		1	T		
話で相手を呼	5-	1.1 メモ用紙と鉛	1.1.2 遠隔通信用具		
び出す事がで	24%	筆(または、ペ	をどの程度活用してい		
きる。	中等度	ン)e1251	るのかを把握すること		
	の困難		ができる	1.1.3.1 遠隔通信用具	
	25-		1.1.3 活用の程度に	の活用程度に応じて代	
	49%		応じて遠隔通信用具が	筆や代弁をする技術	
			 円滑に使用できるよう		
	重度の		に代行できる	 1.2.1.1 遠隔通信用具	
	困難			の活用方法についての	
	50-	1.2 教育と訓練の	 1.2.1 活用できない遠	知識	
	95%	サービス・教育用	隔通信用具の使い方等	,.	
	完全な	の一般的な生産	教育や訓練内容を考		
	困難	品と用具	え、提供できる		
2. 電話でコミ	96-	e5850 • e1300	700 32170 00 00		
ュニケーショ	100				
ン(雰囲気の理		21 コミューケー	 2.1.1 電話を使って相		
解も含めて)が		ション用の支援的			
できる。		な生産品と用具			
		e1250	2.1.2 電話を通して相		
		01200	手の雰囲気も意識して		
			いるのか把握する		
			(100万) 101注9 の		
		22 メモ田紙と	 2.2.1 電話の使用状況		
		鉛筆(または、ペ			
		ン)e1251	してメッセージを伝え		
		7/01201	ることができる		
3.ファックス					
の使用方法を		 31コミュ <i>ー</i> ケー	 3.1.1 ファックスを使		
知っていて使		ション用の支援的			
える。(ファッ		な生産品と用具	あうことができるのか		
クス原稿を作		e1251	把握する		
れる。)		01201	3.1.2 ファックスの使		
1000)			用できない部分があれ		
			ば代行し、連絡の内容		
			を伝える		
		 3.2教育と訓練の	 3.2.1 ファクスの使い		
		3.2教育と訓練の サービス e5850	うについて説明したり		
) LA 60000	一緒に使用してみる・		
			福祉用具対象の府ファ		
			クスがないか検討して		
			みる		
4 =1		11 法原签层中日			
4. テレックス た知っている		4.1 遠隔通信用具	4.1.1 テレックスの使		
を知っている。		の利用は3600	い方や目的を知ってい		
(原理を理解			るのか把握する		
している)					

T T			ı	
		4.1.2 テレックスの		
		使用できない部分があ		
		れば代行する		
	4.2教育と訓練の	4.2.1 テレックスの使		
	サービス・教育用	い方について説明した		
	の一般的な生産			
	品と用具	り間に反角してがる		
	e5850 • e1300			
5. トランシー				
バーやアマチ	5.1 遠隔通信用具			
ュア無線など	の利用は3600	やアマチュア無線など		
様々な有線・無		様々な有線・無線の通		
線の通信シス		信システムの使い方や		
テムについて		目的を知っているのか		
知っている。		把握する		
		5.1.2 トランシーバー		
		やアマチュア無線など		
		様々な有線・無線の通		
		信システムで使用でき		
		ない部分があれば代行		
	5.2教育と訓練の	する		
	サービス・教育用	9 0		
	の一般的な生産	 5.2.1 テレックスの使		
	品と用具	い方について説明した		
	e5850 • e1300	り一緒に使用してみる		

d3601 書字用具の利用 using writing machines

コミュニケーションの手段として、書字用具を用いること。例えば、タイプライター、コンピュータ、点字タイプライターを使用すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 基本的書字 用具(鉛筆、ボールペン、毛筆、水性油性フェルトペン、万年筆、ペン(インク)、など)を	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49%	1.1 コミュニケー ション用の支援的 な生産品と用具 e1251	1.1.1 書字用具を使用 できる 1.1.2 書字用具をどの 程度活用しているのか を把握することができ る	1.1.1.1 書字用具活用 の技術	

知っていて使 える	重度の 困難 50- 95%	1.2メモ用紙と鉛 筆(または、ペ ン)e1251	1.2.1 活用の程度に応じて代行できる 1.3.1 活用できない書	1.1.3.1 書字用具活用 の程度に応じた代筆や 代弁の技術 1.2.1.1 遠隔通信用具
2. (点字を含む)タイプライターを知って	完全な 困難 96- 100	ション用の支援的 な生産品と用具 e1251 2.2 メモ用紙と鉛	字用具の使い方等教育 や訓練内容を考え、提 供できる 2.1.1 タイプライター を使用できる 2.1.2 タイプライター をどの程度活用してい るのかを把握すること ができる 2.2.1 活用の程度に応	の使い方の教育や訓練の技術
いて使える		筆(または、ペン)e1251 2.3 教育と訓練のサービス・教育用の一般的な生産品と用具 e5850・e1300	2.3.1 活用できないタイプライターの使い方	
3. コンピュータによる表現方法や読み取り方を知っていて使える		ション用の支援的 な生産品と用具 e1251 3.2 メモ用紙と鉛 筆(または、ペ	3.1.2 タイプライタ ーをどの程度活用して いるのかを把握するこ とができる	
※. コンピュータ・ソフトの活用までは触れない。		ン)e1251 3.3 教育と訓練の サービス・教育用 の一般的な生産品 と用具 e5850・ e1300	3.2.1 活用の程度に応じて代行できる 3.3.1 活用できない タイプライターの使い 方等教育や訓練内容を 考え、提供できる	

d3602 コミュニケーション技法の利用 using communication techniques

コミュニケーションのための技法となる行為や課題を遂行すること。例えば、 読唇術。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1. 読唇術を通して相手との	軽度の 困難	1.1 メモ用紙と鉛 筆(または、ペ	1.1.1 読唇術を実践で きる	1.1.1.1 読唇術の技術 と知識	
コミュニケー	5-	ン)e1251	1.1.2 読唇術をどの程		
ションができ	24%		度実践しているのかを	1.1.3.1 読唇術活用の	
る	中等度		把握できる	程度に応じた代筆や代	
	の困難		1.1.3 実践の程度に応	弁の技術	
	25-		じて代筆や代弁できる		
	49%				
	重度の	1.2 教育と訓練の	1.2.1 実践できない内	1.2.1.1 遠隔通信用具	
	困難	サービス・教育用	容について教育や訓練	の使い方の教育や訓練	
	50-	の一般的な生産	内容を考え、提供でき	の技術	
	95%	品と用具	る		
	完全な	e5850 • e1300			
	困難				
	96-				
	100				

第4章 運動・移動 mobility

1. | CFの「活動と参加」における主要事項 ≪運動・移動≫

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、姿勢あるいは位置を変化させることや、ある場所から他の場所へと乗り移ること(移乗)、物を運び、動かし、操作すること、歩き、走り、昇降すること、さまざまな交通手段を用いることによる移動を扱う。

姿勢の変換と保持 changing and maintaining body position (d410-d429)

- d410 基本的な姿勢の変換 changing basic body position
- d415 姿勢の保持 maintaining a body position
- d420 乗り移り(移乗) transferring oneself
- d 429 その他の特定の、および詳細不明の、姿勢の変換と保持 changing and maintaining body position, other specified and unspecified

物の運搬・移動・操作 carrying, moving and handling objects (d430-d449)

- d430 持ち上げることと運ぶこと lifting and carrying objects
- d 435 下肢を使って物を動かすこと moving objects with lower extremities
- d440 細かな手の使用 fine hand use
- d445 手と腕の使用 hand and arm use
- d449 その他の特定の、および詳細不明の、物の運搬・移動・操作 carrying, moving and handling objects, other specified and unspecified

歩行と移動 walking and moving (d450-d469)

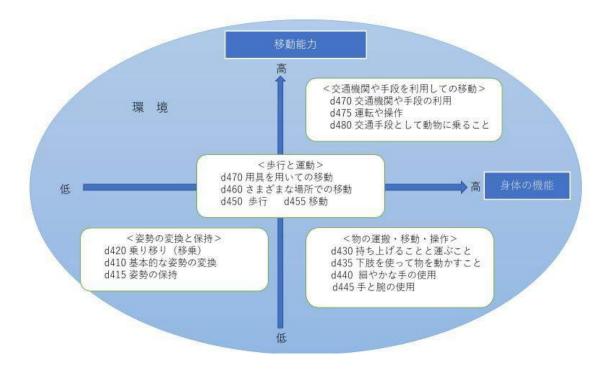
- d450 歩行 walking
- d455 移動 moving around
- d460 さまざまな場所での移動 moving around in different locations
- d 465 用具を用いての移動 moving around using equipment
- d 469 その他の特定の、および詳細不明の、歩行と移動 walking and moving, other specified and unspecified

交通機関や手段を利用しての移動 moving around using transportation (d470-d489)

- d470 交通機関や手段の利用 using transportation
- d475 運転や操作 driving
- d480 交通手段として動物に乗ること riding animals for transportation
- d489 その他の特定の、および詳細不明の、交通機関や手段を利用しての移動
- moving around using transportation, other specified and unspecified
- d498 その他の特定の運動・移動 mobility, other specified
- d499 詳細不明の運動・移動 mobility, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 《運動・移動》

ICFの活動と参加の第4章「運動・移動」の内容は、姿勢あるいは位置を変化させる「姿勢の変換と保持」や、ある場所から他の場所へと乗り移るや物を運び、動かし、操作する「物の運搬・移動・操作」、歩き、走り昇降するといった「歩行と移動」や、さまざまな交通手段を用いることによる「交通機関や手段を利用しての移動」という4つのブロックから構成されている。この人間としての基本的な行動を遂行するための身体の機能と、移乗能力の関係は以下の図のようになっている。



下記の表に示したように、移動能力は、d415姿勢の保持といった「平衡系の基本動作」から、d440細やかな手の使用、d445手と腕の使用、d475運転や操作といった「操作系の基本動作」、d420乗り移り(移乗)、d410基本的な姿勢の変換、d430持ち上げることと運ぶこと、d435下肢を使って物を動かすこと、d450歩行、d455移動といった「移動系の動作」、さらには「用

課題 動作と移動	姿勢の変換と保持	物の運搬・移動・操作	歩行と移動	交通機関や手段を 利用しての移動
交通機関を用いた移動				d470 交通機関や手 段の利用 d480交通機関として 動物に乗ること
場所に応じた移動			d460さまざまな場 所での移動	
用具を用いた移動			d465用具を用いて の移動	
移動系の動作	d410 基本的な姿勢の 変換 d420 乗り移り (移乗)	d435 下肢を使って物を動かすこと d430 持ち上げること運 ぶこと	d455 移動 d450 歩行	
操作系の基本動作		d440 細やかな手の使 d445 手と腕の使用		d475 運転や操作
平衡系の基本動作	d415 姿勢の保持			

具を用いた移動」と「場所に応じた移動」と d470 交通機関や手段を利用した「交通機関を用いた移動」で構成されている。つまり、運動と移動を構成している「姿勢の変換と保持」、「物の運搬・移動・操作」、「歩行と移動」「交通機関や手段を利用しての移動」は基本動作を基盤としてさまざまな移動へと展開されている。

≪その他特定の、および詳細不明の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

人間としての基本的な行動を遂行するための必要な要素を内包的に説明されているが、利用者が自立した日常生活を円滑に行う動作をアセスメントし、具体的介護行動につなげるためには、介護場面で多く見られる場面や状態像の説明を加筆することが求められる。例えば、d410 基本的な姿勢の変換には、ひざまずくことが含まれており脚を曲げて膝で身体を支えるような姿勢になることと表示されているが、片膝を地面につけるく立ち膝>や両膝を地面につけるく膝立ち>に分けて表示することが具体的介護行動につながりやすい。

また、体を曲げることには、立位を基点として体幹部で背を下方または側方にかたむけることと表示されているが、体を曲げる条件は立位だけでないので、<座位での前屈や側屈>が加筆されると具体的介護行動につながりやすい。

さらに、体の重心を変えることには、立位・座位の他に横になっている時に、体重をある場所から別の場所へと調整あるいは移すことと示されているが、〈寝返り〉の方法は示されていない。 〈寝返り〉ができるかどうかは、介護場面における体位変換の支援の検討において重要な項目であり、〈寝返り〉の項目を加筆することが必要であると考える。

d415 姿勢の保持では、座位の保持が示されているが、床や地面に座る場面を想定した<長座位><あぐら(胡坐)><正座>や膝程度の高さの椅子やベッドなどに座る場面を想定した<端座位><椅坐位>や腰程度の高さの物に<腰掛ける>といった介護場面で使用される用語を加筆することが望ましい。また、物や人に<寄りかかる>といった姿勢の保持も介護場面では重要な項目である。

なお、d430, d435, d440, d445 の物の運搬・移動・操作では、手と腕の使用が記述されている。心身に障害があっても、自身の持てる様々な心身機能を活用し日常生活に関する動作を円滑に遂行している人は多い。手や腕、下肢の使用の記述のみでは不十分である。d415 に,分類の単位としてく肘をつく>く肘で支える>といった肘の活用を加筆することで具体的な介護行動につながるだろう。また、手と腕を使ってく抱きしめる;ハグ>行為は、文化の差はあるが、挨拶として、愛情表現、安心感や喜び悲しみを伝えるなど、他者との関係を築く行為としても欠かせない。

その他、d465 用具を用いての移動では、車いすや歩行器の他にスケート、スキー用具を用いての移動も含まれる。これらは、レクリエーション等での移動場面で求められる介護行動の検討の必要性を示していると言えよう。

最後に、d480 交通手段として動物に乗ることは、日本国内ではほとんど見られなくなったが、 海外では存在する。よって、国際的な介護を検討するうえでは、交通手段として動物に乗る場面 における介護行動を考えていくことも必要であろう。また、交通手段などの操作する行動を支援 することはきわめて難しい。支援するためには、高度な専門知識を獲得することが求められる。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪運動・移動≫

介護福祉の対象となる人は多様な価値観や生活の場を持っている。運動・移動の項目で扱われているのは、姿勢あるいは位置を変化させること、ある場所から他の場所への移動や操作することやさまざまな交通手段を用いることによる移動といった生活機能である。中でも自立を支えるためには、e115日常生活における個人用の生産品と用具、e120個人的な屋内外の移動と交通のための生産品と用具、e150、e155の公共や私用の建物の設計・建築用の生産と用具といった環境因子の「生産品と用具」が軸となり、屋外での活動には e210自然地理、e215人口や、e225気候といった「自然環境」が影響している。

運動と移動が「軽度」「中等度」「重度」「完全」に困難(自立できない)な状況は、心身機能(b7)・身体構造(s7)の、機能障害の状況が大きく影響している。心身機能では、全般的精神機能(b110-b139)、個別的精神機能(b140-b189)、視覚および関連機能(b210-b229)、中でも関節と

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支「介護行動」の特徴 《運動・移動》

骨の機能(b710-b729)、筋の機能(b730-b749)、運動機能(b750-b789)は注視しておかなければならない。身体構造は、神経系の構造(s110-s199)、運動に関連した構造(s710-s799)を理解し、これらの機能障害が活動と参加にどのように影響しているかをアセスメントする力が介護行動に影響する。

従って、活動と参加への支援は、『機能障害』をアセスメントする力が求められると共に、移動 と運動が行われる物理的環境(地理・気候・災害・光・音・振動・空気)や利用者が生活している 社会的風土を把握した支援が必要である。

例えば、d450 歩行では、「傾斜」「凹凸」「雪」「凍結」などの条件が加わることで、歩行への支援が必要になる場合がある。

また、d475 運転や操作では、交通手段の運転・操作のためe540 の交通サービス・制度・政策を認識・理解しての移動が必要となるため、単に上手に運転・操作ができる支援だけでなく、交通ルール等の理解への支援も必要になる場合がある。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 《運動・移動》

姿勢の変換と保持 changing and maintaining body position (d410-d429)

d410 基本的な姿勢の変換 changing basic body position

ある姿勢になること。ある姿勢をやめること。ある位置から他の位置への移動。例えば、椅子から立ち上がってベッドに横になること。ひざまずいたり、しゃがむことやその姿勢をやめること。含まれるもの:横たわったり、しゃがんだり、ひざまずいたり、座ったり、立ったり、体を曲げたり、重心を移動した状態から、姿勢を変えること。

除かれるもの:乗り移り(移乗)(d420)。

d4100 横たわること lying down

横たわった姿勢になることや、その姿勢をやめること。水平な姿勢から、立位や座位などの他 の姿勢に変わること。 含まれるもの: 腹這いになること。

- の安勢に変わ	<u>acc.</u>	さまれるもの・腹道	V 11C/& O C C .		
①人として具	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	4 支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	│ 術・知識	考
の要素・因子)	評価点	3 3 3 3 3 3	能力)	113 7.234V	
ジ タ派 呂 5 /	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
		文法で安しない			
	U				
	0-4%				
1.立った姿勢	軽度の	1. 横たわるための	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
から横たわる	困難	寝具・家具	本人の横たわる環境を	生活文化やライフスタ	
ことができる	5-	布団・ベッド・ソフ	把握することができる	イルなどに関する知識	
布団(床面)へ横	24%	ァー·など:e1150		1.1.2	
たわる	中等度			横たわるための寝具・	
1-1 床面に手	の困難	2. 横たわる動作を		家具などに関する知識	
をつきなが	25-	支援するための介		(布団・ベッド・ソファ	
ら、片膝をつ	49%	護用具・機器		ーなど)	
ける	重度の	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		※寝具の高さの違いと	
1-2 両膝をつ	国難	e1150		次後兵の同じの遅いと	
いて、横座り	50-	51150 特殊寝台(電動ベッ		安男を換動作の遅い	
になる		特殊複点(电動バッ ド)など:e1151		(複具C妥對多換기法 の選択)	
になる 1-3 手を着	95%	Mac.ellol			
	完全な	0 #++ + 2 #+ /-+		※マットレスの硬さの	
き、肘を曲げ	困難	3. 横たわる動作を		違いによる姿勢変換動	
て床面に付け	96-	補助するために本		作のしづらさの違い	
ながら横にな	100%	人が使用する家具・		1.1.3、2.1.2、3.1.2	
る		用具、個人用に改造		横たわる環境を把握す	
		や設計がなされた		るためのアセスメント	
2.座った姿勢		福祉用具·機器		技術	
から横たわる		ベッド柵や手すり			
ことができる		など:e1151	1.2、2.2、3.2	1.2.1、2.2.1、3.2.1	
ベッドへ横た		 特殊寝台(電動ベッ	心身の状況に合わせた	横たわる動作に必要と	
わる		ト)など:e1151	横たわる環境を整える	 なる心身機能・身体構	
2-1 ベッドに		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ことができる	造に関する知識	
手を着き、肘				心身機能	
を曲げながら				痛み:b280	
上半身を横に				関節と骨の機能:	
する				関則と同り機能・ b710-b729	
2-2 ベッドに				筋の機能:b730-	
同足を挙げる				b749	
0 ## 4- 4-				運動機能:b750-	
3.横たわった				b789	
姿勢から体を				身体構造	
起こすことが				運動に関連した構造:	
できる				s710-s770	
3-1 仰臥位か					
ら側臥位にな				1.2.2、2.2.2、3.2.2	
る					
<u> </u>		1			

3-2 肘立ちを し、手を着き		横たわる動作に必要な 心身状態のアセスメン
ながら上半身		ト技術
を起こす		1.2.3、2.2.3、3.2.3
4 144 4- 1- 4-		アセスメントより得ら
4.横たわった		れた情報から横たわり
姿勢から座る		づらさの原因・課題を
姿勢になるこ		整理するための知識
とができる		1.2.4、2.2.4、3.2.4
ベッドで座位		横たわる環境を調整・
になる		整備するための技術
4-1 仰臥位か		
ら側臥位にな	1.3、2.3	1.3.1 基本的な横たわ
る	横たわる動作が安全に	り方に関する知識
4-2 ベッドか	行えるように支援がで	※仰臥位と側臥位での
ら足を降ろす	きる	寝起き動作の違い(支
4-3 肘立ちを		持基底面績)
し、手を着き		1.3.2 横たわる動作の
ながら体を起		支援に必要な技術(て
こし、座位に		この原理・ボディーメ
なる		
40		カニクスなど)
5.横たわった		2.3.1 横たわる動作を
姿勢から立ち		支援する介護用具・機
上がることが		器(介助ベルト、電動
できる		ベッドなど)に関する
布団(床面)から		知識
立ち上がる		1.3.3、2.3.2 介護用
※d4104「立		1.3.3、2.3.2 月暖用
つこと」参照		た支援技術
プログラック		に又抜扠側
	1.4、2.4、3.3	1.4.1、2.4.1、3.3.1
	本人の望む生活に合わ	本人のニーズやストレ
	せ、横たわるための環	ングスを把握するため
	境を改善(福祉用具・機	のアセスメント技術
	器などの導入)すること	
	ができる	3.3.2 本人の横たわり
	72 (19)	動作を補助する福祉用
		製作を補助する価値用
		床置き型手すり、電動
		ベッドなど)に関する
		知識
		1.4.2、2.4.2、3.3.3
		1.4.2、2.4.2、3.3.3 生活環境の改善を計画
		主治環境の収音を計画 するための知識
		1.4.3、2.4.3、3.3.4

	福祉用具・機器を活用 した自立支援技術	

d4101 しゃがむこと squatting

床の高さのトイレを使うために必要な姿勢をとる時のように、膝を折って臀部を座面や踵につけて座ったりしゃがんだりした姿勢をとることや、その姿勢をやめること。あるいはその姿勢から他の姿勢に変わること(例えば立ち上がることなど)。

77 0 16の 女男 1	こ女17つ0	して(例えばひ上が	ることなころ		
①人として具	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.立った姿勢	軽度の	1. しゃがむ際に利	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
から膝を曲げ	困難	用する家具・用具	本人のしゃがむ姿勢と	生活文化やライフスタ	
て腰を落とし	5-	支持を得るために	なる環境を把握するこ	 イル(排泄·入浴など)に	
た姿勢なるこ	24%	設置、配置されてい	とができる	関する知識	
とができる	中等度	る手すり、棚、テー		1.1.2 しゃがむ際に利	
	の困難	ブルなど:e1150		用する家具・用具に関	
2.立った姿勢	25-			する知識(手すりなど)	
から膝を折り	49%	2. しゃがむ動作を		1.1.3 しゃがむ姿勢に	
曲げて臀部に	重度の	支援するために使		なる環境を把握するた	
踵をつけた姿	困難	用する介護用具		めのアセスメント技術	
勢(しゃがみ込	50-	介助ベルト:			
む)になること	95%	e1151	1,2、2,2、3,2	1,2,1、2,2,1、3,2,1	
ができる	完全な		心身の状況に合わせた	 しゃがむ動作に必要と	
	困難	3. しゃがむ動作を	しゃがむ環境を整える	なる心身機能・身体構	
3.しゃがんだ	96-	補助するために個	ことができる	造に関する知識	
姿勢から立ち	100%	人用に改造や設計		心身機能	
上がることが		がなされた福祉用		 痛み:b280	
できる		 具·機器		 関節と骨の機能:	
3-1 膝や床面		個別に設置した手		b710-b729	
に手をつき、膝		すり(床置き型・縦		 筋の機能:b730-	
をゆっくり伸		型・L 字型など):		b749	
ばしていく		e1151		 運動機能:b750-	
3-2 膝が伸び				b789	
たら、ゆっくり				 身体構造	
と腰を起こし、				運動に関連した構造:	
頭を挙げる				s710-s770	
				※しゃがむ際のバラン	
				ス保持と股関節、膝関	
				節、足関節の柔軟性	
				1.2.2、2.2.2、3.2.2	

T	1
	しゃがむ動作に必要な 心身状態のアセスメン
	ト技術
	1.2.3、2.2.3、3.2.3
	アセスメントより得ら
	れた情報からしゃがみ
	づらさの原因·課題を
	整理するための知識
	1.2.4、2.2.4、3.2.4
	しゃがむ環境を調整・
	整備するための技術
1.3、2.3	1.3.1 基本的なしゃが
しゃがむ動作が安全に	み方(動作手順など)に
行えるように支援がで	関する知識
きる	1.3.2 しゃがむ動作の
	支援に必要な技術(ボ
	ディーメカニクスな
	ك)
	2.3.1 しゃがむ動作を
	支援する介護用具(介
	護ベルトなど)に関す
	る知識
	1.3.3、2.3.2 介護用
	具などを活用した支援
	技術
1.4、2.4、3.3	1.4.1、2.4.1、3.3.1
本人の望む生活に合わ	本人のニーズやストレ
せ、しゃがむための環	ングスを把握するため
境を改善(福祉用具の	のアセスメント技術
導入、住宅改修の提案	
など)することができ	3.3.2 本人のしゃがむ
る	動作を補助する福祉用
	具、機器(手すり:床置
	き型·縦型·L字型な
	ど)に関する知識
	1.4.2、2.4.2、3.3.3
	生活環境の改善を計画
	するための知識
	1.4.3、2.4.3、3.3.4
	福祉用具・機器を活用
	した自立支援技術

d4102 ひざまずくこと kneeling

(教会で) 祈る時のように, 脚を曲げて膝で身体を支えるような姿勢になることや, その姿勢をやめること。あるいはその姿勢から立位などの他の姿勢に変わること。

0.1.1.7.		T	他の安勢に交わることは	0+57-51-2-51	,,,,
①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動		する環境因子	の具体的介護行動(介	│ 術・知識	考
の要素・因子)	評価点	+157 = 1 + 1	護能力)	=77 / +/ \	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し 0.49/				
1 + + + h **	0-4%	4 71-12-1- 1 Phy !-	44 04 04		
1.立った姿勢	軽度の	1. ひざまずく際に	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
から片膝を床	困難	利用する家具・用具	本人のひざまずく姿勢	生活文化やライフスタ	
面につけ、身体	5-	支持を得るために	となる環境を把握する	イル(和式の生活、履	
を支える姿勢	24%	設置、配置されて	ことができる	物の脱ぎ履きなど)に	
(立ち膝)にな	中等度	いる手すり、棚、		関する知識	
ることができる	の困難	テーブルなど:		1.1.2 ひざまずく際に	
ବ	25-	e1150		利用する家具・用具に	
	49%	 2. ひざまずく動作		関する知識(手すりなど)	
2.立った姿勢	重度の 困難	2. UCまずく動作 を支援するために		1.1.3, 2.1.2, 3.1.2	
から両膝を床	50-	使用する介護用具		1.1.3、2.1.2、3.1.2 ひざまずく姿勢になる	
面につけ、身体	95%	介助ベルト:		環境を把握するための	
を支える姿勢	95% 完全な	e1151		アセスメント技術	
(膝立ち) にな	元主な 困難	61101			
ることができ	96-	 3. ひざまずく動作	1,2, 2,2, 3,2	1,2,1, 2,2,1, 3,2,1	
る る	100%	を補助するために	小点	ひざまずく動作に必要	
9	100%	個人用に改造や設	ひざまずく環境を整え	となる心身機能・身体	
3.ひざまずい		計がなされた福祉	ることができる	構造に関する知識	
た姿勢から立		用具·機器		心身機能	
ち上がること		個別に設置した手		痛み:b280	
ができる		すり(床置き型・縦		関節と骨の機能:	
1-1 床面ない		型・L字型など):		b710-b729	
しは立ててい		e1151		筋の機能:b730-	
る膝に手を当				b749	
て、膝を伸ば				 運動機能:b750-	
ਰ				b789	
- 1-2 膝をつけ				身体構造	
ていた後方の				運動に関連した構造:	
脚をひきつけ				s710-s770	
る				1.2.2、2.2.2、3.2.2	
1-3 腰を起こ				ひざまずく動作に必要	
しながらゆっ				な心身状態のアセスメ	
くりと頭を挙				ント技術	
げる				1.2.3、2.2.3、3.2.3	
				アセスメントより得ら	
				れた情報からひざまず	
				きづらさの原因・課題	
				を整理するための知識	

	1.2.4、2.2.4、3.2.4 ひざまずく環境を調 整・整備するための技 術
1.3、2.3 ひざまずく動作が安全 に行えるように支援が できる	1.3.1 基本的なではに関する知識 ※ いちからからいいでは、 できまからいでは、 できまがいたののでは、 できまがいる。 ののでは、 できまがいる。 ののでは、 できまがいる。 ののでは、 できまがいる。 ののでは、 できまがいる。 ののでは、 できまながらいないがらいないがらいないが、 できまながらいないが、 できないが、 できないがいが、 できないが、
1.4、2.4、3.3 本人の望む生活に合わせ、ひざまずくための環境を改善(福祉用具の導入、住宅改修の提言など)することができる	活用した支援技術 1.4.1、2.4.1、3.3.1 本人のニーズを把握するためのアセスメント技術 3.3.2 本人のひざまずく動作を補助する福祉用具(手すり:床置き型、縦型など)に関する知識 1.4.2、2.4.2、3.3.2 生活環境の改善を計画するための技術 1.4.3、2.4.3、3.3.4福祉用具・機器を活用した自立支援技術

d4103 座ること sitting

座位になったり、その姿勢をやめること。また、その姿勢から立位あるいは臥位などの他の姿勢に変わること。 含まれるもの: 脚を曲げて、あるいは組んで座ること。足をついてあるいは足を浮かして座ること。

の人として具	ı	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動		する環境因子	の具体的介護行動(介	術・知識	考
の要素・因子)	評価点	タの球境四丁	一菱能力)		5
00支票 囚丁/	困難な	 支援を要しない	記入しない	記入しない	
		又派と女のない			
	0-4%				
 1.立った姿勢	軽度の	1. 座るための家具·	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
から座ること	困難	用具	本人の座る環境を把握	生活文化やライフスタ	
ができる	5-	/ is/ 椅子・ソファー・洋	することができる	イル(和式・洋式など)に	
椅子へ座る	24%	式便器など:		関する知識	
1-1 前かがみ	中等度	e1150		1.1.2 座るための家	
の姿勢になる	の困難			具・用具(椅子・ソファ	
1-2 座面を確	25-	2. 座る動作を支援		ー・便器など)に関する	
認する	49%	するための介護用		知識	
1-3 ゆっくり	重度の	具·機器		※椅子の高さの違いに	
と腰を下ろす	困難	介護ベルト:		よる立ち上がりづらさ	
床面へ座る(あ	50-	e1151		の違い	
ぐら・正座・長	95%			1.1.3、2.1.2、3.1.2	
座位など)	完全な	3. 座る動作を補助		座る環境を把握するた	
1-1 ゆっくり	困難	するために本人が		めのアセスメント技術	
としゃがむ	96-	使用する家具・用			
1-2 前かがみ	100%	具、個人用に改造や	1.2、2.2、3.2	1.2.1、2.2.1、3.2.1	
になり、床面に		設計がなされた福	心身の状況に合わせた	座る動作に必要となる	
手をつき、膝を		祉用具·機器	座る環境を整えること	心身機能・身体構造に	
つける		支持を得るたに配	ができる	関する知識	
1-3 横座りに		置されているテー		心身機能	
なり床面に臀		ブルや棚など:		痛み:b280	
部をつけて座		e1150		関節と骨の機能:	
る		個別に設置した手		b710-b729	
		すり(床置き型・縦		筋の機能:b730-	
2.座った姿勢		型・L 字型など)な		b749	
から横たわる		ど:e1151		運動機能:b750-	
ことができる				b789	
※d4100「横 たわること」参				身体構造 運動に関連した構造:	
照				選助に関連した構造・ s710-s770	
X K				S710-S770 ※骨盤の前後傾と重心	
3.座った姿勢				※同盤の削板傾と里心 移動の関係	
から立ち上が				19到VJ均床 	
ることができ				1.2.2、2.2.2、3.2.2	
3000000				1.2.2、2.2.2、3.2.2 座る動作に必要な心身	
る 椅子からの立				状態のアセスメント技	
ち上がり				状態のアピススクト投 術	
・フエル・ソ				עויו	

			,
3-1 足を十分 に引く 3-2 前かがみ になり重心を 前方に移動させる 3-3 離殿とは に膝を伸ばす 3-4 ゆっくり			1.2.3、2.2.3、3.2.3 アセスメントより得ら れた情報から座りづら さの原因・課題を整理 するための知識 1.2.4、2.2.4、3.2.4 座る環境を調整・整備 するための技術
は を を を を で を で で で で で で で で の の の の の の の の の の の の の		1.3、2.3 座る動作が安全に行えるように支援ができる	1.3.1 基本的な座り方 (動作手順など)に関する知識 ※立ち座りの動作のメカニズム(立ち座り共に前かがみになる事が大切) 1.3.2 座る動作の支援に必要な技術(てこめの原理・など) 2.3.1 座る動作を支援する介護用具・機器(介助べルトをであるが、2.3.2 介護用具・機器を活用した支援技術
		1.4、2.4、3.3 本人の望む生活に合わせ、座るための環境を改善(福祉用具の導入、住宅改修の提言など)することができる	1.4.1、2.4.1、3.3.1 本人のニーズやストレングスを把握するためのアセスメント技術3.3.2 本人の座り動作を補助する福祉用具(手すり:床置き型、縦型、L字型など)に関する知識1.4.2、2.4.2、3.3.3 生活環境の改善を計画するための知識1.4.3、2.4.3、3.3.4 福祉用具・機器を活用した自立支援技術

d4104 立つこと standing

立位になったり、立位をやめること。また、立った姿勢から臥位や座位などの他の姿勢に変わること。

<u>る</u> にて。					
①人として具	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する心身機能・身体	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点	構造、環境因子	護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.横たわった	軽度の	1. 立ち上がる際に	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
姿勢から立ち	困難	利用する家具・用具	本人の立つ姿勢となる	生活文化やライフスタ	
上がることが	5-	支持を得るために	環境を把握することが	イルに関する知識	
できる	24%	設置、配置されて	できる	1.1.2	
布団(床面)か	中等度	いる手すり、棚、		立ち上がる際に利用す	
らの立ち上が	の困難	テーブルなど:		る家具・用具に関する	
り	25-	e1150		知識(手すりなど)	
1-1 仰臥位か	49%			1.1.3、2.1.2、3.1.2	
ら側臥位にな	重度の	2. 立ち上がり動作		立つ姿勢になる環境を	
る	困難	を支援するために		把握するためのアセス	
1-2 肘立ちを	50-	使用する介護用具		メント技術	
しながら、体	95%	介助ベルト:			
を起こし、四	完全な	e1151	1.2、2.2、3.2	1.2.1、2.2.1、3.2.1	
つ這いになる	困難		心身状況に合わせた立	立ち上がる動作に必要	
1-3 四つ這い	96-	3. 立ち上がり動作	つ姿勢となる環境を整	となる心身機能・身体	
からから片膝	100%	を補助するために	えることができる	構造に関する知識	
を立て、膝を		個人用に改造や設		心身機能	
伸ばしながら		計がなされた福祉		痛み:b280	
高這い姿勢と		用具·機器		関節と骨の機能:	
なる		個別に設置した手		b710-b729	
1-4 手を膝に		すり(床置き型・縦		※股関節、膝関節、足	
置き、ゆっく		型・L字型など)、保		関節の柔軟	
りと頭を挙		高便座、昇降機能		筋の機能:b730-	
げ、体を起こ		付椅子、特殊寝台		b749	
す		(電動ベッド)など:		運動機能:b750-	
ベッドからの		e1151		b789	
立ち上がり				身体構造	
1-1 仰臥位か				運動に関連した構造:	
ら側臥位にな				s710-s770	
る				※関節と筋運動の連動	
1-2 ベッドか				性	
ら足を降ろす				※骨盤の前後傾と重心	
1-3 肘立ちを				移動	
し、手を着き				1.2.2、2.2.2、3.2.2	
ながら体を起				立ち上がる動作に必要	
こし、座位に				な心身状態のアセスメ	
なる				ント技術	
				1.2.3、2.2.3、3.2.3	

1-4 足を十分		アセスメントより得ら
に引く		れた情報から立ち上が
1-5 前かがみ		りづらさの原因・課題
になり重心を		を整理するための知識
前方に移動さ		1.2.4、2.2.4、3.2.4
せる		立ち上がる環境を調
1-6 離殿と共		整・整備ができる技術
に膝を伸ばす		
1-7 ゆっくり	1.3、2.3	1.3.1 基本的な立ち方
と頭を挙げ、体	立ち上がり動作が安全	(動作手順など)に関す
を起こす	に行えるように支援が	る知識
	できる	※重心移動と立ち上が
2.床面(地面)に		りのメカニズム
座った姿勢か		※立ち上がりと座面の
ら立ち上がる		高さの関係
ことができる		1.3.2 立ち上がり動作
2-1 座位から		の支援に必要な介護技
手を体の横に		術(ボディーメカニク
着き、ねじりな		ス、てこの原理など)
がら四つ這い		2.3.1 立ち上がり動作
になる		2.3.1 立ろ工がり動作
2-2 四つ這い		(介護ベルトなど)に関
からから片膝		する知識
を立て、膝を		1.3.3、2.3.2 介護用
伸ばしながら		1.3.3、2.3.2 月霞用
高這い姿勢と		共成とを活用した文法
同道が安勢と		打又加
2-3 手を膝に	1.4、2.4、3.3	1.4.1、2.4.1、3.3.1
置き、ゆっく	本人の望む生活に合わ	本人のニーズやストレ
りと頭を挙	せ、立ち上がるための	ングスを把握するため
げ、体を起こ	環境を改善(福祉容疑	のアセスメント技術
ਰ	用具、住宅改修)する	3.3.2 本人の立ち上が
	ことができる	り動作を補助する福祉
3. しゃがみ込		用具・機器(手すり:床置
んだ姿勢から		き型・縦型・L字型、補
立ち上がるこ		高便座、昇降機能付椅
とができる		子、電動ベッドなど)
% d4101 「 U		に関する知識
やがむこと」参		1.4.2、2.4.2、3.3.3
照		生活環境の改善を計画
4.ひざまずい		するための技術
た姿勢から立した。		1.4.3、2.4.3、3.3.4
ち上がること		福祉用具・機器を活用
ができる		した自立支援技術
%d4102∫℧		
ざまずくこと」		
参照		

5.座ったとができる。 ※d4103「座ることができる。 ※d4100「磨ることができる。 ※d4100「横たわることができる。 ※d4100「横たわること」を 照 7.立ったを 99 からしゃかん た 22 ができる。 ※d4101「しゅがむこと」を 参照 8.立っひさができる。 ※d4102「ひさますくる。 ※d4102「ひさますくる。 ※d4103「座ること」を を参照 9.立ったを 99 から座るる ※d4103「座ること」を ※d4103「座ること」を				
ることができる ※ d4103「座 ること」参照 6.立った姿勢 から横たわる ことができる ※ d4100「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※ d4101「し ゅがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひさす くことができる ※ d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 り、立った姿勢 から座ること ができる ※ d4103「座	5.座った姿勢			
る ※ d4103 「座 ること」参照 6.立った姿勢 から横たわる ことができる ※ d4100 「横 たわること」参 照 ア・ウェー できる ※ d4101 「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※ d4102 「ひさまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 からできる ※ d4102 「ひさまずくこと」 を が の の から できる ※ d4103 「座	から立ち上が			
※d4103「座 ること」参照 6.立った姿勢 から横たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひさますくこと」を参照 9.立った姿勢 から座ることができる ※d4103「座	ることができ			
ることができる ※d4100「横 たわることができる ※d4100「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「し ゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	る			
6.立った姿勢 から横たわる ことができる ※d4100「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「し ゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	※d4103「座			
から横たわる ことができる ※d4100 「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101 「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102 「ひざますくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103 「座	ること」参照			
にとができる ※d4100「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	6.立った姿勢			
※d4100「横 たわること」参 照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひざますくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ることができる ※d4103「座	から横たわる			
にわること」参照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「し ゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	ことができる			
照 7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざまず くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	※d4100「横			
7.立った姿勢 からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざまず くことができる ※d4102「ひ ざますくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	たわること」参			
からしゃがん だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざます くことができる ※d4102「ひ ざますくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	照			
だ姿勢になる ことができる ※d4101「しゅがむこと」を 参照 8.立った姿勢 からひざまず くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	7.立った姿勢			
 ことができる ※ d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢からひざまずくことができる ※ d4102「ひざまずくこと」を参照 9.立った姿勢から座ることができる ※ d4103「座 	からしゃがん			
 ※d4101「しゃがむこと」を 参照 8.立った姿勢からひざまずくことができる ※d4102「ひざまずくこと」を参照 9.立った姿勢から座ることができる ※d4103「座 	だ姿勢になる			
************************************	ことができる			
参照 8.立った姿勢 からひざまず くことができる ※ d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※ d4103「座				
8.立った姿勢 からひざまず くことができ る ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	ゃがむこと」を			
からひざまず くことができ る ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座				
くことができる ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座				
る ※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	_			
※d4102「ひ ざまずくこと」 を参照9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座				
ざまずくこと」 を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座				
を参照 9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座				
9.立った姿勢 から座ること ができる ※d4103「座	_			
から座ること ができる ※d4103「座				
ができる ※d4103「座				
※d4103「座				
ること」を参照				
	ること」を参照			

d4105 体を曲げること bending

お辞儀をしたり、下の物を取るように、体幹部で背を下方または側方に傾けること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	3先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.立った姿勢	軽度の	1. 体を曲げる際に	1.1、2.1	1.1.1、2.1.1	
で腰を折り曲	困難	利用する家具・用具	本人の体を曲げる姿勢	生活文化やライフスタ	
げ、頭を下方に	5-	支持を得るために	となる環境を把握する	イル(調理や洗面など)	
傾けること(お	24%	設置・配置された手	ことができる	に関する知識	
辞儀・前かが	中等度	すりや棚・テーブル		1.1.2 体を曲げる際に	
み)ができる	の困難	など:e1151		利用する家具・用具に	

_				
	25-			関する知識(手すりな
2.立った姿勢	49%	2. 体を曲げる動作		(تے)
で腰を深く折		を補助するために		1.1.3、2.1.2 体を曲
り曲げること	困難	個人用に改造や設		げる姿勢になる環境を
(前屈)ができ		計がなされた福祉		把握するためのアセス
る	95%	用具·機器		メント技術
	完全な	個別に設置した手		
3.座った姿勢	困難	すり(縦型·L 字型な	1.2、2.2	1.2.1、2.2.1 体を曲
で腰を折り曲	96-	ど):e1151	心身状況に合わせた体	げる動作に必要となる
げ、頭を前方に	100%		を曲げる姿勢となる環	心身機能・身体構造に
傾ける(お辞			境を整えることができ	関する知識
儀・前かがみ)			る	心身機能
ことができる				「編み:b280
4 m + 12 + 1				関節と骨の機能:
4.座った姿勢				b710-b729
から腰を深く				筋の機能:b730-
折り曲げるこ				b749
と(前屈)がで				運動機能:b750-
きる				b789
				身体構造
				運動に関連した構造:
5.立った姿勢				s710-s770
で体を横に傾				※重心の変化と転倒リ
けること(側				スク(支持基底面績と
屈)ができる				の関係)
				※前傾姿勢と腰痛の関
6.座った姿勢				係の理解
で体を横に傾				1.2.2、2.2.2 体を曲
けること(側				げる動作に必要な心身
屈)ができる				状態のアセスメント技
				術
				1.2.3、2.2.3 アセス
				メントより得られた情
				報から体の曲げづらさ
				の原因・課題を整理す
				るための知識
				1.2.4、2.2.4 体を曲
				げる環境を調整・整備
				するための技術
			1.3	1.3.1 基本的な体を曲
			··· 体を曲げる行為が安全	げる動作に関する知識
			に行えるように支援が	1.3.2 体を曲げる動作
			できる	の支援に必要な介護技
				術(ボディーメカニク
				スなど)
			1.4、2.3	

	本人の望む生活に合わ	1.4.1、2.3.1 本人の
	せ、体を曲げるための	ニーズやストレングス
	環境を改善(家具・用	を適切に把握するため
	具・福祉用具などの購	のアセスメント技術
	入、住宅改修)するこ	2.3.2 本人の体を曲げ
	とができる	る動作を補助する福祉
		用具(手すり:縦型・L字
		型・床置き型など)に関
		する知識
		1.4.2、2.3.3 生活環
		境の改善を計画するた
		めの技術
		1.4.3、2.3.4 福祉用
		具・機器を活用した自
		立支援技術
		טיו אנאנא בי

d4106 体の重心を変えること shifting the body's centre of gravity

立っている時に一方の足から他方の足へと重心を移す時のように、座っている時、立っている時、横になっている時に、体重をある場所から別の場所へと調整あるいは移すこと。

除かれるもの:乗り移り(移乗)(d420),歩行(d450)。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.立っている	軽度の	1. 体の重心を変え	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1	
時に重心を	困難	る際に利用する家	本人の体の重心を変え	生活文化やライフスタ	
移すことが	5-	具·用具	る環境を把握すること	イルに関する知識	
できる	24%	支持を得るために	ができる	1.1.2 体の重心を変え	
1-1 一方の足	中等度	設置、配置されてい		る際に利用する家具・	
から他方の足	の困難	る手すり、棚、テー		用具に関する知識(手	
へ重心を左右	25-	ブルなど:e1150		すりなど)	
に変える	49%			1.1.3、2.1.2、3.1.2	
1-2 体を前後	重度の	2. 体の重心を変え		体の重心を変える行為	
に傾けること	困難	る動作を支援する		をする環境を把握する	
で重心を前後	50-	ために使用する介		ためのアセスメント技	
に変える	95%	護用具		術	
	完全な	介助ベルト、スライ			
2.座っている	困難	ディングシートな	1.2、2.2、3.2	1.2.1、2.2.1、3.2.1	
時に重心を移	96-	ど:e1151	心身状況に合わせた体	しゃがむ動作に必要と	
すことができ	100%		の重心を変える環境を	なる心身機能・身体構	
る		3. 体の重心を変え	整えることができる	造に関する知識	
2-1 一方の臀		る動作を補助する		心身機能	
部(坐骨)から		ために個人用に改			

他方の臀部(坐 造や設計がなされ 視覚及び関連機能: 骨)へ重心を左 た福祉用具・機器 b210-b229 右に変える 個別に設置した手 前庭機能:b235 2-2 骨盤を前 すり、ラダーひも、 ※平衡感覚 エアマット、特殊寝 後に動かすこ 触覚:b265 台(電動ベッド、昇 とで重心を前 ※足底感覚 降機能付椅子)な 後に変える 痛み:b280 ど:e1151 関節と骨の機能 3.横になって b710-b729 いる時に重心 ※骨盤の前後傾と重心 を変えること 移動 ができる 筋の機能: 6730-3-1 肩やお尻 b749 運動機能:b750-を浮かせ重心 を変える b789 3-2 寝返る 身体構造 寝ている時に 運動に関連した構造 同じ側の足と s710-s770 腕を反対側に 1,2,2, 2,2,2, 3,2,2 動かし重心を 体の重心を変える動作 に必要な心身状態のア 変える 仰臥位≶側臥位 セスメント技術 1,2,3, 2,2,3, 3,2,3 ⇒腹臥位 3-3 ベッドの アセスメントより得ら 角度を変える れた情報から体の重心 ことで重心を の変えづらさの原因: 変える 課題を整理するための 知識 1.2.4、2.2.4、3.2.4 体の重心を変える環境 を調整・整備するため の技術 1.3、2.3 1.3.1 基本的な体の重 体の重心を変える動作 心を変える動作に関す が安全に行えるように る知識 支援ができる ※重心位置の視点(ボ ディーメカニクス、寝 返り動作) 1.3.2 体の重心を変え る動作の支援に必要な 介護技術(てこの原理・ ボディーメカニクスな (سل 2.3.1 体の重心を変え る動作を支援する介護 用具・機器(介助ベル ト、スライディングシ

		ートなど) に関する知 識 1.3.3、2.3.2 介護用 具などを活用した支援 技術
	1.4、2.4、3.3 本人の望む生活に合わせ、体の重心を変える環境を改善(福祉用具・機器の導入など)することができる	1.4.1、2.4.1、3.3.1 本人のニーズやストレングスを把握するためのアセスメント技術3.2.2 本人の作を補助するで変える動作を補助するで変える動作を補助するで変える動作を対したのである。 1.4.2、2、3.3、4、4、2、2、4.3、3、4、4、3、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4

d415 姿勢の保持 maintaining a body position

仕事や授業で座ったままでいたり、立ったままでいる時のように、必要に応じて同じ姿勢を保 つこと。含まれるもの: 臥位、しゃがみ位、ひざまずいた姿勢、座位、立位の保持。

d4150 臥位の保持 maintaining a lying position

ベッドで腹這いのままでいる時のように、必要に応じて一定の時間、臥位を保つこと。 含まれるもの:腹臥位(うつぶせ)、背臥位(あおむけ)、側臥位(横むき寝)を保つこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.腹臥位 (うつ	軽度の	1. 臥位姿勢を保持	1.1、2.1	1.1.1、2.1.1	
ぶせ) の姿勢を	困難	するための寝具・用	本人の臥床している環	生活文化やライフスタ	
保持すること	5-	具	境を把握することがで	イルなどに関する知識	
ができる	24%		きる		

2.背臥位(あまとができる) 3.側臥のるる (横勢こができる) 3.側取のるる (横勢こができる) まきる	49% 重度の 困難 50- 95%	ー・クッションなど:e1150 2. 臥位姿勢を保持するために使用する個人用に改造や設計がなされた福祉用具・機器エアマット、ポジショニングクッショ	1.2、2.2 心身状況に合わせ、安 楽な臥位姿勢の保持が 行えるように支援がで きる	1.1.2 日本のでは、1.2 日本のでは、1.2 日本のでは、1.2 日本のでは、1.3 日本のでは、1.3 日本ののでは、1.3 日本ののでは、1.3 日本のののでは、1.3 日本のののののでは、1.3 日本のののののののでは、1.3 日本のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	
					1

T T	Т		T
		1.3、2.3 本人の望む生活に合わせ、臥位姿勢保持のための環境を改善(福祉用具・機器の導入など)することができる	1.2.2、2.2.2保別のでは、1.2.2、2.2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2
		めの環境を改善(福祉 用具・機器の導入な	を適切に把握するため のアセスメント技術 2.3.2 本人の臥位姿勢 の保持を補助するため の福祉用具、機器(エ アマット、ポジショニ
			成の めの知識 1.3.3、2.3.4 福祉用 具・機器を活用した支 援技術

d4151 しゃがみ位の保持 maintaining a squatting position

床に椅子なしで座っている時にように、必要に応じて一定の時間、しゃがみ位を保つこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1. 腰姿るる 2. げに(む)こ になってたすき 曲 理勢込る	軽	1. しゃがみ位を保 持するための家具・ 用具 支持を得るために 設置・配置・テンク 2. しゃがみる個とでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	1.1、2.1 しゃがみ位で作業などをする環境を把握することができる 1.2、2.2 心身状位の保持が安まができる	1.1.1、2.1.1 生活ルイフスタイプ ファイ	
				b789 身体構造 運動に関連した構造: s710-s770 ※しゃがみ位の保持と 腰痛の関係 1.2.2、2.2.2 しゃが み位の保持に必要な心 身状態のアセスメント	
				カニクスなど)	

	1.3、2.3 本人の望む生活に合わ	1.3.1、2.3.1 本人の ニーズやストレングス
	せ、しゃがみ位保持の	を適切に把握するため
	ための環境を改善(福	のアセスメント技術
	祉用具の導入、住宅改	2.3.2 本人のしゃがみ
	修の提案など)するこ	位の保持を補助するた
	とができる	めの福祉用具(手すり:
		床置き型、縦型など)
		に関する知識
		1.3.2、2.3.3 生活環
		境の改善を計画するた
		めの知識
		1.3.3、2.3.4 福祉用
		具·機器を活用した自
		立支援技術

d4152 ひざまずいた姿勢の保持 maintaining a kneeling position

教会で祈っている時のように、必要に応じて一定の時間、脚を曲げて膝で身体を支えるようなひざまずいた姿勢を保つこと。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 片味を (対 に 支 立 ち を け 、 る) に 支 か な が で で で で で で で で で で で で で で で で で で	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難 50- 95%	1. ひざまずいた姿勢を保持するにまするにのではまするにがない。 要持を配置されたがいなど: e1150 2. ひざまずがはいたのは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、いいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、ではいいでは、では、ではいいでは、では、では、では、では、では、ではいいでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	1.1、2.1 ひざまずいた姿勢で作 業などをする環境を把 握することができる	1.1.1、2.1.1 生活文化やライフスタ イルに関する知識 1.1.2 ひざまずいた姿 勢を保持するための家 具・用具などに関する 知識(手すりなど) 1.1.3、2.1.2 ひざま ずいた姿勢を保持する ための環境を把握する ためのアセスメント技 術	
		用具・機器 個別に設置した手 すり(床置き型・縦 型など):e1151	1.2、2.2 心身状況に合わせ、ひ ざまずいた姿勢の保持 が安全に行えるように 支援ができる	1.2.1、2.2.1 ひざまずいた姿勢の保持に影響する心身機能・身体構造に関する知識心身機能痛み: b280	

関節と骨の機能: b710-b729 ※ひざまずいた姿勢と 膝への負担 筋の機能:b730b749 運動機能:b750b789 身体構造 運動に関連した構造: s710-s770 1.2.2、2.2.2 ひざまずいた姿勢の保 持に必要な心身状態の アセスメント技術 1.2.3, 2.2.3 アセスメントより得ら れた情報からひざまず いた姿勢保持のしづら さの原因・課題を整理 するための知識 1.2.4、2.2.4 ひざまずいた姿勢を保 持するための支援技術 (ボディーメカニクス など) 1.3, 2.3 1.3.1、2.3.1 本人の望む生活に合わ 本人のニーズやストレ せ、ひざまずいた姿勢 ングスを適切に把握す の保持のための環境を るためのアセスメント 改善(福祉用具の導 技術 入、住宅改修の提案な 2.3.2 本人のひざまず ど)することができる いた姿勢の保持を補助 する福祉用具(手すり: 床置き型・縦型など)に 関する知識 1.3.2、2.3.3 生活環 境の改善を計画するた めの知識 1.3.3、2.3.4 福祉用 具・機器を活用した自 立支援技術

d4153 座位の保持 maintaining a sitting position

机やテーブルに座っている時のように、必要に応じて一定の時間、椅子または床に座位を保つ こと。 含まれるもの: 脚を伸ばして、あるいは組んで座っていること。足を床について、ある いは足を浮かして座っていること。

	いは定を浮かして座っていること。						
①人として具	ICF	② ①に直接関係	3先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備		
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術・知識	考		
の要素・因子)	評価点		護能力)				
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない			
	U						
	0-4%						
1.床面に座っ	軽度の	1. 座位姿勢を保持	1.1、2.1	1.1.1、2.1.1 生活文			
た姿勢(長座	困難	するための家具・用	本人の座位姿勢で過ご	化やライフスタイルに			
位・あぐら・正	5-	具	す環境を把握すること	関する知識			
座・体育座りな	24%	 椅子・座椅子・カウ	ができる	 1.1.2 座位姿勢保持の			
ど)を保持する	中等度	ンターチェアーな		ための家具・用具など			
ことができる	の困難	ど:e1150		に関する知識(椅子、			
	25-	オフィスの椅子な		座椅子、クッション、			
2.椅子などの	49%	ど:e1350		座布団など)			
高さ(膝程度の	重度の	公共のベンチな		※クッションの材質や			
高さ)のある座	国難	と: e150		構造の違いによる姿勢			
面に座った姿	50-	クッション、座布		保持、皮膚環境への影			
勢(端座位)を	95%	団、マット、パッ		響			
保持すること	完全な	ト: e1150		- 1.1.3、2.1.2 座位姿			
ができる	困難			勢で過ごしている環境			
	96-	 2. 座位姿勢を保持		を把握するためのアセ			
3.カウンター	100%	するために使用す		スメント技術			
チェアーなど	10070	る個人用に改造や					
の背の高い椅		設計がなされた福	1,2, 2,2, 3,2	 1.2.1、2.2.1 座位保			
子などに腰掛		· 祉用具·機器	心身状況に合わせ、安	持に影響を及ぼす心身			
ける姿勢を保		ティルトリクライ	楽な座位姿勢を保持が	機能・身体構造に関す			
持することが		ニングチェア・特殊	行えるように支援でき	る知識			
できる		寝台、エアークッ	る	心身機能			
		ション、ジェルク		痛み:b280			
4.ベッドなど		リッション、抱き枕		関節と骨の機能:			
でギャッジア		(U字型クッション)		b710-b729			
ップして起こ		など: e1151		筋の機能:b730-			
した姿勢(ファ				b749			
ーラー位・半座				運動機能:b750-			
位)を保持する				b789			
ことができる				皮膚の機能:b810-			
				b849			
				※座位姿勢における褥			
				そうの好発部位			
				身体構造			
				度動に関連した構造: s710-s770			
				3110 3110			
	I						

1,2,2, 2,2,2 基本的な座位姿勢(正 座・あぐら・長座位・端 座位・ファーラー位)に 関する知識 ※悪い座位姿勢(仙骨 座り)による悪影響に ついて 1.2.3、2.2.3 安楽な 座位姿勢を保持するた めに必要な心身状態の アセスメント技術 1.2.4、2.2.4 アセス メントより得られた情 報から座位姿勢保持の しづらさの原因・課題 を整理するための知識 1.2.5、2.2.5 安楽な 座位姿勢を保持するた めの支援技術(シーテ ィング、座位姿勢の修 正方法) ※×脇からの抱きかか えによる座り直し ○前かがみでの座り直 し、お尻歩きでの座り 直し 1.3、2.3 1.3.1、2.3.1 本人の 本人の望む生活に合わ ニーズやストレングス せ、座位姿勢保持のた を適切に把握するため のアセスメント技術 めの環境を改善(福祉 用具の導入など)する 2.3.2 座位姿勢の保持 ことができる を補助する福祉用具 (ティルトリクライニ ングチェア、エアーク ッション、ジェルクッ ション、座位保持クッ ションなど)に関する 知識 1.3.2、2.3.3 生活環 境の改善を計画するた めの知識 1.3.3、2.3.4 福祉用 具・機器を活用した支 援技術

d4154 立位の保持 maintaining a standing position

列に並んで立っている時のように、必要に応じて一定の時間、立位を保つこと。

含まれるもの:斜面や滑りやすい床面,堅い床面上で立位を保つこと。

①人として具体的行動(行動	の共通	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
の要素・因子)	評価点 困難な し	支援を要しない	護能力) 記入しない	記入しない	
1. っ持る 2. りらをと 3. なな姿るる きたこ 壁掛立保が 手どが勢こくをで にな姿るる や持っ持で すをらをといたな勢が どりたすき り把立保が きが勢こ だしたすき かけっ 持で	困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難 50-	1. 立のを得いまするには、 立ののを得います。 立ののを得います。 自 150 を持つがいます。 立のののでは、 立ののののでは、 立ののののでは、 立ののののでは、 立ののののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	1.1、2.1 立位で作業などをする 環境を把握することが できる 1.2、2.2 心身状況に合わせ、立 位姿勢の保持が安全に 行えるように支援でき る	1.1.1、2.1.1 生活ル1.2、1.1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	

	1.2.3、2.2.3 アセス メントより得られた情 報から立位保持のしづ らさの原因: 課題を整
	理するための知識
1.3、2.3 安楽に立位姿勢の保持 ができる生活環境の改善(家具・用具・福祉 用具の導入、住宅改修 の提案など)すること ができる	1.3.1、2.3.1 本人の ニーズやストレングス を適切に把握するため のアセスメント技術 2.3.2 本人の立位姿勢 の保持を補助するため の福祉用具(手すり、 杖など)に関する知識 ※3 点支持での立位の 安定性 1.3.2、2.3.3 生活環境の知識 1.3.3、2.3.4 福祉用 具・機器を活用した自 立支援技術

d420 乗り移り(移乗) transferring oneself

姿勢を変えずにベンチの上で横に移動する時や、ベッドから椅子への移動の時のように、ある面から他の面へと移動すること。 含まれるもの:座位あるいは臥位のままでの乗り移り。除かれるもの:基本的な姿勢の変換(d410)。

d4200 座位での乗り移り transferring oneself while sitting

椅子からベッドへと移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること。含まれるもの:座った状態から、便座などの他の座位への移動、 車椅子から車の座席への移動。 除かれるもの:基本的な姿勢の変換(d410)。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.同じ高さの	軽度の	1. 移乗元となる家	1.1、2.1、3.1、4.1	1.1.1、2.1.1、	
座面に移乗す	困難	具·乗り物など	本人の座位での乗り移	3.1.1、4.1.1	
ることができ	5-	ベッド・椅子・トイ	りを行う環境を把握す	生活文化やライフスタ	
る	24%	レなど:e1150	ることができる	イルなどに関する知識	
移乗方法と身	中等度	特殊寝台(電動ベッ		1.1.2、2.1.2	
体機能レベル	の困難	ド):e1151			

	ı	1		<u>'</u>
1-1 足の踏み	25-	自動車などの乗り		移乗元·移乗先となる
かえができる	49%	物:e1200		家具・乗り物などに関
1-2 臀部を浮	重度の	個別に設計された		する知識(モジュール
かせることが	困難	車いす、福祉車両		タイプ車いす、福祉車
できる	50-	など:e1201		両など)
1-3 座ってい	95%			1.1.3、2.1.3、
ることができ	完全な	2. 移乗先となる家		3.1.2、4.1.2
る	困難	具·乗り物など		乗り移りを行う環境を
	96-	ベッド・椅子・トイ		把握するためのアセス
2.異なる高さ	100%	レなど:e1150		メント技術
の座面に移乗		特殊寝台(電動ベッ		
することがで		ド):e1151	1.2、2.2、3.2、4.2	1,2,1, 2,2,1,
きる		自動車などの乗り	心身状況に合わせた乗	3.2.1、4.2.1
移乗方法と身		物:e1200	り移りを行う環境を整	乗り移り動作に必要と
体機能レベル		個別に設計された	えることができる	なる心身機能・身体構
2-1 足の踏み		車いす、福祉車両	7.0000	造に関する知識
かえができる		^{= V19} 、		心身機能
2-2 立つこと		AC : 61201		福み: b280
ができる		3. 乗り移りを支援		関節と骨の機能:
2-3 座ってい		するために使用す		BRIC ONR R
ることができ		うるために使用す		B710-B729 筋の機能:b730-
る		介助ベルト、スラ		b749
		イディングシー		運動機能:b750-
		ト、リフト(床走行		b789
		式、天井走行式、		身体構造
		据置式など)など:		運動に関連した構造:
		e1151		s710-s770
				※骨盤の前後傾と重心
		4. 乗り移りを補助		移動
		するために使用す		
		るために個人用に		1.2.2、2.2.2、
		改造や設計がなさ		3.2.2、4.2.2
		れた福祉用具・機器		乗り移り動作に必要な
		個別に設置した手		心身状態のアセスメン
		すり(床置き型・縦		ト技術
		型・L字型など)、ス		1.2.3、2.2.3、
		ライディングボー		3.2.3、4.2.3
		ド、リフト(床走行		アセスメントより得ら
		式、天井走行式、		れた情報から乗り移り
		据置式など):		づらさの原因·課題を
		e1151		整理するための知識
		個別に設計された		1,2,4, 2,2,4,
		モジュールタイプ		3.2.4、4.2.4
		車いす、福祉車両		乗り移りを行う環境を
		本V: 9		調整・整備するための
		01201		技術
				מוזיער
			1.3、2.3、3.3	1.3.1、2.3.1
<u> </u>		1	1.00 2.00 0.0	1.0.1, 2.0.1

乗り移りが安全に行え	基本的な乗り移り方法
るように支援ができる	に関する知識
	1,3,2, 2,3,2
	乗り移りの支援に必要
	な技術(てこの原理・
	ボディーメカニクスな
	パノイ スカニンスな と)
	※身体機能レベルに合
	わせた支援方法(ピボ
	ット法、ホールド法な
	ك) 2011-1017-10-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-
	3.3.1 乗り移りを支援
	する介助用具・機器(介
	助ベルト、スライディ
	ングシート、各種リフ
	トなど)に関する知識
	1.3.3、2.3.3、3.3.2
	介護用具・機器などを
	活用した支援技術
	※スライディングボー
	ド・シートを活用した
	移乗方法
1.4、2.4、4.3	1.4.1、2.4.1、4.3.1
本人の望む生活に合わ	本人のニーズやストレ
せ、乗り移りを行う環	ングスを把握するため
境を改善(福祉用具・機	のアセスメント技術
器の導入、住宅改修の	4.3.2 本人の乗り移り
提案など)することが	を補助する福祉用具、
できる	機器(手すり、リフ
	ト、車いす、福祉車両
	など)に関する知識
	1.4.2、2.4.2、4.3.3
	乗り移りを行う環境の
	改善を計画するための
	知識
	1.4.3、2.4.3、3.4.4
	福祉用具・機器を活用
	した自立支援技術
1	した日立文技芸型

d4201 臥位での乗り移り transferring oneself while lying

あるベッドから他のベッドへの移乗の時のように、ある位置で横たわった状態から、同じもしくは異なる高さの他の臥位へと移動すること。除かれるもの:基本的な姿勢の変換(d410)。

	T				l 1
①人として具		② ①に直接関係	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.同じ高さの	軽度の	1. 移乗元となる家	1.1、2.1、3.1、4.1	1.1.1、2.1.1、	
座面に移乗す	困難	具・乗り物など	本人の座位での乗り移	3.1.1、4.1.1	
ることができ	5-	ベッド・椅子・トイ		生活文化やライフスタ	
る る	24%	レなど:e1150	ることができる	イルなどに関する知識	
8 移乗方法と身	中等度	特殊寝台(電動ベッ	0000000	1.1.2、2.1.2	
体機能レベル	の困難	特殊後日(電動バラ ド):e1151		1.1.2、2.1.2 移乗元·移乗先となる	
	· — · · —				
1-1 足の踏み	25-	自動車などの乗り		家具・乗り物などに関	
かえができる	49%	物:e1200		する知識(モジュール	
1-2 臀部を浮	重度の	個別に設計された		タイプ車いす、福祉車	
かせることが	困難	車いす、福祉車両な		両など)	
できる	50-	ど:e1201		1.1.3、2.1.3、	
1-3 座ってい	95%			3.1.2、4.1.2	
ることができ	完全な	2. 移乗先となる家		乗り移りを行う環境を	
る	困難	具·乗り物など		把握するためのアセス	
	96-	ベッド・椅子・トイ		メント技術	
2.異なる高さ	100%	レなど:e1150			
の座面に移乗		 特殊寝台(電動ベッ	1,2、2,2、3,2、4,2	1,2,1、2,2,1、	
することがで		ド):e1151	 心身状況に合わせた乗	3.2.1、4.2.1	
きる		自動車などの乗り	り移りを行う環境を整	乗り移り動作に必要と	
移乗方法と身		物:e1200	えることができる	なる心身機能・身体構	
体機能レベル		個別に設計された	7.000.00	造に関する知識	
2-1 足の踏み		車いす、福祉車両な		心身機能	
かえができる		さ: e1201		福み:b280	
2-2 立つこと		C . 61201		関節と骨の機能:	
ができる		 3. 乗り移りを支援		b710-b729	
2-3 座ってい					
		するために使用す		筋の機能:b730-	
ることができ		る介護用具、機器		b749	
る		介助ベルト、スライ		運動機能:b750-	
		ディングシート、リ		b789	
		フト(床走行式、天		身体構造	
		井走行式、据置式な		運動に関連した構造:	
		ど)など:e1151		s710-s770	
				※骨盤の前後傾と重心	
		4. 乗り移りを補助		移動	
		するために使用す		1.2.2、2.2.2、	
		るために個人用に		3.2.2、4.2.2	
		改造や設計がなさ		乗り移り動作に必要な	
		れた福祉用具・機器		心身状態のアセスメン	
		個別に設置した手		ト技術	
		すり(床置き型・縦		1.2.3、2.2.3、	
		型・L字型など)、ス		3.2.3、4.2.3	
	1	エ L 丁土はし八 人	<u> </u>	0.2.0, 4.2.0	

ライディングボー アセスメントより得ら ド、リフト(床走行 れた情報から乗り移り 式、天井走行式、据 づらさの原因・課題を 整理するための知識 置式など):e1151 1.2.4、2.2.4、 個別に設計された モジュールタイプ 3.2.4、4.2.4 車いす、福祉車両な 乗り移りを行う環境を ど:e1201 調整・整備するための 技術 1.3、2.3、3.3 1.3.1、2.3.1 乗り移りが安全に行え 基本的な乗り移り方法 るように支援ができる に関する知識 1.3.2、2.3.2 乗り移りの支援に必要 な技術(てこの原理・ ボディーメカニクスな (تاح ※身体機能レベルに合 わせた支援方法(ピボ ット法、ホールド法な 3.3.1 乗り移りを支援 する介助用具・機器(介 助ベルト、スライディ ングシート、各種リフ トなど)に関する知識 1.3.3、2.3.3、3.3.2 介護用具・機器などを 活用した支援技術 ※スライディングボー ド・シートを活用した 移乗方法 1.4、2.4、4.3 1.4.1、2.4.1、4.3.1 本人のニーズやストレ 本人の望む生活に合わ せ、乗り移りを行う環 ングスを把握するため 境を改善(福祉用具・機 のアセスメント技術 器の導入、住宅改修の 432本人の乗り移り 提案など)することが を補助する福祉用具、 できる 機器(手すり、リフ ト、車いす、福祉車両 など)に関する知識 1.4.2、2.4.2、4.3.3 乗り移りを行う環境の 改善を計画するための 知識 1.4.3、2.4.3、3.4.4

	福祉用具・機器を活用	
	した自立支援技術	

物の運搬・移動・操作 carrying, moving and handling objects (d430-d449)

d430 持ち上げることと運ぶこと lifting and carrying objects

カップを持ち上げたり、子どもをある部屋から別の部屋へ運ぶ時のように、物を持ち上げること、ある場所から別の場所へと物を持っていくこと。

含まれるもの: 持ち上げること。手に持ったり, 腕に抱えたり, 肩や腰, 背中, 頭の上に載せて 運搬すること。物を置くこと。

d4300 持ち上げる lifting

テーブルからグラスを持ち上げることのように、低い位置から高い位置へと動かすために、物を持ち上げること。

を持め上りること。					
①人として	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うた はの見たから滞にむ	④支援行動に必要な技	備
具体的行動	の共通	境因子	めの具体的介護行動	│ 術・知識	考
(行動の要	評価点		(介護能力)		
素・因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.低い位置	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状態に	
から高い位	困難	物品の素材や種類,重	を行い,本人の状態に	即した物品や種類の知	
置に様々な	5-	量を把握把	合わせた物品の素材	識・情報	
ものを持ち	24%	(e110) (e115)	や種類を整えること	1.1.1.2 上記の情報を	
上げること	中等度	(e130) (e135) (e140	ができる	探す技術	
ができる	の困難)			
1-1 物品を	25-	1.2 持ち上げる(抱っ	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 子どもの心身	
持ち上げる	49%	こ)子どもの体型や重	を行い、子どもの状況	の状況の知識・情報	
ことができ	重度の	量を把握	を確認し,持ちあげる	1.2.1.2 上記の情報を	
る	困難	(*環境要素に該当な	(抱っこ)できるよう	探す技術	
1-2 子ども	50-	し, b 神経筋骨格と運動	に支援できる		
を抱き上げ	95%	に関する機能,s運動に			
ることがで	完全な	関連した構造			
きる	困難				
1-3 動物を	96-	1-3 動物の種類や重	1.3.1 アセスメント	1.3.1.1 動物の種類や	
持ちあげる	100%	量を把握	を行い,動物の状態を	特性の知識・情報	
ことができ		(e220) (e350)	確認し,持ち上げられ	1.3.1.2 上記の情報を	
る			るように支援できる	 探す技術	
		1.4 持ち上げる物理的	1.4.1 アセスメント	 1.4.1.1 持ち上げる対	
		環境(地理・気候・災害・	を行い,本人の状態に	象の状況と環境を把握	
		光・音・振動・空気)を把	合わせて,持ち上げら	するアセスメント技術	
		握			
L				I	

(e210(e225) (e23 0) (e235) (e240) (e2 55) (e260)	れる環境を整えるこ とができる	1.4.1.2 持ち上げる人 の心身の状況に合わせ た用具を把握するアセ スメント技術 1.4.1.3 持ち上げる人 の心身の状況に合わせ た環境整備ができる技 術	
1.5 持ち上げようとす る環境の社会的風土 を把握(e465)	1.5.1 物品, 人や動物を持ち上げるために必要な慣習や価値観を確認できる	物を持ち上げるための	
	1.5.2 物品, 人や動物を持ち上げるための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	めの慣習や価値観に対 応した物品準備のため	

d4301 手に持って運ぶ carrying in the hands

コップやスーツケースを運ぶことのように、手を使って、物をある場所から別の場所へと持っていく、あるいは移動させること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 手にもって、様々なものを移動させることができる 1-1 物品を移動させるとができるとができる	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49%	1.1 日常生活における 物品の素材や種類,重量 を把握把 (e110)(e115) (e130)(e135)(e140)	1.1.1 アセスメント を行い,本人の状態に 合わせた物品の素材 や種類を整えること ができる	1.1.1.1 心身の状態に 即した物品や種類の 知識・情報 1.1.1.2 上記の情報を 探す技術	

1-2 成人や	重度の	1.2 手をつないで移動	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 成人や子ど
子どもと手を つないで移動 させることが できる 1-3 動物を 別の場所に移 動することが	困難 50-	する成人や子どもの体型や重量を把握 (*環境要素に該当なし,b神経筋骨格と運動に関する機能,s運動に関連した構造)	を行い,成人や子ども と手をつなぎ、移動で きるように支援でき る	もの心身の状況の知 識・情報 1.2.1.2 上記の情報を 探す技術
できる	%	1.3 動物の種類や重量 を把握 (e220)(e350)	1.3.1 アセスメントを行い,動物を別の場所に移動できるように支援できる	1.3.1.1 動物の種類や 特性の知識・情報 1.3.1.2 上記の情報 を探す技術
		1.4 手にもって運ぶ物 理的環境(地理・気候・ 災害・光・音・振動・空 気)を把握 (e210(e225)(e230)) (e235)(e240)(e255)) (e260)		1.4.1.1 手にもって環境 の状況アセスメント技術 1.4.1.2 手にもって況別を把技術 1.4.1.2 手にもの状況 把トカーマント はいかられる かった 用具メント もの はいから はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます
		1.5 手にもって運ぼう とする環境の社会的風 土を把握(e465)	1.5.1 物品, 人や動物 を手にもって運ぶた めに必要な慣習や価 値観を確認できる	1.5.1.1 手にもって 運ぶための慣習や価 値観を把握するアセ スメント技術 1.5.1.2 上記の情報 を探す技術
			1.5.2 物品, 人や動物 を手にもって運ぶた めの慣習や価値観に 対応した物品を提供 できる	1.5.2.1 慣習や価値観を把握し、物品を提供する技術1.5.2.2 手にもって運ぶための慣習や価値観に対応した物品準備のために、家族や関係者との調整・連携する技術

d4302 腕に抱えて運ぶ carrying in the arms

子どもを運ぶことのように、腕と手を使って、物をある場所から別の場所へと持っていく、あるいは移動させること。

94.10.13.20	さらのこと	-0			
①人として 具体的行動	ICF の共通	②①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
(行動の要 素・因子)	評価点		護能力)		
* Ø1/	困難なし	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	0-4%				
1.腕と手を使って抱え,	軽度の 困難	1.1 日常生活における物品の素材や種類, 重量を	1.1.1 アセスメントを 行い,本人の状態に合	1.1.1.1 心身の状態 に即した物品や種類	
さまざまな	5-	把握把	わせた物品の素材や種	の知識・情報	
ものを移動	24%	(e110) (e115)	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報	
させることができる	中等度 の困難	(e130) (e135) (e140)	る	を探す技術	
	25-	1.2 腕で抱えて運ぶ成	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 成人や子ど	
1-1 物品を 移動させる	49% 季度の	人や子どもの体型や重 量を把握	を行い,子どもを抱っ こして移動できるよう	もの心身の状況の知識・情報	
であるとも	重度の 困難	単さた症 (*環境要素に該当なし,	に支援できる	3.2.1.2 上記の情報	
る	50-	り神経筋骨格と運動に関		を探す技術	
1-2 子ども	95%	する機能,s運動に関連			
を抱っこし	完全な	した構造)			
て移動させることがで	困難 96-	 1-3 動物の種類や重量	1.3.1 アセスメント	1.3.1.1 動物の種類	
きる	100%	「も 動物の程類や重量 を把握	を行い、動物を別の場	で特性の知識・情報	
1-3 動物を	100,0	(e220) (e350)	所に移動できるように	1.3.1.2 上記の情報	
別の場所に			支援できる	を探す技術	
移動することができる		1.4腕で抱えて運ぶ物理	111 747 711	1.4.1.1 腕に抱えて	
CN. (99		的環境(地理・気候・災 害・光・音・振動・空気)	1.4.1 アセスメント を行い, 本人の状態	運ぶ対象の状況と環 境を把握するアセス	
		を把握	に合わせて、腕に抱	メント技術	
		(e210(e225)(e230)	えて運ぶ環境を整え	1.4.1.2 腕に抱えて	
		(e235) (e240) (e255)	ることができる	運ぶ人の心身の状況	
		(e260)		に合わせた用具を把	
				握するアセスメント 技術	
				1.4.1.3 腕に抱えて	
				運ぶ人の心身の状況	
				に合わせた環境整備	
				ができる技術	
		1.5腕で抱えて運ぼうと	1.5.1 物品, 人や動物	1.5.1.1 腕に抱えて	
		する環境の社会的風土	を腕に抱えて運ぶため	運ぶための慣習や価	
		を把握(e465) 	に必要な慣習や価値観 を確認できる	値観を把握するアセ スメント技術	
				פויו אניי ביי	

		1.5.1.2 上記の情報 を探す技術 1.5.2.1 慣習や価値 観を把握し,物品を 提供する技術	
	1.5.2 物品,人や動物を腕に抱えて運ぶための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	1.5.2.2 腕に抱えて 運ぶための慣習や価 値観に対応した物品 準備のために,家族 や関係者との調整・ 連携する技術	

d4303 肩・腰・背に担いで運ぶ carrying on shoulders, hip and back

大きな荷物を運ぶことのように、肩、腰、背を使って、物をある場所から別の場所へと持っていく、あるいは移動させること。

①人として 具体的行動	ICF の共通	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
(行動の要	評価点	ACO J	(介護能力)	روو می از کرد	ח
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.肩,腰,背	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
に担いでさ	困難	品の素材や種類, 重量を	行い,本人の状態に合	に即した物品や種類	
まざまなも	5-	把握把	わせた物品の素材や	の知識・情報	
のを運ぶこ	24%	(e110) (e115)	種類を整えることが	1.1.1.2 上記の情報	
とができる	中等度	(e130) (e135) (e140)	できる	を探す技術	
	の困難				
1-1 物品を	25-	1.2 おんぶする人の体	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 成人や子ど	
運ぶことが	49%	型や重量を把握	を行い、おんぶして移	もの心身の状況の知	
できる	重度の	(*環境要素に該当なし,	動できるように支援	識・情報	
1-2 人をお	困難	b神経筋骨格と運動に関	できる	1.2.1.2 上記の情報	
んぶして移	50-	する機能, s 運動に関連		を探す技術	
動させるこ	95%	した構造)			
とができる	完全な				
1-3 動物を	困難	1-3 動物の種類や重量	1.3.1 アセスメント	1.3.1.1 動物の種類	
別の場所に	96-	を把握	を行い、動物を別の場	や特性の知識・情報	
運ぶことが	100%	(e220) (e350)	所に運ぶことができ	1.3.1.2 上記の情報	
できる			るように支援できる	を探す技術	
		1.4 肩・腰・背に担いで	1.4.1 アセスメントを	1.4.1.1 肩・腰・背に	
		運ぶ物理的環境(地理・	行い、本人の状態に合	担いで運ぶ対象の状	
			わせて,肩・腰・背に		

気候・災害・光・音・振	担いで運ぶ環境を整	況と環境を把握する	
動・空気)を把握	えることができる	アセスメント技術	
(e210(e225)(e230)		1.4.1.2 肩・腰・背に	
(e235) (e240) (e255)		担いで運ぶ人の心身	
(e260)		の状況に合わせた用	
		具を把握するアセス	
		メント技術	
		1.4.1.3 肩・腰・背に	
		担いで運ぶ人の心身	
		の状況に合わせた環	
		境整備ができる技術	
1.5 肩・腰・背に担いで	1.5.1 肩・腰・背に担	1.5.1.1 肩・腰・背に	
運ぼうとする環境の社	いで運ぶために必要	担いで運ぶための慣	
会的風土を把握(e465)	な慣習や価値観を確	習や価値観を把握す	
	認できる	るアセスメント技術	
		1.5.1.2 上記の情報	
		を探す技術	
	1.5.2 肩・腰・背に担	1.5.2.1 慣習や価値	
	いで運ぶための慣習	観を把握し,物品を	
	や価値観に対応した	提供する技術	
	物品を提供できる	1.5.2.2 肩・腰・背に	
		担いで運ぶための慣	
		習や価値観に対応し	
		た物品準備のため	
		に,家族や関係者と	
		の調整・連携する技	
		術	

d4304 頭の上にのせて運ぶ carrying on the head

水の入った容器を頭の上にのせて運ぶことのように、頭部を使って、物をある場所から別の場所へと持っていく、あるいは移動させること。

①人として 具体的行動 (行動の要	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.頭部を使	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
ってものを	困難	品の素材や種類, 重量を	行い, 本人の状態に合	に即した物品や種類	
移動させる	5-	把握(e140)	わせた物品の素材や	の知識・情報	
	24%				

ことができ	中等度		種類を整えることが	1.1.1.2 上記の情報	
る	の困難		できる	を探す技術	
	25-	1.2 頭で移動する物理的			
1-1 柔らか	49%	環境(地理・気候・災害・	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 運ぶ対象の	
いボールを	重度の	光・音・振動・空気)を把	を行い, 本人の状態に	状況と環境を把握す	
使って頭で	困難	握	合わせて, 頭で運ぶ環	るアセスメント技術	
移動するこ	50-	(e210(e225)(e230)	境を整えることがで		
とができる	95%	(e235) (e240) (e255)	きる		
	完全な	(e260)			
	困難				
	96-				
	100%				

d4305 物を置く putting down objects

水の入った容器を地面に置くことのように、手や腕、その他の身体の部分を使って、物をある ものの上やある場所に置くこと。

①人として	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
具体的行動	の共通	境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
(行動の要	評価点		(介護能力)		
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.手や腕, そ	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
の他の身体	困難	品の素材や種類, 重量を	行い, 本人の状態に合	に即した物品や種	
部分を使っ	5-	把握把	わせた物品の素材や	類の知識・情報	
て所定の場	24%	(e110) (e115)	種類を整えることが	1.1.1.2 上記の情報	
所に置くこ	中等度	(e130) (e135) (e140)	できる	を探す技術	
とができる	の困難				
	25-	1.2座らせる子どもの体	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 成人や子ど	
1-1 物品を	49%	型や重量を把握	を行い、子どもを座ら	もの心身の状況の知	
置くことが	重度の	(*環境要素に該当なし,	せるように支援でき	識・情報	
できる	困難	b神経筋骨格と運動に関	る	1.2.1.2 上記の情報	
1-2 子ども	50-	する機能, s 運動に関連		を探す技術	
を座らせる	95%	した構造)			
ことができ	完全な				
る	困難	1-3 動物の種類や重量	1.3.1 アセスメント	1.3.1.1 動物の種類	
1-3 動物を	96-	を把握	を行い,動物を所定の	や特性の知識・情報	
所定の場所	100%	(e220) (e350)	場所に置くことがで	1.3.1.2 上記の情報	
に置くこと			きるように支援でき	を探す技術	
ができる			る		
		1.4 物を置く物理的環境			
		(地理・気候・災害・	1.4.1 アセスメント	1.4.1.1 物を置く人	
		光•音•振動•空気)を	を行い、本人の状態に	の状況と環境を把握	
		把握	合わせて、物を置く環		

	I	
(e210(e225)(e230)	境を整えることがで	するアセスメント技
(e235) (e240) (e255)	きる	術
(e260)		1.4.1.2 物を置く人
		の心身の状況に合わ
		せた用具を把握する
		アセスメント技術
		1.4.1.3 肩物を置く
		人の心身の状況に合
		わせた環境整備がで
		きる技術
1.5物を置こうとする環	1.5.1 物を置くために	1.5.1.1 物を置くた
境の社会的風土を把	必要な慣習や価値	めの慣習や価値観を
握(e465)	観を確認できる	把握するアセスメン
		ト技術
		1.5.1.2 上記の情報
		を探す技術
	1.5.2 物を置くための	1.5.2.1 慣習や価値
	慣習や価値観に対	観を把握し、物品を
	応した物品を提供	提供する技術
	できる	1.5.2.2 肩物を置く
		ための慣習や価値観
		に対応した物品準備
		のために、家族や関
		係者との調整・連携
		する技術
		טוין אנע ע

d435 下肢を使って物を動かすこと moving objects with lower extremities

ボールを蹴ることや自転車のペダルを漕ぐことのように足を使って、物を動かすことを目的とした協調性のある行為を遂行すること。含まれるもの:足で押す、蹴る。

d4350 下肢で押すこと pushing with lower extremities

足で椅子を押しのけることのように、足を使って、物に力を及ぼして遠ざけること。

①人として	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
具体的行動	の共通	境因子	の具体的介護行動(介護	な技術・知識	考
(行動の要	評価点		能力)		
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 下肢で物	軽度の		1.1.1 アセスメントを		
を遠ざける	困難		行い,本人の状態に合わ		

	1	Г	Г	<u> </u>
ことができ	5-	1.1 日常生活における物	せた物品の素材や種類	1.1.1.1 心身の状
る	24%	品の素材や種類, 重量を	を整えることができる	態に即した物品や
1-1 下肢	中等度	把握把		種類の知識・情報
を使って椅	の困難	(e110) (e115)		1.1.1.2 上記の情
子などの用	25-	(e130) (e135) (e140)		報を探す技術
具を遠ざけ	49%			
ることがで	重度の	1.2物を遠ざける物理的	1.2.1 アセスメントを	1.2.1.1 物を遠ざ
きる	困難	環境(地理・気候・災害・	行い,対象者の状態に合	ける対象の状況と
1-2 下肢	50-	光・音・振動・空気)を把	わせて、物を遠ざける環	環境を把握するア
を使って寝	95%	 握	境を整えることができ	セスメント技術
具を遠ざけ	完全な	(e210(e225)(e230)	る	1.2.1.2 物を遠ざ
る (はがす)	困難	(e235) (e240) (e255)		ける人の心身の状
ことができ	96-	(e260)		況に合わせた用具
る	100%			を把握するアセス
1-3 物品の	10070			メント技術
素材や種類				1.2.1.3 物を遠ざ
に対応して				ける人の心身の状
足で押しの				況に合わせた環境
けることが				整備ができる技術
できる				正開るくとの技術
		 1.3 物を遠ざけようとす	 1.3.1 物を遠ざけるた	 1.3.1.1 物を遠ざ
		る環境の社会的風土を	めに必要な慣習や価	けるための慣習や
		もりない。	値観を確認できる	価値観を把握する
				アセスメント技術
				1.3.1.2 上記の情
				1.3.1.2 工品の情 報を探す技術
				対位体的技術
			 1.3.2 物を遠ざけるた	 1.3.2.1 慣習や価
			1.3.2 物を遠さけるに	1.3.2.1 慎音 (2
				恒観を指揮し、初品 を提供する技術
			対応した物品を提供	
			できる	1.3.2.2 物を遠ざ
				けるための慣習や
				価値観に対応した
				物品準備のために、
				家族や関係者との
				調整・連携する技術

d4351 蹴ること kicking

ボールを蹴ることのように、足を使って、物をつきとばすこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な		支援を要しない	必要ない	
	し				
	0-4%				

	ı	T		T
1.足を使って		1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態
蹴ることがで	困難	物品の素材や種類,重	行い、本人の状態に合	に即した物品や種
きる	5-	量を把握把	わせた物品の素材や種	類の知識・情報
	24%	(e110) (e115)	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報
1-1 物品の素	中等度	(e130) (e135) (e1	る	を探す技術
材や種類に対	の困難	40)		
応して足で蹴	25-			1.2.1.1 心身の状況
ることができ	49%	1.2 下肢で蹴る物理的	1.2.1 アセスメントを	と環境を把握する
る	重度の	環境(地理・気候・災	行い,本人の状態にあ	アセスメント技術
	困難	害・光・音・振動・空	わせて下肢で蹴る環境	1.2.2.1 心身の状況
	50-	気)を把握(e210)	を整えることができる	に合わせた用具を
	95%	(e225) (e230)	1.2.2 下肢で蹴るため	把握するアセスメ
	完全な	(e235) (e240)	に必要な心身の状況に	ント技術
	困難	(e255) (e260)	応じた用具の提供がで	1.2.2.3 下肢で蹴
	96-		きる	る人の心身の状況
	100%			に合わせた環境整
	10076			備ができる技術
				MACC O A C Min
		 1.3 下肢で蹴ろうとす	 1.3.1 下肢で蹴るため	1.3.1.1 下肢で蹴る
		1.5 放き点のとする環境の社会的風土を	に必要な慣習や価値	ための慣習や価値
		砂塊塊の性公的風上と 把握(e465)	こめなる質量で温度 観を確認できる	観を把握するアセ
				スメント技術
				1.3.1.2 上記の情報
				を探す技術
			100 下吐不喘フナル	4004牌羽丛连结
			1.3.2 下肢で蹴るため	1.3.2.1 慣習や価値
			の慣習や価値観に対応	観を把握し、物品を
			した物品を提供できる	提供する技術
				1.3.2.2 下肢で蹴る
				ための慣習や価値
				観に対応した物品
				準備のために,家族
				や関係者との調整・
				連携する技術
L		ı	I	

d440 細かな手の使用 fine hand use

テーブルの上の硬貨を取り上げたり、ダイヤルや把手を回すのに必要な動きのように、手と手指を用いて、物を扱ったり、つまみあげたり、操作したり、放したりといった協調性のある行為を遂行すること。 含まれるもの:つまみあげること、握ること、操作すること、放すこと。除かれるもの:持ち上げることと運ぶこと(d430)

d4400 つまみあげること picking up

鉛筆をつまみ上げることのように、手と手指を用いて、小さな物を持ち上げたり、取り上げる こと。

①人として具	ICF	②①に直接関係する環	3先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.手と手指を	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状	
用いて、つま	困難	品の素材や種類, 重量を	行い、本人の状態に合	態に即した物品や	
む、つかみ上げ	5-	把握把	わせた物品の素材や種	種類の知識・情報	
ることができ	24%	(e110) (e115)	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情	
る	中等度 の困難	(e130) (e135) (e140)	る	報を探す技術	
1-1 袋から小	25-	1.2 物をつまみあげる物	1.2.1 アセスメントを	1.2.1.1 物をつ	
銭等の小さな	49%	理的環境(地理・気候・	行い、本人の状態に合	まみ上げる人の状	
物を取り出す	重度の	災害・光・音・振動・空	わせて,物をつまみあ	況と環境を把握す	
ことができる	困難	気)を把握	げられる環境を整える	るアセスメント技	
	50-	(e210(e225)(e230)	ことができる	術	
1-2 小豆をつ	95%	(e235) (e240) (e255)		1.2.1.2 物をつま	
まみあげるこ	完全な	(e260)		み上げる人の心身	
とができる	困難			の状況に合わせた	
	96-			用具を把握するア	
	100%			セスメント技術	
				1.2.1.3 物をつ	
				まみ上げる人の心	
				身の状況に合わせ	
				た環境整備ができ	
				る技術	
		 1.3 物をつまみあげよう	 131 物をつきみ上げ	 1.3.1.1 物をつ	
		とする環境の社会的風	ようとするために必要	まみ上げるための	
		土を把握(e465)	な慣習や価値観を確認	慣習や価値観を把	
		工 色 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	できる	握するアセスメン	
				ト技術	
				1.3.1.2 上記の情	
				1.5.1.2 土品の情	
			 1.3.2 物をつまみ上げ	 1.3.2.1 慣習や価	
			ようとするための慣習	1.3.2.1 慣音で画 値観を把握し,物	
			ひしゅるための頃目 や価値観に対応した物	品を提供する技術	
			品を提供できる	1.3.2.2 物をつま	
				7.5.2.2 初をうな み上げるための慣	
				習や価値観に対応	
				した物品準備のた	
				めに、家族や関係	
				者との調整・連携	
				する技術	
	I			נויו אנס כ	

d4401 握ること grasping

道具やドアの把手を握ることのように、片手または両手を用いて、物をつかんだり、持つこと。

①人として具体	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うため	④支援行動に必	備
的行動(行動の	の共通	境因子	の具体的介護行動(介	要な技術・知識	考
要素・因子)	評価点 困難な	支援を要しない	護能力)記入しない	記入しない	
		文质之安 0/3/1		80707811	
	0-4%				
1.片手や両手を	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状	
用いて物を握	困難	品の素材や種類, 重量を	行い、本人の状態に合	態に即した物品	
ることができ	5-	把握把	わせた物品の素材や種	や種類の知識・情	
る	24%	(e110) (e115)	類を整えることができ	報	
1 1 4 4 4 7 7 7 7 7 7	中等度	(e130) (e135) (e140)	る	1.1.1.2 上記の情	
1-1 片手で物をつかむことが	の困難 25-			報を探す技術	
できる	49%	 1.2 握手する人の体型を	1.2.1 アセスメントを	 1.2.1.1 物をつか	
1-2 片手を使っ	重度の	一把握	行い、握手する人の状	んだり、握手する	
て握手をする	困難	(*環境要素に該当なし,	況を確認し, 片手及び	人の状況と環境	
ことができる	50-	b神経筋骨格と運動に関	両手で握手できるよう	を把握するアセ	
1-3 両手を使っ	95%	する機能,s運動に関連	に支援できる	スメント技術	
て物を持つこ	完全な	した構造)		1.2.1.2物をつか	
とができる	困難			んだり、握手する	
1-4 両手を使っ て握手するこ	96-			井人の心身の状 況に合わせた用	
とができる	100%			具を把握するア	
				ロスメント技術	
		1.3 物をつかんだり、握	1.3.1 アセスメントを	1.3.1.1 物をつか	
		手する物理的環境(地	行い,本人の状態に合	む人の心身の状	
		理•気候•災害•光•音•	わせて、物をつかんだ	況に合わせた環	
		振動・空気)を把握	り握手する環境を整え	境整備ができる	
		(e210(e225)(e230)	ることができる	技術	
		(e235) (e240) (e255) (e260)			
		16200/			
		 1.4 物をつかんだり,握	 1.4.1 物をつかんだり	 1.4.1.1 物をつか	
		手しようとする環境の	握手するために必要な	んだり握手する	
		社会的風土を把握	慣習や価値観を確認で	ための慣習や価	
		(e465)	きる	値観を把握する	
				アセスメント技	
			110 畑をつかりだり	術 	
			1.4.2 物をつかんだり 握手するための慣習や	 1.4.1.2上記の情	
			価値観に対応した物品	1.4.1.2 上記の情	
			を提供できる	1.4.2.1 慣習や価	
				値観を把握し、物	

		品を提供する技	
		術	
		1.4.2.2物をつか	
		んだり握手する	
		ための慣習や価	
		値観に対応した	
		物品準備のため	
		に,家族や関係者	
		との調整・連携す	
		る技術	

d4402 操作すること manipulating

コインや小さな物を扱うことのように、手指と手を使って、物をあやつること。

	1	T			
①人として具	ICF	② ①に直接関係する	3先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	環境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.手指と手を	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
使って物をあ	困難	箸の素材や種類,重量	行い、本人の状態に合	に即した物品や種	
やつることが	5-	を把握 (e115)	わせた箸の素材や種類	類の知識・情報	
できる	24%		を整えることができる	1.1.1.2 上記の情報	
1-1 お箸を使	中等度		1.1.2 アセスメントを	を探す技術	
うことができ	の困難		行い、本人の状態に合		
る	25-	1.2 日常生活における	わせた靴ひもやリボン	1.2.1.1 手指と手	
1-2 靴ひもや	49%	靴ひもやリボンの種類	素材や種類を整えるこ	を使って物をあや	
リボンを結ぶ	重度の	や重量を把握 (e115)	とができる	つる人の状況と環	
ことができる	困難		1.1.3 アセスメントを	境を把握するアセ	
	50-		行い,手指と手を使う	スメント技術	
	95%		人の状況を確認し,お	1.2.1.2 手指と手を	
	完全な		箸やリボン,靴ひもが	使って物をあやつ	
	困難		結べるように支援でき	る人の心身の状況	
	96-		る	に合わせた用具を	
	100			把握するアセスメ	
	%			ント技術	
	/ /				
		1.3 手指と手を使って	1.3.1 アセスメントを	 1.3.1.1 手指と手を	
		お箸を使ったり、靴ひ	行い、本人の状態に合	使って物をあやつ	
		もリボンを結ぶことが	わせて、手指と手を使	る人の心身の状況	
		できる物理的環境(地	って物をあうあする環	に合わせた環境整	
		理•気候•災害•光•音•	境を整えることができ	備ができる技術	
		振動・空気)を把握	る	Maria CO GIANIB	
		(e210(e225) (e23	0 1.4.1 手指と手を使		
		0)	って物をあやつるため		
	l				<u> </u>

(e235) (e240) (e255) (e260)	に必要な慣習や価値観 を確認できる	1.4.1.1 手指と手を使って物をあやつるための慣習や価値観を把握するアセスメント技術	
		1.4.1.2 上記の情報を探す技術	
1.4 手指と手を使って物をあやつる環境の社会的風土を把握(e465)	1.4.2 手指と手を使って物をあやつるための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	1.4.2.1 慣習や価値 観を把握し,物品を 提供する技術 1.4.2.2 手指と手を 使って物をあやつ るための慣習や価値観に対応した物 品準備のために,家 族や関係者との調 整・連携する技術	

d4403 放すこと releasing

衣類を落とすことのように,落としたり,位置を変化させるために,手指と手を使って物を離すこと。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要 な技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 手使放で1-物こるとでこるご捨がと 箱てで	軽度の 5-24% 中の825-49% 重困50-95% 年 96-100%	1.1日常生活における物 品の素材や種類,重量を 把握 (e110)(e115) (e130)(e135)(e140)	1.1.1 アセスメントを 行い,本人の状態に合 わせた物品の素材でき る 1.1.2 アセスメントを 行い,本人の状態に捨て わせて,ごみ籍理する ことができる ことができる	1.1.1.1 心り りに がいます。 1.1.1.1 で りに かりに がいます。 1.1.1.1 で ののはます。 1.1.1.1 で ののはます。 1.1.1.1 で ののに でがますが、 にののはます。 ではずが、 はいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいますが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でいまが、 でい	

1.2動物の種類や重量を 把握 (e220) (e350)	1.2.1 アセスメントを 行い,動物の状態を確 認し,持ち上げられる ように支援できる 1.2.2 アセスメントを 行い,物を落としたり, 動物をゲージから離す 人の状況を確認し,支 援できる	1.2.1.1 動物の種類 や特性の知識・情報 1.2.1.2 上記の情報 1.2.1.2 動物をが 1.2.1.2 動物するの環境を把ト技術 1.2.1.3 手指とがののでは では、メントをでいるをでいる。 では、は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では
1.3手指と手を使って物を落としたり、動物をゲージから離すことができる物理的環境(地理・気候・災害・光・音・振動・空気)を把握(e210(e225)(e230)(e235)(e260)	1.3.1 アセスメントを 行い,本人の状態に合 わせて,手指と手を使 って物を落とができる 整えることができる 1.3.2 アセスメントを 行い,本人の状態に一ジ から離す環境を整える ことができる	1.3.1.1 手指と手を では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
1.4 手指と手を使って物をゴミ箱にごみを捨てる環境の社会的風土を 把握(e465)	1.4.1 手指と手を使って物をゴミ箱に捨てるために必要な慣習や価値観を確認できる1.4.2 手指と手を使って物をゴミ箱に捨てるための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	1.4.1.1 手指と手を けって物を捨てるための慣習を把握する を把握するが を把握するが かた技術 1.4.1.2 上記の情報 を探す技術 1.4.2.1 慣習や価値 観を把握し、物品を 提供する技術
	1.5.1 手指と手を使って動物をゲージから離すために必要な慣習や価値観を確認できる 1.5.2 手指と手を使って動物をゲージから離	1.5.1.1 手指と手を 使って動物をゲー ジから離すための 慣習や価値観に対 応した物品準備の ために,家族や関係

	す慣習や価値観に対応 した物品を提供できる		
		1.5.2.1 慣習や価値 観を把握し,物品を	
		提供する技術	

d445 手と腕の使用 hand and arm use

ドアの把手を回したり、物を投げたりつかまえる時のように、手と腕を使って、物を動かしたり操作するのに必要な協調性のある行為を遂行すること。

含まれるもの:物を押したり引いたりすること、手を伸ばすこと、手や腕を回しひねること、 投げること、つかまえること。 除かれるもの:細かな手の使用(d440)。

d4450 引くこと pulling

閉まったドアを引くことのように、手指や手、腕を使って、物を自分の方向に引きよせたり、 ある場所から他の場所へと動かすこと。

3 - 2 - 2 2 7 7 1	C23:0 3 C C 0			
ICF	②①に直接関係する	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
の共通	環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
評価点		(介護能力)		
困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
\cup				
0-4%				
軽度の	1.1 日常生活におけ	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状態に	
困難	る物品の素材や種類,	を行い,本人の状態に	即した物品や種類の知	
5-	重量を把握	合わせた物品の素材	識・情報	
24%	(e110) (e115)	や種類を整えること	1.1.1.2 上記の情報を	
中等度	(e130) (e135) (e14	ができる	探す技術	
の困難	O)	1.1.2 アセスメント	1.1.1.3 手指と手や腕	
25-		を行い,手指や手や腕	を使って物を引く人の	
49%		を使って,物を引く人	状況と環境を把握する	
重度の		の状況を確認し,支援	アセスメント技術	
困難		できる	1.1.1.4 手指と手や腕	
50-			を使って物を引く人の	
95%			心身の状況に合わせた	
完全な			用具を把握するアセス	
困難			メント技術	
96-				
100	1.2 手指や手, 腕を使	1.2.1 アセスメント	1.2.2.1 手指と手や腕	
%	って引くことができ	を行い,本人の状態に	を使って物を引く人の	
	る物理的環境(地理・	合わせて,手指と手を	心身の状況に合わせた	
	気候・災害・光・音・	使って物を引く環境	環境整備ができる技術	
	振動・空気)を把握	を整えることができ		
	(e210(e225)(e2	る		
	30)			
	一の評困しの軽困52中の25 重困59 完困9100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	の共通 評価点環境因子 要接の る物品の素材や種類, 重量を把握 (e110)(e115)中等度 の困難 25- 49%(e130)(e135)(e14)重度の 困難 50- 95% 完全な 困難 96- 100 %1.2 手指や手,腕を使 って引くことができる物理的環境(地理・気候・災害・光・音・振動・空気)を把握 (e210(e225)(e2	I C F の共通 環境因子 ②①に直接関係する めの具体的介護行動 (介護能力) 配難な し 0-4% 支援を要しない 記入しない 軽度の	ICF の共通 環境因子 ②①に直接関係する 環境因子 ③先の支援を行うた めの具体的介護行動 術・知識 術・知識 (介護能力) ④支援行動に必要な技 術・知識 が・知識 が・知識 が・知識 が・知識 が・知識 が・知識 が・知識 が

(e235) (e240) (e25	1.3.1 手指や手,腕	1.3.1.1 手指と手と腕	
5)	を使って物を引くた	を使って物を引くため	
(e260)	めに必要な慣習や価	の慣習や価値観を把握	
	値観を確認できる	するアセスメント技術	
		1.3.1.2 上記の情報を	
1.3 手指や手, 腕を使		探す技術	
ってドアやシルバー			
カーなどの物を引く	1.3.2 手指と手, 腕を	1.3.2.1 慣習や価値観	
環境の社会的風土を	使って物を引くため	を把握し,物品を提供	
把握(e465)	の慣習や価値観に対	する技術	
	応した物品を提供で		
	きる		

d4451 押すこと pushing

ある動物を押しのける時のように、手指や手、腕を使って、物を自分から遠ざける方向に動かしたり、ある場所から他の場所へと動かすこと。

	2771.0 2 10		,		
①人として具	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うため	●支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
1.手指や手,腕	困難	物品の素材や種類,重	行い, 本人の状態に合	に即した物品や種	
を使って物を	5-	量を把握	わせた物品の素材や種	類の知識・情報	
遠ざけること	24%	(e110) (e115)	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報	
ができる	中等度	(e130) (e135)	る	を探す技術	
	の困難	(e140)	1.1.2 アセスメントを	1.1.1.3 手指や手,	
1-1 物を自分	25-		行い, 本人の状態に合	腕を使って物を遠	
から遠ざける	49%		わせて,遠ざける物の	ざける人の状況と	
ように動かす	重度の		種類を整理することが	環境を把握するア	
ことができる	困難		できる	セスメント技術	
1-2 動物を押	50-			1.1.1.4 手指や手,	
しのけること	95%			腕を使って物を遠	
ができる	完全な			ざける人の心身の	
	困難			状況に合わせた用	
	96-		1.2.1 アセスメントを	具を把握するアセ	
	100%		行い,動物の状態を確	スメント技術	
			認し,押しのけられる		
			ように支援できる	1.2.1.1 動物の種類	
			1.2.2 アセスメントを	や特性の知識・情報	
		1.2 動物の種類や重	行い,物を遠ざけたり,	1.2.1.2 上記の情報	
		量を把握	動物を押しのける人の	を探す技術	
		(e220) (e350)	状況を確認し, 支援で	1.2.1.2 動物を押し	
			きる	のける人の環境を	

把握するアセスメ ント技術 1.2.1.3 手指や手, 1.3.1 アセスメントを 腕を使って動物を 行い,本人の状態に合 | 押しのける心身の わせて, 手指と手, 腕を 状況に合わせた用 使って物を遠ざける環 具を把握するアセ 境を整えることができ スメント技術 1.3.2 アセスメントを 1311 手指と手。 行い、本人の状態に合 腕を使って物を遠 13 手指や手、腕を使 わせて、動物を押しの ざける人の心身の って物を遠ざけたり、 ける環境を整えること 状況に合わせた環 動物を押しのけること ができる 境整備ができる技 ができる物理的環境 1.4.1 手指と手,腕を (地理・気候・災害・ 使って物を遠ざけるた 1.3.2.1 手指と手, 光・音・振動・空気)を めに必要な慣習や価値 腕を使って動物押 把握 観を確認できる しのける人の心身 の状況に合わせた (e210(e225)(e23 1.4.2 手指と手, 腕を 環境整備ができる O使って物を押しのける (e235) (e240) (e25 技術 ための慣習や価値観に 5) (e260) 対応した物品を提供で 1.4.1.1 手指と手, 腕を使って物を遠 きる ざけるための慣習 1.5.1 手指と手, 腕を や価値観を把握す るアセスメント技 使って動物を押しのけ 1.4 手指や手、腕を使 るために必要な慣習や 1.4.1.2 上記の情 って物を遠ざける環境 価値観を確認できる の社会的風土を把握 1.5.2 手指と手, 腕を 報を探す技術 (e465) 1.4.2.1 慣習や価 使って動物を押しのけ る慣習や価値観に対応 値観を把握し, 物品 した物品を提供できる を提供する技術 15 手指や手、腕を使 1.5.1.1 手指と手を って動物を押しのける 使って動物を押し 環境の社会的風土を把 のけるための慣習 握(e465) や価値観に対応し た物品準備のため に,家族や関係者と の調整・連携する技 術 1.5.2.1 慣習や価値 観を把握し, 物品を 提供する技術

d4452 手を伸ばすこと reaching

本を取ろうとテーブルや机の向こう側へ手を伸ばすように、手と腕を使って、物の方に伸ばしたり、触ったり、握ったりすること。

		こりすること。 	T	Т	
①人として具	ICF	②①に直接関係する環	3先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.手と腕を使	軽度の	1.1 日常生活における物	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状態	
って物に触れ	困難	品の素材や種類, 重量,	を行い,本人の状態に	に即した物品や種	
たり握ったり	5-	を把握	合わせた物品の素材	類の知識・情報	
することがで	24%	(e110) (e115) (e130)	や種類を整えること	1.1.1.2 上記の情報	
きる	中等度	(e135) (e140)	ができる	を探す技術	
	の困難				
1-1 物,人や動	25-	1.2 触ったり握ったり	1.2.1 アセスメント	1.2.1.1 手を伸ばす	
物の方に手を	49%	する人の体型や重量を	を行い,手を伸ばす相	相手の心身の状況	
伸ばすことが	重度の	把握	手の状況を確認し,手	の知識・情報	
できる	困難	(*環境要素に該当なし,	を伸ばす、触る、握る	1.2.1.2 上記の情報	
1-2 物や人, 動	50-	b神経筋骨格と運動に関	ことができるように	を探す技術	
物に触ること	95%	する機能,s 運動に関連	支援できる		
ができる	完全な	・ した構造)		1.3.1.1 動物の種類	
1-3 手を伸ば	困難			や特性の知識・情報	
し,物や人,動	96-	1.3動物の種類や重量を	1.3.1 アセスメント	1.3.1.2 上記の情報	
物を握ること	100%	 把握	を行い,動物の状態を	を探す技術	
ができる	, .	(e220) (e350)	確認し,手を伸ばす,		
			触る、握ることができ	1.4.1.1 手を伸ばす	
			るように支援できる	対象の状況と環境	
				を把握するアセス	
		1.4 手を伸ばす物理的環	1.4.1 アセスメント	メント技術	
		境(地理・気候・災害・	を行い,本人の状態に	1.4.1.2 手を伸ばす	
		光・音・振動・空気)を把	合わせて,手を伸ばす	人の心身の状況に	
		_ 	環境を整えることが	合わせた用具を把	
		(e210(e225)(e230)	できる	握するアセスメン	
		(e235) (e240) (e255)		ト技術	
		(e260)		1.4.1.3 手を伸ばす	
				人の心身の状況に	
				合わせた環境整備	
				ができる技術	
				1.5.1.1 物品, 人や	
				動物に手を伸ばす	
				ための慣習や価値	
				観を把握するアセ	
		1.5手を伸ばそうとする	1.5.1 物品, 人や動物	スメント技術	
		環境の社会的風土を把	に手を伸ばすために	1.5.1.2 上記の情報	
		握(e465)		を探す技術	
L	1	1	l		ı l

	必要な慣習や価値観		
	を確認できる	1.5.2.1 慣習や価値	
		観を把握し, 物品を	
		提供する技術	
		1.5.2.2 手を伸ばす	
		ための慣習や価値	
	1.5.2 物品, 人や動物	観に対応した物品	
	に手を伸ばすための	準備のために, 家族	
	慣習や価値観に対応	や関係者との調整・	
	した物品を提供でき	連携する技術	
	る		

d4453 手や腕を回しひねること turning or twisting the hands or arms

道具や用具を使うために必要な手の動きのように、手指や手、腕を使って、物を回転させたり、回したり、曲げたりすること。

					, ,
①人として具	ICF	②①に直接関係する	3先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	環境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 手や腕を使	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
って回しひね	困難	物品の素材や種類,重	行い, 本人の状態に合	に即した物品や種	
ることができ	5-	量,を把握	わせた物品の素材や種	類の知識・情報	
る	24%	(e110) (e115) (e13	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報	
	中等度	O)	る	を探す技術	
1-1 瓶や缶の	の困難	(e135) (e140)	1.1.2 アセスメントを	1.1.1.3 手や腕を	
ふたをひねっ	25-		行い,手や腕を使って,	使って物をひねる	
て開けること	49%		物をひねる人の状況を	人の状況と環境を	
ができる	重度の		確認し,支援できる	把握するアセスメ	
1-2 蛇口のレ	困難			ント技術	
バー等を左右	50-			1.1.1.4 手や腕を使	
に動かすこと	95%			って物をひねる人	
ができる	完全な			の心身の状況に合	
	困難			わせた用具を把握	
	96-			するアセスメント	
	100%			技術	
		1.2 手指や手,腕を使	1.2.1 アセスメントを	1.2.2.1 手や腕を使	
		って回しひねる物理	行い、本人の状態に合	って物をひねる心	
		的環境(地理・気候・	わせて,手や腕使って	身の状況に合わせ	
		災害・光・音・振動・	物をひねる環境を整え	た環境整備ができ	
		空気)を把握	ることができる	る技術	
		(e210(e225)			

(e230) (e235) (e240) (e255) (e260)			
1.3 手, 腕を使って瓶 や缶のふた, 蛇口のレ バーなどをひねる環 境の社会的風土を把 握(e465)	1.3.1 手や腕を使って物をひねるために必要な慣習や価値観を確認できる 1.3.2 手や腕を使って物をひねるための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	1.3.1.1 手と腕を使って物をひねるための慣習や価値観を把握するアセスメント技術 1.3.1.2 上記の情報を探す技術 1.3.2.1 慣習や価値観を把握し、物品を提供する技術	

d4454 投げること throwing

ボールを投げることのように、手指や手、腕を使って、物を持ち上げ、力を加えて空中に放ること。

°					
①人として具	ICF	②①に直接関係する	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
体的行動(行動	の共通	環境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 手指や手,腕	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
を使って物を	困難	物品の素材や種類,重	行い、本人の状態に合	に即した物品や種	
投げることが	5-	量,を把握	わせた物品の素材や種	類の知識・情報	
できる	24%	(e110) (e115) (e13	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報	
1-1 物を持ち	中等度	O)	る	を探す技術	
上げ遠くに投	の困難	(e135) (e140)	1.1.2 アセスメントを	1.1.1.3 手指と手	
げることがで	25-		行い, 手指や手や腕を	や腕を使って物を	
きる	49%		使って、物を投げる人	投げる人の状況と	
	重度の		の状況を確認し,支援	環境を把握するア	
	困難		できる	セスメント技術	
	50-			1.1.1.4 手指と手や	
	95%			腕を使って物を投	
	完全な			げる人の心身の状	
	困難			況に合わせた用具	
	96-			を把握するアセス	
	100%			メント技術	
		1.2 手指や手,腕を使	1.2.1 アセスメントを	1.2.2.手指と手や	
		って物を投げること	行い、本人の状態に合	腕を使って物を投	

ができる物理的環境	わせて,手指と手を使	げる人の心身の状	
(地理・気候・災害・	って物を投げる環境を	況に合わせた環境	
光・音・振動・空気)を	整えることができる	整備ができる技術	
把握			
(e210(e225)			
(e230)			
(e235) (e240)			
(e255) (e260)			
1.3 手指や手,腕を使	1.3.1 手指や手, 腕を	1.3.1.1 手指と手と	
って物を投げる環境	使って物を投げるため	腕を使って物を投	
の社会的風土を把握	に必要な慣習や価値観	げるための慣習や	
(e465)	を確認できる	価値観を把握する	
		アセスメント技術	
	1.3.2 手指と手, 腕を	1.3.1.2 上記の情報	
	使って物を投げるため	を探す技術	
	の慣習や価値観に対応	1.3.2.1 慣習や価値	
	した物品を提供できる	観を把握し,物品を	
		提供する技術	

d4455 つかまえること catching

ボールを受け取ることのように、手指や手、腕を使って、動いている物をつかまえたり、止めたり、把持すること。

①人として具体的行動(行動	ICF の共通	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要 な技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 手指や手,	軽度の	1.1 日常生活における	1.1.1 アセスメントを	1.1.1.1 心身の状態	
腕を使ってつ	困難	物品の素材や種類,重	行い、本人の状態に合	に即した物品や種	
かまえること	5-	量,を把握	わせた物品の素材や種	類の知識・情報	
ができる	24%	(e110) (e115) (e130	類を整えることができ	1.1.1.2 上記の情報	
1-1 動いてい	中等度)	る。	を探す技術	
る物をつかま	の困難	(e135) (e140)			
えることがで	25-				
きる	49%	1.2 抱きしめる人体の	1.2.1 アセスメントを	1.2.1.1 抱きしめ	
1-2 動いてい	重度の	体型や重量を把握	行い,つかまえる人の	る人の心身の状況	
る物を止める	困難	(*環境要素に該当な	状況を確認し, 抱きし	の知識・情報	
ことができる	50-	し, b 神経筋骨格と運	められるように支援で	1.2.1.2 上記の情報	
1-3 人を抱き	95%	動に関する機能,s運動	きる	を探す技術	
しめることが	完全な	に関連した構造)			
できる	困難		1.2.2 アセスメントを	1.2.2.1 動いている	
	96-		行い,動いている物の	物の種類や特性の	
	100%		状態を確認し,つかま	知識•情報	

	えられるように支援で きる	1.2.2.2 上記の情報を探す技術
1.3 手指や手や腕を使ってかまえる物理的環境(地理・気候・災害・光・音・振動・空気)を把握(e210(e225)(e230)(e235)(e240)(e255)(e260)	行い, 本人の状態に合 わせて, つかまえられ	対象の状況と環境 を把握するアセス
1.4 つかまえようとする環境の社会的風土を 把握(e465)	1.4.1 物品, 人をつかまえられるために必要な慣習や価値観を確認できる	
	1.4.2 物品, 人をつかまえられるための慣習や価値観に対応した物品を提供できる	1.4.2.1 慣習や価値 観を把握し,物品を 提供する技術 1.4.2.2 物品をつか まえたり,人を抱き しめるための慣習 や価値観に対応した物品準備のために,家族や関係者と の調整・連携する技 術

歩行と移動 walking and moving (d450-d469)

d450 歩行 walking

常に片方の足が地面についた状態で、一歩一歩、足を動かすこと。例えば、散歩、ぶらぶら歩き、前後左右への歩行。含まれるもの:短距離あるいは長距離の歩行、さまざまな地面あるいは床面上の歩行、 障害物を避けての歩行。 除かれるもの:乗り移り(移乗)(d420)、移動(d455)。

d4500 短距離歩行 walking short distances

1キロメートル未満の歩行。例えば、部屋や廊下、建物の中、屋外の短距離の歩行。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点) OPKPENT	(介護能力)	אַטוטא נויין אָנ	
	困難な			=======================================	
		支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 足を動かし歩	軽度の	1.1 靴などの日常	1.1.1 対象者の歩行	1.1.1.1 下肢の構造	
行ができる	困難	生活における個人	機能・取り巻く環境に	(S750)、体幹の構	
	5-	用の生産品と用具	ついてのアセスメン	造(S760)筋骨格構	
1-1 左右のかかと	24%	(e115)	トができる	造(S770)の知識。	
を交互に接地面か	中等度				
ら挙げ、接地する	の困難		1.1.2 対象者の歩行	1.1.1.2 対象者の歩	
ことができ	25-		機能と環境に応じた	 行機能・取り巻く環境	
	49%		 歩行支援ができる	についてのアセスメ	
	重度の			 ントができる知識。	
1-2膝の曲げ伸ば	困難				
しができる	50-			 1.1.1.3 対象者の歩	
	95%			行機能・取り巻く環境	
 1-3身体のバラン				についてのアセスメ	
スが保てる	完全な			とういてのアピスス ントができる技術。	
くらずへの	困難			フェル、ての対対側。	
	96-				
	100%			1.1.1.4 歩行の支障	
				となる障害に関する	
				知識。	

d 4501 長距離歩行 walking long distances

1キロメートル以上の歩行。例えば、村内あるいは町内の歩行、村から村への歩行、広々とした土地での歩行。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.足を動かし歩行	軽度の	1.1 靴などの日常	1.1.1 対象者の歩行	1.1.1.1 下肢の構造	
ができる	困難	生活における個人	機能・取り巻く環境に	(S750)、体幹の構	
	5-	用の生産品と用具	ついてのアセスメン	造(S760)筋骨格構	
1-1 左右のかかと	24%	(e115)	トができる	造(S770)の知識	
を交互に接地面か	中等度		1.1.2 対象者の歩行		
ら挙げ、接地する	の困難		機能と環境に応じた	1.1.1.2 対象者の歩	
ことができる	25-		歩行支援ができる	行機能・取り巻く環境	
	49%				

	重度の		についてのアセスメ	
1-2 膝の曲げ伸	困難		ントができる知識	
ばしができる	50-			
	95%		1.1.1.3 対象者の歩	
1-3 身体のバラ	完全な		行機能・取り巻く環境	
ンスが保てる	困難		についてのアセスメ	
	96-		ントができる技術	
	100%			
			1.1.1.4 歩行の支障	
			となる障害に関する	
			知識	

d4502 さまざまな地面や床面上の歩行 walking on different surfaces

傾斜したり、凹凸があったり、あるいは動く床面での歩行。例えば、草の上、砂利、氷、雪の上での歩行。船、電車、その他の乗り物の上または中での歩行。

	ı			T	
①人として具体的	ICF	② ①に直接関係す	3先の支援を行う	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	る環境因子	ための具体的介護	技術・知識	考
因子)	評価点		行動(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.傾斜 • 凹凸 •	軽度の	1.1 靴などの日常生	1.1.1, 1.2.1	1.1.1.1, 1.2.1.1	
雪・凍結の地面、乗	困難	活における個人用の	1.3.1, 1.4.1	1.3.1.1, 1.4.1.1	
り物なのどの振動	5-	生産品と用具	対象者の歩行機能・	下肢の構造(S750)、	
のある地面を歩行	24%	(e115)	取り巻く環境につ	体幹の構造(S760)	
できる	中等度		いてのアセスメン	筋骨格構造(S770)	
	の困難	1.2 歩道の整備や凹	トができる	の知識	
1-1 左右のかかと	25-	凸の解消、場所の表示			
を交互に接地面か	49%	など都市の土地開発	1.1.2, 1.2.2	1.1.1.2, 1.2.1.2	
ら挙げ、接地する	重度の	関連 (e160)	1.3.2, 1.4.2	1.3.1.2, 1.4.1.2	
ことができる	困難		地面・床面上の環境	対象者の歩行機能・取	
1-2膝の曲げ伸ば	50-	1.3 雨、雪、強風など	に応じた歩行支援	り巻く環境について	
しができる	95%	の気候(e225)	ができる	のアセスメントがで	
1-3 重心を前後	完全な			きる知識	
に置くことができ	困難	1.4			
る	96-	光の強度や質		1.1.1.3, 1.2.1.3	
1-4歩幅を調整で	100%	(e240)		1.3.1.3, 1.4.1.3	
きる	, •			 対象者の歩行機能・取	
				り巻く環境について	
1 傾斜の地面を歩				のアセスメントがで	
行できる				きる技術	
2 凹凸の地面を歩					
行できる				1.1.1.4 , 1.2.1.4	
3 雪の地面を歩行				1.3.1.4, 1.4.1.4	
できる					
1	ı			I	

4 凍った地面を歩		さまざまな地面や床	
行できる		面上の歩行の行動に	
5 乗り物なのどの		支障をきたす障害の	
振動のある地面を		知識	
歩行できる			
		1.1.1.5 , 1.2.1.5	
		1.3.1.5, 1.4.1.5	
		さまざまな地面や床	
		面上の歩行支援技術	

d 4503 障害物を避けての歩行 walking around obstacles

動いていたり静止している物、人、動物、乗り物などを避けるために必要な歩行。例えば、市場あるいは店の中での歩行。交通渋滞やその他の混雑した場所での歩行。

Γ	1	1	リル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・		する環境	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点	因子	(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の	1.1 公共の建物の	1.1.1 1.2.1 1.3.1 対	1.1.1.1 , 1.2.1.1	
1.動いていたり静	困難	設計・の生産品	象者の歩行・身体機	1.3.1.1 下肢の構造	
止している物や人	5-	(e150)	能、取り巻く環境につ	(S750)、体幹の構	
を避けてぶつから	24%		いてのアセスメント	造(S760)	
ずに歩行できる	中等度	1.2 光の強度や質	ができる	筋骨格構造(S770)	
	の困難	(e240)		の知識	
1-1 左右のかかと	25-		1.1.2 1.2.2 1.3.2障		
を交互に接地面か	49%	1.3 雨、雪、強風、	害物を避けるための	1.1.1.2 , 1.2.1.2	
ら挙げ、接地する	重度の	気圧、気温などの気	歩行支援ができる	1.3.1.2 対象者の歩	
ことができる	困難	候(e225)		行機能・取り巻く環境	
	50-			についてのアセスメ	
1-2膝の曲げ伸ば	95%			ントができる知識	
しができる	完全な				
	困難			1.1.1.3 , 1.2.1.3	
1-3立ち止まるこ	96-			1.3.1.3 対象者の歩	
とができる	100%			行機能・取り巻く環境	
				についてのアセスメ	
1-4身体の向きを				ントができる技術	
変えることができ					
る				1.1.1.4 , 1.2.1.4	
				1.3.1.4 障害物を避	
				けて歩行するための	
				行動に支障をきたす	
				障害の知識	

d455 移動 moving around

歩行以外の方法によって、ある場所から別の場所へと身体全体を移動させること。 例えば、岩を登る、通りを駆ける、スキップする、疾走する、跳ぶ、とんぼ返りする、 障害物の周囲を走り回る。含まれるもの:這うこと、登り降りすること、走ること、ジョギングすること、跳ぶこと、水泳。除かれるもの:乗り移り(移乗)(d420)、歩行(d450)。

d4550 這うこと crawling

手や腕、それと膝を使って、うつぶせのままで身体全体をある場所から別の場所へと移動させること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.手や腕、膝を使	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 対象者の身体機	1.1.1.1 , 1.1.2.1	
って、うつ伏せ又	困難	ける個人用の生産	能、取り巻く環境につ	1.1.3.1 下肢の構造	
は四つん這いの姿	5-	品と用具 (e115)	いてのアセスメントが	(S750)、体幹の構	
勢で移動できる	24%		できる	造(S760) 筋骨格	
	中等度			構造 (S770) の知識	
1-1 うつ伏せ又は	の困難		1.1.2 這って移動する		
四つん這いの姿勢	25-		ための環境整備の支援	1.1.1.2, 1.1.2.2	
ができる	49%		ができる	1.1.3.2 対象者の身	
	重度の			体機能・取り巻く環境	
1-2 手•足(膝)	困難		1.1.3 這って移動する	についてのアセスメ	
を床面につけるこ	50-		ための支援ができる	ントができる知識	
とができる	95%				
	完全な			1.1.1.3 , 1.1.2.3	
1-3 手•足(膝)	困難			1.1.3.3 対象者の身	
を前後に動かすこ	96-			体機能・取り巻く環境	
とができる	100%			についてのアセスメ	
				ントができる技術	
				1.1.1.4 , 1.1.2.4	
				1.1.3.4 這うこと又	
				は四つん這いになる	
				ことの支障となる障	
				害に関する知識	

d4551 登り降りすること climbing

段,岩,梯子,階段,舗道の縁石などの床面やその他の物の上で,身体全体を上方あるいは下 方へと移動させること。

1 1 1 7 P H 45	ICF		のよの士揺ちぐことは	企 士控に動い、必要な	ı±
①人として具体的		② ①に直接関係	3先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.手足を使って身	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 1.2.1 1.3.1 対	1.1.1.2 , 1.2.1.1	
体全体を上方・下	困難	ける個人用の生産	象者の身体機能、取り	1.3.1.1 下肢の構造	
方に移動させるこ	5-	品と用具 (e115)	巻く環境についてのア	(S750)、体幹の構	
とができる。	24%		セスメントができる。	造(S760)	
	中等度	1.2 都市の土地開		筋骨格構造(S770)	
1-1 足で踏ん張る	の困難	発関連(e160)	1.1.2 1.2.2 1.3.2 登	の知識。	
ことができる。	25-		り降りのための環境整		
	49%	1.3 雨、雪、強風	備の支援ができる。	1.1.1.2 , 1.2.1.1	
1-2 膝の曲げ伸	重度の	などの気候		1.3.1.1 , 1.1.2.1	
ばしができる。	困難	(e225)	1.1.3 1.2.3 1.3.3 登	1.2.2.1, 1.3.2.1	
	50-		り降りのための支援が	 対象者の身体機能・取	
1-3 体幹•下肢	95%		できる。	り巻く環境について	
の重心を変えるこ	完全な			のアセスメントがで	
とができる。	困難			きる知識。	
	96-				
1-4 身体の向き	100%			1.1.1.3 , 1.2.1.2	
を変えることがで	10070			1.3.1.2 , 1.1.2.2	
きる。				1.2.2.2, 1.3.2.2	
1-5 手で手すり				対象者の身体機能・取	
等をつかむことが				り巻く環境について	
できる。				のアセスメントがで	
C C 0°				」のグピススファかて 」きる技術。	
				1.1.1.4 , 1.2.1.3	
				1.3.1.3 , 1.1.2.3	
				1.2.2.3 , 1.3.2.3 登	
				り降りの支障となる	
				障害に関する知識	
				1.1.3.1 , 1.2.3.1	
				1.3.3.1 登り降りを	
				支援するための技術	

d4552 走ること running

両方の足が同時に地面から離れている時がある素早い足どりで移動すること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術•知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				

	0 40′			
_	0-4%			
1.素早く足で地面	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 1.2.1 1.3.1 対	
を後ろに蹴りなが	困難	ける個人用の生産	象者の身体機能、取り	
ら交互に下肢を前	5-	品と用具 (e115)	巻く環境についてのア	
に出しながら移動	24%		セスメントができる	造(S750)、体幹
できる	中等度	1.2 都市の土地開		の構造(S760)
	の困難	発関連(e160)	1.1.2 1.2.2 1.3.2 走	筋骨格構造(S770)
1-1 太ももを挙	25-		るための環境整備の支	の知識
げることができる	49%	1.3 雨、雪、強風	援ができる	
	重度の	などの気候		1.1.1.2 1.2.1.2
1-2手を前後に振	困難	(e225)	1.1.3 1.2.3 1.3.3 走	1.3.1.2 対象者の身
ることができる	50-		るための支援ができる	体機能、取り巻く環境
	95%			についてのアセスメ
1-3 体幹•下肢	完全な			ントができる知識
の重心を変えるこ	困難			
とができる	96-			1.1.1.3 1.2.1.3
	100%			1.3.1.3 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる技術
				1.1.1.4 1.2.1.4
				1.3.1.4 走ることの
				支障となる障害に関
				する知識
				1,1,2,1 1,2,2,1
				1.3.2.1 1.1.3.1
				1.2.3.1 1.3.3.1 走
				1.2.3.1 1.3.3.1 足
				めの技術
				נווין אַנעטעאַ

d4553 跳ぶこと jumping

両足を曲げて伸ばすことによって地面から離れ、上方に動くこと。例えば、 片足でのジャンプ、 ホップ、 スキップ、 水中へのジャンプや飛び込み。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.両足の曲げ伸ば	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 1.2.1 1.3.1 対	1.1.1.1 1.2.1.1	
しをしながら地面	困難	ける個人用の生産	象者の身体機能、取り	1.3.1.1 上肢の構造	
から離れ、上方に	5-	品と用具 (e115)	巻く環境についてのア	(S730)下肢の構	
	24%		セスメントができる	造 (S750)、体幹	

		T		
動きながら起動で	中等度	1.2 都市の土地開		の構造(S760)筋
きる	の困難	発関連(e160)	1.1.2 1.2.2 1.3.2 跳	骨格構造(S770)
	25-		ぶための環境整備の支	の知識
1-1 両足を曲げる	49%	1.3 雨、雪、強風	援ができる	
ことができる	重度の	などの気候		1.1.1.2 1.2.1.2
	困難	(e225)	1.1.3 1.2.3 1.3.3 跳	1.3.1.2 対象者の身
1-2カを入れて飛	50-		ぶための支援ができる	体機能、取り巻く環境
ぶことができる	95%			についてのアセスメ
	完全な			ントができる知識
1-3瞬発力を操作	困難			
できる	96-			1.1.1.3 1.2.1.3
	100%			1.3.1.3 対象者の身
1-4片足ずつ意識				体機能、取り巻く環境
的に動かせる				についてのアセスメ
				ントができる技術
1-5両手を前後に				
動かすことができ				1.1.1.4 1.2.1.4
る				1.3.1.4 跳ぶことの
				支障となる障害に関
				する知識
				1.1.2.1 1.2.2.1
				1.3.2.1 1.1.3.1
				1.2.3.1 1.3.3.1 跳
				ぶことを支援するた
				めの技術

d4554 水泳 swimming

身体を水底につけない状態で、手足や全身の動きにより、水中を進めること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.手足や全身の動	軽度の	1.1 文化・レクリ	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1.1 1.2.1.1	
きにより, 水中を	困難	エーション・スポ	対象者の身体機能、取	1.3.1.1 頭頚部の構	
進める	5-	ーツ用の生産品	り巻く環境についての	造(s710)肩部の構造	
	24%	(e140)	アセスメントができ	(s720)上肢の構造	
1-1 顔を上げて息	中等度		る。	(S730)下肢の構	
継ぎができる	の困難	1.2 泳ぐことがで		造 (S750)、体幹	
	25-	きる公共の建物の		の構造(S760)	
1-2潜ることがで	49%	設計の生産品(e	1.1.2 1.2.2 1.3.2	筋骨格構造(S770)	
きる	重度の	150)	泳ぐための支援ができ	の知識	
	困難		る		

10 Let Tet	EO	10 f # # #	110 100 100	4404 4004
1-3 上肢・下肢を	50-	1.3 自然地理	1.1.3 1.2.3 1.3.3	1.1.3.1 1.2.3.1
動かすことができ	95%	(e210)	身体機能に合わせた文	1.3.3.1 文化・レクリ
る	完全な		化・レクリエーション・	エーション・スポーツ
	困難		スポーツ用の生産品	用の生産品(e140)
	96-		(e140) を選択でき	に関する知識
	100%		る	
				1,1,1,2 1,2,1,2
				1.3.1.2 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる知識
				ノドル くるる知識
				4440 4040
				1.1.1.3 1.2.1.3
				1.3.1.3 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる技術
				1.1.1.4 1.2.1.4
				1.3.1.4 泳ぐことの
				支障となる障害に関
				する知識
				1,1,2,1 1,2,2,1
				1,3,2,1
				i.o.z.
				ための技術
				ノこととというなりと

d460 さまざまな場所での移動 moving around in different locations

さまざまな場所や状況での歩行や移動。例えば、家の中の部屋から部屋への歩行。屋内での歩 行。街路を歩くこと。含まれるもの:自宅内での移動、自宅以外の屋内移動、屋外の移動。

d4600 自宅内の移動 moving around within the home

自宅内, 部屋の中, 部屋から部屋へ, また住宅あるいはアパート・マンション等の周囲における歩行や移動。含まれるもの:別の階への移動。バルコニー, 中庭, ポーチ, 庭園での移動。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術•知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.歩行で自宅内の	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1 .1 1.2.1.1	
移動ができる	困難	ける個人用の生産	対象者の身体機能、取	1.3.1.1 上肢の構造	
	5-	品と用具 (e115)	り巻く環境についての	(S730)下肢の構	
	24%		アセスメントができる	造 (S750)、体幹	

1-1 階段の登り降	中等度	1.2 光の強度や質		の構造(S760)筋
りができる	の困難	(e240)	1.1.2 1.2.2 1.3.2	骨格構造(S770)
	25-		自宅内移動のための環	の知識。
1-2ドアを開閉で	49%	1.3 建物の設計	境整備ができる	
きる	重度の	(e155)		1.1.1.2 1.2.1.2
	困難		1.1.3 1.2.3 1.3.3	1.3.1.2 対象者の身
1-3 歩行ができ	50-		自宅内の移動の支援が	体機能、取り巻く環境
る	95%		できる	についてのアセスメ
	完全な			ントができる知識
	困難			
	96-			1.1.1.3 1.2.1.3
	100%			1.3.1.3 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる技術
				1.1.1.3 1.2.1.3
				1.3.1.3 移動の支障
				となる障害に関する
				知識
				1.1.2.1 1.2.2.1
				1.3.2.1 1.1.3.1
				1.2.3.1 1.3.3.1 自
				1.2.3.1 1.3.3.1 日
				ための技術
	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	/こむフジス UII

d 4601 自宅以外の屋内移動 moving around within buildings other than home

自宅以外の屋内の歩行や移動。例えば、他人の住宅やその他の私的建物、コミュニティ用の私的あるいは公共建物、囲いこまれた区域内での移動。含まれるもの:建物や囲いこまれた区域内のあらゆる部分での移動、すなわち公共あるいは私的な建物の、異なる階の間、内部、外部、周囲での移動。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.歩行で自宅以外	軽度の	1.1 日常生活にお	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1.1 1.2.1.1	
の屋内の移動がで	困難	ける個人用の生産	対象者の身体機能、取	1.3.1.1 上肢の構造	
きる	5-	品と用具 (e115)	り巻く環境についての	(S730)下肢の構	
	24%		アセスメントができる	造 (S750)、体幹	
1-1 階段の登り降	中等度	1.2 光の強度や質		の構造(S760)筋	
りができる	の困難	(e240)	1.1.2 1.2.2 1.3.2		

	O.E.		日内投動のための理技	B枚排件 (C770)
	25-		屋内移動のための環境	骨格構造(S770)
	49%	1.3 建物の設計	整備ができる	の知識
1-2ドアを開閉で	重度の	(e155)		
きる	困難		1.1.3 1.2.3 1.3.3	1.1.1.2 1.2.1.2
	50-		屋内移動の支援ができ	1.3.1.2 対象者の身
1-3エレベーター	95%		る。	体機能、取り巻く環境
の操作ができる	完全な			についてのアセスメ
	困難			ントができる知識
1-4歩行ができる	96-			
	100%			1.1.1.3 1.2.1.3
				1.3.1.3 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる技術
				1.1.1.4 1.2.1.4
				1.3.1.4 移動の支障
				となる障害に関する
				知識
				1.1.3.1 1.2.3.1
				1.3.3.1 自宅以外の
				屋内の移動を支援す
				るための技術
	1			פוון אַניכיסכים זע

d4602 屋外の移動 moving around outside the home and other buildings

自宅や他の建物の近辺,あるいは離れた場所での,公共あるいは私的交通機 関を用いない歩行と移動。例えば、町や村の中を、短距離あるいは長距離歩くこと。含まれるもの:近隣、町、村、市街地の街路の歩行と移動。交通機関を利用しない、都市間あるいは更に長い距離の移動。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.屋外の短距離・	軽度の	1.1 雨、雪、強風	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1.1 1.2.1.1	
長距離を歩行で移	困難	などの気候	対象者の身体機能、取	1.3.1.1 上肢の構造	
動できる	5-	(e225)	り巻く環境についての	(S730)下肢の構	
	24%		アセスメントができる	造 (S750)、体幹の	
1-1 さまざまな地	中等度	1.2 都市の土地開		構造(S760)筋骨	
面の歩行ができる	の困難	発関連(e160)	1.1.2 1.2.2 1.3.2	格構造 (S770) の	
	25-		屋外移動のための環境	知識	
1-2障害物を避け	49%	1.3 靴などの日常	整備ができる		
ることができる	重度の	生活における個人		1.1.1.2 1.2.1.2	
	困難			1.3.1.2 対象者の身	

1-3歩道と車道を	50-	用の生産品	1.1.3 1.2.3 1.3.3	体機能、取り巻く環境
区別して歩行でき	95%	(e115)	屋外移動の支援ができ	についてのアセスメ
	完全な		る	ントができる知識
1-4信号や標識を	困難			
見ることができる	96-			1.1.1.3 1.2.1.3
	100%			1.3.1.3 対象者の身
				体機能、取り巻く環境
				についてのアセスメ
				ントができる技術
				1.1.1.4 1.2.1.4
				1.3.1.4 移動の支障
				となる障害に関する
				知識
				1.1.3.1 1.2.3.1
				1.3.3.1 屋外の移動
				を支援するための技
				術

d465 用具を用いての移動 moving around using equipment

移動を容易にしたり、ふつうと違う移動方法を可能にするように設計された特別な用具を用いて、ある場所から別の場所へとどのような歩行面や空間であろうと、全身を移動させること。例えば、スケート、スキューバダイビング用具などを使っての移動、車椅子や歩行器を使って通りを移動すること。 除かれるもの:乗り移り(移乗)(d420)、歩行(d450)、移動(d455)、交通機関や手段の利用(d470)、運転や操作(d475)。

①人として具体的 行動(行動の要素・	ICF の共通	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.移動に関連する	軽度の	1.1 雨、雪、強風	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1.1 1.2.1.1	
用具を持て移動が	困難	などの気候	1.4.1 対象者の身体機	1.3.1.1 1.4.1.1 上	
できる	5-	(e225)	能、取り巻く環境につ	肢の構造(S730)	
	24%		いてのアセスメントが	下肢の構造	
1-1 移動のための	中等度	1.2 都市の土地開	できる	(S750)、体幹の構	
用具の準備ができ	の困難	発関連(e160)		造(S760)筋骨格	
る	25-		1.1.2 1.2.2 1.3.2	構造(S770)の知	
	49%	1.3 建物の設計	1.4.2 移動と交通のた	識	
1-2移動のための	重度の	(e155)	めの生産品 (e120)	1.1.1.2 1.2.1.2	
用具を用いる(操	困難		を用いた移動の支援が	1.3.1.2 1.4.1.2 対	
作する) ことがで	50-		できる	象者の身体機能、取り	
きる	95%			巻く環境についての	

完全な 困難 96- 100%	1.4 移動と交通の ための生産品 (e120)		アセスメントができ る知識 1.1.1.3 1.2.1.3 1.3.1.3 1.4.1.3 対 象者の身体機能、取り	
		- / · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	巻く環境についての アセスメントができ る技術	
		重	1.1.1.4 1.2.1.4 1.3.1.4 1.4.1.4 移 動と交通のための生 産品 (e120) に関 する知識	
			1.1.2.1 1.2.2.1 1.3.2.1 1.4.2.1 移 動と交通のための生 産品 (e120)を操 作できる技術	
		1 末	1.1.1.5 1.2.1.5 1.3.1.5 1.4.1.5 移動の支障となる障害に関する知識	

<u>交通機関や手段を利用しての移動 moving around using transportation</u> (d470-d489)

d470 交通機関や手段の利用 using transportation

移動のために、乗客として交通機関や手段を用いること。例えば、自動車、バス、人力車、ミニバス、動物、動物の力による乗り物、私的なあるいは公共のタクシー、バス、電車、路面電車、地下鉄、船や飛行機に乗ること。含まれるもの:人力による交通手段の利用。動力つきの私的な交通手段・公共交通機関の利用。除かれるもの:用具を用いての移動(d465)、運転や操作(d475)。

d4700 人力による交通手段の利用 using human-powered vehicles

客として、人力による交通手段を利用して移動すること。例えば、人力車や手こぎ舟に乗ること。

①人として具体的	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点	OFFICE 3	(介護能力)	עטטא פוון אנ	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
		又派と安しない			
	0-4%				
 1.人力による交通	軽度の	1.1 人力による交	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状況	
手段(人力車や手	困難	通手段を提供する	を行い、本人の状態に		
こぎ舟)を使って	5-	会社を把握	合わせた人力による		
移動することがで	24%	(e120)	交通手段を提案でき	1.1.1.2 心身の状態	
きる	中等度	(0120)	る	に即した人力による	
1-1 人力車を使っ	の困難			交通手段の種類の知	
て移動することが	25-			識・情報	
できる	49%			1.1.1.3 上記の情報	
	重度の			を探す技術	
	国難			נוון אָנ פֿ אָניַט	
	50-	1.2 人力による交	 1.2.1 人力による交	1.2.1.2 人力による	
	95%	通手段(人力車)を	通手段を提供でき		
	<u>95%</u> 完全な	提供する会社のサ			
	元主な 困難	一にス内容、サービ	内容なサービスエ		
	96-	スエリアを把握	リアを調べること	交通手段を提供でき	
		(e120) (e210)	ができる	るサービスエリアの	
	100%	(e215)	7,69	知識・情報	
		(ez 10)		1.2.1.4 上記の情報	
				1.2.1.4 上記の情報 を探す技術	
				を採り技術 1.2.1.5 心身の状況	
				に合わせた環境整備	
				ができる技術	

d4701 動力つきの私的交通手段の利用 using private motorized transportation

客として私的な動力つきの交通手段を利用して地上,海上,空中を移動すること。例えば、タクシー,自家用の飛行機・船に乗客として乗ること。

①人として具体的	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.動力付きの私的	軽度の	1.1 私的交通手段	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状況	
交通手段を使って	困難	を提供する会社を	を行い,本人の状態に	を把握するアセスメ	
移動することがで	5-	把握(障害状態に対	合わせた人力による	ント技術	
きる	24%	応した) (e120)	交通手段を提案でき	1.1.1.2 心身の状態	
	中等度		る	に即した私的交通手	
	の困難			段の種類の知識・情報	

1-1 タクシーを使	25-			1.1.1.3 上記の情報	
って移動すること	49%			を探す技術	
ができる	重度の				
1-2船に乗客とし	困難	1.2 私的交通手段	1.2.1 私的交通手段	1.2.1.2 私的交通手	
て移動することが	50-	を提供する会社の	を提供できる会社の	段を提供できる会社	
できる	95%	サービス内容,サー	サービス内容なサー	の知識・情報	
	完全な	ビスエリアを把握	ビスエリアを調べる	1.2.1.3 私的交通手	
	困難	(e120) (e210)	ことができる	段を提供できるサー	
	96-	(e215)		ビスエリアの知識・情	
	100%			報	
				1.2.1.4 上記の情報	
				を探す技術	
				1.2.1.5 心身の状況	
				に合わせた環境整備	
				ができる技術	

d4702 動力つきの公共交通機関の利用 using public motorized transportation

客として公共交通のための動力つきの交通手段を利用して地上,海上,空中を移動すること。 例えば,バス,電車,地下鉄,飛行機に乗客として乗ること。

7372104, 7 174, 4		· W, MIJI版に来合し I	0 () (0 C C)	T	
①人として具体的	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.動力付きの公共	軽度の	1.1 公共交通手段	1.1.1 アセスメント	1.1.1.1 心身の状況	
交通手段(バスや	困難	を提供する会社を	を行い,本人の状態に	を把握するアセスメ	
電車など)を使っ	5-	把握(障害状態に対	合わせた公共交通手	ント技術	
て移動することが	24%	応した) (e120)	段を提案できる	1.1.1.2 心身の状態	
できる	中等度			に即した公共交通手	
1-1 バスを使って	の困難			段の種類の知識・情報	
移動することがで	25-			1.1.1.3 上記の情報	
きる	49%			を探す技術	
1-2電車を使って	重度の				
移動することがで	困難	1.2 公共交通手段	1.2.1 公共交通手段	1.2.1.2 公共交通手	
きる	50-	を提供する会社の	を提供できる会社の	段を提供できる会社	
1-3地下鉄を利用	95%	サービス内容,サー	サービス内容なサー	の知識・情報	
して移動すること	完全な	ビスエリアを把握	ビスエリアを調べる	1.2.1.3 公共交通手	
ができる	困難	(e120)	ことができる	段を提供できるサー	
1-4 飛行機を利用	96-	(e210) (e215)		ビスエリアの知識・情	
して移動すること	100%			報	
ができる				1.2.1.4 上記の情報	
				を探す技術	
	L	ı	ı	1	

		1.2.1.5 心身の状況	
		に合わせた環境整備	
		ができる技術	
		1.3.1.1 家族や関係	
		者との調整・連携する	
		技術	

d475 運転や操作 driving

乗り物もしくは乗り物を引く動物を操作して動かすこと,自分の意志に基づいて移動すること, また自動車,自転車,ボート,動物の引く乗り物といったあらゆる形式 の交通手段を自由に使 うこと。含まれるもの:人力による交通手段,動力つきの交通手段,動物の力による交通手段 の運転や操作。除かれるもの:用具を用いての移動(d465),交通機関や手段の利用(d470)。

d4750 人力による交通手段の操作 driving human-powered transportation

自転車、三輪車、手こぎ舟などの、人力による交通手段を操作すること。

	J CC/0	はこの、人力による	大心」 校 CIXTF y O C (<u> </u>	
①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.上下肢を使って	軽度の	1.移動するために	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1	
乗り物を操作でき	困難	人力で操作する乗	本人により操作でき	乗り物の操作に必要	
る	5-	り物	る乗り物であること	となる心身機能・身	
	24%	自転車(二輪·三輪)·	が確認できる	体構造に関する知識	
2.上肢を使って乗	中等度	手こぎ舟など:		心身機能	
り物を操作できる	の困難	e1200		全般的精神機能:	
	25-			b110-b139	
3.下肢を使って乗	49%	2. 移動するために		個別的精神機能:	
り物を操作できる	重度の	個別に改造・特別設		b140-b189	
	困難	計された人力で操		視覚および関連機	
※乗り物への乗降	50-	作する乗り物		能:b210-b229	
は d420「乗り移	95%	車いす(スタンダー		聴覚と前庭の機能:	
り」参照	完全な	ドタイプ・スポーツ		b230-b249	
	困難	タイプなど)、三輪		痛み:b280	
	96-	自転車など:		関節と骨の機能	
	100%	e1201		b710-b729	
				 筋の機能:b730-	
		3. 交通ルールなど		b749	
		交通サービスに関		 運動機能:b750-	
		する制度:e540		b789	
				身体構造	
L	l .			l	

運動に関連した構
造:s710-s770
※麻痺の種類(単麻
痺·片麻痺·対麻痺)と
心身機能の違い
1.1.2、2.1.2
人力により操作する
乗り物(自転車、手
こぎ舟、車いすな
ど)に関する知識
1.1.3、2.1.3
乗り物の操作に関す
る知識
3.1.1 交通ルールな
どに関する知識
1.1.4、2.1.4、
3.1.2 乗り物を操作
しての移動に必要な
心身状況を把握する
ためのアセスメント
技術
1.1.5、2.1.5、
3.1.3 アセスメント
より得られた情報か
ら乗り物を操作して
の移動のしづらさの
原因・課題を整理する
ための知識
1.2、2.2、3.2 1.2.1、2.2.1
乗り物への乗車、操 乗り物の操作を支援
作が安全に行えるよ する技術
うに支援ができる 1.2.2、2.2.2、
3.2.1 乗り物の操作
に伴う交通ルール、
マナーの指導技術
1.3 、2.3 1.3.1、2.3.1 乗り物
乗り物の保管・管理、 の保管・管理、メンテ
メンテナンスができ ナンスに関する知識
る 1.4.2、2.4.2乗り物
のメンテナンスに関
する技術

d4751 動力つきの交通手段の運転 driving motorized vehicles

自動車、オートバイ、モーターボート、飛行機などの、動力つきの交通手段を運転すること。

	1	T	るとの、動力フロの文庫		1#
①人として具体的	I C F	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・		する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)	.v.=+1.	
	困難な		支援を要しない	必要ない	
	U				
	0-4%				
1.上下肢を使って	軽度の	1.動物の力を操作	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1	
乗り物を操作でき	困難	し、移動するため	本人が操作できる動	動物の力による乗り	
る	5-	の乗り物	物の力による乗り物	物の操作に必要とな	
	24%	荷馬車・馬車など:	であることが確認で	る心身機能・身体構	
2.上肢を使って乗	中等度	e1200	きる	造に関する知識	
り物を操作できる	の困難			心身機能	
	25-	2.個別に改造・特別		全般的精神機能:	
3.下肢を使って乗	49%	設計された車体を		b110-b139	
り物の操作ができ	重度の	付けた動物の力に		個別的精神機能:	
る	困難	よる乗り物		b140-b189	
	50-	荷馬車・馬車用車い		痛み:b280	
※乗り物への乗降	95%	すなど:e1201		関節と骨の機能:	
は d420「乗り移	完全な			b710-b729	
り」参照	困難	3. 交通ルールなど		筋の機能:b730-	
	96-	交通サービスに関		b749	
	100%	する制度:e540		運動機能:b750-	
				b789	
				身体構造	
				運動に関連した構	
				造:s710-s770	
			1.2、2.2、3.2	※麻痺の種類(単麻	
			動物の力による乗り	痺·片麻痺·対麻痺)と	
			物の操作が安全に行	心身機能・身体構造の	
			えるように支援がで	違い	
			きる	1.1.2、2.1.2	
				動物の力による乗り	
				物(馬車・荷馬車など)	
				に関する知識	
				1.1.3、2.1.3	
				ろ	
				関する知識 3.1.1 交	
				通ルールなどに関す	
				る知識	
				1.1.4、2.1.4、	
				3.1.2 動物の力によ	
			1.3 、2.3	る乗り物を操作して	
			1.3 、 2.3 動物の管理ができる	の移動に必要な心身	
			到初の日任7.60		
				状況を把握するためのアセスメントは流	
				のアセスメント技術	

	1.1.5、2.1.5、
	3.1.3 アセスメント
	より得られた情報か
	ら動物の力による乗
	り物を操作しての移
	動のしづらさの原因・
	課題を整理するため
	の知識
	1.2.1、2.2.1 動物の
	力による乗り物の操
	作を支援する技術
	1,2,2, 2,2,2,
	3.2.1 動物の力によ
	る乗り物の操作に伴
	う交通ルール、マナ
	一の指導技術
	071日会1X1/10
	1 1 1 0 1 1 動物の
	1.4.1、2.4.1 動物の
	管理に関する知識
	1.4.2、2.4.2 動物の
	管理に関する技術

d4752 動物の力による交通手段の操作 driving animal-powered vehicles

荷馬車や馬車などの,動物の力による交通手段を操作すること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の	1.動物の力を操作	1.1、2.1、3.1	1.1.1、2.1.1	
	困難	し、移動するための	本人が操作できる動	動物の力による乗り	
1.上下肢を使って	5-	乗り物	物の力による乗り物	物の操作に必要とな	
乗り物を操作でき	24%	荷馬車·馬車など:	であることが確認で	る心身機能・身体構	
る	中等度	e1200	きる	造に関する知識	
	の困難			心身機能	
2.上肢を使って乗	25-	2.個別に改造・特別		全般的精神機能:	
り物を操作できる	49%	設計された車体を		b110-b139	
	重度の	付けた動物の力に		個別的精神機能:	
3.下肢を使って乗	困難	よる乗り物		b140-b189	
り物の操作ができ	50-	荷馬車・馬車用車い		痛み:b280	
る	95%	すなど:e1201		関節と骨の機能:	
	完全な			b710-b729	
	困難			筋の機能:b730-	
				b749	

	1			
※乗り物への乗降	96-	3. 交通ルールなど		運動機能:b750-
は d420「乗り移	100%	交通サービスに関		b789
り」参照		する制度:e540		身体構造
				運動に関連した構
				造:s710-s770
				※麻痺の種類(単麻
				痺·片麻痺·対麻痺)と
				 心身機能·身体構造の
				違い
				1.1.2、2.1.2
				動物の力による乗り
				物(馬車・荷馬車など)
				に関する知識
				1.1.3, 2.1.3
			10 00 00	各種乗り物の操作に
			1.2、2.2、3.2 1.2、2.5 (3.2)	関する知識 3.1.1 交
			動物の力による乗り	通ルールなどに関す
			物の操作が安全に行	る知識
			えるように支援がで	1.1.4、2.1.4、
			きる	3.1.2 動物の力によ
				る乗り物を操作して
				の移動に必要な心身
				状況を把握するため
				のアセスメント技術
				1.1.5、2.1.5、
			1.3 、2.3	3.1.3 アセスメント
			動物の管理ができる	より得られた情報か
				ら動物の力による乗
				り物を操作しての移
				動のしづらさの原因・
				課題を整理するため
				の知識
				-27.5597
				 1.2.1、2.2.1 動物の
				九による乗り物の操
				作を支援する技術
				1.2.2、2.2.2、
				1.2.2、2.2.2、 3.2.1 動物の力によ
				る乗り物の操作に伴
				う交通ルール、マナ
				一の指導技術
				1.4.1、2.4.1
				動物の管理に関する
				知識
				1.4.2、2.4.2
				動物の管理に関する
				技術

d480 交通手段として動物に乗ること riding animals for transportation

馬, 牛, らくだ, 象などの動物の背中に乗って移動すること。 除かれるもの: 運転や操作(d 475), レクリエーションとレジャー(d920)。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.動物の背中に乗	軽度の	1.1 個人的な移動	1.1.1 1.2.1 1.3.1	1.1.1.1 1.2.1.1	
り、かつ操作しな	困難	と交通のための動	1.4.1 1.5.1	1.3.1.1 1.4.1.1	
がら移動ができる	5-	物 (e350)	対象者の心身の状況	1.5.1.1 対象者の心	
	24%		と動物の背中に乗っ	身の状況と動物の背	
1-1 下肢を上げて	中等度	1.2 雨、雪、強風、	て移動するうえで支	中に乗って移動する	
乗ることができる	の困難	気圧、気温などの気	障を与える屋外環境	うえで支障を与える	
	25-	候(e225)	について把握できる	屋外環境についての	
1-2またがるごと	49%			アセスメント技術。	
ができる	重度の	1.3 光の強度や質	1.1.2 1.2.2		
	困難	(e240)	1.3.2 1.4.2	1.1.1.2 1.2.1.2	
1-3バランスを保	50-		1.5.2 対象者の心身	1.3.1.2 1.4.1.2	
てる	95%	1.4 歩道の整備や	の状況と環境に応じ	1.5.1.2 対象者の心	
	完全な	凹凸の解消、場所の	た動物の背中に乗っ	身の状況と動物の背	
	困難	表示など都市の土	ての移動支援ができ	中に乗って移動する	
	96-	地 開 発 関 連	る	うえで支障を与える	
	100%	(e160)		屋外環境についての	
			1.1.3 1.2.3 1.3.3	アセスメント知識	
		1.5 日常生活にお	1.4.3 1.5.3 対象者		
		ける個人用の生産	の心身の状況と環境	1.1.2.1 1.2.2.1	
		品と用具 (e115)	に応じた動物の背中	1.3.2.1 1.4.2.1	
			に乗っての移動に使	1.5.2.1 対象者の心	
			用する物品を選択で	身の状況と屋外環境	
			きる	(気候を含む)に応	
				じた移動支援技術	
				1.1.2.2,1.2.2.2	
				1.3.2.2,1.4.2.2	
				1.5.2.2 動物の操作	
				に関する知識と技術	
				1.1.3.1,1.2.3.1	
				1.3.3.1,1.4.3.1	
				1.5.3.1 動物の背中	
				に乗っての移動に必	
				要な物品や種類の知	
				製の場合では残りた	
				_ 0- y -0	
	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	

		1.1.1.3 1.2.1.3	
		1.3.1.3 1.4.1.3	
		1.5.1.3 動物に乗る	
		ことへの支障となる	
		障害に関する知識	

本論 15 セルフケア self-care

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 《セルフケア》

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、自分の身体をケアすること、自分の身体を洗って拭き乾かすこと、自分の全身や身体 各部の手入れをすること、更衣をすること、食べること、飲むことなど、自分の健康管理に注意 することを扱う。

- d510 自分の身体を洗うこと washing oneself
- d520 身体各部の手入れ caring for body parts
- d530 排泄 toileting
- d540 更衣 dressing
- d550 食べること eating
- d560 飲むこと drinking

のがセルフケアといえる。

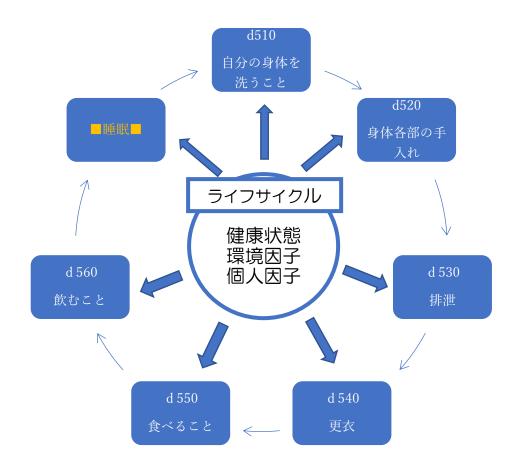
- d570 健康に注意すること looking after one's health
- d598 その他の特定のセルフケア self-care, other specified
- d599 詳細不明のセルフケア self-care, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 《セルフケア》

セルフケアには、生命を維持する上での重要な活動である、排泄、食べること、飲むこと、健康に注意することが含まれている内容となっている。さらに、自分の身体を洗うこと、身体各部の手入れ、更衣は、自立した人が活動と参加をする上でも必要なこととして含まれている。自立している人は、各々のライフステージと生活スタイルにおいて、セルフケアを行い、健康を維持しながら、活動と参加を行えているともいえる。健康を阻害された場合には、諸活動に参加することにも支障をきたすことになる。しかし、一般的に健康である場合には、セルフケアの重要性を意識することは少ないのではないか。健康を阻害された際に、改めてその重要性を感じる

セルフケアにおいて、介護福祉職が「活動と参加」に関する位置づけを考えるにあたり「心身機能・構造」(生物レベル)との関係性を考えることが重要である。その理由として「心身機能・構造」は身体の動き、精神の働き、身体の一部分の構造というレベルを示すものであり「活動」と「参加」を支えている。従って、「心身機能・構造」に制限がある場合には、「介護」を必要とすることになる。自立支援を目指すならば、自立している活動がどのような「心身機能・構造」に支えられているかを理解している必要がある。「活動と参加」における自立支援としては、その「心身機能・構造」に制限がかからないように支援することが必要になる。よって、介護福祉職は「活動と参加」を考えるにあたり「介護を必要とする人」の心身構造・機能に関する知識と支援のための技術を持ち「活動と参加」を考えることで、「介護を必要とする人」の生活を健康で自立した生活支援につなげることができると考える。

セルフケアにおいては、睡眠という生命活動を維持する上での項目が入っていないことは、気になる点である。近年、睡眠の重要性は健康を維持向上する上では欠かせない項目として注目、研究されている内容である、このことが内容として入ることが必要ではないか。



3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 《セルフケア》

セルフケアに関連する環境因子として、まず考えなくてはならないのは物的環境として「生産品と用具」があることがわかった。セルフケアを行う際に、必要な「生産品と用具」は、各々の好みや健康状態、支援の必要性などにより考慮する必要のあるものである。さらに環境因子としては、人的環境、社会的環境が必要となる。これら3つの環境因子は、「自立した状態」「支援が必要な状態」などでは「制度・政策」も関連してくることがわかった。

介護福祉職がセルフケアでの関りを行う上では、個人を取り巻く環境をとらえ、そこから何を、 どのように支援する事が個人にとってより良いものになるのかをアセスメントする能力が重要に なると考える。その意味で、特に生命維持、生活(活動)継続の基本となる「セルフケア」におい ては、環境因子が、支援者とサービスを必要とする人の関係に関して「支援と関係」(環境因子・ 第3章)という章を設けたり、人間関係の中で非常に重要と思われる「態度」(同、第4章)とい うカテゴリーを設けている点については特別に特に注意が必要である。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴

• • 関連する技術と知識の特徴 ≪セルフケア≫

今回の研究では、「自立している人」という視点での行動分析から、「介護が必要な人」の「必要としている介護内容を分析しなおす」という作業をおこなったため、「介護者」が考える「介護が必要な人」という視点での行動分析と違いに気付くことができた。

「介護が必要な人」という前提での行動分析では、相手の生活習慣を見落としてしまうことに もなり得るが、「自立している人」の視点で行動分析をすることによって、セルフケアの一つひと つの動作を把握することができ、「一部自立できない人」の「活動と参加」に対し、具体的に何を どのように支援していけばよいのかを把握することができる。

また、それらが分かるということは、相手の立場に立ち、その人の文化や生活習慣、生き方や 価値観等への理解を深め、より良い個別ケアの実践に繋げることができると考える。

その意味で、それぞれの介護のレベルや内容にかんし、①基礎的知識と技術をふまえ、②根拠を持って、③(予測できない状況を含む)色々な状況に対応できる、事が見えてきたと言える。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪セルフケア≫

d510 自分の身体を洗うこと washing oneself

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、水を使って、全身や身体の一部を洗って拭き乾かすこと。例えば、入浴すること、シャワーを浴びること、手や足、顔、髪を洗うこと、タオルで拭き乾かすこと。含まれるもの:身体の一部や全身を洗うこと。自分の身体を拭き乾かすこと。除かれるもの:身体各部の手入れ(d520)、排泄(d530)。

d5100 身体の一部を洗うこと washing body parts

清潔にする目的で、手や顔、足、髪、爪などの身体の一部に対して、水や石鹸、その他のものを用いること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.水や石鹸で	軽度の	1.1、2.1、3.1、4.1	1.1.1、2.1.1、3.1.1、	1.1.1.1、2.1.1.1、	
手や爪を洗う	困難	適切な湯温設定	4.1.1 適切な湯温を	3.1.1.1、4.1.1.1	
ことができる	5-	(e2250)	調整することができ	皮膚や頭皮に関する	
2.水や石鹸で	24%	1.2、2.2、3.2、4.2	る	知識	
顔を洗うこと	中等度	快適で安全な環境		1.1.1.2、2.1.1.2、	
ができる	の困難	(e298)	1.2.1、2.2.1、3.2.1、	3.1.1.2、4.1.1.2	
	25-	1.3、2.3、3.3、4.3	4.2.1 安全な環境を	1.2.1.1、2.2.1.1、	
	49%		整えることができる	3.2.1.1、4.2.1.1	

		<u></u>	<u></u>		
3.水や石鹸で	重度の	入浴に関する用具(シ		障害や疾病に関する	
足を洗うこと	困難	ャワー、シャワーチェ	1.3.1、2.3.1、3.3.1、	知識	
ができる	50-	ア、手桶、洗面器等)	4.3.1 対象者の身体	1.3.1.1、2.3.1.1、	
4.水や石鹸(シ	95%	(e1150)	状況に応じた適切な	3.3.3.1、4.3.1.1	
ャンプー) で髪	完全な	1.4、2.4、3.4、4.4	入浴用具・福祉用具を	入浴用品、福祉用具に	
を洗うことが	困難	洗身のための好みの	準備することができ	関する知識・技術	
できる	96-	用品(石鹸、ボディシ	る	, 55 57 55X 5X115	
5.シャワー器	100%	ャンプー、シャンプ			
具を扱うこと	10070	ー、リンス、洗顔フォ	1.4.1、2.4.1、3.4.1、	1411. 2411.	
ができる		ーム、洗身用タオル、			
13 600		スポンジ等)	ヤ.キ.ト	洗身用品に関する知	
		(e1150)	用品を準備すること	調	
				o以	
		5.1 洗身用具	ができる	1410 0410	
		(e115)	140040040	1.4.1.2、2.4.1.2、	
			1.4.2、2.4.2、3.4.2、		
			4.4.2	障害・疾病に応じた意	
			両手指や洗身部分の		
			状態を適切にアセス	技術	
			メントすることがで		
			きる	1.4.2.1、2.4.2.1、	
				3.4.2.1、4.4.2.1	
				皮膚疾患(頭皮を含	
			1.4.3、2.4.3、	む)や感染症に関する	
			3.4.3、4.4.3	知識	
			対象者の両手指の残		
			存能力を把握し、活用	1.4.4.2、2.4.4.2、	
			できる	3.4.4.2、4.4.4.2	
				両手指や洗身部分の	
			1.4.4、2.4.4、3.4.4、	状態を適切にアセス	
			4.4.4	メントする技術	
			対象者の手の届かな		
			い部分や洗身できな	1.4.3.1、2.4.3.1、	
			い部分への介助がで	3.4.3.1、4.4.3.1	
			きる	1.4.4.1、2.4.4.1、	
				3.4.4.1、4.4.4.1	
			 5.1.1 シャワー等の	自立支援に基づく洗	
			器具を適切に扱うこ	身介助の知識・技術	
			とができる	10 / 10 - 2 / 10 day 10 lill	
				5.1.1.1	
				3.1.1.1 入浴機器に関する知	
				נוון אַנ * אָם	

d5101 全身を洗うこと washing whole body

清潔にする目的で、全身に対して、水や石鹸、その他のものを用いること。例えば、入浴やシャワー。

	ı	Г		T	
①人として具	ICF	② ①に直接関係	3先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.事前に浴室	軽度の	1.1 適切な湯温設	1.1.1 適切な湯温に調	1.1.1.1、1.2.1.1、	
の安全な環境	困難	定	整することができる	1.3.1.1	
を準備するこ	5-	(e2250)	1.2.1 浴室の室温を適	入浴時のリスクマネ	
とができる。	24%	1.2 浴室の適切な	切な温度に調整するこ	ジメント(ヒートショ	
	中等度	温度設定 (e2250)	とができる	ック、転倒、溺死、火	
2.水や石鹸を	の困難	1.3 快適で安全な	1.3.1 浴室内のリスク	傷、脱水、乾燥、表裏	
用いて全身を	25-	環境 (e298)	(ヒートショック、転	剥離等)に関する知	
洗うことがで	49%	2.1 入浴に関する	 倒、溺死、火傷、脱水、		
きる。	重度の	用具(シャワー、シ	乾燥、表裏剥離等)を回		
	困難	ャワーチェア、手	避する安全な環境を整		
	50-	 桶 、 洗 面 器 等)	えることができる		
	95%	(e1150)			
	完全な	2.2 好みの洗身の	 2.2.1 対象者の身体状		
	困難	ための用具(石鹸、	況に応じた適切な入浴	2.2.1.1 入浴用具、福	
	96-	ボディシャンプー、	用具や福祉用具(シャ	祉用具、特殊浴槽等に	
	100%	シャンプー、リン	ワーチェア等)、特殊浴	関する知識・技術	
	10076	ス、洗顔フォーム、	槽(チェア浴、ストレッ	פויו אני אפונואט ע פאן	
		洗身用タオル、スポ	チャー浴等)を選択し、		
		ンジ等)(e1150)	準備することができる		
		3 3 3 (01100)	+m, 0000, 000		
			2,2,2		
			 対象者の希望に応じた	2221 洗身用品に	
			洗身用品(石鹸、ボディ	関する知識	
			シャンプー、シャンプ		
			一、リンス、洗顔フォー		
			ム、洗身用タオル、スポ		
			ンジ等)を準備するこ	נויו אני אייייט א	
			とができる	 2.2.3.1 プライバシ	
			2.2.3 プライバシーに		
			配慮した洗身介助がで	助の技術	
			記慮したが多り助かで	ריסר ריסר ווין או געיי ווין או <i>ו</i> יע ווי	
			2.2.4 全身状態や皮膚		
			2.2.4 主身状態で及層 の状態を適切にアセス	ククオ1 皮膚疾患 (商	
			メントすることができ	と、と、4、1 反情疾患(頭 皮を含む)や感染症に	
			3	関する知識	
			∂	B9 SNI戦 2.2.4.2 全身状態や	
			 2.2.5 対象者の両手指	2.2.4.2 主身状態や 皮膚の状態を適切に	
			の残存能力を把握し、	アセスメントする知	
			活用できる	識・技術	
			2.2.6 対象者の手の届	0054 0004	
			かない部分や洗身でき	2.2.5.1、2.2.6.1	

	ない部分への介助がで	自立支援に基づく洗	
	きる	身介助の知識・技術	

d5102 身体を拭き乾かすこと drying oneself

洗った後などに、身体の一部や全身を乾かすために、タオルやその他の手段を用いること。

本的行動(行動 の共通 の要素・因子) する環境因子	の ト と 」 て 目	ICF	② ①に直接関係	の生の古塔な行うため	の古塔行動に必要な	備
万要素・因子 評価点 護能力 記入しない コンクマネシメント 記入したい 記入しない	-			_	_	
田敷雄			9 る塚児囚士		投侧 • 知誠 	5
1.9 オルを用 いて身体を拭 1.1 脱衣場の室温 1.1.1 脱衣場の室温調 1.1.1、1.2.1.1 リスクマネジメント (とートショック、転 (とートショック、転 (ヒートショック、転 (ヒートショック、転 (ヒートショック、転 (ヒートショック、転 (ヒートショック、転 (セートショック、転 (型、脱水、乾燥等) に 関する知識・技術 (ロートショック、転 (型、脱水、乾燥等) に 関する知識・技術 (ロートショック、転 (型、脱水、乾燥等) に 関する知識・技術 (ロートショック、転 (型、脱水、乾燥等) に 関する知識・技術 (ロートショック、転 (型、大力・)・ (セートショック、転 (型、大力・)・ (セート・)・	(7) 要系・因子)					
1.タオルを用 軽度の 1.1 脱衣場の室温調 1.1.1 脱衣場の室温調 1.1.1 見入りできる。 24% 1.2 脱衣場の安全 1.2 脱衣場の安全 1.2.1 脱衣場のリスク (ヒートショック、転 倒、脱水、乾燥等)に 関する知識・技術 できる。 25-			支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.9 オルを用 いて身体を拭						
NT身体を拭き乾かすこと 24% 1.2 脱衣場の安全 1.2 脱衣場の安全 1.2 脱衣場の安全 1.2 脱衣場のリスク (ヒートショック、転倒、脱水、乾燥等)に関する知識・技術 25- かず用品 (e1150) 2.1 髪を乾かすことができる 2.1 髪を乾かす用 25- かず用品 (e1150) 2.1 髪を乾かす用 50- 95% 完全な 2.2 版数 2.3 変ををができる 3.2 全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントすることができる 3.3 対象者の両手指の状態を適切にアセスメントすることができる 1.3.3 対象者の両手指の疾痒能力を把握し、活用できる 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすごとができる 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる 1.3.3 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かす可とができる 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、持術 1.3.3 1、1.3.4.1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術 1.3.4 1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術 1.3.5 1 日立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術 1.3.5 1 日立支援に基づき、身体を拭き乾かす 1.3 1 日立支援に基づき、身体を拭き乾かす 1.3 1 日立支援に基づき、身体を拭き乾かす 1.3 1 日立支援に基づき、身体を拭き乾かす 1.3 1 日本は対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対		0-4%				
き乾かすこと	1.タオルを用	軽度の	1.1 脱衣場の室温	1.1.1 脱衣場の室温調	1.1.1.1、1.2.1.1	
ができる。	いて身体を拭	困難	設定	整を適切に行うことが	リスクマネジメント	
2.ドライヤー 等を使い、髪 を乾かすこと ができる。 中等度 の困難 25- 49% な環境(e2250) 1.3 身体を拭き乾 かす用品(e1150) 2.1 髪を乾かす用 具 (e1150) (ヒートショック、転 倒、脱水、乾燥等)を回 避する安全な環境を整 えることができる 関する知識・技術 五度の 95% 1.3.1 プライバシーに 配慮し、身体を拭き乾 かす介助ができる 1.3.2 全身状態や皮膚 の状態を適切にアセス メントすることができる 1.3.2.1 皮膚疾患(頭皮を含む)や感染症に関する 知識 1.3.2.2 1.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、 活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる 1.3.3.1、1.3.4.1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術	き乾かすこと	5-	(e2250)	できる	(ヒートショック、転	
等を使い、髪を乾かすことができる。 の困難 25- かす用品(e1150) 25- 25- 25- 25- 25- 25- 25- 25- 25- 25-	ができる。	24%	1.2 脱衣場の安全	1.2.1 脱衣場のリスク	倒、脱水、乾燥等)に	
を乾かすこと 25-	2.ドライヤー	中等度	な環境 (e2250)	(ヒートショック、転	関する知識・技術	
を乾かすこと	等を使い、髪	の困難	1.3 身体を拭き乾	倒、脱水、乾燥等)を回		
ができる。	を乾かすこと	25-	かす用品 (e1150)	避する安全な環境を整		
国度の 困難 (e1150) 1.3.1 プライバシーに 配慮し、身体を拭き乾 プライバシーに配慮 した介助の技術 1.3.2 全身状態や皮膚 い状態を適切にアセス 皮膚疾患 (頭皮を含 が)や感染症に関する 知識 1.3.2.2 1の0% 1.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、 説活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる 1.3.3.1、1.3.4.1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かすことが できる たばき乾かす知識・技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ	ができる。		2.1 髪を乾かす用	えることができる		
田難 50- 95%						
50- 95% かす介助ができる カライバシーに配慮 した介助の技術 1.3.2.1 皮膚疾患 (頭皮を含む) か感染症に関する カ設 カシットすることができる カ設 カシットすることができる カスシュー カスシュー カスショー カスシ				 131 プライバシーに	1311	
95%かす介助ができる 1.3.2 全身状態や皮膚 の状態を適切にアセス メントすることができる 100%した介助の技術 1.3.2.1 皮膚疾患(頭皮を含む)や感染症に関する 知識 1.3.2.21.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、 活用できる 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる1.3.3.1、1.3.4.1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術2.1.1 頭皮を傷めるこ			(01100)			
1.3.2 全身状態や皮膚 の状態を適切にアセス 皮膚疾患 (頭皮を含む) や感染症に関する 知識 1.3.2.2 全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントするをに関する 知識 1.3.2.2 全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術 1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる 体を拭き乾かす知識・技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ		_				
田難 の状態を適切にアセス 皮膚疾患 (頭皮を含む) や感染症に関する 知識 1.3.2.2 1.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、						
96- 100% おファイン は、カライン は、カラインは、カライン は、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カランは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カラインは、カランは、カランは、カラインは、カランは、カランは、カランは、カランは、カランは、カランは、カランは、カラ						
100%知識 1.3.2.2 全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる できる1.3.3.1、1.3.4.1 自立支援に基づき、身体を拭き乾かす知識・技術2.1.1 頭皮を傷めるこ						
1.3.2.2 1.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、 活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる 2.1.1 頭皮を傷めるこ						
1.3.3 対象者の両手指 の残存能力を把握し、 活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる 2.1.1 頭皮を傷めるこ		100%		ବ		
の残存能力を把握し、 活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる 2.1.1 頭皮を傷めるこ				100 HAT 0TTE		
活用できる 1.3.4 対象者の手の届 かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる できる な2.1.1 頭皮を傷めるこ						
1.3.4 対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことが自立支援に基づき、身できる 体を拭き乾かす知識・技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ						
かない部分に対し、身 体を拭き乾かすことが できる なきる なを拭き乾かす知識・ 技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ					ントする技術	
体を拭き乾かすことが できる自立支援に基づき、身 体を拭き乾かす知識・ 技術2.1.1 頭皮を傷めるこ						
できる 体を拭き乾かす知識・ 技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ				かない部分に対し、身	1.3.3.1、1.3.4.1	
技術 2.1.1 頭皮を傷めるこ 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1				体を拭き乾かすことが	自立支援に基づき、身	
2.1.1 頭皮を傷めるこ				できる	体を拭き乾かす知識・	
					技術	
トたノ ウクに影を抜 0101				2.1.1 頭皮を傷めるこ		
-				となく、安全に髪を乾	2.1.2.1	
かすことができる 頭皮と髪を乾かす技				かすことができる	頭皮と髪を乾かす技	
術					術	

d520 身体各部の手入れ caring for body parts

肌や顔、歯、頭皮、爪、陰部などの身体部位に対して、洗って乾かすこと以上の手入れをすること。含まれるもの:皮膚、歯、頭髪と髭、手足の爪の手入れ。

除かれるもの:自分の身体を洗うこと(d510),排泄(d530)。

d5200 皮膚の手入れ caring for skin

皮膚のきめと保湿状態の手入れ。例えば、たこや魚の目を取ること、保湿ローションや化粧品を使っての手入れ。

①人として具体的行動(行動	I C F の共通	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点	7 O M M M	護能力)	אפווטא פוון אני	
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.たこや魚の 目をとること ができる	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難	1.1 たこや魚の目 をとることのでき る物品 (薬剤・やす り等) (e1101 e1108)	1.1.1 たこや魚の目を確認ができる1.1.2 たこや魚の目をとることができる	1.1.1.1 たこや魚の 目に関する知識 1.1.1.2 たこや魚の 目をとる技術 多職種と連携する能 力	
2.保湿ローションや化粧水を使っての手入れができる(皮膚の状態に合わせて)	25- 49% 重度の 困難 50- 95% 完全な 困難	2.1 保湿ローショ ンや化粧水を使う (e1108)	2.1.1 肌の状態に合わせて適切な保湿ローションや化粧水を使った支援ができる 〇高齢化による(手指などの)摩擦力の低下に留意した介護ができ	湿ローションや化粧 水の知識 2.1.1.2 肌の状態に 合わせて使用する保	
	96- 100%		る。(物を落としやすい、などへの配慮)	湿ローショや化粧水 を使う技術 多職種と連携する能力	

d5201 歯の手入れ caring for teeth

歯科衛生上の手入れ。例えば、歯磨き、歯間清掃、義歯や歯科矯正具の手入れ。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の		1.1.1 歯の状態や状況		
	困難		に応じた歯磨きに必要		

			Г <u>— </u>		
1.歯を管理す	5-	1.1 歯磨きに必要	な物品が準備でき、歯	1.1.1.1 歯磨きに必	
る重要性を理	24%	な用具(歯ブラシ、	磨きがができる	要なこころとからだ	
解している。	中等度	コップ、歯磨き粉)		のしくみ	
	の困難	(e1101		歯磨きに必要な物品	
1.歯磨き(歯	25-	e1108)		の知識	
ブラシを扱う	49%			状態や状況に応じた	
ことができる)	重度の			歯磨きの技術	
の方法を知っ	困難			アセスメントする能	
ている。(どこ	50-			カ	
をどう磨けば	95%			多職種と連携する能	
よいか)	完全な			カ	
2.歯間清掃	困難				
(どこをどう	96-	2.1 歯間清掃がで	2.1.1 歯間清掃に必要	2.1.1.1 歯間清掃に	
磨けばよいか)	100%	きる	 な物品が準備でき、状	必要なこころとから	
		(デンタルフロス)	態や状況にあった歯間	だのしくみ歯間清掃	
		(e1108)	 清掃ができる	に必要な物品の知識	
				状態や状況に応じた	
				歯間清掃に必要な技	
				一	
				アセスメントする能	
3.義歯や歯科				カ	
矯正具の手入				多職種と連携する能	
れ(清潔に保				力	
つ) ができる					
		 3.1 義歯や歯科矯	 3.1.1 義歯や歯科矯正	 3.1.1.1 義歯や歯科	
		正具の手入れがで	具の手入れ必要な物品	矯正具に必要なここ	
		きる	が準備でき、状態や状		
		C	況にあった義歯や歯科	義歯や歯科矯正具の	
		一、歯グラン、コックプ、歯磨き粉)	流にめった義歯や歯科 矯正具の手入れができ	義風や歯科鳩正呉の	
		(e1101,e 1108)	る	知識	
		(61101,61100)		^{丸頭} 義歯や歯科矯正具の	
				義歯や歯科偏正呉の	
				アセスメントする能	
				アセスメント9つ能 力	
				刀 多職種と連携する能	
]			カ	

d5202 頭髪と髭の手入れ caring for hair

頭髪と髭の手入れ。例えば、髪をすいたり整えることや、髭を剃ったり刈り込み。

①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

	1	T		1
1.髪をすく	軽度の	1.1 髪をすくことが	1.1.1 髪をすくことや	1.1.1.1 髪をすくの
	困難	できる。(くし、ブラ	髭をそるに必要な物品	に必要なこころとか
2.髭をそる	5-	シ)	が準備でき、髪をすく	らだのしくみ
	24%	髭をそる(髭剃り)	ことや髭をそることが	髪をすくのに必要な
3.髪を整え	中等度	(e1108)	できる	物品の知識
	の困難			髪をすくのに必要な
4.髭を整える	25-			技術
	49%			アセスメントする能
	重度の			カ
	困難			多職種と連携する能
	50-			カ
	95%			
	完全な		2.1.1 髪を整える、髭	2.1.1.1 髪を整える、
	困難	2.1 髪を整えること	を整えるに必要な物品	髭を整えるに必要な
	96-	ができる(ドライヤ	が準備でき、髪を整え	こころとからだのし
	100%	一、頭髮用化粧品)	る、髭を整えることが	くみ
		(e1101 ,e1108)	できる	髪を整える、髭を整
		髭を整えることがで		えるに必要な物品の
		きる(ハサミ、髭用		知識
		化粧品)		髪を整える、髭を整
		(e1101 ,e1108)		えるに必要な技術
				アセスメントする能
				カ
				多職種と連携する能
				カ
				•

d5203 手の爪の手入れ caring for fingernails

手の爪を清潔にし、切り、磨くこと。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.手の爪を清潔にする	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困 25- 49% 重度の 困難	1.1 手の爪を清潔 にすることができ る。 (清潔用化粧品) (e1101)	1.1.1 手の爪を清潔にするために必要な物品が準備できる	1.1.1.1 手の爪を清潔にするのに必要なころとからだのしくみ 手の爪を清潔にするのに必要な物品の知識 手の爪を清潔にするのに必要な物品の知	

0.707717	50	01 70 9 7 197		71-7 / \ 1 + 7 AL	
2.手の爪を切	50-	2.1 手の爪を切る	2.1.1 手の爪を切るに	アセスメントする能	
る	95%	ことができる	必要な物品が準備で	カ	
	完全な	(爪切り)	き、手の爪を切ること		
	困難	(e1108)	ができる	2.1.1.1 手の爪を切	
	96-			るに必要なこころと	
	100%			からだのしくみ	
				手の爪を切るに必要	
				な物品の知識	
				手の爪を切るに必要	
				な技術	
3.手の爪を磨				アセスメントする能	
<		3.1 手の爪を磨く		カ	
		ことができる			
		(やすり、研磨用製	3.1.1 手の爪を磨くこ	3.1.1.1 手の爪を磨	
		品)	とに必要な物品が準備	くことに必要なここ	
		(e1108)	でき、手の爪を磨くこ	ろとからだのしくみ	
			とができる	手の爪を磨くのに必	
				要な物品の知識	
				手の爪を磨くのに必	
				要な技術	
				アセスメントする能	
				カ	

d5204 足の爪の手入れ caring for toenails

足の爪を清潔にし、切り、磨くこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
		る味児囚丁		大山市以	5
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.足の爪を清	軽度の	1.1 足の爪を清潔	1.1.1 足の爪を清潔に	1.1.1.1 足の爪を清	
潔にする	困難	にすることができ	するために必要な物品	潔にするのに必要な	
	5-	る。	が準備できる	こころとからだのし	
	24%	(清潔用化粧品)		くみ	
	中等度	(e1101)		足の爪を清潔にする	
	の困難			のに必要な物品の知	
	25-			識	
	49%			足の爪を清潔にする	
	重度の			のに必要な技術	
	困難			アセスメントする能	
2.足の爪を切	50-			カ	
る	95%				
	完全な	2.1 足の爪を切る	2.1.1 足の爪を切るに	2.1.1.1 足の爪を切	
	困難	ことができる	必要な物品が準備で	るに必要なこころと	
				からだのしくみ	

	96- 100%	(π 切 り) (e1108)	き、手の爪を切ること ができる	足の爪を切るに必要 な物品の知識 足の爪を切るに必要 な技術
3.足の爪を磨				アセスメントする能 カ
		3.1 足の爪を磨く ことができる (やすり、研磨用製 品) (e1108)	3.1.1 足の爪を磨くことに必要な物品が準備でき、足の爪を磨くことができる	3.1.1.1 足の爪を磨くことに必要なこころとからだのしくみ足の爪を磨くのに必要な物品の知識足の爪を磨くのに必要な技術アセスメントする能力

d530 排泄 toileting

排泄(生理,排尿,排便)を計画し,遂行するとともに、その後清潔にすること。

含まれるもの:排尿や排便の管理, 生理のケア。

除かれるもの:自分の身体を洗うこと(d510),身体各部の手入れ(d520)。

d5300 排尿の管理 regulating urination

排尿を調整し適切に行うこと。例えば、尿意を表出すること。排尿に適した姿勢をとること。 排尿に適した場所を選び、そこに行くこと。排尿前後に衣服を着脱すること。排尿後に身体を きれいにすること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.尿意を表出する	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の	1.1 尿意を感じる ことができる。	1.1.1 対象者の身体状 況に応じた尿意を確認 できる	1.1.1.1 排尿に関する、こころとからだのしくみの知識対象者の意思を適切に把握できるコミュニケーションに関する知識コミュニケーション技術	
2.排尿に適し た姿勢をとる	困難 50- 95%		2.1.1 対象者の身体状況と環境を把握し排尿		

图 9	完全な 困難 96-	姿勢をとることが できる。	に適した姿勢にするこ とができる	排尿に適した姿勢を 保持する技術 排尿に適した姿勢を
3.排尿に適し た場所を選び 行く	100%	(手すり、介助バー) (e1551) 3.1 排尿に適した	3.1.1 排尿に適した場	保持する福祉用具の知識 3.1.1.1-移乗・移動に関する知識
		場所を選び、そこに 行くことができる。 (トイレ・公衆トイ レなど)(e1551)	所まで行く際の対象者 の身体状況と環境を把 握し適切にアセスメン トすることができる	移乗・移動に関する技 術 周囲の環境を把握す る知識 アセスメントする能
4.排尿前後に 衣類を着脱す る		4.1 排尿前後に衣 類を下げたり、上げ たりすることがで きる(手すり、介助 バー、)(e1551)	4.1.1 対象者の身体状況と環境を把握し適切にアセスメントすることができ、排尿前後に衣類を下げたり上げた	カ 4.1.1.1 衣類着脱に 関しての技術。 周囲の環境を把握す る知識 アセスメントの能力
5.排尿後に身 体をきれいに できる		5.1 排尿後に身体 をきれいにするた め陰部を拭く、洗浄 できる。 (トイレットペー パー、洗浄付き便 器)(e1551)	りすることができる 5.1.1 対象者の身体状況と環境を把握し適切にアセスメントすることができ、排尿後に陰部を清潔にするための理由を知り支援することができる	5.1.1.1 陰部の清潔 に関するこころとか らだのしくみの知識 陰部を清潔にする技 術 アセスメントの能力

d5301 排便の管理 regulating defecation

排便を調整し適切に行うこと。例えば、便意を表出すること。排便に適した姿勢をとること。 排便に適した場所を選び、そこに行くこと。排便前後に衣服を着脱すること。排便後に身体を きれいにすること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.便意を表出	軽度の	1.1 便意を感じる			
する	困難	ことができる			

	5- 24%		1.1.1 対象者の身体状況に応じた便意を確認	1.1.1.1 排便に関する、こころとからだの	
	中等度		だに心した使息を確認できる	しくみの知識	
	の困難 25-			対象者の意思を適切に把握できるコミュ	
	49%			ニケーションに関す	
	重度の			る知識	
2.排便に適した姿勢をとる	困難 50-	2.1 排便に適した		コミュニケーション 技術	
に安力とこる	95%	姿勢をとることが		נויו 🗴 נ	
	完全な	できる	2.1.1 対象者の身体状		
	困難 96-	(手すり、介助バー)(e1551)	況と環境を把握し排便 に適した姿勢にするこ	た姿勢に関する知識 排便に適した姿勢を	
	100%	, , , , , , , , ,	とができる	保持する技術	
3.排便に適した場所を選び				排便に適した姿勢を 保持する福祉用具の	
行く				知識	
		3.1 排便に適した			
		場所を選び、そこに行くことができる。	所まで行く際の対象者 の身体状況と環境を把	関する知識 移乗・移動に関する技	
		(トイレ・公衆トイ	握し適切にアセスメン	術	
		レなど)(e1551)	トすることができる	周囲の環境を把握する知識	
4.排便前後に				アセスメント能力	
衣類を着脱す		4.4 性便並然に太	4.1.1 対象者の身体状	 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	
る		4.1 排便前後に衣 類を下げたり、上げ		4.1.1.1 衣類着脱に 関しての技術。	
		たりすることがで		周囲の環境を把握す	
		きる(手すり、介助 バー、)(e1551)	とができ、排便前後に 衣類を下げたり上げた	る知識アセスメントの能力	
		,, () (01001)	りすることができる	, C//// 1 0/HE/J	
5.排便後に身					
体をきれいに できる		5.1 排便後に身体 をきれいにするた	5.1.1 対象者の身体状況と環境を把握し適切	5.1.1.1 陰部の清潔 に関するこころとか	
		め陰部を拭く、洗浄	にアセスメントするこ	らだのしくみの知識	
		できる。 (トイレットペー	とができ、排便後に陰 部を清潔にするための	陰部を清潔にする技 術	
		パー、洗浄付き便	理由を知り支援するこ	アセスメントの能力	
		器)(e1551)	とができる		

d5302 生理のケア menstrual care

生理に対して調整し、計画し、ケアすること。例えば、生理を予測し、生理用品を用いること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		

	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1生理を予測	軽度の	1.1 生理を予測す	1.1.1 対象者の身体状	1.1.1.1 生理に関す	
する	困難	ることができる。	況と環境を把握し適切	る、こころとからだの	
	5-		にアセスメントするこ	しくみ	
	24%		とができ、生理を予測	コミュニケーション	
	中等度		できる	技術	
	の困難	2.1 生理用品を用			
2生理用品を	25-	いることができる	2.1.1 適切な生理用品	2.1.1.1 生理の対応	
用いる	49%	(e1552)	を用いて、利用者の状	に関する知識	
	重度の		態や環境にあった支援	生理の対応に関する	
	困難		ができる	技術	
	50-			生理の対応に適した	
	95%			用具に関する知識	
	完全な				
	困難				
	96-				
	100%				

d540 更衣 dressing

社会的状況と気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱を手際よく行うこと。例えば、シャツ、スカート、ブラウス、ズボン、下着、サリー、和服、タイツ、帽子、手袋、コート、靴、ブーツ、サンダル、スリッパなどの着脱と調節。

含まれるもの:衣服や履き物の着脱,適切な衣服の選択。

d5400 衣服を着ること putting on clothes

手際よく、身体のさまざまな部位に衣服を着ること。例えば、頭、腕、肩、上半身、下半身に衣服を着ること。手袋や帽子を身につけること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 衣服の形状	軽度の	1.1、2.1、3.1、4.1、	1.1.1、2.1.1、	1.1.1.9、2.1.1.9、	
に合わせて、手	困難	気温、四季の変化に	1.2.1、2.2.1	1.1.1.1、2.1.1.1,	
際よく上半身	5-	合わせた衣服	社会的状況と気候条	3.1.1.1	
に衣服を着る	24%	(e1150) (e2255)	件に合った衣服や手	着衣の種類や文	
ことができる	中等度		袋、帽子を準備する	化的習慣等に関	
	の困難	1.2、2.2	ことができる	する知識	
2, 衣服の形状	25-	適切な室内温度、			
に合わせて、手	49%	(e2250)	1.1.2、2.1.2	1.1.2.2、	

-	1	1	
際よく下半身	重度の	必要な自助具を準備	着衣に関する自助具
に衣服を着る	困難	することができる	(着衣エイド、ボタン
ことができる	50-		エイド、ズボンの上げ
	95%	1.1.4、2.1.4、3.1.4	下ろしの補助具、姿勢
3, 手際よく手	完全な	身体機能に合わせて、	保持のための椅子や
袋や帽子、ネク	困難	着る動作のアセスメ	手すり)の知識、技術
タイ、アクセサ	96-	ントができる	
リーを身に着	100%		1.1.4.3、2.14.3
けることがで			3.1.4.3
きる			身体機能を把握する
			ためのアセスメント
		1.1.5、1.2.5	の知識(手指の痛みの
		身体機能、衣服の形状	有無、関節の可動性
		に応じて上半身に衣	 (b710) 筋力の機
		服を着る支援ができ	能(6730)麻痺の有
		る	無)
			1.1.5.4、2.1.5.4、
		2,1,6、2,2,6	身体機能、衣服の形状
		身体機能、衣服の形状	
		に応じて下半身に衣	
		服を着る支援ができ	る知識、技術
		Meaの文版のでと	2.1.4.5、2.2.4.5
			2.1.4.0、 2.2.4.0 身体機能、衣服の形
			状に応じて下半身
			に衣服を着る支援
		3.1.7	に払服を負る又援 ができる知識、技術
		3.1.7 手袋、帽子、かぶり物	7. (0) 13 13 13 13 13 13 13 1
			2176
		ネクタイをつける支援ができる。	
		援ができる	手袋、帽子、かぶり物、
			ネクタイをつける支
			援ができる知識、技術

d5401 衣服を脱ぐこと taking off clothes

手際よく、身体のさまざまな部位の衣服を脱ぐこと。例えば、頭、腕、肩、 上半身、下半身の衣服を脱ぐこと。手袋や帽子を脱ぐこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 衣服の形状	軽度の	1.1、2.1、3.1、	1.1.1、2.1.1	1.1.1.1、2.1.1.1、	
に合わせて、手	困難				

際よく上半身	5-	気温、四季の変化に	衣服を脱ぐ際に活用	衣服を脱ぐ際に使用
の衣服を脱ぐ		対点、哲学の支化に 合わせた衣服	できる自助具を準備	する自助具の知識、技
ことができる。	中等度	(e1150) (e2255)	することができる	術(着衣エイドを活
0 +00 0 #410	の困難	1.2、2.2		用、ボタンエイド、ズ
2, 衣服の形状	25-	適切な室内温度、	1.1.2、1.2.2、2.1.2	
に合わせて、手		(e2250)	2.2.2	補助具、姿勢保持のた
際よく下半身	重度の		プライバシー保護の	めの椅子や手すり)
の衣服を脱ぐ	困難		カーテン、ついたて	
ことができる。	50-		を準備することがで	
	95%		きる	1.1.1.3、2.1.1.3、
3, 手際よく手	完全な		1.1.3、1.2.3、2.1.3	1.1.3.3, 2.1.3.3
袋やかぶり物	困難		2.1.3, 2.2.3, 3.1.3,	身体機能を把握する
等(帽子を脱ぐ	96-		3.2.3	ためのアセスメント
こと、ネクタ	100%		心身の状態に合わせ	の知識(手指の痛みの
イ)を取ること			て、脱ぐ動作のアセ	
ができる。			スメントができる	(b710) 筋力の機
				能(b730)麻痺の有
			1.1.4、1.2.4、2.1.4、	無)
			2.2.4、3.1.4、3.2.4	////
			2.2.4、0.1.4、0.2.4 身体機能、衣服の形	1.1.4.4、1.2.4.4、
			状(前開き、かぶり等)	
			に合わせて上半身の	
			衣服を脱ぐ支援がで	
			きる	身の衣服を脱ぐ
				支援ができる知識、
			2.1.5、2.2.5	技術
			身体機能に合わせ	
			て下半身の衣服を脱	
			ぐ支援ができる	身体機能、衣服の形状
				に合わせて下半身の
			3.1.6	衣服を脱ぐ支援(ズボ
			手袋やかぶり物の形	ン、スカート等)、が
			状合わせ脱ぐ支援が	できる知識
			できる	
				3.1.6.6
				手袋やかぶり物の
				形状に合わせ脱ぐ
				支援ができる。
				知識、技術
	L		<u> </u>	

d5402 履き物を履くこと putting on footwear

手際よく、靴下、ストッキング、履き物を履くこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		

	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
				10/(0/01)	
	0-4%				
1.天候や四季	軽度の	1.2、2.2、	1.2.1、2.2.1、	1.1.1.1、1.1.2.1	
に合わせた履	困難	天候、四季の変化に	天候や四季に合わせ	靴下、ストッキングを	
物を選ぶこと	5-	合わせた履物	た履き物を準備する	履くための、福祉用具	
ができる。	24%	(e1150)	ことができる	(ソックスエイド、ス	
2, 手際よく靴	中等度	(e2255)		トキングエイド、姿勢	
下、ストッキン	の困難	1.3、2.3、3.3		保持のための椅子や	
グを履くこと	25-	安全・安楽に靴下や		手すり)の知識	
ができる。	49%	ストッキング、履き			
3, 手際よく履	重度の	物を履くことがで		1.1.1.2, 2.1.2.2	
き物を履くこ	困難	きる。(手すり、椅	2.2.2、2.3.2	身体機能を把握する	
とができる。	50-	子)	身体機能に応じて、靴	ためのアセスメント	
	95%	(e1150)	下、ストッキングを履	の知識(手指の痛みの	
	完全な	(e1151)	くための支援ができ	有無、関節の可動性	
	困難	3.4.	る	(b710)筋力の機	
	96-	スムーズに靴が履		能(b730)麻痺の有	
	100%	ける補助器具(靴べ		無)	
		う)	1.2.3、3.4.3,		
			身体機能に応じて	1.1.1.3、2.2.2.3	
			履き物を履くための	身体機能の状態に応	
			支援ができる	じて、靴下、ストッキ	
				ングを脱ぐ支援がで	
				きる知識、技術	
				1004 0404	
				1.2.3.4, 3.4.3.4.	
				身体機能の状態	
				に応じて履き物を 脱ぐ支援ができる	
				脱く又接ができる	
				天山市战。 才又7川	

d5403 履き物を脱ぐこと taking off footwear

手際よく、靴下、ストッキング、履き物を脱ぐこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1,手際よく靴	軽度の	1.1、2.1、	1.1.1、1.2.1	1.1.1.1、1.1.2.1	
下、ストッキン	困難	快適な室内温度	身体機能に応じて、靴	靴下、ストッキングを	
グを脱ぐこと	5-	(e1150)	下、ストッキングを脱	脱ぐための、福祉用具	
ができる。	24%	(e2255)	ぐための支援ができ	(ソックスエイド、ス	
	中等度		る	トキングエイド、姿勢	
	の困難	1.2、2.2、	2.2.2、3.3.2		

		T		1	
2, 手際よく履	25-	安全・安楽に靴下や	身体機能の状態に応	保持のための椅子や	
物を脱ぐこと	49%	ストッキング、履物	じて、履物を脱ぐ支	手すり)の知識	
ができる。	重度の	を脱ぐことができ	援ができる	1.1.1.2, 2.1.2.2	
	困難	る。(手すり、椅子)		身体機能を把握する	
3. 脱いだ履物	50-	(e1150)		ためのアセスメント	
を基の収納場	95%	(e1151)		の知識(手指の痛みの	
所に片付ける	完全な			有無、関節の可動性	
ことができる。	困難			(6710) 筋力の機	
	96-			能(b730)麻痺の有	
	100%	3.2		無)知識	
		履物を収納する場			
		所		1.1.1.3	
		(e1151)		安全に靴下、ストッキ	
				ングを脱ぐ支援がで	
				きる知識・技術	
				1.1.2.4	
				安全に履物を脱ぐ支	
				援ができる知識・技術	

d5404 適切な衣服の選択 choosing appropriate clothing

明示されたあるいは暗黙の衣服についての慣例(ドレスコード)や、社会的あるいは文化的慣習に従うこと。気候条件に合わせて更衣すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
13X 237	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.あのてスっ服が 2.い習切ぶる いいのでスっ服が 2.い習切ぶる いんっとで 社はになこ あのてをで 社はになこ あのてをで ないのがった黙いし従衣と る慣適選き	日本の軽5-24%中の25-49重類50-95%会50-95%な	1.1、2.1、3.1、4.1、 気温、四季の変化に 合わせた衣服 (e1150) (e2255) 1.2、2.2 適切な室内温度、 (e2250)	1.1.1 明示されたあるいは、暗黙の衣服についての慣例に従って対象者の適切な衣服を選ぶことができる 2.1.2 対象者の住む地域の社会的あるいは文の社会的あるいは文化的慣習に従って、適切な衣服を選ぶことができる	1.1.1.1 暗黙の衣服について の慣例(ドレスコード)についての知識 1.1.1.3 身体機能に応じた服 を選ぶためのアセス メントの知識、技術 (手指の痛みの有無、 関節の可動性(b 710)筋力の機能(b 730)麻痺の有無) 1.1.1.5	

	96-		目的や行動に合わせ
 3.気候に合わ	100%	3.1.3	た衣服を選択するこ
せて適切な衣	, .	5 気候に合わせて適切	とができる知識、技術
服を選んで更		な衣服を選び更衣す	
衣をすること		ることができる	2122
ができる			着衣の種類や文化的
75 (2.3)			習慣等に関する知識
			2.1.2.4
			2.1.2.1 目的や行動に合わせ
			た衣服を選択するこ
			とができる知識、技術
			2.1.2.5
			2.1.2.3 着衣の種類や文化的
			習慣等に関する知識
			白頂守に対する知識

d550 食べること eating

提供された食べ物を手際よく口に運び、文化的に許容される方法で食べること。例えば、食べ物を細かく切る、砕く、瓶や缶を開ける、はしやフォークなどを使う、食事をとる、会食をする、正餐をとること。除かれるもの:飲むこと(d560)。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1、箸やフォー	軽度の	1.1、2.1、3.1	111. 3.3.2	1.1.1.1,2.1.1.13.1.	
クを使って食	困難	食べるものを口に	対象者の疾病や身体	1.1,4.1.1.11.1.2.1,	
べ物を口に運	5-	運ぶ行為に関する	状況に応じて、適切な	2.2.3.13.1.3.1,4.1.	
ぶことができ	24%	用具	容器や用具を準備し	4.1	
る。	中等度	(箸、スプーン、ナ	て、適切な場所へ置く	身体機能に合わせた	
	の困難	イフ、フォーク等)	ことができる。(滑り	食事介助方法が選択	
2.安全に食べ	25-	(e1150 、	止めマット、スプー	できる	
物を飲み込む	49%	e1151)	ン、フォークなどの自	障害疾病に関する知	
ことが出来る	重度の	2.2、3.2	助具、ナイフ等)	識	
	困難	嚥下のための安全	3.4.4、4.4.4、	1.1.2.2	
3,文化の違い	50-	な姿勢	安全な嚥下のための	食べる行為に関する	
を理解しその	95%	(e1150, e1151)	姿勢を確保すること	福祉用具の知識	
文化に応じた	完全な		ができる		
食べ方ができ	困難	ゆったり食べるこ		3.1.1.3,4.1.1.3	
る。	96-	とが出来るように	3.4.5	嚥下のプロセス・嚥下	
	100	騒音への配慮や音	飲み込みを確認する	障害に関する知識	
	%	や光等の調整	ことができる		
		(e2400, e2500)	3.1.3、3.2.3	4.1.1.4,4.4.44.	

4、正餐形式に	疾病や障害の状態に	5.1.1.4,4.4.4.4	
より会食する	応じて、安全に飲みこ	誤嚥を防ぐための姿	
ことが出来る	みができる方法で、口	勢に関する知識	
	まで運ぶことができ	4.1.1.5、5.1.1.5	
5. 会食する、	る。	安全に嚥下ができる	
他者との食事		姿勢を確保する知識、	
を楽しむこと	4.5.6	技	
ができる。	ゆったり食べること	4.5.6.6	
	が出来るように騒音	3.3.2.7	
	への配慮や音や光等	障害や疾病の特徴に	
	の調整ができる	応じて環境調整でき	
		る知識、技術	
		3.1.1.8、3.1.6.8、	
		4.1.4.8	
		疾病や障害に応じて、	
		安全に楽しみながら	
		食事ができる技術	
	ı	1	

d560 飲むこと drinking

文化的に許容される方法で、飲み物の容器を取り、口に運び、飲むこと。飲み物を混ぜる、かきまぜる、注ぐ、瓶や缶を開ける、ストローを使って飲む、蛇口や泉などの流水から飲む、母乳を飲むこと。除かれるもの:食べること(d550)。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動 (介護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.飲み物の容器を取ることができる。 2.瓶や缶の蓋を開けること	軽度の 困難 5- 24% 中等度	1.1 好みの飲み物 (e1150) 2.1 瓶や缶の蓋を開け	1.1.1 対象者の好みの飲み 物を把握することが できる	1.1.1.1 障害・疾病に応じた意 思伝達に関する知識・ 技術	
ができる。 3. 飲み物を混ぜたり、かき混ぜたりすることができる。 4. 飲み物を注	の困難 25- 49% 重度の 困難 50-	あり る用具(栓抜き等) (e1150) 3.1 飲み物を混ぜる用 具(スプーン、マド ラー等)	2.1.1、3.1.1 飲み物の瓶や缶、蓋等 を開け、嚥下状態に応 じた飲み物を準備す ることができる	2.1.1.1、3.1.1.1、 5.1.1.2、6.1.1.2、 7.1.1.2 嚥下のプロセス・嚥下 障害に関する知識	
ぐことができる。 5.ロに運ぶこ とができる。	95% 完全な 困難 96- 100%	4.1 飲む行為に関する 容器や用具、福祉用 具	4.1.1 対象者の身体状況に 応じた適切な容器、用 具、福祉用具を準備す ることができる	4.1.1.1 飲む行為に関する容器、用具、福祉用具の 知識 2.1.1.1、3.1.1.1、	

6.飲み物を吸	(グラス、コップ、		4.1.1.1 、4.1.2.1 、
い込むことが	滑り止め用具、吸い	4.1.2	5.1.1.1、6.1.1.1、
できる。	飲み、ストロー等)	飲み物を容器に注ぎ、	
7.条件に対応	(e1150)	対象者の疾病や身体	
して飲むこと	5.1, 6.1, 7.1	状況に応じて、適切な	
ができる。	嚥下のための安全		
	な姿勢	きる	疾病・障害に対する知
			部
		5.1.1、6.1.1、7.1.1	6.1.1.2、7.1.1.2
		安全な嚥下のための	嚥下のプロセス・嚥下
		姿勢を確保すること	障害に関する知識
		ができる	
			5.1.1.2、6.1.1.2、
		5.1.2、6.1.2、7.1.2	7.1.1.2、5.1.3.2、
		飲むことを楽しめる	6.1.3.2、7.1.3.2
		よう、騒音への配慮や	誤飲を防ぐための姿
		音や光等の調整がで	勢に関する知識・技術
		きる	
		5.1.3	5.1.2.1、6.1.2.1、
		疾病や障害の状態に	7.1.2.1
		応じ、安全に飲みこみ	高齢者や障害者の心
		ができる位置に容器	理、音、光に関する知
		を傾け、口まで運ぶこ	識•技術
		とができる	5.1.3.3
			疾病や障害に応じて、
			容器を傾け口まで運
			ぶことができる技術
		6.1.3, 7.1.3	
		条件(グラス、コップ、	6.1.3.3、7.1.3.3
		ストロー、流水、母乳	障害や疾病に応じ、条
		等)に対応した飲み込	件に対応した飲み込
		みを介助することが	みを快適且つ安全に
		できる	介助できる技術
		7.1.4	7.1.4.1
		飲み込み(嚥下)を確	飲み込み (嚥下) を確
		認することができる	認できる技術

d570 健康に注意すること looking after one's health

身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保すること。例えば、バランスのとれた食事をとること。適切なレベルの身体的活動を維持すること。適切な温度を保持すること。健康を害するものを避けること。コンドームの使用などによる安全な性生活を行うこと。予防接種を受けること。定期的な健康診断を受けること。

含まれるもの:身体的快適性の確保,食事や体調の管理,健康の維持。

d5700 身体的快適性の確保 ensuring one's physical comfort

快適な姿勢をとったり、暑すぎず寒すぎないようにしたり、適当な照明下にあることの必要性 を意識し、それを確保することで、自分自身のケアをすること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
4 14 177 4- 179 44	0-4%				
1快適な姿勢	軽度の	1.1 生活場面(食事、	1.1.1 生活場面(食		
をとることが	困難	排泄、入浴、休息等)	事、排泄、入浴、休息等、	事、排泄、入浴、休息等、	
できる	5-	に応じた快適な姿勢 (e1150)	等) における快適な姿勢をとることができ	等)における快適な姿 勢の知識	
	24% 中等度	(e1150)	対なこることがくさ	努の知識 ・生活場面(食事、排	
	の困難		Ó	世、入浴、休息等)に	
	25-			おける快適な姿勢を	
	49%			確保する支援技術	
	重度の				
2暑すぎず寒	困難	2.1 快適な環境	2.1.1 暑い時寒い時	2.1.1.1 快適な生活	
すぎないよう	50-	(e1150) (e2250)	に対応できる	環境(温度、湿度等)	
にできる	95%			に関する知識	
	完全な			・快適な生活環境(温	
	困難			度、湿度等) を支援す	
	96-			る技術	
	100%				
3適当な照明		3.1 適切な照明	3.1.1 適切な照明を	3.1.1.1 適切な照明	
下にあることの必要性を意		(e2400)	確保できる	(生活環境、作業環境	
識し、確保でき				等)を確保する知識・適切な照明(生活環	
一る				は、作業環境等)を確	
				保するための支援技	
				が	
				1.3	
4自分自身の		4.1.身体的快適性を	4.1.1 身体的快適性	4.1.1.1 対象者にあ	
ケアをするこ		確保するための適切	を確保するための教	った身体的快適性を	
とができる		な教育習得	育をうけることがで	アセスメントする知	
		(e585)	きる	識	
				・対象者にあった身	
				体的快適性の必要性	
				についての知識	
				対象者にあった身体	
				的快適性を支援する	
				技術	

d5701 食事や体調の管理 managing diet and fitness

栄養のある食べ物の選択や摂取, また体力の維持の必要性を意識した上で, 自己のケアをすること。

①人として具体的行動(行動	ICF の共通	② ①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1 栄養のある食べ物の選択ができる	軽ス4度524%4952549555255617070808090100	1.1 食品を選択し、調理加工 (e1101、1150)	1.1.1 食品を選択し、調理加工し、摂取できる	1.1.1.1 対象者に合った(好み、習慣、学養摂取に関する知じ、年齢別、健康状態等)の栄養摂取に関するか、習慣、年齢別、習慣、の栄養技術 1.1.1.2 対象者に、年齢別、健康状態等する方に(好の)、健康状態等の方に(好の)、健康状態等の方に(好の)、健康状態等の方に(好の)、関するの方に(好の)、関するの方に(好の)、関するの方に(好の)、関するの方に(対して)、関するの方に(対して)、関係を対象者に、の方に(対して)、関係を対象者に、の方に(対して)、関係を対象者に、の方には、対象者に、対象者に、対象者に、対象者に、対象者に、対象者に、対象者に、対象者に	
2体力維持の 必要性を意識 したアができ る		2.1 運動と休養のコ ントロール (e1400,1401)	2.1.1 体力維持に必要な運動を選ぶことができ、休養をとることができる	2.1.1.1 対象者に合った(好み、習慣、年齢別、健康状態等)体力維持に必要な運動の知識・対象者に合った(好み、習慣、年齢別、健康状態等)体力維持に必要な運動を支援する技術	

d5702 健康の維持 maintaining one's health

健康上のリスクへの対応と疾病の予防のために必要なことを行う必要性を意識した上で、自己のケアをすること。例えば、専門家の助力を求めること。医療上その他の健康上の助言に従うこと。けがや感染症、薬物使用、性感染症などの健康上のリスクを回避すること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		

	困難なし	支援を要しない	記入しない	記入しない
	0-4%			
1健康上のリスクへの対応	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25-	1.1 健康に関しての 知識を持ち、リスクに 対応する (e580)	1.1.1 健康状態を知り、リスクに対応する 行動ができる	1.1.1.1 健康が阻害された場合の疾病に関する知識・健康が阻害された場合の生活を支援する技術
2疾病予防の ために必要な 事を行う必要 性を意識する	五度の 困難 50- 95% 完全な 困難 96- 100%	2.1 疾病予防に必要 な知識 (e1101) (e580)	2.1.1 疾病を予防し、健康状態を維持するための薬品やサプリメントなどの必要性を理解できる	2.1.1.1. 疾病を予防 し健康状態を維持するための薬剤やサプリメントに関する知識・疾病を予防し健康 状態を維持するための でいました がいまれる はいまれる では できまれる できまれる しゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅう はんしゅん はんしん はんし
3自己のケア ができる		3.1 自己の健康状態を知り、予防行動ができる(e580)	3.1.1 健康状態を管理するための保健医療機関を知り、受診、健康を維持する生活行動ができる	3.1.1.1 ・健康状態を管理するための保健医療機関に関する知識・健康状態を管理するための保健医療機関に出向くための支援技術
			3.1.2 健康状態を維持する生活行動(肥満防止、禁煙、運動等)について行動ができる	3.1.2.1 健康状態を維持する生活行動(肥満防止、禁煙、運動等)についての知識・健康状態を維持する生活行動(肥満防止、禁煙、運動等)を支援する技術

第6章 家庭生活 domestic life

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 ≪家庭生活≫

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)本章は、家庭における日々の活動や課題の遂行を扱う。家庭生活の領域とは、住居、食料、衣

服,その他の必需品を入手したり、掃除や修繕をしたり、個人的にその他の家庭用品を手入れすることや、他者を支援することを含む。

必需品の入手 acquisition of necessities (d610-d629)

d610 住居の入手 acquiring a place to live

d620 物品とサービスの入手 acquisition of goods and services

家事 household tasks (d630-d649)

d630 調理 preparing meals

d 640 調理以外の家事 doing housework

家庭用品の管理および他者への援助 caring for household objects and assisting others

(d650-d669)

d 650 家庭用品の管理 caring for household objects

d660 他者への援助 assisting others

2. 「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 ≪家庭生活≫ <必需品の入手、調理、家庭用品の管理・他者への援助>に関する考察

ICF の活動と参加の第6章「家庭生活」の内容は、「必需品の入手」を踏まえて、「家事」を行い、家事の一環として「家庭用品の管理・他者への援助」に展開するという、以下のような循環型(図1)のような構成になっている。

また、家庭生活を行う上では、基盤となる居住スペースの入手(確保)が不可欠であり、住居という安定した生活基盤の上に、生活が成り立つという基本構造が見られる。また第6章の家庭生活の構成としての最大の特徴は、【非日常的な側面】と、日々の暮らしの中における生活行為としての【日常的な側面】という二分化が挙げられる。

つまり、個々の分類(第3レベル分類)は独立して存在している訳ではなく、生活基盤の上に、様々な行動としての相互関係や、補填関係として存在している。

従って、個々の分類の詳細内容(第4レベル)を想定していく時に、この構造を踏まえて検討する意識や、生活行為すべてを具体化するという手順を想起することが重要となる。さらに分類項目に関し、「軽度な困難」から「完全な困難」の内容³⁸を想定し、その「困難」の解決に必要な支援(介護)を想定することで、支援(介護)で何をするべきかかが見えてくる。健常者が日々行っている家庭生活は無意識にやっていることであり、行動を分析することで、プロセスが明らかになり、疾患や障害による個別の事由による生活のし辛さに対して、どのように支援すべきかをより明確に捉えることが可能になった。特に正常な行動から逸脱している人への

-

³⁸ テキスト 151 頁参照

支援の見極めや、教育や段階(スキル・レベル)別のセオリーを抽出する根拠としての基礎資料と示せたことが成果である。第6章の行動分析は、身体上や精神上の自立という第5章までの活動や参加が前提条件となっている点や、生活する場所(地域性・暮らしや生活基盤する住居)に起因するものと捉えることが可能である。

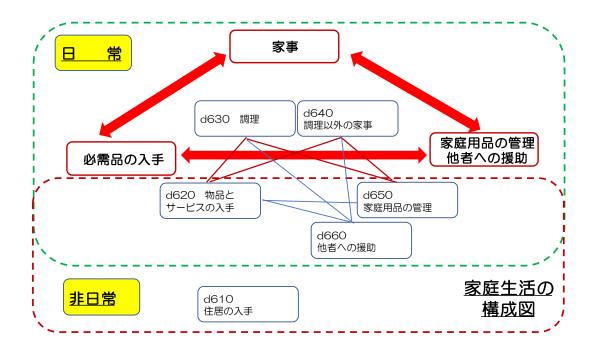


図1 家庭生活を日常・非日常の視点で考察した概念図

第6章の行動分析は、この日常か、非日常かの視点が非常に重要となる章である。他にも 個別ケアか、標準ケアかの視点でも考察を試みた概念図が**図2**である。個別ケアにおいては、

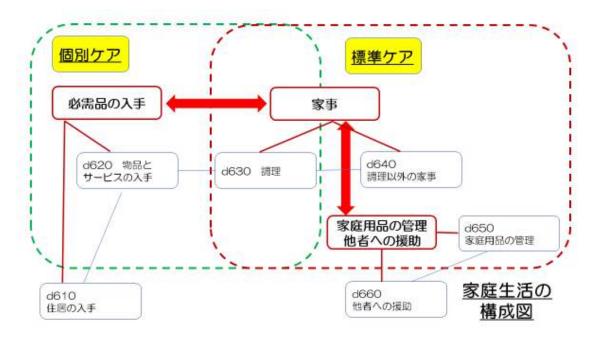


図2 家庭生活を個別ケア・標準ケアの視点で考察した概念図

利用者本人の嗜好や自己選択の場面、心身の状況に応じた調理などは、より個別性を重視した内容であり、より専門性が問われる。一方、標準ケアにおいては作業的な要素や、家事労働的な意味合いが多い内容となっている。

更に、専門性の高さや、ライフイベントにおける頻度の視点でも考察を試みた概念図が**図3**である。

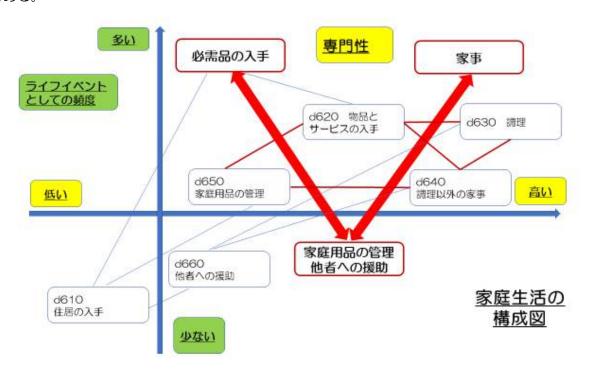


図3 家庭生活を専門性・ライフイベントとしての頻度の視点で考察した概念図

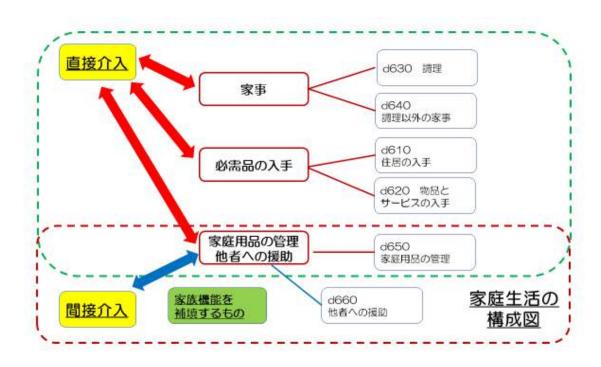


図4 介入の仕方の視点で考察した概念図

専門性の高い内容は、疾患への理解、個別性への配慮など多角的な気づきや意図的な行動が求められる特徴があることや、体調の悪化、意欲の状況に応じた支援内容の違いで提供内容への創意工夫が必要とされる。他にも中長期的な関わり(継続性)や、中重度への状況変化(柔軟性)など、ドメスティックでありながら、専門性が求められる援助が特徴的な項目である。

第6章は、対象者そのもののみを捉える他章とは違って、「他者への援助」がある点も大きな 特徴と言える。介護をする上で、多くの介護職が、この難しさと対峙することとなる。家事や、 物品の入手は対象者の生活そのものを支える【直接介入】に対し、家庭用品の管理や、他者へ の援助は、対象者を生活主体として捉えるのではなく、対象者が家族を支える役割を持つ人と して捉え、家族機能を補填する【間接介入】とも捉えることができる。介入の仕方の視点で考 察を試みたものが図4である。家族構成員の減少、高齢者や障害者の増加、女性の社会進出な ど社会的な背景から、家族システムの機能不全が生じている。そのため、家族内で分担してき た役割を一人の家族が一手に引き受けなければならない現状が生まれる。 例えば A さんを介護 するとしても、A さん自身が夫の介護をしている「老老介護」。 認知症である A さんが認知症 である夫を介護している「認認介護」。A さん自身が育児を両立している場合や、A さん自身が 精神障害者を抱えた長男の同居している多問題家族などが考えられる。これら家族システム全 体が抱える課題に、今の家族機能だけでは対応できない場合、何が、どのように機能している か(あるいは機能していないか)を見極める力も求められる。またこれまでの生活(家族の歴 史)が今の家族状況を生んでいるため、家族はどのような歴史をたどってきているかを知り、 現在の家族関係や状況の背景を理解する力も必要である。更に当事者の支援以外に、家族がも つ課題に対応するためには、それぞれの課題に応じた専門的で、介護分野以外の課題も把握し、 課題対応に必要な知識を身につけ、多職種と協働して支援することが求められる。

言い換えるならば、第1章から第5章までは、当事者である対象者の生活を具現化してきているのに対し、第6章からは対象者を取り巻く環境としての【人:他者】への拡大をする転換の章とも捉えることができる。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪家庭生活≫

前項目でも言及したが、第6章では、「環境因子」が人の生活に大きく関与し、影響していることは明らかとなる。ともするとICFでは個々の行動だけに着目されがちであるが、人が生活するうえで、自己完結しているようにも見えるが、実際は他者との関係性や援助を受けて生活が構成されているとの視点や理解が必要になってくる。つまり第6章で重要視したいのは、生活基盤となる住居が物的環境だけでなく、環境としての人の関わり(人的環境)の及ぼす影響があることや、環境整備されている中でこそ自立した生活や尊厳のある生活ができるという点である。第6章が存在する意味は、「環境因子」として、人が暮らす中では自然環境すらも、その人の歴史的な背景で全く違うものになることや、環境が、その方にとって意味のある環境であることなど根源的な考えを今一度見直すものである。人的環境は、利用者の心情にフィットする唯一の環境であり、即時判断する力量が問われ、暑さを感じている利用者に対してエアコンの温度や、布団などの寝具しか見ることができない家族に対して、専門職は室温や、暖房器具の工夫、「暑い」のがなぜかと考えることができるのが介護の専門職と言える。利用者の言葉に合ったケアは、どのような物を織りなすかで全く違う。人でできるもの、物の設置で叶えられもの、それを選び繰り出せる能力習得やトレーニングが教育には必要との指摘ができる。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴

• • 関連する技術と知識の特徴 ≪家庭生活≫

このように第6章の構成をしていくと、無意識にしていることを意識化することによって、介護の専門性を意識、行動を細分化することによって、介護行動をイメージしやすくなる。自立した人の行動分析から入ることで、支援(介護)が必要ということを前提とせずに生活を捉えることができる。「家庭生活」を意識することは、支援(介護)をされることになっても、あくまでも自立した一人の人間が基軸になっていることや、暮らす上での支援(介護)が必要かもしれないが、その方がしてきた暮らしを意識しないといけない、言い方を変えれば、生活歴など見方(必要な見立て)を教育することが必要なことが明白である。その基本姿勢や、基軸がしっかりしていれば、生活経験が乏しい、学びが浅い初学者に対しても対象者が逸脱したものを感じ、気づくことができる筈である。

ここで家庭生活の特徴について提示しておく。家庭生活の特徴として

- ① 環境に左右される場である (家族構成・生活基盤・住居形態・地域・文化・社会的背景・時代背景)
- ② 価値観を形成する場である(家族観・宗教観・死生観・金銭感覚・清潔感覚)
- ③ 個人の変容が期待できる場である (環境因子の組み合わせにより、変化が期待でき、個人そのものの変容が可能となる)
- ④ 機能分化や代替が容易な場である

以上の4点が挙げられる。従って第6章は、他の章にはない、行動変容への関与や、機能分化 や代替可能な部分を具体的な支援(介護)としてイメージしやすい。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪家庭生活≫

必需品の入手 acquisition of necessities (d610-d629)

d610 住居の入手 acquiring a place to live

家やアパート、その他の住宅を購入あるいは賃借し、家具調度を整えること。

含まれるもの:住居の購入や貸借, 家具調度の整備。

除かれるもの:物品とサービスの入手(d620),家庭用品の管理(d650)。

d6100 住居の購入 buying a place to live

家、アパート、その他の住宅の所有権を得ること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

_				
1.1 た得き1にをで1等相得き1学が1報住と家1めるる2相得き3の談るる4にで5か居がを家のこ 談るる 専しこ 行き らをで選を情と 家しこ 建門助と 内くる得適選きぶ選報が 族助と 築家言が 覧こ たしぶるぶをで 等言が 家にをで 見と 情たこ	5- 24% 中等度 の困難	1.1 住居選択に必要な情報 (インターネットやパンフレット等) e5600 1.2 住居選択の際の人的支援 (家族や友人、建築家等の専門家) e310,e315,e320,e325,e355	1.1.1 住居 東の支援 での情報 できる 1.1.2 入手条件と切り を支援 中と切り を支援 中と切り を支援 住る たま とを できる 1.2.1 する 1.2.1 する 1.2.1 する 1.3.1 を できる 1.3.1 など できる 1.3.1 など では	1.1.1~1.4.1 ・住宅購入の情報に関する知識 ・住宅の専門家(建築士や不動産会社等)に関する知識
2. 期別の 2-1 表示にする 2-1 を手こ 2 類すき 2-1 ある 3 むるにす 要必をで要イと しこの この で 要が 必が かが		2.1 経済的な資産 e165 2.2 契約の際の人 的支援(家族や友 人、建築家等の専 門家) e310,e315,e320 ,e325,e355	2.1.1 書類を正しく解釈 し、必要な書類の手続きを支援できる 2.3.1 ローンに関する適切な判断ができるよう専門家を提案することができる	2.1.1,2.3.1 ・契約締結に関する 知識 ・本人の経済状況に 合った支払い方法に 関する知識
3.家の所有権 を得る 3-1 内覧見学 をすることが できる 3-2 残金決済 ができる		3.1 経済的な資産 e165 3.2 所有権を得る 際の人的支援(家 族や友人、建築家 等の専門家) e310,e315,e320 ,e325,e355	3.1.1 引き渡し前の内覧 の支援ができる 3.1.2 内覧見学を家族や 専門家の同席を提案で きる 3.2.1 頭金以外の残金決 済の支援ができる 3.3.1 引き渡しの際の留 意点に関する支援ができる	3.1.1~3.3.1 ・契約後から所有権 を得るまでのプロセ スに関する知識

d6101 住居の賃借 renting a place to live

他人のものである家,アパート,その他の住居を,家賃を支払うことによって使用権を得ること。

Co					
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.家を選ぶ	軽度の	1.1 住居選択に必要	1.1.1 賃貸物件を選択す	1.1.1 1.2.1	
1-1 賃貸物件	困難	な情報(インターネ	る上での情報収集の支	1.3.1	
の情報を収集	5-	ットやパンフレッ	援ができる	1.4.1 1.5.1	
することがで	24%	ト等)e5600	1.2.1 適切な不動産会社	・住宅の賃借に関す	
きる	中等度	1.2 住居選択の際	を提案できる	る知識	
1-2 不動産会	の困難	の人的支援(家族	1.3.1,1.4.1 内覧や見学	・不動産会社等に関	
社へ行くこと	25-	や友人等)	の際、家族や専門家の同	する知識	
ができる	49%	e310,e315,e320	席を提案できる		
1-3 内覧見学	重度の		1.5.1 本人の意向や経済		
ができる	困難		状況にあった賃貸物件		
1-4 家族等に	50-		を選択できるよう支援		
相談し助言を	95%		する		
得ることがで	完全な				
きる	困難				
1-5 得た情報	96-				
から適した賃	100%	2.1 経済的な資産	2.1.1 必要な書類の手続	2.1.1 2.2.1	
貸物件を選ぶ		e165	きを支援できる	・契約締結に関する	
ことができる		2.2 契約の際の人的	2.2.1 契約に関する適切	知識	
		支援(家族や友人等)	な判断ができるよう専		
2.家を借りる		e310,e315,e320	門家を提案することが		
ための契約す			できる		
る					
2-1 必要書類					
を読み、必要な					
手続きをする		3.1 経済的な資産	3.1.1 引き渡しの際の留	3.1.1~2	
ことができる		e165	意点に関する支援がで	・契約後から使用権	
2-2 必要な書		3.2 引き渡しの際	きる	を得るまでのプロセ	
類にサインを		の人的支援(家族	3.1.2 引き渡しが適切に	スに関する知識	
することがで		や友人等)	遂行できるよう専門家		
きる		e310,e315,e320	を提案することができ		
3.家の使用権			る		
を得る					
3-1 物件の引					
き渡しを受け					
る					

d6102 家具調度の整備 furnishing a place to live

家具や設備、その他の部屋を装飾する備品を住居に据え付け、部屋を装飾すること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 家具(装飾	軽度の	1.1 家具や装飾品	1.1.1 家具を測るための	1.1.1	
品等も含む)を	困難	e115	支援ができる	・家具(装飾品含む)	
選ぶ	5-	1.2 多機能の家具	1.2.1 欲しい機能を備え	に関する知識	
1-1 部屋の広	24%	e135	た家具の提案ができる		
さにあつた家	中等度	1.3宗教とスピリチ			
具を選ぶこと	の困難	ュアル儀式用の家			
ができる	25-	具や装飾品 e145			
1-2 適した機	49%				
能の家具を選	重度の				
ぶことができ	困難				
る	50-				
	95%				
2. 家具(装飾	完全な	2.1 設置の際の人	2.1.1 動線や地震による	2.1.1	
品等も含む)を	困難	的支援(家族や友	家具の転倒等も考慮し		
据え置く	96-	人、建築家等の専	た設置の支援ができる	る知識	
2-1 自分で	100	門家)		・安全な家具の配置	
設置する	%	e310,e315,e320	2.2.1 大きい家具等の場	に関する知識	
2-2 家族等		,e325,e355	合、家族や友人へ設置の	・家具設置の専門家	
へ依頼する			依頼を提案できる	に関する知識	
2-3 専門家			2.3.1 専門的な判断を要		
へ依頼する			する設置については、専		
			門家への依頼を提案で		
			きる		
0 44776		0.4 =0.00 0.000 0.1			
3. 生活スタイ		3.1 設置の際の人	3.1.1 本人の好みの生活	3.1.1	
ルに合わせて		的支援(家族や友	スタイルを把握するこ	・本人の生活スタイ	
模様替えする		人、建築家等の専	とができる	ルに合った模様替え	
3-1 自分好み		門家)		の知識と技術	
の配置へ変更		e310,e315,e320			
することがで		,e325,e355			
きる					

d620 物品とサービスの入手 acquisition of goods and services

日々の生活に必要な全ての物品とサービスを選択し、入手し、運搬すること。例えば、食料、飲み物、衣服、清掃用具、燃料、家庭用品、用具、台所用品、調理用品、家庭用器具、道具を選択し、入手し、運搬し、貯蔵すること。公益サービスやその他の家庭生活を支援するサービスを入手すること。含まれるもの:買い物、日常必需品の収集。

除かれるもの:住居の入手(d610)。

d6200 買い物 shopping

代金を支払い,日々の生活に必要な物品とサービスを入手すること(仲介者に買い物をするよう指導や監督することを含む)。例えば,店や市場で食料,飲み物,清掃用具,家庭用品,衣服を選択すること。必要な物品の質や価格を比較すること。選択した物品,サービス,支払い交渉と支払い,物品の運搬。

多C文拉VI,物品仍建版。						
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備	
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考	
の要素・因子)	評価点		(介護能力)			
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない		
	U					
	0-4%					
1. 物品(サー	軽度の	1.1 入手すべき物	1.1.1 物品を選択する	1.1.1~2、1.2.1~2		
ビスを含む)を	困難	品の情報収集のた	上での情報収集の支	・入手する物品に関す		
選択する	5-	めのコミュニケー	援ができる	る知識		
1-1 物品を選	24%	ションサービス (電	1.1.2 情報を得るため	・入手する物品に関す		
択するための	中等度	話、ファックス、メ	の情報伝達用具(補聴	る情報収集の技術		
情報を得るこ	の困難	ール等)e5350	器等)の取り扱いにつ	• 情報伝達用具(補聴		
とができる	25-		いて支援ができる	器等)に関する知識		
1-2 必要な	49%	1.2 メディアサー		・物品の適正価格に関		
物品を選ぶこ	重度の	ビス(新聞、インタ	1.2.1 多くの情報の中	する知識		
とができる	困難	ーネット等)	から、希望物品を選ぶ			
	50-	e5600	ための取捨選択の支			
	95%		援ができる			
	完全な		1.2.2 複数の店舗から			
	困難		同一商品の価格を比			
	96-		較し適正価格の商品			
	100%		を選択する支援がで			
	, •		きる			
2.物品を入手		2.1 入手すべき物	2.1.1 情報伝達用具	2.1.1~6		
する		品の伝達のための	(補聴器等)の取り扱	• 情報伝達用具(補聴		
2-1 選んだ		コミュニケーショ	いについて支援がで	器等)の取り扱いに関		
物品を店舗等		ンサービス(電話、	きる	する知識		
へ行き手に入		ファックス、メール	2.1.2 心身の状況に応	・希望物品の入手方法		
れることがで		等)e5350	じて、入手方法(店舗	に関する知識		
きる		2.3 交通サービス	へ行くのか、ネット注	• 適切な入手方法を判		
2-2 選んだ		(鉄道等の公共・	文か等)を適切に判断	断できる技術		
物品をネット		私的交通)e5400	できる	・心身の状況に応じた		
等で手に入れ		2.4 物品とサービ	2.1.3 入手先までの安	移動手段の選択につい		
ることができ		スの消費・利用に	全な移動手段を選択	てのアセスメント技術		
る		関連するサービス	する支援ができる	交通サービスに関す		
2-3 選んだ		(生活協同組合	2.1.4 必要な交通サー	る知識		
物品を家族等		等)e5650	ビスの選択を支援す	・心身の状況に応じた		
に頼み、手に入			ることができる	交通サービス選択につ		

れることができる	2.5 一般的な社会 的支援サービス(買い物や家・交通なりでである。 が、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、できまででは、できまででは、できまででは、できます。 では、できません。では、できません。では、できません。できません。できません。できません。できません。できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、できません。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	べき物品を見つけることができる2.1.6 物品をレジまで持っていくための支援ができる2.2.1 インターネット等で適切なサイトの利用を提案できる2.2.2 インターネット注文の支援ができる	・店舗内の安全な誘導 に関する技術2.2.1~3・インターネットの利
3. る 3- 女 る 3 - ソ 等 で ま る 3 - 1 い り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が り - が か か か か か か か か か か か か か か か か か か	3.1 支払うための 資金 e1650 3.2 一般的な社会 的支援サービス(買い物や家事、交通な どに関しての公的 扶助) e5750	銭管理(お釣りやレシート)の確認ができる3.1.2 予算範囲内での金銭管理を支援できる3.1.3 消費頻度を把握し、適正量を提案できる	 経済状況に応じた金 銭管理の知識と技術 消費頻度と購入に関する知識 3.2.1 クレジットカードに 関する知識と技術 3.3.1~2 クーポンやポイント
4.運搬する 4-1 安全に 運搬するため の方法(自分で 運ぶのか、配送	4.1 運搬先までの 移動手段(バスや 車、車いす等) e1200,1201 4.2 公共の建物の 出入りの確保(自動	手段方法を提案する ことができる 4.2.1 自分で運搬する	4.1.1、4.2.1~3、 4.3.1 ・安全な運搬方法に関 する知識と技術 ・壊れ物の取り扱いに 関する知識

T	1			
か)を選択できる る 4-2 自分で	ドアや段差のない ドアの出入り口、点 字 、 標 識 等)	ービス選択の支援が できる 422 運搬の際 建物	4.4.1 ・配送業者に関する知 識	
4-2 自場を 自場を 運搬とる は は は は は は は は る は る な り る り る り る り る り る り る り る り る り る	字 e1500,1501 4.3 私用の建保 の出入りの確保 (自動式の一 プ, 幅等) e1550,1552 4.4 交通 e5400 4.5 一般的ビスス e5400 4.5 一般のビスス e5400 4.5 一般のビスス ら対して い物で関い に対して い物で関い に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し	4.2.2 運搬の際、建物への出入り等安全の出入り等安全を表してきる。4.2.3 壊れ物等いできる。4.2.3 壊れ物高にできるにできる。4.3.1 家族等へできる。4.4.1 適切な配送業の説明な配送業を提案できる。4.4.1 適切な配送業	談	
5.貯蔵する 5-1 貯蔵のための適切な場所がわかる 5-2 適切に貯蔵方法を選ぶ ことができる 5-3 使用時を 考慮したができる することができる	5.1 貯蔵にかかわる手法(マニュアル、特別なコンピューター機器等)e1300,1301	5.1.1 安全に貯蔵する ための場所を確認で きる 5.1.2 貯蔵場所を選ぶ ための支援ができる 5.1.3 貯蔵にかかわる 手法、取り扱いの支援 ができる 5.1.4 使用する際のこ とも考えた貯蔵方法 を支援することができる	5.1.1.~4 ・安全な貯蔵方法に関する知識 ・賞味消費期限に関する知識 ・片付け(整理整頓) の技術 ・在庫管理に関する知識と技術	

d6201 日常必需品の収集 gathering daily necessities

代金を払わずに、日々の生活に必要な物品とサービスを収集すること(人に指示し、監督することによって日用品を収集することを含む)。例えば、野菜や果物を収穫すること、燃料や水を入手しておくこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1.収集 は は は は は は は は は は は ま で ま で ま ま で ま る る る る る る る る る る る る	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難 50- 95%	1.1 収集すべき物 品の情報収集のためのコミュニケーションサービス(電話、ファックス、メール等) e5350 1.2 メディアサービス(新聞、インターネット等) e5600	1.1.1 物品を選択する 上での情報収集の支援ができる 1.1.2 情報を得るための情報伝達用具(補聴器等)の取り扱いについて支援ができる 1.2.1 多くの情報の中から、希望物品を選ぶための取捨選択の支援ができる	1.1.1.~2 ・収集する物品に関する知識 ・収集する物品に関する情報収集の技術 ・情報伝達用具(補聴器等)に関する知識 ・物品(品質の良し悪し)に関する知識
2. 物る 2-1) () 等と 2-2 をす法る 2-2 () () 等と 2-2 収るを 3 () 収収ので です () 等とで的収ので です () 等は () がりかって です () がった (完全な 困難 96- 100%	2.1 交通サービス (鉄道等の公共・ 私的交通) e5400 2.2 一般的な社会 的支援サービス(通 い物や関してでの公 大助) e5750 2.3 収穫するため の人的支援(東間、 農家等の専門職) e310 e315 e320 e325 e355	2.1.1 収穫先までの安全を表する支援ができるを表ができる。 2.1.2 必選ができるが要なをある。 2.2.1 心安をあるのででである。 2.2.2 では、 2.2.2 では、 2.2.2 では、 2.2.2 では、 2.3.1 では、 2.3.	2.1.1~3・ り り の が 別 に 応 に に と で で の が 別 に 応 に に 関 す る の が 別 が ア 交 知 か り か で の が い が い が い が い が い が い が い が い が い が
3.1 かす択る搬全ころ依るる。1.1 す法の依配るで2 すにと3 頼こ運安る自か、頼送のき自る運が家しと報全た分家すをかる 分島 搬で族運びないる 選をでんすき チャック ではる 選をである みずき の 選等の 沢選 運安る へすき		3.1 運搬先までの 移動手段(バスや車 等) e1200,1201 3.2 公共の建物の 出入りの確保(のな) ドアや段差の口等 e1500,1501 3.3 私用の建物へ の出入りの確保 (廊下幅等) e1550,1552 3.4 交通サービス e5400 3.5 一般的な社会 的支援サービス の支援サービス の支援な	3.1.1 物品を運搬するるまでである。3.2.1 物品を運搬するる。3.2.1 物品を運搬で安全に受けて安全に受ける。3.2.1 で安全に受ける。3.2.2 運搬のの等のののののののののののののののののののののののののののののののののの	3.1.1、3.2.1~6、3.3.1、3.4.1 ・安全な運搬方法に関する知識と技術・収穫した物に関する知識 ・投援・ ・農療の専門職との連携 ・連携 ・直に関する知識 ・農業者に関する知識

3-4 専門の配 送業者に依頼 し、運搬するこ とができる	どに関しての公的 扶助) e5750 3.6 運搬するため の人的支援(家 族、親族、友人、 仲間、配送等の専 門職)e310 e315 e320 e325 e355	いて適切に運搬できる 3.2.5 運搬の際、荷館 3.2.5 運搬の際、荷館 認ができる 3.2.6 運搬の際、荷店 3.2.6 運搬の際、 3.3.1 運搬を家族できる 3.3.1 運搬を家族できる 3.4.1 適切な配送る 3.4.1 適切なする ができる		
4. 貯蔵する 4-1 蔵 4-1 臓 切 切 に 3 は 5 で も 1 で まる 4-1 歳 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1		4.1.1 安全に貯蔵する ための場所を確認で きる 4.1.2 安全な貯蔵場所 を提案できる 4.2.1 貯蔵場所を選る 4.2.1 貯蔵場ができる 4.2.2 貯蔵にかかり、で 大めの支援ができる 4.2.2 貯蔵にかかり、で も、(マニュアル)、で も、(マニュアル)、で も、(マニュアル)、で も、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1	4.1.1.~2、4.2.1~2、4.3.1 ・安全な貯蔵場所に関する知識 ・貯蔵方法に関わるマニュアル等に関する知識 ・片付け(整理整頓)の技術 ・収穫した物に適した 貯蔵方法に関する知識	

家事 household tasks (d630-d649)

d630 調理 preparing meals

自分や他人のために、簡単あるいは手の込んだ食事を計画し、準備し、調理し、配膳すること。 例えば、献立を立てること、飲食物を選択すること、食事の材料を入手すること、加熱して調理すること、冷たい飲食物を準備すること、食べ物を配膳することなどによって、それを行うこと。含まれるもの:簡単あるいは手の込んだ食事の準備。

除かれるもの: 食べること (d550), 飲むこと (d560), 物品とサービスの入手 (d620), 調理以外の家事 (d640), 家庭用品の管理 (d650), 他者への援助 (d660)。

d6300 簡単な食事の調理 preparing simple meals

少数の材料を用いて、簡単に準備や配膳ができるような食事を準備し、調理し、配膳すること。 例えば、軽食や小皿料理を作ること。米やポテトのような食べ物を切ったり、かきまぜたり、 ゆでたり、加熱して食材を加工すること。

①人として具	ICF	(A) を加工すること。(2) ① に直接関係	③先の支援を行うため	金支援行動に必要な技	備
体的行動(行	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	術・知識	考
動の要素・因	評価点		能力)		
子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し 0-4%				
 1.食事の準備	軽度の	 1.1 食品の在庫	 1.1.1 食品の在庫を確	1.1.1~1.3.1	
ができる	困難	e1100	記し、賞味期限や鮮度を	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
1-1 食材の	5-	1.2 レシピ検索が	見て消費すべき食品を	する知識	
在庫を確認	24%	できる本やデバイ	提案できる	食事に関するアセス	
し、賞味期限	中等度	ス(PC・タブレッ	1.1.2 本人の意向、疾患	メントの技術	
や鮮度を見て	の困難	ト・スマートフォン	やアレルギーなどに応	・一般的な栄養に関す	
消費すべき食	25-	など) e1300	じて食品を選択する支	る知識	
材を判断でき る	49% 季度の	1.3 キッチンの環	援ができる 1.2.1 料理と調理方法	・食事のコントロールが必要な疾患に関する	
1-2 どのよ	重度の 困難	境 e1551 	T.Z.I 科理C調理力法 を提案することができ	が必要な狭思に関する 知識	
うな料理を作	50-		と版本	^ 過 • 一般的な調理に関す	
るか決めるこ	95%		1.3.1 調理がしやすい	る知識と技術	
とができる	完全な		ようにキッチンの環境		
1-3 簡単な	困難		を整えることができる		
調理に必要な	96-				
食材を揃えることができる	100%				
CCN. (90					
2.調理をする		2.1 調理のために	 2.1.1 食品に応じて、必	2.1.1~2.2.1	
ことができる		揃えた食品	要な下ごしらえの方法	一般的な調理に関す	
2-1 食材の		e1100	を説明できる	る知識と技術	
下ごしらえが		2.2 調理器具	2.1.2 調理の一連の行為	・咀嚼や嚥下障害のあ	
できる		e1150	のうち、本人が行うこと	る人に適した調理の技	
2-2 加熱や		2.3 キッチンの環	が可能な行為を促すこ		
味付けなどをして料理を完		境 e1551	とができる 2.1.3 本人の好みや身体	・調理に必要な福祉用具(自助具)に関する知	
成させること			2.1.3 本人の好みや身体 状況に合わせて塩分や	呉(日助兵/に関9の知 識	
ができる			カロリーを考えた味付	^哦 ・調理に必要な福祉用	
			けができる	具を扱う技術	
			2.2.1 調理器具、自助具	・食事制限等に合わせ	
			の使い方を説明できる	て味付けの加減をする	
				技術	
3.配膳ができ		 3.1 調理済みの料	 3.1.1 完成した料理の温	3.1.1~3.2.2	
3.配腊がてる		3.1 調理済みの科 理 e1100	3.1.1 元成した科珪の温 度や量に応じて器を選	3.1.1~3.2.2 ・食事動作に関するア	
3-1 盛り付		3.2 食器やカトラ	投で量に応じて品を送 択できる	セスメントの技術	
けができる		リー e1150			

3-2 食卓に		3.2.1 料理、本人の食べ	・食事に必要な福祉用	
箸、スプーン、		やすさを考慮して箸、ス	具に関する知識	
フォークなど		プーン、フォークなどを		
を配置し食事		選択できる		
のセッティン		3.2.2 本人が使いやすい		
グができる		ように箸、スプーン、フ		
		ォークなどを食卓に配		
		置できる		

d6301 手の込んだ食事の調理 preparing complex meals

多数の材料を用いて、手の込んだ方法で準備や配膳するような食事を計画し、準備し、調理し、配膳すること。例えば、フルコースメニューを計画すること。皮をむいたり、スライスしたり、混ぜたり、こねたり、かきまぜる行為を組み合わせて食材を加工すること。その場の状況と文化にふさわしいマナーで食事を提供し配膳すること。除かれるもの:家庭用器具の使用(d 6403)。

0+00/ 0					
①人として	ICF	②①に直接関係する環	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
具体的行動	の共通	境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
(行動の要	評価点		(介護能力)		
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.食事を計画	軽度の	1.1 自宅など調理場所	1.1.1 食品の在庫を確	1.1.1~1.4.2	
することが	困難	にある食品の在庫	認し、賞味期限や鮮度	• 食材の管理方法に関	
できる	5-	e1100	を見て消費すべき食	する知識	
1-1 献立を	24%	1.2 レシピ検索がで	材を提案できる	・献立の決め方に関す	
立てること	中等度	きる本やデバイス	1.1.2 コストを考えて	る知識	
ができる	の困難	(PC・タブレット・ス	献立、調理法を提案で	・食品、調味料の値段	
1-2 食事を	25-	マートフォンなど)	きる	や調理にかかる電気、	
する人数、時	49%	e1300	1.1.3 本人の意向や、	ガス代などに関する	
間を確認し	重度の	1.3 食事の時間	疾患、アレルギーなど	知識	
調理の段取	困難	e2450	に応じて献立の提案	食事に関するアセス	
りを考える	50-	1.4 一緒に食事をする	ができる	メントの技術	
ことができ	95%	人	1.2.1 食材の在庫をも	・一般的な栄養に関す	
る	完全な	e310,315,320,325	とに、どのような料理	る知識	
	困難		を作れるか選択肢を	食事のコントロール	
	96-		提案できる	が必要な疾患に関す	
	100%		1.2.2 気温に応じて温	る知識	
			かい料理、冷たい料理	・咀嚼や嚥下障害に適	
			などの調理法を提案	した調理方法の知識	
			できる	と技術	
			1.2.3 旬の食材をとり	・食事の場面や目的に	
			入れた献立を提案で	応じた献立を考える	
			きる	ことができる知識	

4.配膳ができる 4-1 料理で とに器を選	 4.1 調理済みの料理 e1100 4.2 食器やカトラリ - e1150	きるように自助具の使い方を説明できる4.1.1 完成した料理の温度や量に応じて器を選択できる	4.1.1~4.3.1 ・食事動作に関するア セスメントの技術	
3.こる3下が3一位な理とますで、材ら、立き献て番すです。 はいき がっき かいしき がっき かいしき がいしき がいしき がいしき がいしき がいしき がいしき かいしゃ はいじゅう かいしゅう はいじょう はいしゅう しゅう はいしゅう はい	3.1 調理のために揃えた食品 e1100 3.2 調理器具 e1150 3.3 調理のための福祉 用具 e1151 3.4 キッチンの環境 e1551	3.1.1 食品にいる 高にいる 3.1.2 調理の一人が 高の方子のででしたがののからでです。 3.1.3 本人のかけでである。 3.1.3 本人のかけでである。 3.1.4 献序を引いてでででいる。 3.1.4 献序をあるでは、 3.1.4 献序をあるでは、 3.1.4 献序をあるでは、 3.1.5 では、 3.2.1 調理のできる。 3.3.1 本人が調理をできる。 3.3.1 本人が調理をできる。 3.3.1 本人が調理をできる。	3.1.1~3.3.1 ・一般的な調理に関する知識と技術・咀嚼や嚥下障害のある技術・調理に必要な福祉用具(調理に必要な福祉用具を扱制限の対策・100円の対策・100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現しための対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現しためのがでは、100円の対策を表現しための対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円のでは、100円の対策を表現した。100円の対策を表現した。100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円の対策を表現しためのでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円のでは、100円ので	
2.を が 2-1 に 材 こる	2.1 自宅など調理場所 にある食品の在庫 e1100 2.2 キッチンの環境 e1551	る人数、食事をするもの情報をする。 の情できる。 1.4.2 一意の合き。 1.4.2 一意の合き。 1.4.2 一意の合き。 2.1.1 アレスが理がある。 2.2.1 調に整める。 2.2.1 調に整める。 2.2.1 は境をある。 2.2.1 がいまる。 2.2.1 がいまる。 2.2.2 がいまる。 2.2.1 がいまる。 2.2.2 がいまる。 2.2 がいまる。		
		1.3.1 食事時間や本人 の食習慣に合った献 立を提案できる 1.4.1 一緒に食事をす		

び盛り付け	4.3 一緒に食事をする	4.2.1 食べやすさを考	・食事に必要な福祉用	
ることがで	人	慮して箸、スプーン、	具に関する知識	
きる	e310,315,320,325	フォークなどを選択	・テーブルコーディネ	
4-2 食卓に		できる	ートに関する知識と	
箸、スプー		4.2.2 本人が使いやす	技術	
ン、フォーク		いように箸、スプー		
などを配置		ン、フォークなどを食		
し食事のセ		卓に配置できる		
ッティング		4.3.1 食事をする人数		
ができる		に応じて食器やカト		
		ラリーを適切な位置		
		に配置できる		

d640 調理以外の家事 doing housework

家の掃除,衣服の洗,家庭用器具の使用,食料の貯蔵,ゴミ捨てによる家事の管理。例えば,床を掃く,モップがけ,カウンターや壁などの表面の洗浄。家庭ゴミを集め捨てること。部屋やクロゼット,引き出しの整頓。衣服を集めたり,洗,乾燥,たたむこと,アイロンかけ。 磨き。ほうきやブラシ,掃除機の使用。洗機,乾燥機,アイロンなどの使用によって,それを行うこと。含まれるもの:衣服や衣類の洗と乾燥,台所の掃除と台所用具の洗浄,居住部分の掃除,家庭用器具の使用,日常必需品の貯蔵,ゴミ捨て。

除かれるもの:住居の入手(d610),物品とサービスの入手(d620),調理(d630), 家庭用品の管理(d650),他者への援助(d660)。

d6400 衣服や衣類の洗濯と乾燥 washing and drying clothes and garments

衣服や衣類を手で洗 し、空中に掛けて乾かすこと。

①人として 具体的行動 (行動の要 素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する 環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 手洗いながなける カーカー である カーカー である カーカー である できる こう はん こう	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難	1.1 衣類 e1150 1.2 メディアサービス (インターネット等) e5600 1.3 家族・専門職者・業 者 e310 e350	1.1.1 手洗いする衣類 の選別を支援できる 1.1.2 選択方法が分からない場合、調べることを支援できる 1.1.3 便や嘔吐物が付着している衣類は、感染症対策への説明ができる	1.1.1~2、1.2.1 ・手洗いに関する知 識と技術 ・洗濯業者に関する 知識 ・感染対策に関する 知識と技術	

	1	I			
1-2 専門業	50-		1.2.1 手洗い可能が判		
者へ出す	95%		別不能の場合、専門の		
	完全な		業者へ出すことを提案		
	困難		できる		
	96-				
2. 衣服や衣	100%	2.1 衣類、タライ、洗剤	2.1.1 適温を確認でき	2.1.1~3	
類に適した		e1150	る	・洗濯に適した水温、	
湯温を準備		2.2 給水設備、排水設	_		
する		備、作業台、洗い場		・手洗い用洗剤に関	
2-1 衣類に		e1551	2.1.3 手洗い用の洗剤		
道した温度		61001	という チがい 内のが削り を提案できる	9 0 VIIII	
			グ焼米(ひる		
の水を用意					
できる					
2-2 手洗い					
に必要な水					
の量を用意					
することが					
できる					
2-3 衣類に					
適した洗剤					
を選ぶこと					
ができる					
3. 衣服や衣		3.1 衣類、タライ、洗剤	3.1.1 衣類にあった洗	3.1.1~3	
類を洗う		e1150	い方(もみ洗い、押し洗	・手洗いの知識と技	
3-1 適切な		3.2 給水設備、排水設	い等)を提案できる	術	
洗い方(も		備、作業台、洗い場	3.1.2 適した洗剤の量	・ 手洗い用洗剤に関	
み洗い、押		e1551	を提案できる	する知識	
し洗い等)			3.1.3 洗う時間を提案		
を判断でき			できる		
る					
3-2 適した					
洗剤の量を					
判断できる					
3-3 適切な					
時間洗うこ					
とができる					
4. 衣服や衣		4.1 衣類、タライ	 4.1.1 すすぎをするた	4.1.1	
類をすすぐ		e1150	めの適切な水量や回数		
4-1 必要な		4.2 給水設備、排水設	を提案できる	識と技術	
水量ですす		4.2 船が設備、排が設 備、作業台、洗い場			
小里にする		m、1F来ロ、元V1場 e1551			
きる					
4-2 適切な					
回数すすぎ					
ができる					

5. 衣服や衣 類を絞る 5-1 適度な 圧で、衣類 等を絞るこ とができる	5.1 衣類、タライ e1150 5.2 給水設備、排水設 備、作業台、洗い場 e1551	5.1.1 適度な圧で絞る ことができているか確 認できる 5.1.2 できる限り水分 を除くことができてい るか確認できる	5.1.1 2 ・脱水に関する知識と技術
6. 類 6-1 所と 2 不 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	6.1 衣類、物干し、ハンガー等 e1150 6.2 給水設備、排水設備、作業台 e1551 6.3 気候、湿度、日光等 e2250 2251 e2400	6.1.3 干す際に、乾い た後のしわ等に配慮し	6.1.1.~4 ・衣服が乾きやすい環境に関する知識 ・衣類に適した干し方に関する知識と技術 ・干し方のアセスメント技術

d6401 台所の掃除と台所用具の洗浄 cleaning cooking area and utensils

調理後の後片づけ。例えば、皿、鉢、鍋、調理道具を洗うこと。調理や、食事の場所のテーブルや 床を掃除すること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係する	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行	の共通	環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
動の要素・因	評価点		護能力)		
子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.作業台を雑	軽度の	1.1 清掃用道具(雑巾	1.1.1 作業台を拭くた	1.1.1~1.3.4	
巾で拭くこと	困難	等)e1150	めの雑巾であることの	・作業台の掃除と用	
ができる。	5-	1.2 改造や特別設計が	確認ができる	具の洗浄に必要な心	
1-1 雑巾を	24%	なされた清掃用道具	1.1.2 作業台を拭くた	身状態のアセスメン	
洗って絞るこ	中等度	(雑巾絞り器等)	めの雑巾が選択できる	ト知識	
とができる	の困難	e1151	よう支援できる	・作業台の掃除と用	
(手首をひね	25-	1.3 台所(給水設備、排	1.2.1 雑巾絞りの道具	具の洗浄に必要な心	
ることができ	49%	水設備、作業台、洗い	が正しく使えているこ	身状態のアセスメン	
る)	重度の	場)e1551	との確認ができる	ト技術	
1-2 雑巾を	困難		1.2.2 雑巾絞りの道具		
ある程度の圧	50-		が正しく使えるよう支	・作業台の掃除に必	
	95%		援できる	要な用具の知識	

をかけて拭くことができる	完全な 困難 96- 100%	2.1 台所(給水設備、排		
は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで		水設備、洗い場) e1150 e1551 2.2 清掃用道具(食器 洗剤、食器洗浄機等) e1150 e1151 2.3 台所用具(皿、鉢、鍋、調理道具等) e1150 e1551	は、できる台きる食がと、食が援、購、メ、し認、しる、分認、分が、のおいで、でき、で、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、こ	・台所の構造と設備 に関する知識 ・台所の構造と設備 を使用できる技術 ・清掃用具に関する 知識 ・清掃用具を使いこ なす技術 ・食器洗浄機に関す る知識

3.洗浄済みの 3.1 台所(キッチンキ 3.1.1 指定の場所を覚 3.1.1~3.2.3 台所用具を指 ャビネット等)e1551 えているかどうかの確 ・台所用具の収納場 3.2 用具(乾いた雑巾 所や収納方法に関す 定の場所に戻 認ができる すことができ る知識 or 食器乾燥機)e1150 3.1.2 指定の場所が分 かりやすいように支援 • 台所用具の収納場 る。 3-1 指定の することができる。 所や収納方法を工夫 場所が分か 3.1.3 3.2.1 水気の できる技術 ない台所用具を指定の る。 3-2 水気の 場所に戻すことができ ない台所用具 ているかの確認ができ を指定の場所 3.1.4 3.2.2 に戻すことが できる。 水気のない台所用具を 指定の場所に戻すこと ができるよう支援がで きる。 3.1.3 3.2.3 台所用具や指定場所の 変更等の提案ができ 4.食事の場所 4.1 清掃用道具(雑巾 $4.1.1 \quad 4.2.1 \quad \mathcal{F} = \mathcal{I} \quad 4.1.1 \quad \sim \quad 4.1.11 \quad \mathcal{I}$ のテーブルや や床清掃用具・機械等) ルを拭くための雑巾で 4.2.1~4.2.4 e1150 e1551 あることの確認ができ ・清掃用具に関する 床を掃除する ことができ 4.2 家具(テーブル、椅 知識 4.1.2 4.2.2 テーブ る。 子)e1150 e1551 清掃用具を使いこ 4-1 雑巾を 4.3 台所(給水設備、排 ルを拭くための雑巾が なす技術 水設備、洗い場) 選択できるよう支援で 洗って絞るこ ・清掃用具や清掃機 e1150 e1551 とができる きる 械に関する知識 (手首をひね 4.1.3 雑巾絞りの道具 清掃用具や清掃機 ることができ が正しく使えているこ 械が使える技術 ・ 清掃用具や清掃機 る) との確認ができる 械のメンテナンス技 4-2 テーブ 4.1.4 雑巾絞りの道具 が正しく使えるよう支 ルを雑巾でき れいに拭くこ 援できる。 とができる 4.1.5 雑巾絞り道具の 4-3 床を雑 購入を提案することが 巾で拭くこと できる。 ができる 4.1.6 使い捨ての雑巾 を渡すことができる 4-4 床を用 具や機械(ル 4.3.1 汚れた雑巾を適 時洗えていることの確 ンバ等)等を 使ってキレイ 認ができる。 にすることが 4.3.2 汚れた雑巾を適 できる 時洗えるように支援が できる

	4.1.7 4.2.3 テーブ	
	ルを雑巾できれいに拭	
	けていることの確認が	
	できる	
	4.1.8 4.2.4 テーブ	
	ルを雑巾できれいに拭	
	けるよう支援ができる	
	4.1.9 床を清掃用具も	
	しくは機械を使ってキ	
	レイにしていることの	
	確認ができる	
	4.1.10 床を清掃用具	
	もしくは機械を使って	
	キレイにしていること	
	の確認ができる	
	4.1.11 清掃用具や機	
	械のメンテナンスがで	
	きる	
	C.0	
		1

d6402 居住部分の掃除 cleaning living area

家族の居住部分の掃除。例えば、整頓、清掃、床を掃く、雑巾がけ、床のモップがけ、窓や壁の清掃、浴室やトイレの清掃、家具調度を清掃。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する 環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 掃、 はいい はいか を はい がった に かい	軽度の 5-24% 中の日本 24% 中の日本 25-49% 重難 50-95% 気を 気を 気を 気を 気を 大きを 大きを のののでする。 気を のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 のののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののです。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでする。 ののでです。 ののです。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。 ののでで。	1.1 整頓するための人 的支援(家族、親族、友 人、仲間)e310e315 e320e325	1.1.1 掃除をするための確保を支援できる1.1.2 掃除をするための環境のできる1.1.3 物を戻するるができる1.1.3 物を戻するのできる1.1.4 家具調度等のできる1.1.4 家具調度等のできる1.1.4 家具調度等のできる1.1.4 なとを提案する	1.1.1~4 ・安全な環境整備に関する知識と技術 ・整理整頓の知識と技術 ・清掃業者に関する知識	

は、す 2. の 2 - 1 こ の 2 - 2 で お ト で お ト で お ト で い か い で さ る 2 - 2 で い か い で さ な と か い が は の に か に を と か い が は い が は い に か に か に か に か に か に か に か に か に か に	96-100%	2.1 清掃用道具(ほうき、モップ等)e1150 2.2 改造や特別設計がなされた清掃用道具(ルンバ等)e1151		2.1.1~2 2.2.1 ・安全な環境整備に 関する知識と技術 ・ほうもの使い方に 関する知識と技術 ・せる知識と技術 ・おいたで 関する知識と技術 ・おいたで の取り扱いに関する知 識
3. 別 3-1 き 2 対 3 - 2 対 3 - 2 対 3 - 2 対 3 - 3 も 3 - 4 や ス 依 が で 窓 で 家 拭 危 困 は 頼 で な な ん し る る ・ 4 や ス 依 が で ま さ い か ま き き 具 き 険 難 、 す き で な な ん し る る		3.1 清掃用道具(雑巾等)e1150 3.2 改造や特別設計がなされた清掃用道具 (雑巾絞り器等) e1151 3.3 水拭きするための 人的支援(家族、親族、 友人、仲間)e310 e315 e320 e325	3.1.2 適切な順番で拭 くことができているか 確認する	関する知識と技術
4. から拭き をする 4-1 水拭き 後、から拭き をすることが できる		4.1 清掃用道具(雑巾等)e1150 4.2 から拭きするため の人的支援(家族、親 族、友人、仲間)e310 e315 e320 e325		4.1.1~5 ・安全な環境整備に 関する知識と技術 ・から拭きの知識と 技術 ・清掃業者に関する 知識

d6403 家庭用器具の使用 using household appliances

あらゆる種類の家庭用器具を使用すること。例えば、洗機、乾燥機、アイロン、掃除機、皿洗い機を使用すること。

機を使用するの	°				
①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. (自動) 洗濯	軽度の	1.1 衣類 e1150	1.1.1 色物や過度な汚	1.1.1~4 1.2.1~	
機を使用する	困難	1.2 清掃用道具(洗濯	れ物の選別を確認する	4	
1-1 色物、過度	5-	ネット、洗剤、洗濯機	1.1.2 洗濯表示の説明	・衣服の素材に関す	
な汚れ物(嘔吐	24%	等) e1150	ができる	る知識	
物等も含む)、	中等度	e1151	1.1.3 便や嘔吐物が付	・洗濯表示に関する	
手洗い物の選	の困難		着している衣類は、感	知識	
別ができる(洗	25-		染症対策の説明ができ	・洗濯機に関する知	
濯表示を確認	49%		る	識	
することがで	重度の		1.1.4 洗濯機での選択	・洗濯洗剤等に関す	
きる)	困難		に不向きな衣服がない	る知識	
1-2 変形する	50-		か確認する	・感染対策に関する	
物は、洗濯ネッ	95%		1.2.1 変形の可能性が	知識と技術	
トに入れるこ	完全な		ある物は、洗濯ネット		
とができる	困難		に入っているか確認す		
1-3 洗濯機の	96-		る		
容量にあった、	100%		1.2.2 洗濯機の容量に		
洗濯物を入れ			対して、衣服の容量が		
ることができ			適切か確認する		
る			1.2.3 衣服に適した洗		
1-4 洗剤、漂白			剤等を選択できている		
剤、柔軟剤を入			か確認する		
れることがで			1.2.4 決められたコー		
きる			スの説明ができる		
1-5 決められ					
たコース(洗い					
方、時間、すす					
ぎの回数、脱水					
時間) のボタン					
を選択できる					
2. 乾燥機を使		2.1 衣類 e1150	2.1.1 乾燥機を使用で	2.1.1~2 2.2.1~	
用する		2.2 清掃用道具(乾燥	きる衣類かを確認する	2	
2-1 乾燥機を		機 等) e1150	2.1.2 洗濯表示の説明	・衣服の素材に関す	
使用できる衣		e1151	ができる	る知識	
類等を選別で			2.2.1 乾燥機の容量に	・洗濯表示に関する	
きる			対して、衣服の容量が	知識	
2-2 容量に適			適切(3/1程度)か確	・乾燥機に関する知	
した衣類等を			認する	識	

入れることが できる 2-3 決められ たコース(乾燥 方法、時間)の ボタンを選択 できる		2.2.2 決められたコ ースの説明ができる	
3.使3が等る3し択3っの択3必判3分分3ばイるる3の別1が等る3し択3っの択3必判3分分3ばイるる3のアすア要選 衣温き衣アけきあかで細らかしなンと ア源イるイな別 類度る類イ方るてどきか広けわがをが イダン 口衣で にを に口を 布うるいいるをらかで 口をを ン類き 適選 あン選 がか 部部 伸アけき ン	3.1 衣類 e1150 3.2 清掃用道具(アイロン、アイロン台、霧吹き、あて布、スプレーのり等) e1150 e1151	3.1.1 アイロンを確認する 3.1.2 洗濯表示の 3.2.1 ときる 表別できる 3.2.1 を表示の したる 3.2.2 ができる 3.2.2 がしたる 3.2.2 がしたる 3.2.3 いりにない である 3.2.3 にはける 3.2.4 はいかがら 3.2.4 はいかがら 3.2.4 はいかがら 3.2.5 ができます できます できます できます できます がいがい でしまが でしまが でしまが でしまが でしまが でしまが でしまが でします できます いっぱい できます いっぱい できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	・衣服の素材に関する知識・洗濯表示に関する知識・アイロンに関する知識・アイロンのかけ方
4. 掃除機を使 相で 相で は を は を は は は は は は は は は は は る は る は る	4.1 清掃用道具(掃除機等) e1150 4.2 掃除機を資料するた	4.1.1 掃除機を使用できるように環境整備ができているかできている物のを提案する) 4.1.2 掃除機の電源にあるができる。 神経の場合をはいるができる。 4.1.3 コードをしているができる。 4.1.3 は、 機の場合をできるができる。 4.1.4 掃除機をかける。 4.1.4 掃除機をかける。 4.1.4 掃除機をかける。 場所にあった。	4.1.1 ~ 4.1.8 4.2.1 ・片付け(整理整頓)の技術 ・掃除機に関する知識と技術 ・動線の確保や環境 整備の知識と技術

るかを確認し、 が選択できるよう支援 電源をいれる する 4-4 床材に適 4.1.5 掃除機を部屋の したメニュー 奥から手前にむけてか を選択できる けるように提案できる 4.1.6 場所にあった掃 4-5 部屋の奥 から手前にむ 除機のかけ方かどうか かってかける 確認する(畳、フローリ ことができる ング、絨毯等) 4.1.7 コード等に配慮 4-6 安全に掃 除機をかける しながら安全に掃除機 ことができる が使用できるように環 4-7 安全に掃 境整備の支援をする 除機かけるこ 4.1.8 室内の環境を判 とが困難な場 断し換気の支援ができ 合は、他者へ依 頼することが 4.2.1 安全に掃除機を できる かけることが困難な場 4-8 掃除終了 合、家族等へ依頼する 後、換気ができ ことを提案する 5. 皿洗い機を 5.1.1 皿洗い機を使用 5.1.1 できる食器かどうか確 5.2.1[~]5.2.6 使用する 5-1 皿洗い機 ・食器に関する知識 認する を使用できる 5.2.1 食べ残しや汚れ |・皿洗い機に関する 食器を選択で がある場合は、事前に 手洗い等で取り除いて ・皿洗い機用洗剤に きる 5-2 食べ残し おくように提案する 関する知識 5.2.2 皿洗い機の容量 や汚れを事前 に対して、食器類の容 に取り除くこ とができる 量が適切か確認する 5-3 皿洗い機 5.2.3 皿の間隔を適度 に合った量の にあける等、汚れが落 食器を入れる ちやすい入れ方を説明 ことができる できる 5-4 汚れが落 5.2.4 皿洗い機用の洗 ちやすい入れ 剤かどうか確認する 方ができる 5.2.5 適切な洗剤量か 5-5 皿洗い機 どうか確認する 用の洗剤を選 5.2.6 決められたコー 択し適量入れ スの説明ができる ることができ 5-6 決められ たコースのボ タンを選択す

ることができ			
る			

d6404 日常必需品の貯蔵 storing daily necessities

日々の生活に必要な食べ物,飲み物,衣服,その他の家庭用品を貯蔵すること。例えば,缶詰,塩づけや冷蔵などの方法で保存用食品を準備すること。食べ物を新鮮な状態で保管したり,動物の手が届かないところで保管すること。

	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	に休官すること。			
①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 必需品の賞	軽度の	1.1 賞味期限を調べ	1.1.1 賞味期限を把握	1.1.1	
味期限を確認	困難	るための用具(電話、	するための支援ができ	・賞味期限に関する	
する	5-	インターネット等)	る	知識	
1-1 食べ物等	24%	e5350	1.1.2 賞味期限が分か		
の賞味期限が	中等度	1.2 情報伝達を支援	らない場合、調べる支		
わかる	の困難	する用具(めがね等)	援ができる		
	25-	e1251			
	49%				
2. 必需品に適	重度の	2.1 保存方法を調べ	2.1.1 適した保存方法	2.1.1 2.2.1	
した方法で保	困難	るための用具(電話、	を調べるための支援が	・適した保存方法に	
存をする	50-	インターネット等)	できる	関する知識と技術	
2-1 必需品に	95%	e5350	2.2.1 適した温度で保		
適した保存方	完全な	2.2 保存するための	存する支援ができる		
法を選択する	困難	機器(冷蔵庫等)			
ことができる	96-	e1150			
	100%				
3. 必需品に適		3.1 保管方法を調べ	3.1.1 美味しく保存で	3.1.1~3.4.1	
した場所に保		るための用具(電話、	きる保管場所を選択す	・美味しく安全に保	
管する		インターネット等)	る支援ができる	管できる場所に関す	
3-1 必需品に		e5350	3.2.1 安全に保存でき	る知識	
適した場所を		3.2 保管するための	る保管場所を選択する	・ 衣類の適切な収納	
選び保管する		家具(洋服ダンス、カ	支援ができる	方法に関する知識	
ことができる		ギ付きの棚、保管庫	3.3.1 害虫から衣服を		
		等) e1150	守る支援ができる		
		3.3 洋服ダンス等	3.4.1 衣服等を日焼け		
		e1150	やカビ等から守る支援		
		3.4 気候、湿度 、日	ができる		
		光等 e2250 2251			
		e2400			

d6405 ゴミ捨て disposing of garbage

家庭のゴミを捨てること。例えば、家の周りのゴミやくずの集積、始末するゴミの準備、ゴミ処理機の使用、ゴミの焼却。

生機の使用, -		710			
①人として具	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 始末するゴ	軽度の	1.1 ゴミを集めるた	1.1.1 効率よく安全に	1.1.1~2 1.2.1	
ミを集める	困難	めの清掃用の用具(ほ	ゴミを集めるための用	・清掃用具に関する	
1-1 ゴミを始	5-	うき、ちりとり等)	具選択の支援ができる	知識	
末する上で、適	24%	e1150	1.1.2 清掃用具の使い	・掃除方法に関する	
切な用具を選	中等度	1.2 ゴミを集めるた	方の支援ができる	技術	
ぶことができ	の困難	めの人的支援(家族、	1.2.1 ゴミの大きさや	・ゴミ処理の専門業	
る	25-	親族、友人、仲間、サ	量によっては、人的支	者に関する知識	
1-2 適切な場	49%	ービス提供者)e310	援の必要性を確認する		
所へゴミを集	重度の	e315 e320 e325			
めることがで	困難	e340			
きる 1-3 ゴミの大	50-				
きさや量によ	0070				
って、他者へ依	完全な				
頼することが	困難				
できる	96-				
660	100%				
 2. ゴミを分別		 2.1 分別方法等を調	 2.1.1 ゴミの分別方法	2.1.1~2 2.2.1	
する		べるためのコミュニ	を支援することができ	・ゴミの分別方法に	
2-1 収集した		ケーションサービス	る	関する知識と技術	
ゴミを、分別す		(インターネット等)	2.1.2 分別方法が分か	・ゴミの出し方に関	
ることができ		e5350	らない場合、問い合わ	する知識と技術	
る		2.2 ゴミを分別する	せ調べることを提案す		
2-2 分別後、決		ための人的支援(家	る		
められた袋に		族、親族、友人、仲間、	2.2.1 ゴミの出し方を		
入れ、口を結ぶ		サービス提供者)	支援することができる		
ことができる		e310 e315 e320	(決められた袋、シー		
2-3 分別方法		e325 e340	ル添付、口を結ぶ、束ね		
が分からない			る等)		
場合、調べて聞					
くことができ					
る					
3. ゴミを決め		3.1 ゴミを出すため	3.1.1 各ゴミの収集	3.1.1~3	
られた日時・場		の人的支援(家族、親	日、場所を説明するこ	・ゴミの収集日時、場	
所へ出す		族、友人、仲間、サー	とができる	所に関する知識	
3-1 各ゴミに		ビス提供者) e310		・消費頻度と購入に	
よって決めら				関する知識	

-				
れた曜日、時	e315 e320 e325	3.1.2 ゴミの大きさや	・ゴミ処理の専門業	
間、場所へ出す	e340	量によって、家族等の	者に関する知識	
ことができる	3.2 ゴミを焼却する	支援を提案できる	3.2.1~3	
3-2 ゴミを自	ための用具(ライタ	3.1.3 ゴミの量や大き	・安全な焼却場所の	
分で焼却する	ー、トング、消火用バ	さ、重さによって、専門	知識	
	ケツ等)e1150	業者等を提案できる	・安全な焼却方法の	
		3.2.1 安全に燃やせる	知識と技術	
		場所を提案できる		
		3.2.2 燃やして良い物		
		の判断を支援できる		
		3.2.3 安全に燃やすた		
		めの環境整備を支援で		
		きる(消火のための水、		
		灰の処理等)		
				l
4. ゴミ処理機	4.1 ゴミ処理機	4.1.1 ゴミ処理機の夕	4.1.1~4.1.3	
4. ゴミ処理機 を使い、ゴミを	4.1 ゴミ処理機 e1150	4.1.1 ゴミ処理機のタイプによって、処理可		
			・ゴミ処理機の種類	
を使い、ゴミを		イプによって、処理可	・ゴミ処理機の種類	
を使い、ゴミを 捨てる		イプによって、処理可 能かどうかの判別の支	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる 4.1.2 分解しやすい	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か る		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる 4.1.2 分解しやすいように、小さく細かく	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か る 4-2 分解しや		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる 4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができ	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か る 4-2 分解しや すい状態にし		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる 4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができる	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か る 4-2 分解しや すい状態にし て入れること		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる 4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができる 4.1.3 ある程度の圧力	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分か る 4-2 分解しや すいれる て入れきる		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができる4.1.3 ある程度の圧力をかけ、ゴミの水分を	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、ゴミを 捨てる 4-1 処理でき るものが分かる 4-2 分解しや すいれる ができ 4-3 水分を切		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができる4.1.3 ある程度の圧力をかけ、ゴミの水分を	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	
を使い、 さき 4-1 処理で分かる 4-2 がのる 4-2 がいれるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいる		イプによって、処理可能かどうかの判別の支援ができる4.1.2 分解しやすいように、小さく細かくするための支援ができる4.1.3 ある程度の圧力をかけ、ゴミの水分を	・ゴミ処理機の種類 についての知識 ・ゴミ処理機の使い	

家庭用品の管理および他者への援助

caring for household objects and assisting others d650-d669)

d650 家庭用品の管理 caring for household objects

家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。その家庭用品等には、家とその内部、衣服、乗り物、福祉用具や、植物と動物の世話を含む。例えば、部屋の壁のペンキ塗り、壁紙貼り、家具の配置。配管の修理。乗り物が正常に動く状態に保っておくこと。植物の水やり、ペットと家畜の毛づくろいや、餌をあげること。

含まれるもの: 衣服の作製と補修。住居, 家具, 家庭内器具の手入れ。乗り物の手入れ。福祉用 具の手入れ。屋内外の植物の手入れ, 動物の世話。

除かれるもの:住居の入手(d610),物品とサービスの入手(d620),調理以外の家事(d640),他者への援助(d660),報酬を伴う仕事(d850)。

d6500 衣服の作製と補修 making and repairing clothes

衣服の作製と補修。例えば、衣類の縫製、製作、修繕。ボタンやファスナーの付け直し。衣類のアイロンがけ。靴の修繕、靴磨き。除かれるもの:家庭用器具の使用(d6403)。

①人として具		② ①に直接関係	③先の支援を行うため	I	備
体的行動(行動		する環境因子	の具体的介護行動(介護		考
の要素・因子)	評価点		能力)	110 7 207	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 衣服の修繕	軽度の	1.1 衣類 e1150	1.1.1 清潔な衣類を用意	1.1.1~1.4.2	
ができる	困難	1.2 ボタン・糸	することができる	・更衣に関わる心身状	
1-1 汚れを落	5-	e1150 1350	1.1.2 衣類の汚れを落と	態のアセスメント知識	
とすことがで		1.3 ボタン・糸・	すことができる	・着脱行為に関する技	
きる	中等度		1.1.3 衣類を汚染しない		
1-2ボタンの	· —· · —	e1150 1350	ようにすることができ	•衣類の管理•補修に関	
つけ直しがで	25-	1.4 家族•専門職	る 	する知識	
きる	49%	者・業者 e310	1.2.1 ボタンをつけるこ	・衣類の管理・補修に必	
1-3かぎ裂き	重度の	e350	とができる	要な支援技術	
などの直しが	困難		1.2.2 サイズにあったボ		
できる 1-4 自分でで	50-		タンを用意することが できる	携	
きるかどうか	0070		CCO 1.2.3 利用者の心身状況		
判断する	完全な 困難		にあったボタンを選ぶ		
19019 0	96-		ことができる		
	100%		1.3.1 かぎ裂きを直すこ		
	10070		とができる		
			1.3.2 あて布などで補修		
			ができる		
			1.4.1 できない部分を代		
			替することができる		
			1.4.2 業者への依頼をす		
			ることができる		
2. 衣服のアイ		2.1 衣類 e1150	2.1.1 しわのない衣類を	2.1.1~2.4.2	
ロンがけがで		2.2 アイロン・ア		・更衣に関わる心身状	
きる		イロン台 e1150		態のアセスメント知識	
2-1 アイロン		1350	きる	・着脱行為に関する技	
の温度管理が			2.2.1 素材にあった温度	術	
できる		修に必要な道具		•衣類の管理•補修に関	
2-2素材にあ		e1150 1350	2.2.2 アイロンでの火傷	する知識	
った温度でし		2.4 家族•専門職		・衣類の管理・補修に必	
わをのばせる 2-2 アイロン		者·業者 e310	できる	要な支援技術	
2-3アイロンがけした衣類		e350	2.2.3 使用したアイロン		
をハンガーに			を片付けることができ る。	携	
			`⊘∘		

	1		1	
吊るすことが		2.3.1 アイロンがけした		
できる		衣類の管理ができる		
2-4 自分でで		2.3.2 衣類の管理ができ		
きるかどうか		る		
判断する		2.4.1 できない部分を代		
		替することができる		
		2.4.2 業者への依頼をす		
		ることができる		
3. 衣類を薬品	 3.1 薬品・衣類	 3.1.1 汚染されていない	3.1.1~3.4.2	
			3.1.17°3.4.2 更衣に関わる心身状態	
で補修できる	e1150	安全な衣類を用意する		
3-1 薬品が管	3.2 薬品・補修に		のアセスメント知識	
理できる	必要な道具	3.1.2 薬品で補修ができ	・着脱行為に関する技	
3-2薬品で衣	e1150 1350	る	術	
類の汚れを落し	3.3 薬品・補修に	3.2.1 素材にあった薬品	•衣類の管理•補修に関	
とすことがで	必要な道具	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	する知識	
きる	e1150 1350	3.2.2 薬品による事故を	•衣類の管理•補修に必	
3-3薬品で靴	3.4 家族・専門職	防ぐことができる	要な支援技術	
の汚れを落と	者・業者 e310	3.2.3 使用した薬品を片	・薬品に関する知識	
すことができ	e350	付けることができる。	・専門職者・業者への連	
る		3.3.1 薬品で補修した衣	携	
3-4 自分でで		類の管理ができる		
きるかどうか		3.3.2 衣類の管理ができ		
判断する		る		
		3.4.1 できない部分を代		
		替することができる		
		3.4.2 業者への依頼をす		
		ることができる		
L	l		<u> </u>	

d6501 住居と家具の手入れ maintaining dwelling and furnishings

住宅とその外装や内装,内部を補修,手入れすること。例えば,ペンキ塗り,設備や家具の補修,補修に必要な道具の使用。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.外装を補修	軽度の	1.1 ペンキや補修	1.1.1 設備を見て補修	1.1.1~1.1.2	
することがで	困難	のための道具	の必要性を判断できる	外装の補修に必要な道	
きる	5-	e115	1.1.2 道具を正しく安	具の知識	
1-1 ペンキを	24%	1.2 出入口などの	全に使うための説明が	道具の使い方に関する	
塗ることがで	中等度	設備 e155	できる	知識と技術	
きる	の困難				

1-2 外装の設 2	25-			
備を補修する	49%			
ことができる	重度の			
	困難			
2.外装の状況 5	50-	2.1 点検や手入れ	2.1.1 外装を点検し、手	2.1.1~2.1.2
を保持するた S	95%	のための道具	入れの必要性を判断し	住宅外での安全な環境
めの手入れを	完全な	e115	提案ができる	に関する知識
することがで 🛭	困難		2.1.2 住居外の設備が	本人の日常生活の動線
きる	96-		安全に利用できるかど	を把握するアセスメン
2-1 点検をす 1	100%		うか判断ができる	トの技術
ることができ				
る				
2-2 小さな傷				
やネジの緩み				
などを直すこ				
とができる				
3.内装を補修		3.1 建物内の設備	3.1.1 内装や家具を見	3.1.1~3.1.2
することがで		e155	て補修の必要性を判断	内装や家具の補修に必
きる		3.2 ペンキや補	できる	要な道具の知識
3-1 壁紙を貼		修のための道具	3.1.2 道具を正しく安	道具の使い方に関する
りなおすこと		e115	全に使うための説明が	知識と技術
ができる			できる	
3-2 床の傷を				
補修すること				
ができる				
3-3 家具の傷				
や不具合を補				
修することが				
できる				
4.内装の状況		4.1 点検や手入れ	4.1.1 内装や家具を点検	4.1.1~4.1.2
を保持するた		のための道具	し、手入れの必要性を判	室内の安全な住環境に
めの手入れを		e115	断し提案ができる	関する知識
することがで			4.1.2 住居内の設備が	本人の室内での動線を
きる			安全に利用できるかど	把握するアセスメント
4-1 点検をす			うか判断ができる	の技術
ることができ				
る				
4-2 小さな傷				
やネジの緩み				
などを直すこ				
とができる				
5. 適切な道具		5.1 補修や手入れ	5.1.1 補修に必要な道具	5.1.1~5.1.2
を使用するこ		のための道具	を選定できる	安全な住環境に関する
とができる		e115		知識

5-1 補修箇所 に応じて道具 を選ぶことが できる 5-2 道具の使 い方を理解で きる	5.2 用途に合っ た道具や使い方を 調べるためのイン ターネットサービ ス e560	5.1.2 必要な道具について調べることができる	補修や手入れのための 道具の使い方に関する 知識、技術	
6. 自分ででき るか判断する ことができる 6-1 手順を確 認できる 6-2 自分でで きないと判した場合、他者 に依頼する とができる	6.1 補修や手入れ に関する情報を集 めるためのインタ ーネットサービス e560 6.2 建築・建設に 関するサービス e515	手順を確認し、個人で対応ができる範囲かどうかを判断できる 6.1.2 専門職に依頼す	住居の外装・内装や家	

d6502 家庭内器具の手入れ maintaining domestic appliances

調理,清掃,補修用のあらゆる家庭内の器具の補修や手入れをすること。例えば,道具に油を さして修理すること,洗濯機を手入れすること。

	l				
①人として具	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 調理器具の	軽度の	1.1 調理器具	1.1.1 調理器具の状態を	1.1.1~1.1.3	
手入れができ	困難	e115	確認することができる	調理器具の使い方に関	
る	5-	1.2 手入れのため	1.1.2 調理器具を正し	する知識	
1-1 調理器具	24%	の道具 e115	く安全に使うための説	調理器具を使うことの	
の補修ができ	中等度		明ができる	できる技術	
る	の困難		1.1.3 劣化や破損を確	心身の状態に合った調	
1-2 調理器具	25-		認し、交換の提案ができ	理器具を提案するため	
の使用限度を	49%		る	のアセスメント技術	
考慮し交換す	重度の				
ることができ	困難				
る	50-				
	95%				
2.清掃道具の	完全な	2.1 清掃道具	2.1.1 清掃道具の状態を	2.1.1~2.1.3	
手入れができ	困難	e115	確認することができる	清掃道具の使い方に関	
る	96-	2.2 手入れのた		する知識	
	100%	めの道具 e115			
				1	

2-1 清掃道具 の補修ができ る 2-2 清掃道具 の使用限度を 考慮し交換す ることができ る		2.1.2 清掃道具を正し く安全に使うための説 明ができる 2.1.3 劣化や破損を確 認し、交換の提案ができ る	清掃道具を使うことのできる技術 心身の状態に合った清 掃道具を提案するためのアセスメント技術
3.手る 3.のきるる 3.要すきのきる 3.のる 3.のきるる 3.0のきるる 3.00を	3.1 家電製品 e115 3.2 手入れのた めの道具 e115 3.3 修理のため の サービス e510	3.1.1 家電製品の状態を確認することができる 3.1.2 家電製品を正しく安全に使うための間ができる 3.1.3 劣化や破損を確認し、交換の提案ができる 3.1.4 修理のためのサービスに依頼するる をすることができる	家電製品の使い方に関 する知識
4.生活用品の 手入れがでる 4-1 生活用品 のる 4-1 生活のる 4-2 生活用品 を き を き と が で る 4-2 生用 り を り を う る も う る も う る る る る る る る る る る る る る	4.1 生活用品 e115 4.2 手入れのた めの道具 e115	4.1.1 生活用品の状態を確認することができる 4.1.2 生活用品を正しく安全に使うための説明ができる 4.1.3 劣化や破損を確認し、交換の提案ができる	生活用品の使い方に関する技術
5.自分ででき るか判断する ことができる 5-1 自分でで きないと判断 した場合、他者 に依頼するこ とができる	5.1 手入れのため の道具 e115 5.2 用途に合っ た道具や使い方を 調べるためのイン タネットサービス e560	5.1.1 手入れに必要な道 具を選定できる 5.1.2 必要な道具につ いて調べることができ る	5.1.1~5.1.2 手入れのための道具の 使い方に関する知識、 技術

d6503 乗り物の手入れ maintaining vehicles

個人的に利用するために、自転車、カート、自動車、ボートなど、動力つきの、または動力なしの乗り物を補修したり、手入れをすること。

①人として具体的行動(行動)の要素・因子) 2①に直接関係すの共通の要素・因子) ②先の支援を行うための具体的介膜行動(介質能力)の異素・因子) ②大はない ②大はない 1.1 (単文操と要しないしつ-4の修理交換を支援するととができる) 記入しない 1.1.1 タイヤやライトの修理交換を支援するととができる。 1.1.1 多イヤやライトの修理交換を支援するととができる。 1.2 (単理ための人がありなりをできる) 1.2 (単型ための人がありなりをできる) 1.2 (単型ための人がありなりをできる) 1.2 (単型によりのような) 1.2 (単型で換を支援するととができる) 1.2 (単型で換を支援するととができる) 1.2 (単型によりのような) 1.2 (単型によりのような) 1.2 (単型で換を支援するととができる) 1.2 (単型で換を支援するととができる) 1.2 (単型で換を支援するととができる) 2.1 (上を埋棄者を) 1.2 (単型を対しまする) 1.2 (単型によりのような) 1.2 (単型できると生産を) 2.1 (サールのような) 1.2 (単型の事所と対しまする) 2.1 (サールのような) 2	本的行動(行動 の 共通 の 要素・因子) 評価点 一		乡しにり,	士人们をすること。			, ,
西野本・因子) 評価点	四要素・因子 評価点 表表を要しない	①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
田野本 であります 記入しない 記入しない 記入しない であります でありま	困難なしの-4% 1.1 修理交換に要	体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術•知識	考
1. 自転車等 (動力無)の補 移径する	しつ-4% 1.1 自転車等 軽度の 1.1 修理交換に要する 1.2 修理であの人 1.2 修理をきる 1.2.1 適切な修理業者を 世交換の知識と技術 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1 1.2.1	の要素・因子)	評価点		能力)		
1. 自転車等 軽度の	1. 自転車等 (動力無)の補 修をする 5-		困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.1 自転車等 軽度の	1. 自転車等 (動力無)の補 修をする 軽度の (動力無)の補 修をする 1.1 修理交換に要 する用具 (タイヤ やライト) e120 ことができる ことができる ことができる 1.2 修理ための人 バンクを修理 する		し				
(動力無) の補	(動力無)の補 困難 する用具 (タイヤ やライト) e120 1-1 タイヤの 24% 1-2 ライトの でき の困難 25- 女換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する 21.1 タイヤの空気圧の を選び 25- 女の 25% 2.1 手入れ等に要 する用具 (タイヤ の空気入れやドラ カれをする 2-1 タイヤの 空気上を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1 補修ための人 3.1.1 8理の専門店を提 案できる 3.1.1 8 まできる 3.1.1 9		0-4%				
(参する	下の	1. 自転車等	軽度の	1.1 修理交換に要	1.1.1 タイヤやライト等	1.1.1	
1-1 タイヤの パンクを修理 する 24% 中等度 の困難 25- 49% 日-2 ライトの 変換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する 1.2 修理ための人 的支援(専門家) 6325 1.2.1 適切な修理業者を 提案できる 1.2.1 ・修理業者に関する知 謙 2. 自転車等 (動力無)の手 入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 回るさを確認 する 2-2 ライトの ゆるみを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 2-4 ブレーキの効きを確認 する 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 2.1.1 タイヤの空気圧の 確認を支援できる 2.1.2 ライトの球切れ等 の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる 2.1.1~4 ・自転車の手入れに関 する知識と技術 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店に関す る 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.2.1 車検の手続きを支 3.1.1 修理の専門店に関す る 4.2.1 車検の手続きを支	1-1 タイヤの	(動力無)の補	困難	する用具(タイヤ	の修理交換を支援する	タイヤやライトの修	
### の	パンクを修理 する中等度 の困難 1-2 ライトの 交換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する重度の 困難 50- 95%2.1 手入れ等に要 する用具(タイヤ の空気入れやドラ の空気入れやドラ の空気入れやドラ の空気上を確認 する 2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキの効きを確認 する 3.1 補修ための人提案できる に 2.1.1 タイヤの空気圧の 2.1.1 タイヤの空気圧の 2.1.2 ライトの球切れ等 の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさす等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる3.1.1 修理の専門店を提案できる3.1.1 修理の専門店を提案できる	修をする	5-	やライト) e120	ことができる	理交換の知識と技術	
3	する	1-1 タイヤの	24%	1.2 修理ための人	1.2.1 適切な修理業者を	1.2.1	
1-2 ライトの 交換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する 25- 49% 25- 21.1 94 25- 21.2 94 25- 21.2 94 25- 21.2 94 25- 21.2 94 25- 21.2 94 25- 21.2 94 25- 21.3 94<	1-2 ライトの 交換をする 1-3 専門家に 博理の依頼を する	パンクを修理	中等度	的支援(専門家)	提案できる	・修理業者に関する知	
交換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する49% 重度の 困難 96- 2-1 タイヤの 2-1 タイヤの 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキの効きを確認 する 3.1 補修ための人 的支援(専門家) (動力有)の補 (修をする 3-1 専門家へ 依頼する2.1.1 タイヤの空気圧の 確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる2.1.1 ペ4 ・自転車の手入れに関する 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認し締める支援 ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識	交換をする 1-3 専門家に 修理の依頼を する49% 重度の 困難 50- 95%2.1 手入れ等に要 する用具(タイヤ の空気入れやドラ 2-1 タイヤの空気圧を確認する 2-2 ライトの明るさを確認する 2-3 サドルのゆるみを確認する 2-4 ブレーキの効きを確認する 2-4 ブレーキの効きを確認する 3.1 補修ための人2.1.1 タイヤの空気圧の 確認を支援できる 2.1.2 ライトの球切れ等 の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさす等の支援ができる2.1.1 修理の専門店を提案できる3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.13.1.1	する	の困難	e325		部	
重度の を理の依頼を する では	1-3 専門家に 修理の依頼を する 重度の 困難 50-95% 2. 自転車等 (動力無)の手 入れをする 2-1 タイヤの空気上を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルのゆるみを確認 する 2-4 ブレーキの効きを確認 する 3. 自動車等 2.1 手入れ等に要 確認を支援できる 2.1.2 ライトの球切れ等 の空気入れやドラ の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認 し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1	1-2 ライトの	25-				
修理の依頼をする 日報	修理の依頼を する	交換をする	49%				
する 50- 95% 2.1 手入れ等に要 3.1.1 修理の専門店に関する 2.1.1 外でする 2.1.1 タイヤの空気圧の できる 2.1.2 ライトの球切れ等 できる 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさす 等の支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさす 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1 補修ための人 的支援 (専門家) 68をする 3-1 専門家へ 依頼する 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・ 6世の専門店に関する知識 3.1.1 ・ 6世の事門店に関する知識 3.1.1 ・ 6世の事品を関する知識 3.1.1 ・ 6世の書館を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能	50- 95% 2.1 手入れ等に要 2.1.1 タイヤの空気圧の 2.1.1 タイヤの空気圧の (動力無)の手 入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1 補修ための人 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1	1-3 専門家に	重度の				
2. 自転車等 (動力無)の手 入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認する 2-2 ライトの明るさを確認する 2-3 サドルのゆるみを確認する2.1 手入れ等に要する用具(タイヤ の空気入れやドラ のでは認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 4.1.1 洗車に必要な清掃用具の準備を支援できる 4.2.1 車検の手続きを支2.1.1 タイヤの空気圧の確認を支援できる 2.1.2 ライトの球切れ等 中国転車の手入れに関する知識と技術3 時期車等 (動力有)の補修をする 3-1 専門家へ依頼する3.1 補修ための人的支援(専門家) e3253.1.1 修理の専門店に関する知識	2.1.1 タイヤの空気圧の (動力無)の手 困難 96- 2.1.2 ライトの球切れ等 の空気入れやドラ 7/バー等) e120 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認 し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ する 2.1.4 ブレーキに油をさ する 2.1.4 ブレーキに油をさ する 2.1.4 ブレーキの効きを確認 する 2.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1	修理の依頼を	困難				
2. 自転車等 (動力無)の手 入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認する する 2-2 ライトの明るさを確認する 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する2.1 手入れ等に要する 3.1 補修ための人的支援(専門家) e3252.1.1~4 2.1.2 ライトの球切れ等の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる2.1.1~4 ・自転車の手入れに関する知識と技術3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する3.1 補修ための人的支援(専門家) e3253.1.1 洗車に必要な清掃用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃用具の準備を支援できる 3.1 車検の手続きを支3.1.1 ・修理の専門店に関する知識	2. 自転車等 (動力無)の手 入れをする 2.1 手入れ等に要 する用具 (タイヤ 内で 対して 対して できる 2.1.2 ライトの球切れ等 ので意入れやドラ の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩 みを確認 し締める支援 ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ す できる 2.1.4 ブレーキに油をさ す できる 2.1.4 ブレーキに効きを確認 する 2.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1.1 8.1	する	50-				
(動力無)の手入れをする 2-1 タイヤの 96- 100% P3	(動力無)の手入れをする 2-1 タイヤの空気入れやドラ 100% 100% 100% 100% 2気圧を確認する 2-2 ライトの明るさを確認する 2-3 サドルのゆるみを確認する 2-4 ブレーキの効きを確認する 2-4 ブレーキの効きを確認する 3. 自動車等 3.1 補修ための人 2.1.2 ライトの球切れ等の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1		95%		2.1.1 タイヤの空気圧の		
入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1 補修ための人 的支援 (専門家) e325 の空気入れやドラ イバー等)e120 の確認を支援できる 2.1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.2.1 車検の手続きを支	入れをする 2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキの効きを確認 する 3. 自動車等 の空気入れやドラ 7/バー等)e120 の確認を支援できる 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1	2. 自転車等	完全な	2.1 手入れ等に要	確認を支援できる	2.1.1~4	
2-1 タイヤの 空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 修理の専門店に関す 6をする 3-1 専門家へ 依頼する 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 日果の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日	2-1 タイヤの空気圧を確認する 100% イバー等)e120 2.1.3 サドルのねじの緩みを確認し締める支援ができる 2-2 ライトの明るさを確認する 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 2-3 サドルのゆるみを確認する 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1	(動力無)の手	困難	する用具(タイヤ	2.1.2 ライトの球切れ等	・自転車の手入れに関	
空気圧を確認 する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する3.1.1 修理の専門店を提 案できる3.1.1 修理の専門店を提 案できる3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する3.1 補修ための人 的支援(専門家) e3253.1.1 ・修理の専門店に関する知識	空気圧を確認する みを確認し締める支援ができる 2-2 ライトの明るさを確認する 2.1.4 ブレーキに油をさず等の支援ができる 3 サドルのゆるみを確認する 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3 自動車等 3.1 補修ための人 3 3.1.1	入れをする	96-	の空気入れやドラ	の確認を支援できる	する知識と技術	
### 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる 2.1.4 ブレーキに油をさ す等の支援ができる す等の支援ができる する 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店に関する 3.1.1 ・修理の専門店に関する 3.1.1 ・修理の専門店に関する 3.1.1 ・修理の専門店に関する 3.1.1 ・修理の専門店に関する 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識 3.1.1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1 ・ 1	する 2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 3.1.1 8.1.1	2-1 タイヤの	100%	イバー等) e120	2.1.3 サドルのねじの緩		
2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1 補修ための人 的支援 (専門家) e325 3.1.1 ・修理の専門店に関す る 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援でき る 4.2.1 車検の手続きを支	2-2 ライトの 明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1 補修ための人 3.1.1 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	空気圧を確認			みを確認し締める支援		
明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1 補修ための人 的支援 (専門家) e325 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 3.1.1 ** ・修理の専門店に関する知識	明るさを確認 する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	する			ができる		
する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する3.1.1 修理の専門店を提 案できる3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する3.1 補修ための人 的支援(専門家) e3253.1.1 ・修理の専門店に関す る 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援でき る 4.2.1 車検の手続きを支	する 2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	2-2 ライトの			2.1.4 ブレーキに油をさ		
2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する3.1.1 修理の専門店を提 案できる3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する3.1 補修ための人 的支援(専門家) e3253.1.1 ・修理の専門店に関す る知識	2-3 サドルの ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1 補修ための人 3.1.1	明るさを確認			す等の支援ができる		
ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1 ・修理の専門店に関す る知識 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援でき る 4.2.1 車検の手続きを支	ゆるみを確認 する 2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	する					
3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3.1.1 修理の専門店に関す 3.1.1 ・修理の専門店に関す 3.1.1 ・	する 2-4 ブレーキの効きを確認する 3.1.1 修理の専門店を提案できる 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	2-3 サドルの					
2-4 ブレーキの効きを確認する3.1.1 修理の専門店を提案できる3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ依頼する3.1 補修ための人 的支援 (専門家) e3253.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.2.1 車検の手続きを支	2-4 ブレーキ の効きを確認 する 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1 修理の専門店を提 案できる 3.1.1	ゆるみを確認					
の効きを確認 する	の効きを確認 する 案できる 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	する					
する 3.1 補修ための人 (動力有)の補 (動力有)の補 (修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1 補修ための人 的支援 (専門家) 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる 4.2.1 車検の手続きを支 3.1.1 ・修理の専門店に関する知識	する 3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	2-4 ブレーキ			3.1.1 修理の専門店を提		
3. 自動車等 (動力有)の補 修をする 3-1 専門家へ 依頼する 3.1 補修ための人 的支援(専門家) e325 3.1.1 ・修理の専門店に関する 4.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる る 4.2.1 車検の手続きを支	3. 自動車等 3.1 補修ための人 3.1.1	の効きを確認			案できる		
(動力有)の補修をする 3-1 専門家へ依頼する的支援(専門家) e3254.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる る 4.2.1 車検の手続きを支・修理の専門店に関する知識		する					
(動力有)の補修をする 3-1 専門家へ依頼する的支援(専門家) e3254.1.1 洗車に必要な清掃 用具の準備を支援できる る 4.2.1 車検の手続きを支・修理の専門店に関する知識							
修をする 3-1 専門家へ 依頼する	(動力有)の補 的支援(専門家) ・修理の専門店に関す	3. 自動車等		3.1 補修ための人		3.1.1	
3-1 専門家へ 依頼する用具の準備を支援できる る 4.2.1 車検の手続きを支		(動力有)の補		的支援(専門家)		・修理の専門店に関す	
依頼する る 4.2.1 車検の手続きを支	修をする e325 4.1.1 洗車に必要な清掃 る知識	修をする		e325	4.1.1 洗車に必要な清掃	る知識	
4.2.1 車検の手続きを支	3-1 専門家へ 用具の準備を支援でき	3-1 専門家へ			用具の準備を支援でき		
	依頼する	依頼する			る		
4. 自動車等 4.1 洗車用の清掃 援できる 4.1.1, 4.2.1, 4.3.1	4.2.1 車検の手続きを支				4.2.1 車検の手続きを支		
, , ,	4. 自動車等 4.1 洗車用の清掃 接できる 4.1.1, 4.2.1, 4.3.1	4. 自動車等		4.1 洗車用の清掃	援できる	4.1.1, 4.2.1, 4.3.1	
(動力有)の手 用具(ブラシ等)e 4.3.1 自動車等の手入れ ・洗車に関する知識と	(動力有)の手 用具(ブラシ等)e 4.3.1 自動車等の手入れ ・洗車に関する知識と	(動力有)の手		用具(ブラシ等)e	4.3.1 自動車等の手入れ	・洗車に関する知識と	
入れをする 115 の専門家を提案できる 技術	入れをする 115 の専門家を提案できる 技術	入れをする		115	の専門家を提案できる	技術	
4.4 沈市オス またに関する知識	4-1 洗車する ・車検に関する知識	4-1 洗車する				・車検に関する知識	

4-2 車検に出	4.2 手入れための	・自動車等の手入れに
す	人的支援(専門家)	関する専門家の知識
4-3 専門家へ	e325	
依頼する		

d6504 福祉用具の手入れ maintaining assistive devices

福祉用具(義肢や装具,家事や個人的ケアのための特別な道具など)を補修したり、手入れをすること。例えば、杖、歩行器、車椅子、スクーターなど、個人的移動のための福祉用具を手入れしたり、補修すること。コミュニケーション福祉用具やレクリエーション用福祉用具を手入れすること。

①人として具体的行動(行動	ICF の共通	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護	④支援行動に必要な技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.杖の手入れ	軽度の	1.1 杖 e1150	1.1.1 杖の位置を手の届	1.1.1~1.3.4	
ができる	困難	1.2 移動のための	く場所に置くことがで	・杖使用に関わる心身	
1-1 使い勝手	5-	福祉用具 e1201	きる	状態のアセスメント知	
の良い場所に	24%	1.3 杖のパーツ	1.1.2 杖を安全に使用で	識	
置くことがで	中等度	(グリップ・杖先	きる環境整備をするこ	・杖の継続的な利用に	
きる(手の届く	の困難	ゴム・手入れに必	とができる。	必要な福祉用具に関す	
範囲に置くこ	25-	要な道具)e1350	1.1.3 杖が正しく使えて	る手入れに必要な技術	
とができる)	49%	家族・専門職者・	いることの確認ができ	・杖の適用に必要な用	
1-2 杖の調子	重度の	業 者 e310	ි වි.	具の知識	
を確認するこ	困難	e350	1.1.4 杖歩行の様子を確	・杖の使用に必要な支	
とができる	50-		認し、安全を確保できる	援技術	
1-3 自分でで	95%		よう支援できる。	•専門職者・業者への連	
きるかどうか	完全な		1.2.1 利用者にあった杖	携	
判断する	困難		を選択できる。		
	96-		1.2.2 杖を利用者の心身		
	100%		状況に応じて微調整で		
			きる		
			1.2.3 利用者の心身状況		
			に応じた変更を提案す		
			ることができる。		
			1.3.1 使い心地を確認し		
			て調整することができ		
			る。		
			1.3.2 交換のタイミングを見計らって杖先ゴム		
			を見計らりて秋元コム などの交換ができる。		
			1.3.3 できない部分を代		
			T.S.S COない品力をN		
			— на мсси (Сем		

2. 入2の置き範と2調るる2き判行でいまくる囲が2子ころのでは場との置る行産が分さる時所が届く)器認ででうるがる

2.1 歩 行 器 e1150 2.2 移動のための 福祉用具e1201 2.3 歩行器のパー ツ(連結部分・先 ゴム・手入れに必 要な道具)e1350 家族・専門職者・ 業 者 e310

e350

1.3.4 業者への依頼をすることができる

2.1.1 歩行器の位置を手 の届く場所に置くこと ができる 2.1.2 歩行器を安全に使 用できる環境整備をす ることができる 2.1.3 歩行器が正しく使 えていることの確認が できる 2.1.4 歩行器使用の様子 を確認し、安全を確保で きるよう支援できる 2.2.1 利用者にあった歩 行器を選択できる 2.2.2 歩行器を利用者の 心身状況に応じて微調 整できる 2.2.3 利用者の心身状況 に応じた変更を提案す ることができる 2.3.1 使い心地を確認し て調整することができ る。 2.3.2 できない部分を代

2.1.1~2.3.3

- ・歩行器使用に関わる 心身状態のアセスメン ト知識
- ・歩行器の継続的な利 用に必要な福祉用具に 関する手入れに必要な 技術
- ・歩行器の適用に必要な用具の知識
- 歩行器の使用に必要な支援技術
- 専門職者・業者への連携

3.車村でのる 3-1 位別に 4. でいる 3-1 位別に 5. でいる 5. で

きるかどうか

判断する

3.1 車 椅子 e1150 3.2 移動のための 福祉用具e1201 3.3 車椅子のパー ッ(タインット ・サート他な を1350 e1350 s族者 e310

e350

3.1.1 車椅子の位置を手の届く場所に置くことができる。 3.1.2 車椅子を安全に使用できる環境整備をすることができる。 3.1.3 車椅子が正しくができる。 3.1.4 車椅子使用の様子を確認し、安全を確認し、支援できる。 3.2.1 利用者にあった車椅子を選択できる。

替することができる 2.3.3 業者への依頼をす

ることがで

きる

3.1.1~3.3.3

- ・車椅子使用に関わる 心身状態のアセスメン ト知識
- ・車椅子の継続的な利 用に必要な福祉用具に 関する手入れに必要な 技術
- 車椅子の適用に必要な用具の知識
- 車椅子の使用に必要な支援技術
- 専門職者・業者への連携

	000 + + 3 + 7 + 7 + 7	
	3.2.2 車椅子を利用者の	
	心身状況に応じて微調	
	整できる	
	3.2.3 車椅子の心身状況	
	に応じた変更を提案す	
	ることができる	
	3.3.1 使い心地を確認し	
	て調整することができ	
	る	
	3.3.2 できない部分を代	
	替することができる	
	3.3.3 業者への依頼をす	
	ることがで	
	きる	

d6505 屋内外の植物の手入れ taking care of plants, indoors and outdoors

屋内外の植物の世話。例えば、植物を植えること、水をやること、肥料を与えること、ガーデニング、個人的な使用のための食用植物を栽培すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 植物を植え	軽度の	1.1 植物 e220	1.1.1 各植物に適した土	1.1.1~3	
る	困難	1.2 地形 e210	壌を整える支援ができ	・各植物に適した土壌	
1-1 適した用	5-	1.3 季節や時期	る	に関する知識と技術	
土を選ぶこと	24%	e225	1.1.2 各植物を植える時	・各植物に適した植え	
ができる	中等度		期を判断する支援がで	る時期に関する知識と	
1-2 適した季	の困難		きる	技術	
節(時期)を選	25-		1.1.3 様々な植物の育て	・様々な植物に関する	
ぶことができ	49%		方等を説明できる	知識	
る	重度の				
1-3 自分の	困難				
好みの植物を	50-				
植えることが	95%				
できる	完全な				
	困難				
2. 植物に水を	96-	2.1 降水量 e225	2.1.1 水やりのタイミン	2.1.1, 2.2.1	
やる	100%	2.2 水やりのため		・水やりに関する知識	
2-1 天気によ		の人的支援(家族、	ができる		
って、水やりを		親族、友人)e310	2.2.1 適切な水やりを家		
するのか判断		e315 e320	族等に説明できる		
できる					

2-2 適量の水				
2-2 過量の水				
できる				
2-3 水やりを				
家族に頼むこ				
とができる				
CV. (92			3,1,1	
3. 植物に肥料 をやる 3-1 適切な肥 料を選ぶこと ができる	3.1 肥料やスコッ プ 等 の 用 具 e115	3.1.1 植物に合った肥料を提案できる	・肥料に関する知識	
4. グ4・ン植れ4・みをで4・物場用とガすガにを 自あるる食栽はをでデーター必手 分っこ 用培適選る のたと のす切ぶる のをが 植るなこ	4.1 スコップ等の 用具 e115 4.2 食用の植物 e220	4.1.1 本人の好みの沿った植物を手に入れるための支援ができる 4.2.1 食用の植物を栽培する際の留意点に関して支援ができる	4.1.1 ・ガーデニングに関する知識と技術 ・各植物に適した土壌に関する知識と技術 ・様々な植物(食用も含む)に関する知識	

d6506 動物の世話 taking care of animals

家畜とペットの世話。例えば、ペットに餌をあげること、洗うこと、毛並みを手入れすること、 運動させること。動物とペットの健康管理。留守中の動物とペットの世話の手配。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. ペットに餌	軽度の	1.1 餌、ペット用	1.1.1 ペットに適した餌	1.1.1	
をあげる	困難	缶詰等 e110	の時間や量の情報を説	• ペットに関する知識	
1-1 決められ	5-		明できる		
た時間に餌を	24%				
あげることが	中等度				
できる	の困難				

1-たげき 2う2室が2リ頼で2ト依い 2量るる ペー1でで2ミすき3リ頼め餌と トー宅うる族グこ 門ンるらをが を のこ へをと 家グこれあで 洗 浴と ト依が へをと	49% 重度の 困難 50- 95% 完全な 困難	2.1 洗うためのタ ライやブラシ等の 用具 e115 2.2 トリミングの ための人的支援 (家族、親族、友 人、トリマー) e310 e315 e320 e360	2.1.1 ペットを洗うための用具を準備する支援ができる2.2.1 トリミングの仕方を家族等に説明できる2.3.1 本人の意向に沿ったペットショップ等の専門家を提案できる	2.1.1~2.3.1 ・トリミングに関する 知識と技術 ・トリミングを実施し ている専門店の知識	
ができる。 3. 散歩(運動) を3. もはのでである。 3-1 連れがでいる。 3-2 を依頼する。 3-2 をができる。 3-2 をができる。		3.1 散歩のための 人的支援(家族、 親族、友人、仲間) e310 e315 e320	3.1.1 安全で適切な散歩のルート等を提案することができる3.2.1 家族に散歩のルート等を説明することができる	・ペットの散歩(運動 量)に関する知識	
4. 留守中の世 話を手配する 4-1 家族 守中のもる 守中のする がでする 4-2 預かり 設等 できる ことができる ことができる		4.1 留守中の世話 のための人的支援 (家族、親族、友 人、ペットショッ プの店員) e310 e315 e320 e360	4.1.1 留守中の世話の留意点を説明することができる4.2.1 本人の意向に沿ったペットショップ等の専門店を提案できる	4.1.1, 4.2.1 ・ペットの留守中に起き得る事故等に関する知識 ・預かりを実施している専門店の知識	

d660 他者への援助 assisting others

家族や他人の学習、コミュニケーション、セルフケア、移動を、家の内外で援助したり、安寧を気遣うこと。含まれるもの:他者のセルフケア・移動・コミュニケーション・対人関係・栄養摂取・健康維持への援助。除かれるもの:報酬を伴う仕事(d850)。

d6600 他者のセルフケアへの援助 assisting others with self-care

家族や他人のセルフケアを援助すること。他者への食事,入浴,更衣の援助を含む。例えば,子どもや病人,あるいは基本的なセルフケアに困難のある家族を世話すること。他者の排泄を援助すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係する環 境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護 能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
 食事の援助ができる 1-1 食事の準備ができる 1-2 食事の介助ができる 1-3 食事できるの片づけができる 	軽 野 5- 24% 中 の 25- 49% 重 類 50- 95% 会 完 会 の の の の の の の の の の の の の	1.1 食事準備に使用する道具、食事のための人的支援(家族、親族) 1.2 食事介助に使用する道具、食事のための人的支援(家族、親族) 1.3 食事の片づけに使用する道具、食事のための人的支援(家族、親族) e115,e310,315,32 0,325	1.1.1 食事準備に関する支援ができる 1.2.1 食事介助に関する支援ができる 1.3.1 食事の片づけに 関する支援ができる	1.1.1~1.3.1 ・食事に関する知識 と技術 ・食事に関する情報 提供、指導や相談援 助技法	
2. 入浴の援助ができる 2-1 入浴の準備ができる 2-2 入浴の介助ができる 2-3 入浴の片づけができる	困難 96- 100 %	2.1 入浴準備に使用する道具、入浴のための人的支援(家族、親族)2.2 入浴介助に使用する道具、入浴のための人的支援(家族、親族)2.3 入浴の片づけに使用する道具、入浴のための人的支援(家族、親族)e115,e310,315,320,325	2.1.1 入浴準備に関する支援ができる 2.2.1 入浴介助に関する支援ができる 2.3.1 入浴の片づけに 関する支援ができる	2.1.1~2.3.1 ・入浴に関する知識 と技術 ・入浴に関する情報 提供、指導や相談援 助技法	
3. 更衣の援助ができる 3-1 更衣の 準備ができる 3-2 更衣の 介助ができる 3-3 更衣の 片づけができる		3.1 更衣準備に使用する道具、更衣のための人的支援(家族、親族)3.2 更衣介助に使用する道具、更衣のための人的支援(家族、親族)3.3 更衣の片づけに使用する道具、更衣のための人的支援(家族、親族)	3.1.1 更衣準備に関する支援ができる 3.2.1 更衣介助に関する支援ができる 3.3.1 更衣の片づけに 関する支援ができる	3.1.1~3.3.1 ・更衣に関する知識 と技術 ・更衣に関する情報 提供、指導や相談援 助技法	

e115,e310,315,32 0,325		
		1

d6601 他者の移動への援助 assisting others in movement

家族や他人の移動や屋外に出ることを援助すること。例えば、近所、市内、学校、職場、その他の目的地などへの往復を援助すること。

٠٠٥٠٥٠٥٠	- WILLS	3215以9 るここ。 			
①人として具	ICF	②①に直接関係する環	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行	の共通	境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
動の要素・因	評価点		護能力)		
子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 自宅内で	軽度の	1.1 バリアフリー、移	1.1.1 移動に関する支	1.1.1~1.4.1	
の移動援助が	困難	動の道具 、移動のため	援ができる	・移動に関する知識	
できる	5-	の人的支援(家族、親	1.1.2 移動を代替する	と技術	
1-1 居間へ	24%	族)	ことができる	・移動に関する情報	
の移動援助が	中等度	1.2 バリアフリー、移	1.2.1 移動に関する支	提供、指導や相談援助	
できる	の困難	動の道具、排泄の道具、	援ができる	技法	
1-2 トイレ	25-	排泄及び移動のための	1.2.2 移動を代替する	・排泄介助に関する	
までの移動援	49%	人的支援(家族、親族)	ことができる	知識と技術	
助ができる	重度の	1.3 バリアフリー、移	1.2.3 排泄介助の支援	・入浴介助に関する	
1-3 浴室ま	困難	動の道具、入浴の道具、	ができる	知識と技術	
で移動援助が	50-	入浴及び移動のための	1.3.1 移動に関する支		
できる	95%	人的支援(家族、親族)	援ができる		
1-4 ベッド	完全な	1.4 バリアフリー、移	1.3.2 移動を代替する		
上での移動援	困難	動の道具、睡眠支援の	ことができる		
助ができる	96-	道具、睡眠支援及び移	1.3.3 入浴介助の支援		
	100	動のための人的支援	ができる		
	%	(家族、親族)	1.4.1 移動に関する支		
		e115,e310,315,32	援ができる		
		0,325	1.4.2 移動を代替する		
			ことができる		
			1.4.3 起居動作の支援		
			ができる		
2. 屋外での		2.1 移動の道具、安全	2.1.1 移動に関する支	2.1.1~2.3.3	
移動援助がで		確認、環境整備、移動援	援ができる	・移動に関する知識	
きる		助のための人的支援	2.1.2 見守りを代替す	と技術	
2-1 歩行の		(家族、親族)	ることができる	・移動に関する情報	
見守りができ		2.2 移動の道具、道具	2.2.1 移動に関する支	提供、指導や相談援助	
る		の点検・整備、安全確	援ができる	技法	
		認、環境整備、移動援助	2.2.2 移動を代替する	・重量税、タクシー券	
			ことができる	など制度上の優遇な	

2-2 車椅子	のための人的支援(家	2.3.1 移動に関する支	ど情報収集や情報提	
介助での移動	族、親族)	援ができる	供	
ができる	2.3 車の点検・整備、安	2.3.2 移動を代替する		
2-3 自家用	全確認、環境整備、移動	ことができる		
車での移動援	援助のための人的支援	2.3.3 タクシーなど別		
助ができる	(家族、親族)	の交通手段の依頼がで		
	e115,e310,315,32	きる		
	0,325			

d6602 他者のコミュニケーションへの援助 assisting others in communication

家族や他人のコミュニケーションを援助すること。例えば、話したり、書いたり、読むことを 援助すること。

	備考
	考
の要素・因子) 評価点	
困難な 支援を要しない 記入しない 記入しない	
0-4%	
1.他者と会話 軽度の 1.1 コミュニケーシ 1.1.1 コミュニケーシ 1.1.1~1.3.3	
を通じてコミ 困難 ョン手段(静穏環境、 ョンに関する支援がで ・コミュニケーショ	
ュニケーショ 5- 電話、携帯電話) コ きる ンに関する知識と技	
ンを図ること 24% ミュニケーションの 1.1.2 コミュニケーシ 術	
ができる 中等度 ための人的支援(家 ョンを代替することが ・傾聴や共感的理解、	
1-1 他者に希 の困難 族、親族) できる 代弁者としての素養	
望を伝えるこ 25- 1.2 コミュニケーシ 1.1.3 希望を確認する	
とができる 49% ョン手段(静穏環境、 ことができる	
1-2 他者に意 重度の 電話、携帯電話) コ 1.2.1 コミュニケーシ	
見を伝えるこ 困難 ミュニケーションの ョンに関する支援がで	
とができる 50- ための人的支援(家 きる	
1-3 他者の思 95% 族、親族) 1.2.2 コミュニケーシ	
いを受け取る 完全な 1.3 コミュニケーションを代替することが	
ことができる 困難 ョン手段(静穏環境、) できる	
96- 電話、携帯電話) コ 1.2.3 意見を確認する	
100 ミュニケーションの ことができる	
% ための人的支援(家 1.3.1 コミュニケーシ	
族、親族)ョンに関する支援がで	
e115,e310,315,3 きる	
20,325 1.3.2 コミュニケーシ	
ョンを代替することが	
できる	
1.3.3 思いを確認する	
ことができる	

	I			
2.他者と書面	2.1 コミュニケーシ	2.1.1 コミュニケーシ	2.1.1~2.3.3	
を通じてコミ	ョン手段(筆記用具、	ョンに関する支援がで	・コミュニケーショ	
ュニケーショ	携帯電話、PC)コミ	きる	ンに関する知識と技	
ンを図ること	ュニケーションのた	2.1.2 コミュニケーシ	術	
ができる	めの人的支援(家族、	ョンを代替することが	•携帯電話やPC入力	
1-1 他者に希	親族)	できる	スキル	
望を伝えるこ	2.2 コミュニケーシ	2.1.3 希望を確認する		
とができる	ョン手段(筆記用具、	ことができる		
1-2 他者に意	携帯電話、PC)コミ	2.2.1 コミュニケーシ		
見を伝えるこ	ュニケーションのた	ョンに関する支援がで		
とができる	めの人的支援(家族、	きる		
1-3 他者の思	親族)	2.2.2 コミュニケーシ		
いを受け取る	2.3 コミュニケーシ	ョンを代替することが		
ことができる	ョン手段(筆記用具、	できる		
	携帯電話、PC)コミ	2.2.3 意見を確認する		
	ュニケーションのた	ことができる		
	めの人的支援(家族、	2.3.1 コミュニケーシ		
	親族)	ョンに関する支援がで		
	e115,e310,315,3	きる		
	20,325	2.3.2 コミュニケーシ		
		ョンを代替することが		
		できる		
		2.3.3 思いを確認する		
		ことができる		

d6603 他者の対人関係への援助 assisting others in interpersonal relations

家族や他人の対人相互関係を援助すること。例えば、人間関係をつくったり、維持したり、断つことを援助すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.他者との人	軽度の	1.1 コミュニケーシ	1.1.1 コミュニケーシ	1.1.1~1.3.3	
間関係を図る	困難	ョン手段(筆記用	ョンに関する支援がで	・コミュニケーショ	
ことができる	5-24%	具、電話、携帯電話、	きる	ンに関する知識と技	
1-1 他者に希	中等度	PC) コミュニケー	1.1.2 コミュニケーシ	術	
望や思いを伝	の困難	ションのための人	ョンを代替することが	・ 傾聴や共感的理解、	
えることがで	25-	的支援(家族、親族)	できる	代弁者としての素養	
きる	49%	1.2コミュニケーシ	1.1.3 希望を確認する		
	重度の	ョン手段(筆記用	ことができる		
	困難	具、電話、携帯電話、			

	1	T			
1-2 他者の思ることができる 1-3 他構 できとができる 関係 ころ のすき さん かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいが	完全な 困難 96-	的支援(家族、親族) 1.3コミュニケーション手段(筆記用 具、電話、携帯電話、 PC) コミュニケーションのための人 的支援(家族、親族)	ョンに関する支援ができる 1.2.2 コミュニケーションを代替することができる 1.2.3 意見を確認することができる 1.3.1 コミュニケーシ		
2.間すき2望えき2いこ2関るる他関るる1やるる2をと3係ことをと 者いと 者けで者維が にをが の取ると持で 人持で 希伝で 思る のすき		ョン手段(筆記用 具、電話、携帯電話、 PC) コのた族、親ニューションのを族、親ニューションのを族、親ニューションを変える。 2.2コチョンのでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第二のでは、第二ののでは、カーションをは、カーションをは、カーションをは、カーション・カーのは、カーション・カーのは、カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	ことができる 2.2.1 コミュニケーションに関する支援ができる 2.2.2 コミュニケーションを代替することができる 2.2.3 意見を確認することができる	・コミュニケーショ ンに関する知識と技 術	

d6604 他者の栄養摂取への援助 assisting others in nutrition

家族や他人の栄養摂取を援助すること。例えば、彼ら/彼女らが食事を準備し、食べることを援助すること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
 栄養摂取の 援助ができる 1-1 栄養摂取 に関する準備が できる 1-2 栄養摂 の介助が養養 の介助が養養 の片づけができる 	軽 度 大 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 1	1.1 栄養摂取の準備に使事のため、親族) 1.2 栄養摂取の表質の人的支援(家族、親族) 1.2 栄養道具、ので家族、質別の大変をできるののでは、できるののでは、できるののでは、できるののでは、できるののでは、できるののでは、できるののでは、できるののでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できるのでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないできないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	る支援ができる 1.2.1 食事介助に関す る支援ができる 1.3.1 食事の片づけに	1.1.1~1.3.1 ・食事に関する知識と 技術 ・食事に関する情報提 供、指導や相談援助技 法	

d6605 他者の健康維持への援助 assisting others in health maintenance

家族や他人が公式あるいは非公式な保健・医療を受けるのを援助すること。例えば、子どもが 定期健康診断を受けることや、高齢の身内が必要な服薬することを援助すること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 健康維持の	軽度の	1.1 健康維持の準	1.1.1 健康維持に関す	1.1.1~1.5.2	
援助ができる	困難	備に使用する道	る支援ができる	・健康維持に関する知	
1-1 健康的な	5-	具、健康維持のた	1.2.1 健康維持に関す	識と技術	
食生活の提供が	24%	めの人的支援(家	る支援ができる	・健康維持に関する情	
できる	中等度	族、親族)	1.3.1 健康維持に関す	報提供、指導や相談援	
1-2 症状にあっ	の困難	1.2 症状にあった	る支援ができる	助技法	
た対応ができる	25-	対応に使用する道	1.4.1 健康維持に関す	・医療保険制度利用に	
1-3 症状にあっ	49%	具(湿布、体温計)、	る支援ができる	関する知識	
た服薬や処置が	重度の	症状にあった対応	1.5.1 悪化防止に関す		
できる	困難	のための人的支援	る支援ができる		
1.4 予防的な関	50-	(家族、親族)	1.5.2 受診行動への支		
わりができる	95%		援ができる		

1.5 悪化の防止	完全な	1.3 健康維持に使		
や受診行動を支	困難	用する道具(薬、下		
援することがで	96-	剤)、健康維持のた		
きる	100	めの人的支援(家		
	%	族、親族)		
		1.4 予防行動に関		
		わる手続き、予防		
		行動のための人的		
		支援(家族、親族)		
		1.5 悪化防止に関		
		わる手続き、受診		
		行動及び悪化防止		
		のための人的支援		
		(家族、親族)		
		e115,e310,31		
		5,320,325		

第7章 対人関係 interpersonal interactions and relationships

1. ICFの「活動と参加」における主要事項 ≪対人関係≫

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、状況に見合った社会的に適切な方法を用いて、人々(よく知らない人、友人、親戚、家族、恋人)と、基本的で複雑な相互関係をもつために必要とされる行為や課題の遂行について扱う。

一般的な対人関係 general interpersonal interactions (d710-d729)

- d710 基本的な対人関係 basic interpersonal interactions
- d720 複雑な対人関係 complex interpersonal interactions
- d729 その他の特定の、および詳細不明の、一般的な対人関係 general interpersonal interactions, other specified and unspecified

特別な対人関係 particular interpersonal relationships (d730-d779)

- d730 よく知らない人との関係 relating with strangers
- d740 公的な関係 formal relationships
- d750 非公式な社会的関係 informal social relationships
- d 760 家族関係 family relationships
- d770 親密な関係 intimate relationships
- d779 その他の特定の、および詳細不明の、特別な対人関係 particular interpersonal relationships, other specified and unspecified
- d 798 その他の特定の対人関係 interpersonal interactions and relationships, other specified
- d799 詳細不明の対人関係 interpersonal interactions and relationships, Unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 ≪対人関係≫

第七章は「一般的な人間関係」と「特別な人間関係」という二つのブロックから構成されている。「一般的な人間関係」は主に「活動」的な側面から分類がなされ、「特別な人間関係」は主に「参加」という側面からの分類が中心となっている。

「一般的な人間関係」での d710「基本的な人間関係」では人間関係のさまざまな側面に関して分類をしており、d720の「複雑な人間関係」では人間関係の形成のプロセスを整理している。

「特別な人間関係」では、まず d730 として「よく知らない人との関係」(相手の名前を知らない(知る必要がない)人との関係)を分類したのち、それなりに知っている(相手の名前と多少の属性を知っている)程度の人として、d740「公的な関係」と d750「非公式的な社会的関係」を分類している。この両者の関係の違いは、経済的な相対的利害関係や契約関係を含むか含まないかであろう。d740「公的な関係」では普通は契約関係を前提とした相対的利害関係になるだろうし、d750「非公式的な社会的関係」では一般的に相対的利害関係を含まない私的な個人的な関係についての分類ということになる。d750でも契約関係を含む場合もありえるがd740での契約とは異なる軽微な私的(法的な拘束力の無い or 極めて少ない)な契約関係である。また、

経済的な関係が発生する場合もあるが、その場合は主に相対的利害関係ではなく共同的利害関係になる場合が多いと考えてよいであろう。ただし、d7402 に関しては、協同組合や労働組合の様な組織体も含まれると考えられるので、この項では、共同的利害関係という側面が相対的利害関係より強くなる分類と考えられる。

その上で、更に d740、d750、とは異なってプライベートな情報を共有する d760「家族関係」、d770「親密な関係」を分類している。d760「家族関係」は家族関係がない人は基本的にはいない(親がいない子はいない)ので必ず存在する分類として想定されているが、d770「親密な関係」は、そういう関係を持たない人もいるという分類になっている。

これらの関係の概略を図解化したのが、下図『d7 対人関係』の相関構造」である。



なお、d7701 「婚姻関係」はd 770の「親密な関係」に分類されていてのの「親密なれているでは所ではないないではないないではないないではないではないではなく、経済的

利害官益とは無関係として考えられる「親密な関係」として捉えるという事である。この点は「婚姻関係」を家族関係(共同的利害関係を含む一種の所属集団)の基本としてきた日本などでの(旧来からの)考え方に対し、人間をそれぞれ独立した個々人として捉えるという基本から「対人関係」の分類を考えるという考え方(内容)に変化している点を意識しておく必要があろう。

なお、この点に関しては、環境因子では e310 の「家族」の中に、配偶者やパートナーが含まれていて、d760 d770 の分類とは違った因子の整理の仕方になっている点(活動主体の活動(分類)として捉える場合と、周りから見る環境(因子)として把握する場合の違い)にも、留意しておく必要があるだろう。

対人関係に関する≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

「対人関係」の分類枠組を上記の様に考えるとすれば、この分類のどこにも当てはまらない人間関係を想定するのは難しい。ただし、此処で触れている「対人関係」は、全部、対面での対人関係を前提として、分類が作成されている。

この点で、現代社会では、対面に寄らないオンライン上での対人関係も急速に増えており、「オンライン上のみでの対人関係」(d7208 などで)が、生活行動や参加の内容を左右する場合も多くなっている。その意味で、総括的な分類としてはこの分類で分類可能だとしても、より細かな分類段階ではこの点に触れておく必要があるだろう。

そのほか、「義兄弟の契りを結ぶ」などという関係もあるので、これはいわゆる(義理の関係を含む)兄弟の関係とは違う(はるかに濃密な関係を意味する)ので、あまり一般的な対人関係ではないとしても、「その他特定の関係」ともいえるだろう。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪対人関係≫

自立した行動に「何らかの困難」がある場合、その困難を除く(或いは補完する)ために必要となる環境因子は、このd7「対人関係」に関しては、主に、(環境因子)第3章の「支援との関係(除くe350)」、第4章「態度」などであろう。支援(介護)に際しては、これらの環境を操作する必要がある。また、第5章「サービス・制度・政策」の一部(e555,e575,~e590などの一部の因子も「自立した行動」の基盤条件として重要である。支援時には、操作が必要な因子となりえるであろう。勿論、対人関係での自立した行動にもe1「生産品と用具」、e2「自然環境と人間がもたらした環境変化」と無関係ではありえない。しかし、自立した行動に「何らかの困難」がある場合の困難を除く(或いは補完する)ために必要となる環境因子としては、e1「生産品と用具」の一部を除き、操作不要な環境因子と考えてよいだろう。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴 • • 関連する技術と知識の特徴 ≪対人関係≫

「対人関係」に関連して、自立した行動に「何らかの困難」がある場合、その困難を除く(或いは補完する)ために必要となる『支援(対人援助)「介護行動」の特徴』としては、「対人関係」という活動や参加の行動は、必ず(諸々の特徴を有する人間である)相手があるということである。この点が、「対人関係」における、支援(対人援助)の最も大きな特徴である。

その為、対人関係に関する援助行動は、先ず、アセスメントが極めて重要になる。自立した行動が困難となっている原因は何か、本人が特定の自立した行動(活動や参加)の一部分が(もと



第7章「対人関係」での援助行動・概念図

もと)で何をないの本るには、何との本る原かにてかばが、のすとは、一年では、一年では、一年では、一年ののはが、からをはるのでは、からをはるのでは、からをはるのでは、からをもない。

させる要因(心身機能か身体構造上の原因や、環境因子の e4態度など)があってできないのかを、特定する必要がある。支援行動自体に困難の原因がある(e3 支援と関係)場合である可能性もあり得る。

その原因を特定したうえで、困難を抱えている当事者と共に、何を支援すればよいかを決めて 支援していく必要があるだろう。その際、基本的に重要な点は、困難があっても、様々な対人関 係を切らないようにする(自立した行動としてこうありたいと望む場合、その対人関係が良好な関係であれば、その関係を切るという判断は極めて少ないと考えられるので。)ことであろう。

なお、対人関係の支援援助に関係のある内容としては、d6(家庭生活)の中で、主に家族への援助行動を行う(d660他者への援助)ことをどう支援するか、という場面とも共通する部分がある。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪対人関係≫

一般的な対人関係 general interpersonal interactions (d710-d729)

d710 基本的な対人関係 basic interpersonal interactions

状況に見合った社会的に適切な方法で、人々と対人関係をもつこと。例えば、適切な思いやりや 敬意を示すこと。他人の気持ちに適切に対応すること。含まれるもの:対人関係における敬意と 思いやり、感謝、寛容の表明。対人関係における批判や合図への対応。対人関係における適切な 身体的接触の使用。

d7100 対人関係における敬意と思いやり respect and warmth in relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、いたわりや敬意を示したり、それに対応したり、すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護 能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.対いする 人でというでは、 人では、 大では、 1-1.というでは、 1-2.やでは、 では、 1-2.やでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	軽度の S- 24% 中等類 25- 49% 重難 50-	1.1 家族、親族、友人、知人、仲間、同僚、隣人、地域住民で知り合いの人(e310・e315・e320・e325)	1.1.1 知っている人に対し、状況に応じてどの程度敬意や思いやりを示すことが可能なのか把握できる 1.1.2 敬意や思いやりを示すことができない場合、その理由を把握できる		
2.示された敬意に対し、言語や動作、態	95% 完全な 困難 96- 100%		1.1.3 相手に敬意や思いやりを示す必要がある場合、状況に応じてタイミングをみながら、代弁できる	返しと感情の繰り返	

度応 3.おわこる3-たのき3の語度る4.たし作切るでで対いりと。1.わかる2気やで 示わ、、にの 係い示で 「た明 わを、で たにやでで だったすき いいで り言態き い対動適き	1.2 よく知らない 人 (e345)	の程度敬意や思いやりを示すことが可能か把握できる 1.2.2 思いやりを示すことができない場合、その理由を把握できる 1.2.3相手に敬意や思いやりを示す必要がある	1.2.1.1/1.2.2.1 言語メッセージと非言語メッセージの組み合わせの意味を読み取る技術 1.2.3.1 事実の繰り返しを区別して確認する技術	
--------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	--

d7101 対人関係における感謝 appreciation in relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、満足や感謝の気持ちを示したり、それに対応したり、すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術•知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 対人関係に	軽度の	1.1 家族、親族、友	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1	
おける感謝の	困難	人、知人、仲間、同	し、状況に応じてどの程	言語メッセージと非	
気持ちを持つ	5-	僚、隣人、地域住民	度感謝を示すことが可	言語メッセージの組	
ことができる	24%	で知り合いの人	能なのか把握できる	み合わせの意味を読	
	中等度	(e310 • e315 •		み取る技術	
1-2.感謝すべ	の困難	e320 • e325)	1.1.2 感謝を示すこと		
き内容かどう	25-		ができない場合、その理		
かを社会的常	49%		由を把握できる		
識に従って、判	重度の				
断できる	困難				

2. 感謝の気持 ちを言語や動 作、態度で示す ことができる	50- 95% 完全な 困難 96-		1.1.3 相手に示す必要がある場合、 状況に応じてタイミングをみながら、代弁できる	1.1.3.1 事実の繰り 返しと感情の繰り返 しを区別して確認す る技術	
3.感謝の表現に適切に対応できる。	100%	1.2 よく知らな い人 (e345)	1.2.1 よく知らない人に対し、状況に応じてとの程度感謝を示すことが可能なのか把握でる。 1.2.2 感謝を示するとができない場合、その理由を把握できる。 1.2.3 相手に示するがある場合、状況に応ないなる、相手に代弁できる。 相手に代弁できる	語メッセージと非言 語メッセージの組み 合わせの意味を読み 取る技術 1.2.3.1 事実の繰り 返しと感情の繰り返	

d7102 対人関係における寛容さ tolerance in relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、行動を理解し受け入れることを示したり、それに対応し たり、すること。

<u> </u>	I	00. +11.55 :	0	0.1555	
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.相手がなぜ	軽度の	1.1 家族、親族、友	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
そういう行動	困難	人、知人、仲間、同	し、状況に応じてどの程	語メッセージと非言	
をとるかを推	5-	僚、隣人、地域住民	度寛容さを示すことが	語メッセージの組み	
測したり、理解	24%	で知り合いの人	可能なのか把握できる	合わせの意味を読み	
することがで	中等度	e310 • e315 •		取る技術	
きる	の困難	e320 • e325	 1.1.2 寛容さを示すこ		
	25-		とができない場合、その		
2.相手の行動	49%		理由を把握できる		
が反社会的行	重度の		748 61814 (6.8		
動であるかど	重度の		 1.1.3 相手に示す必要	 1.1.3.1 事実の繰り	
うか判断がで	50-		がある場合、状況に応じ	いい。	
きる	95%		てタイミングをみなが	しを区別して確認す	
			ら、代弁できる	る技術	
 3.相手の行動	完全な		ひ、NA (CO)		
	困難		404 5/555115	4044/4004 =	
理由がわかれ	96-	10 5 7 5 5	1.2.1 よく知らない人に	1.2.1.1/1.2.2.1 言	
ば、それを受け	100%	1.2 よく知らな	対し、状況に応じてどの	語メッセージと非言	
		い人 e345	程度寛容さを示すこと	語メッセージの組み	

入れることが できる	が可能なのか把握できる	合わせの意味を読み 取る技術	
4.反社会的行動である場合は、拒否する言動ができる 5.行動を受け入れられたのである対応であるである。 5.行動を受けるいでは、その社会の適切な方法で、反応(行動)す	1.2.2 寛容さを示すことができない場合、その理由を把握できる 1.2.3 相手に示す必要がある場合、状況に応じてタイミングをみながら、代弁ができる	1.2.3.1 事実の繰り 返しと感情の繰り返 しを区別して確認す る技術	
る (謝意を示す)ことができる			

d7103 対人関係における批判 criticism in relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、明確な、あるいは暗黙の意見の相違や不一致を示したり、 それに対応したり、すること。

Γ_	1		Г_	Γ_	
①人として具	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.意見が一致	軽度の	1.1 家族、親族、	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
しているかど	困難	友人、知人、仲間、	し、状況に応じてどの程	語メッセージと非言	
うかの判断が	5-	同僚、隣人、地域住	度批判を示すことが可	語メッセージの組み	
できる	24%	民で知り合いの人	能なのか把握できる	合わせの意味を読み	
	中等度	(e310·e315·		取る技術	
2. 意見が一致	の困難	e320 • e325)	1.1.2 批判を示すこと		
しない場合は、	25-		ができない場合、その理		
その理由を考	49%		由を把握できる		
えることがで	重度の				
きる	困難		1.1.3 相手に示す必要	1.1.3.1 事実の繰り	
	50-		がある場合、状況に応じ	返しと感情の繰り返	
3.意見の表明	95%		てタイミングをみなが	しを区別して確認す	
に際してのメ	完全な		ら、代弁できる	る技術	
リット(デメリ	困難				
ット) やリスク	96-	1.2 よく知らな	1.2.1 よく知らない人	1.2.1.1/1.2.2.1 言	
の有無を判断	100%	い人 (e345)	に対し、状況に応じてど	語メッセージと非言	
できる			の程度批判を示すこと	語メッセージの組み	

4.明確な意見	が可能なのか把握でき	合わせの意味を読み	
の一致を表現	る	取る技術	
できる			
	1.2.2 批判を示すこと		
5.明確な相違	ができない場合、その理		
や不一致を表	由を把握できる		
現できる。			
6.暗黙の一致	1.2.3 相手に示す必要	1.2.3.1 事実の繰り	
を、何らかの形	がある場合、状況に応じ	返しと感情の繰り返	
で表現できる	てタイミングをみなが	しを区別して確認す	
	ら、相手に代弁できる	る技術	
7.暗黙の相違	(\mathbb{N})		
や不一致を、何			
らかの形で表			
現できる			
8.意見の一致			
や、相違、不一			
致の表現に対			
し、理由を聞く			
など、適切な反			
応を返すこと			
ができる			

d7104 対人関係における合図 social cues in relationships

社会関係の中で生じる,目くばせや,うなずきなどのサインとヒントを適切に用いたり,それに 対応したり,すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.言語以外で	軽度の	1.1 家族、親族、友	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
表現すべき内	困難	人、知人、仲間、同	し、状況に応じてどの程	語メッセージと非言	
容や状況の判	5-	僚、隣人、地域住民	度合図を示すことが可	語メッセージの組み	
断ができる	24%	で知り合いの人	能なのか把握できる	合わせの意味を読み	
	中等度	(e310 • e315 •		取る技術	
2.言語以外の	の困難	e320 • e325)	1.1.2 合図を示すこと		
サインなどの	25-		ができない場合、その理		
表現方法を選	49%		由を把握できる		
ぶ事ができる	重度の				
	困難				

		I	'		
3.言語以外の	50-		1.1.3 相手に合図を示	1.1.3.1 事実の繰り	
サインやヒン	95%		す必要がある場合、状況	返しと感情の繰り返	
トとしての目	完全な		に応じてタイミングを	しを区別して確認す	
配せ、手指など	困難		みながら、相手に代弁や	る技術	
によるサイン、	96-		本人に代わって合図を		
頭や体を動か	100%		示すことができる		
す事によるサ					
インなどの内		1.2 よく知らない	1.2.1 よく知らない人に	1.2.1.1/1.2.2.1 言	
容を知ってい		人 (e345)	対し、状況に応じてどの	語メッセージと非言	
て、それを使う			程度合図を示すことが	語メッセージの組み	
ことができる			可能なのか把握できる	合わせの意味を読み	
3-1 異文化圏				取る技術。	
では、サインの			1.2.2 合図を示すこと		
意味が違うこ			ができない場合、その理		
とを知ってい			由を把握できる		
て使いこなす					
ことができる。			1.2.3 相手に合図を示す	1.2.3.1 事実の繰り	
			必要がある場合、状況に	返しと感情の繰り返	
4.送られてき			応じてタイミングをみ	しを区別して確認す	
たサインやヒ			ながら、相手に代弁や本	る技術。	
ントに適切に			人に代わって合図を示		
反応すること			すことができる(Ⅳ)		
ができる					
※4.オンライ					
ンでの表現時					
に使用される					
サインを理解					
し活用できる					

d7105 対人関係における身体的接触 physical contact in relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、人々と身体的に接触したり、それに対応したり、すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.対人関係に	軽度の	1.1 家族、親族、	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1 非	
おける身体的	困難	友人、知人、仲間、	し、状況に応じてどの程	言語メッセージのう	
接触の仕方(ル	5-	同僚、隣人、地域	度身体的接触を示すこ	ちの身体的接触の意	
ール) を知って	24%	住民で知り合いの	とが可能なのか把握で	味についての理解	
いる	中等度	人 (e310 ·	きる		
	の困難				

		I			
1-2.ルールの	25-	e315 • e320 •	1.1.2 身体的接触を		
従わない身体	49%	e325)	示すことができない場		
的接触を行っ	重度の		合、その理由を把握でき		
た場合のペナ	困難		る(
ルティの内容	50-				
を知っている	95%	1.2 よく知らな	1.2.1 よく知らない人	1.2.1.1/1.2.2.1 非	
	完全な	い人 (e345)	に対し、状況に応じてど	言語メッセージのう	
2.対人関係に	困難		の程度批判を示すこと	ちの身体的接触の意	
おいて、ルール	96-		が可能なのか把握でき	味についての理解	
に従って、身体	100%		る		
的接触を行う					
ことができる			1.2.2 批判を示すこと		
			ができない場合、その理		
3.ルールに従			 由を把握できる		
った対人接触					
を受け入れる			 1.2.3 相手に示す必要	 1.2.3.1 非言語メッ	
ことができる			がある場合、状況に応じ	セージのうちの身体	
			てタイミングをみなが	的接触を的確に活用	
4.ルールに従			ら、相手に本人との身体	する技術および連	
わない対人接			的接触する機会を調整	絡・調整の技術。	
触を拒否する			できる	10 000 000 000 000 000 000 000 000 000	
ことができる					

d720 複雑な対人関係 complex interpersonal interactions

状況に見合った社会的に適切な方法で、他者と対人関係を維持し調整すること。例えば、感情や 衝動の制御、言語的あるいは身体的攻撃性の制御、社会的相互作用の中での自主的な行為、社会 的ルールと慣習に従った行為によってそれを行うこと。含まれるもの:対人関係の形成や終結、 対人関係における行動の制御。社会的ルールに従った相互関係あるいは社会的空間の維持。

d7200 対人関係の形成 forming relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、他の人々との対人関係を短期間あるいは長期間、開始し維持すること。例えば、自己紹介、友人関係や職業上の関係の発見や樹立。永続的であったり、恋愛感情があったり、親密なものになりうる人間関係の構築。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.対人関係を	軽度の	1.1 家族、親族、	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
新しく作るこ	困難	友人、知人、仲間、	し、状況に応じてどの程	語メッセージと非言	
とができる。	5-	同僚、隣人、地域住	度形成可能か把握でき	語メッセージの組み	
	24%	民で知り合いの人	る		

				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1-1.関係を創	中等度	(e310·e315·		合わせの意味を読み
りたい人を見	の困難	e320 • e325)	1.1.2 形成できない場	取る技術
つけることが	25-		合、その理由を把握でき	
できる。	49%		る	
1-2.関係を創	重度の			
って行くため	困難		1.1.3 状況に応じてタ	1.1.3.1 事実の繰り
の準備をする	50-		イミングをみながら、相	返しと感情の繰り返
ことができる。	95%		手と形成できるように	しを区別して確認す
1-3.関係を創	完全な		声かけや代弁、場の設定	る技術および連絡・
るための働き	困難		等調整できる	調整の技術
かけができる。	96-			
(場や時間の	100%	1.2 よく知らな	1.2.1 よく知らない人に	1.2.1.1/1.2.2.1
設定など)		い人 (e345)	対し、状況に応じてどの	言語メッセージと非
1-4.関係づく			程度形成可能なのか把	言語メッセージの組
りのための適			握できる	み合わせの意味を読
切な自己紹介				み取る技術
ができる			1.2.2 形成できない場	
			合、その理由を把握でき	
2.創った対人			る	
関係を維持で				
きる			1.2.3 状況に応じてタ	
2-1 継続的な			イミングをみながら、形	
関係を維持す			成できるように声かけ	
る理由を明確			や代弁、場の設定等調整	
にできる。働き			できる	
かけができる。				
2-2.継続的な				
関係を維持す				
る働きかけが				
できる				
2-3 職場や地				
域、学校などで				
の関係の維持				
に関するルー				
ルを把握でき				
る				
3.継続的な関				
係をより発展				
させられる				
3-1.離れたく				
ない理由を発				
見すること				
3-2.特別な関				
係を維持する				
時間や場所や				
費用を用意で				
きること				

d7201 対人関係の終結 terminating relationships

状況に見合った社会的に適切な方法で、他の人々との相互関係を終結すること。例えば、訪問の終わりに、一旦、関係を終わらせること。新しい町へ引っ越す際に、長期にわたる友人関係を終わらせること。職場の同僚、学校の同僚、 サービス提供者との関係を終わらせること。恋愛関係あるいは親密な関係を終結させること。

①人として具体	ICF	②①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		能力)	22-013 Y-9077	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.当該の面談な	軽度の	1.1 家族、親族、	1.1.1 知っている人に対	1.1.1.1/1.1.2.1	
どの終了を告げ	困難	友人、知人、仲	し、状況に応じてどの程	言語メッセージと非	
ることができる	5-	間、同僚、隣人、	度終結可能か把握でき	言語メッセージの組	
	24%	地域住民で知り	る	み合わせの意味を読	
2.引っ越しなど	中等度	合いの人		み取る技術	
に際して、関係	の困難	(e310 •	1.1.2 終結不可能また		
を終了させる	25-	e315 • e320 •	は困難な場合、その理由		
(別れを告げ	49%	e325)	を把握できる		
る) ことができ	重度の				
る	困難		1.1.3 状況に応じて夕	1.1.3.1 事実の繰り	
	50-		イミングをみながら、声	返しと感情の繰り返	
3.学校の卒業等	95%		かけや代弁、場を設定す	しを区別して確認す	
での関係を終了	完全な		る等調整を行い終結さ	る技術および連絡・	
させることがで	困難		せることができる	調整の技術	
きる。(対学生、	96-				
対教員、など)	100%	1.2 よく知らな	1.2.1 よく知らない人に	1.2.1.1/1.2.2.1 言	
		い人 (e345)	対し、状況に応じてどの		
4.転職などで			程度終結できるのか把	語メッセージの組み	
の、職場の仲間			握できる	合わせの意味を読み	
との関係を終了				取る技術	
させることがで			1.2.2 終結できない場		
きる。(仲間、職			合、その理由を把握でき		
務階層が違う			る		
人、取引先、な				1.2.3.1 事実の繰り	
ど)			1.2.3 状況に応じてタ	返しと感情の繰り返	
			イミングをみながら、声		
5.サービス提供			かけや代弁、場を設定するないのはる	る技術および連絡・	
者などとの関係			る等調整を行い終結で	問整の技術	
を終了させるこ とができる			きる		
CN. (59					
 6.家族関係や親					
密な関係を終了					
させることがで					
きる					
ر ی		[

7.上記1~6ま			
での関係の終了			
を受け入れるこ			
とができる。あ			
るいは適切に継			
続を図ることが			
できる			

d7202 対人関係における行動の制御 regulating behaviours within interactions

状況に見合った社会的に適切な方法で、他の人々との人間関係における感情、衝動、言語的攻撃 性、身体的攻撃性を制御すること。

	ا رداری TI ک	ш у ОСС .			
①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.なぜ、そう	軽度の	1.1 家族、親族、友	1.1.1 知っている人に	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
いう「感情」や	困難	人、知人、仲間、同	対し、状況に応じてど	語メッセージと非言語	
「衝動」を感じ	5-	僚、隣人、地域住民	の程度感情や行動の制	メッセージの組み合わ	
るのか理由を	24%	で知り合いの人	御が可能なのか把握で	せの意味を読み取る技	
分析できる。	中等度	(e310 •	きる	術	
2.問題を起こ	の困難	e315 • e320 •			
しそうな場面	25-	e325)	1.1.2 制御できない場		
を避けるなど、	49%		合、その理由を把握で		
適切な方法で	重度の		きる		
人間関係のお	困難				
ける「感情」や	50-		1.1.3 状況に応じて夕	1.1.3.1 事実の繰り返	
「衝動」を制御	95%		イミングをみながら、	しと感情の繰り返しを	
できる。			声かけや代弁、場を設	区別して確認する技術	
3.なぜ、人間関			定する等調整し制御を	および連絡・調整の技	
係において、			促すことできる	術	
「言語的攻撃					
性」「身体的攻		1.2 よく知らない	1.2.1 よく知らない人	1.2.1.1/1.2.2.1 言語	
撃性」を表現し		人 (e345)	に対し、状況に応じて	メッセージと非言語メ	
てしまうか、			どの程度感情や行動の	ッセージの組み合わせ	
(自己)分析が			制御が可能なのか把握	の意味を読み取る技術	
できる			できる		
4.間関係にお				1.2.3.1 事実の繰り返	
いて、「言語的			1.2.2 制御できない場	しと感情の繰り返しを	
攻撃性」「身体			合、その理由を把握で	区別して確認する技術	
的攻撃性」を表			きる		

現してしまう	完全な		
理由を理解し	困難	1.2.3 状況に応じてタ	
た上で、適切な	96-	イミングをみながら、	
制御行動をと	100%	声かけや代弁、場を設	
る事ができる		定する等調整し制御を	
5.人間関係に		促すことできる	
おけるストレ			
スの発散方法			
を知っており、			
それを実行で			
きる			
6.ストレス解			
消を手助けし			
てくれる仲間			
がいる			

d7203 社会的ルールに従った対人関係 interacting according to social rules

社会的相互関係の中で自立して行動し、他の人々との対人関係における役割や地位、その他の社会的身分を支配している社会的慣例に従うこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.対人関係に	軽度の	1.1 家族、親族、友	1.1.1 知っている人に	1.1.1.1/1.1.2.1 言語	
おける社会的	困難	人、知人、仲間、同	対し、状況に応じてど	メッセージと非言語メ	
慣習を知るこ	5-	僚、隣人、地域住民	の程度社会的ルール	ッセージの組み合わせ	
とができる。	24%	で知り合いの人	に従って対人関係を	の意味を読み取る技術	
(興味を持っ	中等度	(e310 • e315 •	築くことが可能なの		
ている。)(対人	の困難	e320 • e325)	か把握できる		
関係のおける	25-		1.1.2 築くことがで		
役割や地位を	49%		きない場合、その理由	1.1.3.1/1.1.4.1 事実	
理解できる。)	重度の		を把握できる	の繰り返しと感情の繰	
	困難		1.1.3 状況に応じて、	り返しを区別して確認	
2.対人関係に	50-		社会的ルールの内容や	する技術および連絡・	
おける社会的	95%		重要性を伝えることが	調整の技術	
慣習を認める	完全な		できる		
ことができる。	困難		1.1.4 状況に応じて		
	96-		タイミングをみなが		
3.当該の社会	100%		ら、声かけや代弁、場を		
的慣習に従っ			設定する等調整し対人		
た行動を行う			関係づくりを促すこと		
ことができる。			ができる		
·					_

10 トノ知らな	101 知っている」に	1011/1001 =	
N人 (e345)	対し、状況に応じてど	語メッセージと非言語	
	の程度社会的ルールに	メッセージの組み合わ	
	従って対人関係を築く	せの意味を読み取る技	
	ことが可能なのか把握	術	
	できる		
	1.2.2 築くことができ		
	ない場合、その理由を		
	把握できる		
	1.2.3 状況に応じて、	1.2.3.1/1.2.4.1 事	
	社会的ルールの内容や	実の繰り返しと感情の	
	重要性を伝えることが	繰り返しを区別して確	
	できる	認する技術および連	
	1.2.4 状況に応じて	絡・調整の技術	
	タイミングをみなが		
	ら、声かけや代弁、場を		
	設定する等調整し対人		
	関係づくりを促すこと		
	ができる		
	1.2 よく知らない人 (e345)	が人(e345) 対し、状況に応じてどの程度社会的ルールに従って対人関係を築くことが可能なのか把握できる 1.2.2 築くことができない場合、その理由を把握できる 1.2.3 状況に応じて、社会的ルールの内容や重要性を伝えることができる 1.2.4 状況に応じてタイミングをみなができる、声かけや代弁、場を設定する等調整し対人関係づくりを促すこと	が人(e345) 対し、状況に応じてどの程度社会的ルールに従って対人関係を築くことが可能なのか把握できる 1.2.2 築くことができない場合、その理由を把握できる 1.2.3 状況に応じて、社会的ルールの内容や重要性を伝えることができる 1.2.4 状況に応じてタイミングをみながら、声かけや代弁、場を設定する等調整し対人関係づくりを促すこと 語メッセージと非言語メッセージの組み合わせの意味を読み取る技術 まずを表してきる 1.2.2 集り返しを感情の繰り返しを区別して確認する技術および連絡・調整の技術

d7204 社会的距離の維持 maintaining social space

状況に見合った社会的に適切な方法で、自分自身と他人との距離を認識し維持すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.相手との距離を測る(知る)ことができる。認識するこ	軽度の 困難 5- 24%	1.1 家族、親族、友 人、知人、仲間、同 僚、隣人、地域住民 で知り合いの人	1.1.1 知っている人に対し、状況に応じてどの程度相手との距離を維持できているのか把	1.1.1.1/1.1.2.1 言語 メッセージと非言語メ ッセージの組み合わせ の意味を読み取る技術	
とができる。 2.相手との距離に対応した	中等度 の困難 25- 49%	(e310 • e315 • e320 • e325)	握できる 1.1.2 維持できない場 合、その理由を把握で		
行動をとることができる。 3.相手との距離を維持でき	重度の 困難 50- 95%		きる 1.1.3 状況に応じて、 相手との個々の距離感	1.1.3.1/1.1.4.1 事実の繰り返しと感情の繰	
離を維持できる	完全な 困難 96- 100%		や維持する方法につい て一緒に考えることが できる	り返しを区別して確認する技術および連絡・ 調整の技術	

		1.1.4 状況に応じてタイミングをみながら、相手への声かけや代弁、場を設定する等調整し対人関係づくりを促すことができる		
	1.2 よく知らな い人 (e345)	1.2.1 よく知らない人 に対し、状況に応じて どの程度相手との距離 を維持できているのか 把握できる	メッセージと非言語メ ッセージの組み合わせ	
		1.2.2 維持できない場合、その理由を把握できる		
		1.2.3 状況に応じて、 相手との個々の距離感 や維持する方法につい て一緒に考えることが できる	の繰り返しと感情の繰 り返しを区別して確認	
		1.2.4 状況に応じてタイミングをみながら、相手への声かけや代弁、場の設定等を調整し対人関係づくりを促すことができる		

特別な対人関係 particular interpersonal relationships (d730-d779)

d730 よく知らない人との関係 relating with strangers

ある特定の理由があって、一時的によく知らない人と接触したり、遭遇すること。例えば、道を 尋ねたり、物を買うこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	3 先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
体的行動(行	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
動の要素・因	評価点		護能力)		
子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	必要ない	
	し				
	0-4%				
1よく知らな	軽度の	1.1 よく知らない	1.1.1 よく知らない人	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
い人に、自分	困難	人 (e345)	に対し、状況に応じて	語メッセージと非言語	

		.			
はあなたの敵	5-		どの程度一時的に関係	メッセージの組み合わ	
ではないとい	24%		を築くことが可能なの	せの意味を読み取る技	
うメッセージ	中等度		か把握できる	術	
を送ることが	の困難				
できる	25-		1.1.2 築くことができ		
	49%		ない場合、その理由を		
2.よく知らな	重度の		把握できる		
い人に、協力	困難			1.1.3.1 事実の繰り返	
して何かを行	50-		1.1.3 状況に応じてタ	しと感情の繰り返しを	
おうと言うメ	95%		イミングをみながら、	区別して確認する技術	
ッセージをす	完全な		相手に声かけや代弁、	および連絡・調整の技	
ることができ	困難		場の設定等の調整がで	術	
る	96-		きる		
	100%			1.2.1.1/1.2.2.1 言語	
3.よく知らな			1.2.1 サービス提供者	メッセージと非言語メ	
い人に何らか			および専門職とどの程	ッセージの組み合わせ	
の協力を依頼			度一時的に関係を築く	の意味を読み取る技術	
することがで			ことが可能なのか把握		
きる			できる		
4.よく知らな		1.2 サービス提供	1.2.2 築くことができ		
い人に協力の		者および専門職	ない場合、その理由を	1.2.3.1 事実の繰り返	
お礼を述べる		(e340 • e355 •	把握できる	しと感情の繰り返しを	
ことができる		e360)		区別して確認する技術	
			1.2.3 状況に応じてタ	および連絡・調整の技	
5.よく知らな			イミングをみながら、	術	
い人から頼ま			サービス提供者および		
れた協力依頼			専門職に声かけや代		
事項に対応す			弁、場の設定等の調整		
ることができ			ができる		
る					
-					

d740 公的な関係 formal relationships

公的な状況(雇用主,専門家,サービス提供者との関係)において,特定な関係を つくり保つこと。 含まれるもの:権限のある人,下位の立場にある人,同等の立場にある人との関係。

d7400 権限のある人との関係 relating with persons in authority

本人自身の社会的地位とくらべて権力をもった人、地位のある人、名声のある人との公的な関係 (雇用主との関係)をつくり保つこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				

		T	T		
	0-4%				
1.権力や地位	軽度の	1.1 権限をもつ	1.1.1 権限のもつ立場	1.1.1.1/1.1.2.1 言語	
などで上位の	困難	立場にある人々	の人に対し、公的な関	メッセージと非言語メ	
人と接触する	5-	(e330)	係をどの程度つくり保	ッセージの組み合わせ	
ための準備を	24%	e 340	つことが可能なのか把	の意味を読み取る技術	
行うことがで	中等度	e 355 e360	握できる		
きる	の困難		11.2 保つことができ		
2.権力や地位	25-		ない場合、その理由を		
などで上位の	49%		把握できる	1.2.1.1 事実の繰り	
人との会話を	重度の			返しと感情の繰り返し	
行うことがで	困難	1.2 権限をもつ	1.2.1 権限をもつ立場	を区別して確認する技	
きる	50-	立場にある人々	にある人から否定的な	術および連絡・調整の	
3.権力や地位	95%	の態度(e430)	ふるまいがあった場	技術	
などで上位の	完全な	e440 e450	合、状況に応じてタイ		
人に意見を述	困難	e455	ミングをみながら、そ		
べるための準	96-		の人への声かけや代		
備をすること	100%		弁、相互に話が可能な		
ができる			会議の場を設定し仲介		
4.権力や地位			できる		
などで上位の					
人に意見を述					
べることがで					
きる。 プレゼン					
テーションを					
行うことがで					
きる					
5.権力や地位					
などで上位の					
人からの意見					
や指示などを					
受け止めるこ					
とができる					

d7401 下位の立場にある人との関係 relating with subordinates

本人と比べ、社会的な地位や名声について、下位の立場にある人との公的な関係(被雇用者あるいは使用人との関係)をつくり保つこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.下位の立場	軽度の	1.1 下位をもつ立場	1.1.1 下位の立場の人	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
にある人と分	困難	にある人々(e335)	に対し、公的な関係を	語メッセージと非言	

け喧ておくへ	F		ピの印度へといわって	ライッカージの知っ	\neg
け隔てなく会			どの程度つくり保つこ	語メッセージの組み	
話をすること	24%		とが可能なのか把握で	合わせの意味を読み	
ができる	中等度		きる	取る技術	
2.下位の立場	の困難				
にある人の	25-		1.1.2 保つことができ		
様々な状況を	49%		ない場合、その理由を		
把握できる	重度の		把握できる		
3. (状況を把	困難				
握したうえで)	50-	1.2 下位をもつ立場	1.2.1 下位をもつ立場	1.2.1.1 事実の繰り	
下位の立場に	95%	にある人々の態度	にある人から否定的な	返しと感情の繰り返	
ある人を誉め	完全な	(e435)	ふるまいがあった場	しを区別して確認す	
たり、奨励した	困難		合、状況に応じてタイ	る技術および連絡・	
りできる	96-		ミングをみながら、そ	調整の技術	
4. (状況を把	100%		の人への声かけや代		
握したうえで)			弁、相互に話が可能な		
下位の立場に			会議の場を設定し仲介		
ある人に、意見			できる		
を述べたり、指					
示したりする					
ことができる					
5. 下位の立場					
にある人から					
の意見や反論、					
質問などを受					
け止め、適切に					
反応すること					
ができる					
6. 下位の立場					
にある人との					
関係が壊れた					
場合、その修復					
に動くことが					
できる					
	l				

d7402 同等の立場にある人との関係 relating with equals

社会的な権威や地位、名声が、本人と同等な人との公的な関係をつくり保つこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うための	◆支援行動に必要な	備
体的行動(行	の共通	る環境因子	具体的介護行動(介護能	技術・知識	考
動の要素・因	評価点		カ)		
子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
	軽度の		1.1.1 同等の立場にあ	1.1.1.1/1.1.2.1	
	困難		る人との公的な関係性	言語メッセージと非	

1.同等の立場	5-	1.1 その他の特定	をどの程度つくり可能	言語メッセージの組	
にある人と共	24%	の、支援と関係	なのか把握できる	み合わせの意味を読	
通の目標を持	中等度	(e398)	なのの自己達くこの	み取る技術	
つことができ	の困難	(0000)	1.1.2 関係づくりを保つ	נוון אַנט אַגּן עט	
る	25-		ことができない場合、そ		
.0	49%		の理由を把握できる		
 2.同等の立場	重度の		の注回を記述くらる		
にある人と共	重度の	 1.2 その他の特定	1.2.1 同等の立場にある		
通の目標を持	50-	n態度 (e498)	人からの否定的なふるま		
って実現に向	95%	の感及 (6490)	いがあった場合、状況に		
けて意見交換	95% 完全な		応じてタイミングをみな	1,2,1,1 事実の繰り	
を行うこと	元主な		がら、その人への声かけ	返しと感情の繰り返	
(共同思考)	96-		や代弁、相互に話が可能	しを区別して確認す	
ができる	100%		な会議の場を設定し仲介	る技術および連絡・	
200	100%		できる	調整の技術	
 3.同等の立場			000	明年の江文川	
にある人と共					
通の目標に向					
かって、共同					
行動をとるこ					
とができる。					
4.3.の行動					
4.3.011 動					
互に共同の評 価を行い、新					
たな挑戦を行					
うことができ					
る					
 5.同等の立場					
にある人と共					
通の目標に向					
の行き違いな					
どのトラブル					
の修復を行う					
ことができる					

d750 非公式な社会的関係 informal social relationships

他の人々との関係に加わること。例えば、同じコミュニティや居住区に住んでいる 人々、同僚、 友人、遊び仲間、類似した経歴や職業をもつ人々との一時的な関係。含まれるもの:友人、隣 人、知人、同居者、仲間との非公式な関係。

d7500 友人との非公式な関係 informal relationships with friends

相互の敬意や共通の興味によって特徴づけられる友人関係をつくり保つこと。

体的行動(行)の	C F 共通 価点	②①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護 能力)	④支援行動に必要な技術・知識	備考
		支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.共通の興味軽地関心のを大な24大の非公で25大の興味252.友の興内容252.友の興内容253.友が253.友が253.友が3.	度難 - 4% 等財 5 6 2 2 3 2 3 4 4 5 5 2 4 5 5 2 4 5 5 5 2 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5	1.1 友人 e320 1.2 友人の態度 (e420)	1.1.1 友人とで、大人のは、大人のは、大人のは、できる、大人のは、できる。 (友の人の) 把握できる。 (大人の) にどのか (大人の) にどの (大人の) にどの (大人の) にどの (大人の) にどの (大人の) はいます (大人の) はいます (大人の) はいます (大人の) にる (大人の) にきる。 (大人の) にきる。 (大人の) にきえるのとがにきる。 (大人の) にきないができままがにきる。 (大人の) がいがらいたができます (大人の) がいかがらいた。 (大人の) がいがらいた。 (大人の) はいます (大人の) はいます (大人の) はいます (大人の) はいます (大人の) にきない。 (大人の) はいます (大人の) にきない。 (大人の) はいます (大人の) にきない。 (大人の) はいます (大人の) にいます (大人	1.1.1.1/1.1.2.1 言語メッセージと非言語メッセージの組み合わせの意味を読み取る技術 1.2.1.1/1.2.2.1 事実の返しを区別して確認する技術	

d7501 隣人との非公式な関係 informal relationships with neighbours

近隣の住居や住宅区に住む人々との非公式な関係をつくり保つこと。

①人として	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な技	備
具体的行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	術•知識	考
	評価点		能力)		

	1				
(行動の要					
素•因子)					
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.隣人等との	軽度の	1.1 隣人	1.1.1 隣人とどのよう	1111/1121 重宝	
共通の利害	困難	e325	な関係なのか(友人歴、会		l
関係など、関	5-	6020	る民族なのが、人人に、云うこと、電話の頻度、友人		
	_		うこと、電品の頻及、及入 にどのように思っている		
係を維持する。	24%			9 の投順	
る理由を確	中等度		のか)把握できる		
認する	の困難				
	25-		1.1.2 関係づくりを保つ		
2.隣人等との	49%		ことができない場合、そ		
共通の楽し	重度の		の理由を把握できる		
みや課題を	困難				
開発する	50-	1.2 隣人の態度	1.2.1 隣人から肯定的な	1.2.1.1/1.2.2.1 言語	
	95%	e425	ふるまいがあった場合、	メッセージと非言語メ	
3.隣人等との	完全な		今後の関係づくりの維	ッセージの組み合わせ	
共有される	困難		持について一緒にふり	の意味を読み取る技術	
連絡のツー	96-		かえることができる		
ルを確認す	100%		3760003 600	1,2,1,1/1,2,2,1 事実	
ることがで	100%		1.2.2 隣人から否定的な	の繰り返しと感情の繰	
ることがし					
G			ふるまいがあった場合、	り返しを区別して確認	
4 1944 1 775 1 . 6			どのようにすれば保つ	する技術	
4.隣人等との			ことができるのか一緒		
相互に守る			に考えることができる		
べきルール			1.2.3 隣人からの否定		
を逸脱しな			的なふるまいがあった		
61			場合、タイミングをみな		
			がら、その人へ代弁、相		
5. 隣人等と			互に話が可能な時間の		
の交流の内			調整や場の設定ができ		
容やレベル			る		
を相互が許					
容するする					
範囲内にと					
単色なる					
てめる					

d7502 知人との非公式な関係 informal relationships with acquaintances

知人ではあるが、親しい友人ではない人々との非公式な関係をつくり保つこと。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)		②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護 能力)	=	備考
	困難なし	支援を要しない	記入しない	記入しない	

	0 40/				
	0-4%				
1.知人である	軽度の	1.1 その他の特定	1.1.1 知り合いの程度を	1.1.1.1/1.1.2.1	
理由を確認し、	困難	の、支援と関係	把握できる	言語メッセージと非	
その範囲に限	5-	(e398)		言語メッセージの組	
定された交流	24%		1.1.2 関係づくりを保つ	み合わせの意味を読	
を開始するこ	中等度		ことができない場合、そ	み取る技術	
とができる	の困難		の理由を把握できる		
	25-		1.2.1 知人から肯定的な		
2.知人である	49%		ふるまいがあった場合、	1.2.1.1/1.2.2.1 事	
理由が継続す	重度の		今後の関係づくりの保	実の繰り返しと感情	
る限り、関係の	困難		ち方について一緒にふ	の繰り返しを区別し	
維持に一定の	50-		りかえることができる	て確認する技術	
努力をするこ	95%			1.2.1.1 事実の繰り	
とができる	完全な		1.2.2 知人から否定的な	返しと感情の繰り返	
	困難	1.2 その他の特定	ふるまいがあった場合、	しを区別して確認す	
3.知人として	96-	の態度(e498)	どのようにすれば保つ	る技術および連絡・調	
の交流を望ま	100%		ことができるようのか	整の技術	
れた場合、適切	, •		- 緒に考えることがで		
の受け入れる			きる		
ことができる					
			1.2.3 知人からの否定		
4.相互に関係			的なふるまいがあった		
を維持する必			場合、タイミングをみな		
要性がなくあ			がら、その人へ代弁、相		
った段階では、			互に話が可能な時間の		
無理に関係を			調整や場の設定ができ		
継続しないこ			る		
とができる					

d7503 同居者との非公式な関係 informal relationships with co-inhabitants

私的あるいは公的に経営されている家や他の住居に同居している同居者との何らかの理由での非 公式な関係をつくり保つこと。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.同居者との	軽度の	1.1 その他の特定	1.1.1 同居者との関	1.1.1.1/1.1.2.1 言語	
共通の利害関	困難	の、支援と関係	係性を把握できる	メッセージと非言語メ	
係など、関係を	5-	(e398)		ッセージの組み合わせ	
維持する理由	24%		1.1.2 関係づくりを	の意味を読み取る技術	
を確認する。	中等度		保つことができない		
	の困難				

	1			T	
2.同居者との	25-		場合、その理由を把		
共通の楽しみ	49%		握できる		
や課題を開発	重度の			1.2.1.1/1.2.2.1 事実	
する。	困難	1.2 その他の特定	1.2.1 同居者から肯	の繰り返しと感情の繰	
	50-	の態度(e498)	定的なふるまいがあ	り返しを区別して確認	
3.同居者との	95%		った場合、今後の関	する技術	
共有される連	完全な		係づくりの保ち方に		
絡のツールを	困難		ついて一緒にふりか		
確認すること	96-		えることができる		
ができる	100%				
			1.2.2 同居者から否		
4.同居者との			定的なふるまいがあ		
相互に守るべ			った場合、どのよう		
きルールを逸			にすれば保つことが		
脱しない			できるようのかー緒		
			に考えることができ		
5. 同居者との			る		
交流の内容や					
レベルを相互			1.2.3 同居者からの	1.2.3.1 事実の繰り返	
が許容するす			否定的なふるまいが	しと感情の繰り返しを	
る範囲内にと			あった場合、タイミ	区別して確認する技術	
どめる			ングをみながら、そ	および連絡・調整の技	
			の人とへ代弁、相互	術	
			に話が可能な時間の		
			調整や場の設定がで		
			きる		
		l			

d7504 仲間との非公式な関係 informal relationships with peers

年齢、興味、その他の特徴を共有する人々との非公式な関係をつくり保つこと。

①人として具体的行動(行動	ICF の共通	②①に直接関係す る環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要な技術・知識	備考
の要素・因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.共通の年齢	軽度の	1.1 仲間	1.1.1 仲間とどのよ	1.1.1.1/1.1.2.1 言語	
層、出身地、興	困難	e325	うな関係なのか(仲間	メッセージと非言語メ	
味・関心などの	5-		になってどれくらい	ッセージの組み合わせ	
きっかけを持	24%		年月か、会う頻度、電	の意味を読み取る技	
つ人と交流に	中等度		話頻度、仲間に対して	術。	
興味をもつ。そ	の困難		どのように思ってい		
の楽しさを知	25-		るのか)把握できる		
る	49%				
	重度の		1.1.2 関係づくりを		
	困難		保つことができない		

2.仲間である	50-		場合、その理由を把握		
理由を確認し	95%		できる		
つつ、一定の総	完全な				
合扶助なども	困難	1.2 仲間の態度	1.2.1 仲間から肯定	1.2.1.1/1.2.2.1 事実	
含む活動を継	96-	(e425)	的なふるまいがあっ	の繰り返しと感情の繰	
続的に行う	100%		た場合、今後の関係づ	り返しを区別して確認	
			くりの維持について	する技術。	
3.同様のきっ			一緒にふりかえるこ		
かけを持つ人			とができる		
を誘って仲間					
の拡充に努め			1.2.2 仲間から否定		
ることができ			的なふるまいがあっ		
る			た場合、どのようにす		
			れば保つことができ		
4.仲間の関係			るようのか一緒に考		
を深め深める			えることができる		
べく、関係の維					
持に一定の努			1.2.3 仲間からの否	1.2.3.1 事実の繰り返	
力をすること			定的なふるまいがあ	しと感情の繰り返しを	
ができる。(連			った場合、タイミング	区別して確認する技術	
絡網の確認・共			をみながら、仲間へ代	および連絡・調整の技	
通の服装(を創			弁、相互に話が可能な	術。	
る)・共通のキ			時間の調整や場の設		
ーワードや記			定ができる		
憶を創るなど)			, = = = = = = = = = = = = = = = = = = =		
,.ee					
5.仲間として					
の交流を望ま					
れた場合、適切					
の受け入れる					
ことができる					
6.去っていく					
仲間を無理に					
引き留めるこ					
とはしないが、					
仲間関係の維					
持には相当の					
努力を払う。事					
本的に、自分か					
ら離れること					
はしない					
L	1	ı	ı	1	

d760 家族関係 family relationships

血族や親類関係をつくり保つこと。例えば、核家族、拡大家族、里子をもつ家族、 養子をもつ家族、 義理の家族。またいとこや法的後見人のような更に遠い関係。 含まれるもの:子どもとの 関係、親との関係、兄弟姉妹や親族との関係。

d7600 子どもとの関係 parent-child relationships

実の親もしくは養子縁組の親になること。あるいは親であること。例えば、子どもをもつこと。 親として子どもと関係をもつこと。養子との親子関係を構築し、維持すること。実の子ども、 もしくは養子の子どもに対して物的、知的、 情緒的養育を提供すること。

00 (ISB) (77 J C 01		旧柏的食用を提供90	CC.	
①人として具	ICF	②①に直接関係する	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
1. お互いに	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
自立した人間	し				
同士としての	0-4%				
子どもとの関	軽度の	1.1 家族(e310)	1.1.1 現在の子どもと	1.1.1.1/1.1.2.1	
係をつくるこ	困難		の関係性を把握できる	言語メッセージと非	
とができる。	5-			言語メッセージの組	
(子どもを親	24%		1.1.2 関係性を保つこ	み合わせの意味を読	
の意思で振り	中等度		とができない場合、そ	み取る技術	
回さない。)	の困難		の理由を把握できる		
2.子どもを親	25-				
の所有物扱い	49%	1.2 家族の態度	1.2.1 子どもから否定	1.2.1.1/1.2.2.1 事	
しない	重度の	(e410)	的なふるまい(虐待の	実の繰り返しと感情	
3.親として、	困難		疑いも含む)があった	の繰り返しを区別し	
常に子どもの	50-		場合、その理由を把握	て確認する技術。虐	
全面的な(情	95%		できる	待についての知識	
緒的)支持	完全な				
者、応援者、	困難		1.2.2 状況に応じてタ	1.2.2.1 事実の繰り	
支援者として	96-		イミングをみながら、	返しと感情の繰り返	
振舞えること	100%		子どもへの声かけや代	しを区別して確認す	
4.子どもの発			弁、相互に話が可能な	る技術および連絡・調	
達に対応して			場の設定し仲介できる	整の技術	
適切な助言援					
助を行えるこ					
ک					
5.子どもの発					
達に対応して					
適切な活動環					
境の提供を行					
えること					
6.親として、					
何らかの形で					
幸せな人生を					
生きているモ					
デルを示すこ					

とができるこ			
ك			
7.親として、			
子どもへの要			
望や意見があ			
る場合は、明			
確のそれを表			
現することが			
できる。(押し			
付けではなく			
対等な立場や			
意見として)			

d7601 親との関係 child-parent relationships

自分の親との関係を構築し、維持すること。例えば、幼い子どもが自分の親に従うこと。成人し た子どもが年老いた親の世話をすること。

①人として具体的行動(行動の表達の要素・因子) ICF の共通の要素・因子) ②①に直接関係する環境因子 ③先の支援を行うための具体的介護行動(介護行動(介護行動(介護行動(介) 技術・知識) 名環境因子 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 1.1.1.1/1.1.2.1 言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージと非言語メッセージの組み合わせの意味を読み取る技術 カート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	703 0 0.0 1 0					
の要素・因子) 評価点 護能力) 記入しない 記入しない 1. 基本として、お互いに自立した人間同士としての親との関係をつくることができる。(子どもの意思で親との関係をつくることができる。(子どもの意思で親との意思で親を振り回さない。) 1.2 家族の態度を410 1.2 家族の態度を410 1.2.1 親から否定的な心るまい(虐待の疑いも含む)があった場合、その理由を把握できるの繰り返しと感情の繰り返しと感情の繰り返しを区別して確認する技術 1.2.1 親から否定的な心るまい(虐待の疑いも含む)があった場合、その理由を把握できるの繰り返しを区別して確認する技術 1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、親に、物的にも精神的にも依存しないことができる。3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援 1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定し仲介できる。3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援 1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定し仲介できる。3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援					-	
困難な しの	体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
1. 基本として、お互いに自立した人間同士としての親との関係をつくることができる。(子どもの意思で親を振り回さない。) 2.成人期に達するまでを除き、その後は親に、物的にも権存しないことができる。3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援 1. 1 家族 e310	の要素・因子)	評価点		護能力)		
1. 基本として、お互いに自立した人間 同士としての親との関係をつくることができる。(子どもの意思で親を振り回さない。) 1.1 家族の態度 の理由を把握できる の理由を の理由を の理由を の理 の の の の の の の の の の の の の の の の の の		困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 基本として、お互いに自立した人間自立した人間同士としての親との関係をつくることができる。(子どもの意思で親を振り回さない。) 1.1 家族 e310 1.1.1 親との関係性を開産できる 1.1.1.1/1.1.2.1 言語メッセージと非言語メッセージの組み合わせの意味を読み取る技術 できる。(子どもの意思で親を振り回さない。) 25-1.2 家族の態度をおきない(虐待の疑いも含む)があった場合、その理由を把握できるの表まい(虐待の疑いも含む)があった場合、その理由を把握できるの繰り返しを区別して確認する技術 1.2.1 親から否定的ならるまい(虐待の疑いも含む)があった場合、その理由を把握できるの繰り返しを区別して確認する技術 1.2.2 状況に応じて夕日本の経験の表しを区別して確認する技術 さ、その後は親に、物的にも精神的にも依存しないことができる。3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援 1.00% 1.2.2 状況に応じて夕日本の経験の設定し仲介できる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またができる。またが、またができる。またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、		し				
て、お互いに 自立した人間 同士としての 親との関係を つくることが できる。(子ど もの意思で親 を振り回さな い。) 由難 中等度 の困難 25- もの意思で親 を振り回さな い。) 1.2 家族の態度 ・ 49% 重度の 困難 2.成人期に違 50- するまでを除 き、その後は 親に、物的に も精神的にも 依存しないこ とができる 3.子どもとし て親の全面的 な (情緒的) 支持者、応援 1.2 家族の態度 ・ 410 1.2.1 親から否定的な ふるまい (虐待の疑い も含む) があった場合、 その理由を把握できる 1.2.2 状況に応じて夕 イミングをみながら、 親に声かけや代弁、相 互に話が可能な場の設 定し仲介できる 1.2.2 状況に応じて夕 イミングをみながら、 親に声かけや代弁、相 互に話が可能な場の設 定し仲介できる		-4%				
自立した人間 同士としての 親との関係を つくることが できる。(子ど 25- もの意思で親 49% を振り回さな い。)1.2 家族の態度 ・ 0 本 ・ 1.2 家族の態度 ・ 6 本 ・ 1.2 家族の態度 ・ 6 本 ・ 1.2 家族の態度 ・ 6 本 ・ 7 を振り回さな ・ 7 を振り回さな ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 7 を ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 7 を ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 7 を ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 7 本 ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 9 を ・ 9 を ・ 9 を ・ 7 を ・ 8 本 ・ 8 本 ・ 9 を ・ 7 本 ・ 9 を ・ 9 を ・ 7 本 ・ 9 を ・ 7 本 ・ 9 を ・ 9 を ・ 1.2 は ・ 1.2 は 	1. 基本とし	軽度の	1.1 家族 e310	1.1.1 親との関係性を	1.1.1.1/1.1.2.1	
同士としての 24% 中等度 つくることが の困難 できる。(子ど 25- 49% 事度の い。) 困難 25の人則に達 50- 95% き、その後は 親に、物的に も精神的にも 96- 依存しないことができる。3子どもとして親の全面的 な (情緒的) 支持者、応援	て、お互いに	困難		把握できる	言語メッセージと非	
親との関係を つくることが できる。(子ど もの意思で親 	自立した人間	5-			言語メッセージの組	
つくることが できる。(子ど もの意思で親 を振り回さない。)の関連の 25- 49% 重度のい。)1.2 家族の態度 e410の理由を把握できる いるまい(虐待の疑い も含む)があった場合、 その理由を把握できる1.2.1 親から否定的ない。 (定待の疑い も含む)があった場合、 その理由を把握できる1.2.1 親から否定的ない。 (定待の疑い その理由を把握できる1.2.1 親から否定的ない。 (定待の疑い その理由を把握できる1.2.1 親から否定的ない。 (定待の疑い その理由を把握できるさ、その後は表現に、物的にも特別に、物的にも特別にあります。 も精神的にもいできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 3.子どもとして親の全面的ないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕から、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定はないできる。 4.2.2 状況に応じて夕からないできる。 4.2.2 できるのはできる。 4.2.2 できるのはできるのはできるのはできるのはできる。 4.2.2 できるのはできるのはできるのはできるのはできるのはできるのはできるのはできるのは	同士としての	24%		1.1.2 関係性を保つこ	み合わせの意味を読	
できる。(子ど もの意思で親 ちの意思で親 を振り回さな い。)49%1.2 家族の態度	親との関係を	中等度		とができない場合、そ	み取る技術	
もの意思で親を振り回さなを振り回さない。)49%e4101.2.1 親から否定的な ふるまい (虐待の疑い も含む) があった場合、 の繰り返しと感情 の繰り返しを区別しての理由を把握できる でを除き、その後は 完全な 知に、物的にも精神的にも 物質にないことができる 3.子どもとして親の全面的な (情緒的)支持者、応援1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、 親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定し仲介できる	つくることが	の困難		の理由を把握できる		
を振り回さない。)重度の 困難 50- 95%ふるまい (虐待の疑い も含む)があった場合、 その理由を把握できる イミングをみながら、 親に、物的にも も精神的にもの存しないことができる。 3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援、ふるまい (虐待の疑い その理由を把握できる イミングをみながら、 親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定し中介できる	できる。(子ど	25-	1.2 家族の態度			
い。)困難も含む)があった場合、 その理由を把握できるの繰り返しを区別して確認する技術2.成人期に達するまでを除するまでを除ります。 を、その後は完成して知知に、物的に表現に、物的にも特神的にもの存しないことができる。 3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、親に声かけや代弁、相互に話が可能な場の設定し仲介できる	もの意思で親	49%	e410	1.2.1 親から否定的な	1.2.1.1/1.2.2.1 事	
2.成人期に達するまでを除するまでを除き、その後は 割に、物的に も精神的にも 依存しないことができる 3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援50-	を振り回さな	重度の		ふるまい(虐待の疑い	実の繰り返しと感情	
するまでを除き、その後は 完全な 親に、物的に も精神的にも 你存しないこ とができる 3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援1.2.2 状況に応じて夕 イミングをみながら、 親に声かけや代弁、相 互に話が可能な場の設 定し仲介できる	(1°)	困難		も含む)があった場合、	の繰り返しを区別し	
き、その後は 親に、物的に も精神的にも とができる 3.子どもとし て親の全面的な(情緒的) 支持者、応援1.2.2 状況に応じてタイミングをみながら、 親に声かけや代弁、相 互に話が可能な場の設定し仲介できる	2.成人期に達	50-		その理由を把握できる	て確認する技術	
親に、物的に も精神的にも 依存しないこ とができる 3.子どもとし て親の全面的 な(情緒的) 支持者、応援	するまでを除	95%				
も精神的にも 依存しないこ とができる 3.子どもとし て親の全面的 な(情緒的) 支持者、応援親に声かけや代弁、相 互に話が可能な場の設 定し仲介できる	き、その後は	完全な		1.2.2 状況に応じてタ		
依存しないことができる 3.子どもとして親の全面的な(情緒的)支持者、応援互に話が可能な場の設定し仲介できる	親に、物的に	困難		イミングをみながら、		
とができる 3.子どもとし て親の全面的 な(情緒的) 支持者、応援	も精神的にも	96-		親に声かけや代弁、相		
3.子どもとし て親の全面的 な(情緒的) 支持者、応援	依存しないこ	100%		互に話が可能な場の設		
て親の全面的 な(情緒的) 支持者、応援	とができる			定し仲介できる		
な(情緒的) 支持者、応援	3.子どもとし					
支持者、応援	て親の全面的					
	な(情緒的)					
者、支援者と	支持者、応援					
	者、支援者と					

して振舞える こと 4、家族の一員 として家族内 での役割や相 互扶助に の役割で 関し て一担うことが できる 4-1、親の老化 などに 適知性できる 方護な担うしな い。) 5.子との形で 幸せなとりこして、 何らかないいっと できること とろそとして、 親へのあることと 親へのあるは のそれを表現す ること ではなく対等 な立場や意見	·		- I	
4.家族の一員 として家族内 での役割や相 互扶助に関し て一定の役割 を担うことが できる 4-1.親の老化 などに対応収援 助ること。(親の 介護な性できる ることとを 高さととを い。) ら子として、 何らかの生を 生きているすることと ら子として、 親へのある 環見がある場 合は、明確の それを表現す ることができる。 、(押し付け ではなり 変見				
として家族内での役割や相 互扶助に関し て一定の役割 を担うことができる 4-1.親の老化などに対応して、適切な援助を提供できること。(親の 介護などを直接とで担うことを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を 生きているできることと 6.子として、親への要望や 意見がある場合は、明確の それる表現することができる。、(押し付けではなく対等な立場や意見	こと			
での役割や相 互扶助に関し て一定の役割 を担うことが できる 4-1.親の老化 などに対応し て、適切な援 助を提供でき ること。(親の 介護などを直 接めに起うこと をい。) 5.子として、 何らかの形で 幸せないる守さ をせきている示すことができることと 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、表現す ることができる。、(押し付け ではなく対等 な立場や意見	4.家族の一員			
互扶助に関して一定の役割を担うことができる 4-1 親の老化などに対応して、適切のが護供できること、(親の介護などもうことを意味していい。) 5.子との形で幸せない。) 5.子との形生を生きてい示すこととの・子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなくがき見、	として家族内			
て一定の役割を担うことができる 4-1.親の老化などに対応して、適切な援助を提供できること、(親の介護などを直接的に担うことを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができることと 6.子として、親への要望や意見が明確のそれを表ができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	での役割や相			
を担うことができる 4-1 親の老化 などに対応して、適切な援 助を提供できること。(親の 介護などを直 接的に意味しない。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモデルを示すことができること 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、現現の 奇は、明確の そなができる。(押し付けではなく対等 な立場や意見	互扶助に関し			
できる 4-1 親の老化 などに対応して、適切な援 助を提供できること。(親の 介護などを直 接的に起けっことを意味しない。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモデルを示すことができることと 6.子として、 親へのがある場 合は、明確の そ表現することができる。(押し付けではなく対等 な立場や意見	て一定の役割			
4-1 親の老化 などに対応し て、適切な援 助を提供でき ること。(親の 介護などを直 接的に担うこ とを意味しな い。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ とと 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付けではなく対等 な立場や意見	を担うことが			
などに対応して、適切な援助を提供できること。(親の介護などを直接的に担うことを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができることと 6.子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	できる			
て、適切な援 助を提供でき ること。(親の 介護などを直 接的に担うこ とを意味しない。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	4-1.親の老化			
助を提供できること。(親の 介護などを直接的に担うことを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができること。6.子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	などに対応し			
ること。(親の 介護などを直 接的に担うこ とを意味しない。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができること 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができる。(押し付けではなく対等 な立場や意見	て、適切な援			
介護などを直接的に担うことを意味しない。)5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができること6.子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	助を提供でき			
接的に担うことを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができること 6.子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	ること。(親の			
とを意味しない。) 5.子として、何らかの形で幸せな人生を生きているモデルを示すことができること 6.子として、親への要望や意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	介護などを直			
い。) 5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	接的に担うこ			
5.子として、 何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	とを意味しな			
何らかの形で 幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	(1°)			
幸せな人生を 生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	5.子として、			
生きているモ デルを示すこ とができるこ と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	何らかの形で			
デルを示すことができること 6.子として、 親への要望や 意見がある場合は、明確の それを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	幸せな人生を			
とができること 6.子として、 親への要望や 意見がある場合は、明確の それを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	生きているモ			
と 6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	デルを示すこ			
6.子として、 親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	とができるこ			
親への要望や 意見がある場 合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	ک			
意見がある場合は、明確のそれを表現することができる。(押し付けではなく対等な立場や意見	6.子として、			
合は、明確の それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	親への要望や			
それを表現す ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	意見がある場			
ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	合は、明確の			
ることができ る。(押し付け ではなく対等 な立場や意見	それを表現す			
ではなく対等 な立場や意見				
な立場や意見	る。(押し付け			
	ではなく対等			
	な立場や意見			
として)	として)			

d7602 兄弟姉妹との関係 sibling relationships

血縁,養子縁組,結婚を通して,片親または両親が同じである兄弟関係や姉妹関係をつくり保つ こと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1. 基本とし	軽度の	1.1 家族(e310)	1.1.1 兄弟姉妹との関	1.2.1.1 事実の繰り
て、お互いに	困難		係づくりをどの程度保	返しと感情の繰り返
自立した人間	5-		つことができるのか把	しを区別して確認す
同士としての	24%	1.2 家族の態度	握できる	る技術および連絡・
関係をつくる	中等度	(e410)		調整の技術。
ことができる	の困難		 1.1.2 保つことができ	
	25-		ない場合、その理由を	1.1.1.1/1.1.2.1 言
2.相互に全面	49%		把握できる	語メッセージと非言
的な(情緒	重度の			語メッセージの組み
的)支持者、	国難		 1,2,1 兄弟姉妹から否	合わせの意味を読み
心援者、支援	50-		定的なふるまい(虐待	取る技術。
者として振舞	95%		の疑いも含む)があっ	و البا خ د ح خلا
うことができ			た場合、その理由を把	
うここが CB	完全な		握できる	1,2,1,1/1,2,2,1 事
3 3.家族の一員	困難		運である	T.Z.1.1/ T.Z.Z.1
として家族内	96-		100 母辺に応じてね	
	100%		1.2.2 状況に応じてタ	の繰り返しを区別し
での役割や相			イミングをみながら、	て確認する技術およ
互扶助に関し			兄弟姉妹への声かけや	び連絡・調整の技術。
て一定の役割			代弁、相互に話が可能	虐待についての知
を担うことが			な場の設定等、仲介で	識。
できる			きる	
4.兄弟姉妹と				
して、相互				
·				
ること				
5.兄弟姉妹と				
して、相互に要				
望や意見があ				
る場合は、明確				
のそれを表現				
することがで				
きる。(押し付				
けではなく対				
等な立場や意				
見として)				
6.基本的に				
は、相互に物				
的にも精神的				
にも依存しな				
いことが原則				
であるが、一				
定の範囲での				
相互依存を許				
される関係を				
し望るのすきけ等見らは的にいで定相てや場そるるでなと基、にもこあの互相見はをと押な場て的互精存がが囲存互が明表がしくや に神し原、でをにが明表がしくや 物的な則一の許要あ確現で付対意				

維持すること ができる			

d7603 親族との関係 extended family relationships

いとこ、おば、おじ、祖父母などの親族との親戚関係をつくり保つこと。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.共通の祖先	軽度の	1.1 家族(e310)	1.1.1 親族との関係づ	1.1.1.1/1.1.2.1	
をもつことが	困難		くりをどの程度保つこ	言語メッセージと非	
きっかけとな	5-		とができるのか把握で	言語メッセージの組	
る人と交流に	24%		きる	み合わせの意味を読	
興味をもつ。そ	中等度			み取る技術。	
の楽しさを知	の困難		1.1.2 保つことができ		
る。	25-		ない場合、その理由を		
	49%		把握できる		
2. 共通の祖先	重度の	1.2 家族の態度		1.2.1.1/1.2.2.1 事	
をもつことを	困難	(e410)	1.2.1 親族から否定的	実の繰り返しと感情	
確認しつつ、一	50-		なふるまい(虐待の疑	の繰り返しを区別し	
定の総合扶助	95%		いも含む)があった場	て確認する技術およ	
なども含む活	完全な		合、その理由を把握で	び連絡・調整の技術。	
動を継続的に	困難		きる	虐待についての知	
行う。	96-			識。	
	100%		1.2.2 状況に応じてタ		
3.親戚間の関			イミングをみながら、		
係を深めるべ			親族への声かけや代		
く、関係の維持			弁、相互に話が可能な		
に一定の努力			場の設定し仲介できる		
をすることが					
できる。(連絡					
網の確認・祭祀					
の共同開催な					
ど)					

d770 親密な関係 intimate relationships

個人間の親密な関係あるいは恋愛関係をつくり保つこと。例えば、夫と妻、恋人同士、性的パートナー同士との関係。 含まれるもの:恋愛関係、婚姻関係、性的関係。

d7700 恋愛関係 romantic relationships

情緒的、身体的愛情に基づいてつくり保つ関係で、長期の親密な関係へと至る可能性のあるもの。

	1	T	だく, 支別の税名は関係へ(「		
①人として具	ICF	②①に直接関係す	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.強い情緒的	軽度の	1.1 その他の特定	1.1.1 恋愛関係づくりを	1.1.1.1/1.1.2.1	
な相互依存的	困難	の、支援と関係	どの程度保つことがで	言語メッセージと非	
関係を創るこ	5-	(e398)	きているのか把握でき	言語メッセージの組	
とができる。	24%		る	み合わせの意味を読	
1-1.相互依	中等度			み取る技術。	
存関係を含む	の困難		1.1.2 関係を保つことが		
情緒的関係が	25-		できない場合、その理由		
片務的になっ	49%		を把握できる		
ていないかを	重度の				
確認できる。	困難		 1.2.1 恋愛相手から否定	1.2.1.1/1.2.2.1 事	
1-2.相互依	50-		的なふるまい(虐待の疑	実の繰り返しと感情	
存関係を対等	95%		いも含む)があった場	の繰り返しを区別し	
に維持できる。	完全な		合、その理由を把握でき	て確認する技術。虐	
(維持できな	困難		る	待についての知識。	
い場合、虐待な	96-				
どが発生する	100%	1.2 その他の特定	 1.2.2 恋愛相手から否定	1,2,2,1/1,2,3,1 事	
場合があり得	10070	の態度 (e498)	的なふるまい(虐待の疑	実の繰り返しと感情	
る。)			いも含む)があった場	の繰り返しを区別し	
			合、その対応を一緒に考	て確認する技術およ	
2.身体的愛情			えることができる	び連絡・調整の技術。	
関係を創るこ			7.000.00	虐待についての知	
とができる			 1.2.3 状況に応じてタ	識。	
3.一定期間、			イミングをみながら、恋	□97 0	
1. 2.の関係			愛相手に声かけや代弁、		
を継続するこ			相互に話が可能な場の		
とができる			設定等仲介できる		
4.親密な関係			INVEALUICOS		
4.税名な関係した進むことが					
できる。					
 5.破局を適切					
5.吸向を適切					
要な行動をと					
ることができ					
る					

d7701 婚姻関係 spousal relationships

法的な,他人との親密な関係を構築し,維持すること。例えば、法的結婚として法的に既婚の夫あるいは妻となること。非婚(内縁)の配偶者となることを含む。

あるいは安 こが	80CC0	タトメロ くしろいなし 07日01	両白になるにとなると。		
①人として具	ICF	②①に直接関係す	3 先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない		必要ない	
	U U	2,22,0,0,0		22.0.0	
	0-4%				
	軽度の	1.1 家族 (e310)	 1.1.1 婚姻や事実婚の有	1.1.1.1/1.1.2.1	
4 城田坦农女		1.1 家族 (e310 <i>)</i> 		•	
1. 婚姻関係を	困難		無、現在の関係性につい		
つくるという	5-		て把握できる	言語メッセージの組	
個人的社会的	24%			み合わせの意味を読	
意味を理解す	中等度		1.1.2 関係性が維持でき	み取る技術	
ることができ	の困難		ていない場合、その理由		
る	25-		を把握できる		
	49%			1.2.1.1 事実の繰り	
2.婚姻関係に	重度の		1.2.1 配偶者(または、	返しと感情の繰り返	
関する法的社	困難		パートナー) から否定的	しを区別して確認す	
会的権利義務	50-		なふるまい(虐待の疑い	る技術。虐待について	
関係を理解し	95%		も含む)があった場合、	の知識	
ている			その理由を把握できる		
3.親密な関係		 1.2 家族の態度	 1.2.2 配偶者(または、	1,2,2,1/1,2,3,1	
を維持すると		(e410)	パートナー)から否定的	事実の繰り返しと感	
ともに、経済的		(0110)	なふるまい(虐待の疑い	情の繰り返しを区別	
社会的な相互			も含む)や虐待につなが		
関係を確認し、			るようなふるまいがあ	よび連絡・調整の技	
継続、維持でき					
			った場合、その対応を一	術。虐待についての	
る			緒に考えることができ	知識。	
1 +0+50017.1			る		
4.親族関係や、					
子どもの養育			1.2.3 状況に応じてタ		
などに共同し			イミングをみながら、配		
て対応できる			偶者(または、パートナ		
しっかりした			ー)に声かけや代弁、相		
信頼関係を創			互に話が可能な場の設		
ることができ			定し仲介できる		
る					
5.相互に相手					
が婚姻関係の					
継続を望まな					
松帆を重める い場合、それを					
適切に受け入					
れることがで					
きる					

d7702 性的関係 sexual relationships

配偶者やその他のパートナーと性的な関係を構築し、維持すること。

①人として具	ICF	②①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
体的行動(行動		る環境因子	の具体的介護行動(介護	技術・知識	考
の要素・因子)			能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1.お互いの明	軽度の	1.1 家族 (e310)	1.1.1 配偶者 (または、	1.1.1.1/1.1.2.1 言	
確な意思に基	困難		パートナー)関係づくり	語メッセージと非言	
づく強い情緒	5-		について把握できる	語メッセージの組み	
的な相互依存	24%			合わせの意味を読み	
的関係を創る	中等度		1.1.2 関係性が保てない	取る技術	
ことができる	の困難		場合、その理由を把握で		
	25-		きる		
2.身体的(性	, .				
的)愛情関係を	重度の	1.2 家族の態度	1.2.1 配偶者 (または、	1.2.1.1 事実の繰り	
創ることがで	困難	(e410)	パートナー)から性的虐	返しと感情の繰り返	
きる	50-		待(虐待の恐れも含む)	しを区別して確認す	
	95%		があった場合、本人の身	る技術。虐待につい	
3.親密な関係			体および精神的な状態	ての知識	
の結晶である			や状況を把握できる		
出産を共同の					
創造的営みと			1.2.2 状況に応じてタイ		
して受け止め、			ミングをみながら、配偶	実の繰り返しと感情	
必要な行動を			者(または、パートナー)		
行うことがで			に声かけや代弁、相互に		
きる			話が可能な場の設定し	び連絡・調整の技術	
4 = +0.0-1-1-			仲介できる		
4.長期にわた					
る一定期間、					
1. 2.の関係					
を継続するこ					
とができる。					
(継続するた					
めの努力を惜					
しまない。)					
 5.破局を適切					
この同を適切に受け止め、必					
要な行動をと					
ることができ					
3					
ବ					

第8章 主要な生活領域 major life areas

1. | CFの「活動と参加」における主要事項 ≪主要な生活領域≫

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、教育、仕事と雇用に携わり、経済的取引きを行うために必要とされる課題や行為に従事 したり、遂行することを扱う。

教育 education (d810-d839)

- d810 非公式な教育 informal education
- d815 就学前教育 preschool education
- d820 学校教育 school education
- d825 職業訓練 vocational training
- d830 高等教育 higher education
- d839 その他の特定の、および詳細不明の、教育 education, other specified and unspecified

仕事と雇用 work and employment (d840-d859)

- d840 見習研修(職業準備) apprenticeship (work preparation)
- d845 仕事の獲得・維持・終了 acquiring, keeping and terminating a job
- d850 報酬を伴う仕事 remunerative employment
- d855 無報酬の仕事 non-remunerative employment
- d859 その他の特定の、および詳細不明の、仕事と雇用 work and employment, other specified and unspecified

経済生活 economic life (d860-d879)

- d860 基本的な経済的取引き basic economic transactions
- d865 複雑な経済的取引き complex economic transactions
- d870 経済的自給 economic self-sufficiency
- d879 その他の特定の、および詳細不明の、経済生活 economic life, other specified and unspecified
- d898 その他の特定の主要な生活領域 major life areas, other specified
- d899 詳細不明の主要な生活領域 major life areas, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察 ≪主要な生活領域≫

第8章「主要な生活領域」は、教育・仕事と雇用・経済生活の三つのブロックから構成されている。原始的な事から考えても獲物を狩る、作物を作る、道具を作ると言った行為から、食べられるのか、食べられないのか、伝承や継承、知らないことがあっても体験を通して、学習をしていく、すなわち「生きること=学習」と、捉えることができる。現代においては、人間は一層文化的に生きることが求められ、社会生活を営まなければならない。そこにはそのような行為から、経済活動が生まれる。経済活動とはいっても、近代的な貨幣・通貨を用いたこともあれば、物々交換であったり、余剰品の整理であったり、住まうことも含まれる。それらを形にしたものが、

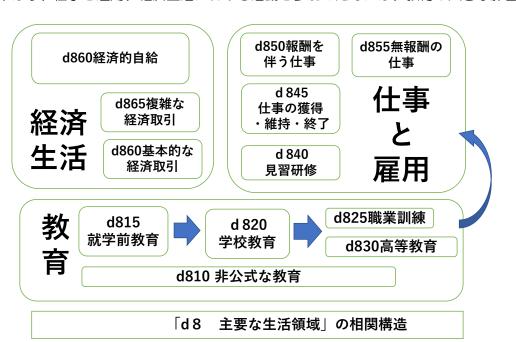
仕事であり就労であると考えられる。生活を垣間見たとき、下図のように学習を軸に相関関係を 結ぶことができる

この分類の「教育(d810~d839)」は個人の活動として展開される「学習(d1・学習と知識の応用)」と区別される。「教育」では、他者(教育機関や教員など)との関係を踏まえた学びも扱う。従って、教育機関は社会的に組織されたものであるから、d810を除き、d815以下の分類内容とは関わらない人がいる可能性はあり得る。

この分類の「仕事と雇用(d840~d859)」は、人間の社会的活動に関する必須要件でもある d6家庭生活やd9コミュニティライフとは区別される社会的活動分類として考えられている。人間生活では、仕事を通して社会に参加するのは基本なのでこの項目はすべての人に当てはまる活動内容となる。一見、報酬などの関係で、次のブロックの「経済生活(d860~d879)」との重なりが想定されるが、このブロックは、「仕事」という活動や参加や活動に限定しており、経済生活とは区別されている。

「経済生活(d860~d879)」では、消費や貯蓄(d860)、投資や運用(d865)、資産(私有財産)の管理について触れている。 I C F の分類項目であるので、個人の活動や参加を想定しており、法人の活動や参加は想定されていない(と考えてよいであろう)。

従って、この3つのブロック間には特段の構造的相関関連を見ることは困難であるが、しかし、 やはり、仕事と雇用、経済生活における活動と参加のためには、教育が大きな影響を持つという



意味で仕・成かいけそロそ易い一あいて、 と生のはたのでののて造ったりではなのである。 ぞりではの得るをとと生のはたのでののて造のでのでなった。 びは難違、は

≪主要な生活領域に関する≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫に関する考察

主要な生活領域という意味では、この「教育」、「仕事と雇用」、「経済生活」の三つのブロックは、わかりやすい整理である。その中で、「その他、特定の」や「詳細不明の」などを指摘するのは難しい。しかし、近年の動向から言えば、教育課題として、様々な才能や個性(障害ととらえれているものも含む)を伸ばす、一般的な教育とは異なった教育に関する項目がない。外国人の教育などの、このカテゴリーに入るだろうが、特別な一種の英才教育などが触れられていない。また、教育のもうひとつの課題は、科学技術の発達があまりにも早いために、従前からの人生のモデルがなくなってしまう傾向がある。その為、常に新たな人生を創っていかなければならない

状況に人々が追い込まれている。その意味で生活設計、人生設計を作っていくという課題を含め、 生涯学習基盤などが新たな課題となるだろう。いいかえれば、社会の動向に対してどう生きて行 くかに関する研究開発力が求められているともいえよう。

このことは、当然「仕事と雇用」の問題につながっている。学習面では生涯学習の課題として も、現実的な職業の転換に関しての課題には、余り触れられていない。この点も大きな課題にな るであろう。特に、リカレント教育やリスキリング教育の活用方法、また、どういう風に転職を 積み重ねていくかにつながる、仕事の仕方なども、課題となるであろう。

また、長寿化(長命化)の備えた生活設計(高齢期に向けての)の最大の課題は、人生の「経済生活」設計を必要としている。ICFのd870(経済的自給)はこの点に関連するのであろうが、あまり丁寧に触れられてはいない。「主要な生活領域」として、人生をどう作っていくかに関する教育は、かなり研究開発的な内容を含むので、d839には、「研究・開発・創造」とでもいうべき活動を設定するという考え方もあり得るだろう。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察 ≪主要な生活領域≫

模倣学習に代表されるように、幼児期から本能的な動作(学習)と周りを見て真似る学習と大きく分けられる。前者は、身の危険が迫ると、命を守るために急所を隠すように身を縮めたり、屈めたり、誰から教わるでもなく行動ができる。他方、言語や習慣などに代表されるよう環境の中で身につく教育(d810~d830 これらの中においても)、集団行動や規律、ルールというもので社会生活を営んでいく、その中で年長者や年下に接する態度や優先順位など見ながら・観察しながら学ぶことがある。それらは成人してからも同様で、旅先や異国の地での文化・習慣(宗教的なことを含む)の中から肌から感じ、学ぶことができる。この意味で、環境は「教育」を考える上で非常の重要な課題であるとは言うまでもない。

同様に就業の中でも、(就労・業務)教育を受けたところからの自身でのアレンジを加えること で成否の実感を得ることになる(研究・開発)。好奇心や知らないことへの探求など、向上心から 新たものを生む可能性が秘められている

「仕事と雇用」にとっても、環境は重要なファクターである、近年ICT化やDXが進み、年齢性別・障がいの有無に関わらず教育や労働(不労収入含む)が可能となった。しかし、社会活動においては人との関係性と法律・制度を見逃すことはできない。特に、e4にかかる、家族や親族が携わる態度や友人・隣人、サービス提供者・専門職種の関りは、社会生活を営むうえで欠かせないものである。また、社会参加をするうえでは、e5にかかる分野の組織化されたプログラムや法律・制度の環境に沿った活動をしなければならない。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴• ・関連する技術と知識の特徴 ≪主要な生活領域≫

前項で触れているように、近年のICTやDXの発達は、ADLに介護を必要とする「困難」を抱えていても、就労や社会参加が可能になってきている。その意味で、就労や社会参加に支障をきたさないような、的確な介護が求められているともいえるだろう。同時に、この点から言えば、ADLに困難を抱えている人の、「仕事と雇用」や「経済生活」の支援をどう行うか、特に今後の問題としては、ADLに問題があっても対応可能な仕事(自体)の開発や、就労の支援が課題になってくる。ここでの問題は、本人に就労能力(身体的な)が"ある"ではなく、意志や本人

の知り得ない能力を周囲がどのように引き出せるか、または支援できるかを考えなければならない。その時の判断は ADL(歩く、書く、読む等)の判断ではない。いかにその環境を設定ないし整えられるか?が、支援者に求められる。

また、このような就業に関しても、雇用・非雇用者があり、かつ、d850に関しては、収入を得る方法も労働収入・不労収入とあり、どの立場にあっての就業なのか、の理解がないと、サポートの仕方が変わることを基礎に置かなければならない。例えば、「勤めに出る」d8502でも、会社に通うのか、自宅で行うのか、また、自分で生産・製造するのか、d8500外部委託をするのかなど、職業・職種によって様々であることがわかる。

また、経済生活で留意すべき点は、あくまでも本人主体、判断であることや、代筆や手話通訳などで間違いが起らないこと、そして損失させないことである。本人の利益になることを考え、支援者には誠実な対応と高い節度が求められる。私たちは判断するのではなく、あくまでもサポート(支援)役になることに徹し、必要な支援に関しては、法律や制度などは専門的支援者(弁護士など)に繋げることや、成年後見制度・権利擁護等に繋げる(紹介する)ことになる。それらの専門機関においても、それ相応の対応は行うであろうが、介護職も、それぞれの専門家と提携していく為に、支援者にも近しい能力も必要になるため、あらゆる法律・制度に精通していることも重要になる。

その過程で、情報社会におけるインターネット等の検索にあたっても、情報の信頼度や公平性 (不利益にならない・間違いが起らないこと)の見極め力も必要になる。サイトの整合性やイン ターネットの仕組みの理解にも必要があるかも知れない。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 <
 ≪主要な生活領域≫

教育 education (d810-d839)

d810 非公式な教育 informal education

家庭やその他の非制度的な環境での学習。例えば、親や家族から工芸やその他の技能を学ぶこと や、家庭教育(ホームスクーリング)。

①人として具	ICF	② ①に直接関	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	係する環境因子	の具体的援助行動(介護	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.親兄弟など	軽度の	1.1 模 倣	1.1.1 親や兄弟が毎朝、	1.1.1.1~3.1	
の行動を真似	問題	(d130),挨 拶	「おはよう」と挨拶をし	子どもは真似すること	
ることができ	5-	(d310) 家族	ているのを見て、子ども	で、周囲の言動を自然	
る	24%	(e310,e410)	は『朝は「おはよう」と	に吸収してまなんでい	
	中等度		相手に言うものだ』と自	ることを知識して知る	
	の問題		然に学び、身に付けるこ	こと	

	25- 49% 重度の 問題 50- 95% 完全な 問題 96- 100%		とができるようにサポートできる 1.1.2 着替えや食事、歯 ブラシなど、多くの生活 習慣を親や兄弟の行為 を真似して身に付ける ことができるようにサポートできる 1.1.3 親は「子どもは自 分たちの真似をしたが る存在」という前提で、	1.1.1.1~3.2, 親は真似されてもよい 言葉遣いやマナーを意 識する知識を持つこと
			真似されてもよい言動 とる、例えば、脱いだ靴 を揃えたりすることが できるように身に付け ることができるように サポートできる。	
2.セルフケア ができる様に なる。		2.1 セルフケア (e575,e5750, d240, D2400,d240 1, d2402) (d510 ~ d570)	2.1.1 ひどく疲れるや、 不安など、いつもと違う 自分に気付けるように 支援ができる 2.1.2 ひどい疲れや不安 などを感じたら、自分の できる範囲で、疲れをと るなどを身に付けるこ とができる とができる とかできる	2.1.11~2, 自分自身で心身の緊張 といった、ストレスに 気付き、それを解消し ていく技術と知識
3.基本的運動能力を身に付いる。(得できる)		3.1 基本的な運動能力 (d435,d4351 ,d4453 d4454,d450, d455, d4551,d455 2,d4553, d4554,d465, d475, d4750) (d9200,d920 1)	3.1.1「体のバランスをというとのでは、はいいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	3.1.1.1~3.1 「体のバランスをとる動かになる」、「体のバランスをを動かされたで移動などを関かないでは、体をを動からいたででは、体をを動からができる。のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、は、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のでは、大谷のは、大谷のは、大谷のは、大谷のは、大谷のは、大谷のは、大谷のは、大谷の

		1	
4.他者への共	4.1	4.1.1 相手の表情や行動	4.1.1.1
感、思いやり、	(d710,d7100	から気持ちを想像する	相手の気持ちを想像で
愛情、等の行動	,d7101,	ことで、思いやりやのあ	きる技術・知識
ができる。	D7102)	る行動ができるような	
		支援(例えば、友達が悲	
		しそうな顔をしていれ	
		ば「どうしたのだろ」な	4.1.2.2
		どと想像することで、声	相手の気持ちは、自分
		かけがてき、話しを聞い	自身とは違うことを知
		たりすることができる	る知識
		ように支援する)	37.389
		4.1.2 実際は同じ出来事	
		があっても感じ方は人	
		それぞれで異なってい	
		るので、共感力をもつた	
		めに、自分自身と相手を	
		切り離し、相手の気持ち	
		を考えられる支援する	
5.親や親族か	5.1	 5.1.1 自分自身の情緒が	5.1.1.1
ら伝えられる	d510 ~		3.1.1.1 人の感情には、喜びや
生活習慣や文	d560,d902	相手の気持ちを想像で	悲しみなどさまざまな
化的伝承など		きるようになり、共感で	気持ちを知る知識
を理解できる		きる力を身に付けるこ	
		とができるようにサポ	5.400 7
		ートできる	5.1.2.2~7
		51.2 小学校の就学前ま	基本的な生活習慣(食
		でに基本的な生活習慣	事、排せつ、睡眠、清潔、
		を身に付けるに支援す	衣服の着脱)を身につ
		る	けられる技術や知識
		5.1.3 食事では、箸やス	
		- プンなどを用いて自	
		立して食事ができ、好き	
		嫌いがなく食べること	
		ができるように身に付	
		けるように支援できる	
		5.1.4 排せつでは、一人	
		ででき、後始末も一人で	
		できるように身に付け	
		ることができるように	
		支援できる	
		5.1.5 睡眠では、決めら	
		れた時間に寝起きし、よ	
		い睡眠ができるように	
		身に付けることができ	
		るように支援できる	

1	T	I	
		5.1.5 まなつ身る5.2 あ脱けにちさに身ひにより切るを身るる清潔のでる接のするとき脱ってきる接がでありでる状でもかでる接のナ分うできるにあるよがるはな身身るたうけらでき五験にはができないます。 ボどでによ あに がにきる月で活統ですがるはな身身る たう けうでき五験化伝がトからにきるけんができないます。 がにきる月で活統ででがないます。 りょう いり	家庭や地域において子 どもたちが参加、体験 できる様々な文化活動 の機会を通じて文化的
6.就学しないで家族等から教育を受けることができる	6.1.高等学校卒 業程度認定試験 (e585,e5850)	6.1.1 さまで を 学校を 高等学校を 高等学校を 高等学校を 高等学校 で 高等学校 で まな 定 は な で きる。 おい人が 「 高等学校 で サポ は で まる。 おいと で きる。 おいた で きる を が で きる を が で きる。 おいた で きる を が で きる を かる せ に な きる に かっと と が で きる に かっと た で きる に かっと で きる で きる に かっと	高等学校卒業程度認定
7.成人してからは学校以外の非公式的な	7.1 ホームスク ーリング	7.1.1 親や援助者はいじめや不登校、健康上の問題などの子どもむの事	

教育機関で教	(e585,e5850	情で在宅学習(ホームス		
育を受けるこ)	クーリング) をする人た	7.2.2.2	
とができる。		ちをサポートすること	各手習いのパンフレッ	
	7.2	ができる。	ト(授業料、道具など)を	
	文化活動	7.2.2 手習いとして、ピ	知識	
	(e140,e1400,	アノや手芸、絵などを学		
	e1401)	ぶことができるように		
		サポートする		

d815 就学前教育 preschool education

子どもを学校型環境へと導入し,義務教育の準備をするために主として作られた組織的な初歩レベルの教育で学ぶこと。例えば,就学の準備として,保育所または同様の環境で技能を獲得することを通して,など。

ることを通じ	ることを通じて、など。					
①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関 係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的援助行動(援助能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考	
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない		
1.登園や帰ることがで家には、 2.集団の中で好きな頭で 中ととがでますることがある。 2.集団の中でよる。 2.集ができまる。	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49%	e1(生産品と用 具)e2(自然環境・ 社会環境) e3 (支持と関係) e4(態度) e5(サ ービス)	1.1.1,&5.1.1,登園する 場合には個人差がある が登園、挨拶ができるよ うに指導することがで きる 2.1.1 自分の好きなこと に取り組むことで、集中	1.1.1.1,5.1.1.1,生活面に必要なスキルを身に付けられる指導力。 2.1.1.1 試行錯誤する力・レジリエンス(回復力)を身に付けられる指導力		
る。 3.逆境に立ち 向かうことが きる。 4.クラス集団	重度の 困難 50- 95% 完全な	完全な困難の場合に対応する要素・因子 *登園する時間には個人差がある。	カの向上、興味関心、内発的な動機が働くことができるように指導できる	3.1.1.1 協調性、コミュニケーション能力を養う指導力		
の中で、or ク ラス集団に、 自分の思いを 伝えたり、相 手の思いを受 け取ったりす	困難 96- 100%	る。 *和式・様式トイ レ *公園へのお散 歩、園庭遊び、歌 の時間、工作の時	3.1.1 すぐに諦めたり大人に頼ったりするのではなく、自分で試行錯誤して、チャレンジすることができるように指導できる	ニケーション能力を養 う指導力		
るコミュニケ ーションがで きる。 5.元気にあい さつができる		間など *活動の前後で の準備、着替え、 片付けなど	4.1.1 コミュニケーション能力では、言葉遣いなどだけでなく、相手の思いや意図を理解し、積極	6.1.1.1 必要な生活面 でのスキルを身に付け られると指導力		

6.自分の名前	*人と関わって	的に関わりが持てるよ	
を書くことが	嬉しい、楽しいと	う援助ができる	
できる	感じられる経験		
	など	6.1.1,園の活動を通じ	
		て、自分の名前が書けた	
7.トイレにー		りできるように指導が	
人ではいるこ		できる	
とができる。			
		7.1.1,園の活動を通じ	
		て、1人でトイレに行け	
		るように指導できる	

d820 学校教育 school education

学校へ入学し、学校に関連した責任や権利に関与し、初等・中等教育プログラムにおいて、課程 や教科、その他のカリキュラムで要求されることを学ぶこと。例えば、学校に規則正しく通う こと。他の生徒と協調して学ぶことや、先生から指導を受けること。割り当てられた課題や学 習課題を調整したり、勉強したり、成し遂げること。教育の別の段階へ進むこと。

		7633C7C37 77VC8			
①人として具 体的行動(行		② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護		備考
動の要素・因	評価点		能力)		
子)	3 / I—/III				
	問題な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
1. 学校に規	軽度の	1.1	1.1.1	1.1.1.1~2	
則正しく通う	問題	文部科学省	交通安全のきまりを守	文部科学省の学校安全	
ことができ	5-	(学 校 安	り通学ができるサポー	に関する知識及び指導	
る。	24%	全)e360,e585,	トができる	方法	
	中等度	e575	1.1.2		
	の問題		決められた時刻を守っ		
	25-		て通学できる。通学ルー		
	49%		トに従って通学できる		
	重度の		サポートできる		
	問題				
2. 他の生徒	50-	2.1	2.1.1	2.1.1.1~2	
と協調して学	95%	学習指導要領	子どもたち同士が学び	文部科学省の学習指導	
ぶことができ	完全な	(e585,e5850,e	合うなかで、自分と異な	要領や、ディスカッシ	
る	問題	325)	る立場、違う意見や考え	ョンの方法などに関す	
	96-	ディスカッション	方を持つ子供たちと協	る技術や知識	
	100	(d350,d3550)	力して支援をすること		
	%		ができる		
			2.1.2		
			子どもたち同士で同じ		
			目標の達成に向けて行		

	T	<u></u>	
		動できるように支援でことができる。	
3. 先生からの指されている。(教育と) (教育と) (教	3.1 学習指導要領 (e585,e5850,e 325)	3.1.1 先てるするのでは、	3.1.1~4 学習指導要領に関する 技術や知識
4. 割り題を調整しができる。 ちのことができる。 5. のとができる。	4.1 学習指導要領 (e585,e5850,e 325)	4.1.1 「なぜ、~なのか」「~するだべできるだべできるだってきるできるか」「どうしたら~でできるか」等の疑問形式題をおいるがはいるがはいるない。 はいまれる はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん	4.1.1.~2.1, 授業における基本事項 (「問い」が生まれる授 業の基盤)に関する指 導方法知識
	5.1 学習指導要領 (インクルーシブ 教育システム)	5.1.1 幼稚園や小学校、 中学校及び高等学校等 で障害のある子どもと	5.1.1~2.1 学習指導要領では、幼 稚園や小学校、中学校

2006年12月の	他の子どもが共に教育	及び高等学校等の普通	
「障害者の権利に	を受ける支援ができる	の学級、通級による指	
関する条約」と「教	5.1.2	導及び特別支援学級	
育(第 24 条)」に	障害のある子どもが他	や、特別支援学校とい	
定める「合理的配	の子どもと平等に教育	った、子どもたちの多	
慮」	を受けるために配慮が	様な教育的ニーズに対	
(e585,e5850,e	必要であれば「合理的配	応できる連続性のある	
325)	慮」を行う支援ができる	「多様な学びの場」で、	
		子ども一人一人の十分	
		な学びを確保する「イ	
		ンクルーシブ教育シス	
		テム」の技術や知識	

d825 職業訓練 vocational training

技能職,一般職,専門職として雇用されるための準備として,職業プログラムのあらゆる活動に 従事し,カリキュラム教材を学ぶこと。

,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		のである。			
①人として	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
具体的行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介護	術・知識	考
(行動の要	評価点		能力)		
素・因子)					
	問題な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.職業に就	軽度の	1.1 職業訓練(公	1.1.1	1.1.1.1,~2.1.2.1	
く意欲があ	問題	共職業訓練)	就職を希望していて、次	職業訓練は、就職を希	
る 展望を	5-	職業能力開発校、	の仕事を早く見つけら	望している人などに次	
持っている	24%	教育訓練機関(民	れるように、さまざまな	の仕事に就職できるよ	
	中等度	間の学校)、職業能	訓練を通じて就職でき	うにハローワーク等の	
	の問題	力開発大学校•短	るように支援する	公共機関につなげる知	
	25-	期大学校		識	
	49%	(d825,e585,e5	2.1.2		
	重度の	850,	職業訓練では、就職に必		
2. 職業訓練	問題	e5851,e5852)	要な基礎的知識や技能		
について理	50-		を身に付け、雇用の促進		
解できる	95%	2.1	を図っていることを知		
	完全な	職業に関する知識	っている		
	問題	や技能等			
	96-	(e130,e1300,e	3.1.1	3.1.1.1~3.1.3,4,	
3.職業訓練	100%	1301)	一般的にはハローワー	職業訓練を行う学校は	
を活用でき		失業保険等	クでの職業相談を行う	国や都道府県から委託	
る方法を理		(e5700,e5701,	サポートすることがで	を受けて 4 種類(職業	
解できる。		e5702)	きる	能力開発校、教育訓練	
			3.1.2	機関(民間の学校)、職業	
			訓練を受講することが	能力開発大学校•短期	
			適職に就くつくために	大学校)あって、それぞ	

	ツ亜ズキファレがるヨ	わの労はけせるしたる	
	必要であることが承認	れの学校は対象となる	
	されるサポートをおこ	人が異なり、入学条件	
	なうことができる	も異なっていることの	
	3.1.3	知識	
	訓練を受けるのに必要		
	な能力等を有している		
	ことをサポート体制を		
	整える		
	3.1.4		
	職業訓練が開始される		
	ことをサポート体制を		
	整える		

d830 高等教育 higher education

総合大学,単科大学,専門職教育機関における高等教育プログラムの活動に従事し、学位,卒業証書,修了証書,その他の認可に必要とされるカリキュラムのあらゆる側面を学ぶこと。例えば、学士や修士の課程を修了すること、医学などの専門職教育機関を修了すること。

①人として具 体的行動(行	ICF の共通	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
動の要素・因	評価点		護能力)		
子)					
	問題な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 高等教育	軽度の	1.1 高等教育機関	1.1.1 高等教育機関に	1.1.1~1.1.4.1	
機関(通学部	問題	(通学部・通信教育)	進学するために教員や	高等教育機関でなぜ学	
と通信教育	5-	の進学情報誌(学	家族に相談できるサポ	ぶ目的や学問領域を選	
部)から自分	24%	部•学科)	ートができる	択できるように必要な	
自身で学ぶ教	中等度	大学院、大学、短期	1.1.2 高等教育機関で	提供できる知識	
育機関を選ぶ	の問題	大学等(通学部・通	学ぶ目的を自分自身で		
ことができる	25-	信教育部)のパンフ	示すことができるサポ		
	49%	レット	ートができる。		
	重度の	全国障害学生支援	1.1.3 高等教育機関		
2. 一般入試	問題	センターや日本視	で、何を学ぶか、自ら選		
や特別入試を	50-	覚障害学生高等教	択し、判断できる支援		
受験する。	95%		ができる。		

			<u></u>	<u>, </u>
3. 子す機管専的いるる おり 機 書門なてと のが等あ生と援談で もの 高通 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	完全な 問題 96- 100 %	育支援ネットワーク (d830,e585,e58 51, e5852,e1300) 教員(e360) 家族(e310) 2.2 一般入試や特別入 試(AO 入試,推薦入 試、障害者特別選抜 入) (e5850,e5852)	1.1.4 大教育機大育機大育機大育機大育機大育で、教育機大育で、教育を表示での知識の表示で知識の表示を受けられるである。 2.2.1 教解のの、 ロートルのできるのでは、 ロートルのできるのできるのでは、 はいまりできるのでは、 はいまりできるのできるのでは、 はいまりでは、 はいまりに、 は	高等教育機関の入試方
学部・学科 れぞれの 課程に とが きる。 5.機関で の専士 の事士 の事士 の事士 の事士 の事士 の事士 の事士 の事	学部・学科それの教育 れぞれの教育 課程に基がで きる。 5.	3.1 障害学生支援専門 (e1300,e1251,e 5851 E5852)	サポートができる 3.1.1 障害のある学生 が、学びの場への参加 するために必要な情報 を伝え支援ができる 3.1.2 高等教育機関から具体的なサービス内 容を得ることができる 4.1.1	3.1.1~2.1 障害学生 支援専門部門から高等 教育機関から必要情報 を得られるような情報
修士等を習得できる		障害学生支援専門 部門と協力体制と り各学部・各学科の	大学院、大学、短期大学院、大学、短期大学院、大学、短期大学(通学部・通信教育部)、(学部・学科)等の教育課程に基づいて教育を受けるよう障害学生支援専門部門の協力のもとが支援できる	各学部・各学科等の教 育課程に基づき教育が 受けられるように障害
		5.1 学士や修士等の教育課程を修了 (d830,e1300,e3 60, E5852)	5.1.1 各高等教育機関で教育 課程基づいて学士や修 士等が取得するための 単位をとることができ ように支援する 5.1.2 学んだ内容に基づき、 自分自身の研究テーや に沿って学士論文を 大ってきる をサポートできる	5.1.1~2.1 学士や修士等の論文を 作成するための支援を 教員から受けられる支 援技術

仕事と雇用 work and employment (d840-d859)

d840 見習研修 (職業準備) apprenticeship (work preparation)

雇用の準備に関連したプログラムへの従事。例えば、見習研修、インターン制、年季契約雇用、 現職訓練などに必要な課題を遂行すること。 除かれるもの:職業訓練(d825)。

①人として	ICF	② ①に直接関係する	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な技	備
具体的行動	の共通	環境因子	めの具体的介護行動		考
(行動の要	評価点		(介護能力)	ער הויו אַם פּאַי	
素・因子)	一一世紀				
系·囚丁/	問題な	 支援を要しない	 記入しない	記入しない	
		又抜せ安しない	直入しない	直入しない	
	し 0.40/				
4 # 24 0 #	0-4%	***			
1,勤労の意	軽度の	1.1 教員・家族・対人 	1.1.1 教員等や家族		
義を理解で	問題	サービ	や対人サービスを活	を維持するばかりでは	
きる。	5-	e310,e340	用できる	なく、働くことで自己	
	24%	e360,e330	1.1.2 勤労に対する		
	中等度		意欲や関心を高める	きる知識	
	の問題	2.職業準備	とともに、他者と協	1.1.1.2 それぞれの職	
	25-	(e840,e585,e5850,	働して取り組む作業	場の果たす役割や仕事	
	49%	e5851)	や実習を通して、勤	内容に関する専門家に	
	重度の	以上は全て項目にあて	労の意義が理解でき	つなげる知識	
	問題	はまる	る支援できる		
	50-			1.1.2.1 社会の一員と	
	95%		2.1.2 職業に関する	しての役割を果たすた	
	完全な		ことと、職業に必要	めに、自ら仕事に励む	
	問題		とされる態度に関す	大切さなどを支援する	
	96-		ることが表現できる	ことができる知識	
	100%		ように支援できる		
	10070		2.1.3 地域にある		
2.職業に関			農•林•水産業、工業•		
わる実践的			商業・サービス業・社		
な知識や技			会福祉サービス業な		
能を身につ			どに関わる多様な職		
けることが			場を理解できる支援		
できる			づきる		
660			2.1.4 円滑な仕事を		
			することができる支		
			援ができる		
			2.1.5,標準的な動作		
			を遵守することがで		
			きるように支援する		
			2.1.6 正確な動作を		
			一定時間継続するこ		
			とができるように支		
			援できる		

	1			
		2.1.7.作業目標の達		
		成を意識して積極的		
		取り組むことができ		
		るように支援できる		
		2.1.8,最期までやり	2.1.8.1	
		遂げることができる	職場に必要な態度を身	
		支援ができる	につけられる知識(職	
		2.1.9 時間帯や職場	場で求められる作業態	
		などに応じた服装、	度)	
		動作、挨拶や言葉遣		
		いができる		
			3.1.1.~3.1.9.	
		3.1.1 見習研修やイ	インターン制度に関す	
		ンターン制度を通じ	る基礎的知識(専門家	
		て、将来の社会生活	につなげる知識)	
		を考えることができ		
		る。		
		3.1.2 将来の社会参		
		加を目指し、社会人		
3.見習研修		や職業人として必要		
やインター		な知識や技能及び態		
ン制,(実習		度の基礎を理解でき		
教育におい		る る		
て、何をどう		る 3.1.3 インターン制		
学ぶのかを		度には、企業などに		
理解できて		おいて実際に業務を		
いる)		と体験プログラムで		
		あることを理解して		
		いる		
		3.1.4 インターン制		
		度では短期型と長期		
		型の二つがあること		
		を理解できる。		
		3.1.5 短期型では職		
		場体験や会社の見学		
		などを一日~数日間		
		実施する方法がるこ		
		とを知っている		
		3.1.6 ワークショッ		
		プ・プロジェクト(問		
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
		題解決)型による短		
		期間でおこなう方法		
		もある		
		3.1.7 グループで課		
		題に取り組み、検討		
		やディスカッション		
		などのワークショッ		
		プを行うプログラム		

4.現職訓練	4.1.リスキリング教育	でている 3.1.8 長期型ではしている 3.1.8 長期型ではした 関型では 1.9.2 を知り 2.5 を知り 2.5 を知り 2.5 を知り 2.5 を知り 2.5 では 2.5	4.1.1~2.1	
リスキリング教育	(e585,e5850)	して必要な人に対し てリスキリング教育 が受けられるように 支援する 4.1.2 様々な専門職 教育の再教育等を受けることができるようにサポートできる よう支援する	リスキリング (Reskilling)は、職業能力における再教育や再開発を意味する知識 (e585,e5850)	

d845 仕事の獲得・維持・終了 acquiring, keeping and terminating a job

仕事を求めたり、見つけたり、選択すること。雇用されること。雇用を受け入れること。仕事、一 般職、職業、専門職の継続と昇格。適切な方法で退職すること。

含まれるもの: 職探し。履歴書と職務経歴書の準備。雇用主への連絡と面接の準備。 仕事の継続。 仕事の自己評価。退職の予告。退職すること。

d8450 職探し seeking employment

一般職や専門職、その他の雇用形態における仕事を決めたり選んだりすること。雇用されるために必要な課題を遂行すること。例えば、職場訪問、採用面接に参加すること。

①人として具	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な技	備
体的行動(行動	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	術•知識	考
の要素・因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	必要ない	必要ない	
	し				
	0-4%				
1.職場訪問(障	軽度の	1.1.ハローワー	1.1.1~3.1.1,/\□-	1.1.1,1.ハローワーク	
害者雇用職場	困難	ク,地域障害者職	ワークや就労支援機	や就労支援機関、スマ	

			ı	
見学会)を通じ	5-	業センター,障害	関、スマートフォン・タ	ートフォン・タブレッ
て就職ができ	24%	者就労センター、	ブレット端末、インタ	ト端末、インターネッ
る	中等度		ーネットを用いて「障	トを用いて「障害者雇
	の困難	2.1.就労継続支援	害者雇用職場見学会」	用職場見学会」などの
2.障害者職業	25-	事業所(A型,B	などの職場訪問を通じ	情報を捉えられるよう
能力開発校な	49%	型),障害者職業能	て就職ができるように	な支援体制を整える知
どで、新たな仕	重度の	力開発校、	情報提供や指導ができ	識
事につけるた	困難	2.2.「障害者雇用	る	
めの教育を受	50-	職場見学会」実施		1.1.1.2 労働法や就労
け、就職できる	95%	している企業,特	2.1.2 障害者職業能力	支援機関、障害者職業
	完全な	例子会社(障害者	開発校などの職業教育	能力開発校に関する知
3.仕事先の応	困難	の安定した就労を	で新たな資格などを習	識
募方法を知っ	96-	目的)	得できるように養成校	
て応募ができ	100%		を選べるような指導が	
る(応募先の仕			できる	
事内容を含む)				
		3.1 新聞等の求人	3.1.1 ハローワークや	3.1.1.1 職探しの媒体
4.履歴書や職		募集、スマートフ	新聞等の求人募集、ス	情報の知識
務内容を書き		ォン・タブレット	マートフォン・タブレ	
方や伝えるべ		端末、インターネ	ット端末、インターネ	4.1.1.1 応募方法や仕
き志望動機が		ット	ット利用して、仕事先	事内容の情報を伝えら
書くことがで			応募方法知ることがで	れるような知識、また、
きる。		5.1-6.1 時間管理	きるように指導・助言	履歴書や職務履歴書の
		(時計、カレンダ	ができる。	書き方の指導方法
5.契約行為(就		ー、スマートフォ		
業・雇用)がで		ン、アラーム)	4.1.1 履歴書や職務内	5.1.1.1-,6.1.1.1 就
きる			容の書き方を学べる方	業・雇用の契約に関す
			法を指導・助言ができ	る専門職と指導
6.採用面接を			る	
受けることが			5.1.1 雇用契約などに	
できる			ついて理解できるよう	
			に指導・助言をできる	
			6.1.1 採用面接の模擬	
			などの練習を通じて本	
			番に備えて指導ができ	
			る	

d8451 仕事の継続 maintaining a job

職業、一般職、専門職、その他の雇用形態を継続するために、仕事に関連した課題を遂行すること。 よ。昇進やその他の雇用における昇格を得ること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	3先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		

	BB B5 #	+##+#+ # 1	=77 / +/\	=77.1 #1.
	問題な	支援を要しない 	記入しない	記入しない
	0.49/			
1 せいこわてい	O-4% 表 章 の	4 4	444	444 04
1.求められてい	軽度の	1.1	1.1.1	1.1.1~3.1
る職務の遂行能	問題	職務の遂行能力		遂行能力を高める
力を有する。	5-	(d210,d220,d230)		ためにはモチベー
	24%		限られた時間のなか	ションを高めるた
	中等度		で、自ら工夫して仕事	めの知識
	の問題		を進める意欲が高まり	
	25-		仕事の質があげること	
	49%		ができるように支援で	
	重度の		きる	
	問題		1.1.2	
	50-		自分の中で常に、短期	
	95%		的に達成できる小さい 目標と長期的に見るこ	
	完全な			
	問題		とが必要な目標に分け て、段階的に達成でき	
	96-		るように設定するよう	
	100%		るように設定するよう に支援できる	
			1.1.3	
			1.1.3 仕事中は目標に向かっ	
			て集中できるようにオ	
			ンとオフを使い分ける	
			ことができるように支	
			援できる。	
			1.1.4	
			進捗状況を確認しなが	
			ら進めることができる	
			ように支援する	
2.目標設定・計		2.1	2.1.1	2.1.1~6.1
画作成•実施•		業務の遂行のための	目標設定では、「いつま	仕事の目標設定・
評価修正を行う		業務計画の作成	でに」「何を」「どう達成	計画作成•実施•評
		(d210,d220,d230)	するか」と個別に設定	価のプロセスに基
		(6.2) 6,6.2 6,6.2 6,7	することが必要である	づく計画を作成が
			ことを理解し、支援で	できる技術と知識
			きる。	
			2.1.2	
			計画では、目標達成の	
			ための戦略や方針とと	
			もに、具体的にどのよ	
			うなアクション(行動)	
			を策定することができ	
			るように支援する	
			2.1.3	

	管理することができる	
	ように支援する	
	2.1.4	
	計画に基づき実施する	
	ことができるように支	
	援する	
	2.1.5	
	期限を設けて評価か行	
	い、その上で修正をお	
	こなうことができるよ	
	うに支援する	
	2.1.6	
	人事評価において社員	
	等の目標設定が給与の	
	アップや昇格ができる	
	ことを理解して支援す	
	る	

d8452 退職 terminating a job

適切な方法で退職すること。

9 000	•			
ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うため	④支援行動に必要	備
の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	な技術・知識	考
評価点		護能力)		
困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
U				
0-4%				
軽度の	1.1 退職	1.1.1	1.1.1.1 ~	
困難	(d8452)	本人に職場の都合によ	3.1.1.1	
5-		る退職かを確認するサ	退職意思の確認、	
24%		ポートができる。	退職の意思表示、	
中等度	2.15.1.労働と雇用	1.1.2	退職願・退職届の	
の困難	(e590,e5900e59	本人に退職の動機及び	書き方及び提出仕	
25-	01,e5901)	意思を確認することが	方の知識・技術	
49%		できるようにサポート	業務の引継ぎ方法	
重度の		ができる。	の知識・技術	
困難		2.1.1		
50-		退職の意思を直属の上	4.1.1.1 職場から	
95%		司に伝えることが出来	の支給されている	
完全な		るように指導すること	もの返却すべきも	
困難		ができる	のの確認方法の知	
96-		2.1.2	識	
100		退職願・退職届の書き	4.1.1.2 職場から	
%		方。渡し方を指導する	受け取るものとし	
		ことができる。	て必要な物の知	
		2.1.3	識、	
	Tの評困しの軽困52中の24重困59完困910日 日の評別しの軽困52中の24重困59完困910日 日の評別の10日 日の10日 日の1	ICF ② ①に直接関係すの共通 表環境因子 評価点 支援を要しない 困難なしの一4% 支援を要しない 軽度の (d8452) 1.1 退職 (d8452) 5-24% 2.15.1.労働と雇用 (e590,e5900e59) の困難 (e590,e5901) 25-49% 重度の 困難 50-95% 59% 完全な 困難 96-100 100	I C F の共通 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 	I C F の共通 の共通 部価点 ② ①に直接関係す る環境因子 ②先の支援を行うため の具体的介護行動(介護能力) ②支援行動に必要 な技術・知識 困難な し

認ができる。	に現 <i>の</i>)理由を具体的に	5.1.1.1.退職時公	
100 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1	が法を助言するこ	的な手続きに関す	
	とがで	ざる	る知識、	
	3.1.1			
	それぞ	れの業務の手順	5.1.1.2 ハローワ	
	につい)て引継ぎができ	ークや就労移行支	
	るよう	に助言できる	援に関する知識と	
	3.1.2		利用方法	
	それぞ	れの業務で使用	,	
	される	る器具や機械、コ		
	ンピュ	ータ等の取扱い		
	の引継	^比 ぎができるよう		
		できる		
	4,1.1			
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	う貸与されたも		
		員であることを		
		るものを返却す		
	ること	を指導する		
	4.1.2.			
)公費で購入した		
		返却する。		
	5.1.1	- KE Ali 9 00°		
		際に、職場から		
		くるものを確認す		
	るよう	に支援する		

d850 報酬を伴う仕事 remunerative employment

賃金を得て、被雇用者(常勤・非常勤を問わず)や自営業者として、職業、一般職、専門職、その他の雇用形態での労働に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上 必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督する こと、監督されること、個人またはグループで必要な仕事の遂行。 含まれるもの:自営業。常勤や非常勤での雇用。

d8500 自営業 self-employment

個人が見つけだしたり創出したり、あるいは公式の雇用関係なしで他人から 請け負った、報酬を伴う仕事に従事すること。例えば、季節農業労働、自由契約の作家やコンサルタントとしての仕事、短期契約の仕事、芸術家や工芸家と しての仕事、店やその他のビジネスの所有や経営。除かれるもの:非常勤の雇用、常勤の雇用(d8501・d8502)。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)		② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介護 能力)	④支援行動に必要な技 術・知識	備考
	困難なし	支援を要しない	記入しない	記入しない	

		<u> </u>	Г	Г
	0-4%			
1.報酬を伴う	軽度の	1.1	1.1.1	1.1.1.1
仕事を個人で	困難	スマートフォ	デバイス等機器の操	デバイス・メディアサ
見つけること	5-	ン、PC 等(以	作、マスメディアの紹	ービス等の知識、SNS
ができる(一	24%	下、デバイ	介または提案ができる	の知識
部は845)	中等度	ス)、メディア	1.2.1	1.2.1.1
	の困難	サービス	様々な能力に応じた伝	コミュニケーション技
	25-	e115群、e125	達能力・コミュニケー	術(dOOに準じる)
	49%	群、e135群、	ションができる	1.2.1.2
2.報酬を伴う	重度の	e510群、e535	1.3.1	通訳技術(代読・代
仕事を創出す	困難	群、e560	成年後見制度に繋げる	筆・手話)
ることができ	50-	1.2	ことができる	1.3.1.1
る	95%	家族•友人、支援	1.3.2	成年後見制度 • 権利擁
	完全な	者等	商品取引、不動産・動	護に関する知識
3.報酬を伴う	困難	e310~345、	産、農業、インターネ	1.3.2.1
仕事を他人か	96-	355、360、	ットサービス、保険、	労働基準法等に係る就
ら請け負うこ	100	e410~499	納税等諸制度・政策の	労・労働に関する知
とができる	%	1.3	把握ができる	識。法令の知識・納税
(一部d	, -	サービスや制度、		等に関する知識
845)		政策	2.1.1	1.3.2.2
		e510~e599群	 様々な機器・道具の操	守秘義務契約等の知識
4.報酬を伴う			作ができる	2.1.1.1
季節労働がで			2.1.2	様々な機械(農業・エ
きる(農業な		2.1	経済活動に参画できる	業・生産機器等)の知
ど3に準ず		仕事上の活動を		:
る)		容易にするため	3.1.1	2.1.2.1
		に用いる装置、	デバイス機器やタイマ	
5.報酬を伴う		生産品、用具	ー・リマインドメール等	
短期契約の仕		e1150~	の操作ができる	(P/L、B/S等)
事ができる		1151、e1350	3,2,1	3.1.1.1
(2、3に準		~1359	ジル・ 契約事項の理解ができ	
ずる)		(1.1~1.3 同)	る。タスク管理ができる	
J W/		(1.1 1.0)	3.3.1	3.2.1.1、3.3.1.1
 6.報酬を伴う		 3.1 期日を守る	O.O. 契約事項の理解	O.Z. 1.1
創作活動がで		e1151, e135	定用関係の理解ができ	
きる(作家、		3.2 請負うことへ	個別 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	タスク管理の知識
芸術、工芸等		の社会的規範		7.1.1.1
2に準ずる)		e465		'.'.'.' 諸契約事項の理解
2 (-+ 9 0)		6403 3.3 雇用関係の理		お子和事項の理解 タスク管理の知識
7.報酬を伴う		8.3 雇用関係の達 解 e330e590	7.1.1	8.1.1.1
店の経営、ビ		M+ 60006030	1.1.1 契約事項の理解ができ	O.1.1.1 成年後見制度、権利擁
ジネスができ			支利争項の注解ができ	成年後兄前長、権利擁 護等諸制度の理解
3 (2、8 に			る タスク管理ができる	護守部制度の理解 8.1.2.1
な (乙、			ブヘン6年/1 (00	8.1.2.1 代筆・代読の技術
半りる)				
○問業中津が				8.1.2.2
8.開業申請や			011	手話通訳の知識
その他必要な			8.1.1	手話通訳の技術
届ができる				

	I		T	
(食品衛生責	7.1	成年後見制度に繋げる	9.1.1.1	
任者、防火管	生産と分配	ことができる	労働の基本の知識	
理選任届な	e565 群	8.1.2	納税の知識	
ど)		通訳・翻訳(代筆・代読・		
		手話等)ができる	10.1.1.1	
9.10 種類の	8.1		仕事・労働・経済の理解	
所得(日本:	契約および代理	9.1.1	10.1.2.1	
給与・事業・	契約(成年後見	労働と所得区分の理解	コミュニケーションの	
利子・配当・	等)	ができる	技術	
譲渡•不動	e330e530e55			
産・一時・退	0e565			
職•山林•		10.1.1		
雑)の種類の		業務の把握ができる		
理解できる	9.1	10.1.2		
	経済活動による所	適切な指示・報告を受け		
10.業務を管	得、労働の種類	ることができる。コミュ		
理できる(準	e565~599 群	ニケーションが円滑に		
備、手順や方		できる		
法・工程、指				
示、報告、請	10.1 指示と管理			
求等)	e310~399			
			12.1.1.1	
11.時間管理			諸契約事項・法律や制	
(要求されて			度の理解	
いる時間(期			タスク管理の知識	
間・納期・提			2712 2121973	
供等含む仕	12.1	12.1.1		
事)) ができ	· ニ· · 雇用の創出	契約事項の理解ができ		
る る	e590群	スmm x x x x x x x x x x x x x x x x x x		
12.授業員の				
雇用等契約が				
できる				

d8501 非常勤雇用 part-time employment

賃金を得て、被雇用者として、非常勤の仕事に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督すること、監督されること、個人またはグループでの必要な仕事の遂行。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	3 先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				

1.報酬を伴う非	軽度の	1.1 スマートフォ	1.1.1	1.1.1.1
常勤の仕事を個	困難	ン、PC 等(以	デバイス等機器の操	デバイス・メディア
人で見つけるこ	5-	下、デバイ	作、マスメディアの紹	サービス等の知識、
とができる(一	24%	ス)、メディア	介または提案ができる	SNS の知識
部d845)	中等度	サービス		1.2.1.1 コミュニケ
	の困難	e115群、e125	1.2.1	ーション技術
	25-	群、e135 群、	様々な能力に応じた伝	1.2.1.2
	49%	e510群、e535	達能力・コミュニケー	通訳技術(代読・代
	重度の	群、e560	ションができる ~	筆・手話)
	困難	1.2 家族·友人、		1.3.1.1
	50-	支援者等	 1.3.1 成年後見制度に	 成年後見制度・権利
	95%	e310~345,	繋げることができる	擁護に関する知識
	完全な	355、360、	1.3.2	1,3,2,1
	困難	e410~499	商品取引、不動産・動	労働基準法等に係る
	96-	1,3	産、インターネットサ	就労・労働に関する
	100%	··· サービスや制度、	一ビス、保険、納税等	知識。法令の知識・
	10070	政策	諸制度・政策の把握	納税等に関する知識
		e510~e599		1.3.2.2
			2.1.1	寸:0:2:2
 2.報酬を伴う非		 2.1 期日を守る	 デバイス機器やタイマ	
常勤の仕事を他		e1151, e135	一・リマインドメール	1.3.2.3
人から請け負う		e 1131, e 133	等の操作ができる	1.3.2.3 契約等法律・制度の
ことができる		2.2 請負うことへ	2.2.1	知識 知識
(一部d845)		の社会的規範	^{2.2.}	2.1.1.1
(Bruo43)		e465	る。タスク管理ができ	2.1.1.1 デバイス機器の操作
		6403 2.3 雇用関係の理	る。タスク自住がてる	の知識
 3.報酬を伴う非		2.3 雇用関係の達 解 e330e590	る 2.3.1 契約事項の理解	2.2.1.1、3.3.1.1
常勤の短期契約		所 e330e390	2.3.1 突刑事項の達解 雇用関係の理解ができ	Z.Z.1.1、3.3.1.1 諸契約事項•法律や制
の仕事ができる		11世帯と		商契利争項・公律で削 度の理解
		4.1 指示と管理	る 4.1.1 業務の把握がで	
(2に準ずる)		e310~399 		
4.地の労働者の		- 1 地口を立て	きる 4.1.2	4.1.1.1
4.他の労働者の		5.1 期日を守る		仕事・労働・経済の理
管理ができる		e1151、e135	適切な指示・報告を受けることができる。	解
(準備、手順や		5.2 請負うことへ	けることができる。コ	4.1.2.1
方法・工程、指		の社会的規範	ミュニケーションが円	コミュニケーション
示、報告、請求		e465	滑にできる	の技術
等)		5.3 雇用関係の理	5.1.1	
		解 e330e590	デバイス機器やタイマ	
5.時間管理(要		(2.1、2.2 同)	ー・リマインドメール	デバイス機器の操作
求されている時			等の操作ができる	の知識
間(期間・納			5.2.1	
期・提供等含む			契約事項の理解ができ	5.2.1.1、5.3.1.1
仕事))ができ			る。タスク管理ができ	諸契約事項・法律や制
る			る	度の理解
6.非常勤雇用の			5.3.1 契約事項の理解	タスク管理の知識
理解ができる			雇用関係の理解ができ	
			る	

d8502 常勤雇用 full-time employment

賃金を得て、被雇用者として、常勤の仕事に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督すること、監督されること、個人またはグループでの必要な仕事の遂行。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)	5541.5	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	0-4%				
」 1.報酬を伴う常勤	軽度の	1.1 スマートフォ	1.1.1	1.1.1.1	
の仕事を個人で見	困難	ン、PC 等(以	デバイス等機器の操	デバイス・メディア	
つけることができ	5-	下、デバイス)、	作、マスメディアの	サービス等の知識、	
る(一部d	24%	メディアサービス	紹介または提案がで	SNS の知識	
845)	中等度	e115群、e125	きる	C. (C 12), 284	
	の困難	群、e135群、		 1.2.1.1 コミュニケ	
	25-	e510群、e535	1,2,1	ーション技術(d3	
	49%	群、e560	· · · · · · 様々な能力に応じた	に準じる)	
	重度の		伝達能力・コミュニ	1.2.1.2 通訳技術	
	困難	 1.2 家族•友人、	ケーションができる	(代読・代筆・手	
	50-	支援者等	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	話)	
	95%	e310~345	1.3.1	1.3.1.1	
	完全な	355, 360,	····· 成年後見制度に繋げ	成年後見制度・権利	
	困難	e410~499	ることができる	擁護に関する知識	
	96-			1.3.2.1	
	100%		1.3.2	労働基準法等に係る	
2.報酬を伴う常勤	10070		商品取引、不動産・	就労・労働に関する	
の仕事を他人から			動産、農業、インタ	知識。法令の知識・	
請け負うことがで		1.3 サービスや制	ーネットサービス、	納税等に関する知識	
きる (d8500、		度、政策	保険、納税等諸制	1.3.2.2	
一部d845)		e510~e599群	度・政策の把握	守秘義務契約等の知	
		(1.1~1.3 同)		識V	
			2,1,1	2,1,1,1	
3.報酬を伴う常勤		2.1 期日を守る	デバイス機器やタイ		
の短期契約の仕事		e1151, e135	マー・リマインドメー	の知識	
ができる(2 に準			ー ル等の操作ができる		
ずる)		2.2			
4.他の労働者の管		請負うことへの	2,2,1	2.2.1.1、2.3.1.1	
理ができる(準		社会的規範	契約事項の理解がで	諸契約事項・法律や制	
備、手順や方法・		e465	きる。タスク管理がで	度の理解	
工程、指示、報		2.3	きる	タスク管理の知識	
告、請求等)		雇用関係の理解			
(d8501 に準ず		e330e590	2.3.1		
る)		(2.1, 2.2,	契約事項の理解		
5.時間管理(要求		2.3 同)	雇用関係の理解がで	4.1.1.1	
されている時間			きる	仕事・労働・経済の理	
(期間・納期・提				解	
			きる		

供等含む仕事))	4.1	4.1.1 業務の把握が	4.1.2.1	
ができる	指示と管理	できる	コミュニケーション	
(d8500同)	e310~399		の技術	
		4.1.2		
6.常勤雇用の理解		適切な指示・報告を受		
ができる(2、3に		けることができる。コ		
準ずる)		ミュニケーションが		
		円滑にできる		

d855 無報酬の仕事 non-remunerative employment

賃金の支払われない労働に、常勤あるいは非常勤として従事すること。例えば、組織化された仕事の活動、仕事上必要な課題の遂行。要求されている時間通りの仕事への従事。他の労働者を監督すること、監督されること。個人でおよびグループでの必要な仕事の遂行。例えば、ボランティア、奉仕労働、コミュニティや宗教団体への無報酬での労働、無報酬での家の周りの労働。除かれるもの:第6章:家庭生活

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の		する環境因子	めの具体的介護行動		考
	の共通	9 句味児囚士		技術・知識	5
要素•因子)	評価点	+57+=1+1	(介護能力)	=77 1 + 1	
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	U				
	0-4%				
	軽度の	1.1	1.1.1	1.1.1.1	
1.無報酬の意	困難	雇用関係の理解	契約事項の理解	諸契約事項・法律や制	
義・意味、就業	5-	e330e590	雇用関係の理解がで	度の理解	
形態が理解でき	24%		きる	タスク管理の知識	
る	中等度			1.1.1.2	
	の困難	2.1	2.1.1	成年後見制度•権利	
	25-	スマートフォン、	デバイス等機器の操	擁護に関する知識	
	49%	PC 等(以下、デ	作、マスメディアの	2.1.1.1	
	重度の	バイス)、メディ	紹介または提案がで	デバイス・メディア	
	困難	アサービス	きる	サービス等の知識、	
	50-	e115群、e125	2.2.1	SNS の知識	
2.無報酬の常勤	95%	群、e135群、	様々な能力に応じた	2.2.1.1	
または非常勤の	完全な	e510群、e535	伝達能力・コミュニ	コミュニケーション	
仕事を見つける	困難	群、e560	ケーションができる	技術(d3に準じ	
ことができる	96-	2.2	2.3.1	る)	
(一部d845)	100%	家族•友人、支援	成年後見制度に繋げ	2.2.1.2	
		者等	ることができる	通訳技術(代読・代	
		e310~345、	2.3.2	筆・手話)	
		355、360、	商品取引、不動産・	2.3.1.1	
		e410~499	動産、農業、インタ	成年後見制度・権利	
			ーネットサービス、	擁護に関する知識	
		2.3	保険等諸制度・政策	2.3.2.1	
		サービスや制度、	の把握		
		政策			
	<u> </u>	14×7K	<u> </u>	<u> </u>	

		I	1
	e510~e599群		労働基準法等に係る
			就労・労働に関する
3.無報酬の常勤	3.1 期日を守る	3.1.1	知識。法令の知識
または非常勤の	e1151、e135	デバイス機器やタイ	2.3.2.2
仕事を他人から		マー・リマインドメー	守秘義務契約等の知
請け負うことが	3.2	ル等の操作ができる	識
できる(一部d	請負うことへの社	3.2.1	
845)	会的規範	契約事項の理解がで	3.1.1.1
	e465	きる。タスク管理がで	デバイス機器の操作
	3.3	きる	の知識
	雇用関係の理解	3.3.1	3.2.1.1、3.3.1.1
	e330e590	契約事項の理解	諸契約事項・法律や制
		雇用関係の理解がで	度の理解
4.他の労働者の	4.1 指示と管理	きる	タスク管理の知識
管理ができる	e310~399		
(準備、手順や		4.1.1 業務の把握が	4.1.1.1 仕事・労働・
方法・工程、指		できる	経済の理解
示、監督、報告			4.1.2.1
等)(d8501に		4.1.2 適切な指示・報	コミュニケーション
準ずる)		告を受けることがで	の技術
	6.1	きる。コミュニケーシ	
5.時間管理(要	契約および代理契	ョンが円滑にできる	
求されている時	約(成年後見等)		6.1.1.1
間(期間・納	e330e530e550	6.1.1	諸契約事項・法律や制
期・提供等含む	e565	契約事項の理解	度の理解
仕事))ができ	家族•友人、支援	雇用関係の理解がで	タスク管理の知識
る	者等	きる	6.1.1.2
	e310~345、		成年後見制度・権利
6.契約行為(就	e410~440.		擁護に関する知識
業等)ができる	e465、e340		
(1 に準ずる)			

経済生活 economic life (d860-d879)

d860 基本的な経済的取引き basic economic transactions

単純な経済取引きのあらゆる形態へ従事すること。例えば、食料を購入するための金銭の使用、物物交換、物品やサービスの交換、金銭を貯蓄すること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術•知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
1. 金銭(または、	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
それに代わるも	し				
の) を扱える	0-4%				

				T T
	軽度の	1.1 経済的資産、		1.1.1.1
	困難	金銭、貯蓄残高、	きる	経済活動の知識
	5-	キャッシュレス決		1.1.1.2
	24%	済など		就労に関する法令の
	中等度	e1650		知識
	の困難			納税等に関する知識
	25-	1.2 家族•友人、	1.2.1	1.2.1.1
	49%	支援者等	様々な能力に応じた	コミュニケーション
	重度の	e310~345、	伝達能力・コミュニ	技術
	困難	355、360、	ケーションができる	1.2.1.2
	50-	e410~499		通訳技術(代読・代
	95%			筆・手話)
	完全な	1.3 スマートフ	1.3.1	1.3.1.1
	困難	ォン、PC 等(以	デバイス等機器の操	デバイス・メディア
	96-	下、デバイ	作、マスメディアの	サービス等の知識、
	100%	ス)、メディア	紹介または提案がで	SNS の知識
		サービス	きる	
		e115群、e125		2.1.1.1、2.1.2.1
		群、e135 群、		政治経済の知識
		e510群、e535		
		群 、 e560		2.1.2.2
			2.1.1 経済動向が把	物価指数の知識
2. 取引きの意思		2.1 消費材(サー	握できる	動産・不動産、先
が表明できる		ビス含む) と価値	2.1.2	物、金融等の諸知識
		の理解	物価・価値観の理解	
		e110 群~165	ができる	4.1.1.1 経済の仕組
		群、e510 群、		みの知識
3. 価値の判断が		e535~545群、		4.1.1.2 金融の知識
できる		e560~585 群		4.1.1.3 物価指数の
			4.1.1	知識
		4.1 資産形成	貯金・貯蓄、投資等	動産・不動産、先
4. 金銭の貯蓄が		e1650	資産形成ができる	物、為替等の諸知識
できる				

d865 複雑な経済的取引き complex economic transactions

資本や資産の交換,利益や経済的価値の創出など,あらゆる形態の複雑な経済的取引きへ従事すること。例えば、ビジネス、工場、設備を買うこと。銀行口座の維持、商品の売買。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1. 金銭(また	軽度の	1.1	1.1.1 経済活動がで	1.1.1.1	
は、それに代わ	困難		きる	経済活動の知識	

フナの\ ナヤニ		(2) 文的次去 (4)		4440
るもの)を扱え	5-	経済的資産、金銭、		1.1.1.2
る	24%	貯蓄残高、キャッシ		就労に関する法令の
	中等度	ュレス決済など	104様りな鉛もに	知識をはまる知識
	の困難	e1650	1.2.1 様々な能力に	納税等に関する知識
	25-	40字族 長月	応じた伝達能力・コ	1.2.1.1
	49%	1.2 家族•友人、	ミュニケーションが	コミュニケーション
	重度の	支援者等	できる	技術(d〇〇に準じ
	困難	e310~345	4.04	る)
	50-	355、360、	1.3.1	1.2.1.2
	95%	e410~499	デバイス等機器の操	通訳技術(代読・代 筆・手話)
	完全な	1077	作、マスメディアの	
	困難	1.3 スマートフォ ン、PC 等(以	紹介または提案がで きる	1.3.1.1 デバイス・メディア
	96-		6 0	サービス等の知識、
	100%	ト、デバイス)、 メディアサービス		SNS の知識
		c115群、e125		
		群、e135群、		
		e510群、e535		
		群、e560		2,1,1,1, 2,1,2,1
2. 価値の判断が		(1.1~1.3 同)		Z.1.1.1、Z.1.Z.1
できる (d860			 2.1.1 経済動向が把	
に準ずる)		 2.1 消費材(サー	握できる	2.1.2.2 物価指数の
		ビス含む)と価値	2.1.2	知識
		の理解	· · 物価・価値観の理解	動産・不動産、先
		e110群~165群、	ができる	物、金融等の諸知識
		e510群、e535~		
		545 群、e560~		3.1.1.1、3.2.2.1
		585 群	3.1.1	コミュニケーション
3. 価値観の折衝			様々な能力に応じた	技術
ができる		3.1 家族•友人、	伝達能力・コミュニ	3.1.1.2、3.2.2.1
		支援者等	ケーションができる	通訳技術(代読・代
		e310~345	3.1.2	筆・手話)
		355、360、	相場に応じた折衝が	3.1.2.2、3.2.1.1
4. 貯蓄の維持が		e410~499	できる	物価指数・動向の知
できる		3.2 複雑かつ高度	3.2.1 複雑かつ高度	識
		な取引き	な取り引きに係る法	各種専門家に繋げる
		e510~595群	令・制度の理解がで	技術
		(3.1 同)	きる	
				5.1.1.1 物価指数・
5. 資産形成がで		5.1 資産形成	5.1.1、5.1.2	動向の知識
きる		e165群、e515~	複雑かつ高度な取り	各種専門家に繋げる
		530群	引きに係る法令・制	技術
		5.2	度の理解ができる	
		資産の開発 150~		
		165 群		

d870 経済的自給 economic self-sufficiency

現在および将来のニーズに対する経済的保障を確保するために、私的または公的な財産を管理していること。 含まれるもの:個人の資産と経済上の公的な資格・権利。

d8700 個人の資産 personal economic resources

現在および将来のニーズに対する経済的保障を確保するために、個人的・私的な財産を管理していること。

こと。					
①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.資本や資産を	軽度の	1.1 家族•友人、	1.1.1 様々な能力に応	1.1.1.1	
適切に評価でき	困難	 支援者等	じた伝達能力・コミュ	コミュニケーション	
る	5-	e310~345、	ニケーションができる	技術(d00に準じ	
	24%	355、360、		る)	
	中等度	e410~499	 1.2.1 デバイス等機器	1.1.1.2	
	の困難	1.2	の操作、マスメディア	通訳技術(代読・代	
	25-	スマートフォン、	の紹介または提案がで	筆・手話)	
	49%	PC 等(以下、デ	きる	1.2.1.1	
	重度の	バイス)、メディ		デバイス・メディア	
	困難	アサービス		サービス等の知識、	
	50-	e115群、e125		SNS の知識	
	95%	群、e135群、			
	完全な	e510群、e535			
	困難	群 、 e560			
	96-			1.3.1.1、1.4.1.1	
	100%	1.3 複雑かつ高度	1.3.1 複雑かつ高度な	物価指数・動向の知	
		な取引き	取り引きに係る法令・	識	
		e510~595群	制度の理解ができる	各種専門家に繋げる	
			1.4.1	技術	
		1.4 資産形成	相場に応じた折衝がで		
		e165群、e515~	きる		
		530群	2.1.1		
		2.1	諸制度の契約事項の理	2.1.1.1	
		家族•友人、支援	解	各種専門家に繋げる	
2.賃貸借・売買		者等、	各種法令・制度関係の	技術	
等契約ができる		e310~345.	理解ができる		
		355、360、		3.1.1.1、3.2.1.1、	
		e410~499	3.1.1、3.2.1、	3.3.1.1、3.4.1.1	
			3.3.1、3.3.1、3.4.1	物価指数の知識	
		3.1.契約および代	経済動向が把握できる	動産・不動産、先	
		理契約(成年後見	3.1.1、3.2.1、	物、金融等の諸知識	
3.高度な価値		等)	3.3.1、3.3.1、3.4.1	3.1.1.2、3.2.1.2、	
(資産等)の判		e530e550e565	物価・価値観の理解が	3.3.1.2、3.4.1.2	
		3.2	できる		

断・折衝ができる	建物の設計や建造 e515 群 3.3 公有地や私有地に 関する計画、設 計、開発、維持 e520 群 3.4 住宅の供給 e525 群	4.1.1 経済動向が把握できる	各種専門家に繋げる 技術 4.1.1.1、4.1.2.1 各種専門家に繋げる 技術	
がいる	支援者等、 e310~345、 355、360、 e410~499 契約および代理契 約(成年後見等) e530e550e565	4.1.2 物価・価値観の 理解ができる		

d8701 経済上の公的な資格・権利 public economic entitlements

現在および将来のニーズに対する経済的保障を確保するために、経済上の公的な資格・権利を保有していること。

①人として具体 的行動(行動の 要素・因子)	ICF の共通	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要な	備
	の共通	ナフ団女田フ		•	ברויו
要素・因子)		する環境因子	めの具体的介護行動	技術・知識	考
	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.資本や資産を	軽度の	1.1 家族•友人、	1.1.1	1.1.1.1	
適切に評価でき	困難	支援者等	様々な能力に応じた	コミュニケーション	
る(d870 に準	5-	e310~345、	伝達能力・コミュニ	技術(d3に準じ	
ずる)	24%	355、360、	ケーションができる	る)	
	中等度	e410~499	1.2.1	1.1.1.2	
	の困難	1.2	デバイス等機器の操	通訳技術(代読・代	
	25-	スマートフォン、	作、マスメディアの	筆・手話)	
	49%	PC 等(以下、デ	紹介または提案がで	1.2.1.1	
	重度の	バイス)、メディ	きる	デバイス・メディア	
	困難	アサービス	1.3.1	サービス等の知識、	
	50-	e115、e125、	複雑かつ高度な取り	SNS の知識	
	95%	e135、e510、	引きに係る法令・制	${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	
	完全な	e535、e560	度の理解ができる		
	困難	1.3	1.4.1	1.3.1.1、1.4.1.1	
	96-	複雑かつ高度な取	相場に応じた折衝が	物価指数・動向の知	
	100%	引きe510~595	できる	部	
9 <i>(</i> 3)	中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難 50- 95% 完全な 困難 96-	e410~499 1.2 スマートフォン、 PC 等 (以下、デ バイス)、メディ アサービス e115、e125、 e135、e510、 e535、e560 1.3 複雑かつ高度な取	1.2.1 デバイス等機器の操作、マスメディアの紹介または提案ができる 1.3.1 複雑かつ高度な取り引きに係る法令・制度の理解ができる 1.4.1 相場に応じた折衝が	1.1.1.2 通訳技術(代読・代 筆・手話) 1.2.1.1 デバイス・メディア サービス等の知識、 SNS の知識 皿 1.3.1.1、1.4.1.1 物価指数・動向の知	

	T		
	1.4 資産形成		各種専門家に繋げる
	e165 、e515 ~		技術
	530		
2.賃貸借・売買		2.1.1	
等契約ができる	2.1 家族•友人、	諸制度の契約事項の	
(d870 に準ず	支援者等、	理解	2.1.1.1
る)	e310~345、	各種法令・制度関係の	各種専門家に繋げる
	355、360、	理解ができる	技術
	e410~499		
	契約および代理契		
	約(成年後見等)		
	e530e550e565		
	(1.1~1.4 同)		
 3.高度な価値	3.1 物品とサービ	311 321	3.1.1.1、3.2.1.1、
(資産等)の判	スの生産や分配の		3.3.1.1、3.4.1.1
断・折衝ができ	理解	3.4.1	3.3.1.1、3.4.1.1 物価指数の知識
る (d870 に準	e110~165、	3.4.1 経済動向が把握でき	動産・不動産、先
	·		
する)	e510 、e535 ~		物、金融等の諸知識
	545, e560~585		3.1.1.2、3.2.1.2、
	3.2 建物の設計や	3.3.1、3.3.1、	3.3.1.2、3.4.1.2
	建造 e515	3.4.1	各種専門家に繋げる
	3.3	物価・価値観の理解	技術
	公有地や私有地に	ができる	
	関する計画、設		
	計、開発、維持		
	e520		
	3.4 住宅の供給		
	e525		
4.適切な相談者	4.1 家族•友人、	4.1.1 経済動向が把	4.1.1.1、4.1.2.1
がいる(d870	支援者等、	握できる	各種専門家に繋げる
に準ずる)	e310~345、	4.1.2	技術
	355、360、	物価・価値観の理解	
	e410~499	ができる	
	契約および代理契		
	約(成年後見等)		
	e530e550e565		
	100000000000000000000000000000000000000		

第9章 コミュニティライフ・社会生活・市民生活

community, social and civic life

1. ICFの「活動と参加」における主要事項

≪コミュニティライフ・社会生活・市民生活≫

(国際生活機能分類・・世界保健機構・・中央法規版から、転記)

本章は、家族外での組織化された社会生活、コミュニティライフ、社会生活や市民生活の種々の分野に従事するのに必要な行為や課題を扱う。

- d910 コミュニティライフ community life
- d920 レクリエーションとレジャー recreation and leisure
- d930 宗教とスピリチュアリティ religion and spirituality
- d940 人権 human rights
- d 950 政治活動と市民権 political life and citizenship
- d998 その他の特定の、コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life, other specified
- d 999 詳細不明の, コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life, unspecified

2.「自立している人の活動と参加」の分類項目に関する考察

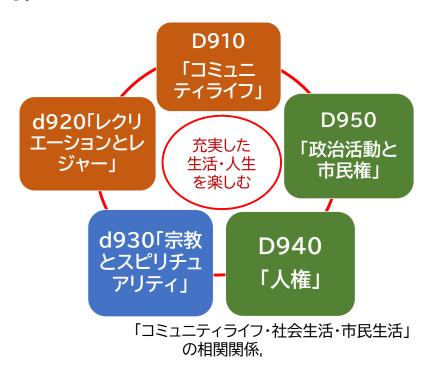
≪コミュニティライフ・社会生活・市民生活≫

第9章(d9)の、「コミュニティライフ・社会生活・市民生活」は、d910「コミュニティライフ」、d920「レクリエーションとレジャー」、d930「宗教とスピリチュアリティ」、d940「人権」、d950「政治活動と市民権」の第2レベルの5項目から構成されている ICF 「活動と参加」分類の最終章であり、第8章(d8)の「主要な生活領域」としては扱わない生活場面での活動と参加について整理している。言い換えれば、第8章の「主要な生活領域」が、生活(生存)をしていく為に必須となる活動と参加について触れているのに対し、第9章の「コミュニティライフ・社会生活・市民生活」は、見方によれば、絶対に(活動したり)参加をしなければならないということではない、ある意味で必須とまでは言えない生活の領域について扱っている。その意味では、人生を楽しく送るための活動と考えても良いだろう。しかし、それは同時に、この5つの要素のどれかで、マイナスの分類(項目)が発生している場合は、他の分類でカバーするという面もあるし、このd9分類が全部、マイナスになってしまうという場合も想定されるだろう。

従って、必ずしも必要性を感じない、あるいはこのような活動や参加を行う余裕がないという 人がいる可能性もあるこの第9章の内容については、この活動や生活場面を持つ人もいるが、持 たない人もいるということになる。その意味では、これらの内容については、かなり多様な理解 や考え方がありえる分類項目と言えるだろう。

また、第7章「対人関係」と第8章「主要な生活領域」とこの第9章は、相互に補完する関係になっている、一つのまとまりとして考えておくことも必要である。

このような前提に立って、この5つの第2レベルで活動と参加の分類を行動化して整理をするとすれば、下図『「コミュニティライフ・社会生活・市民生活」の相関関係』のようになるであろう。



d910「コミュニティライフ」については、かなり限定した扱いになっている。関連する事項として「d750非公式な社会関係」、や「主要な生活領域」における学校集団や職場集団などの、関連する分類があるために、此処でのコミュニティライフでは、学ュニティを除く、様々なコミュニティを除く、様々なコミュニティを除く、様々なコミュニティを助している。

d920「レクリエーションとレジャー」については、この d9 を「充実した人生・生活を楽しむ」活動や参加に関してまとめた分類項目と考えると、最も特徴的な項目になる。人間は、「ホモ・ルーデンス³⁹」ともいわれるように、「遊び」を基本的な活動、ある意味でも最も高次元な活動とする考え方もある。つまり、人生を楽しむ活動、充実した人生を送る活動としては、もっと中心的な活動の一つである。

しかし、このような充実した人生を楽しむ活動や参加の根幹は、「自己実現のため・・・に関与すること」と記載されているd930「宗教とスピリチュアリティ」と考える人もいるだろう。無関心な人も多いが、人生の活動や参加の中心に宗教やスピリチュアルな価値や行動を挙げる人は少なくないであろう。その意味で、d930 も、この第9章の根幹をなすともいえる。

d940「人権」では、「人間であれば誰もが与えられる権利の享受」と記載されている。また、人権は、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」と定義される (人権擁護推進審議会答申 (平成 11 年))。人権を「人間の尊厳に基づいて各人が持っている固有の権利であり、社会を構成する全ての人々が個人としての生存と自由を確保し社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利」と説明している。このような内容に対し、この「活動と参加」の分類では、d940 と d950「政治活動と市民権」の2つの分類で触れている。どちらかと言えばd940「人権」では、社会の中で人間として生存していく基本的な権利について触れ、d950「政治活動と市民権」では、社会に参加をしていく権利(自由権)について触れているとも言える。

³⁹「ホモ・ルーデンス」=「人間の文化は遊びにおいて、遊びとして、成立し、発展した」。歴史学、民族学、そして言語学を 綜合した独自の研究は、人間活動の本質が遊びであり、文化の根源には遊びがあることを看破、さらに功利的行為が遊 戯的行為を圧する近代社会の危うさに警鐘を鳴らす。「遊びの相の下に」人類の歴史の再構築を試みた不朽の古典など と言われる本の名前でもある。

いずれにせよ、「充実した生活・人生」を生きるには、この両者が実現できるように社会的な制度が整えられていることが必要である。しかし、社会的制度が整えられていても、その制度などを自分の「充実した生活・人生」に活用しなければ意味がない。その意味で、活用する活動と、制度を維持発展させるための参加が必要である。しかし、実際問題として、この両者についても細かい点で色々な見解の違いがあるし、また、人権や市民権の行使や政治活動での活動や参加をしない人もいる。

コミュニティライフ・社会生活・市民生活に関する≪その他特定の、および詳細不明の、・・・≫ に関する考察

d920では、「観光」「観光旅行」「旅行」が記載されているが、第3レベル(d9200~d9209)では、出てこない。現状では、d9208「その他の特定のレクリエーションとレジャー」に含まれると考えられる。しかし、私たちが生活を送る上で、休日の楽しみの一つとして、「観光」「観光旅行」「旅行」は、大きな割合を示している。「旅」に出ることで、日常生活から離れ、非日常を楽しみ、大きな癒しや、「また明日からも頑張ろう」という意欲へとつながっていると考える。

3. 直接、対応する「環境因子・等」に関する考察

≪コミュニティライフ・社会生活・市民生活≫

第9章に関連する環境因子は、主に、第1章「生産品と用具」及び第5章「サービス・制度・政策」である。

各項目で異なるが、関連する主な環境因子を第2レベルで整理しておくと、以下のようになる。 d910 コミュニティライフでは、e555 団体と組織に関するサービス制度政策、があげられる。

- d920 レクリエーションとレジャーでは、e140「文化・レクリエーション・スポーツ用の生産 品と用具、があげられるが、d920 など第3レベルでは、第2章「自然環境と人間がもたらし た環境変化」の中の個別の因子が関係する場合がある。
- d930 宗教とスピリチュアリティでは、e145 宗教とスピーチと儀式用の生産品と用具、である。
- d940 人権では、e545 市民保護サービス制度政策、e550 司法サービス制度政策、e570 社会保障サービス制度政策、e575 一般的な社会的支援サービス制度政策、である。
- d950 政治活動と市民権では、 e595 政治的サービス制度政策、である。

4. 一部の自立できない「活動と参加」への支援(対人援助)「介護行動」の特徴

・・関連する技術と知識の特徴 ≪コミュニティライフ・社会生活・市民生活≫

第9章での活動は、d940「人権」を除き、基本的に任意の幸福追求活動であり、その内容への介入は高度な情報と判断や支援技術を必要とするので、その活動そのもの行ったり、参加(関連集団のメンバーになる)したりすること自体に関する支援は、それぞれの分野の高度な専門性を持つ(時にその専門の資格を持った)スタッフによって行われると考えるべきであろう。

親族や友人としての介入はともかく、職業として対人援助を行っている場合は、それぞれの専門家との連携を踏まえた、専門的支援が必要になる。特に、どういう援助が必要なのかに関するアセスメントや、そのアセスメントに対応した情報提供は具体的な支援(援助・介護)に関して

は、インフォームドコンセントの考え方を活用するなど、専門的な内容と方法を駆使することが 重要である。

なお、参加や活動をするための活動(会場に行く、など)は、第6章までの様々な活動援助に 含まれるので、この第9章における支援・援助とは異なる。

5. (詳細な) 考察・・対人援助のアセスメント視点・対応する環境因子・支援行動 ≪コミュニティライフ・社会生活・市民生活≫

d910 コミュニティライフ community life

コミュニティにおける社会生活のあらゆる面に関与すること。例えば、慈善団体、社会奉仕クラブ、専門職の社会的団体に関与すること。 含まれるもの: 非公式または公式の団体、式典。 除かれるもの: 無報酬の仕事(d855)、レクリエーションとレジャー(d920)、宗教 とスピリチュアリティ(d930)、政治活動と市民権(d950)。

d9100 非公式団体 informal associations

共通の興味をもつ人々によって組織された社会団体やコミュニティ団体 (例えば、地方の社会的 クラブ、民族グループ) に関与すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1 当該団体の活	軽度の	1.1•2.1.•3.1.•4.1.•	1.1.1	1.1.1~3.1.4 まで	
動に賛同でき	困難	5.1. • 6.1.	当該団体の活動を多	全部共通に以下の	
る。(関心を持つ	5-	e325 知人·仲間·同	面的に解釈(意味付	知識・技術が必要	
ことができる。)	24%	僚・隣人・コミュニテ	け) できる	◇知識	
	中等度	ィの成員	2.1.1	〇人権思想・福祉の	
2 当該団体の活	の困難	e425 知人·仲間·同	対象者のニーズ・ウォ	理念•尊厳•権利擁	
動に参加するこ	25-	僚・隣人・コミュニテ	ンツを共有できる	護の知識	
とで生じる自分	49%	ィの成員の態度	2.1.2	Oエンパワメント	
に及ぶ+α&リ	重度の	e460 社会的態度	対象者の心身の状況	の知識	
スク(精神的・肉	困難	e5350 • 5400 • 他	を正しく受けとめ環	○デジタルデバイ	
体的・金銭的な	50-	の領域でも必須であ	境因子との関係性を	ス・アプリを活用す	
負担)を予測	95%	るが、特にこのd	科学的根拠に基づい	る知識	
できる	完全な	9100 では必須要件	て解釈(意味付け)で		
または回避でき	困難		きる	◇技術	
る。(アセスメン	96-		2.1.3	〇自己決定支援(意	
トができる)	100%		対象者のニーズ・ウォ	思決定支援)の技術	
			ンツを満たす方法を	Oエンパワメント	
3.参加するため			複数提示できる	の技術	
の計画を創れ				〇人間関係形成の	
			3.1.1	技術	

る。準備ができ	参加することで生じ 〇デジタルデバイ	
る	る対象者の言動の影 ス・アプリを活用す	
	響とそれによる結果 る技術	
4.継続的に参加	を多面的に想像でき	
する事ができ	る	
る。実行できる	3.1.2	
	参加するために必要	
5 当該団体にお	な支援(特に福祉用具	
いて役割を担え	や医療用具を用いた	
る。または「何と	支援、環境や関係者へ	
かなる」と考え	の働きかけ、緊急時や	
られる。活動・実	災害時の対応を含む)	
行できる	ができる	
	3.1.3	
6.参加している	参加するために必要	
メリットやデメ	な支援を実践するこ	
リットを確認で	とで生じるリスクを	
きる(評価でき	具体的に列挙できる	
る)	3.1.4	
	リスクを軽減・回避す	
	る方法を提案・実践で	
	きる	

d9101 公式の団体 formal associations

専門家などメンバーが限定されたグループ(例えば、法律家、医師、学者の団体)に関与すること。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係す	③先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
的行動(行動の	の共通	る環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
(d9100 の要	軽度の	1.1	(d9100 と同じ)	(d9100 と同じ)	
素に加えて)	困難	e5550 団体と組織	1.1.1	◇知識	
1 自分が持って	5-	に関連するサービス	当該団体の活動を多	◇技術	
いる専門性を証	24%	e5551 団体と組織	面的に解釈(意味付	〇自己決定支援(意	
明できる(資格	中等度	に関連する制度	け) できる	思決定支援)の技術	
証明書等を提示	の困難	e5552 団体と組織		ロエンパワメント	
できる)。	25-	に関連する政策	2.1.1 対象者のニー	の技術	
	49%	2.1	ズ・ウォンツを共有で	〇人間関係形成の	
2 専門家として	重度の	e5551 団体と組織	きる	技術	
の倫理綱領に基	困難	に関連する制度	2.1.2 対象者の心身	〇介護におけるリ	
づいた行動(判	50-	e5552 団体と組織	の状況を正しく受け	スクマネジメント	
断)ができる。	95%	に関連する政策	とめ環境因子との関	の技術(安全確保・	
	完全な	e330 • e355 •	係性を科学的根拠に	事故への対応、防	
	困難	e360 •	基づいて解釈(意味付	災•感染•応急処置	
	96-	e430 • e455 •	け) できる	を含む)	
	100%	e460 など			

		\neg
2.1.3 対象者のニー	○苦痛を和らげる	
ズ・ウォンツを満たす	支援の技術	
方法を複数提示でき	〇福祉用具を活用	
る	する技術	
	〇医療器具を活用	
3.1.1 参加すること	するする技術	
で生じる対象者の言	Oデジタルデバイ	
動の影響とそれによ	ス・アプリを活用す	
る結果を多面的に想	る技術	
像できる		
3.1.2 参加するため		
に必要な支援(特に福		
祖用具や医療用具を		
用いた支援、環境や関		
係者への働きかけ、緊		
急時や災害時の対応		
を含む)ができる		
3.1.3 参加するため		
に必要な支援を実践		
することで生じるリ		
スクを具体的に列挙		
できる		
3.1.4 リスクを軽減・		
回避する方法を提案・		
実践できる		
ZW CG O		

d9102 式典 ceremonies

宗教的ではない式典や社会的式典(例えば、結婚式、葬式、通過儀礼)に関与すること。

①人として具体 的行動(行動の	ICF の共通	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要 な技術・知識	備考
要素•因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1 参加する式典	軽度の	1~3-1	1.1.1	(d9100 と同じ)	
の意義・目的が	困難	e145 儀式用品	対象者にとって、対象	◇知識&◇技術	
理解できる。	5-	e465 社会的規範·	者が参加する式典が、	〇自己決定支援(意	
〇当該式典の関	24%	慣行・イデオロギー	対象者のどのような	思決定支援)の技術	
係者を知ってい	中等度		ニーズを満たすのか	Oエンパワメント	
る。関係を理解	の困難		を理解できる	の技術	
している	25-		2.1.1 式典に参加す	〇人間関係形成の	
	49%		ることによって生じ	技術	
2 当該地域の文	重度の		る影響とそれによる	〇介護におけるリ	
化・慣習を理解	困難			スクマネジメント	

し、相応しい服	50-	結果を具体的に列挙	の技術(安全確保・	
装・言動・金銭の	95%	できる	事故への対応、防	
取扱い等ができ	完全な	3.1.1	災・感染・応急処置	
る。(準備ができ	困難	式典に参加するため	を含む)	
る)	96-	に必要な支援ができ	〇苦痛を和らげる	
	100%	る。(特に福祉用具や	支援の技術	
3 式典における		医療用具を用いた支	〇福祉用具を活用	
社会的な役割を		援、環境や関係者への	する技術	
担える		働きかけ、緊急時や災	〇医療器具を活用	
		害時の対応を含む)	するする技術	
			○デジタルデバイ	
			ス・アプリを活用す	
			る技術	

d920 レクリエーションとレジャー recreation and leisure

あらゆる形態の遊び、レクリエーション、レジャー活動へ関与すること。例えば、非公式のまたは組織化された遊び、スポーツ、フィットネス、リラクセーション、娯楽や気晴らし、美術館・博物館・映画・演劇へ行くこと、工芸や趣味に携わること、 読書、楽器の演奏、観光、観光旅行、旅行。

含まれるもの:遊び、スポーツ、芸術と文化、工芸、趣味、社交。

除かれるもの: 交通手段として動物に乗ること(d480), 報酬を伴うあるいは無報酬の仕事(d850・d855), 宗教とスピリチュアリティ(d930), 政治活動と市民権(d950)。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.旅行を計画でき	軽度の	1.1~3-1	1.1.1 興味を持ち	1.1.1.1.	
る	困難	・入手すべき旅行に	そうな旅行の情報提	・旅行に必要な心身	
1-1 旅行雑誌や	5-	ついての情報収集	供ができる。	状態のアセスメン	
インターネットを	24%	のための旅行雑誌		ト知識	
使って、旅行先を	中等度	(e1300)		・旅行に必要な心身	
選定できる	の困難	・メディアサービス		状態のアセスメン	
	25-	(e5600)		ト技術	
	49%	(インターネット		・パソコン操作に関	
	重度の	等)		する知識	
2.旅行に参加でき	困難			・パソコン操作に関	
る	50-			する技術	
2-1 車や電車、	95%			・旅行に関する知識	
バスなどに乗り、	完全な	2.1 旅行先に移動			
自宅から旅行先及	困難	するための交通サ	2.1.1 乗り物に乗り	2.1. 1.1.	
び、旅行先から自	96-	ービス (e5400)	込む際、安全に移動の		
宅に移動できる	100%		支援ができる		

T		1	T
			•移動に必要な心身
			状態のアセスメン
2-2 観光する事	2.2 観光場所の地	2.2.1 観光の案内の	卜知識
ができる	形 (e2100) 山や谷	支援ができ	•移動に必要な心身
	など、水域(e2101)		状態のアセスメン
	湖、ダム、川など	2.3.1 ホテルのチェ	ト技術
2-3 宿泊先のホ	2.3 宿泊するため	ックインや、チェック	
テル等に、宿泊す	の部屋	アウトの支援ができ	2.2.1.1.• 観光場所
ることができる		る	に関する知識
	2.4~2.5 支払うた		2.3. 1.1.
2-4 お土産を購	めの資金(e1650)	2.4.1~2.5.1	・心身の状況に応じ
入することができ		・支払いの際の金銭	た、ホテルのバリア
る		管理(お釣りやレシー	フリー施設の知識
		ト)の確認ができる。	
2-5 旅行代金の		• 予算の範囲内で金	2.4. 1.1. ~ 2.5.
支払いができる	3.1 家族•友人	銭管理の支援ができ	1.1. • 経済状況に応
	e315	る	じた金銭管理の知
3.旅行の思い出を	(e320)		識と技術
話すことができる			
		3.1 旅行の思い出を	
		語る支援をおこなう	3.1 回想法に関する
		ことができる。(回想	知識•技術
		法)	

d9200 遊び play

ルールのあるゲーム,構造化や組織化されていないゲーム,自然発生的なレクリエーションへ関 与すること。例えば、チェスやトランプをすることや、子どもの遊び。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
	' - '		-		
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.「遊び」に関心が	軽度の	2.1 チェス、トラン	2.1.1 遊びを選択す	1.1. 1.1.~1.1.3.1	
ある	困難	プ、オセロ、将棋、	るための情報提供が	スポーツに必要な	
	5-	囲碁など、遊びに必	できる	心身状態のアセス	
2.自分の好きな遊	24%	要なしク材	2.1.2 レク材の準備	メント知識	
びを調べて、選択	中等度	(e1400)	の支援ができる	スポーツに必要な	
できる	の困難		2.1.3 レク材を活用	心身状態のアセス	
	25-		の支援ができる	メント技術	
2-1 必要なレク	49%		2.2.1 遊びに必要な	・遊びに関する知	
材を準備できる	重度の	2.2 遊びをおこな	スペースの確保を支	識•技術	
	困難	うための場所(遊び	援できる	•適切なレク材に関	
2-2 遊びのスペ	50-	に必要なスペース)	3.1.1 遊び相手を紹	する知識・技術	
ースを確保できる	95%	(e210)	介できる	1.2. 1.1.	

	完全な	3.1 仲間 (e325)	4.1.1 遊びのルール	・遊びに必要な場所	
3.遊び仲間を確保	困難	観客(e398)	を説明できる	やスペースに関す	
できる	96-		5.1.1 遊びに必要な	る知識	
	100%		福祉用具の準備を支	1.3. 1.1.	
4.遊びのルールを			援できる	•遊びのルールに関	
理解して遊ぶこと			5.1.2 遊びに必要な	する知識	
ができる			福祉用具の活用を支	2.1. 1.1.~2.1.4.1	
			援できる	・遊びに必要な福祉	
5.遊びに必要な用			6.1.1 再チャレンジ	用具に関する知識・	
具を使いこなせる			への支援ができる	技術	
6.遊びの結果を受					
け止める事ができ					
る					

d9201 スポーツ sports

個人または団体競技として非公式あるいは公式に組織化されたゲームや運動行事(例えば、ボーリング、体操、サッカー)へ関与すること。

フフフ, FFTA, フ	<i>)</i>	一			
①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	●支援行動に必要	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	\cup				
	0-4%				
1.「スポーツ」に関	軽度の	2.1 ボール、ラケ	1.1.1 スポーツを選	1.1.1~1.1.3.1	
心がある	困難	ット、ゴールポス	択するための情報提	スポーツに必要な	
	5-	ト、ネット、ユニホ	供ができる	心身状態のアセス	
1-1 自分の好き	24%	ームなど、スポーツ		メント知識	
な運動を選択でき		に必要な物品	2.1.1 スポーツ材の	スポーツに必要な	
る		(e1400)	準備の支援ができる	心身状態のアセス	
			2.1.2 スポーツ材の	メント技術	
2.必要な用具を準		3.1 スポーツをおこ	活用の支援がきる	スポーツに関する	
備できる		なうための場所(ス		知識•技術	
		ポーツに必要なス	3.1.1 スポーツに必	• 適切なスポーツ材	
		ペース) (e210)	要なスペースの確保	に関する知識・技術	
		·	を支援できる	3.1.1.1.~5.1.1.1	
3.スポーツを行う		4.1 仲間(e325)		・ スポーツに必要な	
ためのスペースを		観客 (e398)	 4.1.1 スポーツを一	場所やスペースに	
確保できる		2,12 (0000)	緒におこなう仲間を	関する知識	
			紹介できる。	・スポーツのルール	
4.スポーツを一緒			, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	に関する知識	
におこなう仲間を			 5.1.1 スポーツのル	الموال الموالي الموالي الموالي	
確保できる			O.1.1 スパーラのル ールを説明できる。		
正体できる			アで見らている。		
				6.1.1.1~6.1.2.1	
				0.1.1.1 20.1.2.1	

5.スポーツのルー		6.1.1 スポーツに必	スポーツに必要な	
ルを理解して参加		要な福祉用具の準備	福祉用具に関する	
できる		を支援できる。(スポ	知識•技術	
6.スポーツを観客		ーツ用車椅子等)		
として見て楽しめ		6.1.2 スポーツに必		
る		要な福祉用具の活用		
7.スポーツの結果		を支援できる		
を受け止めること				
ができる				

d9202 芸術と文化 arts and culture

芸術的あるいは文化的な行事への関与と鑑賞。例えば、演劇、映画、博物館、美術館へ行くこと。 演劇で役を演ずること。 読書や楽器を演奏すること。

	日で未品で演奏する			
ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
評価点		(介護能力)		
困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
\cup				
0-4%				
軽度の	2.1 芸術的な行事	2.1.1 興味を持ちそ	2.1.1.1.~2.1.3.1.	
困難	や鑑賞に関する雑	うな芸術及び文化的	・芸術的な行事や鑑	
5-	誌(e1300)	活動に対する情報を	賞に必要な心身状	
24%		提供できる	態のアセスメント	
中等度			知識	
の困難		2.2.1 演劇、映画、博	・芸術的な行事や鑑	
25-		物館、美術館を鑑賞で	賞に必要な心身状	
49%		きるよう支援できる。	態のアセスメント	
重度の		2.2.2.然るべき専門	技術	
困難		家につなぐことがで		
50-		きる		
95%				
完全な				
困難				
96-	3.1 本(e1300)	3.1.1 読書を楽しむ	3.1.1.1.~3.2.1.1.	
100%		ための支援ができる	•買い物に必要な心	
			身状態のアセスメ	
		3-2-1 書店で好き	ント知識	
		な本を選ぶための支	•買い物に必要な心	
		援ができる	身状態のアセスメ	
			ント技術	
		3.2.1 買い物をする	・本の内容に関する	
		ための金銭管理の支	知識。	
		援ができる。	・本の値段に関する	
			知識。	
	一の評困しの軽困5-249度難-35全難-36-249に 日本の1950を1950を1950を1950を1950を1950を1950を1950を	I C F の共通 評価点② ①に直接関係 する環境因子困難な し O-4%支援を要しない と 経算に関する雑 訪(e1300)24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難 50- 95% 完全な 困難 96-③ ①に直接関係 支援を要しない と に関する雑 ・ り ・ 1 芸術的な行事 や鑑賞に関する雑 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ <b< td=""><td>I C F の共通 評価点② ① ① に直接関係 する環境因子③ 先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)困難なしし O-4%支援を要しない と2.1 芸術的な行事や鑑賞に関する雑誌(e1300)2.1.1 興味を持ちそうな芸術及び文化的活動に対する情報を提供できる24% 中等度の困難 25-49% 重度の困難 50-95% 完全な困難 96-100%2.2.1 演劇、映画、博物館、美術館を鑑賞できるよう支援できる。 2.2.2.然るべき専門家につなぐことができる3.1 本(e1300)3.1.1 読書を楽しむための支援ができる3-2-1 書店で好きな本を選ぶための支援ができる3-2-1 書店で好きな本を選ぶための支援ができる3.2.1 買い物をするための金銭管理の支</td><td>ICF の共通 する環境因子 ② ① ①に直接関係 する環境因子 ③先の支援を行うた めの具体的介護行動 な技術・知識 な技術・知識 (介護能力) ②支援を要しない (介護能力) 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 2.1.1.1 (平2.1.3.1 (平2.1.3.1 (平3.2.1.3.1 (平3.2.4.2)) ・芸術的な行事や鑑賞に関する雑 技術のを行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント知識 (東海の) 2.2.1 演劇、映画、博物館、美術館を鑑賞できるよう支援できる。 2.2.2 (然るべき専門家につなぐことができる) ・芸術的な行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント技術 ・芸術的な行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント技術 3.1.1 読書を楽しむための支援ができる。 2.2.2 (然るべきする) ・選い物に必要な心身状態のアセスメント知識・買い物に必要な心身状態のアセスメント技術 3.2.1 買い物をするための金銭管理の支援ができる。 2.2.1 買い物をするための金銭管理の支援ができる。 ・本の内容に関する知識。 ・本の値段に関する</td></b<>	I C F の共通 評価点② ① ① に直接関係 する環境因子③ 先の支援を行うための具体的介護行動 (介護能力)困難なしし O-4%支援を要しない と2.1 芸術的な行事や鑑賞に関する雑誌(e1300)2.1.1 興味を持ちそうな芸術及び文化的活動に対する情報を提供できる24% 中等度の困難 25-49% 重度の困難 50-95% 完全な困難 96-100%2.2.1 演劇、映画、博物館、美術館を鑑賞できるよう支援できる。 2.2.2.然るべき専門家につなぐことができる3.1 本(e1300)3.1.1 読書を楽しむための支援ができる3-2-1 書店で好きな本を選ぶための支援ができる3-2-1 書店で好きな本を選ぶための支援ができる3.2.1 買い物をするための金銭管理の支	ICF の共通 する環境因子 ② ① ①に直接関係 する環境因子 ③先の支援を行うた めの具体的介護行動 な技術・知識 な技術・知識 (介護能力) ②支援を要しない (介護能力) 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 記入しない 2.1.1.1 (平2.1.3.1 (平2.1.3.1 (平3.2.1.3.1 (平3.2.4.2)) ・芸術的な行事や鑑賞に関する雑 技術のを行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント知識 (東海の) 2.2.1 演劇、映画、博物館、美術館を鑑賞できるよう支援できる。 2.2.2 (然るべき専門家につなぐことができる) ・芸術的な行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント技術 ・芸術的な行事や鑑賞に必要な心身状態のアセスメント技術 3.1.1 読書を楽しむための支援ができる。 2.2.2 (然るべきする) ・選い物に必要な心身状態のアセスメント知識・買い物に必要な心身状態のアセスメント技術 3.2.1 買い物をするための金銭管理の支援ができる。 2.2.1 買い物をするための金銭管理の支援ができる。 ・本の内容に関する知識。 ・本の値段に関する

	1				
3-3書店で本を購					
入できる。					
3-4読んで楽しめ			4.1.1 楽器が安楽な	4.1.1.1~.4.3.1.1.	
る。(コメントを言		4.2 ピアノ、ギタ	姿勢で演奏できるよ	・楽器演奏に必要な	
える)		ー、フルート、トラ	う支援ができる。	心身状態のアセス	
		ンペット、ホルン、	4.2.1 演奏に必要な	メント知識	
4.「楽器演奏」に関		ハーモニカ、琴、	楽器準備の支援がで	・楽器演奏に必要な	
心がある。		(e1400)	きる	心身状態のアセス	
4-1 好きな楽器				メント技術	
を演奏することが		4.3 譜面台、譜面		・楽器の扱い方に関	
できる		等、楽器演奏に必要	4.3.1譜面準備の支	する知識・技術	
4-2楽器の準備が		な物品	援ができる		
できる		(e1400)			
4-3演奏に必要な			4.4.1 楽器演奏に必		
譜面が用意できる		4.4 楽器演奏に必	要なスペースの確保	4.4.1.1.	
4-4楽器演奏に必		要なスペース	を支援できる	•楽器演奏に必要な	
要な場所(スペー				スペースに関する	
ス)を確保するこ				知識	
とができる			4.6.1 演奏終了後、楽		
4-5楽器演奏を楽			器を片づけるための	4.6.1.1 楽器を片づ	
しめる			支援ができる	けるための知識・技	
4-6 演奏後、楽器				術	
を片づけることが					
できる					

d9203 工芸 crafts

手工芸(例えば、陶芸や編物)へ関与すること。

①人として具体的行動(行動の要素・	ICF の共通	② ①に直接関係 する環境因子	③先の支援を行うた めの具体的介護行動	④支援行動に必要	備考
1] 動(1] 動() 安系• 因子)	が共通評価点	9 の環境囚士	(介護能力)	な技術・知識	5
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.「工芸」に関心が	軽度の	2.1 ろくろ、粘土、	2.1.1 手工芸を選択	2.1.1.1~2-2.1.1	
ある	困難	編み棒、毛糸など、	するための情報提供	• 手工芸に必要な心	
	5-	手工芸に必要な物	ができる	身状態のアセスメ	
2.自分の好きな陶	24%	品(e1400)		ント知識	
芸や編み物を選択	中等度		2.1.2 手工芸材の準	• 手工芸に必要な心	
できる	の困難		備を支援できる	身状態のアセスメ	
2-1 手工芸に必要	25-	2.2 手工芸をおこ	1.1.3 手工芸材活用	ント技術	
な物品を準備でき	49%	なうための場所(必	の支援ができる	・適切な手工芸材に	
る	重度の	要なスペース)		関する知識・技術。	
	困難	(e210)	2.2.1 手工芸に必要		
	50-		なスペース確保の支	2.2.1.1.~1.3.1.1.	
	95%		援ができる		

2-2手工芸を行う	完全な		•手工芸に必要な場	
ためのスペースを	困難	2.3.1 手工芸を作る	所やスペースに関	
確保できる	96-	ための手順の支援が	する知識。	
2-3手工芸を作る	100%	できる	・手工芸を作るため	
ための手順が理解			の手順に関する知	
できる		3.1.1 手工芸を作る	識・技	
		ための支援ができる	・手工芸に関する知	
3.陶芸や編み物な			識•技術	
どを作ることがで				
きる				
4.作成した作品を				
鑑賞したり楽しむ				
ことができる				

d9204 趣味 hobbies

娯楽(例えば、切手収集、硬貨収集、骨董収集)へ関与すること。

娯楽(別えは,切す	以来,设	望與某,	「関サタること。		
①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うた	④支援行動に必要	備
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	めの具体的介護行動	な技術・知識	考
因子)	評価点		(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.自分の好きな趣	軽度の	1.1 使用済の切手、	1.1.1 趣味を選択す	1.1.1.1.~1.1.3.1.	
味を選択できる。	困難	古い硬貨、年代物の	るための情報提供が	• 趣味に必要な心身	
1-1 趣味に必要な	5-	骨董品など趣味に	できる	状態のアセスメン	
物品を準備できる	24%	必要な物品	1.1.2 趣味に必要な	ト知識	
	中等度	(e1400)	物品の準備を支援で	・趣味に必要な心身	
1-2趣味に必要な	の困難	1.2 趣味に必要な	きる	状態のアセスメン	
スペースを確保で	25-	植物	1.1.3 趣味に必要な	ト技術	
きる	49%	(e2200:植物)	物品を活用する支援	・趣味に関する知	
	重度の	1.3 趣味に必要な	ができる	識•技術	
1-3 趣味を行うた	困難	小動物(犬、猫、ハ	1.2.1 植物の水やり	1.2.1.1	
めの手順が理解で	50-	ムスター、鳥など)	や観察ができるよう	・植物に関する知	
きる	95%	(e350 :動物)	サポートができる	識•技術	
	完全な	1.4 じょうろ、肥	1.3.1 動物の世話が	1.3.1.1	
	困難	料、スコップ小動物	できるようサポート	・動物の世話に関す	
2.趣味を行うこと	96-	を入れるゲージな	ができる	る知識・技術	
ができる	100%	ど必要な物品			
		(e1400)	2.1.1 趣味に必要な		
3.育てた植物や動			スペースを確保でき		
物を鑑賞し楽しむ		2.1 趣味をおこな	る	2.1.1.1~3.1.1.1	
ことができる		うための場所(必要	3.1.1 植物や動物を	・趣味に必要な場所	
		なスペース)	鑑賞し楽しむための	やスペースに関す	
		(e210)	支援ができる	る知識	

d9205 社交 socializing

非公式な一時的な集まり(例えば、友人や親戚の訪問、公的な場での非公式な集まり)へ関与すること。

①人として具体的	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行う	④支援行動に必要な	備
					考
行動(行動の要素・	の共通	する環境因子	ための具体的介護	技術・知識	5
因子)	評価点		行動(介護能力)		
	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	し				
	0-4%				
1.友人や親戚と、	軽度の	1.1 携帯電話	1.1.1 連絡に必要な	1.1.1.1~1.1.2.1	
連絡を取り合う。	困難	(e1250)	物品の準備を支援	・ 社交に必要な心身	
	5-	1.2 手紙、葉書	できる	状態のアセスメント	
〇その場にふさわ	24%	(e1250)	1.1.2 連絡に必要	知識	
しい適切な話題を	中等度	1.3 メディアサー	な物品の活用を支	・ 社交に必要な心身	
提供できる。	の困難	ビス(e5600)	援できる	状態のアセスメント	
〇相手が示した話	25-	(インターネット		技術	
題に対応した会話	49%	等)			
の継続ができる。	重度の		2.1.1 社交に必要な	2.1.1.1	
〇しかるべき褒め	困難	 2.1 社交に必要な	スペースを確保で	・ 社交に必要な場所	
言葉を懸けられる	50-	場所(必要なスペー	きる	やスペースに関する	
(褒める点を探せ	95%	ス) (e210)		知識	
る)	完全な	7,7 (0210)	 3.1.1 家族や友人と	7.0044	
	困難	 3.1 家族友人e315	の集まりを支援で		
2.季節の行事(お	96-	e320	きる		
盆、お正月など)の		6020			
際、集まる	100%				
际 、 未みる 					
2 近辺竿を起生!					
3.近況等を報告し					
合う					

d930 宗教とスピリチュアリティ religion and spirituality

自己実現のため、宗教的またはスピリチュアルな活動、組織化、儀礼に関与すること。意味や宗教的あるいはスピリチュアルな価値を発見すること。神的な力との結びつきを確立すること。例えば、教会、寺院、モスク、シナゴーグへの出席。祈り。宗教的目的のための詠唱、精神的瞑想。 含まれるもの:宗教団体とスピリチュアリティ。

d9300 宗教団体 organized religion

宗教団体の儀式、活動、行事へ関与すること。

①人として	ICF	② ①に直接関係す	3先の支援を行うため	●支援行動に必要な	備
具体的行動	の共通	る環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
(行動の要	評価点		護能力)		
素•因子)					

	困難なし	支援を要しない	記入しない	記入しない	
	0-4%				
1.宗教の教義	軽度の	1~3. 儀式用の一般	1.1.1 宗教的な儀式や	1.1.1.1 宗教的な儀	
などを理解	困難	的な生産品と用具(仏	活動、行動に関する情	式や活動、行事に関す	
し、関与の仕	5-	教••仏壇、数珠、遺	報が収集できる	る情報収集のための	
方を選択で	24%	影、位牌、線香、経典、	1.1.2 儀式や活動、行	技術	
きる。		仏花、お盆の盆棚、な	事に必要な生産品と用	1.1.1.2 宗教的な儀	
1-1興味を		ど)e1450	具であるか確認するこ	式等に関する知識	
持つ			とができる	1.1.2.1 儀式や活動、	
1-2体験す		1~3. 儀式用の支援		行事に必要な生産品	
る・学ぶ		的な生産品と用具(福	2.1.1 儀式や活動、行	と用具に関する知識	
体験から感		祉用具・・点字経典な	事における役割が確認		
動 惹かれる		ど)e1451	できる		
/魅かれる			2.1.2 役割遂行のため	2.1.2.1 役割遂行の	
自分なりの			の準備ができる	ための心身状態のア	
説明を構築				セスメント技術	
できる・					
1-3参加(関			3.1.1 儀式や活動、行	3.1.1.1 儀式や活動、	
与) 入信する			事に必要な福祉用具を	行事に必要な生産品	
1-4メンバ			提案することができる	や用具(福祉用具を含	
ーとして役				む)を心身の状況に応	
割を担う				じて整えることがで	
				きる技術	

d9301 スピリチュアリティ spirituality

組織化された宗教以外の、スピリチュアルな活動や行事へ関与すること。

①人として具体的行動(行動の要素・因子)	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1.宗教の教義 な理解 し、関与の仕 方を選択できる 1-1興味を 持つ 1-2体験する・学ぶ	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49% 重度の 困難	1~4. スピリチュア リティ儀式用の一般 的な生産品と用具(十 字架など) e1450 1~4. スピリチュア リティ儀式用の支援 的な生産品と用具(福 祉用具) e14501	1.1.1 スピリチュアル な活動、行動に関する 情報が収集できる。 1.1.2 スピリチュアル な活動、行事に必要な 生産品と用具であるか 確認することができる	1.1.1.1 スピリチュアルな活動、行事に関する情報収集のための技術 1.1.1.2 スピリチュアルな活動等に関する知識 1.1.2.1 スピリチュアルな活動、行事に必	

		T	T		
体験から感動	50-		3.1.1 スピリチュアル	要な生産品と用具に	
惹かれる/魅	95%		な活動、行事における	関する知識	
かれる 自分	完全な		役割が確認できる		
なりの説明を	困難		3.1.2 役割遂行のため	31.2.1 役割遂行のた	
構築できる・	96-		の準備ができる	めの心身状態のアセ	
個人としての	100%			スメント技術	
活動が中心			4.1.1 スピリチュアル		
			な活動、行事に必要な	4.1.1.1 スピリチュ	
2. スピリチ			福祉用具を提案するこ	アルな活動、行事に必	
ュアルな活			とができる	要な生産品や用具(福	
動、行事の目				祉用具を含む)を心身	
的や内容を理				の状況に応じて整え	
解できる				ることができる技術。	
3. スピリチ					
ュアルな活					
動、行事の役					
割が果たせる					
4. スピリチ					
ュアルな活					
動、行事へ参					
加できる					

d940 人権 human rights

国家的かつ国際的に認められ、人間であれば誰もが与えられる権利の享受。例えば、世界人権宣言(1948)や国連・障害者の機会均等化に関する標準規則(1993)によって認められた人権、自己決定や自律の権利、自分の運命を管理する権利の享受。

除かれるもの:政治活動と市民権(d950)。

①人として具体的行動(行動の要素・因	ICF の共通 評価点	② ①に直接関係する環境因子	③先の支援を行うため の具体的介護行動(介 護能力)	④支援行動に必要な 技術・知識	備考
子)	困難な し O-4%	支援を要しない	記入しない	記入しない	
1. 一人の人 間として、尊 厳(自由権) をもって その 人らしい生活 を送る。 できる。	軽度の 困難 5- 24% 中等度 の困難 25- 49%	1.態度 2.支援と関係 く生活環境によって 生じる権利侵害・対 人関係によって生じ る権利侵害・気づか ないままに行われる 権利侵害など>	1.1 ひとりの人として 尊厳をもって支援できる 1.2 個人が尊厳をもっ てその人らしい生活が 送れるよう支援できる	1.1.1 人間の尊厳とはなにか、生活を支えるとはどのようなことなのかの知識 1.1.2 人権や尊厳に関する法律等に関する知識	

4 4 44 4	ま立る	40 佐川月中がわさて		
1-1. 救済を	重度の	1.3 権利侵害が起きて	*世界人権宣言第	
求めることが	困難	いないか確認できる	22条、日本国憲法第	
できる。	50-		13条•第25条、社	
1-2. 理解で	95%	1.4 権利侵害が生じて	会福祉法	
きる。	完全な	いる具体的な内容をア	1.2.1 人の尊厳は「犯	
1-3. 自由権	困難	セスメントできる	されてはならない人	
(や社会権)	96-		間としての根源的な	
にふさわしい	100%	1.5 権利侵害等に関	価値」であり、人の尊	
(基づいた)、		し、必要な機関や支援	厳を守ることはその	
行動ができ		者へつなげることがで	人の自由と生存を尊	
る。		きる	重すること、つまり基	
			本的人権の尊重につ	
			ながっていることに	
			関する各関係法令等	
			の知識	
			1.2.2 それらを理解	
			したうえで、共感的な	
			態度で支援すること	
			ができる技術	
			1.3.1 個人が自己決	
			定や自律できるよう	
			な環境設定や関係機	
			関等と連携できる技	
			術	

d950 政治活動と市民権 political life and citizenship

市民として、社会的、政治的、統治的活動に関与すること。市民として、合法的地位を有し、その役割と関連した権利、保護、特権、義務を享受すること。例えば、選挙権や被選挙権、政治団体の結成の権利、市民権に伴う権利や自由(例えば、言論、結社、信教の自由。理由なき取り調べと差し押さえに対する保護。黙秘権や裁判を受ける権利。その他の法的権利や差別に対する保護)を享受すること、市民として法的立場を有すること。除かれるもの:人権(d940)。

①人として具体	ICF	② ①に直接関係	③先の支援を行うため	④支援行動に必要な	備
的行動(行動の	の共通	する環境因子	の具体的介護行動(介	技術・知識	考
要素•因子)	評価点		護能力)		
1. 国政選挙や、	困難な	支援を要しない	記入しない	記入しない	
地方自治体の選	し				
挙で投票でき	0-4%				
る。	軽度の	1.1 選挙の立候	1.1.1 選挙に関する資	1.1.1~1.4.1	
1-1 立候補して	困難	補者に対する資料	料が準備できる。	・選挙に関する知識	
いる候補者と政	5-	(選挙記事の新聞		・福祉車両を活用す	
策について理解	24%	など)	1.2.1 選挙の投票所に	るための知識・技術	
できる。	中等度		行くための移動手段を	(移動)	
選挙	の困難				

	1	T			
1-2 選挙の投	25-	1.2 選挙の投票	整え支援することがで	・投票を行うために	
票所に行くこと	49%	所に移動するため	きる。(福祉車両等)	必要な福祉用具の知	
が出来る。	重度の	の道具(e1201)		識・技術	
	困難		1.3.1 投票用紙に記入	・投票箱に投票でき	
1-3 投票用紙	50-	1.3 投票用紙に	するために必要な道具	るようなサポート体	
に記載できる。	95%	記入するために必	(眼鏡等)を準備でき	制に関する知識・技術	
	完全な	要 な 道 具	る		
1-4 投票用紙	困難	(e1150)			
を、投票箱に入	96-		1.4.1 投票箱に投票で	2.1.1~2.1.2	
れる事ができ	100%		きるような、サポート	・インターネットに	
る。			をおこなうことができ	関する知識・技術	
		2.1 意見を発信	る。	・SNS に関する知	
2.市民として、		するための環境		識・技術	
言論・信教の自		(e1250)	2.1.1 意見を発信す	・コミュニケーショ	
由と、裁判を受			るために必要な環境	ンに関する福祉用具	
ける権利。		2.1.2 メディアサ	(インターネット・	の知識	
2-1 自分の意		ービス(e5600)	SNS)の準備とサポー		
見を社会に発信		(インターネット	トができる。		
する事ができ		等)	2.1.2 意見を発信する		
る。			ために必要な福祉用具		
			の準備ができる。		
2-2 裁判を受			(補聴器等)		
ける事ができる				2.2.1~2.3.1	
			2.2.1 裁判の内容につ	・司法制度に関する	
2-3 裁判で自			いて理解するための支	知識	
分の意見を発言		2.2 法律の定め	援ができる	・裁判に参加するた	
したり黙秘した		に従って、司法を		めに必要な福祉用具	
りすることがで		行使するサービス	2.3.2 裁判で自分の意	の知識・技術	
きる		(裁判所等)	見を発言するために必		
		e5500	要な福祉用具の準備が		
			できる。(補聴器等)		

第10章 残された課題

ICFというと「国際障害分類」から「国際生活機能分類」に変わったという点や、「ICFの構成要素間の相互作用」の図ばかりが強調されていて、より重要と思われる「ICFの概観」のに触れてあるものは極めて少ない。(この表で、用語概念の定義がなされていて、極めて重要。)しかし、このICF「国際生活機能分類」の一番のポイントは、まさに「生活機能分類」であるという点であって、その分類内容がおおきな問題である。しかし、この内容分類に関しては、紹介されていても、第1レベルの分類にとどまっていて、根幹をなすであろう第2レベル以下のついて触れてある資料や研究論文は極めて少ない。

今回の研究では、国際的な介護専門職養成カリキュラムをつくっていくという過程で、国際的な根拠がある資料をベースに介護の枠組みを組み立てていく必要が生じたため、ICFの第2レベル以下の細かい分類内容をについて、整理することになった。その結果、研究メンバー全体で機能分類の内容に取りかかったが、そこでは、以下の様な課題が出てきた。

1. ICFの理解

第一の残された課題は、ICFの生活機能分類の全体像について、それなりにでも理解している研究メンバーが少ないという事である。特に日本の場合は、介護について、日本の中での独自の枠組みが成立しているため、ICFと関係させながら国際基準で介護を考えるという発想が少ないということであろう。これについては川廷宗之編著「介護教育方法の理論と実践⁴⁰」での紹介もあるのだが、残念ながらそこを細かく深めるところまでは進んでいない。

いうまでもなく、生活機能分類は四つの構成要素からなっている。第一部は、心身機能・身体構造と活動・参加であり、第2部は、環境因子と個人因子である。では、この四つの構成要素の内容について、さらに付録という形で整理された文書があって、これら全体で「生活機能分類」である。しかし、そもそもこの四つの構成要素がどういう構成になるかという「ICFの概観」の理解をきちんと行う必要があった。しかし、この点に関しても、細かく資料を読み込んで行ったとき、初めて、この「ICFの概観」の表の重要性が見えてくるという点も、指摘しておく必要がある。

2. ICFの構造と介護との関係

第二の残された課題は、ICFの構成要素のどの部分が、どう介護と(より密接に)関係しているのかという整理を行うことである。この点に関しては、前掲書の枠組みに従って、「活動・参加」の部分を中心に取り組むこととした。しかし、そもそも、これで良いのかどうかがまずは課題である。特に、心身機能・身体構造や背景因子(特に環境因子)などと、介護がどう関係するのかは、研究当初の段階では全く触れられず、研究討議の途中から関係を整理したが、全体構造としては、まだ整理しきれていない。この点も大きな課題であろう。

⁴⁰ 川廷宗之編著「介護教育方法の理論と実践」弘文堂 pp.5-9

3. 「活動・参加」の第1レベルの分類と、「介護」の関係

第三の残された課題は、「活動と参加」を、介護専門職の活動ターゲットとした場合、そこで分類されている9つの章を介護との関係でどう理解するかということである。これについても、どの章を介護の中心的課題とするかについてはいろいろ意見が分かれるところである。したがって、今回の研究においては、それぞれの章が介護と関係があり、さまざまな展開があり得るということで、「活動・参加」のすべての章について、全部分析研究に取り組むこととした。しかし、関係の強弱はあり、特に第4章「運動・移動」、第5章「セルフケア」、第6章「家庭生活」が、介護実践との関係が強いのではないかという意見が多かった。ただし、この点に関しても「日本における介護」の経験則であり、論理的には必ずしも詰め切れていない。

4. 自立支援のための「行動分析」という課題

第四の残された課題は、これが一番の問題点なのであろうが、介護関係者が活動・参加の行動分類に関して分析を行おうとする時に、そもそも分析するという発想が少ないということである。その理由は、従来の日本の介護は、基本を、ICFの評価基準でいう「完全な困難」(100%の困難、当該の活動や参加は全くできない)の状態を想定しているため、当該の困難に関し行動分析を行うという習慣がないからと考えられる。

しかし、自立を支援する介護行動の中で求められているのは、その活動・参加の分類の中で、「軽度の困難」や「中等度の困難」のためできない部分の、直接の原因となっている内容だけについて、援助を行うことで、それ以外の自立可能な部分について援助しないということである。この点が自立支援の介護では非常に重要なのである。

その為には、まず、自立出来ている人はどのような「(分析的)内容」の行動をどういう段取り (など)で行っているかで、活動・参加しているのかを分析する必要があった。しかし、「行動分析」という習慣がないため、(こうなると、今まで「アセスメント」として何をしてきたのか気になるところではあるが、) なかなか思いつかないということになってしまった。自分たち自身が行っている日常行動の分析を行えばいいのであるが、この言語化が難しいということも問題の一つ課題の一つであった。

5. 第2レベル、第3レベルを深める行動分析の課題

第五の残された課題は、第2レベル、第3レベルとして示されている行動分類を、実際にアセスメントや、介護行動の焦点化に応用するために使っていくためには、第2レベルや第3レベルではまだ概念的で、それらをさらに細かく分析をしなければ使えないということである。

そのために、第2レベル・第3レベルでの分類の内容を、細かく(第4レベル相当に)分析しようとするときに、どう分析して行くか、どう言語化するか、その進め方について、研究メンバー間での共通理解が難しかったということである。

例えば、分析方法としては、

- ① I C F の第二レベルや第三レベルの内容説明(例示)項目に準拠して分析する。
- ②その行動を行うにはどういう段取りを取って行うのかというプロセスを分析する。
- ③その行動を行うための目的から分析する。
- ④その行動が、どの環境因子や身体構造・心身機能と、どう関係しているか、から分析する。

などなど、さまざまな観点があるだろう。これについて、どの様な分析基準が最も、アセスメントや、焦点を絞った介護介入に適切なのかは、今後の課題となっている。

6. 自立した人を前提とする行動分析と、介護専門職の行動や、

関係する技術や知識との関係

第六の残された課題は、この研究を行う時に最終的には介護専門職養成教育に結びつけるために、自立している人の行動分析から、その分析内容項目に対応する、介護行動を特定するこの難しさであった。私たちは、この検討プロセスから、「介護(福祉)」とは、ICFの「活動と参加」の活動分類に示される構成要素の実行に伴う「困難」を、本人の望む内容とレベルで解決できる様に、ICFの環境因子の操作や、「心身機能・身体構造の知識」を用いて、実現していく事。」としたのであるが、とすれば、まずは、行動分析で抽出された項目がどの環境因子に支えられているかを特定する必要がある。そこで問題なのは、環境は複合的要素からなっているので、全ての環境因子が関係しているという、大雑把な関係づけをしてしまいがちという事である。しかし、こういう大雑把な関係づけでは、分類された「困難」への直接的な介護行動を抽出できない。

その上で、その環境因子などを「困難」に結び付けていくための技術内容や知識について、一つひとつ確認していく必要がある。この研究では一通りそれを行ったが、適切かつ分かりやすい言語化には至っていない。これが最後の課題である。

7. ICFの項目に不適切な内容

ICFの「活動と参加」の分類を活用して、介護行動の根拠を明らかにしていこうという研究のプロセスでの課題は、以上である。

同時にこの研究過程で見えてきた大きな課題は、現在のICFの項目がすべて適正かというと、必ずしもそうではないということである。このICFの資料を作成していく過程で、どの国のどのような方々が参加をされたのかは定かではない。しかし、その参加者の発言力の違いや出身国の慣習などが影響している部分が所々に見られる。そういう意味では、逆に「寝返り」や「観光」等が分類されておらず、また、資料作成からの 20 年間の変化も踏まえて、補正されるべき欠落は少なくないであろう。これらについても次の「ICFそのもの」の改定に向けて開催されるであろう国際会議で提起されるべき課題である。

以上、さまざまな課題が残された。しかし、私たちは、これらの膨大な作業を伴う分析に挑んでみて、ICFの生活機能分類の内容に関して、改めてさまざまなことを学んだ。その一つは、自立した人間の行動は、どれだけ多くの分類される内容の「総合的な活用(運用)」からなっているかということに、改めて理解できた。逆に言うと、人間は普通に生きているというだけで、さまざまなことを無意識のうちにこなしているのだということがよくわかった。

今後の問題として、この分析研究は、

- ①介護専門職が、利用者の「活動・参加」関連の行動をアセスメントする時のアセスメント基準 を作製するため
- ②介護専門職同士の、共通言語を確定していくため(隣接領域の専門職との共通言語を含む)
- ③介護マニュアルの作製などで、主観的な解釈の幅をできるだけ狭くするため、

④介護ロボット等介護機器に、介護行動の一部を担わせていくための、必要な行動内容を整理するため、

などに非常に有効であろう。しかし、そのためには、もう少しわかりやすい具体的な内容として 整理し直す必要がある。これが今後行われるであろう継続研究への出発点となるだろう。

以上、積み残しになっている残された課題は多々あるが、科学的合理的根拠に基づくICFをベースに、専門的介護行動を組み立てていくために、このような基礎研究は大きな意味をもつ。 それに取り組んだ意義は大きい。この研究はある程度の成果を収め、研究上の課題も明らかになったので、今後の、新たな展開に期待をしたい。

383 / 523

I C F をベースとした 「介護福祉」の枠組みと 教育内容

• • 自立をめざす介護とは • •

本論2

介護業務の難易度および教育課程

- 1 学習と知識の応用 learning and applying knowledge
- 2 一般的な課題と要求 general tasks and demands
- 3 コミュニケーション communication
- 4 運動・移動 mobility
- 5 セルフケア self-care
- 6 家庭生活 domestic life
- 7 対人関係 interpersonal interactions and relationships
- 8 主要な生活領域 major life areas
- 9 コミュニティライフ・社会生活・市民生活 community, social and civic life

≪「介護業務の難易度および教育課程」の検討≫

本論2は、序論第3章で解説されている「EQFに基づく検討経緯と課題」の内容について、実験的に資料を作成した試みの紹介である。したがって、本論序章第三章の解説と対応させて読んでいただければありがたい。

その要点を以下抄録しておけば以下のとおりである。

- ① ICFの「活動と参加」の部分の行動内容分析をベースにして作られた、介護(対人援助)行動の内容(コンテンツ)や、それに関連して学ぶべき「知識」や「技術」などについて、EQFの段階(レベル分け)の考え方に基づいて整理することが、この本論 2 段階の研究の第 1 の目的である。
- ② 第2の目的は、この研究全体の最終目的である『先進的な国際的通用性のある、(介護を中心にした)新たなカリキュラム構築』に向けて、①の整理に基づき、実際の授業の展開に向けて、教育課程として展開することである。
- ③ 研究の方法としては、以下の方法を取った。
- *O. 教育課程の展開研究は、通常「教育目標の設定」⇒「達成課題に向けた教育の全体の『授業設計』(書)の作製(⇒授業用シラバスの作製)⇒毎回の授業内容を整理する『授業案』の作製、という段階で進む。
- *1.目的の第1に関しては、段階別「教育目標の設定」に進むべく、本論1の検討を踏まえて、 それぞれの学習すべき内容項目(ICFの第2・第3レベル分類)を、介護(対人援助)行動の 内容(コンピテンス)の難易度を中心にEQFの段階に当てはめる試みを行う。(時間切れもあり、 この研究報告では不完全なまま終わっている。)
- *2. 次の段階として、上記のよって作成された表を、EQFの段階別に整理し、そこで、特に学ぶべき「知識」や「技術」に関する重複項目の整理を行ったうえで、EQFの段階別の教育計画の構成を行うための基礎資料を作成する。(この資料作成段階は、前項の表の作成が不十分に終わっているため着手しなかった。)
- *3. 教育課程を考えるために、ICFの第2・3レベルの分類ごとに、EQFのどの段階に該当する内容なのかの整理を行った。
- *4. ICFの内容をEQFの段階ごとに教育していく教育課程表を作成するにあたり、全体を総合して「授業科目」を設定しなおすのではなく、ICFの第一段階の分類をそのまま「授業科目」として設定した場合。どういう内教育内容になるかについて整理した教育課程表を作成した。以下、上記*1~*4の内容を紹介しておく。

第1章.ICF の内容分類を、EQF の段階で整理してみる試み

ICFの内容分析を踏まえて、それがEQFの職務内容のどの段階に対応するかを検討した、 その段階で試験的に作成してみた表が以下の通りである。

なお、本論 1 の段階では、原則的に「③想定される介護行動」として考察を行ったが、実際問題としては、必ずしも「介護」に限定されない、介護職以外の対人援助行動でも同様の援助行動

が行われる場合も想定されるので、この欄は「③想定される介護(対人援助)行動」と表記を改めてある。

作成する表のフォーマットは以下のとおりである。

(試案)第○章、○●●○

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護行	④教育内容	④教育内容	⑤教育方法上
加の第 1 段階		動(コンピテンス)	(技術)	(知識)	の留意事項
対人関係	第8段階				
	第7段階				
	第6段階				
	第5段階				
	第4段階				
	第3段階				
	第2段階				
	第1段階				

この作成は、時間的制約もあり、最終的に全部を作成するに至らなかったため、試案として作成したものの中から一部を抜粋して紹介する。

≪ I C F • 第 1 レベルの作製例≫

(試案) 2章、一般的な課題と要求

ICF の活動と	QF の段	③想定される介護(対人援助)	④教育内容(技術・知識)	
参加の第 1 段	階	行動		
階				
一般的な課題	第8段階			
と要求	第7段階			
	第6段階			
	第5段階	対象者の身体・心理・物理・社会的状況を把握し、問題の状況を を分析できる ①対象者を観察し、問題状況を 把握できる ②対象者の能力に応じた方法で、本人の問題理解を促進できる ③問題解決への動機が続くよう支援できる ④問題を相互作用の観点から捉えられる	①物理的・心理的・社会的環境のアセスメントに関する知識。②システム理論に関する知識。③システム理論に関する知識。③エコのシカルモデルに関する知識。④エコ以及とででは、関する知識。⑤様々な情報を整理し、問題分析ができる技術。⑥エンパワメントーー・表解決アプローチ、関連アプローチをどの介入理論に関する知識。	
			⑦上記理論を展開する技術	

	⑤問題の相互関係を対象者が理解できるように説明できる 問題解決に向け、計画立案と実行ができる ⑥情報収集のための用具や機器を提供できる ⑦必要な社会資源と連結できる ⑧問題の性質と対象者の能力に応じた方法で解決できる。 ⑤情策定を支援できる ⑨本人の問題解決を支援する	 ⑧PDCA サイクルに関する 知識 ⑨計画策定できる技術 ⑩社会資源に関する知識 ⑪社会資源につなげる技術 ⑫モニタリングできる技術 ⑭エバリエーションに関する 知識 ⑮エバリエーションを展開できる技術 きる技術
	問題解決を評価できる ⑪選択した行動が効果をあげ ているか確認できる ⑪問題が解決したことを対象 者と確認できる	
第4	安階 本人の特性を理解し、上司の指示や承認のもと、介護行動ができる ①本人が気づきやすい刺激を準備することができる ②対象者の目的にとができる ③対象者の表現方法が理解できる ④様々な方法を用いて対象者の能力に応じた方法で選択できる機会を作る ⑤本人の選択を理解し、支持できる ⑥対象者の特性に応じた物品が用意できる	①対象者の状況と意思を観察し、把握できる技術。 ②刺激を発したり、伝えるための福祉用具や教育用具に関する知識。 ③刺激を発したり、伝えるための福祉用具や教育用具を活用する技術。 ④情報検索に関す知識 ⑤情報を検索し、収集する技術 ⑥対象者の目的や興味関心にそった書物を探す技術 ⑦対象者の行動や思考に関する知識 ⑧表現方法に関する知識 ⑨対象者の意向をくみ、機会を創出する技術
第3	投階 上司の指示のもと、具体的な行動をとることができる ①刺激に集中しやすい環境を準備することができる ②集中して考える物理的環境を整えることができる	 ①疾病・障害に対する知識 ②障害・疾病に応じたコミュニケーションに関する知識。 ③対象者にあったコミュニケーションを展開する技術 ④心理的安定をもたらす物理的環境に関する知識。

		⑤心理的安定をもたらす物理 的環境を調整する技術。 ⑥福祉用具に関する知識 ⑦福祉用具を活用する技術	
第2月	段階		
第1月	段階		

≪ I C F • 第 2 レベルの作製例≫

(d930 宗教とスピリチュアリティ religion and spirituality)

ICF の活動と参	QFの段階	③想定される介護(対人	④教育内容(技術・知識)	⑤教育上の配慮事項
加の第 1 段階		援助)行動		
コミュニテ	第8段階			
ィライフ•社	第7段階			
会生活•市民	第6段階			
生活	第5段階	1.1、収2 必あで1.1にき1.2 作割が1.1にき1.2 作割が1.1にき1.2 作割が1.2 があで1.1にき1.2 作割が1.2 があで1.2 がよってが1.1にき1.2 作割が2.3 にきがませるでは、まるでは、まるでは、まるでは、まるでは、まるでは、まるでは、まるでは、ま	式物活動、行事に関する情報の技術 1.1.2 宗教知知 (京教知知 (京教知知 (京教知知 (京教知 (京教知 (京教知 (京教	・国や地域、宗教等による違いを知る(対象者の把握)・スプリチャラックを表するのでは、宗教等による連びを知るのでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教を対象者のでは、宗教をは、宗教をは、宗教をは、宗教をは、宗教をは、宗教をは、宗教をは、宗教を

	3.1.1 スピリチュアル な活動、行事に必要な 福祉用具を提案することができる。	3.1.1.1 スピリチュアルな活動、行事に必要な生産品や用具(福祉用具を含む)を心身の状況に応じて整えることができる技術。	
第4段階			
第3段階			
第2段階			
第1段階	1.1 ひとりの人として 尊厳をもって支援できる 1.2 個人が尊厳をもっ てその人らしい生活が 送れるよう支援できる	1.1.1 は、のは、のは、のは、ののには、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、のの知のでは、は、のの知のでは、は、は、のなののは、は、ないのなののでは、は、は、いいののでは、ののでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	

≪ICF・第3レベルの作製例≫

(試案) 5、セルフケア

ICF の活動と	QF の段階	③想定される介護行動	④教育内容(技術)(知識)	⑤ 教育方法
参加の第 1 段		(コンピテンス)		上
階				の留意事項
セルフケア	第8段階			
	第7段階			
	第6段階			
	第5段階			
	第4段階			
	第3段階	d5100 身体の一部を 洗うこと	d5100身体の一部を洗うこと	
			≪知識≫	

- ・浴室の室温調整を適切に行うことができる。
- ・浴室内の転倒防止に留 意した環境を整えるこ とができる。
- ・対象者の障害や疾病、 その日の身体状況に応 じた適切な入浴用具や 福祉用具(シャワーチェ ア等)、特殊浴槽(チェア 浴、ストレッチャー浴 等)を選択し、準備する ことができる。
- ・対象者の希望に応じた 洗身用具(石鹸、ボディ シャンプー、シャンプ ー、リンス、洗顔フォー ム、洗身用タオル、スポ ンジ等)を準備すること ができる。
- ・プライバシーに配慮した洗身介助ができる。
- ・全身状態や皮膚の状態 を適切にアセスメント することができる。
- ・対象者の残存能力を把握し、活用できる。・ 対象者の手の届かない部分や洗身できない部分への介助ができる。

d5101 全身を洗うこと

 $(4 \sim 7)$

- ・浴室の室温調整を適切に行うことができる。
- ・浴室内の転倒防止に留 意した環境を整えるこ とができる。
- ・対象者の障害や疾病、 その日の身体状況に応 じた適切な入浴用具や 福祉用具(シャワーチェ ア等)、特殊浴槽(チェア 浴、ストレッチャー浴 等)を選択し、準備する ことができる。
- 対象者の希望に応じた 洗身用具

(石鹸、ボディシャンプ ー、シャンプー、リンス、 洗顔フォーム、洗身用タ

- ・入浴時のヒートショック等に関する知識。
- ・入浴時のリスクマネジメントに関する知識。
- ・入浴用具、福祉用具に関する知識。
- ・対象者の疾患や状態に応じた意思伝達に関する知識
- ・皮膚疾患(頭皮を含む)や 感染症に関する知識。

≪技術≫

- ・入浴用具、福祉用具を取り 扱う技術。
- ・対象者の希望を適切に把握できる技術。
- ・プライバシーに配慮した洗 身介助の技術。
- ・対象者の疾患や状態に応じた意思伝達技術
- ・全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術
- ・自立支援に基づく洗身介助の技術。

d5101 全身を洗うこと ≪知識≫

- ・入浴時のヒートショック等に関する知識。
- ・入浴時のリスクマネジメントに関する知識。
- ・入浴用具、福祉用具、特殊 浴槽に関する知識。
- ・対象者の疾患や状態に応じた意思伝達に関する知識。
- ・皮膚疾患(頭皮を含む)や 感染症に関する知識。

≪技術≫

- ・入浴用具、福祉用具、特殊浴槽を選択し、取り扱う技術。
- ・対象者の希望を適切に把握できる技術。
- ・プライバシーに配慮した洗身介助の技術。

オル、スポンジ等)を準備することができる。 ・プライバシーにきる。 ・プライ助ができる。 ・全身状態や皮スの状態を適切にアできる。 ・対し、を強力をできる。 ・対し、を対し、を対し、ない部分やの介助ができる。 は 102 ・浴室の室温調整を変	・対象者の疾患や状態に応じた意思伝達技術。 ・全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術。 ・自立支援に基づく洗身介助の技術。	
・プライバシーに配慮した介助ができる。 ・全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントすることができる。 ・対象者の残存能力を把握し、活用できる。 ・対象者の手の届かない部分に対し、身体を拭き乾かすことができる。	・入浴時のヒートショック等に関する知識。 ・皮膚疾患(頭皮を含む)や感染症に関する知識。 ≪技術≫ ・プライバシーに配慮した介助の技術。 ・全身状態や皮膚の状態を適切にアセスメントする技術。 ・自立支援に基づき、身体を拭き乾かす技術。 ・頭皮と髪を乾かす技術。	
d5200 皮膚の手入れ ・皮膚のきめや保湿状態 に応じた支援ができる。 ・たこや魚の目を確認することができる。 ・適切な保湿ローション や化粧水を使って、利用 者の状態にあった支援 ができる。	d5200 皮膚の手入れ ≪知識≫ ・皮膚のきめと保湿状態に関した知識。 ・たこや魚の目を確認する知識。 ・保湿ローションや化粧水に関する知識。 ≪技術≫ ・皮膚のきめと保湿状態を確認する技術。 ・コミュニケーション技術。 ・たこや魚の目に対応する技術。 ・保湿ローションや化粧水を使用する技術。	

T	1			ı
		d5201 歯の手入れ	d5201 歯の手入れ	
		・利用者の状態や状況に		
		応じた歯磨きに必要な	≪知識≫	
		物品が準備でき、状態や	歯磨きに必要なこころとか	
		状況にあった歯磨きを	らだのしくみの知識。	
		支援することができる。	・歯磨きに必要な物品の知	
		・利用者の状態や状況に	識。	
		応じた歯間清掃に必要	・歯間清掃に必要なこころと	
		な物品が準備でき、状態	からだのしくみの知識。	
		や状況にあった歯間清	・歯間清掃に必要な物品の知	
		掃を支援することがで	部	
		きる。	• 義歯や歯科矯正具に必要な	
		・利用者の状態や状況に	こころとからだのしくみの知	
		応じた義歯や歯科矯正	識。	
		具の手入れ必要な物品	• 義歯や歯科矯正具の手入れ	
		が準備でき、状態や状況	必要な物品の知識。	
		にあった義歯や歯科矯	≪技術≫	
		正具の手入れを支援す	・歯磨きに必要な支援技術。	
		ることができる。	・利用者の状態や状況にあっ	
			た歯磨きをアセスメントする	
			能力。	
			・歯間清掃に必要な支援技	
			術。	
			・利用者の状態や状況にあっ	
			た歯間清掃をアセスメントす	
			る能力。	
			・義歯や歯科矯正具の手入れ	
			必要な支援技術。	
			利用者の状態や状況にあっ	
			た義歯や歯科矯正具の手入れ	
			をアセスメントする能力。	
	第2段階			
-	第1段階			
				l

第2章。階層化した職務内容に対応した、段階別の教育内容の整理へ

次のステップとして、「ICFコンピテンス(職務内容)の階層化試案(EQFベースの)」での作成した「階層別職務内容」を、階層別の教育内容に置き換える作業を行なおうとした。この段階では、ICFの階層への対応から、EQFの職務段階(教育段階)に置き換えていく為に、ICFでの整理段階では複数の章で出てくる教育内容の重複を整理する意図があった。これを、以下の段階別の表にまとめることで、行おうとしたが、時間切れで、この作業はおこないえなかった。各段階とも、表は同じなので、此処ではサンプルの表のみを紹介しておく。

(サンプル) 第〇段階

QF の	ICF の活動と参加の	③想定される介護(対	④教育内容(知識・	⑤教育方法上の留
段階	第1段階	人援助)行動	技術)	意事項

第〇段	学習と知識の応用		
階	一般的課題と要求		
	コミュニケーション		
	運動・移動		
	セルフケア		
	家庭生活		
	対人関係		
	主要な生活領域(教		
	育•就労•経済活動)		
	コミュニティライフ・		
	社会生活•市民生活		

第3章。 I C F をベースに考える教育課程への内容の階層化

「ICFをベースに考える教育課程」を作成していく為に内容の階層化を試みた。この段階では、「③の想定される介護(対人援助)行動」が、特定されると、本編 1 の分析表に対応させると、「④教育内容(知識・技術)」はおのずから明らかになるので省略してある。「⑤教育方法上の留意事項」も、教育課程表で明細が出てくるので、記入していない場合がある。

なお、階層に関しては、序論第3章を参照してください。(当然の事ではあるが、この階層は、 ICFの行動内容に関し支援を行うスタッフが学ぶ階層であり、利用者本人が学ぶ階層ではない。)

この段階設定の基準は、基本的にICF「活動と参加」の第2・第3レベル単位で設定されている。しかし、一つの分類項目でも、内容的にいくつかの段階に分かれると考える場合(※)は、何段階かにまたがって設定されている。

※の場合の段階に分ける基準は、以下の様な場合がある。

- ① ○第3段階=とりあえず、必要な支援ができる。○第4段階=アセスメントが適切にできる (対象者の意向を確認できる) ○第5段階=アセスメントに対応して、援助行動の理由を 説明できる。援助計画を創れる。など)
- ② ○第3-4 段階=基礎的知識と技術 ○第4-5 段階=根拠を持って対応できる ○第5-6 段階=色々な状況に対応できる。
 - この段階で分けた場合は、dOOOの後に、 Δ (上位)、 \bullet ・ \diamondsuit (中位・基本・など)、 ∇ (下位) などとして表記されている。

(試案) 1、学習と知識の応用・・教育課程段階・・

ICF の活動と参	QFの段階	③想定される介護 (対人援助) 行動	⑤教育方法上
加の第 1 段階			の留意事項
学習と知識の	第8段階		
応用	第7段階		
	第6段階	d163 思考	
		d166 読むこと	

		d 172 計算	
		- 11 1	
		d 1751 複雑な問題の解決	
	第5段階	d 120 その他の目的ある感覚	
		d 160 注意を集中すること	
		d 163 思考	
		d166 読むこと	
		d170 書くこと	
		d 1750 単純な問題の解決	
		d 177 意思決定	
[第4段階	d110 注意して視ること	
		d115 注意して聞くこと	
		d 130 模倣	
		d 135 反復	
		d 140 読むことの学習	
		d 150 計算の学習	
		d 145 書くことの学習	
		d 1550 基本的な技能の習得	
		d 1551 複雑な技能の習得	
1	第3段階		
	第2段階		
	第1段階		

(試案) 2、一般的な課題と要求・・教育課程段階・・

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護(対人援助)行動	⑤教育方法上
加の第1段階			の留意事項
一般的課題と	第8段階		
要求	第7段階		
	第6段階		
	第5段階	d2202 単独での複数課題の遂行	
		d2203 グループでの複数課題の遂行	
		d2400 責任への対処	
		d2401 ストレスへの対処	
		d2402 危機への対処	
	第4段階	d2100 単純な単一課題の遂行	
		d2101 複雑な単一課題の遂行	
		d2102 単独での単一課題の遂行	
		d2103 グループでの単一課題の遂行	
		d2200 複数課題の遂行	
		d2201 複数課題の達成	
		d2301 日課の管理	
		d2302 日課の達成	
		d2303 自分の活動レベルの管理	
	第3段階		

第2段階	
第1段階	

(試案) 3、コミュニケーション・・教育課程段階・・

CF の活動と参		③想定される介護(対人援助)行動	⑤教育方法上
加の第 1 段階			の留意事項
コミュニケー	第8段階		
ション	第7段階		
	第6段階		
	第5段階	d 3151 一般的な記号とシンボルの理解	
		d 3152 絵と写真の理解	
		d 3351 記号とシンボルによる表出	
		d 3352 絵と写真による表出	
	第4段階	d325△ 書き言葉によるメッセージの理解	
		d345△ 書き言葉によるメッセージの表出	
		d3551 多人数でのディスカッション	
		d3600△ 遠隔通信用具の利用	
		d3601△ 書字用具の利用	
		d3602△ コミュニケーション技法の利用	
	第3段階	d310 話し言葉の理解	
		d315 非言語的メッセージの理解	
		d3150 ジェスチャーの理解	
		d3158 その他の特定の、非言語的メッセージの 理解	
		は d320 公式手話によるメッセージの理解	
		d325◇ 書き言葉によるメッセージの理解	
		d330 話すこと	
		d335 非言語的メッセージの表出	
		d345◇ 書き言葉によるメッセージの表出	
		d3350 ジェスチャーによる表出	
		d3358 その他の特定のディスカッション	
		d340 公式手話によるメッセージの表出	
		d3500 会話の開始 d3501 会話の持続	
		d3501 云話の持続	
		d3502 去品の影响	
		d3504 多人数での会話	
		d350 会話	
		d355 ディスカッション	
		d3550 一対一でのディスカッション	
		d360 コミュニケーション用具および技法の利用	
		d3600◇ 遠隔通信用具の利用	
		は3601◇ 書字用具の利用	
		d3602◇ コミュニケーション技法の利用	

		d3608 その他の特定の、コミュニケーション用	
		具および技法の利用	
9	第2段階		
É	第1段階		

(試案) 4、運動・移動・・教育課程段階・・

CF の活動と参	里到・炒到・ QFの段階	3. 対 日 本 任 氏 内 に い	⑤教育方法上
加の第1段階			の留意事項
運動•移動	第8段階		00日心子头
建到。移到		14554 (1)53	
	第7段階	d4554 (水泳)	
	第6段階	d4104(立つこと※臥位·長座位→立位)	
		d475 運転や操作	
		d4750(人力による交通手段の操作)	
		d4751(動力つきの交通手段の運転)	
		d4752(動物の力による交通手段の操作)	
	第5段階	d4100(横たわること※立位→臥位)	
		d4102(ひざまずくこと)	
		d4106(体の重心を変えること)	
		4200(座位での乗り移り※座位保持可能レベル	
		で介護・福祉用具、機器を用いた乗り移り)	
		d4201 臥位での乗り移り	
		d4303(肩・腰・背に担いで運ぶ)	
		d4304(頭の上にのせて運ぶ)	
		d4453(手や腕を回しひねること)	
		d4501(長距離歩行)	
		d4502(さまざまな地面や床面上の歩行)	
		d4503(障害物を避けての歩行)	
		d450 (歩行)	
		d455(移動)	
		d4552 (走ること)	
		d4553 (跳ぶこと)	
		d460(さまざまな場所での移動)	
		d465(用具を用いての移動)	
	第4段階	d410 基本的な姿勢の変換	
		d4100(横たわること※座位→臥位)	
		d4101(しゃがむこと)	
		d4103(座ること)	
		d4104(立つこと※座位→立位)	
		d4105(体を曲げること)	
		d420(乗り移り)	
		d4200(座位での乗り移り※足の踏みかえ、離殿	
		可能レベル)	
		d 430(持ち上げることと運ぶこと)	
		d4301(手にもって運ぶ)	

	d4302(腕に抱えて運ぶ)	
	d435(下肢を使って物を動かすこと)	
	d4350(下肢で押すこと)	
	d4351 (蹴ること)	
	d410(細かな手の使用)	
	d4400(つまみあげること)	
	d4401(握ること)	
	d4402(操作すること)	
	d4403(放すこと)	
	d445(手と腕の使用)	
	d4450(引くこと)	
	d4451(押すこと)	
	d4452(手を伸ばすこと)	
	d4454(投げること)	
	d4455(つかまえること)	
	d47O(交通機関や手段の移動)	
	d4700(人力による交通手段の利用)	
	d4701 (動力付きの私的交通手段の利用)	
	d4702(動力付き公共交通機関の利用)	
	d4550 (這うこと)	
	d4551 (登り降りすること)	
	d4602 (屋外の移動)	
第3段階	d415 姿勢の保持	
	d4150(臥位の保持)	
	d4151(しゃがみ位の保持)	
	d4152(ひざまずいた姿勢の保持)	
	d4153(座位の保持)	
	d4154(立位の保持)	
	d4305(物を置く	
	d4500(短距離歩行)	
	d4600 (自宅内での移動)	
	d4601(自宅以外の屋内移動)	
第2段階		
第1段階		
i e		

(試案) 5、セルフケア・・教育課程段階・・

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護 (対人援助) 行動	⑤教育方法上
加の第1段階			の留意事項
セルフケア	第8段階		
	第7段階		
	第6段階		
	第5段階	d570 健康に注意すること	
		d5700 身体的快適性の確保	

	d5701 食事や体調の管理
	d5702 健康の維持
	d598 その他の特定のセルフケア
第4段階	d5101 全身を洗うこと
	d520 身体各部の手入れ(5202 を除く)
	d530 排泄
	d 5404 適切な衣服の選択
	d550 食べること
	d560 飲むこと
第3段階	d5100 身体の一部を洗うこと
	d5102身体を拭き乾かすこと
	d5103 対応
	d5200 皮膚の手入れ
	d5201 歯の手入れ
	d5202 頭髪と髭の手入れ
	d5203 手の爪の手入れ
	d5204 足の爪の手入れ
	d 5300 排尿の管理
	d5301 排便の管理
	d5302 生理のケア
	d540 更衣(5404を除く)
	d5400 衣服を着ること
	d5401 衣服を脱ぐこと
	d5402 履き物を履くこと
	d 5403 履き物を脱ぐこと
第2段階	
第1段階	

(試案) 6、家庭生活••教育課程段階••

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護 (対人援助) 行動	⑤教育方法上
加の第1段階			の留意事項
家庭生活	第8段階		
	第7段階		
	第6段階		
	第5段階	d610▲ 住居の入手 d620▲ 物品とサービスの入手 d629▲ その他、特定の必需品の入手 d630▲ 調理 d640▲ 調理以外の家事 d649▲ その他、特定の家事 d650▲ 家庭用品の管理 d660▲ 他者への援助 d669▲ その他、特定の家庭用品の手入れ・他 者への援助	

Т	
	d698▲ その他の特定の家庭生活
	d6605 他者の健康維持への援助
	d 6608 その他の他者への援助
第4段階	d610△ 住居の入手
	d620△ 物品とサービスの入手
	d629A その他、特定の必需品の入手
	d630△ 調理
	d640△ 調理以外の家事
	d649△ その他特定の家事
	d650△ 家庭用品の管理
	d660△ 他者への援助
	d669△ その他、特定の家庭用品の手入れ・他
	者への援助
	d 698△ その他の特定の家庭生活
	d6100 住居の購入
	d6101 住居の賃貸
	d6102 家具調度の整備
	d6108 特定の住居の入手
	d6200Δ 買い物
	d6201Δ 日常必需品の収集
	d6208△ その他特定の物品とサービスの入手
	d6300△ 簡単な食事の調理
	d6301△ 手の込んだ食事の調理
	d6308 その他の特定の調理
	d6400△ 衣服や衣類の洗濯と乾燥
	d6401△ 台所の掃除と台所用具の洗浄
	d 6402 居住部分の掃除
	d6403△ 家庭用器具の使用
	d6404△ 日常必需品の貯蔵
	d6408
	d6500△ 衣服の作製と補修
	d6501△ 住居と家具の手入れ
	d6502△ 家庭内器具の手入れ
	d6503△ 乗り物の手入れ
	d6504△ 福祉用具の手入れ
	d6505 屋内外の植物の手入れ
	d 6506 動物の世話
	d6508 その他の家庭用品の管理
	d6600 他者へのセルフケアの援助
	d 6601 他者の移動への援助
	d6602 他者のコミュニケーションへの援助
	d6603 他者の対人関係への援助
	d 6604 他者の栄養摂取への援助
第3段階	d6200▽ 買い物
	d6201▽ 日常必需品の収集
	d6208▽ その他物品とサービスの入手
	d6300▽ 簡単な食事の調理

	d6301∇	手の込んだ食事の調理	
	d6400∇	衣服や衣類の洗濯と乾燥	
	d6401∇	台所の掃除と台所用具の洗浄	
	d6403∇	家庭用器具の使用	
	d6404∇	日常必需品の貯蔵	
	d6405 ゴ:	ミ捨て	
	d6500∇	衣服の作製と補修	
	d6501∇	住居と家具の手入れ	
	d6502∇	家庭内器具の手入れ	
	d6503∇	乗り物の手入れ	
	d6504∇	福祉用具の手入れ	
第2段階			
第1段階			

(試案) 7、対人関係・・教育課程段階・・

ICF の活動と参	QFの段階	③想定される介護(対人援助)行動	⑤教育方法上
加の第 1 段階			の留意事項
対人関係	第8段階		
	第7段階		
	第6段階		
	第5段階	d7401 下位の立場にある人との関係	
		d7402 同等の立場にある人との関係	
		d7502 知人との非公式な関係	
		d7503 同居者との非公式な関係	
		d7504 仲間との非公式な関係	
		d7600 子どもとの関係	
		d7601 親との関係	
		d7602 兄弟姉妹との関係	
		d7603 親族との関係	
		d7700 恋愛関係	
		d7701 婚姻関係	
		d7702 性的関係	
	第4段階	d7103 対人関係における批判	
		d7104 対人関係における合図	
		d7201 対人関係の終結	
		d7202 対人関係における行動の抑制	
		d7203 社会的ルールに従った対人関係	
		d7204 社会的距離の維持	
		d730 よく知らない人との関係	
		d740 公的な関係	
		d7400 権限のある人との関係	
		d750 非公式な社会的関係	
		d7500 友人との非公式な関係	
		d7501 隣人との非公式な関係	

第3段階	d710	基本的な対人関係	
	d7100	対人関係における敬意と思いやり	
	d7101	対人関係における感謝	
	d7102	対人関係における寛容さ	
	d7105	対人関係における身体的接触	
	d720	複雑な対人関係	
	d7200	対人関係の形成	
第2段階			
第1段階			

(試案) 8、主要な生活領域・・教育課程段階・・

ICFの活動と参	工 女 は工心を QFの段階	③想定される介護(対人援助)行動	⑤教育方法上
		③心足C11る月霞(刈入援助)1J到	
加の第1段階			の留意事項
主要な生活	第8段階		
領域	第7段階	d 830 高等教育 (大学院)	
	第6段階	d 830 高等教育	
		d 850▲ 報酬を伴う仕事	
		d 865△ 複雑な経済的取引き	
		d 8500▲ 自営業	
	第5段階	d 850△ 報酬を伴う仕事	
		d 860ム 基本的な経済的取引き	
		d 865◆ 複雑な経済的取引き	
		d 870△ 経済的自給	
		d 8500△ 自営業	
		d 8501△ 非常勤雇用	
		d 8502△ 常勤雇用	
		d 8700△ 個人の資産	
		d 8701△ 経済上の公的な資格・権利	
		d 8708 その他の特定の経済的自給	
		d 8709 詳細不明の経済的自給	
		d 879 その他の特定の、および詳細不明の、経済	
		生活	
		d 898 その他の特定の主要な生活領域	
		d 899 詳細不明の主要な生活領域	
	第4段階	d 825 職業訓練	
		d 840 見習研修 (職業準備)	
		d 845 仕事の獲得・維持、終了	
		d 8450 仕事探し	
		d 8451 仕事の継続	
		d 8452 退職	
		d 850◆ 報酬を伴う仕事	
		d 855△ 無報酬の仕事	
		d 860◆ 基本的な経済的取引き	
		d 870◆ 経済的自給	

F			
		d 8500◆ 自営業	
		d 8501◆ 非常勤雇用	
		d 8502◆ 常勤雇用	
		d 8508 その他の特定の、報酬を伴う仕事	
		d 8700◆ 個人の資産	
		d 8701◆ Ⅱ経済上の公的な資格・権利	
		d 8709 詳細不明の経済的自給	
	第3段階	d810 非公式な教育	
		d 815 就学前教育	
		d 820 学校教育	
		d 850▽ 報酬を伴う仕事	
		d 855◆ 無報酬の仕事	
		d 859 その他の特定の、および詳細不明の、仕事	
		と雇用	
		d 860▽ 基本的な経済的取引き	
		d 870▽ 経済的自給	
		d 8500▽ 自営業	
		d 8501▽ 非常勤雇用	
		d 8502▽ 常勤雇用	
	第2段階		
	第1段階		

(試案) 9、コミュニティライフ・社会生活・市民生活・・教育課程段階・・

ICF の活動と参	QF の段階	③想定される介護(対人援助)行動	⑤教育方法上
加の第1段階			の留意事項
コミュニティ	第8段階		
ライフ・社会 生活・市民生活	第7段階	d9201△ スポーツ d9202△ 芸術と文化 d9301◇ スピリチュアリティ d940△ 人権 d950△ 政治活動と市民権	
	第6段階	d9101 公式の団体 d9201△ スポーツ d9202△ 芸術と文化 d9205◇ 社交 d9301▽ スピリチュアリティ d940◇ 人権 d950◇ 政治活動と市民権	
	第5段階	d9100 非公式団体 d9102 式典 d9201◇ スポーツ d9202◇ 芸術と文化 d9203◇ 工芸 d9204 趣味	

	d9205▽ 社交 d9300 宗教団体 d940▽ 人権 d950▽ 政治活動と市民権	
第4段階	d9201▽ スポーツ d9202▽ 芸術と文化 d9203▽ 工芸	
第3段階	d9200 遊び	
第2段階		
第1段階		

第4章。授業科目ごとの学習計画

上記の階層を想定しつつ作成した「ICF(の各章)をベースに考える教育課程」が以下の表である。ICFの「活動と参加」の各章は、それぞれに異なった内容を扱っているので、また、作成者によって作成内容に関する概念定義が異なるため、必ずしも統一された基準での作成となっていない。

なお、この教育課程表を作成するために、各科目(= | CFの章)の標準的授業時間(授業コマ数・1 コマ=2 時間)を想定するために、以下の様な表を設定している。

科目名	第1	ブロッ	第2	第3なし	第3	想定コ	作成コ
1486 	知	ノロツ	新 乙		ある		
	レベル	ク	レベル	の第2	レベル	マ数	マ数※
学習と知識	2	3	21	19	6	51	54
一般的な課題と要求	2	О	6	2	18	28	29
コミュニケーション	2	3	16	11	21	53	67
運動・移動	2	4	20	8	62	96	91
セルフケア	2	0	9	4	24	39	39
家庭生活	2	3	11	5	32	53	39
対人関係	2	2	11	4	32	51	48
主要な生活領域	2	3	17	14	11	47	70
コミュニティライフ・社会生活・市民生活	2	0	7	4	14	27	27
コマ数小計	18	18	118	71	220	445	464

(表作成根拠など、序論第3章・参照)

※. しかし、現実の作成段階では、それぞれの難易度の差などもあり、必ずしも共通基準は適用できないので、実際に作製されているコマ数は、想定コマ数とは、一致しない。

(試案) 1、学習と知識の応用・・学習計画表

	(条) 「、子首C テーマ	修得すべき内容	子首引曲衣		学習方法上の留	備
]		コンピテンス (学習目標)	ナレッジ (知識)	スキル (技術)	意点	考段階
1	d1 学習と知識 の応用 (入門・基礎①)	「学習」という行動 を分析できる	行動分析に 関する知識	行動分析の 実践技術	学びと知識に関する研究データを提示しながら相互関係について説明する。	4 段階
2	d1 学習と知識 の応用 (入門・基礎①)	学習と知識の相互関 係について理解でき る。	学びと知識 の相互関係 について	行動分析結 果を言語化 する実践技 術		4 段 階
З	目的をもった感 覚的経験 (d110 -d129) purposeful sensory experiences	基礎的学習とはどのような学習が必要なのか理解できる。	基習種て 基の学つ的定に ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		基定い基要にる基用例説用説的と説明学学で、学いげ、にる学の内明のがのいがのいだののののののののののののののののののののののののののののののの	4 段階
4	d 110 注意して 視ること watching	注意して視るための、視る動機期の整理、視る内容の整理、視る行為の内容、視る行為の機続性、などについて分析することができる。				4 段階
5	d 110 注意して 視ること watching	注意して視るための、視る動機期の整理、視る内容の整理、視る行為の内容、視る行為の大容について分析し、支援行動をとることができる。				4段階
6	d 115 注意して 聞くこと listening	注意して聞くための、視る動機期の整理、視る内容の整理、視る内容の整理、視る行為の内容、視る行為の継続性、などについて分析することができる。				4 段階
7	d 115 注意して 聞くこと listening	注意して聞くための、視る動機期の整理、視る内容の整理、視る行為の内容、視る行為の終続性、などについて分析し、支援行動をとることができる。				4段5階

	T		Т	Т	T	
8	d 120 その他 の目的のある感 覚	その他の感覚につい て考慮すべき内容分 析ができる。				5段階
9	d 120 その他 の目的のある感 覚	その他の感覚について考慮すべき内容分析に基づいて援助行動ができる。				5段階
1 0	d129 その他特定の、および詳細不明の、目的を持った感覚経験	その他の予期せぬ感 覚について考慮すべ き内容分析ができ る。				5段階
1	d129 その他特 定の、および詳 細不明の、目的 を持った感覚経 験	その他の予期せぬ感 覚について考慮すべ き内容分析に基づい て援助行動ができ る。				5段階
1 2	基礎的学習 basic learning (d 130-d 159)	「学習」行動の発達 の機序を理解し、そ の機序に基づく支援 行動をとれる				4 段 階
1 3	d 130 模 倣 copying	模倣(再現) したい内容を確認し物品を準備できるよう支援ができる。 音・動き・文字などの識別方法が理解できる。	視つ 聴つ 代声の 音流ズの 機 で 機 で を を 性 に 言 性 機 で え 能 て 言 性 機 て こ き 性 に こ き と も と も と も と も と も と も と も と も と も と	模倣の手順の実行を表	知覚障倣いさ 模げ表提きす法をで能に再いる のそししい支つるがとすで 伽、記示なるにすだいてき感を順のらにる説がとすてある。 あををで対方明	4 段階
1 4	d 130 模倣 copying	観察したものを反復的に再現できるよう支援ができる。 正しく模倣が再現できたか確認できるよう支援ができる。	上肢の構造 について 下肢の構造 について		知識で学んだ心 身機能について 障害によって模 倣が再現できないという体感をさせる。	4 段階
1 5	d 135 反復 rehearsing	反復する内容が理解 し必要な物品を準備 できる支援ができ る。 反復の発展(上手に なっていく)の見分 け、支援を行うとが できる。	反復動作を 粉うする 関係能に いて	反復を手順 通りに実行 する	知識で学んだ心身機能によってになってのである。	4 段階
1 6	d 135 反復 rehearsing	正しい反復の繰り返 しが再現できるよう に支援することがで きる。				4 段階

		エレノト名ができた	T	T		
		正しく反復ができた かが確認できるよう 支援ができる。				
7	d 140 読むこ との学習 learning to read	書かれたもの形を文字として認識できる。 よう支援ができる。 書かれている文字が何を表現しているかを気が付くことができるように支援ができる。	視覚機能について	書かれた ものを流暢 に正確に読 む技術	知識識で学んだ 心身機能によって 読むことが ないことを なせる。	4 段階
1 8	d140 読むこ との学習	文字や単語や句の意味を理解することができるよう支援ができる。 認識した文字や単語や句を正しい発音で発語することができるよう支援ができるよう支援ができる。				4 段階
1 9	d145 書くこ との学習 learning to write	音声を認識して文字 に変換できているよう支援ができる。 文字を正確に綴ることができるよう支援 ができる。 文法が正しく理解できるよう支援ができる。		正しい文字や大学を対象ででは、一次を表ででは、一般を表でである。 一般を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示という。	知識で学んだ心 身機能について 障害によって計 算の学習ができないことを体感させる。	4 段階
2 0	d 145 書くこ との学習	文章を組み立てることができるよう支援ができる。 誤字脱字がないかを 点検できるよう支援 ができる。				4 段階
2	d 150 計算の 学 習 learning to calculate	計算する内容を確認 し物品を準備できる よう支援ができる。 数学的記号を理解 し、それを使って適 切に演算ができるよ うに支援できる。	視覚機能に ついて 聴覚機能に ついて 上肢の構造 について 計算機能に ついて	数字的記号を理解し演算ができる	知識で学んだ心 身機能について 障害によって計 算の学習ができ ないことを体感 させる。	4 段階
2 2	d 150 計算の 学習	問題に対し正しい数学的演算を適用し計算ができるよう支援できる。 計算があっているか確認する方法を見つ				4 段 階

		けることができるよ				
2 3	d1550 基本的 な技能の習得 acquiring basic skills	うに支援する。 一連の動作の理解ができる。 一連さる。 一連きる。 一連きる。 一連を準備する 道具を準備うすを できる。 道具を行きる。 正しいできる。 正しいできる。 正世解できる。 正世解できる。 正世ができる。 正世ができる。 正世ができる。 正世ができる。	視覚機能に ついて 聴覚機能に ついて 上肢の構造 について 下肢のて	ー連の動作 正しい行為 で 行 方 術。	知識にはないでは、 知識にないでは、 をおいてがを、 がいてがを、 がいてがを、 がいてがを、 がいてがを、 がいでは、 はいでは、 がいでは、 はいでは、 はいではいは、 はいでは、 はいではいは、 はいではいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはい	4 段階
2 4	d 155 技能の習 得	「技能」の内容を理 解すること				4 段 階
2 5	d1550 基本的 な技能の習得	その場の行為に関す る技能を分析できる ようになること				4 段 階
2 6	d 1550 基本的 な技能の習得	その場の行為に関する技能の分析に基づき支援行動ができるようになること				4 段 階
7	d 1551 複雑な 技能の習得	行う行為のに立って ので規則にようすができる。 そのために必要なきる。 そのたが準備できる。 そのなどが準備できる。 行為の内容ができる。 行為の方用ができる。 行為の活用ができる。 ためにある。 ためにさる。		一連の動作 正しいう で 行。	知識機能にはないでは、 神にはないでは、 神にはないでは、 神にはないでは、 神にはないでは、 神にはないでは、 神にはないでは、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 神には、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	5段階
2 8	d 1551 複雑な 技能の習得 acquiring complex skills	自分の動きを順序立 て強調し実践できる。 よう支援ができる。 正しいく行為が行え たか自己の振り返り ができるよう支援が できる。			正しい道具を使 い方について体 感させる 例えば 釘をトンカチで 打つなど	5段階
2 9	d1558-59 その他特定の詳 細不明の	その他の技能について考慮すべき内容分析を行い、その分析に基づいて援助行動ができる。				5段階
3	d 159 その他 特定の・詳細不 明の基礎的学習	その他の予期せぬ技能について考慮すべき内容分析ができる。				5段階
3	d 159 その他 特定の・詳細不 明の基礎的学習	その他の予期せぬ技 能について考慮すべ き内容分析に基づい				5 段階

		フゼロケモ がった	<u> </u>		1
		て援助行動ができ る。			
3 2	知識の応用 applying knowledge (d	知識の応用に関し て、その方法を修得 する(実際に行える)		事例演習的に学ぶ	5 段階
3 3	d 160-d179) d 160 注意を 集中すること focusing attention	注意を集中する事の 中身を分析できるよ うになること			5 段 階
3 4	d 160 注意を 集中すること	注意を集中する事の 中身を分析に基づき 支援行動ができるよ うになること			5 段 階
3 5	d163 思考 thinking	思考する事の中身を 分析できるようにな ること			5 段階
3 6	d163 思考	思考する事の中身の 分析に基づき支援行 動ができるようにな ること			5段階
3 7	d 166 読むこと reading	読む事の中身を分析 できるようになるこ と			5段階
ω ω	d 166 読むこ と	読む事の中身の分析 に基づき支援行動が できるようになるこ と			5段階
3 9	d 170 書くこと writing	書く事の中身を分析 できるようになるこ と			5 段階
4 0	d 170 書くこ と	書く事の中身の分析 に基づき支援行動が できるようになるこ と			5 段 階
4	d 172 計算 calculating	計算する事の中身を 分析できるようにな ること			6段階
4 2	d172 計算	計算する事の中身の 分析に基づき支援行 動ができるようにな ること			6段階
3	d 175 問題解 決 solving problems	問題解決プロセスの 中身の分析に基づき 支援行動ができるよ うになること			5段階
4	d 1750 単純な 問題解決	単純な問題解決プロセスの中身の分析に基づき支援行動ができるようになること			5 段階
4 5	d 1751 複雑な 問題解決	複雑な問題解決プロセスの中身の分析に基づき支援行動ができるようになること			6段階
4 6	d 1758-59 そ の他特定の・詳 細不明の	その他の問題解決に ついて考慮すべき内 容分析を行い、その			6 段階

		分析に基づいて援助		
		万州に奉 Jいて援助 行動ができる。		
4 7	d 177 意思決定 making decisions	意思決定する事の中 身を分析できるよう になること		5段階
4 8	d 177 意思決定	意思決定する事の中 身の分析に基づき支 援行動ができるよう になること		5 段 階
9	d 179 その他 特定の詳細不明 の知識の応用	その他の意思決定に ついて考慮すべき内 容分析ができる。		5段階
5	d 179 その他 特定の詳細不明 の知識の応用	その他の意思決定に ついて考慮すべき内 容分析に基づいて援 助行動ができる。		5段階
5	d 198 その他 特定の学習と知 識の応用	その他の学習と知識 の応用について考慮 すべき内容分析がで きる。		5段階
5 2	d 198 その他 特定の学習と知 識の応用	その他の学習と知識 の応用について考慮 すべき内容分析に基 づいて援助行動がで きる。		5 段階
5 3	d 199 詳細不明の学習と知識の応用	その他の予期せぬ学習と知識の応用について考慮すべき内容分析ができる。		5段階
5 4	d 199 詳細不明の学習と知識の応用	その他の予期せぬ学習と知識の応用について考慮すべき内容分析に基づいて援助行動ができる。		5段階

(試案) 2、一般的な課題と要求 ・・学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上の留	備
		コンピテンス (学習目標)	ナレッジ (知識)	スキル (技術)	意点	考段階
1	入門 一般的な課 題と要求①	課題解決についてのプロセスが理解できる。	課題の発見・明確化、などのアセスメント段階から遂行の目標設定、遂行内容、遂行結果評価		課題解決に関す る研究データを 提示しながら相 互関係について 説明する。	第4段階
2	基礎学習 d210 単 一課題の遂 行 d220 複 数課題の遂 行 d230 日 課の遂行	遂行と達成の違いについて理解し、それらを行うために必要な行動分析や環境について考えることができる。 日課が人間にとWellbeingにつながることが理解できる。	遂行と達成の違いについて 行動分析のプロセスと 必要な環境について 日課の定義と種類について		遂行と達成の違いを説明する。 項目を提示し、 その項目についての行動を分析させる。 マズローの欲求 5段階説につい	第4段階

			T	T	I == v== + = =	
		日課は人によって多種 多様であることを理解 できる。	Wellbeing 定義 とハピネスとの 違いについて		て説明をし、日 課との関係崔を 説明する。	
		日課を遂行することが、マズローの欲求階層説の生理的欲求に関係していることを理解する。マズローの欲求段階説の	マズローの欲求と日課を遂行することの関係性		その結果 Wellbeing につ ながることのイ メージを説明す る。	
3	基礎学習 d 240 ス トレスとそ の他の心理 的要求への 対処	基礎的学習について考慮すべき内容分析を行い、それに基づいて援助行動ができる。				第4段階
4	d210 単 一課題の遂 行	単一課題の遂行について具体的事例をあげ、 考慮すべき内容分析を 行い、それに基づいて 援助行動ができる。				第4段階
50	d2100 単純な単一 課題の遂行 undertaki ng a simple task	で、報のる。情にが 空がをるが 何認とが 継いさるきい で 間で整よで がしができ して	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該 譲 語 で き る。	知身障純遂とせ例*験等そしす障い示ワしきす援にる継遂方る	第4段階
6	d2101 複雑な単一 課題の遂行 undertaki ng a complex tas	行うべき課題が理解できているかを把握し、理解できるように情報の提供や助言ができる。	視覚機能について 聴覚機能について	該当する 課題を 遂行でき る。	知識で学んだ心 身機能について 障害によって複 雑な単一課題の 遂行ができない という体感をさ せる。	第4段階

		kt+nm#+*~+>	I n+ ~ ++ \+ \	T		
		情報、で 空がを表示で 間で整よで がしかできる います できます できます できます できます できます からる いっちょう がいかで できます がいかできる からる からる からる からる からる からる からる からる からる から	上肢の構造について下肢の構造について		例配 * 験等そしす障い示ワしきす援にる継遂方ろ自置高キをのたる害てすー、なる方ま。続行法宅す齢ッ活手も。の一るク障い問法と しでをのる者ド用順の 種覧。を害こ題をめ てき考家。疑・をを 類表 準別と点ワさ 課るえ具 似V 表提 にを 備にに・ーせ 題支さを 体R 記示 つ提 で対支ク の援せ	
7	d2102 単独での単 一課題の遂 行 undertaki ng a single task independe ntly	で、報本を表示では、 で、報本を表示で、 で、報本を表示で、 で、報本を表示で、 で、いいで供して、 で、は、で、 で、と、は、で、 で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該題 で さ る。	る知身障独課なを例*験等そしす障い示ワしきす援にる継課るえ。	第4段階
8	d2103 グループで の単一課題 の遂行 undertaki ng a single task in a group	行うべき課題が理解できているかを把握し、理解できるように情報の提供や助言ができる。 情報収集ができるように、情報の提供や助言ができるように、情報の提供や助言ができる。	視覚機能につい て 聴覚機能につい て 上肢の構造につ いて	該当する 課題を 遂行でき る。	知識で学んだ心身機能について障害によってグループでの単純な単一課題の遂行ができないという体感をさせる。	第4段階

	T	I	I — a 1 — 144 141 1	1	L =	
		課題を遂分して、うさいのでは、	下肢の構造について		例す*験等そしす障い示ワしきす援にる継づ課るえ:る高キをのたる害てすー、なる方ま。続の題支さ器。・ をを 類表 準別と点りさ グと行法を 疑・ をを 類表 準別と点りさ グと行法。演 似V 表提 にを 備にに・ーせ ルしでを演 似R 記示 つ提 で対支ク ーてき考	
9	d2108 -09 その他特定 の・詳細 不明の	その他の意思決定について考慮すべき内容分析を行い、それに基づいて援助行動ができる。				第4段階
1	d220 複 数課題の遂 行	「複数課題」の状況に ついて具体的な事例を 挙げることができる				第4段階
1	d2200 複数課題の 遂行 carrying out multiple tasks	行あいで供情にが 課間位で助 題し同支 続るったっとをとを大言 集報る るや 空のる動 収情さ を配をき言 に、時援 しようあるきや 報、で 題間位で助 題し同支 が解し情き き供 る題め情る 物順でる がが解し情き を配をき言 に、時援 しようをまるが 必課にが てう ひまにが でました で 要題着で 課支 とりまる。 ぶで 要題着で 課して でで で提 を表える がが がままる がが がままる がが がままる かんしょう がんしょう がんしょう という はいました はいました はいました はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	視覚機能につい で 聴覚機能につい て 上肢の構造につ 下肢の構造につ いて	該複を含さ	知身障数で体例る*験等そしす障役め障い示ワしきす援にる識機害課き感:。高キをのたる害割さ害ですー、なる方ま。学によのいさ当 者ド用順の に手る種覧。を害こ題をめんつっ遂とせを 疑・ をを 応順。類表 準別と点りさだいて行いる作 似V 表提 じを にを 備にに・ーせ心て複がう。 体R 記示 た決 つ提 で対支ク	第4段階

	T		T	T	/W /± 1 → === C	
					継続して課題の 遂行できる支援 方法を考えさせ る。	
1 2	d2201 複数課題の 達成 completin g multiple tasks	行あいで供情にが そでとで 課時順がや 課備はう 着てかる というるるきや ていますできる を配をき言 に、時援 し目のううるるきや で提 つをよ す課決うき なを手き 題違こががった で提 い立う る題め情る 物順でる に減とで で提 い立う る題め情る 物順でる に減とで 変します にがき きょうき なを手き となって でまれる からして をまる からして であいます ででであれば や先と供 準によ きまる いきでる でて解提 う言 成こが や先と供 準によ たき。	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該複を含 当 ま ま で さ る ほ で も に も に に に に に に に に に に に に に	知身障数き感例ル*験等 そしす 障役順る 障い示 ワしきす援にる 達てる 親機害課なを:を高キを のたる 害割を。 害てす ー、なる方ま。 成の。 で能に題いさフす齢ッ活 手も。 別・決 のーる ク障い問法と 目評学によがとせッる者ド用 順の に目め 種覧。 を害こ題をめ 標価だいて現う。ボ 似V 表提 じやせ にを 備にに・ーせ 対さにをでいて現する。 はいて しかっ しゅう でがきり でがきり でがきり でがきり でがきり でがきり でがきり でがきり	第4段階
3	d2202 単独での複 数課題の遂 行 undertaki ng multiple tasks independe ntly	行あいて ででで でで でで でで でで でで でで でで でで	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該 課 行 る。	知識機に 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神	第5段階

		は同時に着手できるよ う支援ができる。			障害の種類につ いて一覧表を提	
		継続して課題が独力で 遂行できるよう支援が できる。			示する。 ワしきす援にる。 準備にに・ーせ で対支ク で対支ク で対支ク がき考 がき考	
1 4	d2203 グループで の複数課題 の遂行 undertaki ng multiple tasks in a group	行プ理握にで 情にが 課時順がや 課備は協う グ課きる うで解し情き 報、で 題間位で助 題し同力支 ル題る うで解し情き 報、で 題間位で助 題し同力支 ル題る がでるきや き供 る題のる報。 品次プき。 と遂が があかる助 るや 空のる報。 品次プき。 し行で がとままする。 と遂が が関してる。 員で援 が関してる。 員で変が が関してる。 し行で では、 は、 は	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該 課 行 る 。	、知身障ルし遂いる例ル*験等そしす障い示ワしきす援にる継プ課るえに、 で能にプ複で体 フす齢ッ活手も。の一るク障い問法と しーが援せる学によの数き感 ッる者ド用順の 種覧。を害こ題をめ て員遂方る。んつっ一課なを ト。疑・ をを 類表 準別と点ワさ グと行法。だいて員題いさ ボ 似V 表提 にを 備にに・ーせ ルしでを心てグとのとせ ー 体R 記示 つ提 で対支ク 一てき考	第5段階
1 5	d2208 -09 その他特定 の・詳細 不明の	複数課題の遂行について具体的事例をあげ、 考慮すべき内容分析を 行い、それに基づいて 援助行動ができる。				第5段階
1 6	d230 日 課の遂行	「日課の遂行」に関して、その状況について 具体的な事例を挙げることができる				第4段階:
7	d2301 日課の管理 managing	自分が行うべき日課を 整理することができる	視覚機能について	該当する日課を遂	知識で学んだ心 身機能について 障害によって日	第 4 4

	daily	よう、情報提供や助言	聴覚機能につい	行し管理	課の遂行できな	段
	routine	ができる。	一 で 見る	できる。	いという体感を	階
			1 04 - 1++>+-		させる。	
		 遂行する日課について	上肢の構造について		例:朝のルーティン。	
		優先順位を決めること	010		1フ。 *高齢者疑似体	
		ができるよう情報提供	下肢の構造につ		験キッド・VR	
		や助言ができる。	いて		等を活用	
					自分の朝のルーティンをワーク	
		空間や時間の配分つい			に記載させる。	
		て整理し、日課の計画			障害の種類につ	
		を決めることができるよう情報提供や助言が			いて一覧表を提 示する。	
		よう情報症はも助言が できる。			かする。 ワークを準備	
		その行為に必要な物品			し、障害別にで	
		が準備でき日課に着手			きないことに対	
		できるよう支援ができ る。			する問題点・支援方法をワーク	
		日課が遂行できたか確			にまとめさせ	
		認することができるよ			る。	
		う支援ができる。			日課の遂行の確認方法について	
					の支援方法を考	
					えさせる。	
1 8	d2302日 課の達成	自分で遂行する日課が 理解できるよう情報提	視覚機能につい	該当する日課を遂	知識で学んだ心 身機能について	第 4
0	味の進成 completin	垤解 (さるよう情報症 供や助言ができる。	て	日味を逐 行し管理	身機能にづいて 障害によって日	4 段
	g the daily		聴覚機能につい	できる。	課の遂行できな	階
	routine	遂行する日課について	て		いという体感を	
		優先順位が理解できる よう情報提供や助言が	 上肢の構造につ		させる。 例:朝のルーテ	
		できる。	いて		ィン。	
		口部を決けせてための	トレット トレック トレック トレック トレック トレット といっし トレット しゅうしん しゅうしん しゅうしん しゅう		*高齢者疑似体	
		日課を達成するための 目標を立てることがで	ト胶の悔逗にフ いて		験キッド・VR	
		きるよう情報供や助言			自分の朝のルー	
		ができる。			ティンをワーク	
		 空間や時間の配分つい			に記載させる。	
		て整理し、日課の計画			障害の種類につ	
		を決めることができる			いて一覧表を提	
		よう情報提供や助言が できる。			示する。 障害別に応じた	
		(6.9)			役割・目標や手	
		その行為に必要な物品			順を決めさせ	
		が準備でき遂行することができるよう支援が			る。	
		できる。			ワークを準備	
		M (= 1 1 = = = = :			し、障害別にで	
		遂行した日課につい て、目標が達成できた			きないことに対 する問題点・支	
		か振り返ることができ			援方法をワーク	
		るよう支援ができる。			にまとめさせ	
					る。	
					達成目標に対し	
					ての評価をさせ	
					る。	

1 9	d2303 自分の活動 レベルの管理 managing one's own activity level	自行情る そて理供 遂き計供 そなでる 計きかる いを提供 ぶき言	視覚機能について 聴覚機能について 上肢の構造について 下肢の構造について	該日行で 当該 は は は は は は は は は は は は は	知身障課いさ例マ*験等 遂のの一る 障い示 ワしきす援にる 計のが振る で能に遂いる見見齢ッ活 す続先に の一る ク障い問法と 通続行返 がによ行う。たる者ド用 るき順計 種覧。 を害こ題をめ りきでりだいてき感 ド 似V 日義をさ にを 備にに・一せ 日義たさだいても	第4段階
2 0	d2308 -09 その他特定 の・詳細不 明の	日課の遂行について考慮すべき内容分析を行い、それに基づいて援助行動ができる。				第4段階
2	d240 ストレスへ の対処とそ の他	責任重大で, ストレス, 動揺、危機を行った機を行った機を行った。 ストレス の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	責任、の問題である。 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人にに対して、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大人には、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 大くには、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	責しの分記技術といる。	責任機ができる。 大の生え、 大の生え、 大ので生え、 大ので生え、 大ので生え、 大ので生え、 大のでも、 大のの説ぞれの以のがでいい。 大のでものではでいる。 大のでものではでいる。 大のでものではでいる。 はののはででいる。 ののはでいる。 ののはでいる。	第5段階

	10400 =	仁新にけまけがかって	佐川レギヤーへ	‡∏ √h Λ √÷	まけぇ のstho も	<u>₩</u>
2	d2400 責 任への対処	行動には責任が伴うことを伝えることができ	権利と義務について規定されて	契約の締結と解約	責任への対処が 必要となる状	第 5
		る。	いる法律の知識	に関する	況・場面を列挙	段
		責任が範囲を知るため		具体的な		階
		に支援することができる。	契約に関する知識	技術(解約 手続き、ク		
		る。 責任の範囲について考	09%	ーリング	して、ファックでは、	
		えるための教示を与え	自分自身の言動	オフ等の		
		る等の支援をすること	を管理・統制す	方法)	自己の責任と他	
		ができる。	るための知識	白公白白	者の責任を明確にするために、	
		 責任の範囲を明確にす	コミュニケーシ			
		るために助言すること	ョンに関する知		範囲について考	
		ができる。	識	するため	えさせる。	
		責任の配意について一	 アサーショント	の技術	②責任の根拠を 明確にする資料	
		緒に考えることができ る。	アリーションド レーニング(自	コミュニ		
		0。 責任の根拠について助	己主張訓練)、ア		説明する。	
		言することができる。	サーティブな態	ンに関す		
		* にのごたにたべくた	度、アサーショ	る技術	責任に対する心理的な不知を表	
		責任の所在に気づくた めに支援することがで	ン権(アサーション権宣言)に	アサーシ	理的な不安を軽減させる方法に	
		うに文族することができる。	ヨノ惟旦吕ノに 関する知識	ョントレ		
			12 J W 10 194	ーニング	る。	
		責任を自覚するための		(自己主		
		示唆を与えることがで	ンに関する知識	張訓練)の		
		きる。	と技術	手順 ・ 方 法、アサー		
		本人が責任を自覚して		ティブな		
		いる度合いを把握する		態度を獲		
		ことができる。		得する技		
		本人の言動が社会や他者に及ぼす影響をとも		術		
		に考えることができ		ネゴシエ		
		る。		ーション		
		ナーの言動が社会が出		の技術		
		本人の言動が社会や他者に及ぼす影響につい				
		て客観的な意見を述べ				
		ることができる。				
		# <i>IT+</i> = + + + + 0 =				
		責任を果たすための具 体的な方法・手段・行動				
		をともに考えることが				
		できる。				
		# <i>IT+</i> = + + + + 0 =				
		黄任を果たすための具体的な方法・手段・行動				
		を考えるために支援す				
		ることができる。				
		中吸になるナフトラ				
		実際に行動できるよう に支援することができ				
		る。				
		責任の所在について助				
		言することができる。				
		責任の軽重について助				
		言することができる。				

		I	<u> </u>	1
本人が責任を果たすために障害となっている事柄を把握するとともに、本人がそれに気づくように支援することができる。				
本人が責任を果たすための障害となっている事柄を、取り除くための行動を支援することができる。				
本人の責任でない事柄 に対する本人の主張を 支持することができ る。				
責任の所在を客観的に 判断して支援すること ができる。				
本人のストレス状態 (ストレス反応)を把	スとす スメに スン 「シス性ン「リ性力る カの知 スク方識 血スンコと知り けん アイ	をる技 スビの カリ技 スチのた術 アョー管た術 ージ技 ウン術 トェ実め サンニ理め パョ術 ング レッ施の ートンすの ーン セの スクの技 シレグ	てじさ ス処状挙よなた スとつ心理スるせ トが況さっイせ ト生い身解しか。 ス要場る、一。 ス作説のせんを 人と面こ具ジ の用明影るのなをと体を 機がし響 のなをと体を	第5段階

		本人が自己主張するこ		導する技		
		とを支援することがで	アサーショント	術		
		きる。	レーニング(自己主張訓練)、ア	社会資源		
		ストレスやプレッシャ	サーティブな態	を利用し、		
		ーとなる事象について の多角的・多面的な見	度、アサーショ ン権(アサーシ	ソーシャルサポー		
		方について助言するこ	ョン権宣言)に	トネット		
		とができる。	関する知識	ワークを 構築する		
		ストレスやプレッシャ	リフレーミング	技術		
		ーとなる事象の見方を 変えるための具体的な	の知識			
		方法を教示することが	漸進的弛緩法に			
		できる。 	関する知識			
		本人の状態(平静さ、動	ストレスを軽減			
		揺等)を把握し、それを 正しく伝えることがで	させる食品や薬 物に関する知識			
		きる。				
		他者の言動による本人	社会資源とソー シャルサポート			
		の心情を察して、適切	ネットワークに			
		に助言することができる。	関する知識			
			労働安全衛生法			
		本人のストレスコーピ ング(ストレス対処能	及び関連法規に 関する知識			
		カ、コーピングスキル)				
		を把握することができ る。				
		∂ ∘				
		ストレスを低減させる さまざまな方法を、状				
		況に応じて提示するこ				
		とができる。				
		専門機関等に関する情				
		報を提供するとともに、それを利用するた				
		めの支援を行うことが				
		できる。				
		本人からの相談を受け				
		止め、支持的に関わる				
		ことができる。				
		解決方法を一緒に考える。				
		え、最善の方法を提案 することができる。				
		解決に向けての本人の 意思を確認し、意向を				
		踏まえた支援を行うこ				
		とができる。 				
2	d2402危	当事者が危機的な状況	自分の心身や周	自分の心		第
4	機への対処	に陥っていることを把 握することができる。	囲への危機に関 する理論の知識	身や周囲への危機	必要となる状況・場面を列挙	5
	l					1

lagrage	11:10 ~			への対応	させることによ	FΛ
hand crisis		危機的な状況に陥っていることを説明し、そのような状況にあるということを伝えることができる。	カウンセリング の方法に関する 知識 グリーフケアに 関する知識	へ を 支 が ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ が が も で り が が も の り が り が り が り が り が り が り が り が り が り	さて、具体的なイメージを持たせる。 心身が危機の状況にあることに	段階
		当事者の危機的な状況 を客観的に判断・評価 することができる。	相談機関に関する知識	グリーフ グリーフ ケアの技 術	よって生じる、	
		本人が危機的な状況の 程度を客観的に判断で きるような情報を提供 することができる。	リフレーミング の知識	相談機関 へつなぐ 技術	かいて説明する。	
		現在の状況を踏まえ、 危機に陥る要因につい て情報提供することが できる。		リフレー ミングの 技術		
		現在の状況を本人とと もに考えることができ る。				
		危機を防ぐための方法 を本人と一緒に考える ことができる。				
		起こり得る危機を想定することができる。				
		起こり得る危機とその ための備え、および危 機を防ぐための方法に ついて示唆を与えるこ とができる。				
		危機を回避する行動を 支援することができ る。				
		危機を乗り越えるため の方法を一緒に考える ことができる。				
		危機を乗り越えるため の方法を提示し、助言 することができる。				
		他者に助けを求めるこ とができることを伝え ることができる。				
		危機を乗り越えるため の社会資源について説 明することができる。				

25	d2408 -09 その他特定 の・詳細不 明の	社よき 危活え 考めで自よン常ル定な戦続へる たが はア日ー限ば困り況するで を考 たが はア日ー限ば困り況するで を考 たが はア日ー限ば困り況する したが はアロー限ば困り況する したが はアロー限ば困り況する かいり はアロー限ば困り況する またが はアロー限は困り況する かいり はアロー限は困り況する かいり はアロー限は困り いまたが はアロー限 は いまたが はアロー限 は いまたが は またが は またが は いまたが は またが は ま	バーンアウトに 関する知識 学習性無力感に 関する知識 心的外傷に関する知識	カリ技 相へ技 リミ技つン術 談つ術 フン術との 関ぐ 一の	るのに スてい に と い な に い に に い に に に に に に に に に に に に に	第5段階
2 6	d298 その他特定 の	その他の一般的な課題 と要求について考慮す べき内容分析ができ る。				第5段階
7	d298 その他特定 の	その他の一般的な課題 と要求について考慮す べき内容分析に基づい て援助行動ができる。				第5段階
2 8	d299 その他詳細 不明の	その他の予期せぬ学習 と一般的な課題と要求 について考慮すべき内 容分析ができる。				第5段階
9	d299 その他詳細 不明の	その他の予期せぬ一般 的な課題と要求につい て考慮すべき内容分析 に基づいて援助行動が できる。				第5段階

(試案) 3、コミュニケーション・・学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上	備
		コンピテンス (学習目標)	ナレッジ (知識)	スキル (技術)	の留意点	考段階
1	d3 コミュニケーションの理解・1	コミュニケーション概念と意義 について理解で きる	コミュニケーションの意義 (身体的、精神的、社会的な健康の基礎)についての知識		テーマの教 材用映像	第3段階

2	d3 コミュニケーシ	パーソナルコミ	コミュニケー			华
2	ョンの理解・2	ュニケーション の構造について 理解できる	ションの構 造・1;パー ソナルコミュ ニケーション の構造につい ての知識			第 3 段 階
3	d3 コミュニケーションの理解・3	言語メッセージ と非言語的メッ セージについて 理解できる	コミュニケー ションの構 造・2;言語 メッセージと 非言語的メッ セージ につい ての知識		テーマの教材用映像	第3段階
4	d310 話し言葉の理 解・1	日本語による基本的な会話での字句通りのメッセージが理解できる	日本語による 基本的な会話 (日常会話) での字句通り のメッセージ についての知 識		テーマの教 材用映像	第3段階
5	d310 話し言葉の理 解・2	日本語による基本的な会話での 言外のメッセージを理解できる	日本語による 基本的な会話 (日常会話) の言外のメッ セージについ ての知識		テーマの教材用映像	第3段階
6	d315話すこと (表出)・1	日本語による基本的な会話での字句通りのメッセージが表出できる		日本語による 基本的な会話 (日本的な会話) での字句通り のメッセーシ を表出する技 術	ロールプレ イング	第3段階
7	d315話すこと (表 出)・2	日本語による基本的な会話での 言外のメッセージを表出できる		日本語による基本的な会話(日常会話)の言外のメッセージを表する技術	ロールプレ イング	第3段階
8	d315 非言語的メッ セージの理解・1	準言語 (発声の 高さ、大きさ、 アクセント、速 さ、間など) の 意味を理解でき る	準言語(発声 の高さ、大き さ、アクセン ト、速さ、間 など)の意味 についての知 識		テーマの教 材用映像	第3段階
9	d315 非言語的メッセージの表出・1	準言語(発声の 高さ、大きさ、 アクセント、速 さ、間など)を 使うことができ る		準言語 (発声 の高さ、大セン ト、速さ、間 など)を使う 技術	ロールプレ イング	第 3 段階
10	d3150 非言語的メ ッセージの理解・2	非言語メッセー ジ(ジェスチャー、表情、 ・ 、表情、服 草、姿勢、 服 装、 、 の意味を理	非言語メッセ ージ(ジェス チャー、表 情、仕草、姿 勢、服装、装 身具など)の		テーマの教 材用映像	第3段階

		解できる	意味について			
	10050 45====+5 /	JL ==== , , ,	の知識	JL=== / -		h-h-
11	d3350 非言語的メ ッセージの表出・2	非言語メッセーヤ ジ(表) 要り ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 と) ができる		非言語 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ロールプレ イング	第3段階
12	d3151 d3152 非 言語的メッセージの 理解・3	一般的な記号、 シンボル、絵や 写真の意味につ いて理解できる	一般的な記号、シンボル、絵や写真の意味についての知識			第5段階
13	d3351 d3352 非 言語的メッセージの 表出・3	一般的な記号、 シンボル、絵や 写真を使うこと ができる		一般的な記 号、シンボ ル、絵や写真 を使う技術	ロールプレ イング	第5段階
14	d3158 非言語的メッセージの理解・4	その人固有の或いは詳細不明の 非言語的メッセ ージを理解する ことができる	その人固有の 或いは詳細不 明の非言語的 メッセージの 知識			第 3 段 階
15	d3358 非言語的メ ッセージの表出・4	その人固有の或 いは詳細不明の 非言語的メッセ ージを意図的に 使うことができ る		その人固有の 或いは詳細の不明の非言語的 メッセージを 意図的に使う 技術	ロールプレ イング	第3段階
16	d320 公式手話によるメッセージの理解・1	字句通りの意味 を理解すること ができる	字句通りの意味を理解するための知識		テーマの教材用映像	第3段階
17	d320公式手話に よるメッセージの理 解・2	言外の意味を持つ公式手話のメッセージを理解することができる	言外の意味を 持つ公式手話 のメッセージ を理解するた めの知識			第3段階
18	d340 公式手話によるメッセージの表 出・1	公式手話によっ て字句通りの意 味を伝えること ができる		公式手話によって字句通り の意味を伝え る技術	実習	第3段階
19	d340 公式手話によるメッセージの表出・2	公式手話によっ て言外の意味を 伝えることがで きる		公式手話によって言外の意味を伝える技術	実習	第3段階
20	d325 書き言葉によるメッセージの理解・1	書き言葉(点字を含む)によって伝えられるマージを理解することができる	書き言葉(点字を含む)にえる字で伝える。マラッセスのメッタでである。そのでは、こののができません。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、		テーマの教 材用映像	第 3 段階
21	d325 書き言葉によるメッセージの理解・2	書き言葉(点字を含む)によって伝えられる字句通りのメッセージを理解することができる	書き言葉(点字を含む)によって伝えられる字句通りのメッセージを理解するた		テーマの教 材用映像	第 4 段 階

	T	/+=+# <i>+</i>	1.4 G F==+n	1	1	
		(複雑な内容や 長文にも対応で きる)	めの知識			
22	d325 書き言葉によるメッセージの理解・3	書き言葉(点字を含む)によるいでは、ことができます。 にんる メック できる マージを 理解する ことができる	書き言葉(点字を含む)によって伝えられる言外の意味のメッセージを理解するための知識			第3段階
23	d325 書き言葉によるメッセージの理解・4	書き言葉では、によるというでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これの	書き言葉(点字を含む)に 字を含むたえられる言外の記 味のメッセージを理解する ための知識			第4段階
24	d325 書き言葉によ るメッセージの理 解・5	定型的な記録な どの文書を理解 することができ る	定型的な記録 などの文書を 理解するため の技術			銀路の課
25	d325 書き言葉によるメッセージの理解・6	定型的な記録な どの文書を理解 することができ る(複雑な内容 や長文にも対応 できる)	定型的な記録 などの文書を 理解するため の技術			第4段階
26	d345 書き言葉によるメッセージの表 出・1	書き言葉(点字) を含む) によって伝えられる しんしゅう を表現する ことができる		書き言葉(点字を含むたったったったったったったったりのメッセージを表現する技術	実習	第3段階
27	d345 書き言葉によるメッセージの表出・2	書き含ないの表でないでは、によるッするでは、いるの表でないがないでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、い		書き言葉(点にきさいたり、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは	実習	第4段階
28	d345 書き言葉によるメッセージの表 出・3	書き言葉(点字を含む)によって伝えられるメリカの意味のメリカでも表現さることができることができることができる。		書き言葉(点にききを含しているでは、にらいるでは、このができます。これのができません。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	実習	第3段階
29	d345 書き言葉によるメッセージの表出・4	書き言いにない。 (点よる) にんる (点の (点の (記を) でんの (記を) がいまる (を) できる (複雑な内容 (を) にんしゃく (複雑な内容 (を) にんしゃく (を) にんしゃ		書き言葉(点字を含む)によって伝えの言外のさいまで表現する 味のメッセージを表現する 技術	実習	第 4 段 階

	<u> </u>	ミサルナサウァ			1	
		長文にも対応できる)				
30	d345 書き言葉によるメッセージの表出・5	定型的な記録な どの文書を作成 することができ る		定型的な記録 などの文書を 作成するため の技術	実習	第3段階
31	d345 書き言葉によるメッセージの表 出・6	定型的な記録などの文書を作成することができる を表するできるできるできるできる)		定型的な記録 などの文書を 作成するため の技術	実習	第4段階
32	d350 d3500 会話 の開始	自己紹介、慣習 的な挨拶、話題 の導入、質問な どを用いて会話 の開始ができる	自己紹介、慣習的な挨拶、 話題の導入、 質問などの知 識	自己紹介、慣習的な挨拶、 話題の導入、 質問など技術	ロールプレ イング	第3段階
33	d3501 会話の持 続・1	繰り返し(リピート)や質問 (リード)を用いて会話の持続ができる	繰り返し(リ ピート)や質 問(リード) の知識	繰り返し(リピート) や質問(リード) の技術	ロールプレ イング	第3段階
34	d3501 会話の持 続・2	明確化(クラリ フィケーショ ン) や支持(サ ポート) を用い て会話の持続が できる	明確化(クラ リフィケーション)や支持 (サポート) の知識	明確化(クラ リフィケーション)や支持 (サポート) の技術	ロールプレ イング	第3段階
35	d3501 会話の持 続・3	自由な展開での会話の持続ができる	自由な展開で の会話の持続 についての一 般的な知識	自由な展開で の会話の持続 についての一 般的な技術	ロールプレ イング	第3段階
36	d3502	慣習的な終結の 言葉や表現など を用いて会話を 終わらせること ができる	慣習的な終結 の言葉や表現 など会話を終 わらせる表現 の知識	慣習的な終結 の言葉や表現 など会話を終わらせる表現 を使う技術	ロールプレ イング	第3段階
37	d3503 一対一での 会話	一人の相手と対 話を開始、持 続、形成し終結 することができ る	一人の相手と 対話を開始、 持続、形成し 終結する流れ についての知 識	一人の相手と 対話を開始、 持続、形成し 終結する技術	ロールプレ イング	第3段階
38	d3504 多人数での 会話	二人以上の人と 対話や意見交換 を開始、持続、 形成し終結する ことができる	二人以上の人 と対話や意見 交換を開始、 持続、形成し 終結する流れ についての知 識	二人以上の人 と対話や意見 交換を開始、 持続、形成し 終結する技術	ロールプレ イング	第3段階
39	d3508 d3509 そ の他の特定の或いは 詳細不明の会話	相手が特定され ない詳細不明の 会話に対処する ことができる	相手が特定されない詳細不明の会話についての知識	相手が特定されない詳細不明の会話と関わる技術	ロールプレ イング	第3段階
40	d355 d3550 一対 ーでのディスカッシ ョン・1	議論や討論を開始、持続することができる	議論や討論が 開始、持続す る流れについ ての理解	議論や討論を 開始、持続す る技術	ロールプレ イング	第3段階

	T	T = \(\frac{1}{2} = \frac{1}{	1	I =\/= \(\cdot \) = \(\cdot = \cdot \)		
41	d3550 一対一での ディスカッション・ 2	議論や討論を開始、持続、形成 し終結することができる	議論や討論が 開始、持続、 形成し終結す る流れについ ての理解	議論や討論を 開始、持続、 形成し終結す る技術	ロールプレ イング	第3段階
42	d3551 多人数での ディスカッション・ 1	議論や討論を開始、持続することができる	議論や討論が 開始、持続す る流れについ ての理解	議論や討論を 開始、持続す る技術	ロールプレ イング	第5段階
43	d3551 多人数での ディスカッション・ 2	議論や討論を開始、持続、形成し終結することができる	議論や討論が 開始、持続、 形成し終結す る流れについ ての理解	議論や討論を 開始、持続、 形成し終結す る技術	ロールプレ イング	第5段階
44	d360 d3600 遠隔 通信用具•1	電話をかけるこ とと受け取るこ とができる	電話をかける ことと受け取 ることについ ての理解	電話をかける ことと受け取 る技術	ロールプレ イング	第3段階
45	d360 d3600 遠隔 通信用具・1	電話をかけるこ とと受け取るこ とができる(よ り複雑で込み入 ったやり取りが できる)	電話をかける ことと受け取 ることについ ての理解	電話をかけることと受け取る技術	ロールプレ イング	第 4 段階
46	d3600 遠隔通信用 具・2	電話でやり取り について理解す ることができる	電話でやり取りについての 理解	電話でやり取りについての 技術	ロールプレ イング	第3段階
47	d3600 遠隔通信用 具・3	電話でやり取り について理解す ることができる (より複雑で込 み入ったやり取 りができる)	電話でやり取りについての 理解	電話でやり取りについての技術	ロールプレ イング	第 4 段階
48	d3600 遠隔通信用 具・4	電話での会話の 開始と終了がで きる	電話での会話 の開始と終了 についての理 解	電話での会話の開始と終了の技術	ロールプレ イング	第3段階
49	d3600 遠隔通信用 具•5	電話での会話の 開始と終了がで きる(より複雑 で込み入ったや り取りができ る)	電話での会話 の開始と終了 についての理 解	電話での会話 の開始と終了 の技術	ロールプレ イング	第 4 段階
50	d3600 遠隔通信用 具•6	ファックスの使 用することがで きる	ファックスの 使用方法につ いての理解	ファックスを 使用する技術	実習	第3段階
51	d3600 遠隔通信用 具・7	ファックスの使 用することがで きる(より複雑 で込み入ったや り取りができ る)	ファックスの 使用方法につ いての理解	ファックスを 使用する技術	実習	第 4 段階
52	d3600 遠隔通信用 具・8	携帯電話、トラ ンシーバーなど を使用すること ができる	携帯電話、ト ランシーバー などの使用方 法についての	携帯電話、ト ランシーバー などを使用す る技術	実習	第 3 段階

			理解			
53	d3600 遠隔通信用 具・9	携帯電話、トランシーバーなどを使用する(よりできる) 複雑で込みかで たやり取りができる)	携帯電話、ト ランシーバー などの使用方 法についての 理解	携帯電話、ト ランシーバー などを使用す る技術	実習	第 4 段階
54	d3600 遠隔通信用 具・10	スマートフォン の基本的な使用 ができる	スマートフォ ンの基本的な 使用方法につ いての理解	スマートフォンの基本的な使用の技術	実習	第 3 段階
55	d3600 遠隔通信用 具・11	スマートフォン の基本的な使用 ができる(より 複雑で込み入っ たやり取りがで きる)	スマートフォ ンの基本的な 使用方法につ いての理解	スマートフォンの基本的な使用の技術	実習	第4段階
56	d3600 遠隔通信用 具・12	スマートフォン による応用的な 使用ができる	スマートフォ ンによる応用 的な使用方法 についての理 解	スマートフォンによる応用的な使用の技術	実習	第3段階
57	d3600 遠隔通信用 具・13	スマートフォン による応用的な 使用ができる (より複雑で込 み入ったやり取 りができる)	スマートフォ ンによる応用 的な使用方法 についての理 解	スマートフォ ンによる応用 的な使用の技 術	実習	第 4 段階
58	d3601 書字用具の 利用・1	基本的な書字用 具(鉛筆、ボー ルペン、毛筆、 万年筆など)の 使用ができる	基本的な書字用具(鉛筆、ボールペン、万年等、の使用では、の使用では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	基本的な書字 用具(鉛筆、 ボールペン、 毛筆、万年筆 など)の使用 の技術	実習	第分段階
59	d3601 書字用具の 利用・2	基本の部では、おいては、おいては、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	基本的な書字用具(鉛筆、ボールペン、石筆、万年の使用の方法・使用のでは、のでは、ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	基本的な書字 用具(鉛筆、 ボールペン、 毛筆、万年年 など)の使用 の技術	実習	第4段階
60	d3601 コンピュー 夕の活用・1	基本的な使用ができる	基本的な使用 方法について の理解	基本的な使用の技術	実習	第3段階
61	d3601 コンピュー タの活用・2	基本的な使用が できる(より複 雑で込み入った やり取りができ る)	基本的な使用 方法について の理解	基本的な使用の技術	実習	第4段階
62	d3601 コンピュー 夕の活用・3	情報検索などの 応用的な使用が できる	情報検索など の応用的な使 用方法につい ての理解	情報検索など の応用的な使 用の技術	実習	第3段階

63	d3601 コンピュー 夕の活用・4	情報検索などの 応用的な使用が できる(より複 雑で込み入った やり取りができ る)	情報検索など の応用的な使 用方法につい ての理解	情報検索など の応用的な使 用の技術	実習	第 4 段階
64	d3602 コミュニケ ーション技法の利 用・1	読唇術などを用いることができる	読唇術などの 理解		講義を中心 としての適 をで知識 などで知識 の共有化を 図る	第3段階
65	d3602 コミュニケーション技法の利用	読唇術などを用いることができる(より複雑で込み入ったやり取りができる)	読唇術などの 理解		講義を中心 としての適 官意見交換 などで知識 の共有化を 図る	第 4 段階
66	d3608 d3609 特定の或いは詳細不明のコミュニケーション用具及び技法の利用	特定不能、詳細 不明の非定型の コミュニケーション用具を理解 することができ る	特定不能、詳細不明の非定型のコミュニケーション用具及び技法についての理解		講義を中心 としつの適 宜意見交換 などで知識 の共有化を 図る	第3段階
67	d398 d399 特定 の或いは詳細不明の コミュニケーション	特定不能、詳細 不明の非定型の コミュニケーションについて理 解することがで きる	特定不能、詳 細不明の非定 型のコミュニ ケーションに ついての理解		講義を中心 としつの適 宜意見交換 などで知識 の共有化を 図る	第 3 段 階

(試案) 4、運動·移動 · <u>·</u> 学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上の	備考
					留意点	
		コンピテンス	ナレッジ	スキル		
		(学習目標)	(知識)	(技術)		
1	d 4 運動と移動①	・ 和 に 勢っ基す方き ・ に 勝って と かっと す 方き ・ に 腕 作 に 援 き ・ た 系 の 、 し 本 介 説 配 、 と で の 、 し 本 介 説 配 、 と で の 、 し 本 介 説 配 、 と で の 、 し 本 介 説 配 、 を で の か に 所 で に 系 で で し 作 方 で か 操 作 支 で し 作 方	・作品物報・身経動能・作作けている。 では、一次の関、種類のののでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次では、一次のでは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	・に品類とセ・せ操支で・観握系介のせ材えきンに、の安がス状で作援き本やし、護大のながるるト合系介全術価を衡系技術を表のののののののののののののののでは、場では、できるという。、できるというでは、できるというでは、できるというできる。	・講義 ・ 生自間た内る・エをる・腰負が確 が で は の、人しのす か が さ が で の い 人しのす か が さ が で の い 人しのす か ま い が ぎ クを で の い 人しのす か ま い が ぎ クを で か が ぎ クを で か が ぎ クを か か き か が ぎ クを か か き か か ぎ り を か か き か か ぎ り を か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か か き か も か も	第3段階

		法を説明でき	作を行う屋内			
		る。 ・さに ・さに ・さに ・さに ・さに ・なに ・なに ・なに ・なに ・なに ・なに ・なに ・なに ・なに ・な	外の自然環境			
2	d 動動 型	・た作た応通移護明・た作た応通移護明・件移用動た関と関る・作た応通移をしを自、、移じ機動支で安移、移じ機動支でさ下動具、移を介連。移、移じ機動利実説立移用動た関に援き全動用動た関に援きま(系を場動用護を 動用動た関の用践明に動具,移を関方るに系具,移を関方るざ環の用所、い支説 系具、移を介者すで向系を場動用す法。配のを場動用す法。ま境動いに交た援明 のを場動用護とるきけの用所,いるを 慮動用所,いるを な)作た応通移とで 動用所、い支協方るがの用所,いるを 慮動用所,いるを な)作た応通移とで 動用所、い支協方る	・作い所動をの関やの収・身経動能・作い所動をのる・作い所動ををの移、たに,用基す、種集利の筋にと移、たに,用介人移、たに,用行自動用移応交い本る人類の用状骨関構動用移応交い護の動用移応交いう然系具動じ通た動物、や知者況格す造系具動じ通たを価系具動じ通た屋環のを,た機移作品動情識の(とる)のを,た機移受値のを,た機移内境動用場移関動に 物報 心神運機 動用場移関動け観動用場移関動外	・に品類とセ・せ動用場移関動をる・観握のを動じ通た支本合のをがス状て作い所動をの安技本やし動用,た機移援人わ素整でメ況移、たに,用介全術人意、作い場移関動技のせ材えきンに動用移応交い護に の思移、た所動をの術状たやるるト合系具動じ通た支で 価を動用移に,用介戦をあるト合系具動じ通た支で 価を動用移に,用介戦をである。た機移援き 値把系具 応交い護	・ ・生自間た内る・二をる・腰負が確 環産然が環容。ボク受こ介痛担あ認	第4段階
3	姿勢の 変換と 保持	・平衡 関 で きる。 本 動作にする。 ・平衡系すことできる。 ・平衡系の基本ができる。 ・平衡をある人間のでががある。 ・平衡を変換をしての基本を変換をある。 ・ で 強い して からない して からない という かいしん で あいい という で かいい という という で かいい という という という という という という という という という と	・姿勢の変換 と保持に関係 する心身機 能、身体構造 に関する知や ・生活文化や ライン姿勢の変 換との関係性	・姿勢の変換と保持に対象を構造に対象を構造に対しませる。 おいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	・講義形式 ・平衡系運動 とは何かを理解し、その動 きの種類を確認する。 ・姿勢の変換 と保持が生活	第3段階

	を説明すること	に関する知識	アセスメント	するための手	1
	ができる。		カ	 段の基本とな ることを確認 する。	
d410 基本姿変換	・動の説で・変境する・必支する平作で換する。な必いとの基づにる。姿要接るのとのとのを表がいとの基準との基準にある。姿勢な技にのに、姿勢で説で、変本をが変れるが、の環明さにな明き、にな明き	・姿勢では、多勢に関するのででは、多勢関をできるのででは、のでは、までは、おり、おり、おり、おり、おり、おり、は、おり、は、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、	・に身構アカ・に活すセカ・合環備・勢援勢関機造セ 姿関環るス。心わ境技基変技勢係能にス 勢係境たメ 身せ調術本換術のす、関メ のすをめン 状た整。的動。変る身すン 変る把のト 況生、 な作換心体るト 換生握ア に活整 姿支	講 ・ 基ボク底体いる・ とイ、 積動確 ・ 多保腰負が確 のる二基のつ ・ を発験角担あ認 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	第4段階
d41d4 M C C C C C C C C C C C C C C C C C C	・る環明き・に術と・す用にるる・に具つこの境する横必をが介る具つこ。利向、いと全とにる。た要説で護た、いと 用け機でが でいと る支するをの器説で の福な明きださてが 動援る。支介な明き 自祉どする	・具す・作る身す・た体ム識・機トな知・機柵ドる横、る横に心体る基わのに、介器・ど識福器、な知た家知た必身構知本りメ関、護介動に、祉べ電ど識わ具識わ要機造識的方力す、用助べ関、用ッ動にるに、ると能に、なと二る、具ベッす、具ドベ関寝関、動な、関、横身ズ知、ルドる、	・境たメ・作身ス・作援ーな・機た・機た・機たが境をめン横に状メ横に技メど介器支福器自然をかりた必態ンた必術力)護を援祉を立るすセーるなアカるなデクー具用術具用援環るスー動心セー動支ィス、しし、し	講習 ・ 臥わい績る感認で・のに換らるる ・ いんで動持違を認いている。 トの姿の確が は しん横の底に負をと し 追勢し認で と し と は しん し は ない	第(べのり位・士臥まる横なをが横動べ感の話うまつに護にも合4(備ッ横動⇒学で位横動座り着らた作、や負し。たのよ負つ確う段(考ドた作臥生、のた作り、き・わを安体担合(、方る担い認。略)でわ座位同仰まわとに手な る比定へを 2法介感てし
d410 0 横た わるこ	・横たわる動作 に必要な支援技 術を説明するこ	横たわる寝 具、家具に関 する知識	横たわる環 境を把握する ためのアセス	講義形式と演 習	第5段階 (備考)
わるこ と <u>※立位</u>	何を説明することができる。介護者を支援	9 の丸誠 ・横たわる動 作に必要とな	メントカ ・横たわる動	・寝具の高さ と姿勢変換動	・布団(床 面)への横

	から布 団(床 面)へ横 たわる	するための介護 用具、機器ので についてで る。 ・利用者を自立 に向けたなする。 は、機器の は、機器の についてで で る。 について で る。 について の について の について の について の について の について の につい につい につい につい につい につい につい につい につい につい	る心身機能、 身体構識 ・基わりメカー ・あの関 ・をのと ・をのと ・をのと ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での	作ります。 「作ります」では、 はいますが、 はいますが、 はいますが、 はいますが、 はいますが、 はいますが、 はいまずが、 はいますが、 はいまが、 はいまが、 はいまがはいまが、 はいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまが	作認で・ になる。 ではるる。 ではるる。 では、 では、 では、 でいるのででででででででででででででででいる。 でいるでででででででででいる。 でいるででででででいる。 でいるでででででででいる。 でいるででででででいる。 でいるででででででいる。 でいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、 にいるでは、	た作臥・立臥横方にもが作しり位) 生かへわ実っい、分をていたらのの際でな動析
7	d410 1 しゃ がむこ と	・安全にしゃが むことのできる 環境について説 明することがで きる。 ・しゃがむ動作	機器(床置き型手がの知識を対しているのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するを対し、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、関するのでは、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	た自立支援 ・しゃがむ環境を把握するスメントカ・しゃがむ動作に必要のである。	講義形式と演習 ・しゃがむ動作に必要なバランス機能と	る。 第4段階 (備考) ・立かがむ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
		に術と・す用にるる・に具つこめをが介る具つこ。利向、いとがするをの器説でであるをの器説でのでは、いとが、 おた器説であるをの器説でのでは、いとが、 おんだいが おんだいが おんだいが おんだいが おんだい の福な明さい の福な明さい の福な明さい の福な明さい の福な明さい の祖ないさい がったい かんがい はいい かんがい かんがい かんがい かんがい かんがい かんがい かんがい かん	を体ム識・に家テみす・機型な知がのに し利具・台る福器・縦に と二る むきり、に と二ま むきり、に りる、踏関 のる のの	身ス・作援ーな・機た・機た がメしに技メど介器支福器自のトが要ばニ 用活技用活支 を援祉を立 見用術具用援	し節足性あ認・動殿頭筋盤る、膝節重こる節連、、腸前重こる節連、、腸前き、と動大腓腰傾の要と。と動大腓腰傾向要とが、と動大腓腰傾向要とが、というという。	曲まゃとるやる・やルしがとなの全ちをげまががのっ。手テをたみ支い違性や試なでむでかて、すー把し動持動い・すすいしこきをみ、りブ持ゃ作の作安立さ。
8	d410 2 ひざ まずく こと	・ずる説で・作技こ・す用にるる・に具ついのつこ ずな明きをの器説で 相け機ていと はま要説で者め機てが 者た器説で者の器説で の福な明さないと く支する支介な明き 自祉どする 動援る。援護どす 立用にる	・動な能に・ざ身ズ知・際るりルど識・機ざに心身す本ずのに ざ利具テ踏関 社にま必機構知な方力す ずです ご 祖に床 でき は は かとこる くき は に は いとこる くき は に ま いとこる くき は に は いとこる とき は に は いとこる いき は いところ いと は いところ いと は は いところ いと は いところ いと は いところ いと は いところ いと は いと	・環るス・動心セ・動支ィス・機た・機たのでをめンざに状メざに技メど護を援祉を立ま把のトま必態ンま必作技メど護を援祉を立まがでかりまが態ンま必術力)用活技用活支ず握アカず要のトず要ボニー具用術具用援くすセーくなアカくなデク、し、しくすセーくなアカくなデク、し	講習 ・痛でである。 ・痛でである。 ・痛にない はいる ・ ない はいる ・ ない はいる ・ ない はいる ・ ない	第 (・ひく・やルしま作の作安立さす・5 備立ざ 手テをたずとなの全ちを。ひ階)⇔ず りブ持ざ動持動い・す ま

	ことができる。	田 然刊エオハ		ナな理控の亦	ホキ かす
	ことかできる。	型・縦型手すり など)に関する 知識		さを環境の変 化で作ること ができること を理解する	ずきやす い環境作 りを学生 同士で考 えてる
d410 3 座 こと	・とにるる・要説で・す用にるる・に具つこののつこ。座な明き介る具つこ。利向、いとをでいとのでいとのでする護た、いとの問題でであまる。者の機でが、者た器説でをの器説での福な明さいである。まの器説での福な明さいである。 をの器説での福な明さいである。 は、 は は は は は は は	・必身構知・りメ関・用(チブす・機型型にのと能に 本と二るるきりな知祉(床型)のると、関 的身ズ知際る、ど識用置・りる な体ム識に家テに 具きしな知に心体る 座のに 利具一関 、き字ど識	・な握アカ・必態ン・必術力・機た・機たのであずと、座要のト座要が二介器支福器自会では、動心と、動立と、動立と、動立と、動立と、動立と、大型を接近を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対し、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対し、大型を対して、大型を対し、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、大型を対して、対して、大型を対して、対して、大型を対して、対して、対型を対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、	講習 ・座いる・メ確位座膝面→しく・伴後認 形 ま姿確 るニすおを曲手面が座るのす ざ勢認 動ズるじ確げををらる動心き。 まにす 作ム。ぎ認、つ確ゆ) 作のを するつ のを位→→座く認っ に前確	第(・座・士ざるなの話う・をま動際で前び確こ切え。4(備立位学でま姿り特し。おしま作にみ傾座認とさる段(考位)生さな勢、徴合)じな座をやてお面すのを階)→「同ま座にそを)ぎいる実っ、よをる大考
d4102巻がド座らちり10つ 子ッのか立が	・とにるる・要説で・す用にるる・に具つこ安のつこ。立な明き介る具つこ。利向、いとにきてが 動援る。者め機てが 者た器説でで持こ をの器説で の福な明きつ環明き に術と 支介な明き 自祉どするこ境す 必をが 援護どす 立用にる。	・必身構知・ちメ関・用(チブす・機型型高機ど識立要機造識基方力す立ですルる福器・縦手便能につと能に 本と二るつきりな知祉床型り、椅す動な、関 的身ズ知際る、ど識用置・し、昇子る作る身す な体ム識に家テに 具きし、昇子るに心体る 立のに 利具一関 き字保降な知	・な握アカ・必態ン・必術力・機た・機たつ環るスープなアカンなデク護を援祉を立姿境たメー動心セー動支ィス用活技用活支勢をめン、作身スー作援・な具用術具用援に把のトーに状メーに技メど、し	講習 ・動線(骨のす・の座関る・の環作き解	,第(・立・が下でが的後でとの通験・がいり同える4(備座位立りのあ、にのあを介しす立り環を士て。段(考位)ちは動る重は動る実助てるちや境学でみ階)↑ 上上き 心前きこ際を体。上す作生考
d410 4立つ こと	・安全に立つこ とのできる環境 について説明す	・立つ動作に 必要となる心 身機能、身体	・立つ姿勢になる環境を把握するための	講義形式と演 習	第6段階 (備考)

				1		,
10	※で位の上※面座らちり加りの上がゆで位の上	るる・要説で・す用にるる・に具つことの支する護た、いと、用け機てが、者に器説で、作技こをの器説で、の福な明きないと、関け機でが、者に器説で、の福な明き、は、支介な明き、自祉どする、をの器説で、の福な明き、は、対象が、援護どす。 立用にる。 サ	構識 基方力す立ですいど 関 的身ズ知際る、 な体ム 関 の身ズ知際る、 路関 に ですいど 高福器の ですいど 高福器の を は に 大力する ですいと ですいと ですいと でする ですいと でする でする でする でする でする でする でする でする	アカ・必態ン・必術力・機た・機た フロなアカつなデク護を援祉を立 メ 動心セ 動支ィス用活技用活支 ル 作	・・動底にす・齢よでがが生大こる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・立・士ま障定ち方っる・がい支を士て第座位学でざ害し上法て。立り環援学でみるからでは一旦では、まをたがをみらい境方生考るのでは、まな想立り行とす、法同え。
12	d410 5 曲 ご と	・げる説で・作技こ・す用にるる・に具つこ安る環明き体に術と介る具つこ。利向、いとにとにる。曲要説で者め機てが 者た器説で体のつこ げな明きをの器説で の福な明きをでいと る支する支介な明き 自祉どするをでいと るする表介な明き 立用にる。曲きてが 動援る。援護どす 立用にる。	・動な能に・の体ム識・際るりルど識・機手関体作る、関基曲のに 体に家、、に 福器すすをに心身す本げメ関 を利具テ踏関 祉床りる曲必身体る的方力す 曲用手一みす 用置な知げ要機構知なと二る げですブ台る 具きど識ると 造識体身ズ知 るき な知、型に	・姿境たメ・動心セ・動支ィス・機た・機た体勢をめン体作身ス体作援ーな介器支福器自をに把のトをに状メをに技メど護を援祉を立曲な握アカ曲必態ン曲必術カ)用活技用活支げるすセーげ要のトげ要ボニー具用術具用援る環るスーるなアカるなデク、し、しる環るスーのなどがあります。	講義形式 ・動作の関いて 傾ので ・腰のののでは、 は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	第(・士ざを動いうがつやかえる4 備学でま曲作どな腰なすをて。
13	d410 6体心え で る	・心のつこ・えな明き・す用にるる・に具つ安をでいと体る支する介る具つこ。利向、いにえる説で重作技こ 者め機てが 者た器説のこ境するを必をが 支介な明き 自祉どするといる。変要説で 援護どす 立用にる	・変必身構知・のる寝体のに・機ィな知・のると能に 本心作り動力す護(スグに重動な、関 的を、方か二る用ラシ関 的を、方か二る用ラシ関 相 な変特としズ知具イーす 用 はいよう はい	・変な握アカ・変必態ン・変特作援っな・機体えるすセ 体え要のト体えにに技メど介器のる環るス のるなアカのる寝必術カ) 護を重勢をめン 心作身ス 心作りなデク 具用をに把のト をに状メ を、動支ィス し	講習・心作えにきを・心底さ認・視つる。 でえみ向がるすで化のい。 感関確 のるか転るこるのと大て 覚係認 の重動 換動と。重足切確 とにす 作	第 (・士や獣えら方方しるクンントどを見4 備学で前人な、向法て。ッやジので変な段 考生左後をが様転をみ シスマ上重えが階)同右に変 々換試 ョポッな心て

		ことができる。	機器(床置き型手すりなど)に関する知識	た支援技術 ・福祉用具、 機器を活用し た自立支援	と重心の高さとの関係を確認する。	ら感切い合る・士り際挙り曲と作易いる、覚さてっ。学で動にげ、げでのさて。足のに話て 生寝作腕た足るのやに考底大つしみ 同返のを をこ動りつえ
14	d41の特基なの・不基なのの物学化定本姿変詳明本姿変	・d4100~d4106 以外の 姿勢の変化に関 する支援を説明 できる	・d4106以外のには、	・d4106 は4106 は4106 が のるは のるは のるは ののるは ののるは ののののののののののの	講義形式	第4段階
15	d415 姿勢の 保持	・姿勢の保持のなる重心にはないでは、そのではいいないではできないでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、その	・姿勢の保持に関するの保持に関するの保護を受けるのは、動物では、対しているのでは、対しているのでは、対しているのでは、対しているのでは、対しているのでは、対しているのでは、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	・姿勢の保持に関機能に関えり大力・関機能に関えり・関係に関えり・関係を関係を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	講義形式 ・支援技ものの 基本デス、積をののでである。 ・変勢のでは、変勢が関する。 ・変援が関する。 ・変数が関する。 ・変数が関する。	第3段階

		\.\ .\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.	1		/r - ^ = + 7 + 7	T 1
		必要な基本的な 支援技術を説明 することができ る。		・心身状況に 合わせた環境 調整、整備技 術。 ・基本的な姿 勢保持支援技 術。	等の介護負担 リスクがある ことを確認する。	
16	d415 O 臥位 の保持	・保境する・必をが・勢に祉どする。 安持にる。臥要説で安の使用にる。 にでいと の支するな持さ、いと の支するな持さ、いと 保援る。臥のれ機てが 保援る。臥のれ機でが	・保のに・影機造識・位のに・機トニョすが持寝関臥響能に 基姿メ関福器、ンンるのでは、関 本勢力す祉(エポグな知姿る、る保る身す 的とニる用アジクど識勢た家知持心体る な身ズ知具マシッにをめ具識に身構知 臥体ム識、ッョシ関	・保をめン・保るアカ・保支シ除換・機た臥持把のト臥持心セ 臥持援ョ圧な福器支位す握アカ位に身ス 位に技二、ど祉を援姿るすセ 姿影状メ 姿必術ン体) 用活技勢環るス 勢響態ン 勢要(ポグ位 具用術を境たメ のすのト のなジ、交 、し	講習 ・生といこる・姿たョ要確が・リてと義 将メ好てと。安勢め二性認で長ス確が う二部認で な保ポグつるる臥にすきと のズ位すき 臥持ジのいこ。床つるる 位のシ必てと のいこ。	第 (・に横り臥との位をる・士ジン合の姿ッのがつかみ3 備べ実た、位褥好の体。学でシグいよ勢シ当安な試る段 考ッ際わ各姿そ発違験 生、ョを、う、ョて楽がし。階)ドに 種勢う部いす 同ポニしどなクン方にるて階
17	d415 1 しみ の 保持	・みきてが・保援るる・保利用にるる。安位る説でし持技こ。し持用具つこに保境するが必をが がるれ機てがした。み要説で みたる器説でがつこ 位な明き 位め福な明きががでいと の支す をに祉どす	・のと能に・のな整知・機型な知・特る身すや持環に、祉床型にがに心体るがが境関、用置手関がに心体るががった。対し、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	・で環るス・のなアカ・のなデク・機たし作境たメし保心セーレ保支ィス福器支や業をめンや持身スーや持援ーな祉を援がを把のトがに状メーがに技メど用活技み行握アカみ必態ンーみ必術カ)具用術位うすセー位要のトー位要ボニー、し	講習・のと認・た姿いる・かと際をいる。・のと認・た姿いる。 がと係る。予正持認ながらにはする。 がは、いいのでは、いいのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのとのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、このでは、いいのでは、いいのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	第 (・士が作う考験る・士が作う考験る・士が楽環えて3 備学でみ業環えし。学でみ業環えし。学でみに境、み段 考生し位を境、て 生し位を境、て 生し位なを試る階)同ゃで行を体み 同ゃで行を体み 同ゃがる考し。

18	d415	安全にひざま	・ひざまずい	・ひざまずい	講義形式と演	第3段階
10	2 またの保持	・ず持にるる・姿要説で・姿たる器説でといがつこ。ひ勢な明きひ勢め福な明きと勢る説で、ず持技こ、ず持用具つこの環明き、いに術と、いすさ、いとな保境す。 た必をが たるれ機てがま保境す た必をが たるれ機てが	・たに心体る・たが境関・機型な知び姿必身構知ひ姿楽調す福器(発生に)のと、関す保を、関す保証をのない、関が保証をのない、関が保証をのない、関が保証をのない、対して、関が、対して、対して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	・たを把のト・たに状メ・たに技メど・機たび姿行握アカひ姿必態ンひ姿必術カ)福器支び勢うすセ ざ勢要のトざ勢要ボニ 祉を援まで環るス まのなアカまのなデク 用活技を作境たメ ず保心セ ず保支ィス 具用術い業をめン い持身ス い持援「な しい業をめン	in 習 ・ たと認・ と と 認・ と と い な き と 係 ・ と が 水 で き と 係 ・ と が 水 で で あ で ら で が 病 確 ・ り た し か に す で あ こ で ま と 係 ・ の す に す す に す る 。	ポ (・士ま姿りらのとをるエえら 備学でず勢な、負、軽た夫る 考生ひいをが膝担負減めを。 回ざた取 ヘ 担すの考
19	d415 3 座位 の保持	・姿いる・勢る説で・必をが・るれ機てがを勢いる・勢る説で・必をが・るれ機でがでいる・勢る説でを要説で座たる器説でな類でをがつこのででであるをに祉どするをにがいと、持技に、持用具つにをしていと、持技に、持用具つにをしていと、持技に、対していと、対している。のでは、いとは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	・位とる・に心体る・が境関・機リグーンど識基姿特知座必身構知座楽調す福器クチク、に本勢徴識位要機造識位に整る祉(テラェッ抱関的のにのと能にのな・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・すすセ・保心セ・に技ン勢・機たでをめン姿が態ンのなー座正用活技でをめン姿が態ンのなー座正用活技でをめい勢要のト保支テ位な具用活がでをかからでをがある。	講習 ・位あ位ァつる・勢ににす安勢めン確 ・位あ位ァつる・勢ににす安勢めン確 ・位あ位ァつる・勢ににす安勢めン確 ・位の原産ののグ認 ・位の原産で、ののグ認 ・位のテい。を呼をです。 ・位のテい。 を座をでする。 ・位のテい。 をできる。 ・でのでする。 ・でのでする。	第 (・士すりシ有いす・ま方姿正実っるかきにりしでとしる3 備学でに、ョ無をるさなの勢方際て。らかよ直があをて。段 考生車座クンの体。まや座の法にみ※のかる 危る体み階)同い ッの違験 ざり位修をや 脇抱え座 険こ験
20	d415 4 立位 の保持	・正しい立位姿勢について説でする。・安全な立位ででいる。・安全持がいとがる環境にことがる環境である。・立位の保持にいきる。・立位を接技術	・立位の保持 に必身機能に関 ・体構造調 ・体に関する ・体でなり ・体でなり ・体では関心を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・立位で作業を行って作りでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	講義形式と演習 ・体に負担を 掛けない立ち 方を確認する。・トインの立位 について確認	第 ・ 士ざな勢 ・ も さな い り う え 。 立 た り の き 。 立 で き 。 立 で き 。 立 で き 。 立 で も し の き 。 立 し の き 。 立 し て し て し て し て し て し て し て て て て て て

		を説明すること ができる。 ・立位を保持す るために利用さ れる福祉用具、 機器などについ て説明すること ができる。	するために利 用される福祉 用具、機器(床 置き型手すり・ 多点杖、ウォ ーカーケイン) に関する知識	た支援技術	する。	作業を行 う際の工 夫の仕方 について 話し合 う。
21	d415 8d41 59他定勢持	• d4150~ d4154 以外の 姿勢の保持に関 する支援を説明 できる	・d4150 d4154ののに機のもは154ののにでは、154ののでは、154ののでは、154ののでは、154ののでは、154ののでは、154ののでは、154ののでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは、154のでは	・d4のに機にセで・dのににセで・dのに用利す・dのに用利立415勢す身いメる15勢すりいメる15勢すりいメる15勢すりいメる154のる体のと対ち0以保心構のと対ち0以保環のとが0以保介器支 0以保福器のが2外持身造アが 2外持境アが 2外持護を援 2外持祉を自	講義形式	第3段階
22	d420 乗り移 り(乗)	・動移明き・りにるる・要援るるのるいと 乗な説で りめ対さる 全必いと りをするが 移本をがる かいと りの説で おり説で りの説で がら 環明き にな明き いちょす	・ 作境識・ り関・トた関東の関連を表すのでは、 基移すアか情やするをできますが、 おいまれる おいまれる かいません おいまれる かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいま	・作心体るト・作環るス・合調術・り術乗に身構アカ乗に境たメ心わ整。基移のりす、関メ りすをめン身せ、 本りのす、関メ りす握アカ沢環備 な援動る身すン 動るすセ。に境技 乗技	講・基ボク底体いる・支のスとる※ィ対を形 援とィ、績動確 りが護が確 ーグる認式 技もメ支、き認 移腰負あ認 リケ考すのる二基のつ の等リこ テに方	第4段階
23	d420 O 座位	・安全な乗り移 りができる環境	・乗り移り動 作に必要とな	・乗り移り動 作に関係する	講義形式と演 習	第4段階

	でり※踏え殿レでりの移足み、可べの移ののか離能ル乗り	にるる・要説で・す用にるる・に具つこいとの支する護た、いと 用け機てが 移援る。者め機てが 者た器説での おた器説での おいと をの器説での 福な明き に術と 支介な明き 自祉どする りなるが 援護どす 立用にる。	る身す・り体ム識・機ィな知・機スグフーいすり構知本りメ関 護スグに 祉ほイー、タな知機造識的方力す 用ラシ関 用すデドモイど 親に なと二る 具イーす 具りィ、ジプに とこる ステーカ は 見がられる に しょう は は は しょう は しょう は しょう は しょう は は しま は しょう は しょう は は しょう は は しょう は は は ま しょう は は しょう は は は は しょう は は ま しょう は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	心セ・作環るス・作援ーな・機た・機たり身ス乗に境たメ乗に技メど介器支福器自然ン移係把のト移要ボニ 用活技用活支のトりす握アカりなデク 具用術具用援アカ動るすセ 動支ィス しししし	・えがいる法認立がいる法認ができたがいる法認ができたがないでありないでありないである。ががいる法認ができる。ががいる法認ができる。ががいる法認ができる。	・士ざ法り法トーなむて学でまで移ピ法ルどをみのりがある。
24	dOでり※保能ルへ護祉具器いり2位乗り位可べ方介福 機用乗り	・のきてが・移接るる・す用にるる・に具つこ安乗る説で座り技こ。介る具つこ。利向、いとな移境するで必をが 者め機てが 者た器説で座りにる。の要説で をの器説で の福な明き座りにる。の要説で をの器説で の福な明きでいと り支す 援護どす 立用にる。	・り必身構知・位りのに・機ィな知・機スグフすを移要機造識基で方メ関介器ンど識福器ラボトる位りと能に 本の法力す護(スグに 祉ぼイーな知で動な、関 的乗と二る用ラシ関 用すデドど識の作る身す なり身ズ知具イーす 具りィ、に乗に心体る 座移体ム識、デトる、、ンリ関	・り関状メ・り関をめン・り必術力・機た・機たの関係態ン座移係把のト座移要ば二介器支福器自位りすのト位りす握アカ位りなデク護を援祉を立で動るアカで動るすセーで動支ィス用活技用活支の作心セーの作環るスーの作援ーな具用術具用援乗に身スー乗に境たメー乗に技メど、し	講習 ・ンシし乗にす・い乗にす※きフ注 ボーを位りて ト位りて リたりつる吊込ト意 デド使で方確 をで方確 のやでど 具方作な 用の法認 用の法認 敷リの	第 ・士イグやな護具をたのり体ノテケいる5 学でデボリど福、活座乗方験ーィアて。段 生スィーフの祉機用位り法しリンに考階 同ランドト介用器しで移を、フグつえ
25	d420 1 臥位 での乗 り移り	・のきてが・移援るる・す用にるのきてがいと り支す その器説でいたが 者め機てが 者め機てが 者の器説で をの器説で をの器説で をの器説で をの器説で をの器説で がいと りちょう 援護どす	・りと能に・位り知・機ってに心体るのが、関基で方識が、関連でに心体のののが、関連でのが、関連でのが、関連では、対して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	・り移るで関係での関係での関係のでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	講義 ・ スグリーで方法。 ・ スグリーの大いでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーのでは、 ・ スグリーででが、 ・ いかので、 ・ いかので、 ・ のいでは、 ・ のい	第 ・士イグやな護具をたり体ノテ5 学でデシリど福、活乗方験ーィ段 生スィーフの祉機用り法しリン階 同ラントト介用器し移を、フグ

	T		I		I —	
		・利用者の自立 に向けた福祉用 具、機器などに ついて説明する ことができる。	ど)に関する知識	・介護用具、機器を活用した支援技術・福祉用具、機器を活用した支援技術	フト操作での 注意点など	ケアにつ いて考え る。
26	d 8 他の移 d 9 不乗り 0 の定り 0 細の移	• d4200~ d4201 以外の 乗り移りに関す る支援を説明で きる	・d4200〜d4201 物の関い・d4201 を d4201 を d4	・d4201移心はいく。 ・d4201移心体の関ラスき・dの関具用る・dの関具用支 ・d4201移心体のト術のといめるでは、 の以り身構でが、の以り境でが、のよりのでは、 の以り境でが、のよりでは、 の以りのでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	講義形式	第4段階
27	dそののよ細の勢換持9他定お詳明姿変保	• d410~ d420 以外の姿勢の変換と保持に関するる	・d410~d420のに d420のに機ののには が表すります。 d420のには が表すります。 d420のには が表すります。 d420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のと がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のには がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは420のに がは42	・d4201のとる体でフ技・dのとるでは、 d4201のに構のト術は201のに関係にせでのよる体でのは、 の以変関能のスきの以変関では、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のはでは、 のは、 のはでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	講義形式	第4段階

28	物の運	・利用者の自立	機器に関する知識・物品や、	術 ・d4200~ d4201 以外 の姿勢の変勢 と保持に関する福祉用具・ 機器を利用しての自立支援 ・本人の状態	• 講義形式	3段階
	搬動作	に運作支で・た動こ・件お搬に利実に向搬に援き安物、とど下いや関用践びた移す法。に運作でよ環も動るときる企工をであるを、配搬をきう境物、方協るの操護明 し移う。条に運作をし	人類の・身経動能・移関受値・移行自動情識用状骨関構の、るるの、屋環動情識者況格す造運操介人 運操内境のとる)搬作護の 搬作外	に品類とセ・物認搬作き・観握搬作術行合のをがス物のし・をる本やし・すせ材えきン人況物動全の思物動支化だやるるト、をの・に価をの・援が種こアカ動確運操で値把運操技	・移関作力示・生自間た内る・二をる・移腰負が確物動すの二す環産然が環容。ボク受こ物動痛担あ認理操介デス。因用境た変確 ィのし。運操のリこるす機作護ィを 子具とら化認 メ講て 搬作介スと。・に動メ図 の、人しのす 力義い ・が護クを	45(心よ度る) (段段本身りが) ・ のに易が
29	d430 持げとぶ 上こ運と	様々な動物を表する。	・にやや法・り型握・物たのとる・りにの・お素重情心即種情 持運や 物をり神運機持、運自日け材量報のたの収 上人重 人ちぶ筋にと上の屋環生物種知集状物知集 げのを や上た骨関構げ場内境活品類識方態品識方 た体把 動げめ格す造た所外 にの,や法	・に品類とセ・物認げこ全術・観握人ち支本合のをがス物のしる)に 本やしや上援人わ素整でメや状,(支で 人意、動げ技のせ材えきン人沢持抱援き の思物物、術状たやるるト、をちっをる 価を品を運 側を記を運	・演 ・る事にめ・向法る・行や体介ががこ先他のるの講習 持・例もるよけを。持為人重護か多の度に提(活義 ち運は提。りた考 ちはのに者かい方を支案福用形 上ぶ受出 自支え 上、体よにるの法考援を祉等式 げ介講を 立援さ げ物型っ負こでのえ技求機)。と 護生求 に方せ る品やて担と、優、術め器と	345(心よ度る) 日本のに易が

	T	T	T	T	A ====	1
					・介護従事者の体格との体格をでは、 ・ ボアスの講に、 ・ ボアスの講をできること。 ・ ボスのまること。 ・ ボスのまること。	
30	d430 0 持る 上げる	様やい位るの安介る。 様やい位るの安介る。 が低いげ人、たき	・にやや法・人重・物る筋にと・る然・お素重情心即種情 持のを物をた骨関構持屋環日け材量報のたの収 上型握人ちのとる 上外 生物種知集状物知集 げや や上神運機 げの 活品類識方 る体 動げ経動能 た自 にの,や法	・に品類とセ・物認げこ全術・観握人ち技本合のをがス物のしる)に 本やしや上術人わ素整でメや状,(支で 人意、動げんわ素整でメや状,(支で 人意、動げ状たやるるト、をちっをる 価を品を支戦物種こア力動確あ 安技 値把や持援	・に ・介講を・向法る・行や体介ががこ先他のるの・の対をと・二をる演す 持護生求よけを。持為人重護か多の度に提(活介体象確 ボク受こ習す ち事にめりた考 ちはのに者かい方を支案福用護格者認 デス講とをめ 上例もる自支え 上、体よにるの法考援を祉等従とのす ィのし中る げは提。立援さ げ物型っ負こでのえ技求機)事介体る メ講て心。 る受出 に方せ る品やて担と、優、術め器 者護格こ 力義い心	345(心よ度る) は のに易が
31	d430 1 手に もって 運ぶ	様々は 様々 やかって もるの、 たる自 なを配 を配 を記 を記 を記 を記 で きる。 で きる。 に きる。 に きる。 に きる。 に きる。 に きる。 に きる。 に きる。 に に に に に に に に に に に に に	・にやや法・物体把・物で神運機・運身し類報 に運や や手ぶ筋にとに屋のたの収 もぶ体 人にた骨関構も内状物知集 っ人重 やもめ格す造っ外状品識方 てのを 動っのとる てののとる	・に品類とセ・物認っをる・観握人に入わ素整でメや状,運全術人意、動っのせ材えきン人況手ぶに の思物物て状たやるるト、をに支で 価を品を運燃物種こアカ動確も援き 値把や手ぶ	・に・さの例もる・向法る・介体象で・さが講を・さが講を・方体象で・方体象で・方体の・方体の・方体の・方体の・方体の・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は・方は	345(心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のにあが) (のになが)

		T		T 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_ 1_	T .	1
32	d430	様々な素材の物	自然環境 ・日常生活に おける物品の 素材や種類, 重量の知識や 情報収集方法 ・心身の状態	支援技術 ・本人の状態	と。 ・ボディメカ ニクスの講義 を受講してい ること。 ・演習を中心	3段階
	3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 3 3 3 3 3	や や た や た も に は る の 、 た き る の 、 た き る に と に と に と に に に に に に に に に に に に に	にやや法・物を型握・物で神運機・運自・お素重情心即種情、腕や運や 物を運経動能手ぶ然日け材量報いたの収 抱や人重 人にた骨関構も内境生物種知集のたの収 抱や人重 人にた骨関構も内境生物種知集の物知集 え動のを や抱め格す造っ外 活品類識方で物体把 動えのとる ての にの,や法	に品類とセ・物認えをる・観握人に支付合のをがス物のして安技本やしや抱援入り素整でメや状,運全術人意、動え技いせ材えきン人況腕ぶにの思物物で術がたやるるト、をに支ででの思物物で術がであると、をに支ででの思物物でが	に ・さの例もる・向法る・運物型っ負こでのえ技求機等・の対をと・二をる候進 腕ま運は提。よけを。腕ぶ品やて担と、優、術め器)。介体象確。ボク受こめ にざぶ受出 りた考 に行や体介ががこ先他のるの 護格者認 デス講とわま介講を 自支え 抱為人重護か多の度に提(活 従とのす ィのし。えな護生求 立援さ えはのに者かい方を支案福用 事介体る メ講てても事にめ に方せ て、体よにるの法考援を祉 者護格こ 力義い	945(心よ度る 段段は本身りが) でである。 では、 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 でのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにまが、 とのにもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで
33	d430 3 腰・担 に 理 が で 運 ぶ	様々な素材の物 で表すができる。 でである。 を促したできる。 を関いできる。	・にやな法・に人重・物背ぶ筋にと・心即種情 ・い体把や肩担め格す造・のたの収 腰で型握人・いのとる 腰で型握人・いのとる 腰が知策 ・運や や腰で神運機・	・に品類とセ・物認腰で安技・観握人人わ素整でメや状,背ぶに 人意、動のせ材えきン人況肩に支で の思物物状たやるるト、を・担援き 価を品を態物種こアカ動確 いをる 値把や	・ 講 に介講を・に介ががこ先他の表 ・ に介講を・に介ががこ先他のま ・ 運は提・、為負こでのえ技求 ・ 運は提。、為負こでのえ技求 ・ 運は提。 、 は担と、 優、 術め	4 段階・ 5 (心よ度る) ・ のに易が ・ のに易が

	ı	T	T	Γ		1
			に担いで運ぶ 屋内外の自然 環境 ・日常生活に おける物品の 素材や種類, 重量の知識や 情報収集方法	肩・腰・背に 担いで運ぶ支 援技術	・より自立に・よりを・かけを・の体外を・が体を・ボク・ボクはと・ボクはと・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボクは・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク・ボク<	
34	d430 4 頭の 上せて ぶ	様々のぶの安全である。	・にやや法・せ体把・せのとる・せ外・お素重情心即種情 頭て型握頭で神運機頭での日け材量報の運や の運経動能の運自常るやの収のたの収 上ぶ体 上ぶ筋にと上ぶ然生物種知集状物知集 に人重 にた骨関構に屋環活品類識方態品識方 ののを のめ格す造の内境にの、や法	・に品類とセ・をの運全術・観握に支本合のをがス物確上ぶに 本やしの援われるさいのしの援き の思頭で術状たやるるト状,せをる 価をの運	・ ・は日みっクンルの面を ・向法る・の対をと・二をる講 頭、常らたリ等をせを行 よけを。介体象確。ボク受こ影 上日生れの工で頭で軸う りた考 護格者認 デス講と形 運本活なでー、の運に。 自支え 従とのす ィのし。式 搬ででく、シボ上ぶ学 立援さ 事介体る メ講て式 ははなレョーに場習 に方せ 者護格こ 力義い	45(心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よりが) (心は易が) (心は易が) (心は見が)
35	d430 5 物を 置く	手や腕, そのを からない でき から できる。 できる。 できる。 できる。 から できる。 から できる から から できる から	・ になりでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・に品類とセ・物認腕身っ所をる・観握腕、本合のをがス物のし、体てに安技本やし、のせ材えきン人況手の分定くにの思手の状たやるるト、をや他をの支ででの思手の状を物種こアカ動確の使場援きが値把の	・に ・の分定様物を例もる・為重型っ負害が やの使場な人く受出 を、や体介が中のでは関系を入く受出 を、や体介が中でに材動護生求 く品のに者かのに対すが でいか そのが でいか	345(心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よりが) (心は易が) (からに易が) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のに易が) (のにあから) (のになから) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにななら) (のにな

	ı	T	1 1++>1-	<u> </u>		1
			と構造・の分定と関係を表現の分のでは、	身体部分を使って所定の場所に置く支援技術	こる・向法る・の対をと・ニをの りた考 護格者認 デス講との はとのす イのしまる 単介体る メ講て まかん ままれる ままれる ままれる ままれる ままれる ままれる ままれる ままれ	
36	d8他定持げぶとd9不のちてこ43そののちてこ・3詳明、上運とのの特、上運 〇細 持げぶ	介らをめ為立に実 場るっ(、促慮が で手抱グ人、たき で手抱グ人、たき の公りの安介る の公りの安介る がいるがでする ののののでする のののののでする のののののでする のののののでする。	・にやや法・っる的・人重・た骨関構・との ・知 対上運いメール即種情 手て行背抱のを抱め格す造抱き自 身識 象げぶてンとのと知知 と抱為景き体把きのとる きの然 体 者る環のトラウスのたの収 腕きの し型握し神運機 し屋環 構 のこ境アが状物知集 をし文 めや め経動能 め内境 造 持とにセで態品識方 使め化 る体 る筋にと る外	・に品類とセ・と認をし安技・観握をし術 ・ちとつスき ・dのこ技本合のをがス物必し使め全術本やし使め 対上運いメる は3時と術人わ素整でメ品要,っるに 人意、っる 象げぶてン技 305 上ぶのせ材えきンの性手て行で の思手て支 者る環のト術 09 以げ支状たやるるト状をと抱為き 価をと抱援 のこ境アが 0以げ支態物種こアカ況確腕きをる 値把腕き技 持とにセで 2外る援	・ ・行と表やをど関為かで化の把く ddちとつす・ ・行と表やをど関為かで化の把く d43と運いる形 し、、安悲る者築ていがが文て O5るこ、 のじぶて。 る拶情感み の行欠為文るを 持とに討	345(心よ度る)段段日本身のが)では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般
37	d435 下肢を 使っを動 かすこ	足を使って、 様々な動物を動かすこと協調性の ある行為を、 人の自立を配慮 し、安に した介護実践が	る知識。 ・心身の状態 に即した物品 や種類の知識 や情報収集方 法 ・下肢を使っ て物を動かす 人の体型や体 重を把握	・本人の状態 に合わせた物 品の素材やるる 数を整ででメントで セスメや人の状況を 物の状況を 物の状況を 認し、 下肢を	講義形式と 演習下肢を使って物を動かす介護事例は受講生にも提出を求める。より自立に	3 段階 4 段階 5 日 4 日 5 日 4 日 5 日 6 日 6 日 7 日 8 日 8 日 9

				T		1
		できる。	・てた骨関構・て屋環・お素重情下物め格す造下物内境日け材量収を動神運機を動の 生物種知集使か経動能 使か自 活品類識方っす筋にと っす然 にの,や法	使か全術・観握使か ををる 価を肢を技をを の思下物援き の思下物援き の思下物援き の思下物援き の思下物援き の思下物援 がっすい かいしょう かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいが	向法る・て行や体利等にとる・の対をと・二をるけを。下物為人重用、つも。介体象確。ボク受こた考 肢をはのに者介な留 護格者認 デス講と支え を動、体よの護が意 従とのす ィのし。援さ 使か物型っ転事るす 事介体る メ講て方せ っす品やて倒故こ 者護格こ 力義い方せ	
38	d435 0 でこ	様々なできる。様々では、では、では、では、では、では、では、できるができる。できる。のののののののののののののののののののののののののののののののの	・にやや法・や遠すや・ざ神運機・ざの・お素重情心即種情 様物ざる体物け経動能物け自日け材量報のたの収 な下よのを足た骨関構足屋環生物種知集 素肢う体把でめ格す造で内境活品類識方 材でと型握遠のとる 遠外 にの、や法	・に品類とセ・確使るに・観握で援本合のをがス物認っ支で本やし遠技のせ材えきン状,遠をるの思物けがたやるるト況足ざ安技価ををる戦物種こア力ををけ全術値把足支	・に ・遠事にめ・向法る・遠は転高の度に提(活・の対をと・二をるこ演す 下ざ例もるよけを。下ざ、倒い方を支案福用介体象確 ボク受こっとの でる受出 自支え でる用スでのえ技求機)従とのす ィのしいを 物介講を 立援さ 物行者ク、優、術め器 事介体る メ講てい。を護生求 に方せ を為のがこ先他のるの 者護格こ カ義い	345(心よ度る・のに易が
39	d435 1 蹴る こと	様々な素材の物 を足を使って蹴 る行為を、本人 の自立を促し、 安全に配慮した	・心身の状態 に即した物品 や種類の知識 や情報収集方 法	・本人の状態 に合わせた物 品の素材や種 類を整えるこ とができるア	演習を中心にすすめる。足を使って物を蹴る介護	3 段階 4 段階・ 5 段階 (本人の 心身能に

		介護実践ができる。	・やろのを・蹴経動能・蹴自・お素重情を物う体把足る筋にと足る然日け材量報な足すや使め格す造使内境生物種知集素でる体っのとる。外活品類識方法品類識方では、て神運機でのにの、や法	セ・確使るに・観握っ支と物認っ支で本やして援き人意、物技が、物をるの思足をががり、関係を安技価をを蹴ります。	事にめ・向法る・物は転高の度に提(活・の対をと・二を例もるよけを。足を、倒い方を支案福用介体象確 ボク受は提。りた考 を蹴利リの法考援を祉等護格者認 デス講受出 自支え 使る用スでのえ技求機)従とのす ィのし講を 立援さ っ行者ク、優、術め器 事介体る メ講て生求 に方せ て為のがこ先他のるの 者護格こ カ義い	より難易度が上がる)
40	d8他定下使物かとd9不の肢っをす3そのの肢っをす 3詳明、をて動こ5の特、をて動こ 5細 下使物かと	d4350~ d4351 以外の 下肢を使って物 を動かす支援に ついて説明でき る	・身体構造の 知識・対を使っているのででは、・対を使っているのででは、・対を使っているのでは、・対を使っているのでは、・対を使っているのでは、・対を使っているのでは、・対を構造のできるのでは、・対を構造のできるのでは、・対を構造のできるのでは、・対を構造のできるのでは、・対を構造のできるのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、・対を表しているのでは、<td>対象者の歩 行機に で 行機に で のかが る 技術・d4300~ d4305上 が の う り り り り り り り り り り り り り り り り り り</td><td>ること 講義形式 d4300~ d4305 の持 ち上げること と運ぶことに ついて、検討 する。</td><td></td>	対象者の歩 行機に で 行機に で のかが る 技術・d4300~ d4305上 が の う り り り り り り り り り り り り り り り り り り	ること 講義形式 d4300~ d4305 の持 ち上げること と運ぶことに ついて、検討 する。	
41	9 d44 O細の 使用	手という。 手でのたりという。 を表しているという。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を記述する。	・・いのでは、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・に品類とセ・物認指やうに・観めたやるるト、をとてを対すのと変が入物のしをか支で本や状、使に援き人意とてを安技価をがしたがをるの思いない。	・講習 ・使に護生求・向法さ をか介講を とてをか介講を とてを別した考にめよけを考えないに考さ の体格 に方せ 者護	3 4 5 (心よ度 る) といっと (心よ度 が) といっと (で の に 易が) といっと (で の に 身が) といっと (で の に の に 身が) といっと (で の に の に りが) といっと (で の に の に の に りが) といっと (で の に の に の に の に の に りが) といっと (で の に の に の に の に の に の に の に の に の に の

	Т	T	+ - 1/4/A/4 1 1#		1 1 2 2 2 1 1 1 5	1
			する機能・手細なりのでは、 まずの と で に 物のの は いっている は いっこう	握し、手と手指を使って細やかに物を扱う支援技術	対象者の体格を確認すること。 ・ボディメカニクスの講義を受講していること。	
42	d440 0 つあこと	様を用むるの安介る	・にやや法・やみげ人重・用むげ経動能・用むげ自・お素重情心即種情 様物、よのを手い,る筋にと手い,る然日け材量報身し類報 々をつう体把とてつた骨関構とてつ屋環常るやの収のたの収 なつかと型握手,かめ格す造手,か内境生物種知集状物知集 素まみすや 指つみのとる 指つみ外 活品類識方態品識方 材 上る体 をま上神運機 をま上の にの,や法	・に品類とセ・確手てつ支で・観握指つみ技本合のをがス物認指,か援き本やしをま上術人わ素整でメのしをつみをる人意、用むげのせ材えきン状,用ま上安技の思手い,る状たやるるト況手いむげ全術価をとてつ支懲物種こア力をと	・に ・用むげは提る・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 手い,る受出。よけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す とてつ介講を りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ 手,か護生求 自支え のてのる従とのす ィのし中る 指つみ事にめ 立援さ 状、活。事介体る メ講て中。 をま上例も に方せ 況福用 者護格こ 力義い心。 をま上例も	345(心よ度る) は のに易が のに易が と のに易が と の の に 易が と か の に 易が と か の に 易 が と か ら か と か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か
43	d440 1握る こと	様々、おきないである。	・にやや法・やみ手をる体・を握経動能・のたの収 なつ手いう体把やてめ格す造をのたの収 なつ手いう体把やてめ格す造をすいた骨関構手がのとる 両が切り	・に品類とセ・確やて援き・観握両物技人わ素整でメのし手を安技人意、を握のせ材えきン状,を握全術の思片用る状たやるるト況片用るに 価を手い支態物種こアカを手い支で 値把やて援	・に ・を握は提る・向法る・に祉を・の で 特別の で は かった で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	345(心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よりが) (心は易が) (心は易が) (心は易が) (いまた) (

	ı	T	T . =	T	T	1
			を用いて物を 握る屋内外の 自然環境 ・日常生活に おける物品の 素材や種類, 重量の知識や 情報収集方法		対象者の体格を確認すること・ボディメカニクスの講を受講していること	
44	d440 2 操 で さ	様を使行自全護る。 様を使行自全護る。 を ま は し し で を る の ま の ま る の ま る の ま る の も る の ま る の ま る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る の も る も る	・にやや法・や手あすや・使る筋にと・使る然・お素重情心即種情 様物をやる体手った骨関構手っ屋環日け材量報身し類報 々を使つ人重指てめ格す造指て内境常るやの収のたの収 な手っろのをとあのとる とあ外 生物種知集状物知集 素指てう体把手や神運機 手やの 活品類識方態品識方 材と、と型握をつ経動能 をつ自 にの、や法	・に品類とセ・確とあをる・観握手や術本合のをがス物認手や安技本やしをつんわ素整でメのしをつ全術人意、使るのせ材えきン状,使るにの思手っ支状たやるるト況手っ支ででを指て援きを指て援きを指して援きを指して	・に ・使る受出・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 手っ介講をよけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す 指て護生求りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ とあ事にめ自支え のてのる従とのす ィのし中る 手や例もる立援さ 状、活。事介体る メ講て中。 をつは提。に方せ 況福用 者護格こ 力義い心。 をつは提。に方せ 況福用 者護格こ 力義い	345(心よ度る)段段本身りが)のに易が
45	d440 3放す こと	様を使をを配践がをあった。	・にやや法・や手放人重・使め格す造・使す然・お素重小即種情 様物をそのを手っのとる 手っ屋環日け材量身し類報 々を使う体把指て神運機 指て内境常るやののたの収 な手っと型握と放経動能 と物外 生物種知状物知集 素指てすや 手す筋にと 手をの 活品類識態品識方 材と、る体 をた骨関構 を放自 にの、や	・に品類とセ・確と物をる・観握手す本合のをがス物認手を安技本やしを支人わ素整でメのしを放全術人意、使援のせ材えきン状,使すにの思手っ技状たやるるト況手っ支での思手っ技態物種こア力を指て援き値把と放	・に ・使す受出・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 手っ介講をよけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す 指て護生求りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ と物事にめ自支え のてのる従とのす ィのし中る 手を例もる立援さ 状、活。事介体る メ講て中。 を放は提。に方せ 況福用 者護格こ 力義い心。 を放は提。に方せ 況福用 者護格こ 力義い	345(心よ度る) はいのに易がいます。 のに易がいます。 のにあがいます。 のにあがいます。 のにあがいます。 のにあがいます。 のにあります。 のはなります。 のはなります。 のはなります。 のはなります。 のはなります。 のはないます。 のはないます。 のになります。 のはないます。 のはないます。 のになります。 のになります。 のはないます。 のはないまする。

			情報収集方法			
46	d4そののかの44評明、な使のの特、な使の細手ののかの44詳明、な使の細にはまままでは、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10個には、10	d4400~ d4403 以外の 細かな手の使用 に関する支援を 説明できる	・身体構造の 知識 ・対象者の細 かな手を使って物を動かて 環境について のアセスメントができる知 識	・対象者の細かな手の使用に関する環境についてを表する技術。 ・d4400~d4403以外の使用を支援する技術	講義形式 d4400~ d4403の細 かな手の使用 について、検 討する。	7 段階
47	d445 手使用	手て、というでは、 ををすって、 というです。 をいるのでです。 でできる。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でですです。 でですです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でです。 でですでです。 でです。 でですでです。 でですでですでです。 でですででです。 ででですでですでです。 でですででででです。 でででででででででで	・にやや法・っ作型握・っ作神運機・っ作の・お素重情心即種情 手てすや 手てす経動能手です自日け材量報身し類報 と、る体 と、る筋にとと、る然常るやの収のたの収 腕物人重 腕物た骨関構腕物屋環生物種知集状物知集 ををのを ををめ格す造をを内境活品類識方態品識方 使操体把 使操のとる 使操外 にの、や法	・に品類とセ・物認をを援き・観握をを援す合のをがス物のし使操をる本やし使操技人わ素整でメや状,っ作安技人意、っ作術のせ材えきン人況手です全術の思手ですがたやるるト、をと、るに「価をと、る態物種こアカ動確腕物支で「値把腕物支	・演 ・っ作例もる・向法る・の対をと・二をる講習 手てすは提。よけを。介体象確。ボク受こ影 と、る受出 りた考 護格者認 デス講と形 腕物介講を 自支え 従とのす ィのし。 をを護生求 立援さ 事介体る メ講てと 使操事にめ に方せ 者護格こ 力義い	345(心よ度る段段段本身りが)
48	d445 0引く こと	様々、手では、大きでは、大きでは、大きでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はな	・にやや法・や手てりにをる体・のやっ寄の料心即種情 様物、引、動し人重様物手でせ場りし類報 々を腕き他かよのを々を、物た所以物知集 素指使せ場行と型握素手を引、動ぶ態品識方 材やった所為すや 材指使き他か	・に品類とセ・のやっ寄のすに・観握素手を本合のをがス様物手でせ場支で本やし材指使人わ素整でメ々を、物た所援き人意、のやっのせ材えきンな、腕をりにをるの思様物手で状たやるるト素手を引、動安技価を々を、物態物種こアカ材指使き他か全術値把な、腕を	・に ・のやっ寄のす受出・向法る・に祉を演す 様物手でせ場介講をよけを。心応機考をめ な、腕をりに事にめ自支え のてのる 素手を引、動例もる立援さ 状、活。心。 材指使き他かは提。に方せ 況福用	345(心よ度る) は (心よ度る) は (心よ度る) は (心よ度る) は (心よ度る) は (心よのに易が) は (心よのに) は (心はのに) は

			す筋にと・のでは、 おおいい おり はい かり はい かり はい かり はい かり かり はい かり はい かり はい がっ でい かり にい かり にい かり にい かり にい かり はい	引き寄せたり、他の場所に動かす支援技術	・介体をといる。 がある がある がん	
49	d445 1 押す こと	様を 腕遠を を を に で で で で で で で で で で で で で	・にやや法・や手て為すや・のやっけ経動能・のやっけ自・お素重情心即種情 様物、遠をる体様物手てる筋にと様物手でる然日け材量報身し類報 々を腕ざし人重々を、物た骨関構々を、物屋環常るやの収のたの収 な手をけよのをな、腕をめ格す造な、腕を内境生物種知集状物知集 素指使るう体把素手を遠のとる 素手を遠外 活品類識方態品識方 材やっ行と型握材指使ざ神運機 材指使ざの にの,や法	・に品類とセ・のやっけ全術・観握素手を遠技本合のをがス様物手てるに 本やし材指使ざ術人わ素整でメ々を、物支で 人意、のやっけのせ材えきンな、腕を援き の思様物手てる状たやるるト素手を遠をる 価を々を、物支態物種こアカ材指使ざ安技 値把な、腕を援	・に ・のやっけは提る・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 様物手てる受出。よけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す 々を、物介講を りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ な、腕を護生求 自支え のてのる従とのす ィのし中る 素手を遠事にめ 立援さ 状、活。事介体る メ講て中。 材指使ざ例も に方せ 況福用 者護格こ 力義い心。 材指使ざ例も	345(心よ度る)、中では、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が、日本のに見が
50	d445 2 手を 伸ばす こと	様を を で で で で で で で が で で が に が の の に が の の に が の の の に が の の の に が の の の の の の の の の の の の の	・心身の状態に即した物には極難を情報を表する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・本合の素をでする。それではいるではないではないできますが、これではいるできないできないできないできないできないできないでは、いっちがある。	・演習をかる。・検をからのをからのではのではのではできます。・様をできますが、・様をできますができますができます。・満足のできますができますができます。・演習を表すができますができます。・演習を表すができますができます。・演習を表すができますができますができます。・演習を表すができますができますができますが、・対しているのできますができますができますができますができますができますができますが、・演習を表すができますができますができますができますができますができますができますができま	3段階・5段階の心よりが上がる。

			すや・の腕のたりす経動能・の腕のたりす自・お素重情る体様物を方り、る筋にと様物を方り、る然日け材量報のをな、っ伸触っめ格す造な、っ伸触っ内境生物種知集体把素手でばったのとる 素手でばった外 活品類識方型握材と物したり神運機 材と物したりの にの、や法型を	りす全術・観握素手でばった技、るに 本やし材と物したりす 人意、の腕のたりす の思様物を方り、る 価を々を使に、握支 値把な、っ伸触っ援	提る・向法る・に祉を・の対をと・ニをる出。よけを。心応機考介体象確 ボク受こめ 立接さ 状、活。事介体る メ講てめ 立接さ 状、活。事介体る メ講てに方せ 況福用 者護格こ 力義い	
51	d445 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	様を腕さたす人ししで、たちもの手回回た、促配践が、転しり本 慮が	・にやや法・や手てりりする体・のやったりす経動能・のやったりす自・お心即種情 様物、回、、る人重様物手てり、る筋にと様物手てり、る然日け身し類報 々を腕転回曲行のを々を、回、曲た骨関構々を、回、曲屋環常るのたの収 な手をさしげ為体把な、腕転回げめ格す造な、腕転回げ内境生物状物知集 素指使せたたを型握素手をさしたのとる 素手をさした外 活品態品識方 材やった りすや 材指使せたり神運機 材指使せたりの にの	・に品類とセ・のやったりす全術・観握素手をさした技本合のをがス様物手てり、るに 本やし材指使せたり術人わ素整でメ々を、回、曲支で 人意、のやったりすのせ材えきンな、腕転回げ援き の思様物手てり、る状たやるるト素手をさしたをる 価を々を、回、曲支態物種こアカ材指使せたり安技 値把な、腕転回げ援	・に ・のやったりすは提る・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 様物手てり、る受出。よけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す 々を、回、曲介講を りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ な、腕転回げ護生求 自支え のてのる従とのす ィのし中る 素手をさした事にめ 立援さ 状、活。事介体る メ講てい。 材指使せたり例も に方せ 況福用 者護格こ 力義い心	345(心よ度る段段段本身りが)

	ı	1	T	•	•	_
			素材や種類, 重量の知識や 情報収集方法			
52	d445 4 投げ ること	様を腕持加るの安介る。様を腕持加るの安介る。	・にやや法・や手てげて人重・のやっえる筋にと・のやっ上える然・お素重情心即種情 様物と物、空のを様物手ててた骨関構様物手てげて屋環日け材量報身し類報 々を腕を力中体把々をと、空め格す造々をと物、空内境常るやの収のたの収 な手を持をに型握な、腕力中のとる な、腕を力中外 生物種知集状物知集 素指使ち加放や 素手ををに神運機 素手を持をにの 活品類識方態品識方 材やっ上える体 材指使加放経動能 材指使ち加放自 にの、や法	・に品類とセ・のやっ上えるに・観握素手を持をに術本合のをがス様物手でげて支で本やし材指使ち加放人わ素整でメ々をと物、空援き人意、のやっ上えるのせ材えきンな、腕を力中をるの思様物手でげて支状たやるるト素手を持をに安技価を々をと物、空援態物種こアカ材指使ち加放全術値把な、腕を力中技	・に ・のやっ上える受出・向法る・に祉を・の対をと・二をる演す 様物手でげて介講をよけを。心応機考介体象確 ボク受こ習す 々をと物、空護生求りた考 身じ器え護格者認 デス講とをめ な、腕をカ中事にめ自支え のてのる従とのす ィのし中る 素手を持をに例もる立援さ 状、活。事介体る メ講てい。 材指使ち加放は提。に方せ 況福用 者護格こ 力義い	345(心よ度る) 段段段本身りが) でのに易が
53	d445 5つか まえる こと	手指ですがある。 を素るた、 を素るた、 を素るた。 を素るた。 を素のできる。	・にやや法・腕様動をりり人重・腕様動をりりい即種情 手を欠いつ、、のを手を欠いつ、、別たの収 やっ素いまめ持型握やっ素いまめ持状物知集 手て材るえたすや 手て材るえたすり まのたの収 やっ素いまめ かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かっまいきが かった る体 いっかん こる かった こう	・に品類とセ・腕様動をりり支で・観握手ての本合のをがス手を欠いつ、、援き本やし、様動人わ素整でメ指使なてか止把をる人意、腕々いのせ材えきンやっ素いまめ持安技の思手をなて状たやるるト手て材るえたす全術価を指使素い態物種こアカ、 の物た るに 値把やっ材る	・に ・腕様動をりり介講を・向法る・に祉を演す 手を欠いつ、、護生求よけを。心応機考をめ やっ素いまめ持例もる自支え のてのる中る 手て材るえたすは提。立援さ 状、活。心。 、 の物た る受出 に方せ 況福用心。	345(心よ度る)段段本身りが)。

			たけい では できない できない できない できない できない できない できない できない	物をつかまえ たり、止めた り、把持する 支援技術	・介護と が保 が保 が保 が保 で が の は で で で で で で の で で の で の で の で の で の で の し の の の の の の の の の の の の の	
54	d8他定手のd9不のと使44そののと使4詳明、腕用5の特、腕用5細 手の	介らく行自全護明で財支本しし法。で、促慮方るの安介説のこの安介説のであるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、たるの安介説のでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	・にやや法・肘のを・肘め格す造・る屋環の上の地域を支型握を支神運機で肘外のたの収でえやいえ経動能を支をの状物知集 くる体 くる筋にと えつ自然品識方 、人重、た骨関構 く然	・に品類とセ・と認くるに・観握くる本合のをがス物必し、行で本やし、支人わ素整でメ品要,肘為き人意、肘援のせ材えきンの性肘でをるの思肘で技状たやるるト状をを支安技価をを支術態物種こアカ況確つえ全術値把つえ・	講中る ・肘護生求・向法る・に祉を・の対をと・二をる義心。 肘で事にめよけを。心応機考介体象確 ボク受ことに を支例もるりた考 身じ器え護格者認 デス講と演す くる受出 立援さ 状、活。事介体る メ講て習め 、介講を に方せ 況福用 者護格こ 力義い	345(心よ度る)段段は本身のが)。 のに易が
		その他、 d4450~ d4455 以外の 手と腕の使用に 関する支援がで きる	身体構造の 知識対象者の細 かな手を使っ て物を動かす	対象者の手と腕の使用に関する環境についてのアセスメントができる技術。・d4400~d4403以外の手と腕の使用を支援する	・d4450~ d4455 の手 と腕の使用に ついて、検討 する	

		T		++- / N=	1	1
			環境について	技術		
			のアセスメン トができる知			
			1 2 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
55	d449	d430,d435,d	・身体構造の	・対象者の身	講義形式	第7段階
	その他	440,d445以	知識	体機能、取り	1400 1405	
	の特定	下での物の運	がお老の畑	巻く環境につ いてのアセス	d430,d435,	
	の、お よび詳	搬・移動。操作 に関する支援を	対象者の物の運搬、移	メントができ	d440,d445 以外の物の運	
	細不明	説明できる	動、操作を取	る技術。	搬・移動、操	
	の、物		り巻く環境に		作について検	
	の運		ついてのアセ	•	討する	
	搬 • 移 動 • 操		スメントがで きる知識	d430,d435,		
	勤・採 作		この対象	d440,d445 以外での物の		
	''			運搬・移動・		
				操作に関する		
				支援技術・	-#- **	ht = 55.50
56	歩行と	・様々な条件下(理接)での告	・歩行及び移動に関連する	・様々な場	• 講義形式	第5段階
	移動	(環境)での歩 行及び移動の支	動に関連する 身体構造	所・環境と歩 行能力、移動	 ・様々な条件	
		接ができる。		に関する心身	下で歩行が可	
			・様々な場	機能を基にし	能となった	
		・安全に配慮し	所・環境と歩	たアセスメン	り、困難とな	
		た歩行及び移動 の支援ができ	行能力、移動 に関する心身	トに関する技 術	ることへの理 解を目指す。	
		る。	機能を基にし	עוון	所で日1日9。 	
		00	たアセスメン	・様々な条件		
			トに関する知	下(環境)で		
			識	の歩行と移動		
57	d450	様々な条件下	・歩行に関連	の支援技術 ・様々な場	講義形式	第5段階
	歩行	(環境)での歩	する身体構造	所・環境と歩	円我ルノエV	20 FX FG
		行の支援ができ	・様々な場	行能力、心身	・歩行におけ	
		る。	所・環境と歩	機能を基にし	る様々な条件	
		安全に配慮した歩行き揺を行	行能力、心身 機能を基にし	たアセスメン	ト(環境)に	
		た歩行支援を行うことができ	機能を基にし たアセスメン	│ト技術 │・様々な条件	ついて確認す る。	
		る。	トに関する知	下(環境)で	• 様々な条件	
			鶕	の歩行の支援	下(環境)で	
				技術	の歩行支援ニ	
					ーズと支援方 法についての	
					法にういての 理解を目指	
					す。	<u> </u>
58	d450	・対象者の歩行	・下肢の構造	・対象者の歩	• 講義形式	第3段階
	〇短距	機能・取り巻く	(S750)、 体於の提供	一行機能・取り	,上海和左右	
	離歩行	環境についての アセスメントが	体幹の構造 (S760) 筋	巻く環境につ いてのアセス	・歩行動作を 関連する身体	
		できる。	骨格構造	メントができ	構造を確認す	
			(S770) の	る技術。	る。	
		・対象者の歩行	知識。	1 F Z = - + + = + + + + + + + + + + + + + + +		
		機能と環境に応じた歩行支援が	対象者の歩行機能・取り	◆ 歩行支援技 術		
		した少り又抜か できる。	11 機能・取り 巻く環境につ	חויו		
			いてのアセス			
			メントができ			
			る知識。			

		<u> </u>	T			1
			・歩行の支障 要因となる障 害に関する知 識。			
59	d450 1 長距 離歩行	・対象者の歩きでする。・対象を取りいとする。・対能にスメののでする。・対能にあるののでするができる。・対能に歩きる。	・ (S750 構の)・ (S760 骨 (S760)・ (S760)<	対象者の歩対機能環境に対して大機に関われて大力・大力・大力・大力・大力・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・大が・	・講義形 ・講義形式 ・場連を ・場連を ・長で ・長で ・ので ・ので ・ので ・ので ・ので ・ので ・ので ・ので ・ので ・の	第5段階
60	d450 2 ざま面面歩 地床の	対象者の歩行機能・取り巻のアセスンできる。・地面・床面に応びる。・地環境にができる。	・下肢の構造・下方の構造・S750 体の・S760 筋(S770の構造)・大大ので・行格で・行格で・行格で・行機で・行数で・行数で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対象者の歩うでは、行機では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	講義形式さまざまな地面や床面との具体例を受講生に考えてもらう。	第5段階
61	d450 3障害 物をび けての 歩行	対象者の歩行・身体機能、取り巻く環境についてのできる。・障害物を避けるためできる。	す障害の知識 ・下肢の構造 (S750)、体幹の構造 (S760)筋骨格構造 (S770)の知識。 ・対機能・切の表表を ・大機に現から、 ・大機に現から、 ・大機に関いては、 ・大機に関いては、 ・大機に関いては、 ・大地には、 ・大地	対象者の歩 行機能・取り 巻くでのいる がでいたがった・障害物を はである を を を を を を を を を で の が で の が る 技術。・障害物を する ための き た の た り た り た り た り た り た り た り た り た り	・講義形式・講義形式・障害物を対したのはでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、は、は、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるでは、はいるのでは、は、はいるでは、はいるのでは、は、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、は、はいるのでは、は、は、はいるでは、は、はいるでは、はいるでは、はいるでは、は、はいるでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	第5段階

	T		1	1		1
	-1150	1500	・障害物を避けて歩行するための行動に支障をきたす障害の知識		挙げてもら う。	hh = 50 0k
62	d450 8 他定行 d450 の特歩 0459 の特歩 の 9 不歩行	・d4500~4503以外の歩行の支援ができる・対象者の歩行・身体機能、取り巻く環境セスメントができる。	・身体構造の 知識・対象者の歩 行機能・取り 巻く環境についてのアセスメントができる知識。	対象者の歩行機能・取り巻く環境についてのアセスメントがる技術。・ d4500~4503以外の歩行の支援技術	・d4500~ 4503 以外の 歩行につい て、検討す る。	第7段階
63	d455 移動	・歩行以外での 身体を使った移 動方法への支援 ができる。・安全に配慮し た歩行支援を行 うことができる。	・・歩りは から	・身体を存る を使る を を を を を を を を を を を を を を を を を	・講義形式・身体なのである。 ・様にする。 ・様でありてである。 ・様でである。 ・様でである。 ・様でである。 ・た様でである。 ・た様でのといるである。 ・たばいまれる。 ・たばいまれる。 ・ はいまれる。 ・ はいまれる。 ・ はいまれる。	第5段階
64	d455 0這う こと	・対象者のり巻ののができる。・対象である。・追にスる。・追になる。・をしてのができる。・をしてのができる。・をしてのができる。	・下750・下750体幹760筋(S760)(S760)(S760)(S760)(S760)(S760)(S760)(S760)(S760)(A)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10)(基本・10	・対機に ・対機に ・対機に ・対機に でいたが。 ・は で移すが このかすが このがする とに で といすが がの といすが がの といすが がの といすが がの といすが がの といすが がの といっと にもの で といっと で といっと で といっと で といっと で といっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと にいっと に	講義形式・這って移動する具体例を示す。	第 4 段階
65	d455 1 登り 降りす ること	対象者の身体機能、取り巻く環境についてのアセスメントができる。・登り降りのた	下肢の構造 (S750)、 体幹の構造 (S760) 筋骨格構造 (S770)の 知識。	・対象者の身体機能・取り 巻く環境についてのアセス メントができる技術。	・講義形式・様々な場面での登り降りと必要な動作について考えてもらう。	第4段階

	めの環境整備の 支援ができる。 ・登り降りのた めの支援ができ る。	対象者の身体機能・関切ののでは、がまれてのかがいできる知識。・登り降りのできるのででは、・登りなるのででは、・登りなるのででは、・できるののでは、・できるののでは、・できるののでは、・できるののでは、・対象を表するののでは、・対象を表するののでは、・対象を表するののでは、・対象を表するののでは、・対象を表するののでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは、・対象を表するのでは	・登り降りを 支援するため の技術	・登り降りするために るために を を を を を は で で き に り に り で で り で り で り で り で り で り で り で	
d455 2 走る こと	対象者の身体機能、可りを表すのできる。・走るための環境を表する。・走るためのできる。・走るためのできる。・走るための支援ができる。	 ・ (S730) ・ (B730) ・ (B730) ・ (B750) ・ (B750) ・ (B750) ・ (B750) ・ (B770) ・	・対象を を を を い い い い い い い い う が る さ る き る き る き る き る き る き る る る る る る	・講義形式・走ることに必要な身体機能をとり上げる。	第5段階
d455 3 跳ぶ こと	・対象者の身体機能、ロットが環境にファファできる。 ・跳ぶための環境を含った。 ・跳ができる。 ・跳ができる。 ・跳ができる。	 ・上下 ・とでは、 ・とでは、 ・とでは、 ・ながらのでは、 ・ながらのでは、 ・ながらのでは、 ・ないのでは、 ・な	・対機能、気がある。・対機能環境である。・支援がいる。・支援がの技術	・講義形式・跳ぶために必要な身体機能をとり上げる。・	第5段階
d455 4 水泳	対象者の身体機能、取り巻く環境についての	・頭頚部の構造(s710)肩部 の構造(s720)	対象者の身体機能、取り 巻く環境につ	講義形式身体機能に	第7段階

	アセス。 ・ 接が できる。 ・ 接が すり 体 できる。 ・ おがで 機 化 シー のの (まつ できる) を は できる。 ・ わり フンの (まつ できる) を は できる。	上(肢(体(筋(知 ・リン用(関 ・体巻いメる ・合化ーポ産(知泳障障肢の73样7の6格7。 化ース生4る 象能環のト識 体せレョツ 4。こ因に構の造り構の構の ・シポ産の知 者、境アが。 機たクン用 の とと関造))造) しョー品)識 の取にセで 能文リ・の) のなすで が で で で で で で で で のなす	いメる ・合化ーポ産(選術 ・支のアが。	合化・ポ産て調う ・必能り ・必能り ・ のい生ら と体て。 こういる。 こういる。 こういる に機取	
他(定) 如 d4	その の特 の特 の移4558 以外の移 動の支援ができる155 詳細 明の・対象者の歩 行・身体機能、 取り巻く環境に	知識 ・身体構造の知識 ・対象者の身体機能、取り 巻く環境についてスメントができる知識。	対象者の身体機能、取り巻く環境についてのアセスメントができる技術。・ d4550~4559以外の移動の支援技術	 講義形式 d4500~ 4503 以外の 移動につい て、検討する。 d4500~ 4503 以外の 移動につい て、検討する。 	第7段階
さま	・さまざまな場所での移動支援ができる。・安全に配慮した歩行支援を行うことができる。	さまざまな場所でのとり場所でという場所できる。りを構造・ はいまでのはいるのではいる。・ はいますのではいる。・ はいまする。・ はいますのではいる。・ はいまする。・ はいまする。・	さまな 場所での移動 に関連した 力と環境を基 にしたに メントに る技術様々な条件 下(環境)。 所での歩行の	・講義形式・さまざまな場所について確認する。・さまざまな場所での支援ニーズと支援方法についての理	5 段階

			る知識	支援技術	解を目指す。	
71	d460 O 自宅 内の移 動	対象者の身体機能、取り答のアセスのアセス。自宅内のののであるのである。移動のであるのである。移動のできるのである。	 上 上 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・対機能、境ののは、・対機能では、・対機能では、・対策をは、・自ををは、・動をのは、・動をのがる・動をのがある。	・講 ・講 ・講 ・ 電に - て様 の移、入、動こて ・ 自動シし 場とも	第3段階
72	d460 1 自宅 以外の 屋 動	対象者の身体機能、環境にスメークでである。を屋内移動のためのできる。を屋内移動のためできる。を屋内移動の支援ができる。	関す ・ (S7 ・ (対象者の別の場合を表すの別の別の別の別のでは、対象を表すのでは、・自のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、・屋のでは、	・講義・実内で記い動こで・受以移、入、場ともののつトもなあ解。自屋いにら移るして	第3段階
73	d460 2屋外 の移動	対象者の身体機能、取り巻のアセスメンできる。・屋外移動のためのきる。・屋外移動の支援ができる。・屋外移動の支援ができる。	 上肢の構造 (S730) 肢の構造 (S750) 体幹の構造 (S760) 筋骨格構造 (S770) 知識。 ・対機能環のの 料能である。 ・対象者、取り をくてのアントができる、メントが る知識。 	対象者の身体機能、取り 巻くのがでいて、メントが、を支援がの移動を支援術	講義・講義・野豚にーて々るし・日本のでは、・日本のでは、・日本のでは、・ はずいにのは、・ はずいには、・ はずいにはいは、・ はずいにはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはい	4 段階

			・移動の支障			
			となる障害に 関する知識			
74	d48他のまなで動d9不のまなで動Oの定さま所移 O細 さま所移	・d4600~ 4602 以外での 移動の支援がで きる ・対象者の歩 行・身体機能、 取り巻く環境に ついてのアセス メントができ る。	・身体構造の知識・対象者の身体機能、取り巻く環境についてのアセスメントができる知識。	対象者の身体機能、取り巻く環境についてのアセである技術。・ d4600~4602以外での移動の支援技術	・講義形式 d4600~ 4602 以外で の移動につい て、検討す る。	第7段階
75	到 d465 用具の移動	対象者の身体機能、である。移動とできる。を移動の生のができる。をを確したののできる。をを確したできる。	・ L S 730	移面の品では、移た(e120)を技術を性でできるでは、を機には、を機には、をを動からのでは、ををしますができるが、をを動きますができるが、をを動きますができるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、できるが、<l< td=""><td>・講義形式・移動のためのいける。・移動のおいける。・移動のためののでは、ののでは、ののでは、ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、</td><td>第5段階</td></l<>	・講義形式・移動のためのいける。・移動のおいける。・移動のためののでは、ののでは、ののでは、ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	第5段階
76	d46の特、び不、と ののよ細の行動	・d450 455 460 465 以外 での歩行・移動 に関する支援が できる ・対象者の歩 行・身体機境に ついてのできる メントができる。	・身体構造の 知識・対象者の身体機能、取り 巻く環境についてのアセス メントができる知識。	対象者の身体機能、取り巻く環境についてスタントができる技術。・ d450 455 460 465 以外での歩行・移動に関する支援技術	・講義形式 d450 455 460 465 以 外での歩行・ 移動につい て、検討す る。	第7段階
77	交通機 関や手 段を利	・利用者の自立 に向けた、移動 のための交通機	・利用者の心 身の状況(神 経筋骨格と運	・本人の生活 行動範囲のア セスメントカ	講義形式交通手段を	3段階 4段階• 5段階

	用しての移動	関るを・た交をのと・件お関た利実説の手護明全動機したでの(て手動者とのでです動機を変更を変更をを通り、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	動能・ででは、手移のでするでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	・交通機関や 手段を変えるので ・・変をできるので ・・でである。 ・・でである。 ・・でである。 ・・でである。 ・・でである。 ・・でである。 ・・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・ででは、 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・でででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででである。 ・ででではでしてである。 ・ででではでしてでもでではできでではできでではできででではできででででですででででででででででで	提出で、生自間た内る・手移スるの、人しのすがたりする。 では は は は は は で は で は で は で が で が で が で	(本人の 心身能に より難易 度が上が る)
	d470 関段動 (機手移	・にのし手護明・た乗機用援で・件お関た利実説利向たて段支で安移客関しをきど下いや移用践明用けめ交を援き全動とやた行るの(て手動者すでの、乗機い法。配たて段動こ う境交を方協方る自移客関るを 慮め交をのと な)通用法議法。立動とや介説 しの通利支が 条に機いをしを立動とや介説	・身経動能・に交段めけ観・交段動自・る利の筋にと移乗通をにる 乗通をす然交環者況格す造のと関い護の と関い屋境に整の(とる)たしやるを価 しやて外 関備心神運機 めて手た受値 て手移の す	・行セ・交段動援・観握しやた技・動ス乗通ををで本やして手移術の囲ンと関い全るの思乗通をのちしたに。価を客機用支部があります。一個を名の思乗通をのがある。のは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個で	・ ・提ビ把く・生自間た内る・手移スる・	345(心よ度る) は関係を受ける のに易が のに易が のに易が のに易が かんしゅう のんしゅう かんしゅう かんしゅん しゅんしゅう かんしゅん しゅん しゅんしゅん しゅん しゅんしゅん しゅんしゅん しゅん しゅ
1	d470 0 人よ通利 に交段用	人力を用いて 一人力を用いて 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力を 一人力で 一人力で 一人力で 一人力で 一人力で 一人力で 一人力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力力で 一力で 一	・にに関報・交用型握・交用神運機・交供知りのた交識方に関入重 に段た骨関構に段分手る物にと力手る物にと力手るや状人通や法よをのを よをめ格す造よを社報態力機情 る利体把 る利のとる る提の収	・に力手き・交供の容エスる。	講 ・交カ舟)以く。 交利用クな人通にを確認 る人ぎ光少いよのリす る人ぎ光少いよのリす	4 段階 (心よ度る) (心よ度る)

	T	Г	1 44-1-31	T	1	, ,
			集方法 ・人力による 交通手段を利 用する自然環 境			
80	d470 1 つ私通の 動き的手利 の交段用	私のい上す人しし説 がのい上す人しし説 があいいとは、そのででです。 かんがい とう かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんが	・にな交識方・つ段人重・つ段た骨関構・つ段会情・つ段手る心即動通や法私きをのを私きをめ格す造私きを社報私きに段自身し力手情 的の利体把的の利のとる 的の提の収的のよを然のたつ段報 な交用型握な交用神運機 な交供知集な交る利環状私きの収 動通すや 動通す経動能 動通す識方動通交用環態的の知集 力手る体 力手る筋にと 力手るや法力手通す	・に的の提・つ段るビーをがれ合な交案私きを会スビ調でありの提社内スベきの世力手きな交供の容工るる。状たつ段る動通でサなリこ。	議義形式・私的な動力である。	45(心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心よ度る) (心より) (心はり) (心は
81	d470 2 つ共機利 が関係 は は は は は は は は は は は は り る の ら の ら り の り の り の り の り の り の り の り の	動交て空行自全護きのたり、あるの安介でであるの安介でであるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介であるの安介である。	・につ通や法・公をのを・公をめ格す造・公を社報・公にの即き手情 動共利体把動共利のとる 動共提の収動共よのた公の収 つ通すや つ通す経動能 つ通す識方つ通交状動共知集 き手る体 き手る筋にと き手るや法き手通態力交識方 の段人重 の段た骨関構 の段会情 の段手	・に力交案・公を会スビ調でもつう通で動共提社内スベきのせの段るの通でサなリこ。状を公を。き手きーサアとが動共提の段るビーをが	講義形式 ・動力つきの 公共の利用の の利用の リスクを確認 する。	45(心よ度る)・のに易が

			段を利用する			
			自然環境			
82	d48他定交関段用d9不の通やの0の特、機手利 0細 交関段用	d4700~ d4702 以外の 交通機関や手段 の利用に関する 支援を説明でき る	 ・身体構造の ・身体構造の ・対する は4700~ は4700~ は4700~ は4700~ は4700~ は4700~ は4700~ は関すいメるの ・は4700~ が動している ・対の ・対の	・対象者の特定の手環のでは、・対象を通にについるでは、・は4702以関のでは、・は4702以関連をできるが、・は4702以関連をは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のでは、・対のは、・対のは、・対のは、<!--</td--><td>講義形式</td><td>やとは、</td>	講義形式	やとは、
83	d475 運転や 操作	・や動るるる・にのの関方る・た乗操援で・件おの利し法る乗操作ここ。利向た運す法。安移り作をきど下い運用、を。り作のとと 用けめ転るを 全動物に行るの(て転者実説物が応をが 者たのや介説 にのの関う。よ環もやと践明の操用説で の、乗操護明 配た運すこ う境乗操協すで運作で明き 自移り作支で 慮め転ると な)り作議るき転系あす 立動物に援き しのや支が 条に物を 方	・身経動能・に転るを価・など制用状骨関構動の特にと移乗やた受値交どス度を引きられたのでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、いうでは、いうでは、いうでは、いうでは、いうでは、いうでは、いうでは、	・本動スの生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の	・ 手移スる・転乗理ンとる・ すりなる・転乗理ンとる・ すりなる・転乗理ンとる・ すりなる・転乗理ンとる・ すりなる・転乗理ンとる	第6段階
84	d475 O 人力 によ通 段の 作	・人の乗りで操作をでした。 大人乗りで操作のでいた。 ・ はいかった が乗りを がった	・人き類と知り、 ・大きででは、 ・大きのでは、 ・大きの	・する果体・する果するスクの・かかり・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・作を・がります・がります・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・で・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・<l< td=""><td>講義形式 ・乗り物の移りでは、 ・乗り切りでででは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では</td><td>第・士害にた能物でみきにたいである。生になるのでは、 「はないでは、 はないでは、 はないではないでは、 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで</td></l<>	講義形式 ・乗り物の移りでは、 ・乗り切りでででは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・乗りでは、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では	第・士害にた能物でみきにたいである。生になるのでは、 「はないでは、 はないでは、 はないではないでは、 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで

	術について説明 することができ る。 ・移動の自立を 支援する福祉用 具、機器(各種車 いす)などについ て説明すること ができる。	る知識 ・福祉用具、 機器(車いす、 三輪自転車な ど)に関する知 識	・福祉用機器 を利用した自 立支援	確認する。	士で、障害者の視点で多様で 高で発力で通いである。
d475 1 つ交段転 の手運	・り徴する・に能の明き・に術する・支器ーすどする動物にる。乗必と運する乗必にる。移援シ、、にる。付種いと 物変体方こ 物ないと のるい動祉いとお類てが の身機法と の支てが 自福・車車てがのと説で 運体能をが 運援説で 立祉力い両説で乗特明き 転機別説で 転技明き を機	・運り特知・転る身す・に転る・ル電ど識害でのに り必身構知種わ法識祉ー車関者き種関 物要機造識乗せに 機力いすでる類す のと能に りた関 器一する 異な、関 物運す シ、な知	・す把のト・転身ス・転援・利支本る握ア力乗に状メ乗に技福用援のりるスー物要のト物要(機た運物たメーのなアカのな、器自運心セー運攻と、のなアカのないのないが、選心セー運支を立	講・転にを・全たりメが確認・転にを・全たりメが確認の運動ク。安る乗、スを運動り、安る乗、スを	第 ・士害にた能物でみ・士害点る境でみ6 学でや合運なに考る学で者で交に考る段 生、麻わ転乗つえ。生、の考通つえ。階 同障痺せ可りいて 同障視え環いて
d475 のよ通のようのようである。 1 のよう 1 のよう 2 のよう 3 のよう 3 のよう 4 の	・る類でが・る作機別説で・る作技明き・支操つこ動交と説で動交に能の明き動交に術する移援作いと物通特明き物通必と操する物通必にる。動す機でがの手徴するの手要身作る。の手要つこ のる器説で力段にる。力段な体方こ 力段ないと 自車な明きにのつこ にの身機法と にの支てが 立体どするよ種いと よ操体能をが よ操援説で を、にる。	・操物交類す・よのと能に・よ段合方知・を体な知障作の通とる動る操な、関動る、わ法識移支、ど識害で力手特知物交作る身す物交乗せに 動援操に者きに段徴識の通に心体るの通りた関 のす作関でるよのに 力手必身構知力手物操す 自る機すも動る種関 に段要機造識に に作る 立車器る	・すに段たメ・よのなアカ・よのな・さ操を作本るよをめン動る操心セ 動る操支個れ作利の人動る把のト物交作身ス 物交作援別た機用自の物交握アカの通に状メ の通に技に車器し立操の通すセ カ手必態ン カ手必術設体なた支作力手るス に段要のト に段要 計、ど操援	講 ・よの移スる・よをすは管ナこる	第 ・士害点る境てみ6 学で者で交に考る。
d475 8 その	d4750~ d4752 以外の	身体構造の 知識	・対象者の特 定の運転や操	講義形式	第6段階

	他定運操化9年 のの転作 は475細 で が作	運転や操作に関する支援を説明できる	・対象者が利 用する d4750~ d4752以外 の運転や操作 を説明できる ・d4750~ d4752以外 の運転や環境についてのア セスメントが できる知識	作に関する環境についてのアセスメントができる技術・d4750~d4752以外の運転や操作を支援する技術		
88	d480 交段てにこ の手し物る	対象者の 射象者の り巻で のの のの のの のの での のの での のの での のの での のの の	対機では、 対機では、 対機では、 対域の ができない がった	対象者の身体機能では、	・講義形式・動物移動を受けるである。・動物をである。	第6段階
89	d4ののよ細の通やをし移9他定お詳明交関段用の	d470,d475,d 480 以外での交 通機関や手段を 利用しての移動 支援を説明でき る	・身体構造の知識・対象者の交通機関や取の利用を取りを表してのができる知識	・対機関の表すので・対機関のを・対数のを・対域のので・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・はいったが・対して・はいった・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の・対の<	講義形式	7 段階
90	d498 その他 の特定 動・動	今後の課題				
91	d499 詳細不 明の運 動・移 動	今後の課題				

(試案) 5、セルフケア • • 学習計画表

\U-V.						
	テーマ	修得すべき内容			学習方法上の 留意点	備考
		コンピテンス	ナレッジ (知識)	スキル (技術)		
1	d5 セルフケア 概論	・セルフケアと できる。 自分の健康を管 理する。 ・自分のと できるの健康を できるの できるの できるの できる。	セルフケアの内容に 関する知識 ・健康を管理する知 識	セルフケアと は何かについ て説明できる 技術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 3 段 階
2	S-810~ 820 皮膚および 関連部位の 構造	・皮膚の構造を理解できる・構造を理解のある行為を行うことができる	皮膚および関連部位の知識	観察しアセス メントする技 術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 3 段 階
3	d 510 自分の身体 を洗うこと	・自分の身体を 洗うために必要 な手法、手技、手 順を想起するこ とができる。	・自分の身体を洗う行為に関する知識	・自分の身体 を洗うための 手法、手技、 手順を説明で きる技術	個人ワーク グループワー ク 講義	第3段階
4	d5100 身体の一部 を洗うこと ①	・調で・整き・状切福ワチ面する・や洗する・器うる適整き安える対況な祉一ェ器る。対希身る。シ具こなる。なこ、者に入用、ア等こ、象望用こ、ヤをとなる。なこ、者に沿具ション、シと、者に品と、ワ適が湯こ、環と、のじ用(ヤ桶をが、の応をが、一切がっている。 のいまで 好じ準で 特にできにでをが をで 体適・ャー洗備き みた備き の扱き	・る・る・た社・知・定は関すする・た社・知・定は関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関	・をのこ技・にのこ技・を入祉扱・に伝技・み身で皮傷一と術障応一と術身洗浴用う障応達術対の用き膚め部が 害じ部が 体う用具技害じが 象応品るやずをで やてをで のた具を術、てで 者じを技頭身洗き 疾身洗き 一め、取 疾意き のた準術皮体うる 病体うる 部の福り 病思る 好洗備	講義演習(事例検討)	第 3 段階

			<u> </u>		I	
				・入浴機器を 取り扱う技術		
5	d5100 身体の一部 を洗うこと ①	・部切トき・指把き・届洗分きのかのでする対の握る対か身のである。象殊し。象なでのの能活の部な助がきがある。からかがある。	・障害、疾病に関する知識 ・皮膚疾患(頭皮を含む)や感染症に関する知識 ・自立支援に基づき、身体の一き、分助に関する知識	・身のでは、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		第4段階
6	d5101 全身を洗う こと	・適整き・クッ死乾等安える・に品シャスムルをが ・状身適やゃら 冷切する浴(ク、燥)全る。対応(ヤン、、、準で 対況を切福りの温こ 内一転傷表回環と 者た、プー顔身がする 者応う入用・室度と のト倒脱裏避境が の洗ボー、フ用シる。 のじた浴具チ温にが リシ、水剥すをで 希身デ、リォタ等こ 身、め用(ェを調で スョ溺、離る整き 望用ィシンーオ)と 体全の具シア	・おメッ傷剥識・知・たす・入特知の以上の、一般のでは、 は、 は	・浴リメト転火乾離す・望身で・に伝技・た具特取洗時スンシ倒傷燥等る対に用き障応達術全め福殊り身にクトョ、、)技象応品る害じが身の福浴扱及おマ(ッ溺脱表を術者じを技、てでを入相槽うびけネヒク死水裏回のた準術疾意き 洗浴具等技入るジー、、、剥避 希洗備 病思る う用、を術	講義 動演習 (事例検討)	第3段階 第4段階
		等)、特殊浴槽 (チェア浴、ス トレッチャー浴 等)を選択し、準				

		備することがで				
		言る。				
7	d5101 全身を洗う こと	・にをき・膚にする・指把き・届洗分きプ配洗る全のアる。対の握る対か身へるブ配洗る全のアる。対の握る対か身へるバ、と 態をメが の能活 の部な助シ全が や適ンで 両カ用 手分いがかきか 皮切トき 手をで のや部で	・入では、 ・入では、 ・入では、 ・入では、 ・人では、 ・人では、 ・人では、 ・人のは、 ・しいは、	・一洗術・皮適メ技・基をでプロ身 全膚切ン術自づ洗きれば、アで支、こ技がして、 こ技をできるる に身が	講義 演習 (事例検討)	第4段階
8	d5102 身体を拭き 乾かすこと	・調うる・クッ水避境が・にを助 ・膚にする・指把き ・届対脱整こ。脱(ク、すをでプ配拭が 全のアる。対の握る 対かし場適が のト倒)全る。バ、かる 態をメが の能活 の部体室にで リシ、をなこ シ身す。 や適ンで 両カ用 手分を室にで リシ、をなこ シ身す。 や適ンで 両カ用 手分を	・ス(転に・慮か識 ・含す・状メ ・きす・介脱クト、)にきる 皮に 大変 もい はいりょう かい はいりょう はいりょう はいりょう はいりょう はいりょう はいりょう はいりょう はいから はいから はいから はいから はいから はいから はいから はいから	 けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・けネ(ッ脱を術・一身か) ・は、カンシー・基を技術のフンシーでは、 ・は、カンシー・基を技術のフンシーでは、 ・は、カンシー・基を技術のフンシーでは、 ・は、カンシー・基を技術のフンシーでは、 ・は、カンシー・基を技術のファイン・ ・は、カンシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	講義演習(事例検討)	第3段階 第4段階 第3段階

	Т					, ,
		き乾かすことが できる。 ・頭皮を傷める ことなく、安全 に髪を乾かすこ とができる。		頭皮と髪を 傷めることな く安全に乾か す技術		
9	d 5108・ 09 その他の特定の、自分のでは りまた。 のも分のでは は5109 詳細ののでは 自分のでは は5109 は は5109 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	そ状用身理で上拭拒者測へ他やに動するの方をの可が様々じ方こべ身、る応なす対能がなるに法とッ、洗利、状のなた法とッ、洗利、状)な利洗をがド清身用予況な利洗をがド清身用予況	通常の身体を洗う介 助ができない場合の 対応方法に関する知 識	通常の身体を 洗う介助が合う きない場合の 対応が行える 技術	事例検討 PBL 学習 講義	第5段階
10	S830~8 40 皮膚および 関連部位の 構造 S320 口の構造	・ を理りで構る・ 解すでは・ 解する・ を理りで・ を進める・ 解析の・ を持める・ を持める・ を持める・ によって・ によって	・爪、毛の知識	観察しアセス メントする技 術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 の 段 遒
11	d520 身体 各部の手入 れ	・身体各部の手入れに必要な手法、手技、手順を想起することができる。	・身体各部の手入れ に必要な行為に関す る知識	・身体各部の 手入れに必要 な手法、手技、 手順を説明で きる技術	個人ワーク グループワー ク 講義	第3段階
12	d5200 皮膚の手入れ	・を確認している。 ・を確認している。 ・をでもこのででして、 がでも、はいででです。 ・でも、はいででです。 ・でも、はいでです。 ・でも、はいででする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいでする。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいでも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいできる。 ・でも、はいでも、はいでも、はいでも、はいでも、はいでも、はいでも、はいでも、はい	・たこや魚の目を確認できる知識 ・たこや魚の目ををとる知識 ・たこの知識 ・加州の状態には、一をは、一をは、一をは、一をは、一をは、一をは、一をは、一をは、一をは、一を	・目・目を術・合すシ水技・携体たをたを使 肌わるョを術多す的さるかるす 状て湿や用 種際術魚技魚用る 態使口化す とのの術の具技 に用ー粧る 連具	講義 演習 (事例検討)	第3段階

						I
13	d5201 歯	• 歯の状態(摩	歯磨きの必要性に	歯磨きの必	講義	第
	の手入れ	耗、欠損等)や歯	ついての知識	要な物品を使	演習	3
		肉の状態、歯垢	・歯磨きに必要な物	用する技術	(事例検討)	段
		の有無等に応じ	品の知識	・歯の汚れや		階
		た歯の手入れに	・歯の状態や状況を	歯肉の状態に		
		必要な物品の準	アセスメントする知	応じた歯磨き		
		備ができる。	部	の技術		
		• 歯磨きができ	・ 歯科医や歯科衛生	・歯科医や歯		
		る	士と連携する知識	科衛生士と連		
		・歯間清掃に必	・歯間清掃の必要性	携する技術		
		要な物品が準備	の知識	・歯間清掃に		
		でき、状態や状	• 歯間清掃に必要な	必要な物品の		
		況に応じた歯間	物品の知識	使用技術		
		清掃ができる	• 歯間清掃前後の状	・歯間清掃の		
		・ 義歯や歯科矯	態をアセスメントす	技術		
		正具の手入れに	る知識	• 歯間清掃前		
		必要な物品が準	・ 義歯や歯科矯正具	後の状態をア		
		備でき、状態や	の必要性についての	セスメントす		
		状況に合った義	知識	る技術		
		歯や歯科矯正具		・歯科医や歯		
		の手入れができ		科衛生士と連		
		る		携する技術		
				・義歯や歯科		
				矯正具の取り		
				扱いの技術		
				義歯や歯科		
				矯正具の手入		
				れの技術		
	15000 F	E:+-+ / - 1	Estat (a Land		=++ -+-	tr.tr.
14	d5202 頭	・髪をすくこと	・髪をすくことの必	・必要な物品	講義	第
	髪と髭の手	に必要な物品	要性(美観、清潔保持	を用いて髪を	演習	3
	入れ	(くしなど)、髭	など)を理解できる	すいたり髭を	(事例検討)	段
		を剃るのに必要	知識	剃る技術		階
		な物品(髭剃り	髪をすくことや髭	・髪や髭を整		
		など)を準備で	を剃る(くし、髭剃り	えるの化粧品		
		きる	など)物品に関する	を使用するに		
		髪をすくこと	知識	関する技術		
		や髭を剃ること	髪や髭を整えるの			
		ができる	化粧品に関する知識			
		・髪や髭を整え				
		るための化粧品				
		を準備し、使用				
. =	15000	できる。		— ·- ·	-++->-	
15	d5203 ≢	手の爪を清潔	・手の爪を清潔にす	・手の爪を必	講義	第
	の爪の手入	にするために、	る必要性についての	要な物品(爪	演習	3
	れ	必要な物品が準	知識	切り、やすり	(事例検討)	段
		備できる	・手の爪を安全に切	等)を使用で		階
		・手の爪を切る	るのに必要な物品	きる技術		
1		ことができる	(爪切り、やすり等)	手の爪の状		
			の知識	態を把握し安	ì	1

		・手の爪を磨く ことに必要ななる ・手の爪を磨く ことができる	・手の爪の状態を把握し安全に切るための知識 ・手の爪を安全に磨くのに必要な物品(爪切り、やすり等)の知識 ・手の爪の状態を把握し安全に磨くための知識	全に切が ・ 手に切が ・ 手に切が ・ 手をできる できる できる できる できる できる できる できる できる できる		
16	d5204 足 の爪の手入 れ	・に必備・こ・こ品・ことす要で足と足とが足とが足とがないでででいるなきのがのに準のがのにかる爪で爪必備爪でがいる磨なき磨るをきを要でをきる。く物るく	・足の爪を清潔にする別識・足の爪を安全に切る(爪知識の爪を安全に切る)ののののののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	・要切等き・態全の・全必(すい・態全のの物、を技の把切術の磨な切等技の把磨術のおのででである。	講義 演習 (事例検討)	第3段階
17	s540 腸の 構造 S610 尿路 系の構造	・腸の構造を理 解でいるの構造を理解でいるのでのでは を理解できるのででででです。 ・構造のでででするとができる。	・腸、尿路系の知識	観察しアセス メントする技 術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 3 段 階
18	d 530 排 泄	排泄に必要な 手法、手技、手順 を想起すること ができる。	・排泄に必要な行為に関する知識	・排泄に必要 な手法、手技、 手順を説明で きる技術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 3 段 階

	T					1
19	d 5300 排 尿の管理	・状意・の(握・状握たと・場の状握する・状握たと・状握衣下と・状握部たりと対況を対夕習で対況し姿が排所対況しる 対況し姿が対況し類げが対況しをめ、が象に確象イ慣き象と排勢で尿ま象と適こ 象と排勢で象と排をたで象と排清の支でのじでのミ의 の境にする適行の境にが の境にするの境前げするの境後に由する身たき排ンを 身を適る しく身を支で 身を適る 身を後たる 身をにすをる身たき排がと 体形しこ た際体把援き 体把しこ 体把にりこ 体把陰る知こ	・い・切ュ識・勢・をの・る・す・の・つが識のでシな関る適る 移環 脱 潔知を出て傾尿関る 移環 脱 家部でシな関る適る 移環 脱 家田でシな関る適る 移環 脱 家田でシな関る適る 移環 脱 家田でシな関る適る 移環 脱 アリカ の の た 姿用 関 把 し 由	・思握ュン聴・し持・たすを術・に・を応・関・つ対をでニのな排たす排姿る使 移関周把で衣し陰い象適きケ技ど尿姿る尿勢福用 動す囲握き類で部でのにコシ(関を術適保用る 移技環し技脱技潔技恵生ョ傾 連保 し持具技 乗術境対術に術に術	講義演習の検討)	第 3 段 階
20	d5301 排 便の管理	・ 対況を 対別に確認者 を対タ間で対況し が別を がののでの を対タでで対況し を対別にする を対別にする をができる を通る を通る を通る を通る を通る を通る を通る を通	・排便の知識 ・対の知識 ・対の知識のであるさますが、対ににないではできませいができませいができませいができませいができませいができませいができませいができませいができませいができませいができませんが、 ・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教師・ 教	・思握ュン聴・し持・たすのにコシ(関をが適きなが、関をが通りではどのでは、というでは、関をが、のにコシ(関をが、のにコシ(関をが、のにコシ(関をが、のにのは、関をが、のにのは、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、というでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	講義 演習 (事例検討)	第3段階

		・場の状握する・状握たと・状握衣下と・状握部たりと排所対況しる 対況し姿が対況し類げが対況しをめ、が便ま象と適こ 象と排勢で象と排をたで象と排清の支でにで者環切と 者環便にき者環便上りき者環便潔理援き はく身を支で 身を適る 身を後たる 身をにすをる た際体把援き 体把しこ 体把にりこ 体把陰る知こ	・周囲の環境を把握する知識・衣類着脱に関しての知識・陰部清潔の理由についての知識	を術・に・を応・関・つの物は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では		
21	s540 腸の 構造 S610 尿路 系の構造	・腸の構造を理の構造を理のするの構造を理解でいるのでは、・理解では、・構造を理解できるのでは、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、・機関では、<	・腸、尿路系の知識	観察しアセスメントする技術	個人ワーク グループワー ク 講義	第 3 段 階
22	d5302 生 理のケア	・対況してでないい状 を 予 過を生て、 や 表とて、 きないい 態 を まる まる まる まる まる まる まる また ができる かいがった ができる かいがん かいがん かいがん かいがん かいがん かいがん かいがん かいがん	・生理の必要性に関して(周期・月経前症状の有無、ピルの有無、ピルの有無、ピルのもの知識・適切な生理用品のないでででではないではないではないではないではないではないではないではないではな	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	講義 演習 (事例検討)	第 3 段 階
23	d 540 更 衣 d 5400 衣 服を着るこ と	・社会状況と気 候条件に合った 衣服や手袋、帽 子を準備するこ とができる	・着衣の種類や文化 的習慣などに関する 知識 ・着衣に関する自助 具(着衣エイド、ボタ	・着衣に関する自助具(着 衣エイド、ボタンエイド、 ズボンの上げ	講義 演習 グループワー ク	第 3 段 階

・必要な自助具 ンエイド、ズボンの 下ろしの補助 を準備すること 上げ下ろしの補助 具、姿勢保持	
ができる	
・身体機能に合しの椅子や手すり)にしや手すり)にしたける。おける。おける。	
わせて、切る動 関する知識 関する技術 関する技術	
作のアセスメント・身体機能をアセスト・身体機能、	
トができる メントするための知 衣服の状態に	
・身体機能、衣 識(手指の痛みの有 応じて下半身	
服の形状に応じ 無、関節の可動性(b に衣服を着る	
て上半身に衣服 710)筋肉の機能 支援ができる	
一	
・身体機能、衣 ・身体機能、衣服の 衣服の状態に	
服の状態に応じ 状態に応じて下半身 応じて下半身	
て下半身に衣服 に衣服を着る行為が に衣服を着る	
を着る行為がで できる知識 ができる技術	
・身体機能、衣服の ・手袋、帽子、	
・手袋、帽子、か 状態に応じて下半身 かぶり物、ネ	
ぶり物、ネクタ に衣服を着る支援が クタイをつけ	
イをつける支援 できる知識 る支援ができ	
ができる ・手袋、帽子、かぶり る技術	
物、ネクタイをつけ	
る支援ができる知識	
24 d 5401 衣 ・衣服を脱ぐ際に使 ・衣服を脱ぐ 講義	第
服を脱ぐこ 用できる自助具(着 際に使用でき 演習	3
と 衣エイド、ボタンエ る自助具(着 グループ '	フー 段
イド、ズボンの上げ 衣エイド、ボ ク	階
下ろしの補助具、姿 タンエイド、	
勢保持のための椅子 ズボンの上げ	
や手すり)の知識 下ろしの補助	
・身体機能を把握す 具、姿勢保持	
るためのアセスメン のための椅子	
トの知識(手指の痛 や手すり)の	
みの有無、関節の可 技術	
■ 動性 (b710) 筋肉 • 身体機能、	
の機能(b730)麻 衣服の形状	
・身体機能、衣服の ぶり等)に合	
形状(前開き、かぶり わせて上半身	
等)に合わせて上半 の衣服を脱ぐ	
身の衣服を脱ぐ支援 支援ができる	
ができる知識 技術	
・身体機能、衣服の ・手袋やかぶ	
よおに会かせてエソーの地の形はに	
N. B.C.	
身の衣服を脱ぐ支援 合わせ脱ぐ支	
タの衣服を脱ぐ支援 合わせ脱ぐ支 (ズボン・スカート 援ができる	
身の衣服を脱ぐ支援合わせ脱ぐ支(ズボン・スカート援ができる等)ができる知識技術	

25	d5402 履 き物を履く こと	・合準で・じッたき・大わ備き身でもある機下である機下である機下である。というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	靴を用ドイめの・るトみ動の痺・応キ支・応援下履具、ドの知身たのの性機の身じン援身じがたく(ス、椅識体め知有(能有体てグが体ででスたソト姿子機の選無り(し)能下履き能物るとと手関の)の、くるのを知れてがのりを担け、など、大きに、など、大きに、は、は、は、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、	・状てト履援術・のて支技を能応、グのる機応はきないにある機応はきないで、身態物がのじスを支技をじくる	講義 演習 プワーク	第3段階
26	d5403 履 き物を脱ぐ こと	・身体機能にストッカー・身体機能にストッカー・リングを援ができる。・	靴を用ドイめの・るトみ動の痺・ッが下履具、ドの知身たのの性機の安キでスたソト姿子機の調無7107というというないのクキ保手を把ス指節ののかが、ぐれて、大の知身をから、では、1000の東・ッがを担け、1000の東・ッがを対し、大変・では、1000の東・ッがで知り、では、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東がでは、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東・ッがでは、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の東には、1000の		講義 演習 プワー	第3段階
27	d5404 適 切な衣服の 選択	・明示はいってないでは、いかではいってないでは、のでは、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	 ・暗黙の衣類についての関係ではいての関係ではいての知識 ・着ではいるをはいるを表するのでは、 ・も習慣を関する知識 ・身体機能に応のでは、 ・りを選ぶたの知識によるの有無、 指の痛みの有無、 	・身体機能をアクロの では できませる できません できません でき できません できません できません できません できる できません できない しょう しょう しょう しょう しょう しょう できない しょう	講義 演習 グループワー ク	第3段階

			# 0 T # W () T :	D + L + +		1
28	s510 唾液	切な衣類を選ぶ ではながでいる では、 では、 では、 では、 では、 では、 ででする ででする ででする ・ ででする。 食道、 食道、 食道、、 食道、、 食道、、 食道、、 食道、、 食道、、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	節の可動性(b71 O)筋肉の機能(b730)麻痺の有無)・目的や行動に合うとができる知識・気候に合きる知識・気候に含数表できる知識・できる知識を選択することができる知識・唾液腺、食道、胃の	・に服こ技・せ類こ技・の世界でに切択でに切択でに切択でに切択でをとが、のでをとが、はのででである。 カスるる カスるる ファー	個人ワーク	第
	腺の構造 s 520 食道 の構造 s 530 胃の 構造	胃の構造を理解 できる ・構造を理解し 根拠のある行為 を行うことがで きる	知識	メントする技 術	グループワー ク 講義	3 段 階
29	d550 食べ ること①	・対象者のある。をというできる。のは、これのでは、これののでは、これののでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは	・障害・疾病に応じ た意思伝達に関する 知識 ・高齢者や障害者の 心理、音、光に関する 知識	障害・変素を ・変える ・変える ・のででででいる。 ・のででででいる。 ・のでででできる。 ・のででできる。 ・のででできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のででできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のでできる。 ・のででできる。 ・のででできる。 ・のででできる。 ・のでででできる。 ・のででできる。 ・のででできる。 ・のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	講義 グループワー ク	第 3 段 階
30	d550 食べ ること②	・た保き・認き・状全とでこをめする飲する疾態にが、とな姿ことことでのある。病に飲でしができまで、おいからまでではなったがですが、というではない。 かんと にいい なが きが きいい ない きょう きょう きょう きょう きょう きょう しょう はい	・身体機のでは、 ・身体機のでは、 ・身体機のでは、 ・身体機のでは、 ・身をでするののでは、 ・ののでは、 ・ののでは、 ・ののでは、 ・ののでは、 ・ののでは、 ・のをは、 ・のとは、 ・のとは、 ・のとは、 ・のは、 ・のは、	・がを術・のてき・に全がるで確 障特環る疾応に会すなにという技術をでいる技術をでしまでのでは、みでではないで、まなきのでで、まないで、まないで、まないで、まないで、まないで、まないで、まないで、まな	講義 演習 グク	第3段階
31	d560 飲むこと①	・対象者の好み の飲み物を把握 することができる。 ・飲むことを楽 しめるの配慮 もへの配慮	・障害・疾病に応じ た意思伝達に関する 知識 ・高齢者や障害者の 心理、音、光に関する 知識	障害・疾病に 応じてきる技 強ができる技 術 ・高齢者や障 害者の特徴に 心身の状態に	講義 グループワー ク	第 3 段 階

		ムルな の==±なが	T		<u> </u>	
		や光等の調整が		応じて、環境		
		できる。		を調整できる		
	1500	05-2 15- 0 VE 15		技術	=++ ->	<i>t-t-</i>
32	d560	飲み物の瓶や	・嚥下のプロセス、	誤飲を防ぐ	講義	第
	飲むこと②	缶、蓋等を開け、	嚥下障害に関する知	ための姿勢を	演習	4
		嚥下状態に応じ	鶕	確保する技術	(事例検討)	段
		た飲み物を準備		・疾病や障害		階
		することができ		に応じて、容		
		る。	・飲む行為に関する	器を傾け口ま		
		・対象者の身体	容器、用具、福祉用具	で運ぶことが		
		状況に応じた適	の知識	できる技術。		
		切な容器、用具、		・障害や疾病		
		福祉用具を準備	・障害、疾病に関す	に応じ、条件		
		することができ	る知識	に対応した飲		
		る。	嚥下のプロセス、	み込みを快適		
		・飲み物を容器	嚥下障害に関する知	且つ安全に介		
		に注ぎ、対象者	識	助できる技術		
		の疾病や身体状	• 誤飲を防ぐための	・飲み込み		
		況に応じて、適	姿勢に関する知識	(嚥下)を確		
		切な場所へ置く		認できる技術		
		ことができる。				
		• 安全な嚥下の				
		ための姿勢を確				
		保することがで				
		きる。				
		• 疾病や障害の				
		状態に応じ、安				
		全に飲みこみが				
		できる位置に容				
		器を傾け、口ま				
		で運ぶことがで				
		きる。				
		条件(グラス、				
		コップ、ストロ				
		一、流水、母乳				
		等)に対応した				
		飲み込みを介助				
		することができ				
		る。				
		・飲み込み (嚥				
		下)を確認する				
		ことができる。				
33	d570 健康	• 身体的快適性	バランスの取れた	・バランスの	講義	第
	に注意する	や健康をおよび	食事に関する知識	取れた食事を	グループワー	5
	こと	身体的•精神的	・適切なレベルの健	摂ることの技	ク	段
		安寧を確保する	康活動についての知	術		階
		ことができる	識	• 適切なレベ		
			• 適切な温度を保持	ルの健康活動		
			することの知識	を維持する技		
			• 健康を害するもの	術		
			についての知識			

			<u> </u>	/ *	T .	
			・安全な性生活に対する知識 ・予防接種、定期検診についての知識	・をと・る技・活術・受・受適保の健も術安にうけたすがををなすがいる期るはまずくますがいる期のはまずくますが、はずくますが、はずくますが、はずくますが、はずくますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいますが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまがまが、はずいまがまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、はずいまが、<!--</td--><td></td><td></td>		
34	d5700 身 体的快適性 の確保	・事休たとる・時・確・をのことは、に姿が、で照る快るできでは、で照る快るででないが切で体保育がでいるというでは、で照る快る受きでいる。 まき明 適たける	・生活場では、	・(入になす・環湿援・(作を援・っ適を術生食浴お姿る快境度す適生業確技対た性支活・休の多支適(等る切活環保術象身の援場排息快確技生度を術照境等る に的要る面・)適保術活、支 明、)支 あ快性技	講義 演が プク	第5段階
35	d5701 食 事や体調の 管理	・食品を選択し、・表に、・調で力維持を・要ととを・表に選べる・要とき・を・を・ででるでで	・(別、限対対のは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	・つ習健栄援・つ習健食工・つ習健体対た慣康養す対た慣康材す対た慣康材す対た関康大名象(年態期技者好齢等を満にみ別等を満にみ別等を満にみ別等を満にみ別等を満にみ別等理満にみ別等に合、、、、)支合、、、、)加合、、、))必	講義 演習 グループワー ク	第5段階

				要な運動を支援する技術		
36	d 5702 健 康の維持	・握対で・健すやので・理診受す(煙き健し応き疾康るサ必き健す、ける肥凍康、する病状たプ要る康る健健生満動状リる を態めリ性 状た康康活所等態ス行 予をのメを 態た診を活止)がを変ン理 をめ断維行、が把にが し持品ト解 管受を持動禁で	・場知・状のト・る関・る止つ・場別・状のト・る関・る止のには、できるでは、では、では、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできる。できるできるできるできるできる。できるできるできるできるできる。できるできるできるできる。できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。できるできるできるできるできるできるできるできる。できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	リメントの摂 取を支援する	講義 演習 プク	第 5 段 階

(試案) 6、家庭生活 • • 学習計画表

科目名	家庭生活	第1	ブロッ	第2	第3なし	第3	授業回
		レベル	ク	レベル	の第2	レベル	数計
以下の作成バージョン・コマ数		3	3	11	0	22	39

	テーマ	修得すべき内容			学習方 法上の 留意点	備考段階
		コンピテンス	ナレッジ (知識)	スキル (技術)		
1	d 6. 家 庭 生 活•基本①	・家庭生活における暮らしの概要を理解することができる。・生活体験から生活支援援助を想起することができる	暮らしに関する 知識	説明をする 技術観察	講義	第3段階
2	d 6. 家庭生活・基本②	・家庭生活における 生活 行為 の概要を理解する ことができる	生活行為に関する知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義	第 4 段階

		11 - 11 - 12 - 13 - 13 - 13 - 13 - 13 -			Т	
		・生活体験から生活支援 援助を想起することが できる				
3	d 6. 家庭生 活・基本③	・人生や日々の生活について思考し、家庭生活とは何かを理解することができる・生活体験から生活支援援助を想起し、展開することができる	人生・生活の質 に関する知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 グプワ ク	第5段階
4	d 6. 活需 d 6. で の d 6. で の d 62 の で を を で を で で を で で で で で で で で で で で	・家庭とは、 ・家の必には、 ・家の必には、 ・のの連のでは、 ・のの連のでは、 ・のの連のでは、 ・ののをは、 ・ののをは、 ・ののをは、 ・ののをは、 ・ののをは、 ・のののでは、 ・ののでは、 ・の	・物品・物品・物品・物型 ・物品・製する知識 ・物品 要 期間 ・専門の知識 ・専門の知識	・説明をする 技術 - ズにス シト技術 ント技術	講調 習 PBL の 学 な演	第5段階
5	d 6. 概論 家論 の を は 630 は 30 は 30 は 30 は 30 は 30 は 30 は 30 は	・家庭生活を継続するに 学 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・家事・紹済状 院・製する知識 ・関する事に ・関する知識 ・専門職連 関する知識	・説明をする 技術 ・コーズに関 する ・ 大技術	講	第5段階
6	は活庭理援は用はへは他庭れ援は他庭のので、家理他、その手へ、そののののは、用・助のの生物のでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きない はいい はい は	・め者のでは、 のは、 ののは、 のののののののののの	・理助約知・要・に・関いのででである。 とのでは、 とので	・説明をする技術ニスアセ大技術	講調習 PBと習 学 な演	第5段階

		- 7600 + 47+		T		1
		・ニーズに即した生活支援として意図的に関わることができる				
7	d 6.家庭生 活・各論①d 610 住居の 入手	・日常生活を送る上での 住居の入手の必要性に ついて理解できる。 ・心身の状況に応じた生 活支援のためのアセス メントができる ・ニーズに即した生活支 援が展開できる	・住居・経済状況・契約行為に関する知識 ・住居の入手に必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階
8	d 6.家庭生活・各論② d620 物品の入手	・日常生活を送る上での物品の入手の必要性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生活支援のためのアセスメントができる・ニーズに即した生活支援が展開できる	・物品・経済状況・契約行為に関する知識 ・物品の入手に必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段趨
9	d 6.家庭生活・各論③ d620 サービスの入手	・日常生活を送る上での サービスの入手の必要 性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生 活支援のためのアセス メントができる ・ニーズに即した生活支 援が展開できる	・サービス・経済 状況・契約行為 に関する知識・サービスの入 手に必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階
10	d 6.家庭生活・各論④ d629 その他、特定の必需品の入手	・日常生活を送る上での 特定の必需品の入手の 必要性について理解で きる。 ・心身の状況に応じた生 活支援のためのアセス メントができる ・ニーズに即した生活支 援が展開できる	・物品・経済状況・契約行為に関する知識 ・特定の必需品の入手に必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階
11	d 6.家庭生活・各論⑤ d630 調理	・日常生活を送る上での 調理の必要性について 理解できる。 ・心身の状況に応じた生 活支援のためのアセス メントができる ・ニーズに即した生活支 援が展開できる	・調理・経済状況・契約行為に関する知識 ・調理に関わるために必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 演習 (新計) 実技 選	第4段階
12	d 6.家庭生活・各論⑥ d640 調理以外の家事	・日常生活を送る上での 調理以外の家事の必要性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生活支援のためのアセスメントができる ・ニーズに即した生活支援が展開できる	・家事・経済状況・契約行為に関する知識 ・調理以外の家事に関わるために必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 演習 (検討) 実 接 選 習	第4段階
13	d 6.家庭生活・各論⑦ d649 その他、特定の家事	・日常生活を送る上での 特定の家事の必要性に ついて理解できる。 ・心身の状況に応じた生 活支援のためのアセス メントができる	・家事・経済状況・契約行為に関する知識 ・家事全般に関わるために必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセスメ ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階

		ニーズに即した生活支				
		援が展開できる				
14	d 6.家庭生活・各論® d650 家庭用品の管理	・日常生活を送る上での 家庭用品の管理の必要性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生活支援のためのアセスメントができる ・ニーズに即した生活支援が展開できる	・家庭用品の管理法・経済状況・契約行為に関する知識 ・家庭用品の管理に関わるために必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階
15	d 6.家庭生活・各論9 d660 他者への援助	・日常生活を送る上での他者への援助の必要性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生活支援のためのアセスメントができる・ニーズに即した生活支援が展開できる	・他者への援助・ 経済状況・契約 行為に関する知 識 ・他者の援助に 関わるために必 要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 (事例 検討)	第4段階
16	d 6.家庭生 活・各論⑪ d 669 その 他、特定の 庭用品の チス	・日常生活を送る上での 家庭用品の手入れの必 要性について理解できる。 ・・心身の状況に応じた 生活支援のためのアセ スメントができる ・ニーズに即した生活支援が展開できる	・家庭用品の管理法・経済状況・契約行為に関する知識 ・家庭用品の手入れに関わるために必要な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 事 例 検討)	第4段階
17	d 6. 家庭生活・各論⑪ d 698 その他の特定の家庭生活	・日常生活を送る上での 特定の家庭生活の必要性について理解できる。 ・心身の状況に応じた生活支援のためのアセスメントができる ・ニーズに即した生活支援が展開できる	・家庭生活・経済 状況・契約行為 に関する知識 ・家庭生活に関 わるために必要 な知識	・説明をする 技術 ・ニーズに関 するアセス ント技術	講義 演習 事 例 検討)	第4段階
18	d 6. 必 家需おな 以におな d 6100 住居のの 住居のの は d 6100 住居のの も を を の を を の の り り り り り り り り り り り り り	・住居を選択する上での 情報収集、適切な判断、 相談、住居選択の助言を 専門家に相談するため の支援ができる ・書類手続き、支払い、 引き渡しの際の留意る に関する支援ができる	・報・(産す・す・況い知・有のすき間では、の出門不にに発える本に方識契権プラスをは、		講義ルワ	第4段階
19	d 6.家庭生 活・必におす 具体的な支援 で d 6101 住居の賃貸	・賃貸物件を選択する上での情報収集、適切な不動産会社を提案、本人の意向や経済状況にあった賃貸物件を選択できるよう支援する。必要な書類の手続き、契約に関する適切な判	・住宅の賃借に 関する知識 ・不動産会知識 ・契約締結に関 する知識 ・契約後から使 用権を得るまで		講義 グプワ ク	第4段階

	T				Т	1
		断ができるよう専門家 を提案することができ る	のプロセスに関する知識			
20	d 6. 家庭生 活・になる 具体 3 d 6102 家具調度の整備	・欲しい機能を備えた家 具の提案や、動線や地震 による家具の転倒等も 考慮した設置の支援が できる ・家具等の設置方法や、 本人好みの生活スタイ ルを把握することがで きる	・家型 知部 会別 ・家む 部部屋知 ・野球 ・野球 ・配識 ・野で でで でで でで でで でで でで でで でで でで でで でで でで で	・本人の生活 スタイルに合 った模様替え の技術	講義ルワ	第4段階
21	d 6. 多に の 1. 多に の 1. 多に の 200 の 1. の 200 の 1. の 3.	・を適す・入段で・際説・理適法が・法き・かい貯と物選正る心手、きイの明支、正、利物をる貯か、蔵がいいった名が、いいったるの度を案でするので、でいりのでは対しているのでででであるのででです。 できまい でんしん でんしん でんしん でんしん でんしん でんしん でんしん でんし	・に・(関・格・(取る・手知・に・品関・トる・じ知・入・一識・イ入方識・す・法・扱識入関情補す物に情補り知希方識交関入のすイの知経た識消にクドークン以法 公る安に壊いすする伝器知のす伝器い 物に サるする知夕用 状銭 頻すジ関 ポ等の関 扶識なす物関る知達等識適る達等に 品関 一知べ店識ーに 況管 度るッす ン金支す 助 運るのす物識用) 正知用)関 のす ビ識き舗 ネ関 に理 と知トる や銭払る に 搬知取る品 具に 価徴具のす 入る ス 物に ッす 応の 購載力知 ポ購い知 関 方徴り知	カードに関す る技術 ・安全な運搬 方法に関する 技術	講グプク・そでば物の義ルワーのあ買部実	第3段階

			・配送業者に関			
			・配送業者に関する知識 ・貯蔵場所に関する知識 ・貯蔵部法に関する知識 ・在庫で関する知識 ・在の知識			
22	d 活入具⑤ d 日の d そとの6.・手体 62のサスの (4) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・を適す・入段で・際説・理適法が・法き・かい貯と・を適す・入段で・際説・理適法が・法き・かい、蔵がのので記をするが、いい、では、取の商きに全で、カリッのを、では、のでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いい	・に・(関・しる・穫知・理・法・関・る・す・所・ュす・適に収関情補す物悪知希方識消に安に収す荷知配る安に貯アる収し関集す報聴る品し識望法 費関全関穫る造識送知全関蔵ル知穫たすする伝器知品) 物に やすなすし知り 業識なす方等識し貯るの知達等識質に 品関 在る運るた識に 者 貯る法) た蔵知物識用) の関 のす 庫知搬知物 関 に 蔵知マに 物方識品 具に 良す 収る 管識方識に す 関 場識二関 に法	・品報・に手メ・にサにス・収す・管技 ・方技・す・理術収に収心応段ン心応ー関メ希穫る消理術 安法術荷る片整集関集身じのト身じビすン望方技費に 全に 造技付頓すすののたア技のたスるト物法術や関 な関 り術けうるる技状移セ術状交選ア技品に 在す 運す に (の物情術況動ス 況通択セ術の関 庫る 搬る 関 整技	講グプク	第3段階
23	d 6. 家具 家事体的 支援① d 6300 簡単理	・賞晴知のでは、できない、で実やじ援い、で実施である。 は、 「賞明をでは、 「真に、 「真に、 「は、 では、 には、 では、 には、 には	・法・に・口疾識・に・関・福具識・福る食に一関食一患 一関簡す調祉) 食祉知材関般す事ルに 般す単る理用に 事用識のす的るのが関 的るな知に具関 に具管るな知コ必す な知調識必(す 必に理知栄識ン要る 調識理 要自る 要関理知栄識ン要る 調識理 要自る 要関方演養 トな知 理 に な助知 なす	・るト・理術・に・な扱・に付す・関メ 食アの一に 簡関調福う食合ける食すン 事セ技般関 単す理祉技事わの技事るト にス術的す なるに用術制せ加術動アの 関メ なる 調技必具 限て減 作セ技 すン 調技 理術要を 等味を にス術	講グプク演 *でば実義ルワ 習 可あ調習ーー 能れ理	第3段階

		ォークなどを食卓に配				
		置できる				
24	d 活け支 d 6. で 6. で 8 は 6. で 8 は 6. で 8 は 6. で 7 で 8 で 8 で 7 で 8 で 8 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9	・賞消しアてが・す・本なき・にリ度択・慮ォを関係している。 とのは、大学を表している。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をである。 は、大学をできる。 は、大学をいる。 は、大学をは、大学をいる。 は、大学をいる。 は、	・法・に・値か代知・に・目立が・福具識・に・福具識・福る・デす食に献関食段るな識一関食的をで調祉) 一関調祉) 食祉知ティる材関立す品や電ど 般す事に考き理用に 般す理用に 事用識ーネ知のすのる調調気に 的るの応えるに具関 的るに具関 に具 ブー識管る決知味理、関 な知場じる知必(す な知必(す 必に ルト理知め識料にガす 栄識面たこ識要自る 調識要自る 要関 コに理識の識料にガす 栄識面たこ識要自る 調識要自る 要関 コに方識方 のかスる 養 や献と な助知 理 な助知 なす 一関	・るト・関メ・な扱 ・理術・な扱・に付す・関メ・一に食アの調すン調福う 一に 調福う食合ける食すンテデ関事セ技理るト理祉技 般関 理祉技事わの技事るトーィすにス術動アのに用術 的す に用術制せ加術動アのブネる関メ 作セ技必具 なる 必具 限て減 作セ技ルー技すン にス術要を 調技 要を 等味を にス術コト術すン にス術要を	講グプク演 *でば実義ルワ 習 可あ調習 ーー 能れ理	第4段階
25	d 6. 家事体 をにおなる は6400 を は6400 を は6400 を は6400 を は り り り り り り り り り り り り り り り り り り	・手洗いする衣類の選のでは、分けででは、分けででででででででできる。 ・手洗いするでででできる。 ・手洗いするででででできる。 ・大いするのでできる。 ・大いするのでできる。 ・大したのでできる。 ・大したのでできる。	9・る・関・水す・に・・に・る・知・する・干知る・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・一角・	・す・に・術・す・る・たす・セ術 手る感関手 する脱技衣干る干ス 洗技染す洗 す技水術服し技しメ に 対技の に 関 適に のト 関 策術技 関 す し関 ア技	講グプク演 *でば実 義ルワ 習 可あ洗習 ーー 能れ濯	第の段階
26	d 6. 家庭生活・家事における具体的な支援④	・雑巾、雑巾絞り道具の 購入や 使い捨ての雑巾の提案 ができる	・作業台の掃除 と用具の洗浄に 必要な心身状態	・作業台の掃除と用具の洗浄に必要な心	講義 グルー プワー ク	第3段階

	d6401 台所の開 の洗浄	・指定の場所できる。 ・指定の洗浄をる。 ・洗浄をる。 ・洗浄できる。 ・洗浄できる。 ・洗りできる。 ・洗りできる。 ・洗りできる。 ・洗りできる。 ・洗りではできる。 ・洗りではできる。 ・洗りではできる。 ・洗りではできる。 ・洗りではできる。 ・洗りではできる。 ・だいてきる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいではないできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だいできる。 ・だ	の知・に知・設識・す・関・納法・す・掃知ア識作必識台備 清る食す台場に清る清機識ス 台な の関 用識洗知用やす用識用にメ の用 構す 具 浄識具収る具 具関 別 に 収 の納識関 清る	身ス・除具術・とで・使術・が・のス・収納で・使術・清え・清ン術状メ作にが 台設き清い 食使食メ業台納方き清い 清掃る清掃テのト台要え のを技用な 器え器ン務所場法る掃こ 掃機技掃機ナア技のなる 構使術具す 浄技浄ナ 具や工術具す 具が 具のスセ術掃用技 造用 を技 機術機ン の収夫 を技 や使 やメ技	演 * でばの	
27	d 6. 家事体 支援⑤ d 6402 居住 居除	・掃除をするにある。 ・掃除をするにきるできるのできるのできるのが舞りのできるのが舞りのできるのがからいかできる。 ・はいかではいかではいかではいかでは、 ・はいかではいかできる。 ・はいかでは、 ・はいかでは、 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいかできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はいできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないできる。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・はないでもな。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・な。 ・	・備・識・す・備・方・方・ト関・・す・備・識・す安にほにモにおのす水清る安にか 清る安に整 清る安にほにモにおのす水清る安にか 清るなす整 業識なすきすプす除り知き業識なす拭 業識環 の に 境知使知使知ボい 知に 境知の に境知使知が知い 知に 境知の に り 整	・整技・技・に・い技・い技・術・整技・技を関係が整備で関係では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	講グプク演 *検表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第4段階
28	d 6. 家庭生活・家事における具体的な支援⑥	・色物、汚れ物の選別、 洗濯表示の説明ができ る	・衣服の素材に 関する知識・洗濯表示に関する知識	・アイロンの かけ方に関す る技術	講義 グルー プワー ク	第 3 段階

	d6403	• 衣服に適したネットの	・ 洗濯機に関す	・片付け(整	演習	
	家庭用器具の使用	使力法をである。	る・関・関・す・る・関・す・す・全知・る・環・知・る・剤知洗す衣す洗る乾知衣す洗るアる電管識掃知動境食識皿知皿に識濯る服る濯知燥識服る濯知イ知化理 除識線整器 洗識洗関洗知の知表識機 の知表識口識製に 機 の備に いいす剤識素識示 に 素識示 ン 品関 に 確の関 に 機る利識素識示 に 素識示 ン 品関 に 確の関 に 機る等 材 に 関 材 に にのす 関 保技す 関 用知に に 関 す に 関 関 安る す や術る す 洗識に	理整備・持る動環が、では、関する動場が、では、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関	*学表	
29	d 6. 家庭生活・家事体的な対象の 対象ででは 対象でである。 対象である。 対象である。 は6404 日常必需品の の貯蔵	・優先的に消費すべき食べ物、適した保存方法、温度、保管場所を選択する支援ができる・安全に保存できる接所を選択する支援ができる。ま虫から衣服を守りいてきる・まはができる。	・賞味期限に関するのでは、まままでは、まままでは、まままでは、まままでは、ままままでは、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、まままが、まままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、ままままが、まままままが、ままままが、ままままが、ままままが、まままままが、まままままが、まままままま	・適した保存方法に関する技術	講グプク演 *学表 義ルワ 習 自習会 モディー・ 宅発	第3段階
30	d 6. 家庭生活 は 5 まで は 6. 家事体的 で 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	・ゴミを集めるための用 具選択、清掃用具の使り 方の支援ができる ・ゴミの分別方法、とができる ・ゴミの大きさや量によって、家族、専門業者を提案できる ・ケントラをを提案できる ・ケントラックを担理機の使用を提 案できる	・す・門知・法・に・時る・入・門知・所開制 に のすのるの所 頻す処に のすのるの所 頻す処に な調 でいるの所 頻す処に な調 は と知のする 別知し と知のす がまる は と のすの 別知し は ままり は は は は は は は は は は は は は は は は は	・関・方技・方術・方・の 精すゴ法術ゴに を法ゴで を法ゴで を法ゴで なたりす 出る 焼術理の が が が が が が が が が が が が が	講グプク演 *学表 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第3段階

	ı	T		1	1	
			・安全な焼却方法の知識・ゴミ処理機の知識・ゴミ処理機の知識・ゴミ処理機の			
31	d 6. 家庭用品の管理においる具体のでは、 を関係をでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 は他のでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいる	・衣類の汚れを落さった。 を表うにする。 ・サイズ、利用者の心身 状況にあった。 ・サイズ、っることができる。 ・サイズ、ったのけることである。 ・大況であった。 ・で補修ができる。 ・素材にあっがける。 ・素材にあっがける。 でアイロンがける。 でアイロンがはいる。 ・素材にあっができる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にあった。 を要さる。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・素材にある。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・	使・心ス・修・心ス・修・心ス・修・の対し、 ・心スなに更身メンなに更身メンなに更身メンなに更身メンなに更身メンなに要りが、 ・心ス・でであると、 ・心ス・なにでいる。 ・心ス・ないでは、 ・心ス・ないでは、 ・心ス・ないでは、 ・心ス・をできると、 ・心ス・をできると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・のすると、 ・知ばると、 ・知ばないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	・関・理要・関・理要・関・理要・関・理要・関・理要・関・理要・関・理を開る数補支脱る数補支脱る類修援行技のに技為術のに技為術のに技為術のに技為術のに技為術のに技為がのに技為がのに技	講グプク演 *でばの 義ルワ 習 可あ薬実 ーー 能れ品	第3段階
32	d 活のる援650とれのの を開おな 単 に的 1 家庭に的 1 家 位650とれ 0 2 8 は 6 5 7 8 8 8 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	・設の 大き 修 をるこ 化の ・ で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・必識・に・全る・補具道関・住知・に・の使知・装を関・い識・い識・外要 道関住な知内修の具す室環識安関補たい識住や行す調方 清方 家方祭び 具す宅環識装に知のる内境 全す修め方 居家うる理に 掃に 電に装な 具す宅環識装に知のる内境 全す修め方 居家うる理に 掃に 電にが のる外境 や必識使知のに なるやのに の具事知器関 道関 製関値知でに 家要 い識安関 住知手道関 外の業識具す 具す 品するのい識の関 具な 方 全す 環識入具す ・補者 のる のる のるのの 方 安す の道 に なる 境 れのる 内修に 使知 使知	・方術・生把ス術・方術・で握メ・れ具関・使き・に器るス・使き・に道るス道に 本活握メ 道に 本のすン補ののす調うる心合具たメ清うる心合具たメのす の動るト のす の線アのやめい技器と術のた提のト道と術のた提のト使る 日線アの 使る 室をセ技手の方術具の 状調案ア技具の 状清案ア技い技 常をセ技 い技 内把ス術入道に をで 況理すセ術をで 態掃すセ術	講グプク演 *学表 義ルワ 習 自習会 ーー 宅発	第3段階

			手入れのため	家電製品を		
			の道具の使い方に関する知識	使き・使る・使き・に用るス・めい技うる生い技生うる心合品たメ手の方術と術用に 用と術のた提のトれ具関の 品関 品の 状生案ア技ののすで のす をで 態活すセ術た使る		
33	d 6. () () () () () () () (・理を・手で・択認・き依る・をきと・しこき・理を・手で・択認・き依る・をきと・をきと・しこき・理を・手で・択認・き依る・をきと・をきと・しこき・理を・手で・択認・き依る・をきと・をさと・しこきを投票すれる用安き先いを 用択環で用択環でき業が や で、の 者全る ゴ部す 者し境き あ安備 いののこ か な かん で で で を をを をを をを をを が な が な が が が が が が が が が	・卜知・す・れ・に・知・知・入門・るセ・要・関の知・に知・関の知・に知夕の識修る自に修関洗識車識自れ家杖心ス杖な歩わア識歩必識車わア識車必識イ修 理知転関理す車 検 動にの使身メの用行るセ 行要 椅るセ 椅要や理 業識車すのるに に 車関知用状ン使具器心ス 器な 子心ス 子なや交 者 のる専知関 関 等す識に態ト用の使身メ の用 使身メ の用ラ換 に 手知門識す す のる 関の知に知用状ン 適具 用状ン 適具イの 関 入戦店 る る 手専 わア戦必識に態ト 用の に態ト 用の	・イ換・入技・る・なな関に・必術・続必具入技・用援・続必具入技・用援タトの自れ術洗技杖利福す必杖要、歩的要にれ術歩に技車的要にれ術車に技イの技転に、車術の用祉る要のな、行なな関に、行必術椅なな関に、 梅必術や修術車関 に、継に用手な使支、器利福す必、器要、子利福す必、子要や理、のす、関、続必具入技用援、の用祉る要、のな、の用祉る要、のなり交、手る、す、的要にれ術に技、継に用手な、使支、継に用手な、使支	講グプク演・学表義ルワ、習の自習会・ロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第3段階
34	d 6. 家庭生活・家庭用品の管理における具体的な支援(4) d6505	・様々な植物の育て方、 適切な水やり、植物に合った肥料を提案できる ・ガーデニングや、好み の沿った植物を手に入	各植物に適した値える時期に関する知識様々な植物に関する知識	各植物に適 した土壌に関 する技術各植物に適 した植える時	講義 グプワ ク 選	第4段階

	屋内外の植物 の手入れ d6506 動物の世話 d6508 その他の家庭 用品の管理	れるための支援ができる。食用の植物を栽培する。食用の植物を栽培する際別できる。 の留意とに 質した 自動 した がっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい か	・る・知・に・た知・用す・る・関・実門・(す・境関・中故識・しの水知肥識ガ関各土識様もるペ知トすト施店ペ運る自(すぺに等)預て知や識料 ーす植壌 々含知ッ識リるリしのッ動知宅交るッ起に かい識り に デる物に なむ識ト ミ知ミて知ト量識近量知トき関 りるに 関 二知に関 植) に ン識ンい識の) 辺等識の得す を専関 す ン識適す (に 関 グ グる 散に の) 留るる 実門関 す る グ しる 食関 す に を専 歩関 環に 守事知 施店	期	* 検表 事討会	
35	d 6. 家 庭 生活・他者へる 臭体の 援助的な支援 (1) d6600 他者への セルフケアの援助	・食事準備、食事介助、 片づけに関する支援が できる ・入浴準備、入浴介助、 片づけに関する支援が できる ・更衣準備、更衣介助、 片づけに関する支援が できる	・食事に関する知識・入浴に関する知識・更衣に関する知識	・る・る指助・る・る指助・る・る指動を食技食情導技入技入情導技更技更情導技にに提相にに提相にに提相にに提相にに提相にに提相にに提相にに提相にに提相にに提	講グプク演 *検表 * りつ 多 事討会	第4段階
36	d 6. 家庭生活・他者への援助における具体的な支援② d6601 他者の移動への援助	・移動、移動の代替、見守りに関する支援ができる ・タクシーなど別の交通 手段の依頼ができる ・排泄介助の支援ができる	・移動に関する 知識 ・排泄介助に関 する知識 ・入浴介助に関 する知識	・移動に関する技術・移動に関する情報提供、指導や相談援助技法	講義 グプク 演習	第 4 段階

		・入浴介助の支援ができる ・起居動作の支援ができる		・排泄介助に 関する技術 ・重量税、なり クシークの 制度上のの とじ情報収 で情報提供	* 事 例 検 討 発 表会	
37	d 6. 他 家者おな 家者おな の 6. 他に的 の 6. 他に的 の 2. コシ助3 対援 を 6. のの の 7. で の 6. のの が の 7. で の 7. で り の 7. で り の 7. で り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	・コミュニケーションに 関する支援ができる ・代替や、希望や思いを 確認することができる る支援ができる	・コミュニケーションに関す・傾聴や共者・して・ションに関す・ションに関す知識	・ ー すっと すっと コショ すっと コショ を まっと まっと まっと まっと まっと まっと まっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと か	講グプク演 *検表義ルワ 習 事討会	第4段階
38	d 6. 家庭生 活・他おける 関体的な支援 4 d 6604 他者の援助 取への援助	・食事準備に関する支援ができる・食事介助に関する支援ができる・食事の片づけに関する支援ができる	・食事に関する 知識	・食事に関する技術・食事に関する情報提供、 指導や相談援助技法	講グプク演 *検表 義ルワ 習 事討会 ーー 例発	第4段階
39	d 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6.	・健康維持に関する支援ができる ・悪化防止に関する支援ができる ・受診行動への支援ができる	・健康維持に関する知識 ・医療保険制度 利用に関する知 識	・健康維持に 関する技術 ・健康維持に 関する情報提 供、指導や相 談援助技法	講	第5段階

(試案) 7、対人関係・・学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上の留意 点	備考段階
		コンピテンス (学習目標)	ナレッジ (知識)	スキル (技術)		
1	d7 対人関係 入門	対人関係の概念 と重要性につい て理解できる。	多様な対人関係 のあり様につい ての知識		講義を中心としつ つ適宜映像教材の 活用	第3段階
2	d7 対人関係 基礎論	対人関係の基本 について理解で きる。	対人関係における身体的、精神的、社会的などの様々な局面についての知識		講義を中心としつ つ適宜映像教材の 活用	第3段階

3	d710-d729 一般的な対人 関係	一般的な対人関係の種類と内容について理解できる。	対人関係の心理 社会的及び社会 経済的あり方に ついての知識		講義を中心としつ つ適宜映像教材の 活用	第3段階
4	d710 基本的 な対人関係	基本的な対人関係の種類と内容について理解できる。	一対一、1 対多 数、多数対多数な ど様々な対人関 係についての知 識		講義を中心としつ つ適宜映像教材の 活用	第3段階
5	d7100 対人 関係における 敬意と思いや り	対人関係における敬意と思いや の内容につい て理解し、示す ことができる。	状況に見合った 敬意や思いやり についての知識	様々な状況 で敬意や思 いやりを示 す技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
6	d7100 対人 関係における 感謝	対人関係における感謝の内容について理解し、 示すことができる。	状況に見合った 感謝の表現につ いての知識	様々な状況 で感謝を示 す技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
7	d7102 対人 関係における 寛容さ	対人関係における寛容さの内容 を理解し、示す ことができる。	状況に見合った 寛容さについて の知識	様々な状況 で寛容さを 示す技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
8	d7103 対人 関係における 批判	対人関係における批判の内容の 理解と対応ができる。	状況に見合った 批判の示し方に ついての知識	様々な状況 で批判を示 す技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第 4 段 階
9	d7104 対人 関係における 合図	対人関係における合図の内容を 理解し、示すことができる。	状況に見合った 合図についての 知識	様々な状況 で合図を示 す技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第 4 段 階
10	d7105 対人 関係における 身体接触	対人関係における身体的接触の内容の理解と対応ができる。	状況に見合った 身体的接触についての知識	様々な状況 で身体的接 触を行う技 術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
11	d7200 対人 関係の形成・1	対人関係を新し くつくることが できる。	見知らぬ人との 出会いからの対 人関係の形成に ついての知識	見知らぬ人との出会のの形成の形成の形成についての方面の形成についてがある。	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
12	d7200 対人 関係の形成・2	つくった対人関係を維持できる。	公式な関係にある人との出会いからの対人関係の形成についての知識	公式を関係との出対の に出対の ののの のの のの のの のの のの のの のの のの の の の の	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
13	d7200 対人 関係の形成・3	継続的な関係を より発展させら れる。	より親密な関係 にある人との出 会いからの対人 関係の形成につ いての知識	より親密な 関係にある 人からの出対 人関係の形 成について の技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第3段階
14	d7201 対人 関係の終結・1	状況に見合った 社会的に適切な 方法で身近な人 との対人関係を	身近な人との対 人関係の終結に ついての知識	身近な人と の対人関係 の終結につ いての技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第 4 段 階

		終結することが				
		できる				
15	d7201 対人 関係の終結・2	状況に見合った 社会的に適なな 方法でる人人を の対人関係を がで 結する きる	公式な関係にある人との対人関係の終結についての知識	公式な関係 にある人関係 の対人関係 の終結につ いての技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
16	d7202 対人 関係における 行動の制御・1	状況に見合っ 対況に見る にのに にのに のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは	身近な人との対 人関係を状況に 見合った社会的 に適切な方法で 行動制御するた めの知識	身のを合的方制の大人関に社切行るがある。	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
17	d7202 対人 関係における 行動の制御・2	状況に見合った 社会的で公人人に がなる人気を があることがでする の対ることができる	状況に見合った 社会的で公人 方法である 係がはる人名 の対る行動を制御 するための知識	状っに法関人人け制のに社切公にと係行するのにと係行する側のに動る側があるがであるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあ	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
18	d7203 社会 的ルールに従 った対人関係	自立して行動し 対人関係における役割や地位な ど社会的ルール に従った行動が できる	自立して行動し対人関係における役割や地位など社会的ルールに従った行動をするための知識	自動係役なルっす技の対が地会に動ができたのでは、自然のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
19	d7204 社会 的距離の維持	状況に見合った 適切な方法で他 者との距離を認 識し維持するこ とができる	状況に見合った 適切な方法を認 者との距離を認 識し維持するの とについての知	状況に見合った 方法のでを とのし 認識し を 認識し が する技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
20	d730 よく知 らない人との 関係	よく知らない人 との接触や遭遇 などでも適切に 行動できる	状況に見合った 適切な方法で人と 出会った時のいて 処方法について の知識	状況に見知に見切りのでは、大沢に適でないのでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いののでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、大いのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
21	d7400 公的 な関係・1	権限のある人と の対人関係を適 切に開始、継続 ができる	権限のある人との対人関係に関する知識	権限のある 人との対人 関係を進め る技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階
22	d7400 公的 な関係・2	権限のある人と の対人関係を適 切に開始、継続 及び終結ができ る	権限のある人との対人関係に関する知識	権限のある 人との対人 関係を進め る技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第4段階

23	d7401 下位	下位の立場にあ	下位の立場にあ	下位の立場	文書・映像ビデオ	第
	の立場にある 人との関係・	る人との対人関係を適切に開	る人との対人関 係に関する知識	にある人と の対人関係	や DVD などによ る事例の活用とロ	5 段
	1	始、継続ができ		を進める技	ールプレイング	階
0.4	17404 T/5	る	- エはぁナ坦にま	新 エはの古垣	++ n./4./~~-	h-h-
24	d7401 下位 の立場にある	下位の立場にある人との対人関	下位の立場にあ る人との対人関	下位の立場 にある人と	文書・映像ビデオ や DVD などによ	第 5
	人との関係・	係を適切に開	係に関する知識	の対人関係	る事例の活用と口	段
	2	始、継続及び終 結ができる		を進める技 術	ールプレイング	階
25	d7402 同等 の立場にある	同等の立場にある人との対人関	同等の立場にあ	同等の立場	文書・映像ビデオ	第
	の立場にめる 人との関係・	る人との刈入閑 係を適切に開	る人との対人関 係に関する知識	にある人と の対人関係	や DVD などによ る事例の活用とロ	4 段
	1	始、継続ができる	M. 123 C. 1834	を進める技術	ールプレイング	階
26	d7402 同等	同等の立場にあ	同等の立場にあ	同等の立場	文書・映像ビデオ	第
	の立場にある人との関係・	る人との対人関係を適切に開	る人との対人関 係に関する知識	にある人と の対人関係	や DVD などによ る事例の活用と口	4 段
	2	始、継続及び終		を進める技	ールプレイング	階
27	d7500 友人	結ができる 友人との対人関	友人との対人関	術 友人との対	文書・映像ビデオ	第
	との非公式な	係を適切に開	係に関する知識	人関係を進	や DVD などによ	4
	関係	始、継続ができる		める技術	る事例の活用とロ ールプレイング	段階
28	d7501 隣人	る 隣人との対人関	隣人との対人関	隣人との対	文書・映像ビデオ	第
	との非公式な	係を適切に開	係に関する知識	人関係を進	や DVD などによ	4
	関係	始、継続ができる る		める技術	る事例の活用とロ ールプレイング	段階
29	d7502 知人	知人との対人関	知人との対人関	知人との対	文書・映像ビデオ	第
	との非公式な	係を適切に開	係に関する知識	人関係を進	や DVD などによ	5
	関係	始、継続ができる る		める技術	る事例の活用とロ ールプレイング	段階
30	d7503 同居	同居者との対人	同居者との対人	同居者との	文書・映像ビデオ	第
	者との非公式 な関係	関係を適切に開始、継続ができ	関係に関する知 識	対人関係を進める技術	や DVD などによ る事例の活用とロ	5 段
		る			ールプレイング	階
31	d7504 仲間		同世代の仲間と		文書・映像ビデオ	第
	との非公式な 関係・1	の対人関係を適切に開始、継続	の対人関係に関 する知識	間との対人 関係を進め	や DVD などによ る事例の活用とロ	5 段
		ができる		る技術	ールプレイング	階
32	d7504 仲間	異世代の仲間との対人関係を適	異世代の同等の 立場にある人と	異世代の同 等の立場に	文書・映像ビデオ	第 5
	との非公式な 関係・2	切刈入関係を週 切に開始、継続	」立場にめる人と の対人関係に関	寺の立場に ある人との	や DVD などによ る事例の活用とロ	S 段
		ができる	する知識	対人関係を	ールプレイング	階
33	d7600 子ど	実の親もしくは	実の親もしくは	進める技術 実の親もし	文書・映像ビデオ	第
	もとの関係・	養子縁組の親に	養子縁組の親に	くは養子縁	や DVD などによ	5
	1	なって関係を構	なって関係を構	組の親にな	る事例の活用とロ	段
		築することがで きる	築するための知 識	って関係を 構築するた	ールプレイング	階
				めの技術		
34	d7600 子ど	実の親もしくは	実の親もしくは	実の親もし	文書・映像ビデオ	第
	もとの関係・ 2	養子縁組の親に なって関係を維	養子縁組の親に なって関係を維	くは養子縁 組の親にな	や DVD などによ る事例の活用とロ	5 段
	_	持することがで	持するための知	って関係を	ールプレイング	階
		きる	識	維持するためのは後		
				めの技術		

	17000 7 14	中の地土しては	中の知士」(は			<i>h</i> -h-
35	d7600 子ど もとの関係・	実の親もしくは養子縁組の親に	実の親もしくは	実の親もしくは養子縁	文書・映像ビデオ や DVD などによ	第 5
	3	食子縁組の税に なって物的、知	食・豚畑の税に なって物的、知	組の親にな	る事例の活用と口	段
	3	的、情緒的養育	的、情緒的養育を	って物的、	ールプレイング	階
		を提供すること	提供するための	知的、情緒	1000100	РШ
		ができる	知識	的養育を提		
		200	7009/	供するため		
				の技術		
36	d7601 親と	自分の親との関	親との関係を構	親との関係	文書・映像ビデオ	第
	の関係・1	係を構築し維持	築し維持するた	を構築し維	や DVD などによ	5
		することができ	めの知識	持するため	る事例の活用と口	段
		る る	05 05 7.0 044	の技術	ールプレイング	階
37	d7601 親と	幼い子どもとし	幼い子どもが親	幼い子ども	文書・映像ビデオ	第
	の関係・2	て親に従うこと	に従う際の心理	が親に従う	や DVD などによ	5
	.,	ができる	社会的動きにつ	際の心理社	る事例の活用と口	段
			いての知識	会的動きを	ールプレイング	階
				操作する技		
				術		
38	d7601 親と	成人した子ども	親子関係につい	年老いた親	文書・映像ビデオ	第
	の関係・3	として年老いた	ての知識と年老	の心理社会	や DVD などによ	5
		親の世話をする	いた親の心理社	的状態を踏	る事例の活用と口	段
		ことができる	会的状態につい	まえた関わ	ールプレイング	階
			ての知識	り方の技術		
39	d7602 兄弟	血緣、養子緣組、	血縁、養子縁組、	血縁、養子	文書・映像ビデオ	第
	姉妹との関	結婚を通して片	結婚を通して片	縁組、結婚	や DVD などによ	5
	係・1	親又は両親が同	親又は両親が同	を通して片	る事例の活用と口	段
		じである兄弟姉	じである兄弟姉	親又は両親	ールプレイング	階
		妹関係を理解す	妹関係について	が同じであ		
		ることができる	の心理社会的状態にあれるの	る兄弟姉妹		
			態についての知	関係を開始		
40	17600 D*	血色 美フクヨクワ	部 美マタタ	する技術	소ᆂ . nh/요니>~~~	<u> </u>
40	d7602 兄弟	血縁、養子縁組、	血縁、養子縁組、	血縁、養子	文書・映像ビデオ	第 5
	姉妹との関	結婚を通して片 親又は両親が同	結婚を通して片	縁組、結婚	や DVD などによ	
	係・2	親又は心親か问 じである兄弟姉	親又は両親が同じである兄弟姉	を通して片親又は両親	る事例の活用とロールプレイング	段階
		してめる兄弟师 妹関係を開始・	けんしゅった お卵 妹関係を開始、維	税又は心税が同じであ	「ルノレイ ノン	中白
		殊関係を開始・	持するために必	る兄弟姉妹		
		粧付することが できる	持9 るために必 要な知識	関係を維持		
		(0.0)	女/4 7 1 1 1 以	対象を維持 する技術		
41	d7603 親族	いとこ、おじ、お	いとこ、おじ、お	りとこ、お	<u> </u>	第
* '	との関係	ば、祖父母など	ば、祖父母などの	じ、おば、祖	や DVD などによ	ж 5
		の親族との関係	親族との関係に	父母などの	る事例の活用と口	段
		を理解し維持、	ついての心理社	親族との関	ールプレイング	階
		継続することが	会的状態につい	係を開始し		
		できる	ての知識	維持する技		
				術		
42	d7700 恋愛	情緒的、身体的	情緒的、身体的愛	情緒的、身	文書・映像ビデオ	第
	関係・1	愛情に基づいた	情に基づいた関	体的愛情に	や DVD などによ	5
		関係を形成する	係についての知	基づいた関	る事例の活用と口	段
		ことができる	識	係を形成す	ールプレイング	階
				るための技		
				術		
43	d7700 恋愛	情緒的、身体的	情緒的、身体的愛	情緒的、身	文書・映像ビデオ	第
	関係・2	愛情に基づいた	情に基づいた関	体的愛情に	や DVD などによ	5
		関係を開始、維	係を開始、維持、	基づいた関	る事例の活用と口	段
		持、発展させる	発展させるため	係を開始、	ールプレイング	階
		ことができる	に必要な知識	維持、発展		
	i de la companya de	i e	l .	させるため	l	i 1
				の技術		

44	d7701 婚姻 関係・1	法的又は内縁の 婚姻関係を形成 することができ る	法的又は内縁の 婚姻関係に基づ いた関係につい ての知識	法的又は内 縁の婚姻関 係に基でい た関係を形 成するため の技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第5段階
45	d7701 婚姻 関係・2	情緒的、身体的 愛情に基づいた 婚姻関係を開始、維持、発展させることができ る	情緒的、身体的愛情に基づいた婚姻関係を開始、維持、発展させるために必要な知識	情緒的、 体的でいたを 関係を が、 が、 を が、 と が、 と が が、 と が が が が が が が が が が が	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第5段階
46	d7702 性的 関係・1	異性との情緒 的、身体的愛情 に基づいた関係 を開始、維持、発 展させることが できる	情緒的、身体的愛情に基づいた関係についての知識	情緒的、身 体的でいい をでいれ 係を形成する るため 術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第5段階
47	d7702 性的 関係・2	同性や不特定の 相手と体の情報 的、身体的だけ、 を開始、 を開始、 を開始、 を開始を 展さる できる	情緒的、身体的愛情に基づいた関係を開始、維持、発展させるために必要な知識	情緒的で 基づに関係を 係持せる の技術	文書・映像ビデオ や DVD などによ る事例の活用とロ ールプレイング	第5段階
48	d7 対人関係総 論	対人関係の概念 と重要性及び具 体的な場面や対 象に応じた展開 の深さと広がり について理解で きる。	多様な対人関係 のあり様につい ての知識	多様な対人 関係のあり 様について の知識	講義を中心としつ つ適宜意見交換な どで知識と技術の 共有化を図る	第5段階

(試案) 8、主要な生活領域・・学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上 の留意点	備考段階
		コンピテンス (学習目標)	ナレッジ (知識)	スキル (技術)		
1	d8 主要 な生活領 域①	社会経済的に生活 していくことに関 する自覚と理解が できる	様々な人生に関す る知識	情報収集技術・内容分析技術・時系列で考える技術。	情報収集・事例学習3	第3段階
2	d8 主要 な生活領 域②	教育-学習に関し て自分なりの生涯 学習計画を立てら れる。	職業と学習の関係 の関係に関する知 識	教育や学習について情報収集技術・内容分析技術・時系列で考える技術	情報収集• 事例学習	第3段階
3	d8 主要 な生活領 域③	経済面に関する生涯の生活設計を創ることができる。	収入。支出の管理 や、投資や消費とい う考え方の知識	収入支出や投資消費について情報収集技術・内容分析技術・時系列で考える技術	情報収集• 事例学習	第3段階

4	教育(ブロック) d810- d839	「教育」と「仕事」 の領域を理解する ことができる	教育、仕事と雇用、 経済的取引を行う ための必要とされ るための課題を理 解できる。	教育、仕事と雇用、 経済的取引を行う 主要生活領域を遂 行する技術	講義	第 4 段階
5	d810 非 公式な教 育①	・親はたると似ったがではある。そのでは、自したがができるででは、いるのででは、いるのででは、いるのででは、いるのででは、いるのででは、いるのででは、真言このでは、真言には、ないのでは、真言には、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、	・親は真似されてもまい言葉識するのは言葉にはいるを意識である。 まる は 真側の しこと 自然にいる まな知識 ・他者理解をするための知識	親に、子供たちが 親や兄弟の行動を 観察しながら真と を指導・助言方法 ・他者理解するための技術	講義•演習	第3段階
6	d810 非 公式な教 育②	・セルフケアは、 自分とできる。 を理解でいるできる。 ・基本的に付きる。 かを理解できる。 かを理解できる。	・こころと体のセルフケアに関する知識・基本的運動能力に関する知識	・自分自身をケア 方法に関する技術 ・基本的運動能力 を獲得できるよう に支援できる技術	・ の演習 の の の あまれる かままま の の まままま は 技 で は で は で で で で で で で で で で で で で で	第 4 段 階
7	d810 非 公式な教 育③	・生活習慣や文化的伝承を理解できる。	・基本的な生活習慣に関する知識 ・伝統的な伝統に関する知識	・基本的な生活習慣を身につける情を身につける情報では、 等なに伝統のできる状态を伝承でできる技術を伝表でできる技術をは、	講義 グループワ	第3段階
80	d810 非 公式な教 育④	・就学しないで家族等から教育を受けるシステムを理解できる。	・高等学校卒業程度 認定試験に関する 知識・ホームスクーリン グに関する知識	・高等学校の学議のでは、一点等学校のの知識を表示を受けるのでは、一点ののでは、これののでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	講義 グループワ	第3段階
0	d815 就 学前教育 ①	・義務教育の準備 に必要な知識を理 解できる	・義務教育の準備方法に関する知識	・就学前の準備に 必要な指導技術 ・教員や保育者な どの専門職と親が 協力支援方法	講義•演習	第4段階
10	d 815 就 学前教育 ②	・乳 ・乳 が り り は は な を を を を を を を を を を を を を	・友達の思いやると持などは、切りでは、切りでは、切りでは、切りでは、切りでは、切りでは、切りでは、切りで	・えと持な援・やじこ表述ををもちが活動がこなでのしまるでは、大行にないでは、大行にないでは、大行にないががいでは、大行にないががいるの考さをといるのも考さをといるのものという。	講義•演習	第3段階
11	d815 就 学前教育 ③	・健康や体力につ ながる基本的な生 活習慣や運動を身	・生活に必要な生活 習慣の知識	・生活習慣を身に つけられる支援技 術	講義・演習	第 3

		に付けることがで	いろいろな遊びを	いろいろな遊び		段
		きるように支援方 法が理解できる	通じて健康や体力を身につけられる	を通じて健康や体力を身につけられ		階
			援助知識	る援助技術		
12	d 820 学 校教育①	文部科学省の学校安全対策を理解できる	文部科学省の「学校安全」に関する知識	文部科学省の「学校安全」に関する 指導法の技術	講義・安全 対策のビデ オ	第 4 段 階
13	d 820 学 校教育②	14	・学びと関うでは、、、、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	文部科学省の学習 指導要領や、ディ スカッションの方 法などに関する指 導方法の技術	他の調ご(デシ法技でして、アンはでは、アンはでは、 でんかい でんしょう でんしょう でんしょう いいかい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいが	第4段階
14	d 820 学 校教育③	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ を う さ の ル ・ を の に に う る 。 ・ も の に う る 。 。 。 も の に う る 。 。 の で き る 。 の で き る 。 の で き る 。 の 。 の の の の の の の の の の の の の	・中校子もけ知・が等たで慮と「関育めは対知を関及障とにとの子育配「わ年の別等のの育で」といる。この子育配「わ年の」といる。ととけ必ら知り、一切の音のの育で、子も受が理る24年いるとを慮合れて「に慮と、学るど受るととけ必ら知月利「に慮と、学るど受るととけ必ら知月利「に慮と、学るど受るも平る要配識のに教定」と	幼中校級導級校も育でる場ーをクスを関する場合では、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学売のる援援子な対のび一学イ育が、学学指学学と教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対して、学学指学学ど教応あの人びンシーを対している。	講義・演習	第4段階
15	d825 職業訓練①	・就職を希望してを がないではいいでする。 な訓練を通いではないでする。 ですることを理解できる。	・職業訓練は、就職 を希望している人 などに次の仕事に 就職できるように ハローワーク等の 公共機関につなげ る知識	・職業訓練は、就職を希望している 人が次の仕事に就職できるようにハローワーク等の公 共機関につなげる 支援技術	講義	第3段階
16	d825 職 業訓練②	職業訓練の内容について理解できる	・職業訓練は就職に必要な基礎的知識や技能を身に付けることができる知識・雇用の促進を図っている知識		講義	第3段階

17	d825 職 業訓練③	職業訓練を活用できる方法が理解できる。	・職業訓練を決議して、 ・職業がある。 ・の知識をいる。 ・の知識をでは、 ・の知識をでは、 ・の知識をでは、 ・ののでは、 ・ののでは、 ・では、 ・では、は、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、は、 ・で	・ハロ一般を持ち、 ・ハロででる ・明報を持ち、 ・明報を持ち、 ・明報を持ち、 ・明報を持ち、 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・明報を表する。 ・のののののののののののののののののののののののののののののののののののの		第4段階
18	d830 高 等教育①	高等教育機関に関する概要を理解することができる	・高等教育機関に関する情報の関する制調・障害児・者が高いを書別のできまれるのでは、一番を表しています。 一番 では、一番 では、 「単一番 では、 「・ 「・ 」 「・ 」 「・ 」 「・ 」 「・ 」 「・ 」 「・ 」	・学域うきて・入てる・必失度制ので領よでしのしきに識別を関係した。	講義•演習	第4段階
19	d 830 高 等教育②	・一般入試や特別 入試で受験する方 法を理解できる。	一般入試や特別入 試(AO 入試,推薦入 試、障害者特別選抜 入)方法と指導方法 を指導できる知識	高等教育機関の入 試方法を理解し て、選択させるこ とができる指導方 法技術	講義・演習	第4段階
20	d 830 高 等教育③	障害のある子ども が入学する「障害 育機関ある「障害 学生支援専門」と 具体的な支援体 が理解できる。	・各高等教育機関の 障害者の受入に関す知識 ・障害学生支援専門 部門と協力体制と り各学部・各学科の 教育課程に基づい て学ぶ指導方法関する技術	各高等教育機関の 障害者の受入に関 す指導技術	講義•演習	第 4 段 階
21	d 830 高 等教育④	各教学得をよと・づ研て論等教理を含るに理ができる。とうが学さの学生での対するをできたのができたのができたのができたのができた。まのったのでででの位きこ。基のったのでででで、というでは、これができる。	・各高等教育機関に おける各学部・ 科等の教育課程 関する知識 ・学士や修士等の 支援が成する 支援が受ける 支援がポートで る知識	・各高等を表すである。 との	それぞれの サポート体 制に関する 講義と演習	第4段階 一部第5段階

		ことが四知った		<u> </u>		
		ことが理解でき る。				
22	d839 そ の他特定・ 詳細不明	教育や学習に関し、予測不能な新たな事態に関する 分析を行うことができる。				第6段階
23	d839 そ の他特定・ 詳細不明	教育や学習に関し、予測不能な新たな事態に関する分析に基づき、その対応を検討しまた。				第6段階
24	仕事と雇 用(ブロッ ク)	仕事と雇用に関する知識を理解することができる。	見習研修及び仕事 の獲得・維持・終了 に関する知識	見習研修及び仕事 の獲得・維持・終了 に関する技術	講義	第3段階
25	d840 見 習研修①	・勤労に対する意意のというでは、他別では、他ののでは、他ののでは、他ののでは、他ののでは、他のでは、他のでは、他ので	・仕事は、生計を維持するばく、働くは知さく、働をは知識とがその一段をある一段をもいいの役割をは知識したが会の一段をはいいのでは、切らないができるとができるとができるとができるとができる知識	・ 維持なるととかせいである。 とたけのではる という はる という はい	講義・演習	第3段階
26	d 840 見 習研修②	・職業に関わる実 践的な知識や技能 を身につけること ができる	 ・職業職業とれこけ識 ・大きないのでは、 ・	・ととすきが・の事門識職と基なな制・るポ戦、れこサきれた容にの組のな専サながで、とさるるでそ果内家 場報本どげ 円こってでしているです。 の側ののる 滑とれてで関策態が一技れ役関な 織関労門ポ 仕で制すに度表ト術の割すげ 、係働家ー 事きる必に現指 職やるる 労等条にト をるる必に現指 職やるる 労等条にト をるこ 要関で導 場仕専知 働の件つ体 すサ	講義	第3段階
27	d 840 見 習研修③	・.見習研修やインターン制に関することが理解できる。 ・リスキリング教育を理解できる。	・見習研修やインターン制度を通じて、 将来の社会参加を 目指し、社会人や職業人として必要な知識や技能及び態度の基礎知識	・見習研修やイン ターン制度を通じ て、将来の社会参 加を目指し、社会 人や職業人として 必要な知識や技能 及び態度の習得で	講義•演習	第 4 段階

		T			1	
			・就職準備等として 必要な人に対して リスキリング教育 が受けられるよう に支援するサポー ト体制の知識	きるサポート体制の技術 ・就職準備等と対がでいる でいる でいって でいる		
28	d845 仕 事の獲得・ 維持・終 了・	仕事の獲得・維持・ 終了の概要を理解 することができる	仕事の獲得・維持・ 終了の概要の知識	仕事探し、仕事の 継続、退職に必要 とされる技術	講義	第3段階
29	d 8450 職探し①	・職場訪問(障害者 雇用職場見学会) を通じて就職がで きる。	ハロラ が支援と が支援と がマレー が支援と がマンクー でを用いて がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がでで、 がで、 が	ハ労ーレタて場情よけの大きによりハ労ーレタで場別を表すので一関ン・、を雇なら体のでク、・、を雇なら体ので大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の	講義•演習	第3段階
30	d 8450 職探し2	障害者職業能力開 発校などで、新た な仕事につけるた めの教育を受け、 就職できる。	障害者職業能力開発校などの職業教育で新たな資格で新たな資格を習得できるように養成校を選ぶる知識	労働法や就労支援 機関、障害者職業 能力開発校に関す る知識を用いて養 成校を選べるサポート体制する技術	講義	第3段階
31	d 8450 職探し③	 ・法で・容理・るる・理 ・おきをを解採こ。契解 ・方が 内が けき を 方が 内が けき を 	・聞ンし法る・労歴書法・労採ど本が・労者なじ解ポート間ンし法る・労歴書法・労採ど本が・労者なじ解ポースネーで、るう口援や方関口援面練にき口援用職雇きトースネーを、一人の一人の一人の一人の一人では、一人では、一人では、一人では、一人では、一人では、一人では、一人では、	・新集ト先とト・就履のよ制・就で擬じ指ー・就害会をがな技い間、利応が体ハ労歴書うのハ労、なて導トハ労者」通理サボーのソし方きの一援や方サ術ー援用の番で制一援用どてでーーのタて法る技ワ機職をポーワ機面練にきのワ機職職雇きトー求ー、知サ術ー関務学ー ー関接習備る技ー関場場用る体ク人ネ仕るポークな内ベトークなのをえサ術ク「見訪契よ制や募ッ事こー やど容る体 やど模通てポーや障学問約うのや募ッ事こー	講義 • 演習	第3段階

32	d 8451 仕事の継 続①	求められている職 務の遂行能力を有 することができ る。	与えられた仕事を 漠然とこなすので はなく、限られた時間のなかで、自らエ 夫して仕事を進め る意欲が高まり 事の質があげるこ とができる知識	遂行能力を高める ためにはモチベー ションを高めるた めの技術	講義・演習	第3段階
33	d 8451 仕事②	業務の遂行のための業務計画の作成さる。	目つ「とこ計の針にシす知計で期か正が人社が昇知標まど個と画たとどョる識画き限行をで事員給格識定で達にではのもよ行と 基知設、こる価のの重は「すおさいにあいによ行と 基知設、こる価のの重は「すなと、例のもよ行と 基知設で、こる価のの重は「すなと、例のでは、う動が づ識けのな知に目ア要は「をかす識達や体ア策き 実 評でこ い設プない」」る 成方的ク定る 施 価修と て定やる	仕事の目標設定・ 計画作成・実施・実施・ 一個のプロを作 できる技術	仕りでは はい	第4段階
34	d 8451 仕事の継 続③	リカレント教育を 理解することがで きる。	社会人として、仕事 会人との磨習 になった。 一でれたさすがある。 一でではなるがある。 一でではなるがある。 一でではなるがある。 一でではなるがある。 でではなるがある。 でではなるがある。 でではなるがある。 でではなるがある。 でではないでは、 でではないでは、 でではないでは、 でではないでは、 でではないでは、 でではないでは、 ででいる。 ででは、 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででい。 ででい	社会人との名 大との名 大との名 大との名 大との名 大さの名 大さの名 大さる 大がる 大がの 大がの 大がの 大がの 大がの 大がの 大がの 大がの	講義	第4段階
35	d 8452 退職①	・退職の意思表示をすることができる。	・本人に退職の動機 及び意思を確認することができるの上司に伝えることが明の意思を直属の上司に伝えることが出来ることができる知識	退職意思の確認、 退職の意思表示、 退職願・退職届の 書き方及び提出仕 方の技術 業務の引継ぎ方法 の技術	講義•演習	第3段階
36	d 8452 退職②	・退職願・退職届の書き方。渡し方を指導することができる。・退職の理由を具体的に書く方法を	・退職願・退職届の書き方。渡し方を指導することができる知識・退職の理由を具体的に書く方法を助	退職願・退職届の 書き方及び提出仕 方の技術	講義	第3段階

		助言することがで きる。	言することができ る知識			
37	d 8452 退職③	・業務の引継ぎを 行うことができ 。 ・職場に提出・取却 がで ものを がで を ものを がで を もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの	・それぞいきない。 ・それでいる知識 という おいる知のという でもっている知識 という できるれる といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 といる知識 はいる知識 はいる知識 はいる知識 はいる知識 はいる知識 はいるのない はいる といる はいる はいる といる といる といる といる といる といる といる といる といる と	・の継に・でやー引う術・れあるこ述4で版が引う術務具ュのよ技さでする記載にあることを指してででできるれれコ取ででいいるるのるン扱きき、貸職証却すいのもが導いのとを指しているるが多いのとを指しているる 与員明する 公のもがない いるの ちょう はんしょう かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしんしん はんしん はんしん はんしん はん	講義・演出	第3段階
38	d850 報酬を伴う 仕事①	賃金を得勤・非や目標を開始を開動・非や目標を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を開始を	・労働基準法等に係る就労・労働に関する知識 ・法令の知識・納税等に関する知識	・各種法令・制度に繋げる技術	・講義 ・グループ ワーク ・専門家の 特別講義	第6段階第5段階
39	d850 報酬を伴う 仕事②	報酬を伴う仕事を 他人から請け負う ことができる 契約事項の理解 雇用関係の理解が できる	諸契約事項・法律や制度の理解 タスク管理の知識 デバイス機器の操作の知識	タスク管理の技術 デバイス機器の操 作(リマインダー 技術)	・講義 ・グククタクラン ・サークスクミュン ・サーション	第5段階第4段階
40	d850 報 酬を伴う 仕事③	所得(日本:給与・ 事業・利子・配当・ 譲渡・不動産・一 時・退職・山林・雑) の種類の理解でき る	労働と所得の知識 各国の所得事情の 知識 労働の基本の知識	様々な機器・道具 の操作ができる	•講義 •演習	第4段階
41	d850 報酬を伴う 仕事④	報酬を伴う仕事を 見つけることがで きる	デバイス・メディ アサービス等の知 識 SNS の知識	デバイス等機器の 操作技術 マスメディアの紹 介または提案力	・講 が リー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第3段階
42	d 8500 自営業	個人が見つけだし たり創出したり, あるいは公式の雇 用関係なしで他人	・労働基準法等に係る就労・労働に関する知識	・各種法令・制度に繋げる技術	・講義 ・グループ ワーク	第6段階

		から請け負った, 報酬を伴う仕事に 従事すること	・法令の知識・納税等に関する知識		・専門家の 特別講義	第5段階
43	自営業② 自営業 になる	・報酬がを伴うる、割のでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一つのでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一のでは、一	契約事項の知識 タスク管理の知識 労働の基本の知識 納税の知識	・各種法令・制度に繋げる技術	・講義 ・グループ ワーク ・専門家の 特別講義	第5段階第4段階
44	自営業③ 自営業主 になる	開業申請やその他 必要な届ができる (食品衛生責任 者、防火管理選任 届など)	契約および代理契 約の知識 成年後見制度、権利 擁護等諸制度の理 解	開業申請のシミュ レーション	•講義 •演習	第4段階
45	自営業④ 自営なる になる	報酬を伴う仕事を 個人で見つけるこ とができる	デバイス・メディ アサービス等の知 識 SNS の知識	デバイス等機器の 操作技術 マスメディアの紹 介または提案力	・講グー操し ・カー操し ・カーシシー・カー ・カー・カー・カー・カー・カー・カー・ファイン・ファイン・カー・ファイン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	第3段階
46	d8501 非 常勤雇用	被非事解要要間従を監個プ事雇常するび題れの他すれた必合と仕してはのて仕のるるは要のし事と事遂い事労ここグな関れの他すれた必行とのといるのは要のの人のといる。	サービスや制度、 政策 の知識 ・経済動向の知識 ・労働基準法等の専門的知識 指示と管理 納税等諸制度・政策 の知識	・各種法令・制度に繋げる技術	講義・グルク・専門家の特別講義	第5段階
47	d8501 非 常勤雇用 ②	報酬を伴う非常勤の仕事を他人から請け負うことができる報酬を伴う非常勤の短期契約の仕事ができる	雇用関係の理解 請負うことへの社 会的規範	指示・報告を受けることができる。 コミュニケーションが円滑にできる 技術	・講義 ・グループ ワーク	第 4 段階
48	d8501 非 常勤雇用 ③	報酬を伴う個人ができる時間では、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	デバイスの知識 インターネット等 情報媒体の知識 契約条項の知識	検索する上での情報正否の技術	・講義 ・グルーク ・実際に探 してみる	第3段階
49	d8502常 勤雇用①	被雇用者として, 常勤の仕事に従事 することの理解。	サービスや制度、 政策 の知識	・各種法令・制度 に繋げる技術	・講義 ・グループ ワーク	第 5

50	d8502常	及び課れているでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	・経済動向の知識 ・労働基準法等の専門的知識 指示と管理 納税等諸制度・政策 の知識	指示・報告を受け	・専門家の 特別講義 ・講義	段階第
	勤雇用②	の仕事を他人から 請け負うことがで きる 報酬を伴う非常勤 の短期契約の仕事 ができる	請負うことへの社 会的規範	ることができる。 コミュニケーショ ンが円滑にできる 技術	・グループワーク	4 段 階
51	d8502 常 勤雇用③	報酬を伴うまででする時間では、 できる	デバイスの知識 インターネット等 情報媒体の知識 契約条項の知識	検索する上での情報正否の技術	・講義 ・グルク ・実際に探 してみる	第3段階
52	d 850 無 報酬の仕 事①	無報酬の意識を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	社会的意義の知識 各制度の知識		講義 ボランティ ア体験	第4段階
53	d850 無報酬の仕事②	無報酬の常勤または非常勤の仕事を見つけることができる	請負うことへの社 会的意義の知識	デバイス等無報酬の仕事を探す技術	・講義 ・グリフ ・実し、 を 素し、数 を 競う	第3段階
54	d859 そ の他特定・ 詳細不明	職業生活に関し、 予測不能な新たな 事態に関する分析 を行うことができ る。				第6段階
55	d859 そ の他特定・ 詳細不明	職業生活に関し、 予測不能な新たな 事態に関する分析 に基づき、その対 応を検討し実施で きる。				第6段階
56	経済生活 (ブロッ ク)	単なる収入支出だけではなく、消費 や投資などの考え方を理解できる。	消費に関する知識 投資に関する知識		経済学の導入	第 4 段 か

57	d860 基 本的な経 済的取引 ①	単純な経済取引き のあらゆる形態の で事することの が事するで換,物の でサービスの 後,の で り、 会銭を貯蓄す ること	経済的資産、金銭、 貯蓄残高、キャッシュレス決済の知識 産業史の知識	経済を動かす技術	・講 ・ の ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	第5段階
58	d860 基 本的取引 ②	価値の判断ができる 貯金・貯蓄、投資等 資産形成ができる	経済の仕組みの知 識 政治経済の知識	経済を動かす技術 投資等の世界動向 を含めた調べる技 術	・講義 ・グループ ワーク ・専門家に よる講義	第4段階
59	d860 基本的な経済的取引 ③	取引きの意思が表 明できる 物価・価値観の理 解ができる	物価指数の知識 動産・不動産、先物、 金融等の諸知識	・自身を取り巻く 環境の価値を調べ られる技術(土地、 建物、使用してい るもの:減価償却 等含む)	・講義 ・グループ ワーク ・専門家に よる講義	第3段階
60	d865 複雑な経済 的取引①	資本や資産の交換,利益や経済的価値の創出やM&Aなどの理解価値の判断ができる価値の折衝ができる	消費材(サービス含む)と価値の知識物価指数の知識動産・不動産、先物、金融等の諸知識	経済を動かす技術 投資等の世界動力 を含めた調べ 新衝の技術 コミュニケーション技術 各種専門家に繋げる技術	・講義 ・グリク ・専門家に よる講義	第6段階
61	d865 複雑な経済的取引②	取引きの意思が表 明できる 物価・価値観の理 解ができる	政治経済の知識産業史の知識	各種専門家に繋げ る技術	・講義 ・グループ ワーク ・専門家に よる特別講 義	第5段階
62	d870 経済的自給	私的または公的な 財産を管理ができ る 相場に応じた折衝 ができる	物価指数・動向の 知識 諸制度の契約事項 の理解	各種専門家に繋げ る技術 折衝の技術	・講義 ・グリク ・専門家に よる 義	第5段階
63	d870 経 済的自給 ②	高度な価値(資産 等)の判断・折衝が できる 資本や資産を適切 に評価できる	物価指数の知識 動産・不動	各種専門家に繋げ る技術	・講義 ・シミュレ ーション・ グループワ ーク	第4段階
64	d 870 経済的自給 ③	資本や資産を適切 に評価できる 賃貸借・売買等契 約ができる	諸制度の契約事項 の理解 各種法令・制度関係 の理解ができる	各種専門家に繋げる技術	・講義 ・シミュレ ーション・ グループワ ーク	第3段階
65	d8700個 人の資産 ①	高度な価値(資産等)の判断・折衝ができる物価・価値観の理解ができる	物品とサービスの 生産や分配の知識 ・土地不動産・建物 知識	各種専門家に繋げる技術	講義 ・グループ ワーク ・専門家に よる特別講	第5段階

66	d8700個 人の資産 ②	・経済動向が把握 できる ・適切な相談者の 選択ができる	・経済の知識 ・物価指数、価値 の知識	各種専門家に繋げる技術	・講義 ・グループ ワーク	第4段階
67	d8701 経済的な公 的な資格・ 権利	高度な価値(資産 等)の判断・折衝が できる 経済動向が把握で きる	物価指数の知識 動産・不動産、先 物、金融等の諸知 識	各種専門家に繋げる技術	・講義 ・シミュレ ーション・ グルー ーク	第5段階
68	d8701 経済的な公 的な資格・ 権利	資本や資産を適切 に評価できる 賃貸借・売買等契 約ができる	諸制度の契約事項 の理解 各種法令・制度関係 の理解ができる	各種専門家に繋げる技術	・講義 ・シミュレ ーション・ グループワ ーク	第4段階
69	d879 そ の他特定・ 詳細不明	経済生活に関し、 予測不能な新たな 事態に関する分析 を行うことができ る。				第6段階
70	d879 そ の他特定・ 詳細不明	経済生活に関し、 予測不能な新たな 事態に関する分析 に基づき、その対 応を検討し実施で きる。				第6段階

(試案) 9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活 ・・学習計画表

	テーマ	修得すべき内容			学習方法上	備
		コンピテンス	ナレッジ (知識)	スキル (技術)	の留意点	考
1	d9 コミュニ ティライフ・ 社会生活・市 民生活	経済的関係を伴わない複数の他者との関係の中での、自己実現や Well Beingについて理解する。	自己実現や Well being に 関する知識			第4段階
2	d9 コミュニ ティライフ・ 社会生活・市 民生活	経済的関係を伴わない複数の他者との関係の中での、自己実現や Well Beingを実現できる。	物事を実現し ていく時に必 要になる計画 立案に関する 知識	計画膣案技術		第5段階
3	d910 コミュ ニティライフ	地域社会や学校、職場などで、直接の業務内容とは別の、 様々な集団に関わることができる。	小集団の中で の役割に関す る知識	提案する技 術、色々な人 の才能を結び つける技術		第6段階
4	d9100 非公 式団体	共通の関心やテーマ に共同で取り組むこ とができる集団で 様々な貢献をするこ とができる	その集団の核 になるテーマ に関する知識	他者から学ぶ 技術、他者の 話を聞く技術		第5段階
5	d9101 公式 の団体	職業上、所属しなければならない公式的 集団の中で役割を果たすことができる。	当該職業など に関する専門 知識	必要な役割行 動をとれる		第 6 段 階

6	d9102 式典	ライフイベントに関	個々のライフ	祝ったり慰め	T	笠
	USIUZ 以典	連したセレモニーに おいて、ふさわしい 行動をとれる。	値々のライフ イベントの意 味に関する知 識	(祝ったり慰め) たりする技術		第5段階
7	d 9108.9109 特定•詳 細不明	コミュニティライフ に関し、予測不能な 新たな事態に関する 分析に基づき、その 対応を検討し実施できる				第5段階
8	d920 レクリ エーションと レジャー 基礎的理解	レクリエーションと レジャーの歴史を理 解する。	レクリエーションとレジャーの歴史に関する知識を習得する。	レクリエーションとレジャーの基礎的な 技術を習得する。		第5段階
9	d9200 遊び	遊びを選択するための情報提供ができる。遊びを支援するためのアセスメントをおこなうことができる。遊びの計画立案を支援できる。	・遊びに関する知識。 ・遊びに必要な心身状態のアセスメント知識。 ・遊びの計画立案に関する知識。	・遊びに関する技がである。・遊がではいるができるができますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・遊りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできますがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。・適りのできまがある。<td>・遊るを習んの状にであるをといるのではできるのでは、これのではできませんの状にできません。</td><td>第3段階</td>	・遊るを習んの状にであるをといるのではできるのでは、これのではできませんの状にできません。	第3段階
10	d9201 スポ ーツ	・スポーツを選択するための情報提供の支援ができる。 ・スポーツに必要な心身状態のアセスメントの支援ができる。 ・スポーツをおこなる。 ・スポーツをおこなうための計画立案を支援できる。	・スポーツに 関すスポーツに ・必要のアリカポーの ・カスポーツ ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカー ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカーの ・カスカー カー カー カー カー カー カー カー カー カー カー カー カー カ	・関・ ・関・ ・関・ ・関・ ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・のでは、 ・	パラスポー ツの歴史や 競技につい て説明でき る	第4・5・6段階
11	d9202 芸術 と文化	・興味を持ちそうな 芸術及び文化的活動 に対する情報提供の 支援ができる。 ・芸術的な行事や文 化的活動に必要なメ りが態のアセススる。 トの支援がこなっ ・芸術をおこなた めの計画立案を支援 できる。	・芸術的な行事ではいるでは、までは、までは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのではでは、またのでは、またのではでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またので	・芸術と必要のとは、一芸術のはないでは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術のは、一芸術の		第4・5・6段階
12	d9203 工芸	・工芸を選択するための情報提供の支援ができる。・工芸に必要な心身状態のアセスメントの支援ができる。・工芸をおこなうための計画立案を支援できる。	・工芸に必要な心身状態のアセスメント知識。・工芸をおこなうための計画立案に関する知識。	工芸に必要な心力を表すな心力となった。技術。・工芸をおこなうための計画立案に関する技術。		第4・5段階
13	d9204 趣味	・趣味を選択するための情報提供の支援	・趣味に必要 な心身状態の	・趣味に必要 な心身状態の		第 5

		ができる。 ・趣味に必要な心身 状態のアセスメント の支援ができる。 ・趣味をおこなうた めの計画立案を支援 できる。	アセスメント 知識。 ・趣味をおこ なうための計 画立案に関する知識	アセスメント 技術。 ・趣味をおこ なうための計 画立案に関す る技術。		段階
14	d9205 社交	・社交に必要なののできる。 ・社交をおこのできる。 ・社交をおこのできる。 ・社交をお立てきる。 ・連備をする。 ・連備をする。 ・連備をする。 ・連続をする。 ・連続をする。 ・連続をする。 ・社スをである。 ・イスをである。 ・イスをである。 ・カスをできる。 ・カスをできる。 ・カスをできる。 ・カスをできる。	・なりのというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	・社交に必要な心身状シト技術。・社交をおこなうとのの計画立方術。・さうをのの計画立方術。		第5•6段階
15	d 9208.9209 特定・詳細不 明	レクリエーションに 関し、予測不能な新 たな事態に関する分 析に基づき、その対 応を検討し実施でき る				第5・6段階
16	d930 宗教と スピリチュア リティ	・宗教とスピリチュ アリティがもたらす 価値や違い、関係性 やその効果について 説明できる。	・リィしに礎・リィい・リィ現関・リィ種識・リィそつる宗チのてつ的宗チのて宗チの状す宗チにに 宗チのれ意知教ュ言いい知教ュ相の教ュ国とる教ュ携関 教ュ関ぞ義識とア語るて識とア違知とア際課知やアわす とア係れにスリが意等 スリに識スリ的題識スリるる スリ性の関ピテ表味基 ピテつ ピテなに ピテ職知 ピテやもす	・リィなのれすにで・リィ関よえ技宗チにもから効応き宗チの与うら術とアのがまもをて技とア動で境るスリよあたた必説術スリへきが支とであるそら要明(ピテうるそら要明)	教チィる・にを・た(考)身やュを。国よ考自ら影え 近スア考 やるえ分す響る なピリえ 地違るに効)宗リテ 域い も果を	第 5

17	d9300 宗教 団体	 ・ まなでできる。 ・ まなでできる。 ・ のるのにがのでいるに、 ・ のるのでいるのででいるのででいるのででいるのででいるのででいるのででいるのでで	・与す・関あ(者等知・式事容識・式マす・式事産関・援と用経関・け具祉る・やたつ・じに支こ(痛関痛活な宗のる宗する公や)識宗やのに。宗のナる宗やに品す儀的用具典す役たと用知宗そらい不てよ援と精・、・セど教仕知教る人的相に 教活目関 教ルー知教活必とる式な具・なる割必適具識教れすて利いりがの神・経・ン)へ方識団知やな談関 的動的す 的一等識的動要用知用生(・ど知遂要切に のら効の益る適で知的医済消タのに。体識職聖機す な、やる なルに な、な具識の産福点)識行なな関 教が果知が内切き識苦療的費ー関関 にの種職関る 儀行内知 儀や関 儀行生に 支品祉字に 向用福す 義もに識生容なる 機苦生へ	・援支・根類等集術・る害判めン・に体識職聖機なで・式容のてメ・た品か提術・動けはなのる・た態るス・向産(含のてが術・自(援宗本やので。宗情等断のト相よにの種職関げき宗やがかいン状適と判案。儀、る、こか技役め等たメ役け品福む状整で。自己意)教宗そ情き 教報をでア技談り関あ(者等るる教活適判るト況切用断で 式行役どと確術割のをめン割必や祉)況えき 己決思の団教の報る にか適きセ術の宗する公や)こ技的動正断ア技にな具でき や事割のを認。遂心確のト遂要用用をにるる 表定決技体の特が技 関ら正るス 内教る人的相にと術なやなでセ術応生がきる 活にでよ担で 行身認ア技行な具具心応こ技 出支定がの種徴収 す利にたメ 容団知やな談つが。儀内もきス。じ産何、技 お ううき の状すセ術に生 を身じと で	・動関な・用品材示・動関な・用品材示の式やすど儀いなと等が成るの礼るどし活に像用に産教展	第5段階

	T	T	1		Т	ı
				きるような時		
				間や場、関係		
				づくり等が支		
				援できる技術		
				・宗教的な関		
				与による対象		
				者の状況把握		
				できるアセス		
				メント技術		
18	d9301 スピ	・スピリチュアリテ	・スピリチュ	• 自己決定支	・スピリチ	第
	リチュアリテ	ィのもたらす意義な	アルな活動や	援(意思決定	ュアルな活	6
	1	どを理解することが	行事への関与	支援)の技術	動や行事に	•
	,	できる。	の仕方に関す	・スピリチュ	関する映像	7
		・スピリチュアリテ	る知識。	アルの種類や	などの活用	· 段
		ィの選択や関与の仕	・スピリチュ	その特徴等の	活動に用	階
		方について考えるこ	アルな活動な	情報が収集で	いる生産品	РШ
		かに うい		情報が収集し	などの教材	
			どに関する相			
		・役割について説明	談機関等に関	・スピリチュ	として展示	
		できる。	する知識	アルに関する	など	
		・儀礼等に用いる生	71011	情報で利害等		
		産品(福祉用具を含	・スピリチュ	を適正に判断		
		む)などが理解でき	アルな活動、	できるための		
		る。	行事の目的や	アセスメント		
		• 活動や儀式等への	内容に関する	技術		
		関与による影響が説	知識。	・スピリチュ		
		明できる。		アルな活動な		
			・スピリチュ	どに関する相		
			アル宗教的な	談機関等につ		
			儀式のルール	なげることが		
			やマナー等に	できる技		
			関する知識	術。		
			・スピリチュ	・スピリチュ		
			アルな活動、	アルな活動や		
			行事に必要な	内容を適正に		
			生産品と用具	判断できるア		
			に関する知識	セスメント技		
			・スピリチュ	が。		
			アルな活動等	- ・ ・ ・ 状況に応じ		
			に必要な生産	た適切な生産		
			品と用具(福	品と用具が何		
			祉用具・・点 字経典など)	か判断でき、		
				提案できる技		
			に関する知識	が、		
			・役割遂行向	・活動や行事		
			けた必要な用	における役割		
			具と適切な福	とは、どのよ		
			祉用具に関す	うなことを担		
			る知識	うのか確認で		
				きる技術。		
			・スピリチュ	・役割遂行の		
			アルな活動等	ための心身状		
			がもたらす効	態等を確認す		
			果についての	るためのアセ		
			知識	スメント技術		
			• 不利益が生	・役割遂行に		
			じている内容	向け必要な生		
			により適切な	産品や用具		
			支援ができる	(福祉用具を		
			ことの知識	含む)を心身		
	L	<u> </u>			<u> </u>	ı

			(精神的苦痛・・医済・経済・経済・・経済・・経済・・ はっとう)	の状えき こと で時係支術・等る沢ア技術のでは、では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	
19	d 9308.9309 特定・詳細不 明	宗教やスピリチュア リティに関し、予測 不能な新たな事態に 関する分析に基づ き、その対応を検討 し実施できる			第6段階
20	d940 人権	大権項 *世界、条・福尊はてで守自る的人は存っる事。 宝国、1.1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	・と生となう・に的則識*言障均る(規的お権国「びに規のるの約別並に行ら権的人は活はこ知人関なに 世第害等標世約、よ利際市政関約権条権」撤び関動な章、間なをどと識権す宣関 界、者化準界」社びに規民治す」利約利、廃にす計る典精のに支のか やる言す 人国のに規入「会文関約的的る「に仔条女条障る画国は神尊かえよと 尊国やる 権連機関則権経的化す」お権国児関ど 子約害世」際政的厳、るうい 厳際規知 宣・会す等権済、的る よ利際童すも 差」者界か人治基	・し・決き境技・と技・てえなすきんに はいまり ではいい ではいい はいましま はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい	第5•6段階

			盤など)			
21	d940 人権	人権侵害とその対応	権利侵害に 関する知識権利侵害に 関する相談機関に 関する知識	・てえなすき・関メ・生に談げきした感するををしているなすが、というでは、 という はいました はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない にんしん がいまる はいまない にんしん がいまれる はいまない にんしん がいまる はいまない にんしん がいまれる はいまない はい はいまない はい はい はい はい はい はい はい はいまない はいまない はいまない はいまない はいまない はい	・権利侵害のらえ・援害のらえ・援害のが表しがにいる。 ・援害なえる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。 ・援害なる。	第6•7段階
22	d950 政治活動と市民権	「市民」としての自 由に生き離う権利を 行使できること	人権・特に自 由権に関する 知識	自由に生きる権利を行使する技術		第5・6段階
23	d950 政治活動と市民権	市民としての権利行 使をする以上は、其 れの伴う義務も果た せること	人権・特に社会権に関する知識	社会的に困ら ない状態で生 きる権利を行 使する技術		第6・7段階
24	d998 その他 の特定の, コ ミュニティラ イフ・社会生 活・市民生活	人権や市民としてお 権利行使などに関 し、予測不能な新た な事態に関する分析 に基づき、その対応 を検討し実施できる る	社会に関して様々な関連事項に関する知識	新聞灘岡ら多様な情報を受け止める力		第6段階
25	d998 その他 の特定の, コ ミュニティラ イフ・社会生 活・市民生活	補足学習・自分で考えて項目の行動分析を行う。支援行動を 考える				第4段階
26	d999 詳細不 明の, コミュ ニティライ フ・社会生 活・市民生活	補足学習・コミュニティライフ・社会生活・市民生活に関する課題①				第5段階
27	d999 詳細不 明の, コミュ ニティライ フ・社会生 活・市民生活	補足学習・コミュニティライフ・社会生活・市民生活に関する課題①				第6段階
27	d999 詳細不 明の, コミュ ニティライ フ・社会生 活・市民生活	補足学習・コミュニティライフ・社会生活・市民生活に関する課題①				第7段階

第5章. 残された課題

「先進的な国際通用性のある、介護に関する、新たなカリキュラム構築」を目標とする研究として考えた場合、残された課題はあまりにも多い。しかし、この内容研究についての端緒にたどり着いた段階の仮説作成というレベルでは評価されるべきであろう。以下、具体的に残された課題について、とりあえず整理をしてみると以下のとおりとなるであろう。

- 1. EQFに対応する職務の階層性を考える段階で、日本の介護制度などの枠組みで考えたため、対人援助枠組みでの総体的な観点からの難易度について、充分な検討がなされとは言えない。そのことは当然、各章の中での難易度の検討についても、作成者の仮説に留まっている。この点は、この研究の根幹なのであるが、今まで、こういう段階設定の研究はあまり多くないため、今後EQF基準からもしっかり学びながら、丁寧な研究が必要であろう。
- 2. いうまでもなく、ここで整理されたさまざまな内容については、すべて仮説にとどまるということである。研究としてその成果をまとめるためには、本来、実証研究を行いその有効性を証明したうえで発表すべきものである。有効性の証明は出来なくても「仮説」を提起するだけでも、研究として意義はあろうと考えるが、実証は、残された大きな課題である。
- 3. 授業の展開まで踏み込んで「仮説」を提起するにしても、理論上の「授業設計(の根幹になる教育課程=ここでは授業内容)」研究としては、「授業案」の段階まで踏み込んだうえで、仮説設定が行われていく必要があるであろう。授業案の作製・検討が不十分な「授業設計」は実施していく段階で大きな変更を迫られる場合が少なくないからである。
- 4. 授業内容(修得すべき技術や知識)についての学び方、学習方法についての考察が、ほぼ行われていないことである。実際の介護でICFの考え方や分類や「困難」に関する知見を活用できるようにならなければならない。ICFの基準を暗記しても仕方がないので、実際に使いこなせるようにするためには、授業における演習など(関連する事例教材の開発など)について、細かな検討が残されている。

ある意味で全て仮設にとどまるにしても、研究方法として、このような方法を取っていくことで、日本や世界の介護(福祉)専門職養成教育に寄与することは明らかだと想定される。したがって、この研究の「残された課題」に取り組む、次なる研究を組織し発展して行くことが求められる。

以上

研究経過・説明

- ■前述の背景・目的を踏まえ、本研究は以下の方法・進め方にて検討を行った。
- ■本研究では、介護福祉教育関連の知見・経験を有する学識経験者と各種検討を行った。検討委員会は、本事業全体に係る方針検討、別途設置した各班の具体的な検討内容及び検討結果に対する資料作成及び助言等を役割とした。

検討委員会における検討経緯及び検討委員会のメンバーを以下に示す。(担当分担は序論)

図表 検討委員会における検討経緯

	_===	・ た
	日程	主な検討事項
第1回	2020年8月3日	1)研究プロジェクトの趣旨説明
		2)自己紹介と研究課題への取組
		3)国際的な動向についての説明
		・国際的な、NQF作成への流れ
		介護職員の職務等に関する中国版NQFの現状について
		4) 主な論点「日本の介護職養成教育の問題点」について
		・制度の性格や位置付けについてどう考えるか
		(初任者研修、実務者研修、介護福祉士養成教育、介護教
		員養成)
第2回	2020年9月14日	1)介護の国際化も考えつつ
		・現状の日本の介護の問題点について
		・日本の養成教育の問題点について
		2)国際スタンダード(EQF)と対応するならどうするか
		・介護サービス全体におけるマネジメント職の養成
		・介護の専門性(介護における知識・技能)の養成
第3回	2020年10月28日	1)介護プロフェッショナルキャリア段位制度の現状と課題
		について
		・7段階(現在の運用は4段階まで)で評価すること
		など、評価の在り方についてどう考えるか
		・全体の合成における問題点
		・それぞれレベルにおける内容及び問題点
		(5.6.7 段階について)
		2)国際スタンダード(EQF)と対応した職業教育研究開発
		センター版QFの原案のたたき台の作成について
		・介護関連領域を分類して、内容を整理して EQF レベルに
		はめ込んでいくとどうなるか
		◇記述する上での決定事項◇
		1.表記の仕方

		「知識、技術、能力・コンピテンス」を
		「知識、技術(スキル)、能力(コンピテンス)」に変更
		2.まとめ方
		知識と技術(スキル)は体言止め
		能力(コンピテンス)は「〇〇できる」で揃える
		3.家事援助について
		家事援助の項目は別枠として残しておく
第4回	2020年11月30日	1)職業教育研究開発センター版QFの原案作成に向けて、
		第3回目までに、みんなで出し合った行動項目をQFの
		段階票のはめ込んでみての検討を行った
		1.各レベルに記載されている要約は、そのレベルに適切か
		どうか
		2.各カテゴリーの内容が、そのレベルに対等するかどうか
		3.多視点で見たとき、内容(中身)に抜けがないかどうか
第5回	2021年1月18日	中止
第5回	2022年1月24日	1)「研究目的」の再確認
		・最終的に教育プログラムの修正改善提案を行うべく、
		哈爾賓職業技術学院への教育プログラム提供を含め、
		社会実装を想定する
		・達成課題としての介護福祉業務の遂行能力等に関し、
		(R)QFの内容を検討するという手法で、総体的、
		個別的、それぞれの観点から能力や技術や知識の項目を
		具体的に細分化し、介護の内容に関する未解決の課題の
		整理を行う(今後の研究課題の整理)
		(例) I C F による「生活モデル」の実装化に関する
		研究など
		2)「介護職の(R)QF」の(仮)完成に向けて
		・研究成果(中間)の確認と「職業(介護)に必要な
		能力」の再整理および課題の確認
		※今までにまとめたエクセル表の
		<u>「最新版 0118(介護職の RQF)」</u> について議論
		能力(コンピテンス)の見直しについて
		(言葉の統一、表現の具体性、重複箇所、カテゴリーの
		適切さ)
		知識(ナレッジ)と技術(スキル)の追記について
		「〇〇ができる」ようになるためには、どういう知識と
		技術を身に着けるべきか。
		2021 年度目標・・ 途中まで進めてきた「介護職の(R)QF
		第2次試案」を(仮)完成させる。

		2022 年度目標・・ 「介護職の(R)QF 第 2 次試案」を
		分かりやすく解説する画像を開発する
		⇒哈爾浜職業技術学院向け準備教育に反映
第6回	2022年2月28日	1)ICF ベースの研究の展開 ・・研究班の再構成 ・・
		・ICFの「活動・参加」の行動分類(項目)及び、環境因子
		の因子(項目)に基づいて、以下の分析を行う。
		(1) 普通の人の行動分析(行動の要素・因子)
		(2) その行動を行う上での環境因子
		(3) 支援を行うための具体的な行動(コンピテンス)
		(4) 支援行動に必要な技術・知識
第7回	2022年3月28日	1) 各班 (7班) からの報告
		・作成において疑問に思ったこと・気づいたことなど共有
		2)資料作成における修正・改善の方向の申し合わせ
		①身体障害等級⇔ICF 評価点について(案)
		②基準の設定について
		• 認知症高齢者の日常生活自立度判断基準
		・ホーンヤールの重症度分類
		③環境因子の扱い方について
第8回	2022年4月25日	1)各班(7班)からの概要報告
		・修正の方向の確認
		・作成において疑問に思ったこと・気づいたことなど共有
		2)ICF に基づく介護行動の分析表の「 <u>③先の支援を行うため</u>
		<u>の具体的介護行動(介護能力)」</u> の欄のグレードの整理
		・QF の段階(レベル)の分類
		・「カリキュラムを作成する班」と「ICF に基づく研究を
		進めていく班」に分けていく方向性について共有
		3) 今後の展開について(予定及び計画)
		・5/30(月)18 時~20 時
		グレードの整理・教育課程(カリキュラム)について
		•6/27 (月) 18 時~20 時
		カリキュラム・授業設計の整理について
		・7/25(月)18 時~20 時
		授業設計・授業案の整理について
		・8/29(月)18 時~20 時
		授業案の整理及び(仮)完成について
第9回	2022年5月30日	1) 今までの整理とこれからの方向について
		・国際的に通用する基準を作るには、やはり国際的に通用
		している ICF を基に考えたほうが良いと考えた
		ICF は行動分析の体系であり、一つ一つの行動が
1		

		T	T
			どうなっているかを細かく分析したもの
今、知識と技術で整理した内容をどのグレードで整理するかである			・最終的な目標は、国際的なカリキュラムを作ること、
### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 *** ### 36 **			哈爾賓向けのカリキュラムを作ること
日本の現実とICF を組み合わせずつ、それをきちんと 接位化していく 日本の現実とICF を組み合わせすう、それをきちんと 接位化していく 日本の作業、すり合わせしてきた内容について再確認 2. 哈爾賓職業技術学院教員向け研修について 第11回 2022年7月25日 1.) 哈爾賓職業技術学院教員向け研修について 2.) 双員研修実施日程の確認 第12回 2022年8月29日 1.) 今年度末までの研究の進め方および予定について 2.) ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるポイントの再確認 2.) 現本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 4.) 研究の普地点について再確認 2.) 見本「ICFに基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下用確認 4.) 小分の報告 4.) からの報告 4.) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5.) まとめ・次回の全体会議 10/28 7. ICFに基づく行動分析の分析」 資料作成 締め切り 10/21 2. ※定回会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 5. 1. ICF をベースに考える教育課程・・ 名章に関する学習支援(教育)計画の作成について 5. 1. 2022年11月25日 1. 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2.) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			今、知識と技術で整理した内容をどのグレードで整理
接位化していく 第 10回 2022年6月27日 1. 今までの作業、すり合わせしてきた内容について再確認 2. 哈爾實職業技術学院教員向け研修について 第 11回 2022年7月25日 1) 哈爾賈職業技術学院教員向け研修の内容確認&すり合わせ 2) 教員研修実施日程の確認 第 12回 2022年8月29日 1)今年度末までの研究の進め方および予定について 2)ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるボイントの再確認&資料の継続作成 1)研究の着地点について再確認 2) 見本「ICFに基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 *①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *4介護行動の内容 *4介護行動に必要な知識・技術 3) S班(7 班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10 /1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・次回の全体会議 10 /28 *「ICFに基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10 /21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定			するかである
第10回 2022年6月27日 1. 今までの作業、すり合わせしてきた内容について再確認 2. 哈爾賓職業技術学院教員向け研修について 第11回 2022年7月25日 1) 哈爾賓職業技術学院教員向け研修の内容確認&すり合わせ 2)教員研修実施日程の確認 第12回 2022年8月29日 1)今年度末までの研究の進め方および予定について 2)にFを活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるポイントの再確認 2 資料 「成におけるポイントの再確認 2 資料 「成におけるポイントの再確認 2) 見本「ICFに基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 2) 見本「ICFに基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 2 ・			・日本の現実と ICF を組み合わせずつ、それをきちんと
2. 哈爾寶職業技術学院教員向け研修について 第11 回 2022年7月25日 1)哈爾寶職業技術学院教員向け研修の内容確認&すり合わせ 2)教員研修実施日程の確認 第12 回 2022年8月29日 1)今年度末までの研究の進め方および予定について 2)ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるボイントの再確認&資料の継続作成 第13 回 2022年9月28日 1)研究の着地点について再確認 2)見本「ICFに基づく介護行動分析 46401」を基に、以下再確認 ※①人の行動分析 ※②必要な環境因子 ※③介護行動に必要な知識・技術 3)各班(7 班)からの報告 ※①介護行動に必要な知識・技術 3)各班(7 班)からの報告 ※①介護行動に必要な知識・技術 3)名班(7 班)からの競告 ※①付について ※②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4)10/1~16の問。班ごとの会議を設定する予定 5)まとめ・・次回の全体会議 10/28 ※「ICFに基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 ※次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 1・ICFをベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15 回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討			段位化していく
第11回 2022年7月25日 1) 哈爾賓職業技術学院教員向け研修の内容確認&すり合わせ 2) 教員研修実施日程の確認 第12回 2022年8月29日 1) 今年度末までの研究の進め方および予定について 2) ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるポイントの再確認 8 資料の継続作成 第13回 2022年9月28日 1) 研究の番地点について再確認 2) 見本「ICFに基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 *①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班(7 班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICFに基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 第14回 2022年10月28日 1. ICFをベースに考える教育課程・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1) 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について 再検討	第10回	2022年6月27日	1. 今までの作業、すり合わせしてきた内容について再確認
第 12 回 2022 年 8 月 29 日 1) 今年度末までの研究の進め方および予定について 2) ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるポイントの再確認 & 資料の継続作成 第 13 回 2022 年 9 月 28 日 1) 研究の着地点について再確認 & 資料の継続作成 第 13 回 2022 年 9 月 28 日 1) 研究の着地点について再確認 * ①人の行動分析 「 * ②必要な環境因子 * ③介護行動の内容 * ②介護行動の内容 * ②介護行動の内容 * ②介護行動に必要な知識・技術 3) 各班 (7 班) からの報告 * ①今の進捗状況について * ②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 * 「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 * 次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 第 14 回 2022 年 10 月 28 日 1、ICF をベースに考える教育課程・・ 名章に関する学習支援 (教育) 計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1) 2022 11 23 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討			2. 哈爾賓職業技術学院教員向け研修について
第12回 2022年8月29日 1) 今年度末までの研究の進め方および予定について 2) ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料 作成におけるボイントの再確認&資料の継続作成 第13回 2022年9月28日 1) 研究の着地点について再確認 2) 見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 *①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班(7班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を股定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1) 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討	第11回	2022年7月25日	1) 哈爾賓職業技術学院教員向け研修の内容確認&すり合わせ
2) ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料作成におけるボイントの再確認&資料の継続作成 第13回 2022年9月28日 1) 研究の着地点について再確認 2) 見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 ※①人の行動分析 ※②必要な環境因子 ※②介護行動の内容 ※④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班(7班)からの報告 ※①今の進捗状況について ※②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 ※「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成締め切り 10/21 ※次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 第14回 2022年10月28日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・各章に関する学習支援(教育)計画の作成について第15回 第15回 2022年11月25日 1) 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討			2) 教員研修実施日程の確認
# 作成におけるボイントの再確認&資料の継続作成 第 13 回 2022 年 9 月 28 日 1)研究の着地点について再確認 2)見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 ※①人の行動分析 ※②必要な環境因子 ※③介護行動の内容 ※④介護行動に必要な知識・技術 3)各班(7 班)からの報告 ※①今の進捗状況について ※②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4)10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5)まとめ・・次回の全体会議 10/28 ※「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 ※次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 第 14 回 2022 年 10 月 28 日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1)20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討	第12回	2022年8月29日	1) 今年度末までの研究の進め方および予定について
第 13 回 2022 年 9 月 28 日 1)研究の着地点について再確認 2)見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 *①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3)各班(7 班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4)10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5)まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 1.ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1)20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			2)ICF を活用した「介護行動分析」の試みについての資料
2) 見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、以下再確認 *①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班 (7 班) からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 * 「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 第14回 2022年10月28日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1) 20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			作成におけるポイントの再確認&資料の継続作成
以下再確認	第13回	2022年9月28日	1)研究の着地点について再確認
*①人の行動分析 *②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3)各班(7班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4)10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5)まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICFに基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 第14回 2022年10月28日 1. ICFをベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			2)見本「ICF に基づく介護行動分析 d6401」を基に、
*②必要な環境因子 *③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班(7班)からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4)10/1~16の間、班ごとの会議を設定する予定 5)まとめ・・次回の全体会議10/28 *「ICFに基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICFをベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			以下再確認
*③介護行動の内容 *④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班 (7 班) からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1) 20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			*①人の行動分析
*④介護行動に必要な知識・技術 3) 各班 (7 班) からの報告 *①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 * 「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 * 次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1) 20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・ぞれぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			*②必要な環境因子
3) 各班 (7 班) からの報告			*③介護行動の内容
*①今の進捗状況について *②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1) 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			*④介護行動に必要な知識・技術
*②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等 4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第15回 2022年11月25日 1) 20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			3)各班(7班)からの報告
4) 10/1~16 の間、班ごとの会議を設定する予定 5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 * 「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 * 次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1) 20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・ それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・ 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			*①今の進捗状況について
5) まとめ・・次回の全体会議 10/28 *「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 *次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定			*②作成においての質疑応答・新しい意見・意見交換等
* 「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成 締め切り 10/21 * 次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して いく予定 第 14 回 2022年10月28日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・ それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・ 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			4)10/1~16の間、班ごとの会議を設定する予定
締め切り 10/21			5) まとめ・・次回の全体会議 10/28
*次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討していく予定 第 14 回 2022年10月28日 1. ICFをベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討			*「ICF に基づく行動分析の分析」資料作成
第 14 回 2022 年 10 月 28 日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1)20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・ 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			締め切り 10/21
第 14 回 2022 年 10 月 28 日 1. ICF をベースに考える教育課程・・・ 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022 年 11 月 25 日 1)20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について ・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 ・ 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			*次回の会議では、グレード分けについて詳しく検討して
 各章に関する学習支援(教育)計画の作成について 第 15 回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討 			いく予定
 第15回 2022年11月25日 1)20221123時点「研究報告書・草案」の内容確認 2)グレード分けの作成手順及び基準の分け方について・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討 	第14回	2022年10月28日	1. ICF をベースに考える教育課程・・・
 2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した のか、その作成における「過程」の共有 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討 			各章に関する学習支援(教育)計画の作成について
 それぞれの班では、どのような考え方を基に作成したのか、その作成における「過程」の共有 別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び基準の分け方について再検討 	第15回	2022年11月25日	1)20221123 時点「研究報告書・草案」の内容確認
のか、その作成における「過程」の共有 ・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			2) グレード分けの作成手順及び基準の分け方について
・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び 基準の分け方について再検討			・それぞれの班では、どのような考え方を基に作成した
基準の分け方について再検討			のか、その作成における「過程」の共有
			・別途作成済みのエクセル資料を基に、作成手順及び
第16回 2022年12月21日 1)各班の進捗状況の共有及び完成予定について			基準の分け方について再検討
	第16回	2022年12月21日	1) 各班の進捗状況の共有及び完成予定について

		2) 資料作成におけるポイントの再確認
第17回	2023年1月26日	※各班との打ち合わせに切り替える(日程以下)
第18回	(中止)	第 1 章打ち合わせ・1 月 18日・2月9日
		第2章打ち合わせ(第1章と同じ)
		第3章打ち合わせ・2月1日・2月10日
		第4章打ち合わせ・1月16日・1月27日
		第5章打ち合わせ・1月13日・2月4日
		第6章打ち合わせ・1月15日・2月3日
		第7章打ち合わせ(第3章と同じ)
		第8章打ち合わせ・1月23日・2月5日
		第9章打ち合わせ・1月19日・2月2日
第19回	2023年2月27日	1. 研究報告書の最終原稿確認
		2. 今後の継続的な研究及び発信方法等の意見交換

檢討委員会委員(五十音順・敬称略)

氏名	所属先・役職名
綾部 貴子	梅花女子大学 看護保健学部 口腔保健学科
押江 善正	株式会社わかばケアセンター六町
川井 太加子	桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科
久保田 トミ子	広島国際大学 医療福祉学部 医療福祉学科
小林 桂子	三幸福祉カレッジ
近藤 卓	日本ウェルネススポーツ大学
齋藤 美由紀	日本福祉教育専門学校
清水 絵理	敬心学園 職業教育研修開発センター
白井 孝子	学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部
高橋 明美	文京学院大学人間学部人間福祉学科
谷口 敏代	島根県立大学大学院看護各研究科
永嶋 昌樹	日本社会事業大学
長岡 紀澄	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
野田 由佳里	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科
松永 繁	新潟医療福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科
松田 朗	早稲田速記医療福祉専門学校
吉澤 恵子	長野女子短期大学 生活福祉専攻
吉田 志保	佐野日本大学短期大学
渡邉 みどり	敬心学園 職業教育研修開発センター
○川廷 宗之	敬心学園 職業教育研修開発センター
○崔 金花	敬心学園 職業教育研修開発センター

なお、本研究開発は哈爾濱職業技術学院との契約に基づき、その資金を活用して行われるので、 研究成果は中国の介護福祉教育にも生かされる予定です。

参考文献・資料・・・総括的に使用した資料・等

【参考】

- *厚生労働省介護人材確保地域戦略会議(第3回)資料「介護人材確保の総合的・計画的な推進~「まんじゅう型」から「富士山型」へ~」2015 (平成27)年8月21日
- *一般社団法人認定介護福祉士認証·認定機構 http://www.nintei-kaishi.or.jp/home/
- *資格枠組み(QF)及び欧州資格枠組み(EQF)

https://www.jil.go.jp/institute/siryo/2012/documents/0102_07.pdf

- *専門職としての「(仮称)管理介護福祉士」の養成 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
- *今後の介護福祉士養成教育と養成施設の在り方について 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
- *介護プロフェッショナルキャリア段位制度 「アセッサー (評価者)」 https://www.jil.go.jp/institute/siryo/2012/102.html
- *邱卓英, 张爱民.《国际功能、残疾和健康分类》应用指导(一)(2003)01-0020-15
- *邱卓英.《国际功能、残疾和健康分类》应用指导(二)(2003)02-0107-08
- *邱卓英.《国际功能、残疾和健康分类》应用指导(三)(2003)03-0171-05
- *邱卓英, 丁相平.《国际功能、残疾和健康分类》应用指导(四)(2003)05-0278-04
- *邱卓英.《国际功能、残疾和健康分类》研究总论(2003)01-0002-04
- *邱卓英.《世界残疾研究》的架构、方法与应用意义(2003)2013.10.001

I C F をベースとした「介護福祉」の枠組みと教育内容 ・・自立をめざす介護とは・・ ・・国際的基準を目指した 「先進的な介護職業教育基準」作成のために・・
『ICF ベースの介護福祉教育課程・・研究報告書』
≪哈爾濱職業技術専門学院•委託研究≫
2023年3月31日・発行
編集・敬心学園・職業教育研究開発センター
介護の国際カリキュラム開発専門家研究会
監修・川廷 宗之
発行所 敬心学園・職業教育研究開発センター
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-6 宇田川ビル 6F
TEL. 03-3200-9074
http://www.keishin-group.jp/